

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第5集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 4

2009, 3

ふじみ野市教育委員会



上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況（南から）



上福岡貝塚第1地点1号住居跡完掘（南から）





上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況（南から）



上福岡貝塚第1地点2号住居跡完掘（南から）



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物①



上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物②



上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物



上福岡貝塚第1地点から産出した大型貝類遺体群

1: オオタニシ, 2: チリメンカワニシ, 3: ウミニシ類, 4: アカニシ, 5: ハイガイ, 6: イシガイ,  
7: マツカサガイ, 8: ウネナシトマヤガイ, 9: シオフキ, 10-11: ヤマトシジミ, 12: アサリ,  
13: ハマダリ, 14: オオノガイ

(※1・2・5~7・12~14: 1号住居跡貝層2, 3: 1号住居跡貝層1, 4: 1号住居跡貝層7, 8・9: 1号住居跡貝層4, 10・11: 2号住居跡貝層Ⅱ)



上福岡貝塚第1地点(2号住居跡貝層Ⅱ)から産出したマガキ



上福岡貝塚第1地点から産出した主要な水生微小貝類遺体群

1: ナリメンカワニナ幼貝(1号住居跡貝層12)、2: カワグネツボ(1号住居跡貝層2)、3: ヒラドカワザンショウ(2号住居跡貝層II)、4: ムシヤドリカワザンショウ(2号住居跡貝層II)、5: カキウラクチキレモドキ(1号住居跡貝層2)、6: ヒラタヌマコダキガイ(1号住居跡貝層2)



上福岡貝塚第1地点から産出した主要な陸生貝類遺体群及び脊椎動物遺体群

1: ヒカリギセル(1号住居跡貝層2-1層(東側)), 2: オカチョウジガイ(2号住居跡貝層1-3層)、3: ホソオカチョウジガイ(2号住居跡貝層II C3-1層)、4: ヒメコハクガイの一種(表)(1号住居跡貝層2-5層)、5: ヒメコハクガイの一種(裏)、6: ヒメベッコウガイ類似種(表)(1号住居跡貝層2-1-3層-3層(西側)), 7: ヒメベッコウガイ類似種(裏)、8: 陸生貝類・卵(1号住居跡貝層8-1層(東側)), 9: エイ類椎骨(1号住居跡貝層9-1層(東側)), 10: コイ科尾椎(1号住居跡貝層9-1層(東側))



西道跡第1地点20・23号住居跡全景（南西から）



西道跡第1地点調査区全景（南西から）



西道跡第1地点調査区全景（南東から）



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器 No.96



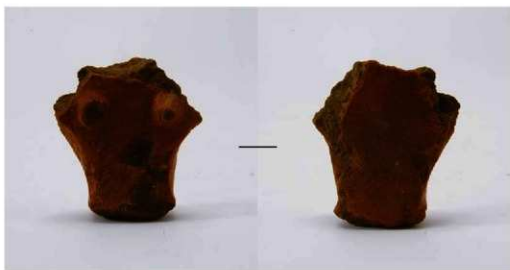
西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器 No.97



亀居遺跡第62地点土坑9出土土器 No.3



東台遺跡第49地点屋外埋甕出土土器 No.50



東台遺跡第49地点出土土器 No.106



亀居遺跡第62地点土坑9土器出土状況



亀居遺跡第62地点南側調査区（北から）



亀居遺跡第62地点北側調査区（西から）



滝道跡第14地点14号住居跡完掘（南から）



滝道跡第14地点調査区全景（南から）





滝遺跡第14地点14号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点13～16・19号住居跡出土遺物



浄禪寺跡遺跡第29地点調査区全景（左：北西から、右：北東から）



浄禪寺跡遺跡第29地点調査区全景（南西から）



浄禪寺跡遺跡第30地点調査区全景（西から）



浄禪寺跡遺跡第30地点調査区全景（南から）



浄禪寺跡遺跡第31地点3号住居跡



3号住居跡炉遺物出土状況



3号住居跡埋甕出土状況



3号住居跡埋甕1



3号住居跡埋甕2



大井宿遺跡第15地点出土搦鉢 No.9



大井宿遺跡第15地点出土焙烙 No.11



川崎遺跡第22地点出土花瓶 No.32



川崎遺跡出土瓦塔・瓦 (第1・2次、第22地点)

## はじめに

平成の大合併と呼ばれた市町村合併のなか、平成17年10月1日に上福岡市と大井町がひとつになり「ふじみ野市」が誕生しました。

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュや大規模都市基盤整備事業が計画・実施されてきました。近年では東武東上線「ふじみ野駅」周辺の区画整理事業や、「上福岡駅」周辺の再開発事業が進み、人口の増加も伴って周辺の自然や社会環境は大きく変化しつつあります。

いろいろな環境が変化するなか、ふじみ野市内には実に多くの文化財が存在します。普段は地中であって目にするのでできない埋蔵文化財もその一つですが、徳川家康が訪れ休憩したと伝えられる権現山古墳群、旧大井町の町名の由来となった復元大井戸などは現地で直に見て・触れることの出来る遺跡として保存されています。しかし、人と地域社会が作り出した、真に地域に根ざした埋蔵文化財の多くは現状のまま保存されることが望ましいのですが、開発によりやむをえず現状変更を余儀なくされ、記録保存という形で発掘調査されることが多いのが実情です。

本報告書に取められた発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各原因者の皆様からの費用負担をお願いして実施した、「市内遺跡群発掘調査」から得られた成果の記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力、そして地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、日本考古学協会の今井堯先生をはじめ、文化庁・埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長 松下勇司

## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2007(平成19)年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2007(平成19)年度に行なった試掘調査および整理作業は、総経費14,092,027円に対し、国庫(7,000,000円)、県費(3,500,000円)の補助金の交付を受け、2007(平成19)年4月10日から2008(平成20)年3月31日まで実施したものである。
3. 民間開発を原因として行なった6件の本調査は、開発原因者から委託を受けふじみ野市教育委員会が主体となって行なった。開発原因者・委託者等は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行なった。

遺跡・地点名	委託者	協定期間
亀居遺跡第62地点	鈴木 武	2008. 1. 7 ~ 2009. 3. 31
西遺跡第1地点	㈱Di-Frame	2007. 6. 1 ~ 2009. 3. 31
上福岡貝塚第1地点	㈱新日本無線	2007. 5. 17 ~ 2009. 3. 31
滝遺跡第14地点	㈱奥山建設	2007. 11. 20 ~ 2009. 3. 31
浄禅寺跡遺跡第29地点	安野信二 他3名	2007. 9. 20 ~ 2009. 3. 31
浄禅寺跡遺跡第30地点	安野信二	2007. 10. 10 ~ 2009. 3. 31

## 4. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係	
担当課	生涯学習課文化財保護係	調査担当者	高崎直成
教育長	吉野英明 (2005.11.25 ~ 2008.9.16)	調査担当者	鍋島直久
	松下勇司 (2008.12.12 ~)	庶務担当	松原靖子
教育次長	伊藤 修	発掘調査員補	越村 篤
生涯学習課長兼次長	田中節子	嘱託員	藤牧守絵
文化財保護係長	坪田幹男	臨時的任用職員	高橋京子

## 5. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の編集は鍋島が行ない、第Ⅱ部第2章Ⅰ(2)を笹森健一、第Ⅱ部第2章Ⅲ(3)を阿部常樹・一本絵理が執筆し文末に記した。文末に執筆者を記したものは以外は鍋島が行なった。また、各遺跡出土の近世・近代の遺物観察表は越村篤が、縄文時代石器観察表は大久保明子で作成した。報告書作成全般にわたり、坪田・高崎・越村の協力を得た。上福岡貝塚第1地点の調査全般と西遺跡第1地点の整理作業については笹森健一氏の絶大な援助と協力を得た。上福岡貝塚の貝層調査から動物遺体の整理作業・分類については、東京大学理蔵文化財調査室の阿部常樹氏、東京大学大学院新領域創成科学研究科の一本絵理氏のご指導とご協力を賜った。また整理作業全般において日本考古学協会の今井堯の指導と援助を得た。挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美、大久保明子 遺物接合・復元：中田藤子 土器実測：石垣ゆき子、大久保明子、高橋智也、寺井美和子、秋本太郎、守谷健吾 消火栓実測・明石千とせ、大久保明子 石器実測・トレース：大久保明子 遺構・土器トレース：小林登喜江 土器拓本：石垣ゆき子 図版作成：石垣ゆき子・須藤さち子・高橋けい子・丹治つや子・鈴木千恵子・青山奈保美 遺構写真：鍋島直久・高崎直成・越村篤 遺物写真：大久保明子、阿部常樹・一本絵理 (上福岡貝塚出土土器類) (株)東京航業研究所に土器・石器実測、図版作成の一部を、(有)文化財COMに土器実測の一部を委託した。自然科学分析に関しては(株)古環境研究所に委託した。

上福岡貝塚第1地点出土の櫛物については、国立歴史民俗博物館の住田雅和氏に分析を依頼した。上福岡貝塚第1地点出土縄文土器の縄文原体については下村克彦氏より御教示を、同出土消火栓については(株)建設工業社の小宮山亮次会長、富家克彦氏より史料の提供及び御教示を賜った。

上福岡貝塚出土の遺物洗浄、フローテーション等について富士見市教育委員会から機材等の協力を得た。

## 6. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

新井和之、会田明、天ヶ崎岳、荒井幹夫、石井良、石川安司、伊藤順一、上田克、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、

岡田賢治、岡田勇介、小川卓也、奥野麦生、小澤敏、加藤秀之、加藤恭朗、梶原勝、梶原喜世子、亀井建太郎、神木繁嘉、川名広文、國見徹、隈本健介、黒坂慎二、黒清和彦、黒清玉恵、小泉功、小出輝雄、酒井智晴、桜井信枝、佐藤啓子、佐藤良博、塩野賢一、渋谷寛子、清水理史、下村克彦、鈴木清、鈴木徳雄、瀬崎克己、高木文夫、高野博光、高橋喜代隆、高橋清文、田中和之、田中信、丹治剛、角田史雄、富元久美子、中村愛、永井智教、鍋島智恵子、西井幸雄、根本清、方賀拓真、橋本鶴人、橋本裕可子、原口雅樹、早坂廣人、坂野千登勢、比嘉洋子、藤波啓啓、藤野一之、毒島正明、堀善之、松本富雄、水村孝行、宮昌之、向出博之、柳井章宏、柳澤健司、山口逸弘、山内清子、領塚正浩、和田晋治(独)国立文化財機構奈良文化財研究所、埼玉県教育局生涯学習文化財課、埼玉県立歴史と民俗の博物館、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団、大井郷土資料館、上福岡歴史民俗資料館、大井遺跡調査会、(有)文化財COM、(有)アルケリーサーチ、(株)東京航業研究所、新日本無綫(株)、(株)建設工業、(株)立売屋製作所

#### 7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

(発掘調査・整理作業参加者) 明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、井川弘、空峯ヒサ子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、内田謙、達藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、大野英理子、長田弘毅、小野沢保孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、木下一部、小林こずい、西城満朗子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三、清水公子、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、滝沢久嘉、寺井美和子、中村正、沼澤岩男、根岸年男、野岡由紀子、比嘉洋子、一木絵理、福田美枝子、増沢勝夫、宮崎達夫、山内康代、吉田寛、若林紀美代  
 ※太字は発掘調査・整理作業参加者、細字は発掘調査のみ参加者

(整理作業参加者) 青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子、一木絵理

## 凡 例

#### 1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

##### (1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 如などの詳細図 1:30  
 土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3、1:6 銭貨 1:1

##### (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

##### (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

掘削  地山 (ローム)  焼土   
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 竈 ○

##### (4) 土器断面図は、「網目」(上福岡貝塚出土土器は■)が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

##### (5) 縄文土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  燃糸文 

##### (6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

##### (7) 遺構・遺物実測図の ▲ (三角マーク) は図の連続、接合部を示す。

#### 2. 住居跡名は、遺跡内の通り番号である。整理作業時に遺構名称を変更したのものについては、新旧の名称を表等に記している。

#### 3. 本文中の各表内における ( ) 付の数値は残存値を示す。

#### 4. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。



## 市内遺跡群 4 目次

はじめに	i	<b>第7章 長宮遺跡の調査</b>	26頁
例言	ii	Ⅰ 遺跡の立地と環境	26頁
凡例	iii	Ⅱ 長宮遺跡第27地点	26頁
目次	iv	Ⅲ 長宮遺跡第28地点	28頁
挿図目次	vi	Ⅳ 長宮遺跡第29地点	32頁
表目次	vii	<b>第8章 亀居遺跡の調査</b>	36頁
写真図版目次	viii	Ⅰ 遺跡の立地と環境	36頁
		Ⅱ 亀居遺跡第62地点	36頁
<b>第1部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果</b>	1頁	<b>第9章 松山遺跡の調査</b>	39頁
<b>第1章 遺跡と調査の概要</b>	1頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	39頁
Ⅰ 調査に至る経過	1頁	Ⅱ 松山遺跡第43地点	40頁
Ⅱ 立地と環境	3頁	<b>第10章 江川東遺跡の調査</b>	42頁
Ⅲ 市内の遺跡	4頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	42頁
<b>第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査</b>	8頁	Ⅱ 江川東遺跡第14地点	42頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	8頁	Ⅲ 江川東遺跡第15地点	42頁
Ⅱ 鶴ヶ岡外遺跡第5地点	8頁	<b>第11章 東久保遺跡の調査</b>	44頁
<b>第3章 西遺跡の調査</b>	10頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	44頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	10頁	Ⅱ 東久保遺跡第65地点	44頁
Ⅱ 西遺跡第1地点	10頁	<b>第12章 東中学校西遺跡の調査</b>	46頁
<b>第4章 川崎遺跡の調査</b>	12頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	46頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	12頁	Ⅱ 東中学校西遺跡第31地点	46頁
Ⅱ 川崎遺跡第22地点	14頁	<b>第13章 胸林遺跡の調査</b>	47頁
Ⅲ 川崎遺跡第24地点	15頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	47頁
<b>第5章 上福岡貝塚の調査</b>	19頁	Ⅱ 胸林遺跡第4地点	48頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	19頁	<b>第14章 福岡新田遺跡の調査</b>	49頁
Ⅱ 上福岡貝塚第1地点	19頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	49頁
<b>第6章 滝遺跡の調査</b>	22頁	Ⅱ 福岡新田遺跡第1地点	49頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	22頁	<b>第15章 西ノ原遺跡の調査</b>	54頁
Ⅱ 滝遺跡第13地点	22頁	Ⅰ 遺跡の立地と環境	54頁
Ⅲ 滝遺跡第14地点	25頁	Ⅱ 西ノ原遺跡第135地点	55頁

Ⅲ 西ノ原遺跡第140地点	55頁	<b>第2章 上福岡貝塚第1地点の本調査</b>	136頁
Ⅳ 西ノ原遺跡第141地点	55頁	Ⅰ 遺跡の概要	136頁
<b>第16章 神明後遺跡の調査</b>	58頁	Ⅱ 本調査の概要	142頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	58頁	Ⅲ 発掘調査の成果	143頁
Ⅱ 神明後遺跡第31地点	58頁	<b>第3章 滝遺跡第14地点の本調査</b>	190頁
Ⅲ 神明後遺跡第32地点	59頁	Ⅰ 本調査の概要	190頁
<b>第17章 苗間東久保遺跡の調査</b>	60頁	Ⅱ 遺構と遺物	190頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	60頁	<b>第4章 亀居遺跡第62地点の本調査</b>	202頁
Ⅱ 苗間東久保遺跡第25地点	61頁	Ⅰ 本調査の概要	202頁
<b>第18章 浄禪寺跡遺跡の調査</b>	62頁	Ⅱ 遺構と遺物	202頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	62頁	<b>第5章 浄禪寺跡遺跡第29地点の本調査</b>	207頁
Ⅱ 浄禪寺跡遺跡第9地点	62頁	Ⅰ 本調査の概要	207頁
Ⅲ 浄禪寺跡遺跡第29地点	64頁	Ⅱ 遺構と遺物	207頁
Ⅳ 浄禪寺跡遺跡第30地点	65頁	<b>第6章 浄禪寺跡遺跡第30地点の本調査</b>	230頁
Ⅴ 浄禪寺跡遺跡第31地点	71頁	Ⅰ 本調査の概要	230頁
Ⅵ 浄禪寺跡遺跡第32地点	75頁	Ⅱ 遺構と遺物	230頁
<b>第19章 大井宿遺跡の調査</b>	77頁	<b>第Ⅲ部 まとめ</b>	238頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	77頁	<b>第1章 2007年度の調査について</b>	238頁
Ⅱ 大井宿遺跡第15地点	77頁	<b>第2章 上福岡貝塚第1地点の調査成果について</b>	242頁
<b>第20章 大井氏館跡遺跡の調査</b>	82頁	Ⅰ 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡の配置について	242頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	82頁	Ⅱ 上福岡貝塚第1地点出土器について	243頁
Ⅱ 大井氏館跡遺跡第22地点	82頁	Ⅲ 今後の課題	244頁
<b>第21章 大井戸上遺跡の調査</b>	86頁	<b>附編 自然科学分析</b>	
Ⅰ 遺跡の立地と環境	86頁	浄禪寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定	247・248頁
Ⅱ 大井戸上遺跡第6地点	87頁	<b>引用参考文献</b>	241頁
<b>第22章 東台遺跡の調査</b>	89頁	<b>抄録</b>	249・250頁
Ⅰ 遺跡の立地と環境	89頁		
Ⅱ 東台遺跡第49地点	93頁		
<b>第Ⅱ部 民間開発に伴う本調査の成果</b>	100頁		
<b>第1章 西遺跡第1地点の本調査</b>	100頁		
Ⅰ 本調査の概要	100頁		
Ⅱ 遺構と遺物	100頁		

## 挿 図 目 次

第1図	みじみ野市の位置と周辺の地形	5頁	第58図	淨律寺跡道路第32地点掘跡・ピット(1/60)、出土土器(1/4)	76頁
第2図	みじみ野市道跡分断面図(1/30,000)	6頁	第59図	大井町道跡の地形と調査区(1/4,000)	77頁
第3図	鶴ヶ岡外道跡の地形と調査区(1/10,000)	7頁	第60図	大井町道跡第15地点遺構配置図(1/300)	78頁
第4図	鶴ヶ岡外道跡第5地点調査区区域(1/3,000)、土層図(1/60)	9頁	第61図	大井町道跡第15地点トレンチ・土坑・ピット①(1/60)	79頁
第5図	西道跡の地形と調査区(1/4,000)	10頁	第62図	大井町道跡第15地点トレンチ②・溝(1/60)	80頁
第6図	川崎道跡の地形と調査区(1/4,000)	12頁	第63図	大井町道跡第15地点出土遺物(1/4・1/6)	81頁
	川崎道跡第22-24地点遺構配置図(1/300)、		第64図	大井町道跡の地形と調査区(1/4,000)	82頁
	第24地点土層図(1/150)	15頁	第65図	大井町道跡第22地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)	83頁
第7図	川崎道跡第22地点出土穴1・2、穴・土坑(1/60)	16頁	第66図	大井町道跡第22地点土坑・土坑・ピット(1/60)	84頁
第8図	川崎道跡第22地点炉穴・土坑・溝(1/60)	17頁	第67図	大井町道跡第22地点出土遺物(1/4)	85頁
第9図	川崎道跡第22地点出土遺物(1/4)	18頁	第68図	大井町上道跡の地形と調査区(1/4,000)	86頁
第10図	上福岡貝塚の地形と調査区(1/4,000)	19頁	第69図	大井町上道跡第6地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)	86頁
第11図	上福岡貝塚第1地点試掘調査区区域(1/300)、土層図(1/150)	20頁	第70図	大井町上道跡第6地点ピット(1/60)	88頁
第12図	上福岡貝塚第1地点水溜り・凍消火栓・配水管(1/60・1/12)	21頁	第71図	東台道跡の地形と調査区(1/4,000)	89頁
第13図	滝道跡の地形と調査区(1/4,000)	22頁	第72図	東台道跡の調査区と遺構分布図(2/2,000)	92頁
第14図	滝道跡第13地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)	23頁	第73図	東台道跡第49地点遺構配置図(1/500)	93頁
第15図	滝道跡第13地点壁土・土坑・溝(1/60)	24頁	第74図	東台道跡171号住居跡・炉(1/60・1/30)、	
第16図	滝道跡第14地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/200)	25頁	第75図	第49地点屋外妻・集土土坑・ピット(1/30)	95頁
第17図	長宮道跡の地形と調査区(1/4,000)	26頁	第76図	東台道跡172-176号住居跡遺物出土状況図(1/60)	96頁
第18図	長宮道跡第27・28地点遺構配置図(1/300)	28頁	第77図	東台道跡第49地点粘土採掘坑・土坑・溝(1/60)	97頁
第19図	長宮道跡第28地点土坑・ピット①(1/60)	29頁	第78図	東台道跡第49地点出土遺物①(1/4)	98頁
第20図	長宮道跡第28地点井戸・ピット②(1/60)	30頁	第79図	西道跡第1地点遺構配置図(1/400)	101頁
第21図	長宮道跡第28地点出土遺物(1/4)	32頁	第80図	西道跡第1地点2号住居跡・炉(1/60・1/30)	103頁
第22図	長宮道跡第29地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、		第81図	西道跡第1地点1号住居跡・炉(1/60・1/30)	104頁
	井戸・土坑・ピット(1/60)	33頁	第82図	西道跡第1地点12-22号住居跡・	
第23図	長宮道跡第29地点掘跡・溝(1/150)	34頁		12号住居跡(1/60・1/30)	105頁
第24図	長宮道跡第29地点出土遺物(1/4・1/6)	35頁	第83図	西道跡第1地点12-22号住居跡②(1/60)	106頁
第25図	亀居道跡の地形と調査区(1/4,000)	36頁	第84図	西道跡第1地点16号住居跡・炉(1/60・1/30)	107頁
第26図	亀居道跡の調査区と遺構分布図(1/1,500)	37頁	第85図	西道跡第1地点20-23号住居跡(1/60)	109頁
第27図	松山道跡の地形と調査区(1/4,000)	39頁	第86図	西道跡第1地点23号住居跡(1/30)	110頁
第28図	松山道跡第43地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、		第87図	西道跡第1地点25号土坑①(1/30)	111頁
	土坑・掘跡・溝(1/60)、出土遺物(1/4・2/3)	41頁	第88図	西道跡第1地点集土土坑①(1/30)、出土遺物(1/4)	112頁
第29図	江川東道跡の地形と調査区(1/4,000)	42頁	第89図	西道跡第1地点土坑・ピット②(1/60)	113頁
第30図	江川東道跡第14-15地点調査区区域(1/300)、土層図(1/150)、		第90図	西道跡第1地点ピット②・溝(1/80)	114頁
	出土遺物(1/4)	43頁	第91図	西道跡第1地点ピット③(1/60)	115頁
第31図	東久保道跡の地形と調査区(1/4,000)	44頁	第92図	西道跡1-2号住居跡出土土器(1/4)	119頁
第32図	東久保道跡第65地点調査区区域(1/400)、土層図(1/150)	45頁	第93図	西道跡4号住居跡出土土器①(1/4)	120頁
第33図	東中学校西道跡の地形と調査区(1/4,000)	46頁	第94図	西道跡4号住居跡出土土器②(1/4)	121頁
第34図	東中学校西道跡第31地点調査区区域(1/300)	46頁	第95図	西道跡4号住居跡③-5号住居跡出土土器(1/4)	122頁
第35図	駒林道跡の地形と調査区(1/5,000)	47頁	第96図	西道跡第5-6号住居跡出土土器(1/4)	123頁
第36図	駒林道跡第4地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)、		第97図	西道跡10-12号住居跡出土土器(1/4)	124頁
	土坑(1/60)	48頁	第98図	西道跡13-15号住居跡出土土器(1/4)	125頁
第37図	福岡新田道跡の地形と調査区(1/4,000)	49頁	第99図	西道跡16号住居跡出土土器①(1/4)	126頁
第38図	福岡新田道跡第1地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)	50頁	第100図	西道跡16号住居跡②-19-20号住居跡出土土器(1/4)	127頁
第39図	福岡新田道跡第1地点井戸・土坑・ピット・溝(1/80)	51頁	第101図	西道跡22-23号住居跡、第1次調査区土坑⑥-19-66遺構外、	
第40図	福岡新田道跡第1地点出土遺物(1/4・2/3)	53頁		第1地点土坑⑥-10、ピット1-8-13-14-24出土土器(1/4)	128頁
第41図	西ノ原道跡の地形と調査区(1/4,000)	54頁	第102図	西道跡出土土器群、口縁部突起(1/4)	129頁
第42図	西ノ原道跡第135地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、		第103図	西道跡出土土器①(1/4・2/3)	131頁
	土坑・ピット(1/60)	56頁	第104図	西道跡出土土器②(1/4)	132頁
第43図	西ノ原道跡第140-141地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、		第105図	西道跡出土土器③(1/4)	133頁
	土坑・ピット(1/60)	57頁	第106図	西道跡出土土器④(1/4)	134頁
第44図	神明後道跡の地形と調査区(1/4,000)	58頁	第107図	西道跡出土土器⑤(1/4・1/6)	135頁
第45図	神明後道跡第31-32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、		第108図	上福岡貝塚遺構配置図(1/2,500)	140頁
	土坑(1/60)、出土遺物(1/4)	59頁	第109図	上福岡貝塚C・D・F・G・I・K・M地点點穴住居跡(1/130)	141頁
第46図	前東久保道跡の地形と調査区(1/4,000)、第25地点遺構配置図		第110図	上福岡貝塚第1地点遺構配置図(1/200)、土層図(1/60)	142頁
	(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)、出土土器(1/4)	60頁	第111図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡(1/60)	146頁
第47図	淨律寺跡道跡の地形と調査区(1/4,000)	62頁	第112図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図①(1/60)	147頁
第48図	淨律寺跡道跡第9地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)、		第113図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図②	
	出土遺物(1/4)	64頁		1号住居跡(1/30)	148頁
第49図	淨律寺跡道跡第29地点遺構配置図(1/800)	65頁	第114図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層出土状況図(1/30)	149頁
第50図	淨律寺跡道跡第30地点遺構配置図(1/300)、		第115図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物①(1/4)	155頁
	土層図(1/60・1/150)	66頁	第116図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物②(1/4)	156頁
第51図	淨律寺跡道跡第30地点炉穴(1/30)、落し穴1-5(1/60)	67頁	第117図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物③(1/4)	157頁
第52図	淨律寺跡道跡第30地点落し穴⑥(1/60)	68頁	第118図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物④(1/4)	158頁
第53図	淨律寺跡道跡第30地点土坑(1/60)	69頁	第119図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑤(1/4)	159頁
第54図	淨律寺跡道跡第30地点ピット・溝(1/60)	70頁	第120図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑥(1/4)	160頁
第55図	淨律寺跡道跡第31-32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、		第121図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑦(1/4)	161頁
	3号住居跡・土坑1・ピット(1/60)、炉・埋土(1/30)	72頁	第122図	上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑧(1/4)	162頁
第56図	淨律寺跡道跡第31地点炉穴(1/30)、ピット(1/60)	73頁	第123図	上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺構確認状況図(1/60)	163頁
第57図	淨律寺跡道跡第3号住居跡・土坑・ピット・		第124図	上福岡貝塚第1地点2号住居跡(1/60)、炉(1/30)	164頁
	遺構外出土遺物(1/4・2/3)	75頁			

第125回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況図・ 貝層グリッド設定図(1/60)・土層図(1/30)	167頁	第149回	滝道跡第14地点土坑・溝(1/120)・ 第14地点出土石器・石製品(1/4・2/3)	201頁
第126回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図・ マガキ層①・②出土状況図(1/60)・土層図(1/30)	168頁	第150回	亀居遺跡第62地点遺構配置図(1/500)・土坑①(1/60)	203頁
第127回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図①(1/60)	169頁	第151回	亀居遺跡第62地点出土遺物(1/4)	204頁
第128回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物①(1/4)	170頁	第152回	亀居遺跡第62地点出土遺物①(1/4)	206頁
第129回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)	171頁	第153回	浄拝寺跡遺跡第29地点遺構配置図(1/800)	207頁
第130回	上福岡貝塚第1地点集石土坑(1/30)	172頁	第154回	浄拝寺跡遺跡第29地点出土大穴・井戸①(1/60)	209頁
第131回	上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の規模 (最小個体数)	177頁	第155回	浄拝寺跡遺跡第29地点井戸②(1/60)	210頁
第132回	上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の貝類組成 (最小個体数)	177頁	第156回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝①(1/80)	212頁
第133回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層1・Ⅱの層位	178頁	第157回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝②(1/80)	213頁
第134回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類重量の層位変化	179頁	第158回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③(1/80)	214頁
第135回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成(重量)	179頁	第159回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝④(1/80)	215頁
第136回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成(最小個体数)	179頁	第160回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑤(1/80)	216頁
第137回	上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出陳生貝類遺体群組成	184頁	第161回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑥(1/80)	217頁
第138回	上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出陳生貝類遺体群組成	184頁	第162回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑦(1/80)	218頁
第139回	滝道跡遺構分布図(1/2,000)	190頁	第163回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑧(1/80)	219頁
第140回	滝道跡第14地点遺構配置図(1/300)	191頁	第164回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑨(1/80)	220頁
第141回	滝道跡第14地点13・16・18号住居跡(1/60)	193頁	第165回	浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑩(1/80)	221頁
第142回	滝道跡第14地点13号住居跡(1/30)	194頁	第166回	浄拝寺跡遺跡第29地点出土遺物①(1/4・1/6・1/1)	227頁
第143回	滝道跡第14地点13号住居跡産出出土状況図(1/60)	195頁	第167回	浄拝寺跡遺跡第29地点出土遺物②(1/3・1/4・1/6)	228頁
第144回	滝道跡第14地点14号住居跡・遺物出土状況図(1/60)	196頁	第168回	浄拝寺跡遺跡第30地点遺構配置図(1/300)	230頁
第145回	滝道跡第14地点14号住居跡(1/30)	197頁	第169回	浄拝寺跡遺跡第30地点土坑跡跡1・3(1/30)	232頁
第146回	滝道跡第14地点15・17号住居跡(1/60)	198頁	第170回	浄拝寺跡遺跡第30地点土坑跡跡2・4・5(1/30)	233頁
第147回	滝道跡第14地点出土遺物(1/4)	199頁	第171回	浄拝寺跡遺跡第30地点土坑跡跡3・6(1/60)	234頁
第148回	滝道跡第14地点17号住居跡出土遺物(1/4)	200頁	第172回	浄拝寺跡遺跡第30地点土坑①(1/60)	235頁
			第173回	浄拝寺跡遺跡第30地点土坑②・ピット②・溝(1/60)	236頁
			第174回	浄拝寺跡遺跡第30地点出土遺物(1/4・2/3・1/1)	237頁
			第175回	川崎遺跡第1・2次調査出土(1/4)	241頁
			第176回	上福岡貝塚地形測量(住居配置図)(1/4,000)	245頁

## 表 目 次

第1表	過去3年間の調査件数と面積一覧表	1頁	第41表	大井宿遺跡第15地点出土遺物観察表	78頁
第2表	2007(平成19)年度埋蔵文化財調査一覧表	2頁	第42表	大井宿遺跡第22地点礎石・土坑・ピット一覧表	83頁
第3表	2007(平成19)年度立会い調査一覧表(埋蔵文化財包蔵地内)	3頁	第43表	大井宿遺跡第22地点出土遺物観察表	85頁
第4表	2007(平成19)年度立会い調査一覧表(埋蔵文化財包蔵地外)	3頁	第44表	大井戸上遺跡第6地点ピット一覧表	87頁
第5表	ふじみ野市道跡一覧表	7頁	第45表	東台遺跡調査一覧表	90頁
第6表	縄文時代中期前期相対比表	7頁	第46表	東台遺跡住居跡一覧表	91頁
第7表	鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表	8頁	第47表	東台遺跡第9地点遺構一覧表	94頁
第8表	西道跡調査一覧表	11頁	第48表	東台遺跡第9地点集石土坑・出土陳観表	94頁
第9表	川崎遺跡調査一覧表	13頁	第49表	西道跡住居跡一覧表	100頁
第10表	川崎遺跡第22地点竈穴一覧表	14頁	第50表	西道跡第1地点2・10・12・16号住居跡ピット一覧表	102頁
第11表	川崎遺跡第22地点出土遺物観察表	18頁	第51表	西道跡第1地点20・22・23号住居跡一覧表	108頁
第12表	上福岡貝塚第1地点水溜ピット一覧表	20頁	第52表	西道跡第1地点20・23号住居跡ピット一覧表	108頁
第13表	滝道跡調査一覧表	23頁	第53表	西道跡第1地点集石土坑・出土陳観表	108頁
第14表	滝道跡第13地点土坑・ピット一覧表	25頁	第54表	西道跡第1地点ピット一覧表	110頁
第15表	長宮遺跡調査一覧表	27頁	第55表	西道跡第1地点土坑一覧表	112頁
第16表	長宮遺跡第28地点土坑・ピット一覧表	28頁	第56表	西道跡第1次・第1地点出土土器観察表	116・118頁
第17表	長宮遺跡第28地点井戸一覧表	28頁	第57表	西道跡出土土器観察表	129・130頁
第18表	長宮遺跡第28地点出土遺物観察表	31頁	第58表	上福岡貝塚調査一覧表	136頁
第19表	長宮遺跡第29地点土坑・ピット・井戸一覧表	32頁	第59表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡ピット一覧表	144頁
第20表	長宮遺跡第29地点溝一覧表	35頁	第60表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡・水溜ピット出土遺物観察表	151・154頁
第21表	長宮遺跡第29地点出土遺物観察表	35頁	第61表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡ピット一覧表	163頁
第22表	亀居遺跡調査一覧表	38頁	第62表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物観察表	166頁
第23表	亀居遺跡住居跡一覧表	38頁	第63表	上福岡貝塚第1地点集石土坑・出土陳観表	172頁
第24表	松山道跡調査一覧表	40頁	第64表	上福岡貝塚第1地点より産出した動物遺体群種名表	173頁
第25表	江山道跡第43地点土坑一覧表	40頁	第65表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡の貝層における混貝率	174頁
第26表	江川東道跡調査一覧表	43頁	第66表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡の貝層における混貝率(層位別)	174頁
第27表	福岡新田道跡調査一覧表	50頁	第67表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成	175頁
第28表	福岡新田道跡第1地点溝一覧表	50頁	第68表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成(最小個体数)	176頁
第29表	福岡新田道跡土坑・ピット・井戸一覧表	52頁	第69表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成(最小個体数)	177頁
第30表	福岡新田道跡第1地点出土遺物観察表	53頁	第70表	上福岡貝塚第1地点から産出した水生貝類遺体群の組成(最小個体数)	180頁
第31表	西ノ原道跡第135地点土坑・ピット一覧表	55頁	第71表	マガキ(左股)の股高に関する記述統計量及びヒストグラム	181頁
第32表	神明後道跡第31地点土坑一覧表	58頁	第72表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出のキマツシジミの殻長(測定値)に関する記述統計量及びヒストグラム	181頁
第33表	苗間東久保道跡調査一覧表	61頁			
第34表	苗間東久保道跡第25地点ピット一覧表	61頁			
第35表	浄拝寺跡道跡調査一覧表	63頁			
第36表	浄拝寺跡道跡第30地点溝と土穴一覧表	68頁			
第37表	浄拝寺跡道跡第30地点土坑一覧表	68頁			
第38表	浄拝寺跡道跡第30地点ピット一覧表	71頁			
第39表	浄拝寺跡道跡第31地点土坑・ピット一覧表	74頁			
第40表	大井宿遺跡第15地点土坑・ピット一覧表	78頁			

第73表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム	182頁
第74表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長に関する平均値の差の検定(最小有意差法)	183頁
第75表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡における陸生貝類遺体産出数比較表(グッドマン)	185頁
第76表	上福岡貝塚第1地点産出脊椎動物遺体群一覽表	186頁
第77表	上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層別出土種名一覽表	189頁
第78表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層1出土層位別種名一覽表	189頁
第79表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層2出土層位別種名一覽表	189頁
第80表	上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ・Ⅳ住居跡一括出土種名一覽表	189頁
第81表	甕道跡古代住居跡一覽表	191頁

第82表	甕道跡第14地点出土動物観察表	200頁
第83表	亀居道跡第62地点土坑一覽表	202頁
第84表	亀居道跡第62地点ピット一覽表	202頁
第85表	浄輝寺跡道跡第29地点井戸一覽表	224頁
第86表	浄輝寺跡道跡第29地点堀込溝一覽表	224頁
第87表	浄輝寺跡道跡第29地点土坑一覽表	224頁
第88表	浄輝寺跡道跡第29地点ピット一覽表	225-226頁
第89表	浄輝寺跡道跡第29地点出土動物観察表	229頁
第90表	浄輝寺跡道跡第30地点出土動物観察表	231頁
第91表	川崎道跡出土瓦観察表	240頁
第92表	川崎道跡縄文時代前期住居跡一覽表	246頁
第93表	上福岡貝塚縄文時代前期住居跡一覽表	246頁

## 写 真 目 次

巻頭図版1	上福岡貝塚第1地点1号住居跡	
巻頭図版2	上福岡貝塚第1地点2号住居跡	
巻頭図版3	上福岡貝塚第1地点1・2号住居跡出土遺物	
巻頭図版4	上福岡貝塚第1地点産出貝類遺体群	
巻頭図版5	上福岡貝塚第1地点産出貝類遺体群及び脊椎動物遺体群	
巻頭図版6	甕道跡第1地点20・23号住居跡、第1地点調査区全景	
巻頭図版7	甕道跡第1地点23号住居跡、亀居道跡第62地点土坑9・東台道跡第49地点屋外埋藏出土石器・土偶	
巻頭図版8	亀居道跡第62地点	
巻頭図版9	甕道跡第14地点14号住居跡、調査区全景	
巻頭図版10	甕道跡第14地点14号住居跡竈、13・16-19号住居跡出土遺物	
巻頭図版11	浄輝寺跡道跡第29地点調査区全景	
巻頭図版12	浄輝寺跡道跡第30地点調査区全景	
巻頭図版13	浄輝寺跡道跡第31地点3号住居跡、埋藏1・2	
巻頭図版14	大井宿道跡第15地点・川崎道跡出土遺物	
写真図版1	堀々岡外道跡第5地点、甕道跡第1地点①	251頁
写真図版2	甕道跡第1地点②	252頁
写真図版3	甕道跡第1地点③	253頁
写真図版4	甕道跡第1地点④	254頁
写真図版5	甕道跡第1地点⑤	255頁
写真図版6	甕道跡第1地点⑥	256頁
写真図版7	甕道跡第1地点⑦	257頁
写真図版8	甕道跡第1地点⑧	258頁
写真図版9	甕道跡第1地点⑨	259頁
写真図版10	甕道跡第1地点⑩	260頁
写真図版11	甕道跡第1地点⑪	261頁
写真図版12	甕道跡第1地点⑫	262頁
写真図版13	甕道跡第1地点⑬	263頁
写真図版14	甕道跡第1地点⑭	264頁
写真図版15	甕道跡第1地点⑮	265頁
写真図版16	甕道跡第1地点⑯	266頁
写真図版17	甕道跡第1地点⑰	267頁
写真図版18	甕道跡第1地点⑱	268頁
写真図版19	甕道跡第1地点⑲	269頁
写真図版20	甕道跡第1地点⑳	270頁
写真図版21	甕道跡第1地点㉑	271頁
写真図版22	甕道跡第1地点㉒	272頁
写真図版23	甕道跡第1地点㉓	273頁
写真図版24	甕道跡第1地点㉔	274頁
写真図版25	川崎道跡第22地点①	275頁
写真図版26	川崎道跡第22地点②、④地点	276頁
写真図版27	上福岡貝塚第1地点①	277頁
写真図版28	上福岡貝塚第1地点②	278頁
写真図版29	上福岡貝塚第1地点③	279頁
写真図版30	上福岡貝塚第1地点④	280頁
写真図版31	上福岡貝塚第1地点⑤	281頁
写真図版32	上福岡貝塚第1地点⑥	282頁
写真図版33	上福岡貝塚第1地点⑦	283頁
写真図版34	上福岡貝塚第1地点⑧	284頁
写真図版35	上福岡貝塚第1地点⑨	285頁
写真図版36	上福岡貝塚第1地点⑩	286頁
写真図版37	上福岡貝塚第1地点⑪	287頁
写真図版38	上福岡貝塚第1地点⑫	288頁
写真図版39	上福岡貝塚第1地点⑬	289頁
写真図版40	上福岡貝塚第1地点⑭	290頁
写真図版41	上福岡貝塚第1地点⑮	291頁
写真図版42	上福岡貝塚第1地点⑯	292頁

写真図版43	上福岡貝塚第1地点⑰	293頁
写真図版44	上福岡貝塚第1地点⑱	294頁
写真図版45	上福岡貝塚第1地点⑲	295頁
写真図版46	上福岡貝塚第1地点㉑	296頁
写真図版47	上福岡貝塚第1地点㉒	297頁
写真図版48	甕道跡第13地点①、14地点①	298頁
写真図版49	甕道跡第14地点②	299頁
写真図版50	甕道跡第14地点③	300頁
写真図版51	甕道跡第14地点④	301頁
写真図版52	甕道跡第14地点⑤	302頁
写真図版53	長宮道跡第1地点⑥	303頁
写真図版54	長宮道跡第27地点②、28地点①	304頁
写真図版55	長宮道跡第28地点②	305頁
写真図版56	長宮道跡第28地点③、29地点①	306頁
写真図版57	長宮道跡第29地点②	307頁
写真図版58	亀居道跡第62地点①	308頁
写真図版59	亀居道跡第62地点②	309頁
写真図版60	松山道跡第43地点	310頁
写真図版61	川江東道跡第11・15地点、東久保道跡第65地点、 東中学校西道跡第31地点	311頁
写真図版62	駒林道跡第4地点、福岡新田道跡第1地点①	312頁
写真図版63	福岡新田道跡第1地点②	313頁
写真図版64	福岡新田道跡第1地点③	314頁
写真図版65	福岡新田道跡第1地点④、西ノ原道跡第135地点	315頁
写真図版66	西ノ原道跡第140地点、141地点	316頁
写真図版67	神明後道跡第31・32地点、前門東久保道跡第25地点	317頁
写真図版68	浄輝寺跡道跡第29地点①、29地点①	318頁
写真図版69	浄輝寺跡道跡第29地点②	319頁
写真図版70	浄輝寺跡道跡第29地点③	320頁
写真図版71	浄輝寺跡道跡第29地点④	321頁
写真図版72	浄輝寺跡道跡第29地点⑤	322頁
写真図版73	浄輝寺跡道跡第29地点⑥	323頁
写真図版74	浄輝寺跡道跡第29地点⑦	324頁
写真図版75	浄輝寺跡道跡第29地点⑧、30地点①	325頁
写真図版76	浄輝寺跡道跡第30地点②	326頁
写真図版77	浄輝寺跡道跡第30地点③	327頁
写真図版78	浄輝寺跡道跡第30地点④	328頁
写真図版79	浄輝寺跡道跡第30地点⑤	329頁
写真図版80	浄輝寺跡道跡第30地点⑥	330頁
写真図版81	浄輝寺跡道跡第31地点①	331頁
写真図版82	浄輝寺跡道跡第31地点②	332頁
写真図版83	浄輝寺跡道跡第31地点③	333頁
写真図版84	浄輝寺跡道跡第32地点、大井宿道跡第15地点①	334頁
写真図版85	大井宿道跡第15地点②	335頁
写真図版86	大井宿道跡第15地点③	336頁
写真図版87	大井戸道跡道跡第22地点①	337頁
写真図版88	大井戸道跡道跡第22地点②、大井戸上道跡第6地点、 東台道跡第49地点①	338頁
写真図版89	東台道跡第49地点②	339頁
写真図版90	東台道跡第49地点③	340頁
写真図版91	東台道跡第49地点④	341頁
写真図版92	東台道跡第49地点⑤	342頁
写真図版93	東台道跡第49地点⑥	343頁
写真図版94	発掘調査風景①	344頁
写真図版95	発掘調査風景②	345頁
写真図版96	整理作業風景①	346頁
写真図版97	整理作業風景②	347頁

## 第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果

## 第1章 遺跡と調査の概要

## I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏30km圏内の県南西部に位置する。2005(平成17)年10月1日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積14.67km<sup>2</sup>、人口は2009(平成21)年3月現在105,829人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和30年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和60年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も活発に行なわれた。現在は上福岡駅周辺の再開発とふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行なわれている。

ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行

ない、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課からの建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行なった。

協議後、文化財保護法第99条第5項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施してきている。また専その個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2007年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査は25件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査3件、公共事業に伴う本調査2件、民間開発に伴う本調査を8件行なった。開発面積は69,902m<sup>2</sup>で、そのうち実質調査面積は試掘8,238(本調査3,497)m<sup>2</sup>である。過去3年間の調査件数と調査面積を第1表にあげてみる。また、2007年度に行なった調査は第2表のとおりである。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去3年間の調査件数と面積一覧表

年度	件数・内訳	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
		開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	開発面積m <sup>2</sup>	
2005(平成17)年度		56件	3件	10件	個人住宅26、共同住宅4、分譲住宅10、店舗7、店舗併用住宅2、鉄塔1、宅地造成3、公園造成1
		33,253	509	8,340	
2006(平成18)年度		54件	8件	9件	個人住宅23、共同住宅7、集合住宅・店舗1、分譲住宅5、店舗4、園舎改築1、建物解体1、宅地造成8、学生寮1、保育所1、小学校1、コンテナボックス設置1
		59,934	1,340	26,988	
2007(平成19)年度		33件	4件	9件	個人住宅11、共同住宅6、分譲住宅4、共同住宅及び分譲住宅1、消防分団車庫1、変電所1、公民館分館1小学校2、寺院・庫裏2、駐車場1、学習塾1店舗兼事務所1、道路築造1
		69,902	1,580	55,564	

第2表 2007(平成19)年度埋蔵文化財調査一覧表

遺跡・地点名	申請地住所	試掘面積(m <sup>2</sup> )	開発面積(m <sup>2</sup> )	原因	試掘期間	調査措置
		本調査面積(m <sup>2</sup> )			本調査期間	
1 鶴ヶ岡外遺跡第5地点	鶴ヶ岡5-188-1, 741-1, 198-1, 199-1, 214-1	2,960	43,449	共同住宅建設	12/11~1/30	試掘調査、本調査
		400			2/20~3/7	
2 西遺跡第1地点	西2-2068-1・3・4, 2069-1	284	3,467	共同住宅及び分譲住宅建設	3/12~26, 4/2~20	試掘調査、本調査
		1,200			6/4~8/1	
3 川崎遺跡第22地点	川崎171-1, 174-10	104	104	消防分団車庫建設	2007.4.16~23	試掘調査、本調査
		104			2007.4.24~5.22	
4 川崎遺跡第24地点	川崎字宅地添225-3	26	319	共同住宅建設	10/4	試掘調査
5 上福岡貝塚第1地点	福岡2-1500-23・63	55	250	変電所増築	4/26~5/17	試掘調査、本調査
		124			5/21~6/12	
6 滝遺跡第13地点	滝2-2-6	113	737	共同住宅建設	10/24~11/1	試掘調査
7 滝遺跡第14地点	滝2-5-11・17	254	692	分譲住宅建設	11/8~19	試掘調査、本調査
		92			11/20~12/6	
8 長宮遺跡第27地点	長宮2-1-4	15	174	個人住宅建設	5/30~31	試掘調査
9 長宮遺跡第28地点	長宮2-1-8	135	188	個人住宅建設	5/31~6/5	試掘調査、本調査
		135			6/6~22	
10 長宮遺跡第29地点	長宮2-4-6の一部	145	618	共同住宅建設	11/20~12/3	試掘調査、本調査
		145			12/4~12/5	
11 亀居遺跡第62地点	亀久保2-12-3	151	1,284	共同住宅建設	11/12~26	試掘調査、本調査
		170			1/7~18	
12 松山遺跡第43地点	築地2-5-2	281	668	分譲住宅建設	4/11~24	試掘調査
13 江川東遺跡第14地点	東久保1-174-38	30	67	個人住宅建設	5/25~29	試掘調査
14 江川東遺跡第15地点	東久保1-136-5	91	344	公民館分館建設	9/11~13	試掘調査
15 東久保遺跡第65地点	ふじみ野2-22-2, 22-5~7	51	260	小学校増築	1/18~28	試掘調査
16 駒林遺跡第4地点	駒林B地区7街区-3, 4	72	1,866	共同住宅建設	6/11~13	試掘調査
17 福岡新田遺跡第1地点	駒林字寺脇861-1, 866-1, 865, 862, 864の一部	185	1,754	寺院建設	10/9~24	試掘調査
18 西ノ原遺跡第135地点	うれし野1-5-2	25	257	集合住宅駐車場造成	11/5~12	試掘調査
19 西ノ原遺跡第140地点	旭1-16-14の一部	208	487	学習塾建設	5/7~10	試掘調査
20 西ノ原遺跡第141地点	市沢1-8-8	81	735	店舗兼事務所	5/8~9	試掘調査
21 神明後遺跡第31地点	苗間284	72	499	個人住宅建設	8/3~7	試掘調査
22 神明後遺跡第32地点	苗間247-2	31	136	個人住宅建設	3/13	試掘調査
23 苗間東久保遺跡第25地点	苗間字東久保631-3	176	414	個人住宅建設	7/11~23	試掘調査
24 浄禅寺跡遺跡第9地点	苗間字神明後353-4	70	529	個人住宅建設	1994.10.18 5/22~5/24	本調査
25 浄禅寺跡後遺跡第29地点	苗間570-1, 2, 571-1, 2, 575	1,251	4,920	分譲住宅建設	8/7~9/21	試掘調査、本調査
		818			9/25~11/6	
26 浄禅寺跡遺跡第30地点	苗間359-1	414	1,298	分譲住宅建設	9/14~10/9	試掘調査、本調査
		100			10/9~11/2	
27 浄禅寺跡遺跡第31地点	苗間字神明後342-14の一部	109	171	個人住宅建設	2/19	試掘調査、本調査
		109			2/19~3/5	
28 浄禅寺跡遺跡第32地点	苗間字神明後342-15・10, 340-17	40	188	個人住宅建設	2/25~3/4	試掘調査
29 大井宿遺跡第15地点	大井1-5-3	65	429	個人住宅建設	8/1~10	試掘調査
30 大井氏館跡遺跡第22地点	大井字西原954-1	37	1,962	寺院庫裏建設	11/27~12/1	試掘調査
31 大井戸上遺跡第6地点	大井字東台798-1	30	889	個人住宅建設	3/25~3/28	試掘調査
32 東台遺跡第45地点	東台717-3	573	573	小学校増築	2007.5.22~6.19	試掘調査
33 東台遺跡第49地点	大井字東台646, 647-1, 665	174	174	道路築造	1/28~30, 2/4~19	試掘調査、本調査
		30			1/31~2/1	
合 計		8,238	69,902			
		3,497				

第3表 2007(平成19)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積(m <sup>2</sup> )	原因	立会い日	調査の成果
1	西遺跡第1地点内	西2-2068-3	2	PHSアンテナ撤去	6/26	遺構・遺物なし
2	北野遺跡	北野1-3061-13	75	個人住宅建設	10/23	保護層有、遺構・遺物なし
3	北野遺跡	北野2-2069-4-12	142	個人住宅建設	12/19	保護層有、遺構・遺物なし
4	長宮遺跡	西原2-5-31	119	個人住宅建設	10/15	保護層有、遺構・遺物なし
5	亀居遺跡第62地点内	亀久保2-12-3-2の一部	1,284	テラス施設撤去	10/16	遺構・遺物なし
6	鶴ヶ舞遺跡	鶴ヶ舞1-105-8	66	個人住宅建設	7/23	保護層有、遺構・遺物なし
7	鶴ヶ舞遺跡	鶴ヶ舞1丁目69番13	102	個人住宅建設	2/26	個人住宅建設
8	東中学校西遺跡第31地点	ふじみ野4-3-14	165	個人住宅建設	2/14	遺構・遺物なし
9	新田前遺跡	駒林字新田前256	296	個人住宅建設	11/16	保護層有、遺構・遺物なし
10	苗間東久保遺跡	苗間字東久保648-17	100	個人住宅建設	4/24	保護層有、遺構・遺物なし
11	苗間東久保遺跡	苗間字神明後334-3	287	個人住宅建設	8/20	保護層有、遺構・遺物なし
12	苗間東久保遺跡	苗間字東久保652-20	72	個人住宅建設	10/15	保護層有、遺構・遺物なし
	合計		1,088			

第4表 2007(平成19)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積(m <sup>2</sup> )	原因	立会い日	調査の成果
1	東久保南遺跡緑辺	ふじみ野1-7-5-7	2,131	店舗建設	5/2	遺構・遺物なし
2	石塔畑遺跡緑辺	大井字東台817-1-9	1,956	工場事務所建設	7/23,8/20/23	遺構・遺物なし
3	1000m以上開発	上福岡2丁目502-1,3,1503-1,5,6	1,195	店舗建設	2/12	遺構・遺物なし
4	亀居遺跡緑辺	鶴ヶ舞2-9-3,4	1,362	共同住宅建設	9/27	遺構・遺物なし
5	駒林遺跡緑辺	駒林土地区画整理14-1-2	1,261	店舗建設	12/11	保護層有、遺構・遺物なし
6	亀居遺跡緑辺	鶴ヶ舞1-3-4の一部	280	小学校増築	2/5	保護層有、遺構・遺物なし
7	神明後隣接地	苗間字神明前390-3の一部	88	個人住宅建設	3/10	遺構・遺物なし
	合計		8,273			

## Ⅱ 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には富士見川越有料道路、東武東上線、川越街道(国道254号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地緑辺部に位置し、旧上福岡市域は台地緑辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地緑辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、

北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地緑辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河川(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



### Ⅲ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代の立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保跡踏跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷲森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ローム

第Ⅲ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめの中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの南側台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

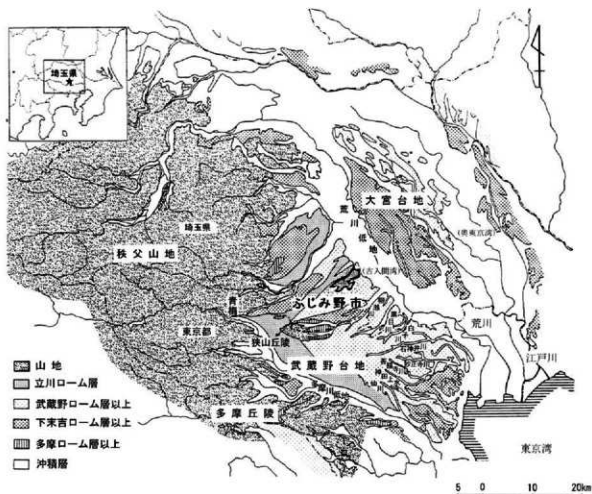
16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

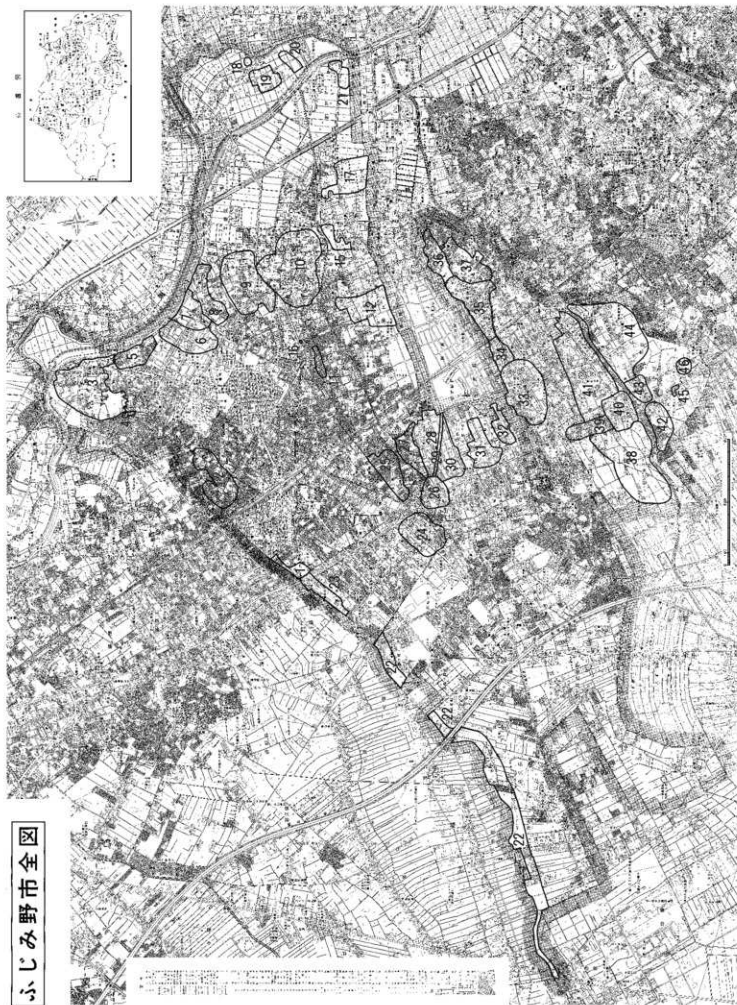
【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から

続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工廠福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水橋などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形



第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号	No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001	24	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
2	北野遺跡	縄文中期の散布地	25-002	25	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
3	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003	26	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
4	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004	27	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
5	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005	28	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
6	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006	29	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006
7	権現山遺跡(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群	25-007	30	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
8	滝遺跡	古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-008	31	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
9	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009	32	東久保遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
10	松山遺跡	奈良・平安の集落跡	25-010	33	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
11	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011	34	中沢前遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
12	胸林新田前遺跡		25-028	35	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
13	胸林遺跡(胸林中世墳墓)	近世の堀跡・中世の墳墓(胸林中世墳墓を2007年に統合)	25-013	36	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
15	福岡新田遺跡	散布地	25-015	37	浄輝寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡	30-022
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023	38	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
17	鷲森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017	39	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018	40	大井氏館跡遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019	41	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020	42	西台遺跡	旧石器、縄文早期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
21	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021	43	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
22	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036	44	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
23	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047	45	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	
				46	石塔遺跡	中世の散布地	30-027

第6表 縄文時代中期時期細分対比表

本書 2009 ①	安藤子昭二 鈴木・山本 1988 ②	植木 弘 ③ 1994	黒尾和久 ④ 1995	谷井 他 ⑤ 1982	考古学協会 ⑥ 1981
務沢・阿玉台Ⅰ古	阿玉台Ⅰ古・務沢	務沢・阿玉台Ⅰ古	Ⅰa中	阿玉台Ⅰ古前Ⅱ	Ⅱ期 阿玉台出現期
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	勝坂Ⅰ古・Ⅱ古	勝坂Ⅰ古	Ⅰb新	阿玉台Ⅰ古後Ⅱ	Ⅲ期 (勝坂最古段階)
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	Ⅱ古	Ⅱ	Ⅰb	Ⅲ	Ⅳ期
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	Ⅲ古	Ⅲ	Ⅱa古	Ⅳ	Ⅴ期 (勝坂最古段階)
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	Ⅳ古	Ⅳ	Ⅱa新	Ⅴ	Ⅵ期 (勝坂最古段階)
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	Ⅴ古	Ⅴ	Ⅱb	Ⅵ	Ⅶ期 (勝坂最古段階)
勝坂Ⅰ古・Ⅱ古・Ⅲ古	Ⅵ古	Ⅵ	Ⅲa	Ⅶ	Ⅷ期 (勝坂最古段階)
加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ古	Ⅲb古	Ⅷ	Ⅷ期 (勝坂最古段階)
	加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ古	Ⅲb新	Ⅷ	Ⅷ期 (勝坂最古段階)
	古相		EⅠa		
加曾利EⅠ新	加曾利EⅡ古	加曾利EⅠ古	Ⅰb		Ⅸa
中相	加曾利EⅡ古	加曾利EⅠ古	Ⅰc		Ⅸb
新相	加曾利EⅡ古	加曾利EⅠ古	Ⅱa	加曾利EⅠ古	X
	古相		Ⅱb		
加曾利EⅡ	加曾利EⅢ古	加曾利EⅡ古	Ⅱc古		Ⅹ
中相	加曾利EⅢ古	加曾利EⅡ古	Ⅱc新		Ⅹa
新相	加曾利EⅢ古	加曾利EⅡ古	Ⅲa		Ⅹb
	加曾利EⅢ古	加曾利EⅢ古	Ⅲb		Ⅺ
加曾利EⅢ	加曾利EⅣ古	加曾利EⅢ古	Ⅲc		Ⅺ
	加曾利EⅣ古	加曾利EⅢ古	Ⅳ		Ⅺ
加曾利EⅣ		加曾利EⅣ古	EⅣ		Ⅺ

## 第2章 鶴ヶ岡外遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤岡江川に面した標高27～50mの台地北縁、低地との比高差4mあまりの緩斜面上に立地する南北100m、東西3.5km以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003年11月、鶴ヶ岡遺跡に隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年12月に試掘調査を行ったところ（第1地点）、旧石器時代（立川ロームIV層）の石器群と礫群を検出したため、2004年1月10日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005年1月に第2地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行なった結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年9月に包蔵地の変更増補を行なった。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前期である。

### II 鶴ヶ岡外遺跡第5地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007（平成19）年6月12日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は川越江川右岸の台地上に位置する。隣接する北側の第2地点の調査で、旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が確認されているため、原因者と協議の結果、遺跡の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年12月11日から2008年1月30日まで行なった。開発区が広大なため試掘調査区を便宜的に調査区A区・B区・C区・D区に分けた。開発区を南北に走る市道を境とし西側にA区とB区を、東側にC区とD区を設置しそれぞれの調査区名をトレンチ名とした。

調査区A区は既存建物の間に幅3.5～4mのトレンチを設定した。調査区B区は既存建物の北側で、最も斜面に近い場所に幅4m～25mの調査区に沿った範囲にトレンチを設定した。調査区C区は一辺25～30mの三角形のトレンチとし、調査区D区は幅4m、長さ230mの長大なトレンチを設定した。

調査区・トレンチの表土除去は、文化財保護課の職員立会いのもと、開発事業者より重機とオペレーターの提供・協力を受け実施した。重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。さらに旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、調査区A区・B区・C区に2×2mのグリッドを3～10m間隔に設定し深掘りした結果、調査区B区とC区の地表面から約50cmの深さで、旧石器時代の石器群を確認した。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができず遺跡への影響も避けられないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は2008年2月20日から3月7日まで行ない、旧石器時代の石器群3ヶ所を検出した。（現在整理作業、報告書作成中）

第7表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	2003・2004	5,526	事業所	旧石器時代石器群6・礫群7、縄文落とし穴3	町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第20集
2	2004・2005	5,000	老人介護施設	旧石器時代石器群3、縄文炉穴群1・落とし穴1	町内遺跡群XII 大井遺跡調査会報告第20集
3	2005	160	鉄塔建設	遺構・遺物なし	市内遺跡群2
4	2003	5,911	給食センター	遺構・遺物なし	町内遺跡群XII
5	2007・2008	43,449	共同住宅	旧石器時代石器群3、石器	市内遺跡群5



## 第3章 西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

西遺跡は、藤間江川に面した標高22mの台地北縁、低地との比高差8m以上の急峻な崖面上に立地する南北150m、東西200m以上の遺跡である。上福岡駅まで約600mに位置する利便性のため、早くから宅地開発が進み遺跡の大部分は住宅地となっている。

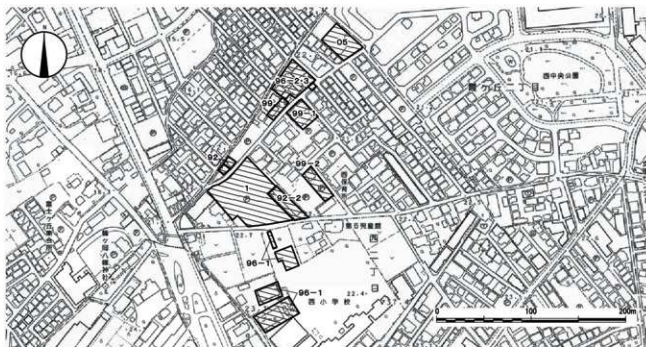
周辺の遺跡は、西側に隣接して縄文時代中期の集落である鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡がある。約800m上流に旧石器時代の礫群・石器群が広がる鶴ヶ岡外遺跡がある。また、藤間江川の支谷をはさんだ対岸には川越市藤原町遺跡があり、八幡神社遺跡とともに縄文時代の集落が広がる。さらに下流へ向かうと、「川崎貝塚」として著名な川崎遺跡、川崎横穴墓群があり、旧石器時代から縄文、古墳、飛鳥・奈良・平安、中・近世にわたる複合遺跡となる。

本遺跡は1992年3月、駐車場造成に伴い約3,000㎡が発掘調査され、縄文時代中期中葉の勝坂期～加曾利EⅠ期の住居跡17軒、集石土坑や土坑等を多数検出、1996年の第2・3次調査でも縄文時代中期の住居跡を検出し、弧状に分布する縄文集落が明らかとなってきた。2008年12月現在、13ヶ所で試掘及び発掘調査が行なわれ、時期不明の溝跡等も検出している。主たる時代は縄文時代中期である。

### II 西遺跡第1地点

調査は共同住宅及び分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年1月24日付で、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は1992年に「西遺跡第1次調査」として調査済みであるが、当時の開発は駐車場造成のため、遺構保存として試掘調査のみを行なった未調査区域があり、特に旧石器時代の遺構については未確認であった。今回開発申請のあったマンション建設区域ではローム面の掘削も予定されているため、旧石器時代と未調査部分の確認を主眼に再調査をすることとなった。

試掘調査は2007年3月12日から同年4月20日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。前回調査した住居跡の他、新たな住居跡3軒と集石土坑等を確認した。そこで申請者と協議した結果、開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。本調査は2007年6月4日から8月1日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代中期の住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基を新たに検出した。本調査の成果は、第2部第1章に掲載した。



第4図 西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1991年試掘	西2-5905	1991.7.23～7.31	350	防火水槽	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(14)
第1次	西2-2068	(1992.1.14～3.19)	3,061	駐車場	縄文中期住居17、集石遺構17、土坑65	上福岡市遺跡調査会報告書第2集、上福岡市史資料編第1巻自然史・考古
		1992.3.23.～5.2				
1992年試掘(1)	西2-1845	1992.4.24～25	200	共同住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(15)
1992年試掘(2)	西2-2068-2	1992.12.3～12.9	559.2	共同住宅	縄文中期土器細片	埋蔵文化財の調査(15)
第2次	西2-2072-8	1996.5.29～6.5	100	個人住宅	縄文中期住居1、溝1、縄文土器、石器	埋蔵文化財の調査(19)
第3次	西2-2072-12	1996.6.6～6.14	111.2	個人住宅	土坑2、集石土坑、溝、縄文土器、石器	埋蔵文化財の調査(19)
1996年試掘	西2-2071-1	1996.5.21～5.28	1,146.2	宅地造成	縄文中期住居跡、集石土坑、溝(第2・3次地点試掘調査)	埋蔵文化財の調査(19)
1996年試掘①	西2-5891-3他	1996.7.17	1,400	プール改築		埋蔵文化財の調査(19)
1996年試掘②	西2-1827-2	1996.10.16	47.4	個人住宅	遺構・遺物なし	埋蔵文化財の調査(19)
1999年試掘(1)	西2-1828-1	1999.4.23～26	497.6	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(22)
1999年試掘(2)	西2-1835-4	1999.5.14～17	324	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(22)
2001年試掘	西2-1833-3・4	2001.4.9～11	202.5	宅地造成	溝1条、縄文土器片	埋蔵文化財の調査(24)
第1地点	西2-2068-1・3・4、 2069-1	(2007.3.12～26、 4.2～20) 2007.6.4～8.1	3,467	共同住宅及び 分譲住宅	縄文中期住居跡3、集石土坑6基、土坑12基、ピット68、溝1本	市内遺跡群4



## 第4章 川崎遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

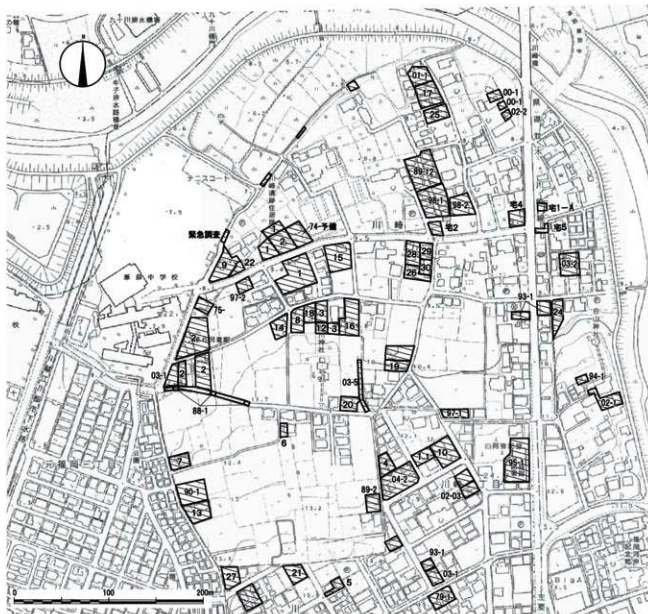
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917（大正6）年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928（昭和3）年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2008年12月末現在58ヶ所で調査が行なわれ、37ヶ所で遺構が確認されている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第9表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎160	(1974.3.25~4.4)	84	1次調査に先立つ保存状況把握	初穴3、土坑2、ビット群、縄文土器、石器	土福岡市遺跡調査報告書
1次	川崎162~176	(1974.7.20~9.19)	1800 (予定 2,510)	5ヶ年計画による事前調査	住居跡11(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、掘2、土坑5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡 第1次調査概報
緊急発掘調査 (新井武宅)	大字川崎字宮後168-3	1975.3.30~5.10	198.53	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰輪陶器・布目瓦・瓦器	土福岡市遺跡調査報告書
宅地跡1次 (A地区)	大字川崎字宅地跡122	1975.6.829	50	個人住宅	縄文早期住居1、縄文土器、石器	土福岡市遺跡調査報告書
2次	川崎137~174	1975.9.4~12.5	3055	5ヶ年計画による事前調査	縄文住居9、古墳住居6、奈良平安住居10、中世遺構	川崎遺跡 第2次調査概報
3次	川崎149-6	1977.11.1~12.3	300	住宅建設	縄文住居3(7.8)、奈良平安住居(1,2,4~6.9)、焼土遺構、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
宅地跡2次 (B地区)	川崎198	1978.5.15~25	170	宅地造成	土坑3、ビット	縄文文化の調査(1)
宅地跡3次 (C地区)	川崎230	1978.5.23~31	130	宅地造成	井戸跡2、地下坑1、溝1	縄文文化の調査(1)
4次	川崎2-5-2	1979.4.19~5.11	304	宅地造成	縄文前期住居1、溝1黒須式土器、貝類	縄文文化の調査(1) 縄文文化の調査(3)
5次	川崎1-1-4	1979.9.26~10.10	152	宅地造成	溝状遺構	縄文文化の調査(3)
1979年度試掘 (清見)	清見4-3-11	(1979.11.12~19)	360	宅地造成	溝1	縄文文化の調査(3)
6次	川崎102-5	1979.12.3~8	30	プレハブ家屋	縄文前期住居2、縄文土器片、平安住居2	縄文文化の調査(3)
7次	川崎124-3	1981.11.27~30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器片	縄文文化の調査(3)
8次	大字川崎字宮前148-1	1984.1.17~26	400	住宅建設	溝1	縄文文化の調査(3)
宅地跡4次	川崎宅地跡219	1984.9.25~10.9	301	住宅建設	縄文住居1、平安住居1	縄文文化の調査(3)
9次	川崎字宮後門1172-1,2	1986.9.11~20	495	個人住宅	溝2、縄文後・晩期、平安土器散布	縄文文化の調査(3)
10次	川崎224-1	1987.11.24~30	603	個人住宅	溝1	縄文文化の調査(3)
11次	川崎2-6-2	1988.5.10~17	289	住宅建設	なし	縄文文化の調査(11)
1988年度試掘 (市道402号線)	市道402号線	(1988.9.19~21)	60	下水道設置	住居1	縄文文化の調査(11)
1989年度試掘(1)	川崎字宅地跡196-1	(1989.4.10~18)	1045	住宅建設	なし	縄文文化の調査(12)
1989年度試掘(2)	川崎字宮前98-2	(1989.10.3~6)	354	住宅建設	なし	縄文文化の調査(12)
12次	川崎字宮前149-4-5	1990.4.20~27	311	住宅建設	溝2	縄文文化の調査(12)
13次	大字川崎字宮前122	1990.5.1~17	480	住宅建設	奈良住居1	縄文文化の調査(13)
1990年度試掘(1)	大字川崎字宮前122	(1990.5.18~23)	530	範囲確認調査	なし	縄文文化の調査(13)
14次	大字川崎字宮前145	1990.10.1~31	499	住宅建設	縄文前期住居1、貝塚、平安住居1	縄文文化の調査(13)
15次	川崎宅後門160-1	1991.10.23~11.20	499	個人住宅	平安住居7、土坑1	縄文文化の調査(13)
1992年度試掘(1)	大字川崎字山99-5	(1993.2.18~19)	168	店舗併用住宅	なし	縄文文化の調査(15)
1992年度試掘(2)	川崎2-10,11	(1993.8.24)	131	個人住宅	なし	縄文文化の調査(15)
1993年度試掘(2)	川崎1-1-1の一部	(1993.9.10~13)	422.37	個人住宅	なし	縄文文化の調査(16)
1994年度試掘(1)	川崎字台258他1筆	(1994.11.17~24)	230	機材置場敷設	なし	縄文文化の調査(17)
1995年度試掘(1)	川崎2-7-2,3	(1995.10.13~16)	1126.34	消防署	なし	縄文文化の調査(18)
16次	川崎字宮脇150-2,3	1995.12.11~ 1996.3.8	828	駐車場及び資材置場敷設	縄文前期(黒須期)大形住居1、同期住居跡2・土坑2、平安住居跡4・掘立柱建物跡6、中世堅穴状遺構2	7年度教育要覧
17次	川崎字宅地跡204の一部	1996.7.15~23	779.69	個人住宅	平安住居1	縄文文化の調査(19)
18次	川崎字宮脇148-3	1996.11.18~25	198	個人住宅	平安住居1	縄文文化の調査(19)
1997年度試掘(1)	川崎字山92	(1997.4.14)	367.21	宅地造成	溝1(時期不明)	縄文文化の調査(20)
1997年度試掘(2)	川崎字宮後門1165-6	(1997.10.20)	204.34	個人住宅	なし	縄文文化の調査(20)
1997年度試掘(3)	川崎字宅地跡199-1,2,5	(1998.2.12~16)	780.36	個人住宅	なし	9年度教育要覧
1998年度試掘(1)	川崎字宅地跡197-1	(1998.10.27~11.6)	996.09	宅地造成	縄文前期土坑1ほか	縄文文化の調査(21)
市道402号線 2次	川崎字宮前、宮脇跡内	2000.2.21~25	495	道路築造	縄文前期住居跡1	11年度教育要覧
2000年度試掘(1)	川崎字宅地跡209の一部	(2000.6.19~22)	123.3	個人住宅	貝塚の一部	縄文文化の調査(24)
範囲確認調査	川崎字宅地跡209	(2001.6.12~25)	100	車庫	溝1	縄文文化の調査(24)
19次	川崎字宮脇157の一部	2001.9.18~10.4	289.2	個人住宅	平安初頭住居1	縄文文化の調査(24)
2001年度試掘(1)	川崎字宅地跡204-1	(2001.10.29,30)	825.42	宅地造成	なし	縄文文化の調査(24)
2002年度試掘(1)	川崎249-1の一部	(2002.5.13)	341.32	倉庫	なし	縄文文化の調査(25)
2002年度試掘(2)	川崎210-1,2の一部	(2002.10.28,29)	551	共同住宅	溝1【盛土保存】	縄文文化の調査(25)
2002年度試掘(3)	川崎2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	なし	14年度教育要覧
2002年度試掘(4)	川崎2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	なし	14年度教育要覧
2002年度試掘(5)	川崎字宮脇155先	(2003.3.26)	164	市道402号線掘削工事	なし	14年度教育要覧
2003年度試掘(1)	川崎137-1の一部	(2003.8.6,7)	257.5	個人住宅	なし	縄文文化の調査(26)
2003年度試掘(2)	川崎字宅地跡226-14	(2003.12.8,19)	381	個人住宅	なし	縄文文化の調査(26)
宅地跡地区5次	川崎字宅地跡222-3先	2004.2.16~18	88	?	古墳初頭堅穴住居跡1【調査実施】	15年度教育要覧
2004年度試掘(1)	川崎字宮脇157-1の一部	(2004.6.14,15)	421	個人住宅	平安堅穴住居のカマドの一部	縄文文化の調査(27)
2004年度試掘(2)	川崎2-5-1	(2004.11.1~4)	881	宅地造成	なし	縄文文化の調査(27)
20次	川崎字宮脇153-5	2005.11.28~12.2 (11.22~27)	257	個人住宅	奈良住居1	市内道跡群 1
第21地点	川崎1-6-10	(2006.4.11) 2006.4.14~20	258	個人住宅	古墳住居1、溝	市内道跡群 3
第22地点	川崎171-1,174-10	(2007.4.16~23)	104	消防分団倉庫	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内道跡群 4
第23地点	川崎字宮前102-4-6	(2007.6.4)	240.6	個人住宅	工事着工済みの為工事立会い	市内道跡群 4
第24地点	川崎字宅地跡225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	なし	市内道跡群 4

## II 川崎遺跡第22地点

### (1) 調査の概要

調査はふじみ野市消防団上福岡第1分団車庫の建設に伴うもので、ふじみ野市長より2007年1月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の西端部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年4月16日から、調査区の西側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。その結果、縄文時代から中世期の遺構を確認した。遺構の一部は東側の残土置き場の下にも延びていることから、開発区域のほぼ全域に遺構が広がっており、また遺構確認面まで約30cmと浅く工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。

本調査は2007年4月24日から5月22日まで、残土置き場の関係から調査区を東西に分けて行なった。本調査の結果、縄文時代の炉穴4基、中世の地下式坑2基、近世以降の穴蔵1基、縄文時代土坑2基、溝1条を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なううえ埋め戻し、本調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

検出した炉穴と土坑は、覆土層の観察から縄文時代のもものとみられ、溝の時期は不明である。

#### ① 炉穴

第10表 川崎遺跡第22地点炉穴一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	規模 (上端径・底径・深さ)	焼土範囲 規模	足場
1	楕円形	35×40・9×15・3.9	20×22	なし
2	不明	63×(-)・35×(-)・9.1	-	不明
3	楕円形	59×80・(-)・4.5	35×60	なし
4	楕円形	43×57・15×17・11.4	28×30	なし

#### ② 土坑

土坑1の平面形は不整形を呈し、規模は上端90～126cm下端60～96cm、確認面からの深さは27.2cmを測る。土坑2は溝に切られるため全容は不明である。残存部の規模は上端127～(60)cm、下端60～(23)cm、確認面からの深さは28.3cmを測る。

#### ③ 地下式坑

【地下式坑1】方形の入口を南東部に持ち、室部は長方形である。入口部の底部は室部の底部より約40cm高いが、双方の底部とも平坦である。遺構長軸355cm、短

軸(室部)313cm、短軸(入口部)120cm、深さ1764cm、室部幅285cm・奥行き243cm、入口部幅105cm・奥行き103cmを測る。

【地下式坑2】入口は南東部に持つが、大部分は調査区外へ延びるため未調査である。室部は長方形で底部は平坦である。室部幅300cm・奥行き213cm、深さ170cmを測る。

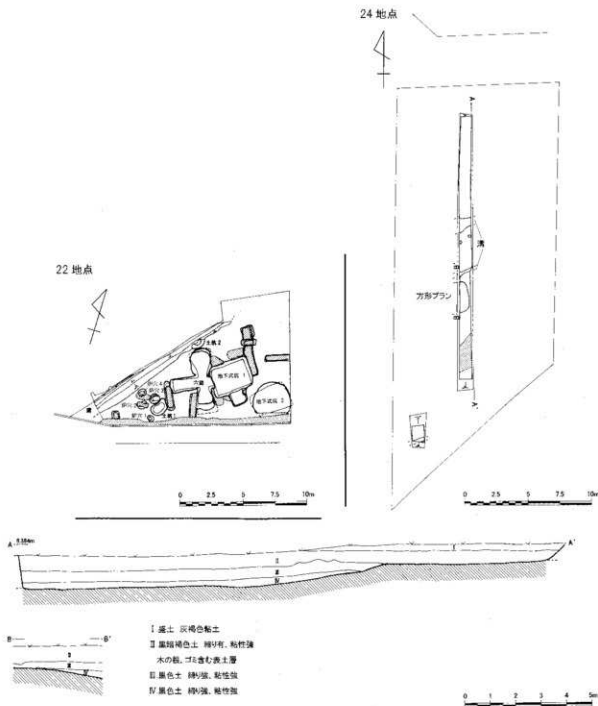
#### ④ 穴蔵

近世以降のサツマイモ貯蔵用の「アナグラ」とみられ、遺構覆土層にはガラスの一升瓶やプラスチックゴミなどが廃棄されているが、正確な遺構の時期は不明である。

竪坑は遺構の中央部にあったと思われるが横穴の天井が崩落しているため詳細は不明である。横穴の室は四方向に延びる。地山確認面からの深さは170cmである。北側の室は台形で、奥壁幅175cm、奥行き220cmである。南側の室も台形で、奥壁幅160cm、奥行き210cm、天井高102cm。西側の室は長方形で奥壁幅88cm、奥行き205cm、天井高115cm。東側の室は地下式坑を切って掘り込まれているが、天井部崩落時に立ち上がり部分も崩落しており詳細は不明である。推定奥行き122cm以上。

#### ⑤ 出土遺物 (第9図)

1は胎土に繊維を含む貝殻痕文土器で早期末。2・3は胎土に繊維を含みRとRL縄文を施す、前期。4は深鉢胴部で浮線文に斜位の刻みを施す諸磯式。5は浅鉢口縁部で隆帯に連続刺突を、6も浅鉢の口縁部で隆帯の区画に刺突文と竹管状工具内側で半隆帯を施す勝坂式。8は2本の沈線を、9は深鉢胴部で沈線を施す。10・13は沈線を施し、中期から後期とみられる。12・14は沈線の区画内に縄文を施す堀ノ内式。15は口縁部に隆帯を巡らす、11は沈線を施す中期。17は口唇部に刻み状刺突と櫛歯状工具で波状文を施す。16は無文。18は先端が長方形の工具による刺突を施す。18は須恵器坏底部。19は須恵器碗底部。20は須恵器。21は須恵器坏で1/3底部糸切り痕。32は14世紀中葉の瀬戸の陶器で尊式花瓶。25、26は土師器質の瓦塔初軸破片である。26は基壇部、25は初軸上部片で長押の意匠が貼り付けられる。[埼玉県指定文化財]の三郷町東山遺跡出土瓦塔・瓦堂と比べると、四隅柱の意匠が弱い。図示したものを以外に細片3点が出土する。他の遺物については第11表の出土遺物観察表に記した。



第6図 川崎遺跡第22・24地点遺構配置図 (1/300)、第24地点土層図 (1/150)

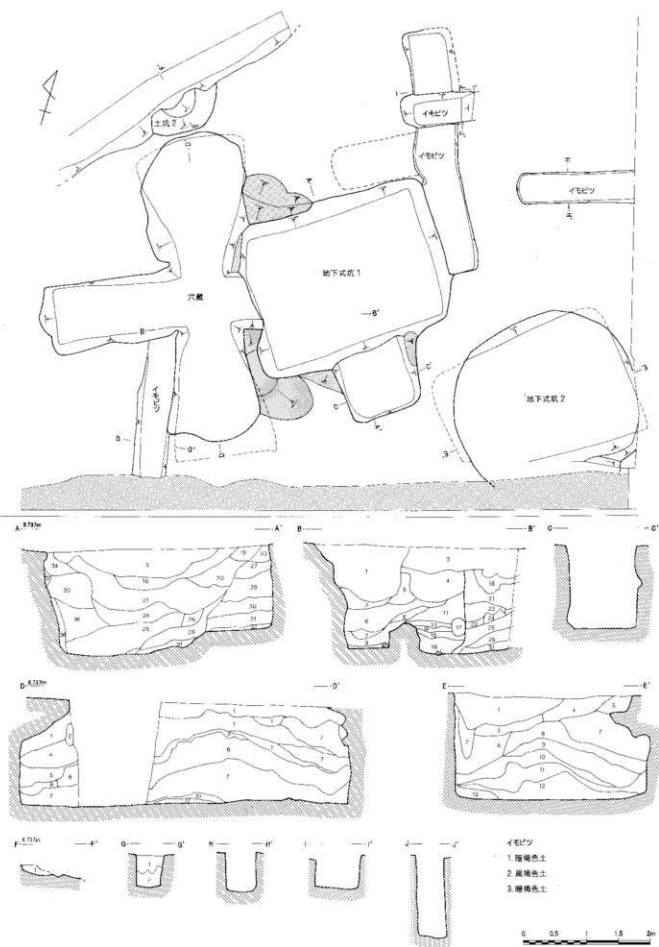
### III 川崎遺跡第24地点

調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年8月23日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側に位置し、現在の新河岸川から約70m離れている。

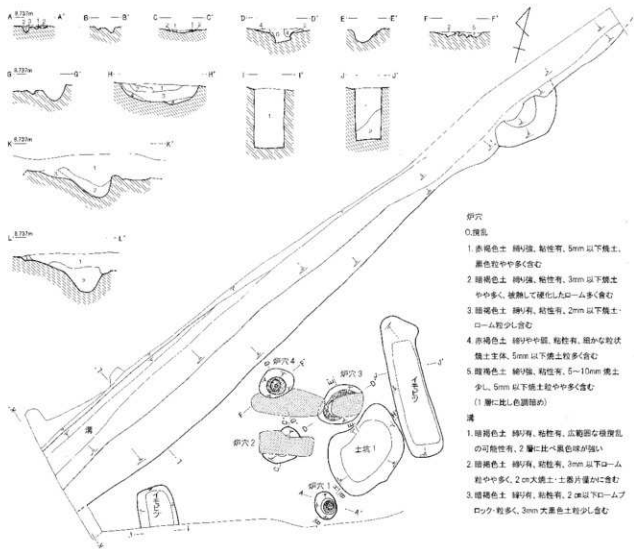
試掘調査は同年10月4日に行なった。幅約1mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査区の地山面は南から北に傾斜しており、調査区南側ではローム層が確認できたが、北側では茶褐色土

の地山層であった。トレンチ2の中央部付近で隅丸方形の黒色土プランを確認し、また同トレンチ内の4m北側で円形と溝状プランを確認した。堆積土の状況から遺構の可能性も考えられる。出土遺物は方形プラン上の表土層から磨滅著しい土器器片数点が出土している。黒色プランの確認面からの深さは90~130cmで、建築予定建物の基礎の深さより30cm以上の保護層が確保されるため、開発においては慎重工事の措置をとり、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。



第7図 川崎遺跡第22地点地下式坑1・2、穴蔵・土坑 (1/60)



伊穴

0. 焼丸

1. 赤褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土、黒色粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土やや多く、焼熱して硬化したローム多量含む
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下焼土・ローム粒少し含む
4. 赤褐色土 締りやや弱、粘粒有、細かな粒状焼土主体、5mm以下焼土粒多く含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、5-10mm焼土少し、5mm以下焼土粒やや多く含む  
(1層に比し色調暗め)

溝

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、広範囲な硬焼丸の可能性有、2層に比し色調暗めが強い
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、2cm大焼土・土蓋片量が多い含む
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック多量、3mm大黒色土粒少し含む

土坑1

1. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、5-30mmロームブロック、5mm以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5-15mmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く、12cm以下大型の片層多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体ソフロームにハードロームブロック混入、黒褐色土層干渉入

土坑2

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下ロームブロック粒多く、3mm大黒色土粒少し含む

地下式坑1・穴底

1. 黒一暗褐色土 締り有、粘性有、炭灰物比較的多く、ビニール、陶磁器類含む
2. 黒一暗褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム粒主体
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、ソフローム土やや多く含む黒色味、植物灰入る

4. 黒一暗褐色土 締り有、粘性有
5. 黒一暗褐色土 締り有、粘性有
6. 黒一暗褐色土 締り有、粘性やや弱
7. ローム土 締り強、粘性有、暗褐色土を少し含む、天部崩落層と考えられる
8. 暗褐色土 締り有、粘性有、2層に比した質
9. 黒褐色土 締り有、粘性有
10. 黒褐色土 締り強、粘性有
11. ローム土 締りやや弱、粘性有
12. 黒褐色土 締り有、粘性有
13. 黒褐色土 締り有、粘性有
14. ローム土 締り有、粘性やや弱
15. 黒褐色土 締り有、粘性有
16. 暗褐色土ベース 締り有、粘性有
17. ローム土主体 締り強、粘性有
18. 黒一暗褐色土 締り有、粘性有
19. 黒褐色土 締り有、粘性有
20. 黒褐色土 締り有、粘性有
21. 黒褐色土 締り有、粘性有
22. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱
23. 黒褐色土 締り有、粘性有
24. 黒褐色土 締り有、粘性有
25. ローム土 締り有、粘性有

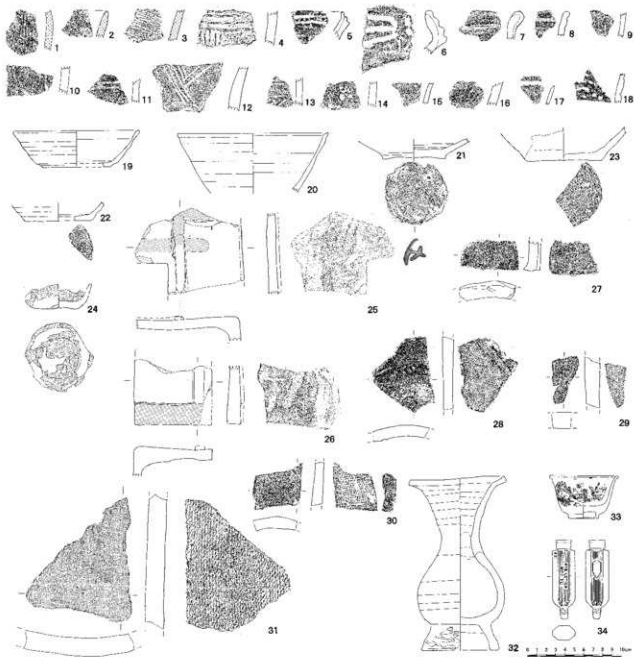
26. 暗褐色土 締り有、粘性有
27. ローム土 締り強、粘性有
28. 暗褐色土 締り有、粘性有
29. 暗褐色土 締り強、粘性有
30. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱
31. ローム土 締り強、粘性有、取つたようロームの散在な堆積
32. 黒褐色土 締り強、粘性有
33. 暗褐色土 締り有、粘性有
34. 暗褐色土 締り有、粘性有
35. ソフローム主体 締り有、粘性有
36. ソフローム主体 締り有、粘性やや弱
37. ソフローム主体 締り有、粘性有
38. ハードローム 締り強、粘性有、追加に比し、ハードローム主体の固な堆積

地下式坑2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有
2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱
3. 黒褐色土 締り強、粘性有
4. 暗褐色土 締り強、粘性有
5. 黒褐色土 締り強、粘性有
6. 暗褐色土 締り強、粘性有
7. 暗褐色土 締り強、粘性有
8. 暗褐色土 締り強、粘性有
9. 暗褐色土 締り強、粘性有
10. 黒褐色土 締り強、粘性有
11. ローム土主体 締り強、粘性有
12. 黒褐色土 締り強、粘性有
13. ロームブロック主体 締りやや弱、粘性やや弱



第8図 川崎遺跡第22地点伊穴・土坑・溝 (1/60)



第9図 川崎遺跡第22地点出土遺物 (1/4)

第11表 川崎遺跡第22地点出土遺物観察表

No.	出土遺物名	種別・器種	単位cm・ <small>口径・底径・ 高さ・厚さ</small> 括弧付きは残存値	技法・文様・その他	推定産地	推定年代	残存・備考
19	地下式 墳2	須恵器/環	(13.4) (8.4) 3.9	黄褐色/轆轤成形/底部回転糸切り/2mm以下砂粒少量含む	-	9世紀~	1/3
20		須恵器/環	(16.0) - (6.0)	青灰色/轆轤成形/2mm以下砂粒少量含む	南比企	8~9世紀	口縁~体部
21	地下式 墳2	須恵器/皿	- 6.5 (2.1)	灰サリ~アセ/轆轤成形/底部回転糸切り/4mm以下砂粒少量含む、底部彫彫有(「土」?)程度不明	東金子	9世紀	底部
22		須恵器/環	- (8.0) (2.0)	灰白色/轆轤成形/底部回転糸切り/3mm以下砂粒少量含む	東金子	-	底部
23	地下式 墳2	須恵器/鉢	- (7.6) (3.5)	にぶい褐色/轆轤成形/底部回転糸切り/2mm以下砂粒少量含む	-	-	底部1/4
24		土器/かわらけ	(7.2) 4.4 2.6	にぶい褐色/轆轤成形/底部回転糸切り・板状圧痕有り、体部丸味有り、内外面扉着	在地	14世紀	3/4
25	地下式 墳2	土製品/瓦塔	(9) (11.4) (1~1.7)	浅褐色/粘土板作/土師質/初輪部、四立柱・長押・面貫貼付	-	9世紀	初輪部片
26		土製品/瓦塔	(6.8) 8.3 (6.9)	にぶい黄褐色/粘土板作/土師質/基壇~初輪部、四立柱貼付	-	9世紀	-
27	地下式 墳1	瓦/丸瓦	(3.7) (8) (1.2~1.8)	暗灰黄色/粘土継作り/須恵質/広端面撫で、凸面自然補付着、凹面布目・縄正痕有り	-	9世紀	広端部片
28		瓦/丸瓦	(8) (6.2) (1.1~1.4)	暗灰黄色/須恵質/凸面撫で、凹面布目	-	9世紀	小破片
29	地下式 墳2	瓦/丸瓦	(5.6) (2.9) (1.6~1.7)	暗灰黄色/須恵質/凸面撫で、凹面布目	-	9世紀	小破片
30		瓦/丸瓦	(5.6) (5) (1~1.4)	にぶい黄褐色/粘土継作り/須恵質/側面・凸面撫で、凹面布目	-	9世紀	広端部片
31	穴蔵	瓦/平瓦	(13) (11.2) (1.7~2.1)	にぶい黄褐色/一枚作り/須恵質/凸面撫目、凹面布目	-	9世紀	中形破片
32		陶器/花瓶/尊式花瓶	10.4 8.2 18.4	轆轤/灰粘・付高台	瀬戸	14世紀中葉	完形
33	穴蔵	磁器/杯/碗/彩杯	7.3 3.1 4.5	轆轤/銅胎染付松竹梅宝文	-	1800年代以降	4.5
34		ガラス製品/日傘瓶	8.3 2.4 1.5	型吹き/スクルー輪/陽刺[EYE LOTION ROHITO][SHI]鉄	-	1900~1940年代	完形

## 第5章 上福岡貝塚の調査

### I 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、武蔵野台地北東部の標高16.0～17.0mに位置する。台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。遺跡をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。南側にはかつて新河岸川に流れ込む小河川が東流し、河川が形成した立川段丘面に緩やかに傾斜する。周辺の遺跡は、北側に縄文時代前期集落の川崎遺跡と中期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。上福岡貝塚は1917年に安部立郎氏により紹介され、学史に残る著名な遺跡として世間に広く知れたのは、1937（昭和12）年の山内清男、関野克岡博士による発掘調査と調査成果をもとにした研究報告等の功績によることは周知のとおりである。この調査で縄文時代の貝層を伴う住居跡24軒の内8軒を検出、古墳時代とみられる住居跡（竈跡）6軒、古墳4基も確認している。1992年奈良国立文化財研究所から、1994年・1999年には上福岡市教育委員会から上福岡貝塚に関する報告書と市史が刊行されている。

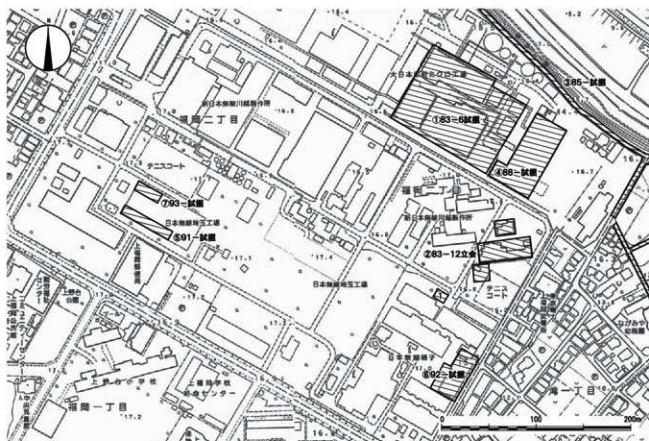
### II 上福岡貝塚第1地点

#### （1）調査の概要

調査は変電設備を格納する建物の増設に伴うもので、原因者より2007年4月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は遺跡範囲の南東部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年4月26日から、開発区域北側部分の5.5×11mを重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。表土除去の重機は、原因者の新日本無線様のご好意により提供を受けた。試掘調査の結果、縄文時代前期の貝層を伴う住居跡2軒・縄文時代の集石土坑1基・時期不明の堀跡1本の他、旧日本陸軍の造兵廠東京工廠福岡工場（以下火工廠）の遺構等を確認した。住居跡等の遺構は西側と南側に延びていた。確認面までの深さは70～100cmであるが、掘削・地盤改良が地表面下180cmに及び遺跡に影響を与える為、2007年5月21日から6月12日まで本調査を行なった。本調査の成果は、第II部第2章に掲載した。



第10図 上福岡貝塚の地形と調査区 (1/4,000)



## (2) 遺構と遺物

## ①水溜


調査区の中央部でコンクリート製の水溜を検出した。平面は円形で、円筒型を呈し西側の上部に幅12cm、深さ6.7cmの凹状の受けを設ける。水溜本体の規模は、上面外径2.73~2.8m、内径2.45~2.55m、上面から底部内面までの深さは1.982mである。側面外壁にはコンクリート成形時の木枠痕が残る、コンクリート内部には直径約10mmの鉄筋が多数使用されている。水溜を埋設する為の掘り方は、直径約3.8mのほぼ円形を呈する。







水溜の周辺にはコンクリート製の防護柵を埋設するためのピット（本来6本有）が4基（P1~4）検出された。規模は第12表のとおりである。

## ②不凍消火栓・配水管

調査区内南西部の壁沿いに、南西から北東に延びる配水管とそれに接続する消火栓を検出した。

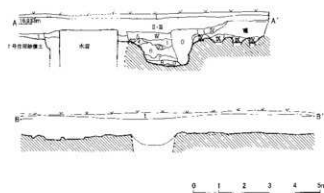
1は鉄製の地上式双口型不凍消火栓本体である。ほぼ完形であるが、消火栓角ボックスハンドル（上部を回すハンドル）、口元キャップ（放水口のカバー）、キャ

ップを本体に繋ぐ鎖等はみられない。正面に、「特許」「自動 不凍消火栓」の刻印がみられる。双口の間に黒色の文字らしきものが見られるが判読出来ない。

2は鉄製配水管で、外径120mm・内径100mm、長さは調査区外へと延びており不明である。配水管外面と接合部らしき部分の2ヶ所に「100×100=250 昭和十三年」と「100×100=250 昭和十三年 〆才」の刻印がある。また本管と消火栓を結ぶ乙型継手管部分には「100×90 昭和十二年 〆才」の刻印がある。本体中央部2ヶ所のフランジと、本管と乙型継手管を結ぶフランジは4ヶ所のボルトで固定されている。「CEC」は、(株)建設工業社の社章で、現在も消防設備を取り扱われている。

第12表 上福岡貝塚第1地点水溜ピット一覧表

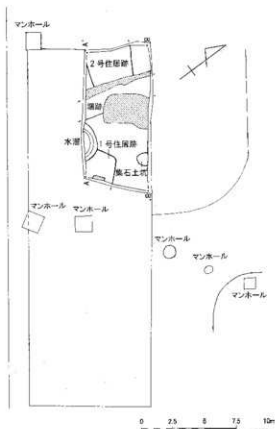
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	(48)	(36)	66	
2	楕円形	57	52	37.8	
3	円形	(55)~75	(50)~58	52.3	
4	円形	68~75	48~52	56.3	



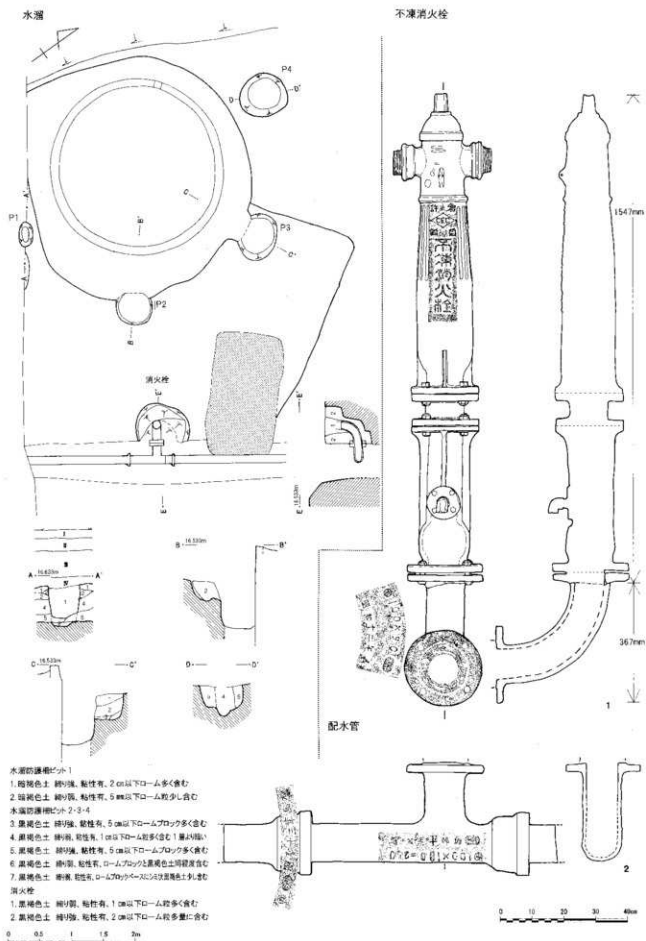
- I 現状土 粘重砂利砕石  
 II ローム主体腐土(戦後の築土に黒色土含む)  
 III 黒色土主体腐土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム多量含む  
 IV 黒色土主体腐土 粘り弱、粘性有、1cm以下ローム少し含む  
 V 黒褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ローム多量含む  
 VI 黒色土 粘り中程度、粘性有、2cm以下ローム粒多、減少し含む  
 VII 黒色土 粘り中程度、粘性有、1cm以下ローム多く含む  
 VIII 黒色土 粘り弱、粘性有、2cm以下ローム粒多く含む  
 IX 黒色土+緑褐色土 粘り強、粘性有、ローム土と黒色土を現状に含む(旧耕作土)  
 X 黒褐色土 粘り強、粘性有、10cm大シロウツワローム、ローム粒もシロウツワに減少し含む

## O 埋土

- 1 黒色土 粘り強、粘性有、2mm大ローム粒少し、1mm以下ローム粒多量含む  
 2 黒色土 〇層ベースでややローム粒少ない、本層底か?  
 3 黒色土 2mm大ローム粒少し、1mm以下ローム粒 1層程度含む  
 4 黒褐色土 3層よりやや弱、ローム粒粒面程度含む  
 5 黒褐色土 シロウツワ黒褐色土含む、ローム粒ほとんど含まない  
 6 黒褐色土 3mm以下ローム粒多量含む  
 7 黒褐色土+褐色土 黒褐色土ベースに 5mm以下ローム粒多量含む、〇層よりローム粒多い  
 8 褐色土 灰化ロームが、ほぼ地山ロームブロック  
 9 黒褐色土 ロームブロック(III O IIブロック)



第11図 上福岡貝塚第1地点試掘調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)



第12図 上福岡貝塚第1地点水溜・不凍消火栓・配水管 (1/60・1/12)

## 第6章 滝遺跡の調査

### I 滝の立地と環境

滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出した武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中・近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺

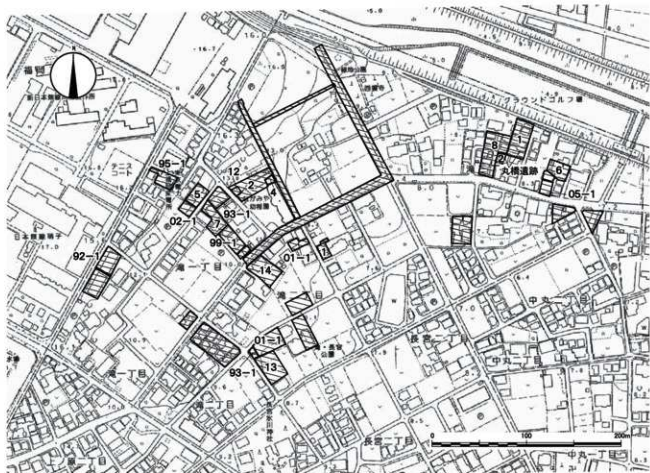
跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来21ヶ所調査が行なわれている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査(1)は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。

### II 滝遺跡第13地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の外側に位置するが、申請者と協議の結果、遺跡範囲を確

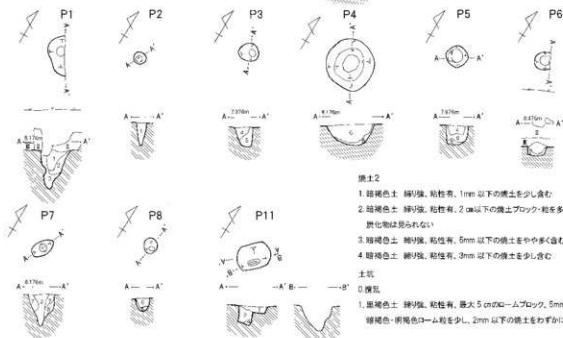
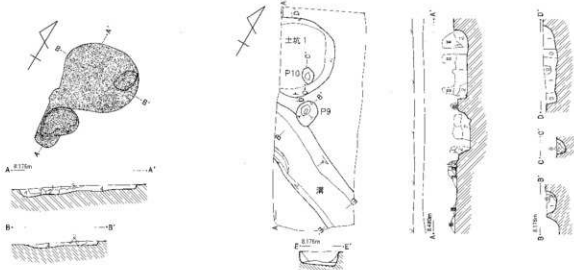


第13図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



## 焼土 2

## 土坑 1, P9-10, 溝



## 溝 (A-A')

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm以下の暗褐色ロームブロック粒をやや多く、2mm以下の焼土をわずかに含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、最大70mm、平均15mm以下の暗褐色ロームブロック、明黄褐色ロームブロックをやや多く、2mm以下のローム粒を少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm以下のロームブロック粒をシロ状に多く含む、15~50mmの黒色土ブロックも少し含む

## 溝 (E-E')

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下のローム粒を少し、1mm以下の焼土を僅かに含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック粒をやや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム分を多く含む。10mm以下の明黄褐色ロームブロック粒をやや多く含む

## 土坑 2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下の焼土を少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下の焼土ブロック粒を多く含むが炭化物は見られない
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下の焼土をやや多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下の焼土を少し含む

## 土坑

## D探穴

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大5cmのロームブロック、5mm以下の暗褐色・明褐色ローム粒を少し、2mm以下の焼土をわずかに含む

## ピット 1~5, 7, 8, 10

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下の暗褐色ロームブロックを少し、5mm以下の焼土を僅かに含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック粒を少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ロームブロック粒を多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下のローム粒を少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ローム土を含み、茶褐色粒がある
6. 黒色土 締り強、粘性有、3cm以下のシロ状の暗褐色土ブロックを少し含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下の明黄褐色ローム粒を少し含む
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム分を多く、黒褐色土をシロ状に少し含む

## ピット 6

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下の焼土を比較的多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、含有物少ない

## ピット 9

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下のシロ状ローム粒と1mm以下の焼土を少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム分を多く含む、1cm以下のロームブロックを少し含む

## ピット 11

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下のローム粒を少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下のロームブロック粒を多く含む
3. 黒褐色土ベース 黄灰色のロームブロック主体



第15図 滝遺跡第13地点焼土・土坑・ピット・溝 (1/60)



## 第7章 長宮遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

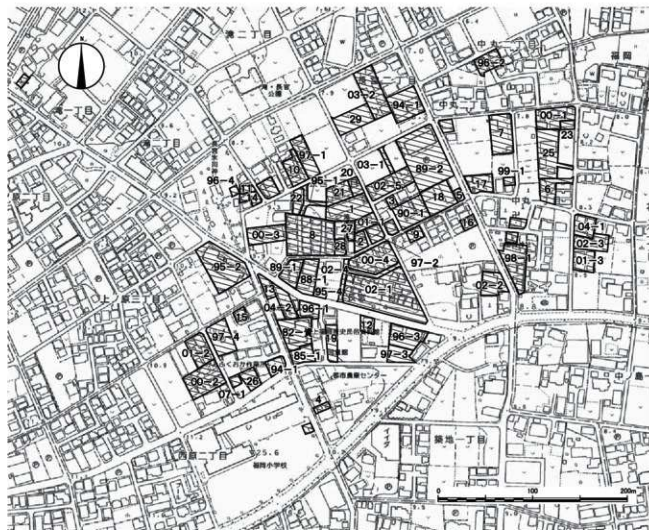
遺跡の西方には長宮永川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安

時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中・近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2007年11月現在69ヶ所で調査を行なっている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮永川神社参道に関係のある溝跡などである。

### II 長宮遺跡第27地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年4月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、西側に隣接する8次調査区では中世から近



第17図 長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

世の屋敷地とみられる遺構群と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月30・31日に行なった。現地表面下約90cmにおいて時期不明の溝

を確認したが、工事による掘削は現地表面下35cmであり、30cm以上の保護層が設けられるため、工事立会いの措置をとることとし、写真撮影・構測量等記録保存を行なったうえ埋戻し、調査を終了した。

第15表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (日)	面積 (㎡)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収 報告書
1次	長宮2-1-23	1977.10.3 ~9	1,000	保存調査	溝3、土坑48、柱穴	川崎昭(編) 中丸-試掘記録
2次	長宮2-1-27	1978.4.25 ~5.15	235	民間宅地	溝2、土坑1、石敷、板碑、 碇石、古瓦、陶器、角弁	堀(1)
3次	長宮2-5-11	1978.7.24 ~30	111	民間宅地	土坑1	堀(1)
4次	長宮1-1-14	1978.10.6 ~9	37		住居跡1、土御器、須 磨器、土製品	堀(1)
5次	長宮2-5-2	1979.4.16 ~22	110		縄文前期住居1、縄文 土器片	堀(Ⅱ)(Ⅲ)
6次	中丸1-4-13	1980.4.21 ~30	515		遺構なし、中世以降陶 器片	堀(Ⅲ)
7次	中丸1-3-6	1980.5.13 ~31	869		溝、井戸跡、縄文土 器、中世以降陶器片	堀(Ⅲ)
8次	長宮2-1-10 13	1980.9.8 ~10.8	1,900	宅地造成	中世溝、古瓦、土坑、板 碑、碇石、角礎石、古瓦、角 礎石	遺跡1編
9次	長宮1-4-10	1980.9.21 ~30	200		遺構なし、中世以降陶 器片	堀(Ⅲ)
10次	長宮2-3-4	1980.12.5 ~15	485		溝、土坑遺、縄文前期土 器片、中世以降古瓦・角 礎石	堀(Ⅲ)
11次	長宮2-2-10	1980.12.16 ~22	117		溝、縄文土器片、中世 以降陶器	堀(Ⅲ)
12次	長宮1-2-7	1981.5.26 ~30	160		溝1、中世陶器片、縄 文土器片	堀(Ⅳ)
13次	長宮1-2-13	1981.6.3 ~11	251		遺構なし、中世陶器 片	堀(Ⅳ)
1982 試掘	長宮1-2-12 (?)	(?)	1,000	歴史民俗 資料館	溝2	57年報 39年度版①
14次	長宮2-2-1	1985.9.24 ~27	156		個人住居	堀(Ⅴ)
15次	西原2-5-8	1985.10.22 ~31	116		なし	堀(Ⅴ)
1985 試掘	長宮1-2-11	(1986.3.6 ~15)	400	学童保育	溝2	60年報
16次	長宮1-4-7	1986.6.9 ~17	173		個人住居	堀(Ⅵ)
17次	中丸1-3-11	1987.6.19 ~30	504		個人住居	堀(Ⅶ)
1988 試掘	長宮1-3-8	(1988.9.13 ~16)	637	住宅建設	なし	堀(Ⅷ)
1989 ①	長宮1-3-9	(9.20~30)	448	住宅建設	なし	堀(Ⅷ)
1989 ②	長宮2-5-19	(1989.11.14 ~24)	1,778	住宅建設	なし	堀(Ⅷ)
1990 試掘	長宮2-5-4	(1990.11.27 ~30)	919	共同住居	なし	堀(Ⅷ)
18次	長宮2-5-3	1992.10.6 ~12.2	925	共同住居	縄文前期住居1、中世供 養所跡、溝5	堀(Ⅷ)
19次	長宮 1-2-21.35	1993.12.17 ~28	467	駐車場	古墳末期住居跡1	堀(Ⅷ)
1993 長宮2-4-2の 一部	(1994.2.10 ~8.2)	1,502	共同住居	溝2、土坑1、中世後期 板碑	5年報	
1994 試掘	西原2-5-1	(1994.7.25 ~8.2)	314	心身障害者 フットボール場	掘削面形跡1	堀(Ⅷ)
20次	長宮2-1-22の 一部	1995.4.10 ~5.9	170		個人住居	堀(Ⅷ)
21次	長宮 2-1-43.65	(1995.6.19 ~8.8)	361		個人住居	堀(Ⅷ)
1995 ①	長宮2-1-209	(1995.8.9 ~28)	421	市道建設	なし	堀(Ⅷ)
1995 ②	上ノ原3-1-6 外4庫	(1995.10.4 ~12)	1,528	共同住居	溝1	堀(Ⅷ)
1995 ③	長宮2-1-40	(1995.10.23 ~25)	289	駐車場	中世後期1、井戸4	堀(Ⅷ)
22次	長宮2-1-40	1995.10.27 ~11.9	209	駐車場	中世後期井戸跡4、溝1、 溝跡、板碑跡、かまわら	遺跡6編
1995 ④	長宮1-3-13	(1995.12.12 ~25)	120	駐車場	なし	堀(Ⅷ)
1996 ①	長宮1-2-16	(1996.7.12 ~18)	349	宅地造成	なし	堀(Ⅷ)
1996 ②	中丸2-2-9 他3庫	(1996.11.7)	568	宅地造成	なし	堀(Ⅷ)
1996 ③	長宮1-2-4	(1997.1.14 ~21)	794	共同住居	古墳~奈良住居1	堀(Ⅷ)
1996 ④	長宮2-2-4	(1997.2.20)	265	社務所改 築	なし	8年報
1997 ①	長宮2-3-3	(1997.4.8 ~9)	611	墓地天地 返し	溝1(時期不明)	堀(Ⅷ)
1997 ②	長宮2-1-2	(1997.4.9 ~11)	289	個人住居	土坑1(時期不明)	堀(Ⅷ)
1997 ③	長宮1-2-36.37	(1997.6.4 ~5)	423	駐車場	溝1	堀(Ⅷ)
1997 ④	西原2-5-6	(1997.8.15 ~21)	733	駐車場	中世後期穴状遺構1	堀(Ⅷ)
1998 試掘	中丸1-2-4	(1998.11.24 ~27)	1,014	宅地造成	なし	堀(Ⅷ)
1999 試掘	中丸1-3-12	(1999.11.8 ~16)	98	個人住居	溝1、縄文前期集石2	堀(Ⅷ)
2000 ①	中丸1-4-7	(2000.7.4 ~11)	802	宅地造成	縄文前期(岡山期)住 居跡5、土坑13	堀(Ⅷ)
2000 ②	西原2-4-8.10	(2000.7.17 ~24)	1,081	宅地造成	なし	堀(Ⅷ)
2000 ③	長宮2-1-17	(2000.8.21 ~23)	687	共同住居	なし	堀(Ⅷ)
2000 ④	長宮 1-3-3A.4A	(2001.1.17 ~25)	1,119	宅地造成	近世以降土坑1	堀(Ⅷ)
2001 試掘	中丸1-4-7	2001.7.18 ~26	137	個人住居	土坑6(縄文早期後葉1、 縄文前期4、近世以降1)	堀(Ⅷ)
2001 ①	長宮2-1-3	(2001.4.20 ~24)	330	個人住居	なし	堀(Ⅷ)
2001 ②	西原2-4-7	(2001.5.25)	634	共同住居	なし	堀(Ⅷ)
2001 ③	中丸1-1-3	(2001.8.7 ~24)	513	共同住居	道路状遺構1、縄文前 期土坑1	堀(Ⅷ)
2001 ④	長宮2-8-6	(2001.11.6)	130	個人住居	なし	13年報
2002 ①	長宮1-3-2-5	(2002.6.5 ~11)	3,536	宅地造成	住居跡2【盛土保存】	堀(Ⅷ)
2002 ②	長宮1-4-3	(2002.6.20 ~7.2)	575	確認調査	住居跡2、溝2	堀(Ⅷ)
2002 ③	中丸1-1-5	(2002.9.3 ~11)	622	宅地造成	道路状遺構1	堀(Ⅷ)
2002 ④	長宮1-3-31	(2002.9.20 ~25)	362	個人住居	溝1	堀(Ⅷ)
204次	長宮1-4-3	2003.1.30 ~2.14	72	個人住居	住居跡2	14年報
2003 ①	長宮2-5-6	(2003.3.10 ~12)	82	宅地造成	住居跡1【盛土保存】	14年報
2003 ②	長宮 2-5-30.32	(2003.9.16)	197	区画道路	なし	堀(Ⅷ)
2003 ③	長宮2-4-7	(2003.12.16 ~18)	1,123	宅地造成	井戸跡1	堀(Ⅷ)
2004 ①	中丸1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	なし	堀(Ⅷ)
2004 ②	長宮1-2-15	(2004.12.7 ~9)	466	墓地改良	なし	堀(Ⅷ)
25	中丸1-4-8	(2007.2.15 ~16)	1,161	個人住居	縄文遺構検出	市内3
26	西原2-5-2の 一部	(2007.3.28)	394	個人住居		市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30 ~31)	175	個人住居		市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31) 4.3 20.66-2	188	個人住居		市内4
工事 2次①	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住居	保護層有り、遺構遺 物なし	市内4
29	長宮2-4-6の 一部	(2007.11.20 ~12.5)	618	共同住居		市内4

※堀=縄文文化財の調査、遺跡=遺跡調査報告書、教=教育要覧、市内=市内道路等



## Ⅲ 長宮遺跡第28地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年5月24日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、西側に隣接する8次調査区では中世から近世の遺構群と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月31日から6月5日まで行なった。残土置き場の関係から調査区を南北に分け、初めに北側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。北側調査区の試掘調査で、井戸・土坑・ピットなどの遺構が確認されたため、申請者と協議の結果、本調査を行なうこととした。

本調査は翌日6月6日から22日まで、調査区を南北に分けて行ない、井戸5基、土坑10基、ピット13基を検出、陶磁器などの遺物多数が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

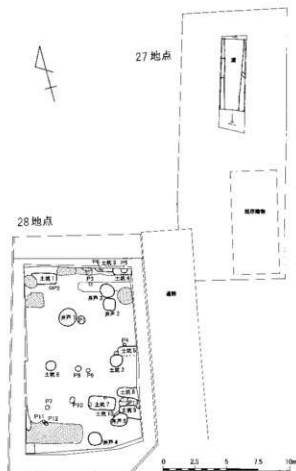
## (2) 遺構と遺物

## ①土坑・ピット

土坑10基、ピット13基を検出したが、土層の観察から全て中・近世以降の時期とみられる。

第16表 長宮遺跡第28地点土坑・ピット一覧表

(単位cm)				
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
土坑1	長方形	(203)×89	(152)×64	87.3
土坑2	円形	103×88	30×30	64.6
土坑3	不明	(150×25)	(96×17)	19.6
土坑4	不明	(137×46)	(128×40)	48
土坑5	不明	(146×92)	(130×93)	14.1
土坑6	円形	87×76	65×63	21.3
土坑7	長方形	214×111	186×86	22.5
土坑8	長方形	(166)×87	(158)×75	16.7
土坑9	長方形	(168)×102	(156)×87	24.2
土坑10	不明	68×(18)	65×(8)	22.0
P1	円形	58×56	36×33	62.4
P2	円形	23×17	8×4	56
P3	楕円形	(27)×20	9×6	45.8
P4	楕円形	31×20	10×2	47.7
P5	不明	49×(30)	(19)×33	42.2
P6	不明	(18)×25	12×9	44.8
P7	方形	38×35	26×24	28.8
P8	円形	51×46	35×21	26
P9	円形	28×26	17×5	31.8
P10	楕円形	58×35	25×20	34.8
P11	円形	(24)×20	11×7	32.5
P12	円形	25×23	14×7	21.9
P13	不明	58×(-)	45×(-)	13.7



第18図 長宮遺跡第27・28地点遺構配置図 (1/300)

## ②井戸

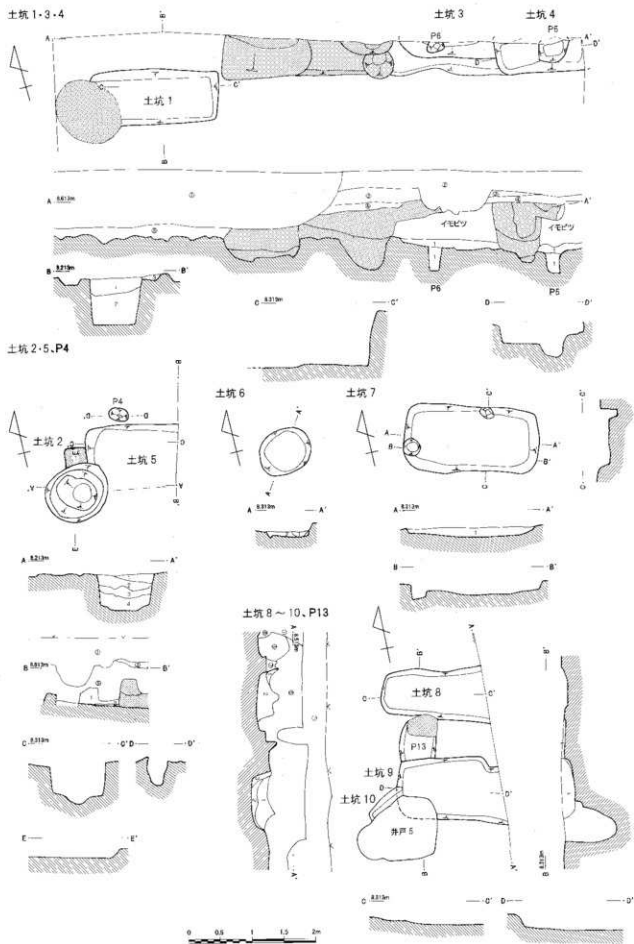
井戸は5基検出し、全て素掘りである。井戸1・2には足掛け穴があり、井戸5は上部が舌状に開く。

第17表 長宮遺跡第28地点井戸一覧表 (単位cm)

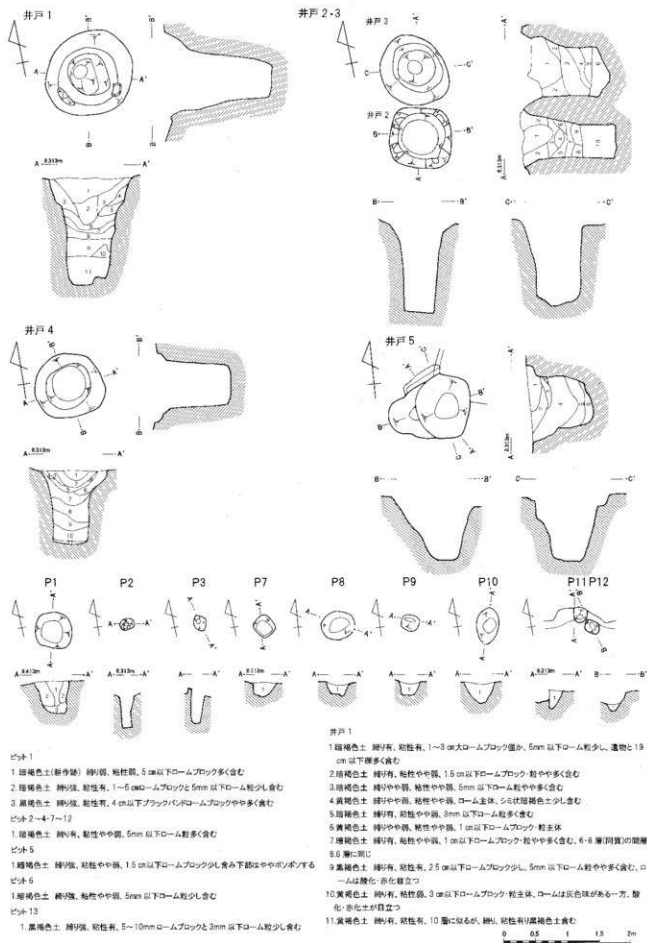
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
井戸1	円形	145×132	55×40	175	足掛け穴2
井戸2	円形	98×95	58×55	157	足掛け穴4
井戸3	円形	120×100	59×58	140	
井戸4	円形	108×103	53×52	124	
井戸5	不整形	134×103	40×40	109	舌状に開く

## ③出土遺物

井戸1・3からややまとまった遺物が出土している。近世以降の陶磁器などが含まれないことから、15世紀後半以降の時期と考えられる。その他は遺構外出土のもので、第18表長宮遺跡第28地点出土遺物観察表のとおりである。



第19図 長宮遺跡第28地点土坑・ピット① (1/60)



第20図 長宮遺跡第28地点井戸・ピット② (1/60)

長宮遺跡遺構土層説明

井戸 2

1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、2 cm以下ロームブロック少し5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、ローム主体で2 cm以下ロームブロック少し含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多量含む黒褐色土を含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒多量含む3層に比し色調暗く硬く固め
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム土、粒主体、3 cm以下ロームブロック少し含む全体に灰色変味
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
7. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く含む
8. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒主体、酸化・炭化目立つ
9. 黒褐色土 締り有、粘性有、2 cm以下ロームブロック5mm以下ローム粒少し含む
10. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム粒主体3 cm以下ロームブロック少し含む、酸化・炭化色目立つ

井戸 3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、8 cm以下ロームブロック主体
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味強い、7 cm以下ロームブロックやや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 cmスロームブロック少し含む
4. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5 cm以下ロームブロック多く含む2層に転る
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、湿入物少ない、細かなローム塊状を含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、黄褐色・黄灰色のソフトロームブロック主体の薄い層が上部、下部は4 cm以下ロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む、濃緑土出土

井戸 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色ロームブロック主体で濃密な層様
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、最大5 cmのロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm大ロームブロックと2mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム土主体
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、全体に黒色味が強い、5mm以下ローム粒やや多く含む
6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム粒主体、5~10mmロームブロック少し含む、最下部に褐色土の薄い層を挟む
7. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒やや多く、5~10mmロームブロック少し含む
8. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒主体5~20mmロームブロック・黒褐色土少し含む
9. 黒褐色土 締り有、粘性有、湿入物少し5mm大ロームブロック2mm以下ローム粒状を含む
10. 黒褐色土 締り有、粘性有、明黄色ローム粒多く含む、若干酸化が見られる
11. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒量を含む

井戸 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~30mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む、井戸5の北にある筋の層土
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、8 cm以下ロームブロック、1mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土ベースにソフトローム土主体 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒主体
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し1 cm以下ロームブロック量を含む、やや酸化が目立つ5層との層厚面に2 cm厚の薄いソフトロームを挟む
5. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、ソフトローム粒量を含む、やや酸化が目立つ
6. 黒褐色土 締りやや弱、粘性強、2mm以下ローム粒やや多く含む、やや酸化が目立つ

土坑 1

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、締り・粘性弱め、3.5 cm以下ロームブロック 粒やや多く含む、全体の色調は総括的に灰青色味がある
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、締り・粘性弱め、4 cm以下ロームブロックやや多く5mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土(新作層) 締り強、粘性有、2 cm以下ロームブロック多く含む、少し黒褐色土少し含む

土坑 2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大5mm平均2mm以下ローム粒少し褐色土粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調暗めの黒褐色土ブロックをシタ状に多く含む、ローム粒含まず酸化土粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、最大5mm、平均3mm以下ローム粒少し含む、3mm以下赤色酸化土粒多量を含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒比較的多くブロック化した黒褐色土多く、酸化土少し含む、逆に新黄褐色土が強く露出

土坑 3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む黒褐色強い

土坑 4

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色味が強い5mm以下ローム粒少し含む

土坑 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、4 cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土ベース 炭化有、2 cm以下ロームブロック 粒多く含む

土坑 6

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~15mmロームブロック少し2mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5~40mmロームブロックと2mm以下ローム粒少し含む

土坑 7

1. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、5~20mmロームブロックと3mm以下ローム粒多く含む、最下部はやや黄色味がある

土坑 8

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1~4 cmロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む、耕作で覆われた?層土の可能性有り

土坑 9

1. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5~30mmロームブロック、3mm以下ローム粒多く含む、5~25mm黒褐色土ブロック量が多量を含む

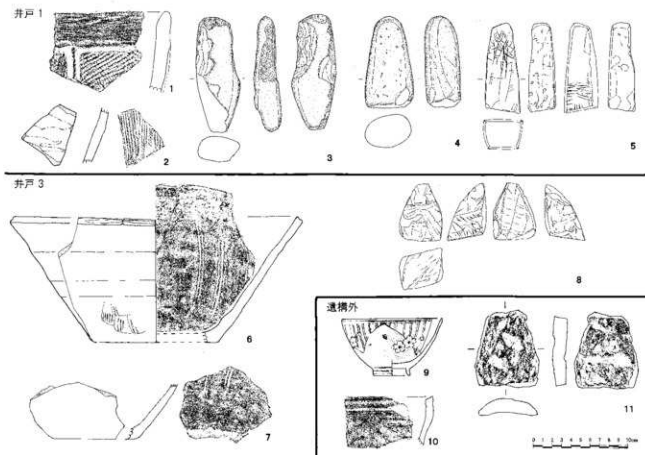
土坑 9

1. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5~40mmロームブロック3mm以下ローム粒多く含む
2. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、5~40mmロームブロック多く含む3mm以下ローム粒1層に比し少ない
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む、ロームブロック含まない
- ① 黒褐色土 締り有、粘性有、ロームブロック多く、タイル、薄層様の薄片含む
- ② 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック多く、灰汁色とブロック少し、ビニール含む
- ③ ローム主体層土 締り強、粘性有、10 cm以下層状含む
- ④ 灰色シタ土 締り強、粘性有、薄層様の薄片量が多く横状する
- ⑤ 黒褐色土 耕作土 締り有、粘性有、10 cm以下ロームブロックが散開層状に集中、2.5 cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く、炭化物量多含む
- ⑥ 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、5mm以下塊土・2 cm以下炭化物目立つ
- ⑦ 締り有、粘性やや弱、5~40mmロームブロック主体、最下部に黒く黒褐色土層様、何れかの筋の層土
- ⑧ 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、5~10mmロームブロック、3mm以下ローム粒多く、5mm大黒褐色土ブロック少し含む

第18表 長宮遺跡第28地点出土遺物観察表

(単位:cm)

No.	出土遺物名	種別・器種	単位:cm・g(括弧付きは検存数)				技法・文様・その他	推定産地	推定年代	備考
			口径・長さ	底径・幅・内径	高さ・厚さ	重量				
1	井戸1	縄文土器/深鉢	-	-	-	-	口唇部無文帯、面陰部の区間面磨り消し、区間内L形無文	-	加曽利E IV	
2	井戸1	陶器/深鉢	-	-	-	-	無文/磨面	瀬戸・美濃	-	破片
3	井戸1	磁石・磨石	12.1	4.5	2.6	308.03	石質:砂岩	-	-	縄文時代
4	井戸1	磁石・磨石	9.7	5.0	3.4	289.78	石質:安山岩	-	-	縄文時代
5	井戸1	石製品/砥石/中砥	9.6	3.6	2.7	141.31	石質:凝灰岩/凝り後数有	-	-	中・近世
6			-	-	-	-				
7	井戸3	瓦質土器/深鉢	(30.9)	(13.0)	(13.2)	-	無文/口唇部沈積/煤目2本単位/胎土:白色礫(片岩など)多い	在地系	15世紀後半	底部片、7と同一個体、口縁内の気流風通者、内外覆付着、6と同一個体
8	井戸3	石製品/砥石/中砥	6.0	4.5	3.6	120.8	石質:凝灰岩/砥面8面以上	-	中・近世	
9	遺構外	磁器/甕/1飯甕	10.6	4.0	6.0	-	無文/ゴム染染付桜花文	-	1930年代以降	表土
10	遺構外	瓦質土器/磨石	-	-	-	-	口唇部外縁上方へ突出、口縁内沈積	在地系	-	表土、破片
11	遺構外	石製品/板押/基部破片	(8.1)	(6.7)	(1.4)	137.71	石質:緑色片岩/ノミ痕有	-	中世	表土、破片



第21図 長宮遺跡第28地点出土遺物 (1/4)

## IV 長宮遺跡第29地点

## (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年9月15日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北部に位置し、西側の隣接地は2003年度に試掘調査を実施し溝と井戸を検出、板碑片や捏鉢等が出土している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を11月20日から12月3日まで実施した。幅約1～1.7mのトレンチ5本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。一部遺構の確認された部分の本調査を12月4日から行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。12月5日機材を撤収して調査を終了した。調査の結果、土坑1基、井戸2基、堀跡1本、溝5本、ピット10基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

## (2) 遺構と遺物

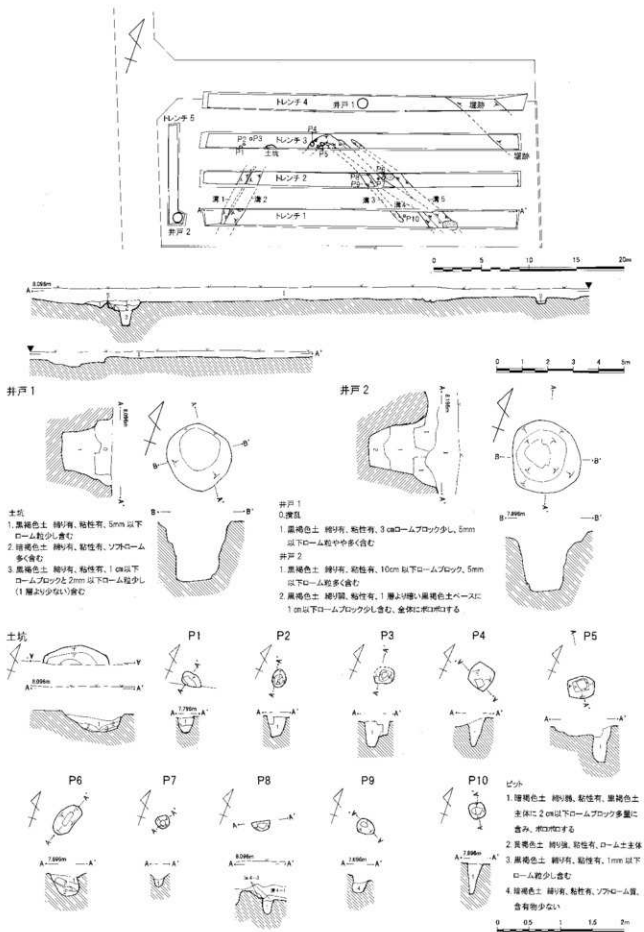
## ①土坑・ピット・井戸

土坑1基、井戸2基、堀跡1本、溝5本、ピット10基

を検出、土層の観察から全て古代以降の時期とみられる。

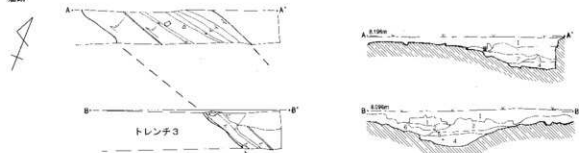
第19表 長宮遺跡第29地点土坑・ピット・井戸一覧表  
(単位:cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	(103×29)	(33×9)	34.6	
P1	不明	(35)×20	(15)×11	24.5	
P2	円形	29×22	11×6	48	
P3	円形	31×26	12×9	42	
P4	円形	39×38	15×12	48.9	
P5	方形	43×35	16×14	55.5	
P6	楕円形	55×30	25×7	3.3	
P7	円形	21×20	9×9	20.9	
P8	不明	30×(15)	15×8	32.2	
P9	円形	30×24	11×9	54.4	
P10	円形	29×27	12×10	51	
井戸1	円形	108×100	74×63	108.3	
井戸2	円形	116×107	45×40	95.4	

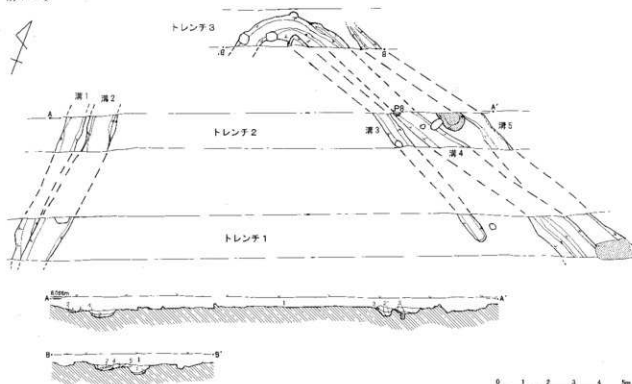


第22図 長宮遺跡第29地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、井戸・土坑・ピット (1/60)

## 堀跡



## 溝1～5



## 堀跡

- I 黒褐色土 粘り強、粘性有、黄土層作土
- II 黒褐色土ベース 粘り有、粘性弱、1cm以下ロームブロック主体、溝は3層を掘り込む
- III 黒褐色土 耕作痕
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mmローム粒多く、両炭化物粒少し含む、傾土はほとんど含まない
- 2 黒褐色土+層褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロックと1mm大ローム粒多く含む、1mm大炭土・炭化物粒少し含む
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、1層にほぼ同じだがややローム粒少ない
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、1層にほぼ同じだがややローム粒少ない、水性堆積又は水沈の跡、粘性強い
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性有、3層以下ローム粒少なく、4cm以下ロームブロックやや多く含む
- 6 黒褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、7cm以下ロームブロック粒を2層より多く含む広範囲に広がる溝1
- 1 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、5～10mmロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒多く含む
- 2 黒褐色土ベース 地盤に1層土が落ち込み、地山ロームがブロック状に落ちる(2トレンチ有り)
- 溝2
- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、3mm以下黄土・炭化物粒が黒褐色の酸化したブロック少し含む
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、やや白色化した4cm以下ロームブロック主体、9cm以下黒色土ブロック少し含む、ピント状の硬い砂に伴う
- 4 黒褐色土 粘り有、粘性有、5～10mmロームブロック少し、ソフローム粒多く含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性有、地山ハーロームに層褐色土混ざる、ブロック状にローム見える

## 溝3

- 1 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒均一にやや多く含む、黒色味強い
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、5～10mm割けたロームブロック多く、3mm以下ローム粒少し含む黒色味強い
- 2' 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く(1層より多)含む、1～5mm黄土が目立つ
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下ローム粒主体、2mm以下黄土やや多く、中央に黄土混ざりの黒褐色土層(2cm厚)を挟む

## 溝4

- 1 黒褐色土 粘り有、粘性有、5～20mmロームブロック多く3mm以下ローム粒やや多く含む
- 2 黒褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 3 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、5mm以下ローム粒多く含む全体の色調暗め
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、10mm以下のロームブロックをやや多く、2mm以下のローム粒を多く含む
- 5 黒褐色土 粘り強、粘性有、10mm大のロームブロックを少し、5mm以下のローム粒を多く含む

## 溝5

- 1 黒褐色土 粘り有、粘性有、ローム粒少し(レンジャー痕より少ない)、1cmロームブロック少し含む

## ②溝・堀跡

溝2は溝1より新しく、溝4は調査区中央部で屈曲する。堀跡は北側の第30地点に延びる。

第20表 長宮遺跡第29地点溝一覧表

(単位:cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
1	浅い「V」字状	62~74	42~33	12.8	
2	薬研状	92~117	62~87	34.7	
3	「U」字状	40~60	25~30	37.5	12m
4	浅い「U」字状	50~130	16~43	27.2	
5	浅い「U」字状	55~60	25~40	19	
堀跡	広い「V」字状	(3.2~3.4)	47~50	91.3	

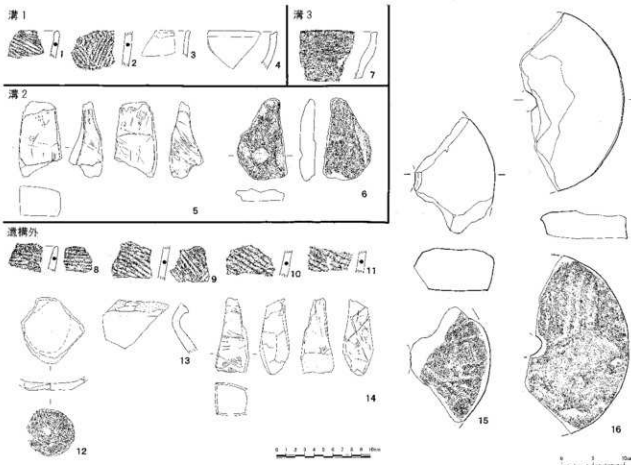
## ③出土遺物

出土遺物は全て遺構の覆土層より出土した。

1・8・9は縄文土器口縁部で表表面に貝殻条痕文を施し胎土に繊維を含む早期条痕文系土器である。2は単節LR、RLの羽状縄文、10・11は無節LR縄文を施し胎土に繊維を含む前期黑浜式土器である。その他の遺物については第21表長宮遺跡第29地点出土遺物観察表のとおりである。

第21表 長宮遺跡第29地点出土遺物観察表

No	出土遺構名	種別・器種	単位:cm・g (括弧付きは残存値)					技法・文様・その他	推定産地	推定年代
			口径・長さ	口径・幅・内径	高さ・厚さ	重量				
3	溝1	陶器/縁軸小皿	-	-	-	-	轆轤成形/灰軸	瀬戸美濃	15世紀後半~16世紀前半	
4	溝1	瓦質土器/埴輪	-	-	4.0	-	口唇部溝状	在地系	18世紀	
5	トレンチ2溝1	石製品/砥石	8.0	4.4	3.5	120.27	石質:凝灰岩	-	中・近世	
6	トレンチ2溝1	石製品/板碑	(8.6)	(5.1)	(1.6)	89.67	石質:緑色片岩	-	-	
7	トレンチ1溝3	瓦質土器/埴輪	-	-	5.2	-	口唇部溝状	在地系	17世紀	
12	トレンチ4	須恵器/環・転用硯?	-	4.4	(1.2)	-	轆轤成形、底部回転糸切り、内面磨り跡と僅かに墨痕?有り	東金子	9世紀	
13	トレンチ5	陶器/甕	-	-	5.1	-	自然軸	常滑	13世紀後半~14世紀	
14	トレンチ4	石製品/砥石	7.9	3.5	3.7	97.77	石質:凝灰岩	-	-	
15	トレンチ4	石製品/石臼/下臼	25.0	-	6.7	1,900	石質:砂岩・摩滅顕著	-	-	
16	トレンチ4	石製品/石臼/上臼	30.0	-	4.4	2,820	石質:砂岩・目欠損	-	-	



第24図 長宮遺跡第29地点出土遺物 (1/4・1/6)



## 第8章 亀居遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25～26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977年の最初の調査から2007年3月現在まで62地点で調査され、旧石器時代では立川ローム層の第ⅣからⅤ層直上にかけての石器集中4ヶ所と礫群2ヶ所を検出、縄文時代では中期前半の住居跡16軒、屋外埋壘2基、集石土坑99基、土坑とピット多数が確認されている。ただし第21・22地点は未調査である。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台土層期の土器片も出土している。

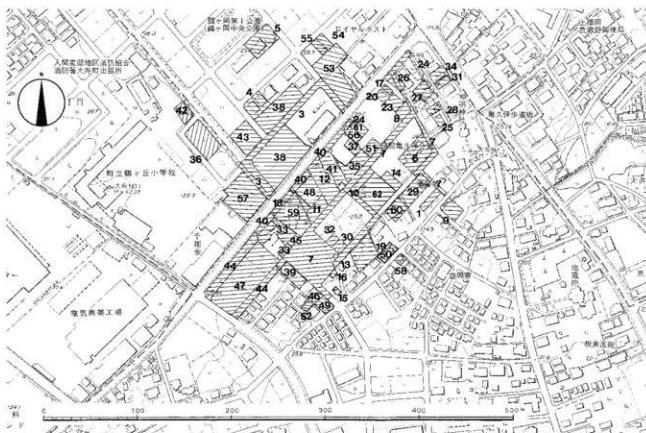
### II 亀居遺跡第62地点

#### (1) 調査の概要

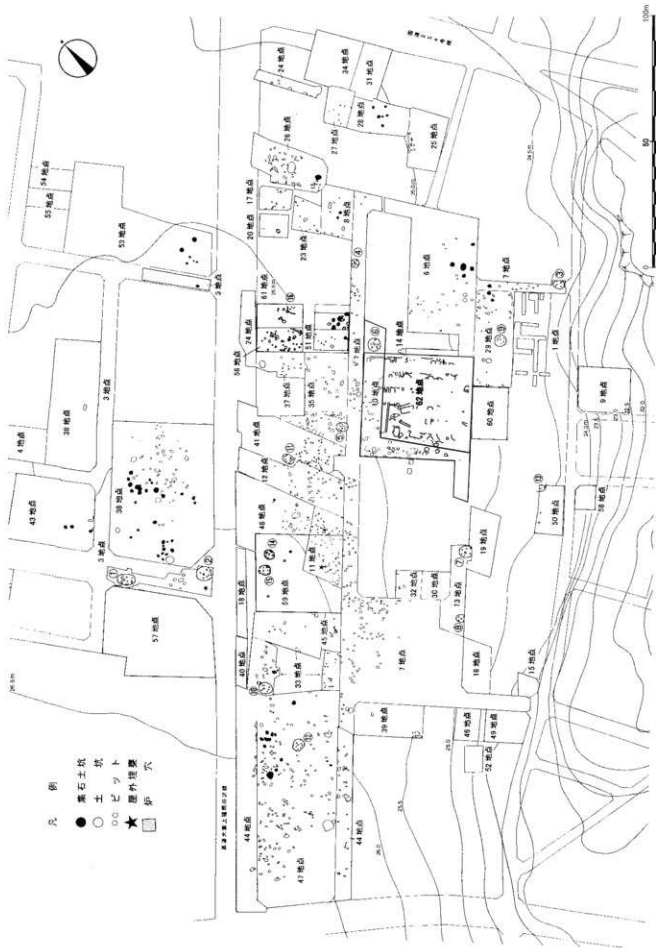
調査は共同住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年9月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し一部は第2・10地点の調査区と重なるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年11月12日から26日まで行なった。幅約2mのトレンチ8本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、土坑等の遺構と遺物を確認した。確認面まで20～60cmを測るが、建物の基礎に伴う掘削が遺跡に影響を及ぼす事から、建物部分で遺構が確認された周辺を本調査することとした。

本調査は2008年1月7日から18日まで行なった。本調査の結果、縄文時代の土坑20基とピット28基を検出、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第Ⅱ部第4章に掲載した。



第25図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第26図 亀居遺跡の調査区と遺構分布図 (1/1,500)

第22表 亀居遺跡調査一覧表

No.	所在地	調査期間 (1)は調査年	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物				所収報告書
					住居	墓石	土坑	ビツ	
1	亀久保001	1972	155	高橋和男					町内連絡第1 調査会報告書
2	亀久保005	1973	250	高橋和男					町内連絡第1 調査会報告書
3	町+001-1	1979.11-12	750	区画整理	2	3	6	1	区画整理第1 調査会報告書
4	町+002-2	1980		区画整理					
5	町+002-4-3	1981		区画整理			1		
6	亀久保000	1985	914	区画整理	7	7	4	30	区画整理第1 調査会報告書
7	亀久保099	1986.8	2,740	区画整理	2	7	84	138	区画整理第1 調査会報告書
8	亀久保001	1986.8	183	個人住宅	2	3	11		区画整理第1 調査会報告書
9	亀久保099-1	1986.8		住宅建設					
10	亀久保010-1	1986.10	600	区画整理	1		20	17	区画整理第1 調査会報告書
11	亀久保011-3	1987.10.13 -11.13	309	個人住宅	2		73		区画整理第1 調査会報告書
12	亀久保011-1	1987.11.16 -12.16	387	個人住宅	1		48	1	区画整理第1 調査会報告書
13	亀久保009-4	1988.6	242	区画整理	2				区画整理第1 調査会報告書
14	亀久保099-4	1988.7.22 -8.22	165	個人住宅					区画整理第1 調査会報告書
15	亀久保007	1989.2		個人住宅					区画整理第1 調査会報告書
16	亀久保007	1989.2	45	個人住宅					区画整理第1 調査会報告書
17	亀居005-3	1989.9.14 -9.18	112	個人住宅			3	8	区画整理第1 調査会報告書
18	草葺300	1990.3	201	区画整理					区画整理第1 調査会報告書
19	亀居005	1990.3.12 -3.20	613	個人住宅					区画整理第1 調査会報告書
20	亀久保001-3	1990.5.21 -5.25	118	個人住宅			1		区画整理第1 調査会報告書
21		未調査							
22		未調査							
23	亀久保001-14-15	1990.9.3 -9.20	100	個人住宅			10		区画整理第1 調査会報告書
24	亀久保005-4	1990.12	1,324	区画整理			1	3	区画整理第1 調査会報告書
25	亀久保099-7	1991.3.12 -3.16	162	個人住宅					町内連絡第1 調査会報告書
26	亀久保001-14	1991.2.14 -3.15	250	個人住宅			2	60	町内連絡第1 調査会報告書
27	亀久保099-2	1991.5	249	個人住宅			5		町内連絡第1 調査会報告書
28	亀久保099-6	1991.1.24 -2.4	475	個人住宅			6		区画整理第1 調査会報告書
29	亀久保099-2	1991.7	825	集合住宅	1	2		36	区画整理第1 調査会報告書
30	亀久保007-3-1000-3	1991.7	116	個人住宅					町内連絡第1 調査会報告書
31	亀久保099-2-7	1991.9	197	個人住宅					町内連絡第1 調査会報告書

No.	所在地	調査期間 (1)は調査年	面積 (㎡)	調査原因	遺構と遺物				所収報告書	
					住居	墓石	土坑	ビツ		その他
32	亀久保008-1	1991.12.3 -12.9	115	個人住宅				6	町内連絡第1 調査会報告書	
33	亀久保011-7	1991.12 -1992.4	908	個人住宅	1	3		42	町内連絡第1 調査会報告書	
34	亀久保005-2	(1992.2.13)	604	個人住宅					町内連絡第1 調査会報告書	
35	亀久保012-7	1992.9.28 -11.5	670	個人住宅	1	2	7	56	町内連絡第1 調査会報告書	
36	町+001-2-2	(1994.2.17 -2.18)	708	礼拝堂建設			1		町内連絡第1 調査会報告書	
37	亀久保003-2-6	1991.2.18 -2.25	566	土庫併用住宅			1	13	町内連絡第1 調査会報告書	
38	町+02-1-1、2-1	(1994.8.22 -1994.9)	3,302	土庫			37	21	29	調査会報告書 町内連絡第1 調査会報告書
39	亀久保008-5	(1994.9.26 -8.29)	342	新築造成				1	5	町内 調査会報告書
40	亀久保012-5	1995.5	380	高橋和男						調査会報告書
41	亀久保005-23-24	1995.5.3	500	土庫			1		66	調査会報告書
42	町+01-3-14	(1995.7.11 -7.14)	106	倉庫建設						町内連絡第1 調査会報告書
43	町+002-3-1	(1995.8.31 -8.31)	450	倉庫併用住宅			4	2		町内連絡第1 調査会報告書
44	亀久保013-1	1996.10.22 -12.4	1,030	遺跡発掘			初1区画第1	7	29	調査会報告書
45	亀久保008-5、1011-5	(1996.5.15 -5.17)	619	共同住宅					5	町内 調査会報告書
46	亀久保007-17	(1996.6.24 -6.25)	192	分譲住宅						町内連絡第1 調査会報告書
47	亀久保013-1	1996.10-17 1996.10-12.11	2,741	共同住宅	1	14	4	174	調査会報告書 町内連絡第1 調査会報告書	
48	亀久保009-19	(1997.1.20 -1.29)	658	プレハブ事務所			1		1	町内 調査会報告書
49	亀久保007-14	(1997.11.6 -11.10)	214	倉庫併用住宅						町内連絡第1 調査会報告書
50	亀久保007-5	(1998.2.9 -2.20)	197	個人住宅	1	1				町内連絡第1 調査会報告書
51	亀久保新築4地区	1999.6.15 -7.9	222	個人住宅			6	4	11	町内連絡第1 調査会報告書
52	亀久保新築14地区	(2000.2.1 -2.2)	121	個人住宅						町内連絡第1 調査会報告書
53	町+002-20-1	(2000.10.30 -2001.1.16)	1,422	土庫				7		町内連絡第1 調査会報告書
54	町+002-20-17	(2001.4.24 -4.27)	148	個人住宅						町内連絡第1 調査会報告書
55	町+002-20-16	(2001.11.14 -11.16)	148	個人住宅						町内連絡第1 調査会報告書
56	亀久保2-13-14	2002.11.5 -11.21	172	個人住宅					36	町内連絡第1 調査会報告書
57	町+001-1	2003.4.20 -4.28	1596	土庫						町内連絡第1 調査会報告書
58	亀久保2-005-10-24	(2005.4.18) -4.18	7	個人住宅						町内連絡第1 調査会報告書
59	亀久保2-10-5	(2005.4.7 2005.4.1-18)	1,573	共同住宅	2	1	1			調査会報告書 町内連絡第1 調査会報告書
60	亀久保2-17-7	(2005.9.16)	283	個人住宅						町内連絡第1 調査会報告書
61	亀久保2-13-40-一部	(2006.10.40 -10.13)	88	個人住宅	1	2	1	5		町内連絡第1 調査会報告書
62	亀久保2-12-3	(2007.11.12 2008.1.7-18)	1,384	個人住宅			28	20		町内連絡第1 調査会報告書

第23表 亀居遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

住居番号	調査率	平面形 ( )は推定	規模 ( )は残存値	和			備考	時期	文献
				地床	埋設	石圍			
1号	完掘	楕円形	680×445×0	○	◎				東部連絡第1 調査会報告書8集
2号	95%	楕円形	650×530×40	○	○		有		阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
3号	90%	隅丸台形	478×410×25	○	○				阿玉台Ⅱ新 調査会報告書8集
4号	95%	楕円形	415×362×30	○	○				阿玉台Ⅱ新 調査会報告書8集
5号	完掘	楕円形	415×360×30	○	○				町内連絡第Ⅲ 調査会報告書8集
6号	完掘	円形	446×425×30	○	◎		有		阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
7号	98%	楕円形	(520×470)	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
8号	完掘	楕円形	(440×350)	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
9号	完掘	不整形円形	480×470×30	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
10号	完掘	楕円形	520×445×32	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
11号	完掘	楕円形	482×338×30	○	○		有		阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
12号	完掘	楕円形	463×390×25	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
13号	30%	(円形)	(380×?×40)	○	未掘				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
14号	完掘	楕円形	425×370×30	○	○		有		阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
15号	完掘	楕円形	486×400×30	○	○		有		阿玉台Ⅱ古 調査会報告書8集
16号	25%	(楕円形)	(調査区域外)×50	○	○				阿玉台Ⅱ古 調査会報告書3

## 第9章 松山遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に細が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中・近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、

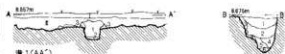
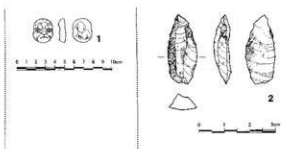
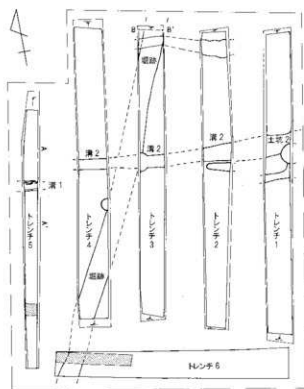
西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのははじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行なわれている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中・近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中・近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行なった。



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

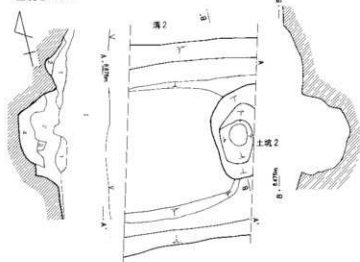




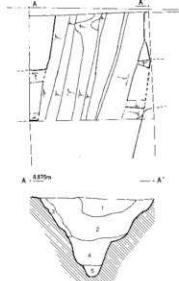
- 溝1(AA')
- 1 暗褐色土 粘り強、裏土新作土
  - 2 暗褐色土 裏土新作土、3cm以下ロームブロック少し含む
- 堀跡(BB')
- 1 暗褐色土 粘りや中強、粘性有、3cm以下ロームブロック多量に含む
  - 2 暗褐色土 粘りや中強、粘性有、3cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒多く含む
  - 3 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cm以下ロームブロック多量に含む(1層より多くは溝の断層に同じ埋跡(BB'))
- 土坑2
- 1 原色土 粘りや中強、粘性有、2mm以下ローム粒や中多(同炭化物・焼土)少し含む、2層より多く状
  - 2 原褐色土 粘りや中強、粘性有、2mm以下ローム粒や中多(同炭化物・焼土)少し含む、1層より弱く(原褐色)に近い
  - 3 暗褐色土 粘りや中強、粘性有、暗褐色ローム多(含む炭状)1-2層少し含む
  - 4 暗褐色土 粘りや中強、粘性有、3層よりロームベースでシト次に2-5層少し含む
  - 5 原褐色土 粘りや中強、粘性有、3層より弱く5mm以下シト状ローム粒少し含む、2層よりやや弱
  - 6 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームベースに2cm以下原褐色土少し含む
- \*水性地層の跡は認められない、1-2-3-5層は埋跡、4-6層はロームベース



土坑2・溝2



堀跡



土坑2

- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土(ローム)ベースに5mm以下の褐色ローム粒を多く含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、地山ロームがダズグロになっている IV-V層
- 3 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロック IV-V層
- 4 原褐色土 粘り強、粘性有、ブロック状 V-VI層

溝2

- 1 暗褐色土 粘りや、粘性有、ロームブロック多量に含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下のローム粒を多く含む、手掘り跡より新し



第28図 松山遺跡第43地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑・堀跡・溝(1/60)、出土遺物(1/4・2/3)

## 第10章 江川東遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700～1,000m程下った右岸に位置している。標高15～19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町地域で最も早く市街化された区域内にあり、表面採取はほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2008年3月現在、15地点で試掘及び発掘調査を行なっている。

### II 江川東遺跡第14地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2007年5月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2007年5

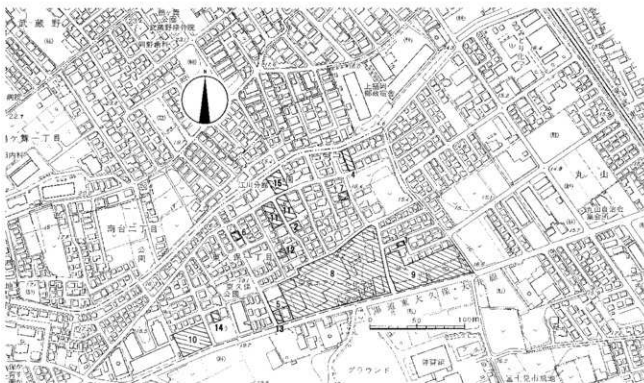
月25日から29日まで行なった。幅1mと2mのトレンチを各1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構、遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

### III 江川東遺跡第15地点

#### (1) 調査の概要

調査はふじみ野市立大井中央公民館江川分館の建替えに伴うもので、市立大井中央公民館長より2007年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲北部の江川沿いに位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年9月11日から13日まで行なった。幅2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構は確認されなかった。旧石器時代の確認調査も行なったが確認されなかった。表土層から須恵器の坏の口縁部片を1点採取した。胎土は灰褐色で、1mm大の砂粒を少し含む。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。



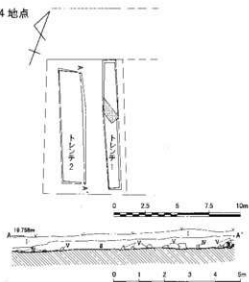
第29図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第26表 江川東遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	調査面積 ( )は開発面積	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保1-145-14	(1994.3.24~3.25)	52	個人住宅	溝状遺構、縄文土器・須恵器	町内遺跡群Ⅲ
2	大字東久保1-162-34	1995.1.20~2.6	191	個人住宅	近世土坑17、ビット18、フレーク、須恵器、陶磁器	町内遺跡群Ⅳ
4	大字東久保138-4	(1996.1.24~1.29)	246	個人住宅	ビット3、溝2、遺物なし	町内遺跡群Ⅴ
5	東久保1-155-6	(1998.6.1~6.9)	164	土地分譲	ビット	町内遺跡群Ⅵ
6	東久保1-168-7	(2001.7.17)	15(71)	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅺ
7	東久保1-160-47	(2004.1.4)	88	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
8	東久保1-150地	(2004.3.25~4.8)	6,137	共同住宅	土坑1、溝、風倒木痕1	町内遺跡群ⅫⅡ
9	東久保1-146-1,147-1	(2004.5.11~19) (2004.5.10~25)	464	保育園	ビット40、溝2、縄文土器、駐車場部分 現状保存	町内遺跡群ⅫⅡ/ 調査会報告第14集
10	東久保1-174-1,36	(2005.10.13~24)	267(881)	分譲住宅	土坑1、溝、遺物なし	市内遺跡群2
11	東久保1-162-1,14	(2006.11.9~15)	200(674)	分譲住宅	遺構検出	市内遺跡群3
11	東久保1-162-1,14	(2006.11.9~15)		分譲住宅	遺構検出	
12	東久保1-27-3	(2006.11.10)	6(72)	宅地造成	遺構遺物なし	市内遺跡群3
13	東久保1-155-4	(2006.8.11)	24(114)	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群3
14	東久保1-174-38	(2007.5.25~29)	(67)	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群4
15	東久保1-136-5	(2007.9.11~13)	(344)	公民館分館	遺構遺物なし	市内遺跡群4

町内遺跡群：大井町町内遺跡群、調査会報告：大井町遺跡調査会報告、市内遺跡群：ふじ野市市内遺跡群

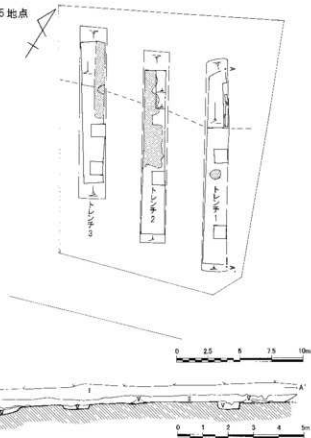
14 地点



14 地点

- I 緑褐色土 砂り強、粘性有、現代整地層
- II 黒褐色土 砂り有、粘性有、砂存土、6cm以下ロームブロックやや多く含む
- III 黒褐色土 砂りやや弱、粘性有、E層より近い奥側の詰め土、1cm以下ローム粒やや多く含む
- IV 緑褐色土 砂りやや弱、粘性有、1cm以下ハートローム粒少し含む
- V ノンローム層 地山(立川ローム目撃箇所)
- VI ハートローム層 地山(立川ローム目撃箇所)

15 地点



15 地点

- I 緑褐色土 砂り強、粘性有、腐土、上部はローム主体腐土、下部は緑・ビニール含む
- II 色土 砂り強、粘性有、砂存土、5cm以下ローム粒、ロームブロック含む
- III 黒褐色土 砂り強、粘性有、谷内堆積、2cm以下ローム粒少し、5cm大ロームブロック、15cm以下塊状に含む
- IV 緑褐色土 砂り強、粘性有、谷内堆積、5cm大ロームブロック多く1cm以下酸化土ブロック塊かに含む
- V 地山ハートローム 色調明るい、スコリアが目立ち、5cm大の腐化土が点在する

第30図 江川東遺跡第14・15地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)



## 第11章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は1976年以来2008年1月現在まで、65地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や橋跡が確認されている。

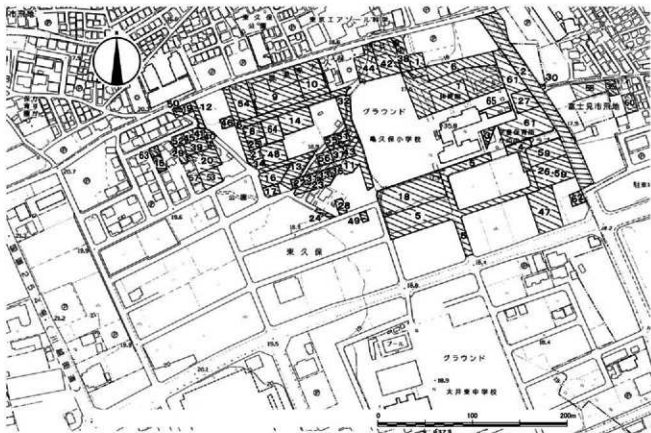
### II 東久保遺跡第65地点

#### (1) 調査の概要

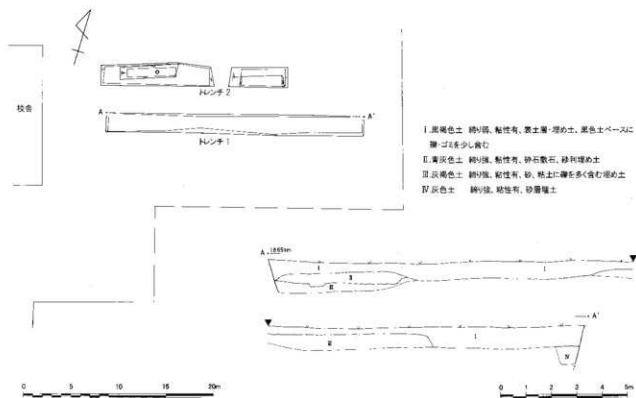
調査はふじみ野市市立亀久保小学校本校舎の教室棟増築に伴うもので、ふじみ野市長より2007年11月14日付で「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。市立亀久保小学校は遺跡の中央部に位置し、東側にある第27地点の調査では縄文時代のピット等を検出している。

今回増築予定の教室は、管理・特別教室棟の東側部分で、大プールの南側である。建設工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年1月18日から28日まで行なった。幅2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、遺構・遺物は確認されなかった。調査区は埋没河川（以前は用水路）に近い側より低く、小学校建設時以降60～160cmの厚さで盛土が行なわれている。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。



第31図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第32図 東久保遺跡第65地点調査区域図 (1/400)、土層図 (1/150)

## 第12章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間、標高は20.0~21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てて東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑等を検出している。中・近世では墓壇・溝・欄列等が確認されている。本遺跡は区画整理事業と大規模開発による開発が進み遺跡面積約4haのうち約80%が調査されている。本遺跡の調査は1995年以來2008年1月現在、31地点で試掘調査および発掘調査を行なっている。

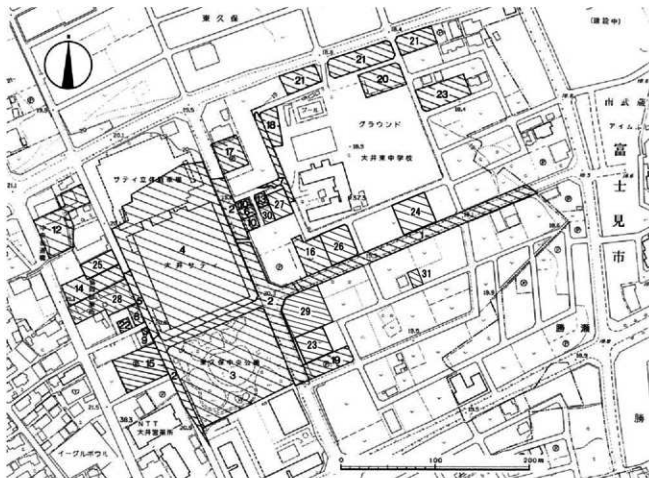
### II 東中学校西遺跡第31地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年12月7日付で、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置するため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認する工事の立会いを2008年2月14日に行なった。重機の提供を受け、幅約1m、長さ13mのトレンチ1本を設定し、現地表面下約75cmで地山ローム層を確認、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影を行ない、工事立会いを終了した。



第34図 東中学校西遺跡第31地点調査区区域図 (1/300)



第33図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## 第13章 駒林遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

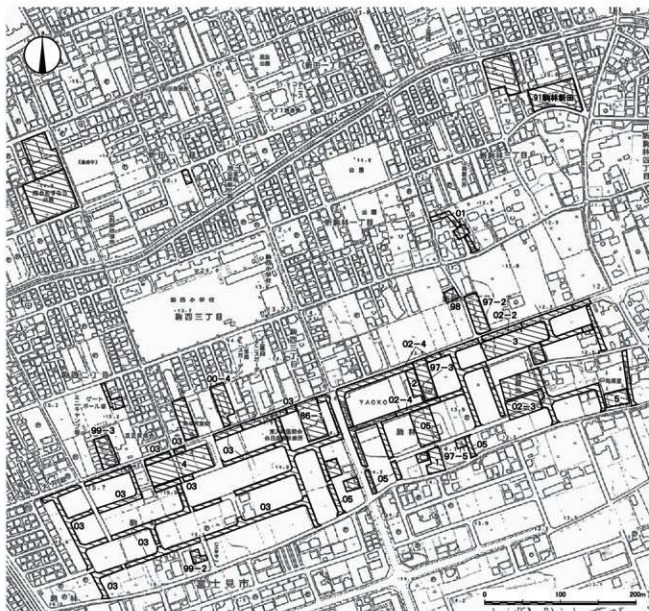
駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの広大な範囲であったが、2002年から2004年にかけて行なった駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大半の地域で遺構を確認できなかったため、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。

第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した

溝の配置を再検討した結果、一辺140～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行なった。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。

2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶昆跡を検出する。周辺の遺跡の様相から遺跡の時期は中世から近世と思われる。



第35図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

## II 駒林遺跡第4地点

### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2007年4月27日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが、面積が1,000㎡を越えるため、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年6月11日から13日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の

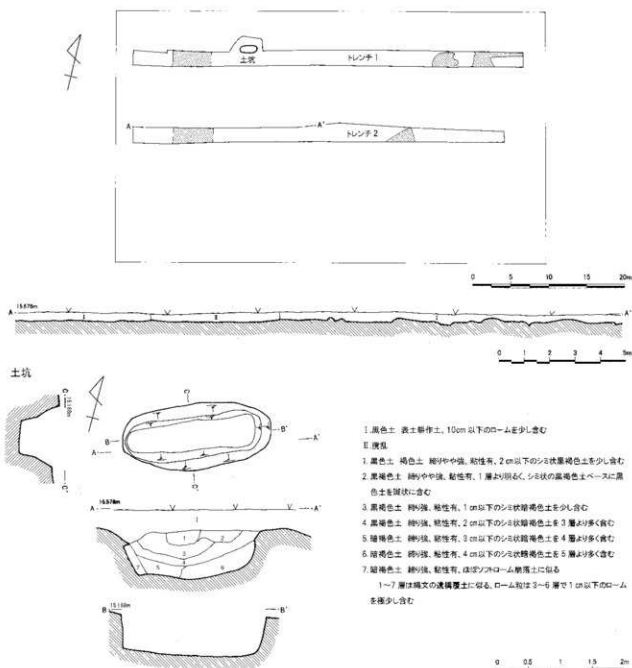
結果、土坑1基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察から縄文時代とみられる。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 土坑

調査区の北西部で土坑1基を検出した。覆土層の観察から縄文時代の時期とみられる。

土坑の平面形態は長方形を呈し、規模は確認面径236×105cm、底径205×47.0cm、深さ65.8cmを測る。



第36図 駒林遺跡第4地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)

## 第14章 福岡新田遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高7～10m前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲しており、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷又は湧き水などの影響によるものなのかは不明であるが、江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間(1648～52年)に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると村域は江川左岸の「東西25町許、南北5町」とあり、東西約2.7km・南北約500mである。

当初の遺跡範囲は、江川の北側に延びていたが、江川の北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北230m、東西240mであるが、今後東西に広がる可能性もある。遺跡周辺は一部宅地開発されるが畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200m東側に鷲森遺跡、350m西側に駒林遺跡(2008年駒林新田前遺跡と統合)がある。本遺跡周辺の調査は、1982年新田2丁目の試掘調査以来、今回で7ヶ所目となる。過去の調査では遺構は確認されておらず、平安時代の土器片と縄文時代中期の土器片の散布が確認されている。

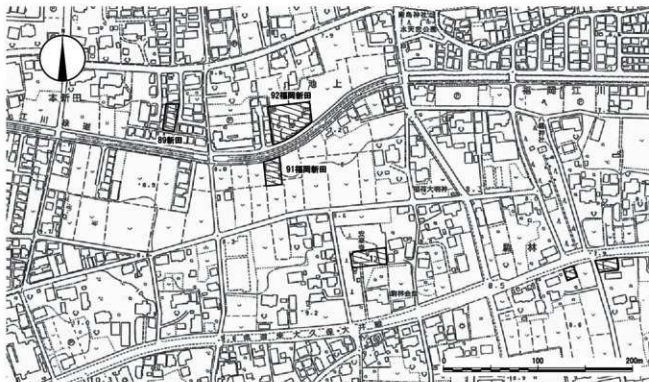
### II 福岡新田遺跡第1地点

#### (1) 調査の概要

調査は安楽寺の本殿、客殿、庫裏等の建替えに伴うもので、原因者より2007年8月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが、遺跡縁部で面積が1,000m<sup>2</sup>を越えるため、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年10月9日から24日まで行なった。幅2mのトレンチ3本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の遺物包含層と、中・近世以降の土坑6基・溝5本等を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

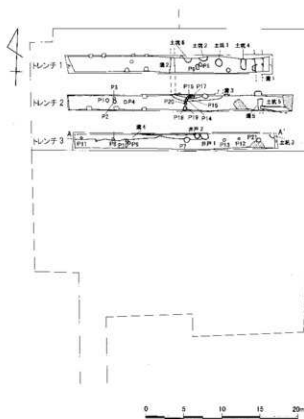
試掘調査の結果、縄文時代の遺物包含層と近世以降の遺構と遺物が確認されたため、2008年遺跡の範囲を東側と南側に広げる変更増補を行なった。



第37図 福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第27表 福岡新田遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と 遺物	所収報告書
1982年度新田2丁目 遺跡試掘	新田2丁目481~482	(1982.8.27~9.14)	1454	民間開発	近世陶磁器、松山 遺跡に変更	埋蔵文化財の調査 (V)
1989年度新田遺跡試掘	新田字本新田400-1	(1989.6.22~27)	495	宅地造成	なし、松山遺跡に 変更	埋蔵文化財の調査 (12)
1991年度福岡新田試掘	胸林817-1	(1991.4.23~26)	482	個人住宅	自然堤防ではなく 後世盛土	埋蔵文化財の調査 (14)
1991年度胸林新田試掘	胸林新田727-1-3	(1991.8.3)	2186	共同住宅	なし、胸林遺跡に 変更	埋蔵文化財の調査 (14)
1992年度福岡新田試掘	中福岡362	(1992.7.17~22)	998	共同住宅	なし、松山遺跡に 変更	埋蔵文化財の調査 (15)



第38図 福岡新田遺跡第1地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)

## (2) 遺構と遺物

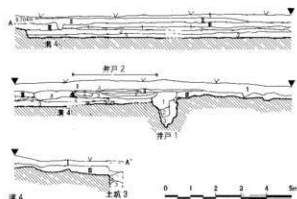
確認した遺構は土坑、ピット、井戸、溝である。礎石と溝4は解体された安楽寺に伴うものと考えられる。またトレンチ1中央部から縄文時代中期の土器がややまとまって出土したが、掘り込みは確認出来なかったため包含層出土とした。礎石出土の縄文土器も遺構の時期を示すものではない。

## ①土坑・ピット・井戸

土坑は6基検出した。土坑1は覆土層の観察から中・近世の時期に、他の土坑とピットは中・近世以降とみられる。土坑5は溝の可能性がある。

井戸は2基確認し、井戸2は溝4より新しい。

## ②溝



- 溝4  
土坑3
- 1 黒色土 赤土がらを多く含む(木炭取り遺しの跡)  
 2 黒色土 粘り強、粘性有、下層にロームブロック層状を成す多く含む、上・中層に3cm以下ロームブロック多く含む  
 3 黒褐色土 10cm以下ロームブロック少し、1mmローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む  
 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒・炭化物粒少し、灰褐色土の反置粘り土多く含む  
 5 黒褐色土 粘り強、粘性有、1層より灰褐色土を更に多量に含む  
 6 黒褐色土+暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多量に含む  
 7 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多量に含む、井戸1の1層に同じ  
 8 2層ベースに多量に5mm以下ローム粒含む  
 井戸2  
 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cm以下ロームブロックと黒褐色土混在、1~3層は炭化物・焼土はほとんど含まない  
 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む  
 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム土に僅かにシルト状褐色土を含む暗褐色土のみの土層  
 4 暗褐色土 互層に同じ、ややロームが少ないので分層  
 5 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームベースに黒褐色土を間を含む  
 6 黒褐色土 黒褐色土ベースに2mm以下ローム粒・炭化物・焼土少し含む

溝5本を確認した。溝2と溝3は繋がる可能性があるが、他の溝同様に全貌は不明である。

## ③出土遺物

土坑1・2、ピット7・17、礎石出土の縄文土器は遺構の覆土層出土であるが、遺構自体の時期を示すものではない。

第28表 福岡新田遺跡第1地点溝一覧表 (単位:cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
1	「U」状	75~80	52~60	51.3	
2	浅い「V」状	38~68	22~50	10	
3	浅い「U」状	45~60	32~34	24.4	長さ12m
4	不明	80~	25~	39.5	
5	浅い「U」状	63~73	55~60	16.2	





## 福岡新田遺跡第1地点土層説明

- I 黒色土 表土ガラクチが多く(本家取壊しのゴミ)
- II 黒色土 砂り強、粘性有、下部にロームブロック(遺物を成す)が多く、上・中層に3cm以下ロームブロック多く含む
- III 灰黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに3cm以下灰黒褐色土シタれが多く、1cm以下シタれ土多く含む(火災による灰の混入土)
- IV 黒褐色土 1cm以下ロームブロック少し、1mmローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
- V 褐色土 砂り強、粘性有、盛土ローム近・境
- VI 黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに3mm以下焼土粒、2mm以下炭化物粒多く含む、高層部少し含む
- VII 黒色土 砂り強、粘性有、目黒色黒褐色ローム粒含む割合少ないシタれ層褐色土少し含む
- IV 黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースにシタれ層褐色土と1mm以下粒状ローム少し含む、縄文土層含む
- IV 黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土と黒褐色土底状に含む(白土層)
- V 褐色土 砂り強、粘性有、地山ソローム
- 層1
- I 灰黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに灰黒褐色土を帯び、2cm以下焼土ブロック多く、1cm炭化物少し含む
- II 黒褐色土 黒褐色土ベースに1mm大粒土・炭化物少し含む
- III 黒褐色土 黒褐色土ベースに1mm以下ローム粒・焼土・炭化物やや多く含む
- IV 黒褐色土 ロームブロック・黒褐色土混入土
- V 黒褐色土 黒褐色土ベースに2cm以下ロームブロック少し、1mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物少し含む
- VI 褐色土 ロームブロック層、盛土状に薄く広がる
- VII 褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック多量含むや中粒ローム粒も
- VIII 褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下ロームブロックと黒褐色土混入土、1cm大焼土粒多く、5mm以下炭化物少し含む
- 層2
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、目黒色ローム・炭化物・焼土粒少ない
- II 褐色土 砂り強、粘性有、1層目厚層の混入土
- 層3
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、しみたれブロック状・粒状ローム多く含む
- II 褐色土 砂り強、粘性有、しみたれブロック状に黒褐色土含む
- 層4
- I 褐色土 砂り強、粘性有、1mm大ローム粒極少し含む
- 層5
- I 褐色土 砂り強、粘性有、ロームベースに銀(黒褐色土底状)に3mm以下焼土粒少し含む
- II 褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに3cm以下ロームブロック多く、3mm以下焼土粒少し含む
- III 黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに2mm以下ローム・焼土粒少し含む
- IV 褐色土 砂り強、粘性有、ロームと黒褐色土底状に5mm以下焼土粒少し含む
- 層6 7-9
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、1cm以下灰黒褐色土、3cm以下焼土・炭化物やや多く含む
- II 黒褐色土 砂り強、粘性有、2cm以下灰黒褐色土、3cm以下焼土・炭化物やや多く含む
- 井戸1
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに2cm以下ロームブロック多量に含む
- II 黒褐色土 砂り強、粘性有、1層目ロームブロック少し、5mm以下ローム粒多く含む
- III 褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下ロームブロックと黒褐色土混入土

- 井戸2
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土少し含む
- II 褐色土 砂り強、粘性有、ロームベースにシタれに黒褐色土埋少し含む
- III 灰 色 砂り強、粘性有、灰色粘土にシタれに融け物多く含む
- IV 褐色土 砂り強、粘性有、2層に同じ
- V 褐色土 砂り中や弱、粘性有、2-5層に黒褐色土を少し含む(砂り弱)
- 層4 覆土
- 土坑1-2
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
- II 褐色土 砂り強、粘性有、地山ソロームに似た層褐色土主体に1mm大ローム粒少し含む
- III 黒褐色土 砂り強、粘性有、1cm以下ロームブロック多く、間黒褐色土少し含む、表層1-3は焼土粒・炭屑・褐色土全く含まない、中粒の遺物?
- 土坑4
- I 黒褐色土ベース 砂り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多量に含む
- 土坑5
- II 褐色土 砂り強、粘性有、1mm大ローム粒極少し含む
- III 褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く含む
- IV 褐色土 砂り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 土坑6
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、しみたれ目黒土とロームを含む
- 土坑7
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く含む
- ピット7
- II 褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースに1.5cm以下シタれローム多く、1mm大ローム粒少し、土器片含む、レンチ1の縄文土器出土も同じ
- III 褐色土 砂り強、粘性有、1層目明るく、シタれに黒褐色土少し含む
- ピット12-13-21
- II 褐色土 砂り強、粘性有、2cm以下ローム多く、2mm以下焼土・炭化物少し含む
- ピット14-15-18-20
- I 黒褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む
- II 褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土含む
- III 黒褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロックの間に黒褐色土含む
- IV 黒褐色土 砂り強、粘性有、1層には同じ、炭土少ない
- V 褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロック層
- VI 褐色土 砂り強、粘性有、黒褐色土ベースにシタれローム少し含む
- VII 黒褐色土 砂り強、粘性有、4層に同じ、下部にロームブロック少し含む
- ピット17
- I 褐色土 砂り強、粘性有、3cm以下ロームブロック多く含む、焼土・炭化物ほとんど含まない
- II 黒褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、焼土・炭化物ほとんど含まない(灰黒褐色土土量多い)

第29表 福岡新田遺跡土坑・ピット・井戸一覧表

(単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
土坑1	円形	104×97	81×81	16.4
土坑2	不明	118×(51)	85×(41)	32.2
土坑3	不明	(65×57)	45×25	113.3
土坑4	不明	(143)×56	(135)×40	27.7
土坑5	不明	(360)×65	(351)×35	36.3
土坑6	不明	(145)×119	75×(48)	17.8
P1	楕円形	64×41	39×15	62
P2	円形	55×42	14×10	69.7
P3	円形	35×35	12×11	30.7
P4	円形	42×42	20×18	70
P5	楕円形	65×44	39×6	27.2
P6	楕円形	76×52	46×12	29.5
P7	円形	79×68	70×56	24.4
P8	円形	36×35	22×21	49.8
P9	方形	41×39	26×19	19.6

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
P10	方形	40×39	27×24	34.9
P11	方形	29×29	20×18	42.3
P12	不整形	73×44	26×21	29.2
P13	円形	33×33	18×17	25.1
P14	不明	40×21	11×8	41.2
P15	方形	38×26	19×13	53.1
P16	方形	24×17	10×10	56
P17	不明	(65)×35	37×25	80.7
P18	不明	35×(32)	10×4	77.5
P19	不明	36×(35)	10×10	66.5
P20	円形	45×39	15×11	73.8
P21	楕円形	57×43	35×22	31.8
井戸1	円形	60×60	40	50.3
井戸2	円形	80×68	60	143



## 第15章 西ノ原遺跡の調査

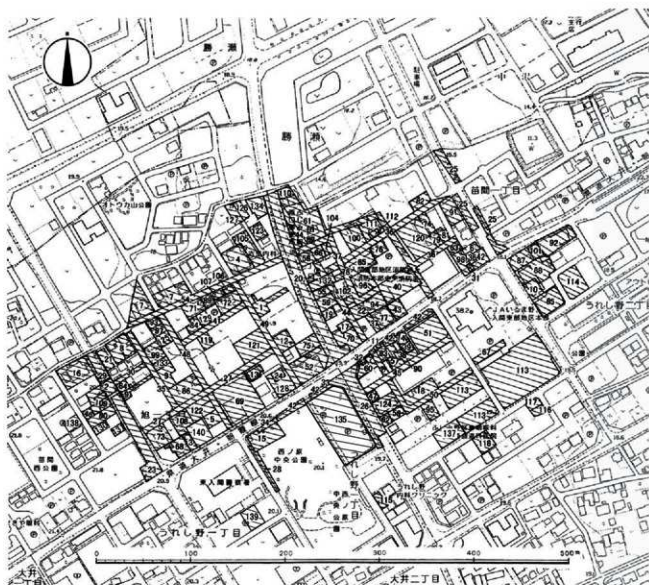
### I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2008年1月現在で141地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第41図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## II 西ノ原遺跡第135地点

## (1) 調査の概要

調査は共同住宅の駐車場建設に伴うもので、原因者より2007年9月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に立地し、2006年5月29日から6月19日（試掘調査は同年3月14日から4月28日）まで共同住宅本体部分の本調査を行なった場所の北側部分にあたる。このため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年11月5日から12日まで行なった。幅1mと2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の土坑1基、ビット3基を確認した。旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構

土坑とビットは覆土層の観察から縄文時代とみられる。

第31表 西ノ原遺跡第135地点土坑・ビット一覧表

(単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
土坑	不明	(146×55)	(144×50)	37.4
P1	不明	(27)×26	(15)×10	40.5
P2	円形	26×24	16×15	44.7
P3	不明	37×(15)	12×(5)	16.6

## III 西ノ原遺跡第140地点

## (1) 調査の概要

調査は学習塾建設に伴うもので、原因者より2007年4月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、北側に隣接する第122地点では縄文時代中期の住居跡と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年5月7日から10日まで行なった。幅2～2.5mのトレンチ7本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査区南側で県道に並行するように砂利が広がる旧道路跡を確認したが、縄文時代の遺構は確認されなかった。なお、旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

## IV 西ノ原遺跡第141地点

## (1) 調査の概要

調査は店舗兼事務所建設に伴うもので、原因者より2007年4月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲外に位置するが申請者と協議の結果、遺構の分布を確認し遺跡範囲を明らかにするための試掘調査を実施した。試掘調査は同年5月8日、9日に行なった。幅1.7mと2.7mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、土坑1基を検出した。遺構の時代は、覆土層の観察から縄文時代の落とし穴や風倒木痕と類似するが、出土遺物はない。ビットも覆土層が縄文時代のビットに類似するが出土遺物はない。

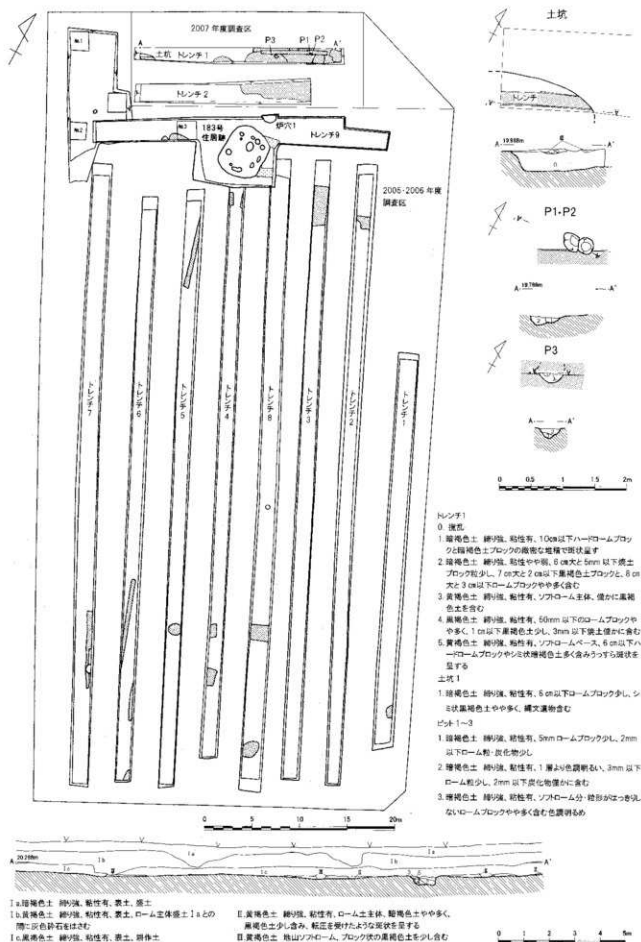
## (2) 遺構と遺物

## ①土坑・ビット

土坑の上幅は70～110cm、深さは70cm以上である。

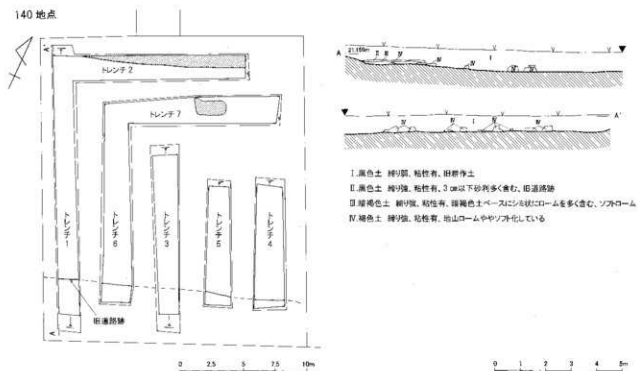
ビットの平面形は楕円形で、確認面径33×25cm、底径18×15cm、深さ17.1cmである。

今回の試掘調査では、旧石器時代の確認調査は行なっていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

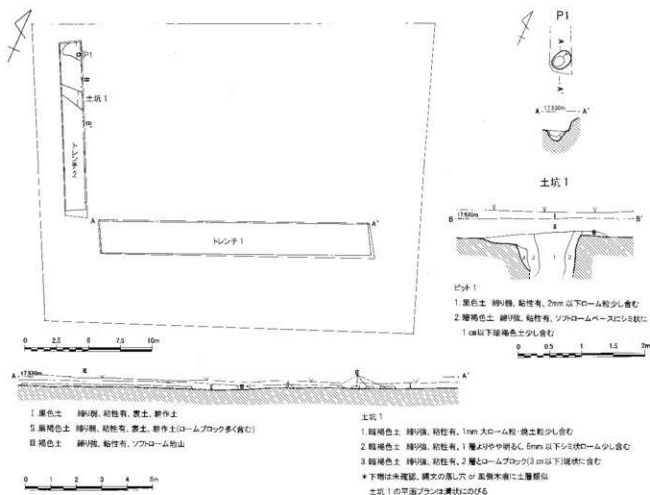


第42図 西ノ原遺跡第135地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

140 地点



141 地点



第43図 西ノ原遺跡第140・141地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑・ピット (1/60)

## 第16章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺は遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に淨禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2008年1月現在30地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### II 神明後遺跡第31地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年7月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年8月3日から7日まで行なった。幅2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。近・現代とみられる建物跡等の掘削と、調査区北東隅で土坑2基を確認した。写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

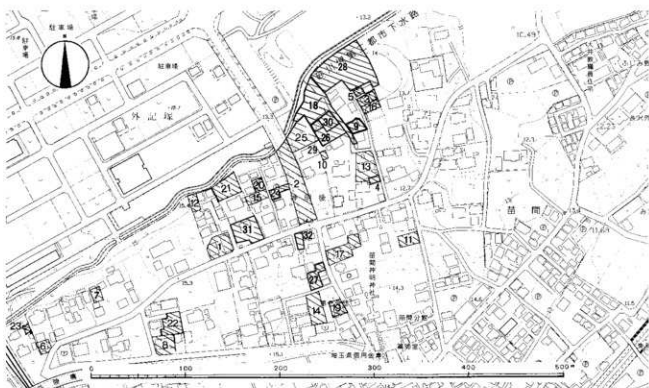
#### (2) 遺構

土坑は2基とも覆土層の観察等から同様の遺構とみられ、植栽痕の可能性はある。

#### ①土坑

第32表 神明後遺跡第31地点土坑一覧表 (単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
土坑1	円形	83×(75)	31×22	21.9
土坑2	円形	83×80	36×34	23.8



第44図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## III 神明後遺跡第32地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

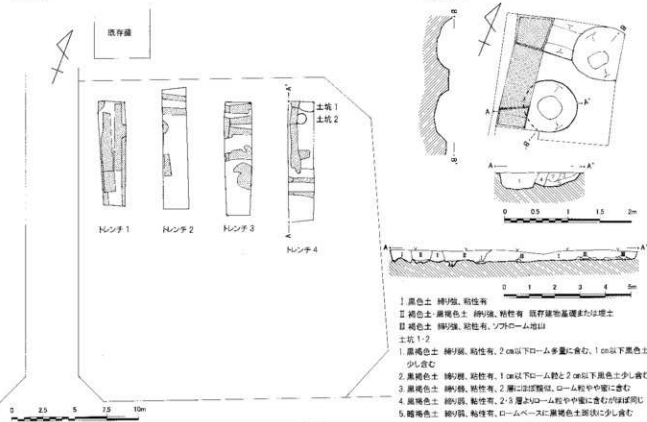
試掘調査は2008年3月13日に行なった。幅1mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、1トレンチ中央部に遺構らしきプラントと土層を確認したが、大部分を攪乱されており広がり等は不明である。近・現代とみられる建物跡やイモビツ跡等の攪乱が調査区全体に広がっており、遺構も破壊されている可能性が高い。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

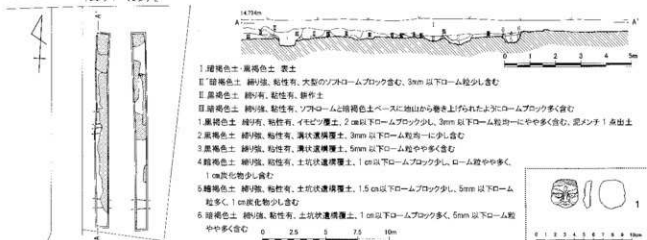
出土遺物は、表土層から泥メンチ1点が出土した。重さ4.79gである。

写真撮影・全測図等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

## 31 地点



## 32 地点



第45図 神明後遺跡第31・32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4)



## 第17章 苗間東久保遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

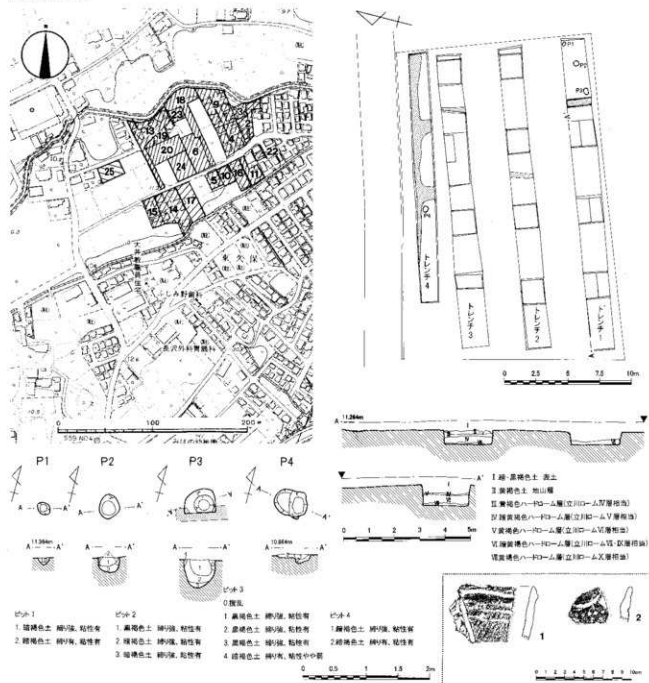
苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、さかい川の谷頭部から約1,800m下った右岸、さかい川と浄禪寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高10~11m、現谷底との比高差は1~1.5mを測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禪寺川対岸には浄禪寺跡遺跡がある。

遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1979年に開発に伴う緊急調査として行なわれた。2008年1月現在25ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。



第46図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第25地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)、出土土器(1/4)

第33表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1979	605	共同住宅	炉穴10、土坑14、加曾利EⅡ式土器・石器	東部遺跡群Ⅰ
2	1979	530	共同住宅	住居1、縄文中期後半土器	東部遺跡群Ⅰ
3	1980	200	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅱ
4	1980	750	共同住宅	住居2、土坑6、縄文中期後半土器 他	東部遺跡群Ⅱ
5	1980	106	共同住宅	炉穴2、集石1、土坑3、柱穴32、ビット6、縄文早期・後期土器	東部遺跡群Ⅱ
6	1980	577		住居2、炉穴4、土坑23、柱穴群、縄文中期後半・称名寺式土器	東部遺跡群Ⅱ
7	1982	396	共同住宅	遺構なし、縄文土器細片	東部遺跡群Ⅲ
8	1982	360	共同住宅	遺構なし、遺物無し	東部遺跡群Ⅳ
9	1983	660	共同住宅	池状遺構、土坑1、縄文中・後期土器・石器	東部遺跡群Ⅴ
10	1984	340		土坑5、ビット45、縄文後期堀之内式土器	未報告
11	1984	560		遺構なし、縄文中期勝板式土器 他	未報告
12	1984	320	共同住宅	遺構なし、縄文中期加曾利EⅡ式土器 他	未報告
13	1984	900		住居2、土坑88、ビット10、縄文堀之内式・加曾利BⅡ式土器	大井町史資料Ⅰ
14	1987	923		土坑7、ビット92、平安以降ビット6、縄文後期土器	東部遺跡群Ⅱ
15	1988	447	共同住宅	土坑7、ビット21、縄文後期称名寺式・堀ノ内式土器	東部遺跡群Ⅲ
16	1989	390	共同住宅	住居1、土坑2、縄文中期後半・後期前半土器	東部遺跡群Ⅳ
17	1990	583	駐車場	土坑1、縄文前期・後期土器	町内遺跡群Ⅰ
18	1992	906	分譲住宅	住居3、落とし穴5、土坑11、ビット14、縄文前期・後期土器	調査会報告5集
19	1994	350	宅地開発	落とし穴1、住居1、土坑5、ビット39、縄文早期後半・後期土器・石器・土製円盤	調査会報告12集
20	1998	664	個人住宅	土坑28、集石土坑5、ビット128、縄文後期土器、旧石器、泥面子	調査会報告12集
21	1999	350	個人住宅	土坑2、縄文土器・石鏝	町内遺跡群Ⅲ
22	2001	99	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内遺跡群Ⅳ
23	2004	104	個人住宅	遺構・遺物なし、	町内遺跡群Ⅴ
24	2006	561	分譲住宅	土坑5、ビット45、縄文早期前半～後期中葉土器・石器	市内遺跡群2
25	2007	414	分譲住宅	ビット3	市内遺跡群4

## II 苗間東久保遺跡第25地点

## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年6月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部北寄りに位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は同年7月11日から23日まで行なった。幅約1.7～2mのトレンチ4本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、ビット4基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査を行なったが遺構と遺物は確認されなかった。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① ビット

ビット4基を検出したが、覆土層の観察から縄文時代の時期とみられる。

第34表 苗間東久保遺跡第25地点ビット一覧表 (単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
P1	楕円形	25×18	14×12	11.6
P2	円形	39×32	23×22	47
P3	不明	50×(37)	17×17	53.7
P4	楕円形	54×43	25×18	11.6

## ② 出土土器

出土土器は表土層から採取したもので、全て破片である。1は口縁部に横位隆帯を巡らし、胴部は地文L R縄文に沈線文を施す堀之内Ⅰ式。2は沈線に円形刺突文を施す称名寺Ⅲ式である。

## 第18章 浄禪寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

浄禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗圃東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗圃東久保遺跡の一部を、浄禪寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

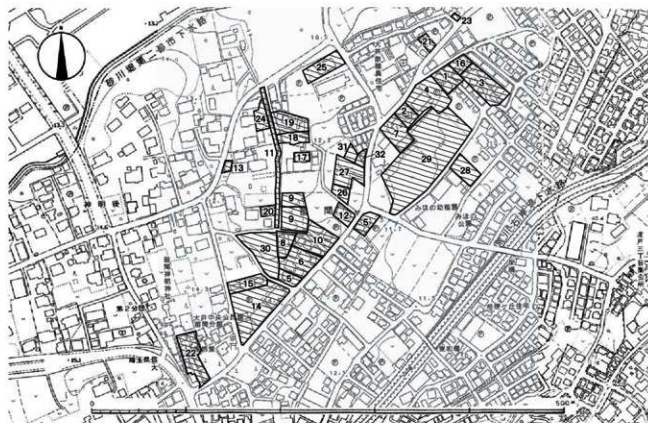
2008年1月現在32地点で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禪寺墓域から土壇墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗圃村の浄禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

### II 浄禪寺跡遺跡第9地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、土地所有者より2007年3月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。本地点は、1994年10月18日に農地改良(1m以上の盛土等)に伴う試掘調査を行ない、池跡とみられる黒色土堆積や土坑らしき範囲と、大量の焼土や炭化物を確認している場所のうち、北側の約半分にあたる。このため申請者と協議の結果、建物部分の地盤に基礎を補強するための杭を打ち込むことから建物部分の本調査を実施した。

本調査は2007年5月22日から24日まで行なった。試掘調査で確認されている溝部分について重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、溝を検出した。表土から縄文土器片、近世陶磁器等が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。



第47図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 浄禪寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (1)は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	富岡東久保579	1979.4.3-4.21	605	共同住宅	富岡東久保11地点として報告済み印穴10、土坑14、縄文早期後半・中期 縄文土器	東部遺跡群Ⅰ
2	富岡東久保573	1982.4.1-4.3	396	共同住宅	富岡東久保17地点として報告済み遺構なし、磨耗 縄文土器	東部遺跡群Ⅱ
3	富岡東久保581	1984.7.20-7.21	320	共同住宅	富岡東久保12地点を浄禪寺3地点とする遺構なし、 縄文中期末	未報告
4	富岡神明様346-1	1989.11.15-11.25	150	磨盤子定地	印穴10、土坑7、ビット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群Ⅲ
5	富岡374-9	1991.8.28-9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群Ⅰ
6	富岡358-1	1991.9.21-12.26	856	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	富岡東久保573-4	1992.10.20-11.20	831	共同住宅	印穴8、印穴3、堀3、縄文早～中期	調査会報告5集
8	富岡357-1	(1994.9.20-9.27)	615	宅地分譲	落ち穴、根切溝	町内遺跡群Ⅱ
9	富岡353	(1994.10.18)、 2007.5.22-24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
10	富岡356-1	1994.10.31-11.2	909	宅地分譲	近世土壇墓、一石経線納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	富岡352-1 他	(1995.1.9-2.3)	572	道路	溝水口	町内遺跡群Ⅱ
12	富岡35-95	1995.9.25-10.21	140	個人住宅	土坑13、ビット11、印穴16、溝5、縄文中期土 器、磁器	町内遺跡群Ⅴ
13	富岡314-2	(1996.1.8-1.29)	101	個人住宅	土坑13、ビット11、印穴17、溝2、縄文早～後期、陶 磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	富岡360-1,362-2	(1996.6.3-6.12) 1996.6.18-7.11	2,178	個人住宅	溝群3、落ち穴1、溝4、ビット251、旧石器、縄文土 器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅵ
15	富岡362-4-5	(1996.6.3-6.12) 1996.7.12-8.2	494	分譲住宅	印穴7	町内遺跡群Ⅵ
16	富岡579-1	1997.11.10-12.19	291	個人住宅	縄文住居1、印穴14、ビット61、土坑16、溝4、縄文 早期後半、前期、中期	町内遺跡群Ⅶ
17	富岡545-2-10	(1998.9.29-10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群Ⅶ
18	富岡345-3-4	(1999.5.26-6.24) 1999.6.26-8.3	509	個人住宅	印穴8、集石土坑3、土坑13、ビット27、溝縄文後 期土器、土師器	町内遺跡群Ⅷ
19	富岡神明様345-4	1999.8-9	703	分譲住宅	印穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、印穴28、掘立 5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	富岡神明様351-1	(2001.10.26-10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群ⅧⅠ
21	富岡東久保591-3,592-7	(2001.11.19-11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅠ
22	富岡373-5-8、 377-5-3-4	(2002.4.23-5.14)	905	分譲住宅	土坑1、ビット4、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
23	富岡592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ビット2、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
24	富岡神明様346-1-2の 一部	(2004.8.30-8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅧⅡ
25	富岡339-1-2	(2004.9.22-10.12)	721	共同住宅	ビット2	町内遺跡群ⅧⅡ
26	富岡神明様354-2の一部	(2005.3.3-3.8) 2006.4.17-28、6.7-15	216	分譲住宅	印穴10、土坑8、ビット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	富岡神明様354-2	(2005.12-1-2006.1.22) 2006.1.23-2.23	696	新設道路築造 分譲住宅	住居跡1、印穴15、埋差2、土坑117、ビット127、溝1	市内遺跡群2
28	富岡宇東久保719-7、 720-1	(2007.1.23)	2,478	商業改革工事	溝2	市内遺跡群3
29	富岡570-1-2、 571-1-2,575	(2007.8.7-9.21) 2007.9.25-11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、印穴15、土坑15、堀跡1、溝17、陶 磁器、板碑他	市内遺跡群4
30	富岡359-1	(2007.9.14-10.9) 2007.10.9-11.2	1,298	分譲住宅	茶見跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
31	富岡宇神明様342-14 一部	(2007.2.19)、 2007.2.19-3.5	171	個人住宅	住居跡1、印穴1、土坑1、ビット25、縄文土器、石 器	市内遺跡群4
32	富岡宇神明様340-17、 342-10-15、	(2007.2.25-3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ビット1、縄文土器	市内遺跡群4

## (2) 遺構と遺物

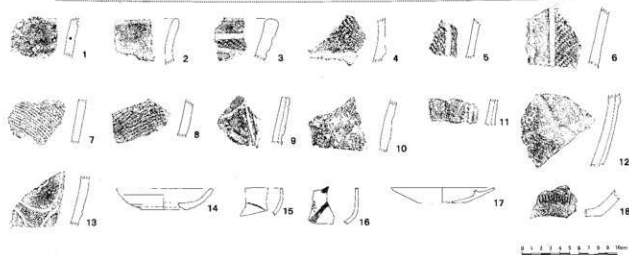
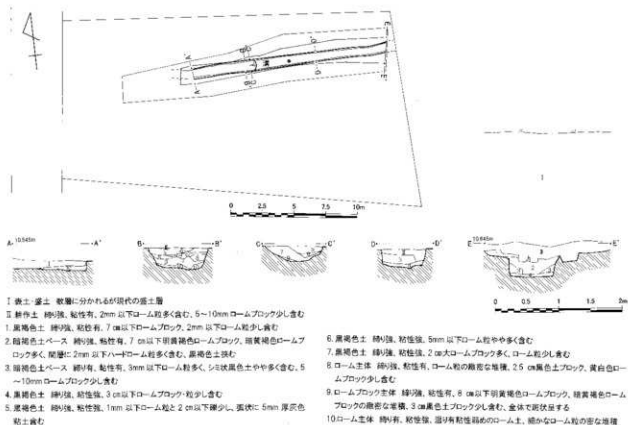
## ①溝

溝は東から西に傾斜する地形に沿って延びる。上幅74～94cm、下幅25～40cm深さは42.3cm、東端底と西端底の高低差は33.4cmを測る。

## ②出土遺物 (第48図)

1から18は全て溝の覆土層出土である。1は角押文と沈線を描き胎土に大量の金雲母を含む阿玉台式土器である。2は口縁部無文帯。3は沈線文とR L縄文、4は横位隆帯で胴部はL R縄文を施す。5・6は地文R L又はL R縄文に沈線の懸垂文間を磨消す。7は無節L r縄文、8は単節R L縄文を施す。9は沈線文を施す。10・11は木口状工具による蛇行条線文を施す。

12は地文R L縄文に微隆帯と磨消しを施す。13は沈線文の間にL R縄文と磨消しを施す。2、7、8は勝坂式から加曾利E式。3～6・9～11は加曾利EⅡ式。12、13は加曾利EⅣ式である。14は瀬戸・美濃系陶器の志野皿で全面に長石釉、口径・底径・高さは推定で10.2×5.1×2.3cm。15は肥前系磁器の皿が碗で、轆轤成形で内外面に染付けを施す。16は陶器の碗で、轆轤成形に外面に黒色の釉薬を施す。17は瀬戸・美濃系陶器の燈火受付皿で全面鉄釉し内外面上部に煤が付着、口径・底径・高さは推定で10.9×5×1.6cm。18は在地産の瓦質土器で内面回転軸で調整、外面ステラ状刻印文を施す。



第48図 淨禪寺跡遺跡第9地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

### Ⅲ 淨禪寺跡遺跡第29地点

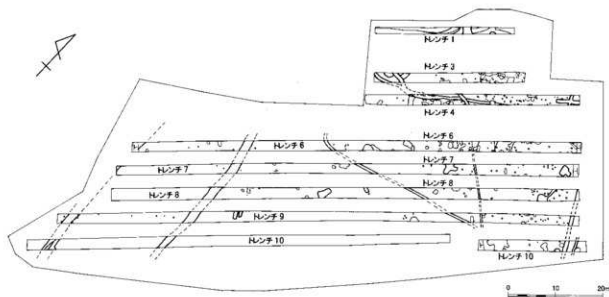
#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部の西寄りに位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年8月7日から9月21日まで行なった。幅1.2~2mのトレンチを8本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中・近世の掘立柱建物跡や井戸・土坑・

溝等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が多数出土した。遺構確認面は地表面から約60~70cmの深さで、道路築造部分の掘削が地表面から1m以上に及び遺跡に影響を与えるため本調査を行なった。

本調査は2007年9月25日から11月6日まで、道路築造部分の調査を行ない、中・近世の掘立柱建物跡3軒、井戸15基、土坑15基、堀跡1本、溝17本を検出、陶磁器・板破片・石製品・縄文土器・石器等多数の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。本調査の成果は第Ⅱ部第5章に掲載した。



第49図 浄禅寺跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/800)

## IV 浄禅寺跡遺跡第30地点

## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年9月14日から10月9日まで行なった。幅2mのトレンチを7本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中世の茶毘跡や木炭窯・土坑・ピット、縄文時代の落とし穴等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が出土した。遺構確認面は地表面から約40～150cmの深さであるため、建設予定建物の基礎が遺跡に影響を及ぼす部分について、2007年10月9日から11月2日まで本調査を行なった。

本調査の結果、中世の茶毘跡5基・木炭窯1基、土坑15基・溝2本・ピット等、陶磁器・板破片・石製品・縄文土器・石器等が出土した。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。試掘調査と本調査の一部で検出した遺構については本章で報告し、本調査の成果は第II部第6章に掲載した。

## (2) 遺構と遺物

## ① 炉穴

炉穴はトレンチ5で1基検出し、縄文時代に属するとみられる。平面形態は不整形を呈し、規模は上端径55×55cm、下端径19×19cm、深さ12cm、焼土範囲は40×40cmで足場はない。

## ② 落とし穴 (第36表)

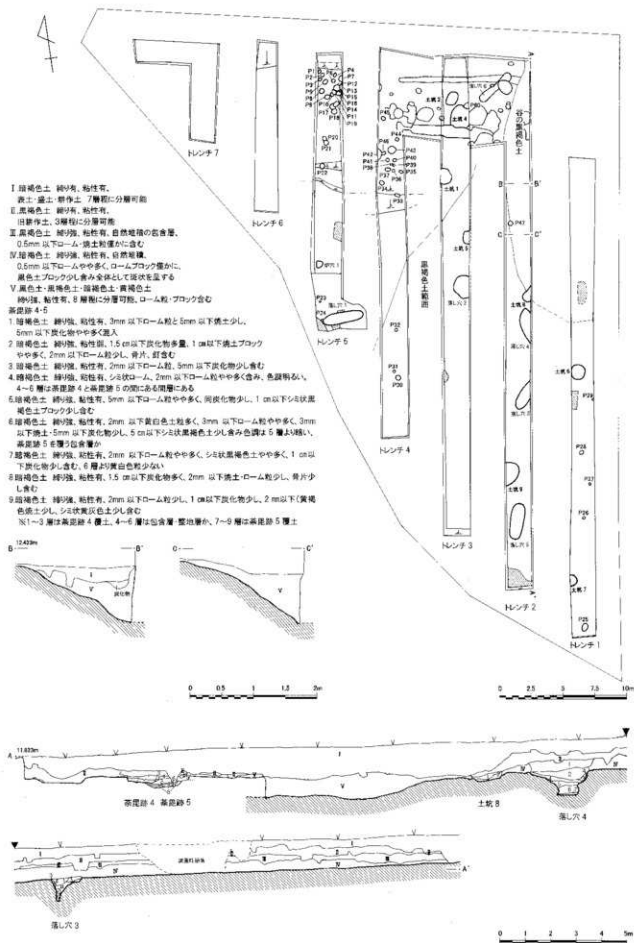
落とし穴は試掘調査と本調査合わせて6基検出した。調査区南側のやや高い位置に集中し、時期は縄文時代に属するとみられる。

## ③ 土坑 (第37表)

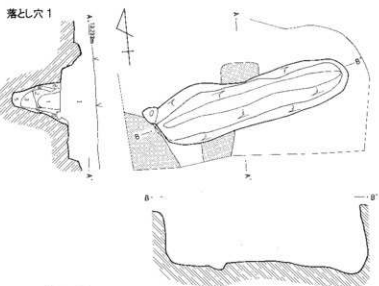
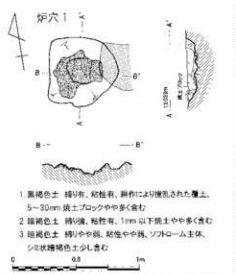
土坑は試掘調査と本調査合わせて16基検出した。土坑6はフラスコ型を呈し、土坑5・6・9は掘り込みも深く落とし穴の分布範囲と近い。縄文時代に属するとみられる土坑は調査区南側、中世以降の土坑は調査区北側に分布する。

## ④ ピット (第38表)

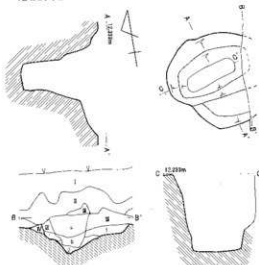
ピットは61基検出し調査区北側に集中している。ピット21はピット底部付近に拳大の自然礫数点が出土した。ピット26・28・43は縄文時代の可能性があるが、それ以外は全て中世以降のものとみられる。



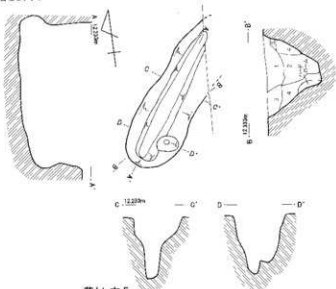
第50図 淨禪寺跡遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60・1/150)



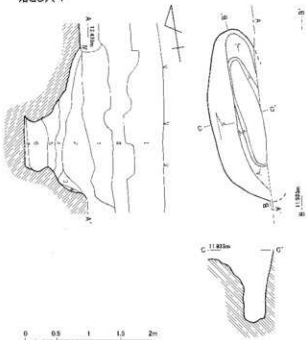
落とし穴 2



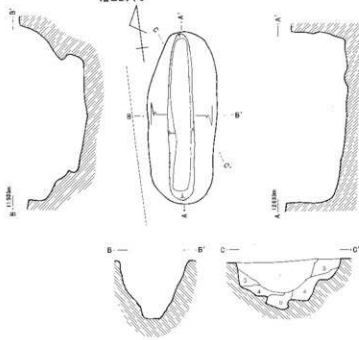
落とし穴 3



落とし穴 4



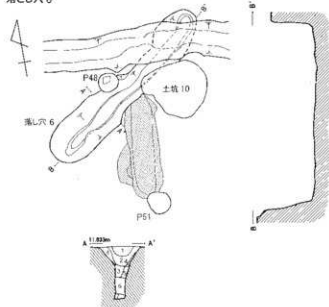
落とし穴 5



第51図 浄禅寺跡遺跡第30地点炉穴 (1/30)、落とし穴 1~5 (1/60)



## 落とし穴6



## 落とし穴3-5

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、両側土僅かに含む
  2. 黒色土 粘り強、粘性有、1~2cm暗褐色土・ロームブロック散在にやや多く含む
  3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、同級土粒僅かに含む
  4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・黒色土ブロック散在に堆積、散在する
  5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、色調黄灰系、1~1.5cmローム粒やや多く含む
  6. 黒色土 粘り強、粘性有、上面に土比や中や細い、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 落とし穴4
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、0.5mm以下ローム粒・細土粒僅かに含む
  2. 黒褐色土 粘性有、1層より粘り強くない、1mm以下ローム粒 2mm以下無土粒僅かに含む
  3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シロ状ローム土やや多く、2mm以下ローム粒・土少し含む
  4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、頂次に黒色土や3cm以下ロームブロックやや多く2mm以下無土粒僅かに含む
  5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、頂次に2cm以下ロームブロック多く、1.5cm以下黒褐色土ブロック少し含む
  6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム多く含む暗褐色土の微少な堆積、2cm以下ロームブロック多く含む
  7. 黒褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体に3cm以下黒褐色土ブロック多く含む

## 落とし穴1

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、頂上ソフトロームブロック少し含む
  2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
  3. 黄褐色土 粘り有、粘性有、2層より粘り強ソフトローム主体、5mm以下ローム粒多く含む、5mm黒色土点在
  4. 黄褐色土 粘り強、粘性有、2層より粘り強、ローム分更に多く色調明い、5~10mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒少し含む
  5. 黄褐色土 粘り有、粘性有、3層より粘り強、ソフトロームベースに3cm以下ハードロームブロック多く含む
  6. 黄褐色土 粘り強、粘性有、頂上暗褐色ハードロームブロック主体、ソフトローム・暗褐色土ベースに間に堆積、色調暗
- 落とし穴2
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、植物根層混
  2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1~2層主体、植物根層混
  3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、頂上ローム粒やや多く、白色粒少量含む
  4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム多く含む黄色味、2cm以下ロームブロック・黒褐色土ブロック混ざり混在、2mm以下ローム粒やや多い

## 落とし穴6

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シロ状に1cmロームブロック少し、2mm以下無土粒かに含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、シロ状に2cm以下ロームブロックやや多く、2mm以下無土粒かに含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2層より色調明い、2cmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む、2mm以下の黒土・黒色粒少量混ざり目立つ
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体で2層より暗褐色土含む
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロックと暗褐色土が混ざり混在、うっすら頂上に混在、1mm以下黒色粒僅かに含む
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し、2mm以下ローム粒多く含む、ローム粒形明瞭、3mm以下無土粒かに含む
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く含む

0 0.5 1 1.5 2m

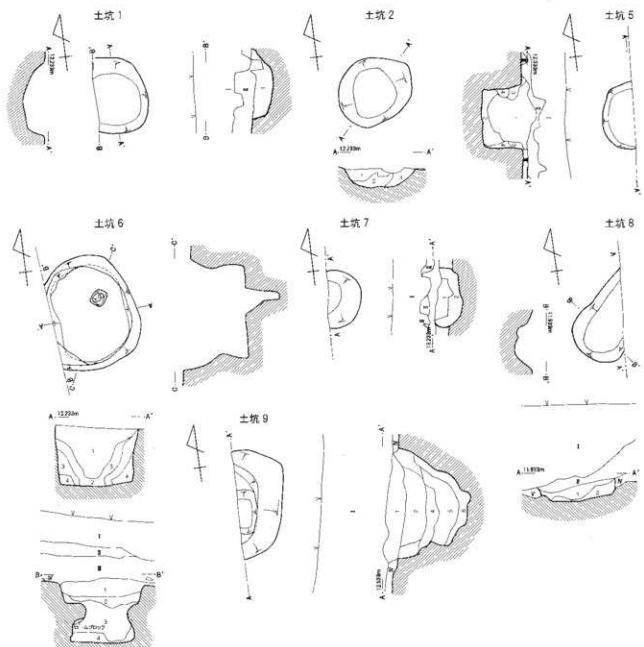
第52図 浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴6 (1/60)

第36表 浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底面	深さ
落とし穴1	長楕円形	315×76	294×21	115
落とし穴2	楕円形	(120)×100	82×27	120.8
落とし穴3	長楕円形	(236)×89	223×21	101.4
落とし穴4	長楕円形	(281)×(71)	173×32	111.8
落とし穴5	長楕円形	273×109	242×30	97.4
落とし穴6	長楕円形	312×67	276×19	94.1

第37表 浄禪寺跡遺跡第30地点土坑一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	120×(81)	83×(69)	36.4	不明
2	楕円形	125×104	78×74	29.1	中世～
3	三角形	(660)×(410)	618×(370)	123.2	
4	円形	(181)×164	51×51	35.7	中世～
5	不明	106×(49)	90×(40)	66.8	縄文
6	楕円形	181×(135)	150×110	97.5	縄文
7	不明	93×(52)	53×(21)	21.9	縄文
8	不明	(116)×93	(97)×60	35.8	不明
9	不明	171×(75)	43×(22)	118.4	縄文
10	不整形	(80)×84	78×67	28.8	不明
11	不明	141×(87)	85×(62)	82.1	中世～
12	円形	164×134	55×35	21.9	中世～
13	茶臼跡4に名称変更				
14	円形	123×115	91×87	39.4	中世～
15	不明	79×(36)	32×(7)	20.8	中世～
16	不整形	(162×135)	(70×52)	26.6	中世～



土坑 1  
1 緑褐色土 粘り強、粘性有、5~10mmロームブロック多く、ローム粒多量に含む

土坑 2  
1 緑褐色土 粘り強、粘性有、5cm以下ロームブロック・粒状ローム多く  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む  
3 緑褐色土 粘り強、粘性有、ソラロームベースに2cm以下ロームブロック多く、黒褐色土ブロックやや多く含む

土坑 5  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒均一に少し含む  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し、2cm以下ローム粒やや多く含む  
3 緑褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下ローム粒僅かに含む  
4 緑褐色土 粘り強、粘性有、ロームベースに少し状緑褐色土含む

土坑 6  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム・粒土粒少し含む  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く5mm粒土僅かに含む  
3 緑褐色土 粘り強、粘性有、5cm以下ロームブロック反状に多く3mm以下ローム粒やや多く含む  
4 黄褐色土 粘り強、粘性有、ロームベース、ローム粒の密な堆積、緑褐色土均一に含まれた様な土質

土坑 7  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、動植物によるロームの混入  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、IV層より黒色球状1mm以下ローム・ローム粒僅かに多く含む

土坑 8  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1cmロームブロック僅かに含む  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロックやや多、ローム粒少し含む

土坑 9  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、IV層より異なる粒状緑褐色土含まない  
2 黒褐色土 粘り強、粘性有、1mm以下ローム粒・塊土粒僅かに含む  
3 緑褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下ローム粒・塊土粒少し、緑褐色土ブロック20cm以下）反状少し含む

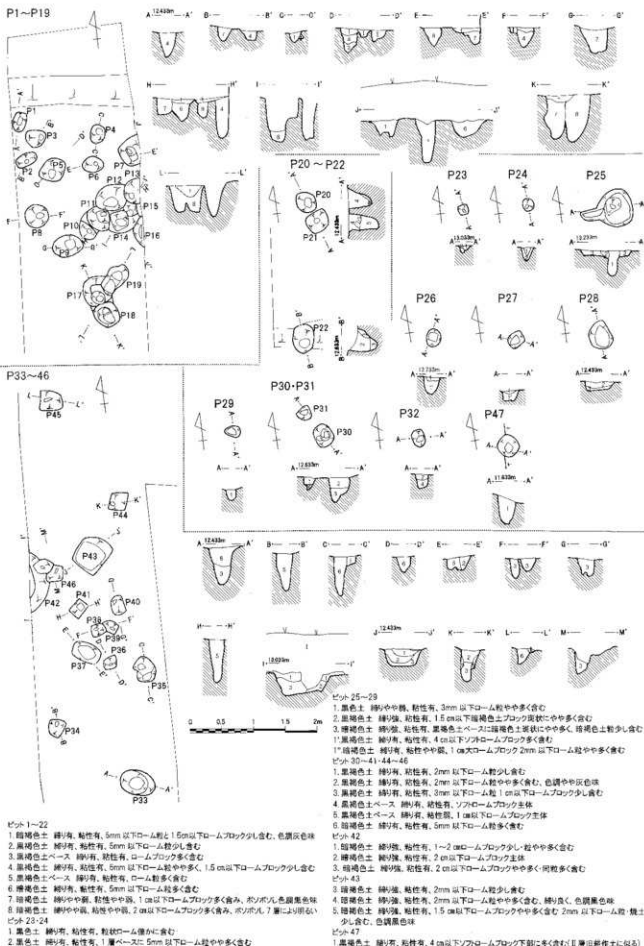
4 黄褐色土 粘り強、粘性有、ロームベース、一旦堆積がここで止まっていた様で上部は動植物物の黒色エやハードロームブロックが反状反状する  
5 黒褐色土 粘り強、粘性有、緑褐色土ブロックと黒褐色土の密な堆積でうずら反状する、2mm大塊土粒少し含む  
6 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム多く含む、黒褐色土ブロック含む、うずら反状する

土坑 10  
1 緑褐色土 粘り強、粘性有、硬化した、黒色土で2mm以下ローム粒やや多く含む  
2 緑褐色土 粘り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下黒褐色土粒少し含む  
3 緑褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む色調異なり

土坑 11  
1 黒褐色土 粘り強、粘性有、緑褐色土ベースにシロ黒褐色土多く、5~30mm ロームブロックやや多く、ローム粒少し含む  
2 緑褐色土 粘り強、粘性有、最大6cm平均5~20mmロームブロック含む

0 0.5 1 1.5 2m

第53図 淨輝寺跡遺跡第30地点土坑 (1/60)



第54図 浄祥寺跡遺跡第30地点ピット・溝 (1/60)

第38表 浄禪寺跡遺跡第30地点ピット一覧表

(単位:cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
1	方形	31×21	11×7	40.4
2	方形	30×28	10×8	33.3
3	楕円形	34×19	7×6	24.3
4	方形	28×22	10×9	24.0
5	方形	37×35	15×11	38.9
6	楕円形	35×27	6×5	29.5
7	不明	44×(34)	10×5	47.6
8	円形	38×37	14×8	49.7
9	楕円形	49×34	15×15	52.5
10	楕円形	30×20	8×7	29.5
11	不明	39×(36)	9×6	-
12	円形	55×45	24×16	38.5
13	不明	41×(24)	9×8	73.0
14	方形	29×27	19×12	73.4
15	不明	(25×20)	10×(10)	35.7
16	不明	49×(16)	22×4	24.0
17	円形	48×48	12×9	71.9
18	方形	39×37	11×9	78.6
19	方形	55×30	20×16	49.8
20	方形	33×31	15×10	38.2
21	方形	34×32	8×7	43.2
22	方形	45×33	17×15	47.3
23	方形	17×16	8×3	15.5
24	方形	19×17	8×5	30.2
25	不整形	83×59	9×5	52.4
26	方形	27×22	14×14	32.0
27	方形	25×22	16×13	22.0
28	円形	45×33	35×23	17.4
29	三角形	26×18	15×10	23.7
30	方形	35×29	10×8	55.9
31	三角形	23×21	12×8	25.3

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
32	方形	27×20	12×9	30.0
33	楕円形	55×38	25×19	66.3
34	方形	28×25	10×6	67.8
35	不整形	38×31	10×9	66.7
36	方形	20×19	8×3	29.2
37	方形	45×29	27×20	23.7
38	方形	22×19	9×4	37.6
39	不明	(26)×19	9×3	21.1
40	方形	30×21	8×7	38.4
41	方形	25×20	10×10	71.9
42	不明	95×(30)	52×(9)	27.2
43	方形	55×49	40×38	29.6
44	方形	27×27	8×6	52.4
45	方形	35×32	14×5	28.3
46	不明	26×25	9×3	52.0
47	方形	31×31	13×12	47.7
48	円形	31×30	12×10	47.1
49	楕円形	51×35	30×24	54.7
50	円形	28×26	10×5	20.4
51	円形	35×34	9×7	65.2
52	方形	47×46	10×4	26.9
53	円形	34×31	14×13	11.8
54	円形	42×38	18×16	9.3
55	方形	29×25	14×13	16.3
56	不整形	67×40	25×8	40.2
57	不明	70×(17)	50×(11)	25.0
58	楕円形	53×37	13×11	20.3
59	方形	80×78	47×42	65.0
60	不整形	98×64	13×7	51.5
61	円形	30×23	14×5	42.5

## V 浄禪寺跡遺跡第31地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年1月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、南側に隣接する第27地点には縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘調査を実施した。試掘調査は同年2月19日から行ない、残土置き場の関係から調査区を東西に分け、初めに東側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。縄文時代の遺構が確認されたため申請者と協議を行ない、本調査に切り替え3月5日まで本調査を実施した。東側調査区に続き西側半分を調査し、縄文時代の住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ピット26基を検出、縄文土器・石器等の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① 3号住居跡

【形状・規模・時期】調査区南側の第27地点寄り、

2号住居跡の北約17mに位置する。

平面はほぼ円形を呈し、断面は僅かに掘り込みが確認できる程度で、表土層の下がほぼ床面といえる。

規模は4.2m×4.1m、深さは7cmを測る。

住居跡の主軸は埋裏1・2と炉を結ぶ線である。加曾利EⅢ期。

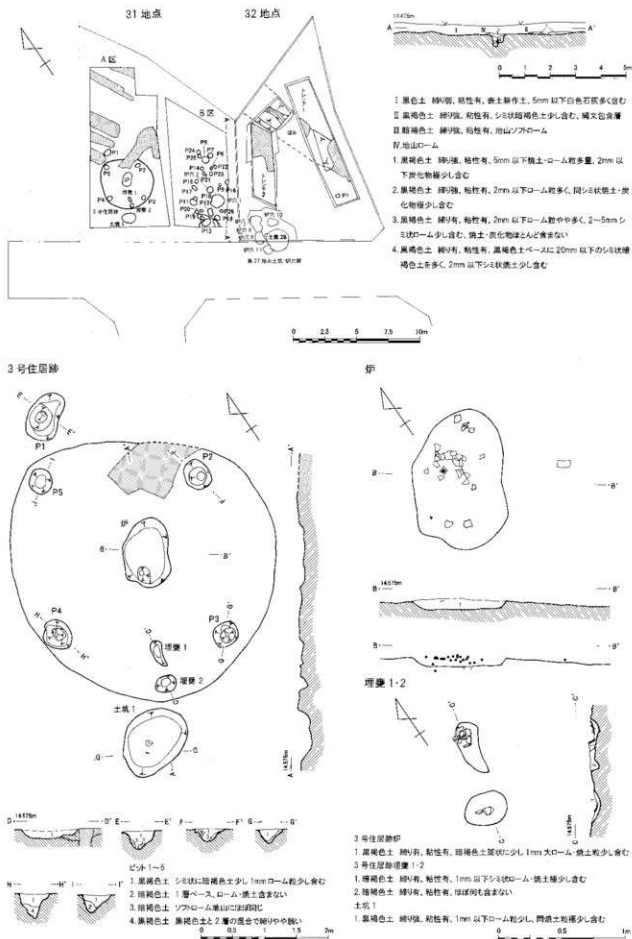
【炉】住居中央部に位置し平面は楕円形を呈する。覆土層に1mm大焼土粒を少し含むが焼土面はみられない。規模は確認面径110×73cm、底径90×62cm、深さ11.8cmで西側に深さ6cmの小ピットがみられる。

【埋裏1・2】住居内の西側、ピット1・2の間とピット3・4の間から炉を結ぶ線上に東西に並ぶ。

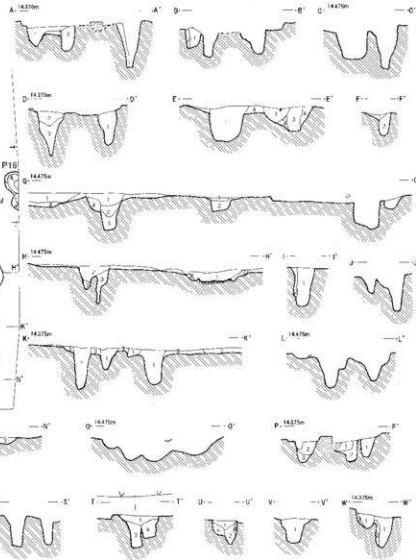
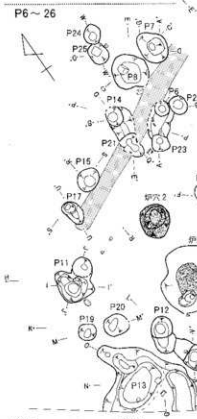
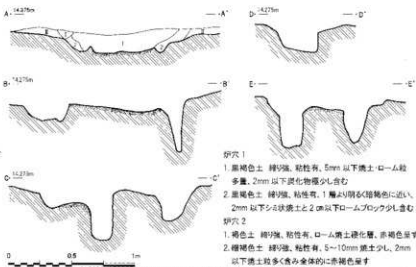
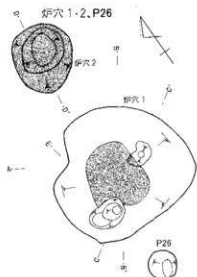
埋裏1は東側に位置し、底部を下にした正位置の状態出土した。平面形態は楕円形で上端45×18cm、下端20×10cm深さ5.7cmを測る。

埋裏2は西側に位置し、底部を下にした正位置の状態出土した。平面形態は楕円形で上端35×27cm、下端16×13cm深さ10.3cmを測る。

【柱穴】主柱穴は4本で、第39表浄禪寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表中のPNo.2～5である。



第55図 淨禪寺跡遺跡第31・32地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、  
 3号住居跡・土坑1・ピット1 (1/60)、炉・埋壘 (1/30)



ピット 6-9・11・14-18・21-26

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、同シリカ状炭土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、2~5mmシリカ状ローム少し、炭土・炭化物ほとんど含まない
3. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2~3cmローム多く、2mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 粘り有、粘性有、2cm以下シリカ状炭褐色土多く、同シリカ状炭土少し含む (P19の3層と同じ)

ピット 12-13-19-20

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、同炭土やや多く、同炭化物少し含む
2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下炭土粒多量、同ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下シリカ状炭褐色土多く、2mm以下シリカ状炭土少し含む
4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、炭土粒含まないこと以外は3層と同じ

第56図 浄禅寺跡遺跡第31地点炉穴 (1/30)、ピット (1/60)

## 【遺物出土状況】

炉の底部から覆土層に集中する程度で、住居跡床面や覆土層からは僅かに出土するのみである。

## 【3号住居跡出土遺物】(第57図1~20)

1は埋裏1の深鉢形土器胴部下半から底部で、底径7.5~8cm残存高12.9cmである。地文RL縄文に沈線の懸垂文を幅広に配し、区画内を磨消す。2は埋裏2で底径7.5cm残存高12.6cm、施文方法は埋裏1と同じで、加曾利EⅢ式である。3、4は深鉢形土器の口縁部片で、隆帯と沈線で区画内に地文縄文を施す、加曾利EⅡ式新相。5~6は深鉢形土器の口縁部で地文LR縄文に沈線で「 $\cap$ 」状区画を配し、中を磨消す。7~19は地文縄文に幅広沈線間を磨消す、加曾利EⅢ式。20は口縁部無文帯直下に沈線を施す。

## ② 炉跡

炉跡は南側のB区調査区から2基検出した。覆土層の観察から縄文時代に属するとみられる。本調査区南側約3mの第27地点では、縄文時代早期とみられる炉穴5基がまとまって検出されている。本遺構については、表土層から縄文時代早期の条痕文系土器片が出土していることも考慮し、屋外での調査段階では早期の炉穴と考えていた。しかし遺構内からの出土遺物は無く、周辺のピットの配置状況や周辺出土の土器片から、縄文時代中期末から後期にかけての柄鏡型住居跡に伴う炉の可能性も考えられるため今回は炉跡とした。

【炉跡1】平面形態は不整形を呈し、規模は上端径109×100cm、下端径54×45cm、深さ14.7cm、焼土範囲は底部が焼けている。炉内に深さ37.8cmと39.8cmの小ピットが2ヶ所みられる。

【炉跡2】平面形態は円形を呈し、規模は上端径55×46cm、下端径25×20cm、深さ24.1cm、焼土範囲は炉内全面に広がる。

## ③ 土坑・ピット (第39表)

土坑は3号住居跡の南側に位置し、縄文時代中期に属するとみられる。

ピットはB区に集中し、ピット6~26は配置から縄文時代中期から後期の住居跡に伴う柱穴の可能性がある。

## ④ 3号住居跡以外から出土の縄文土器・石器 (第57図21~45)

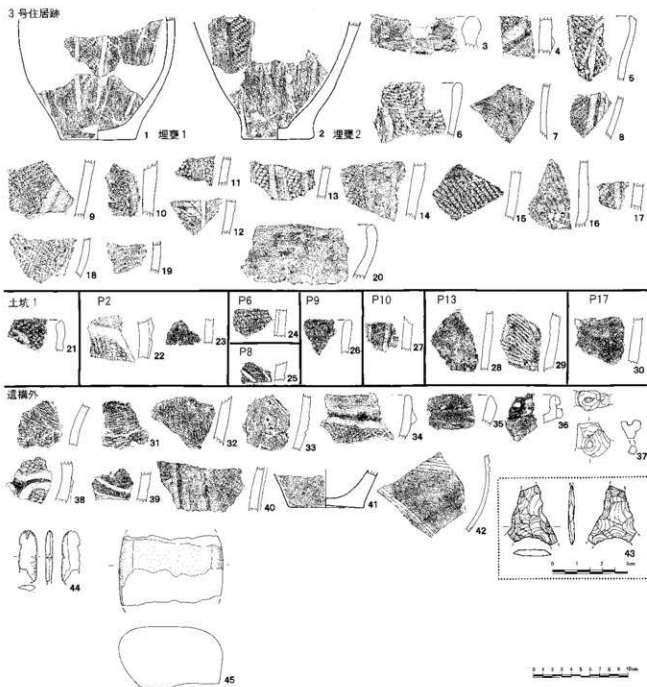
3号住居跡以外の遺構と遺構外から出土した遺物を一括する。土坑・ピットの覆土層出土の縄文土器・石器も、明らかに遺構本来の時期を示すものではないと判断した。

21は深鉢形土器口縁部片で地文LR縄文に沈線を施す加曾利EⅢ式。22は隆帯と沈線の区画内に縄文を施す。23・26・28・30は無文、24はRL縄文、25・27は沈線間を磨消す。29はLR縄文に沈線の懸垂文を施す。22~30は加曾利EⅡ~Ⅲ式。31・32は胎土に繊維を含み、内外面に貝殻条痕文を施す早期の条痕文土器である。33は集合条線に半截竹管の刺突を施す諸磯C式。34は口縁部に横位の断面三角形の隆帯を貼り付け胴部に地文LR縄文を施す、35は無文口縁部片で加曾利EⅣ式。36は内曲する口縁部に円形刺突と沈線を施す堀之内式、37は円孔のある口唇部突起加曾利B2式。38は隆帯と沈線の区画内に縄文を施し、39は沈線間を磨消す。40は地文LR縄文で、断面三角形の微隆起帯懸垂文を貼り付け間を磨り消す加曾利EⅣ式。41は深鉢形土器の底部で底径8cmの加曾利E式。42は内外面に磨きを施し、横位と斜位の沈線文を施す精製土器。

43は頁岩製石鏃で重さ1.32g、44は頁岩製切目石鏃で重さ9.15g、45は花崗岩製石棒片で重さ963.63gである。

第39表 浄祥寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表  
(単位:cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑	楕円形	116×92	91×66	21.1	
P1	楕円形	80×51	10×4	29.1	
P2	円形	49×42	14×13	23.2	3号住居
P3	円形	40×36	10×4	23.7	3号住居
P4	円形	52×45	13×4	44.8	3号住居
P5	円形	39×35	22×16	20.4	3号住居
P6	円形	24×23	11×11	40	
P7	楕円形	56×45	12×9	76.1	
P8	方形	57×56	33×31	47.5	
P9	方形	26×23	11×9	?	
P10	円形	53×47	26×19	24.1	
P11	不整形	74×65	17×16	62.9	
P12	楕円形	58×36	16×15	50.1	
P13	方形	81×50	61×35	29	
P14	円形	32×26	15×14	38.4	
P15	円形	39×33	18×18	51.3	
P16	不明	60×(22)	14×(7)	49.7	
P17	楕円形	42×24	10×7	36.8	
P18	三角形	42×35	15×15	41.5	
P19	円形	28×25	14×9	73.6	
P20	円形	40×33	21×12	38	
P21	瓢箪型	40×30	24×10	33	
P22	円形	29×26	15×14	37.4	
P23	方形	27×26	10×10	50.1	
P24	円形	28×26	13×12	32.4	
P25	方形	34×27	14×13	58.8	
P26	円形	22×22	15×7	27.3	



第57図 浄禪寺跡遺跡3号住居跡・土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

## VI 浄禪寺跡遺跡第32地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月19日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、東側に隣接する第31点で縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘

調査を実施した。試掘調査は同年2月25日から3月4日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、堀跡1本、ピット1基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行なっていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なうため戻して調査を終了した。





## 第19章 大井宿遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は国道254号線川越街道沿いの旧大井宿の宿場範囲内にある。大井宿は全長約1.5kmで、砂川堀右岸の標高27mの台地上から始まり、砂川堀を渡って左岸の標高21~22mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000年に遺跡範囲外の2ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間(1624~1643)に整備された日本橋から川越に至る11里(約44km)の道の呼称で、街道に存在した6つの宿駅(上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井)の1つが大井宿である。

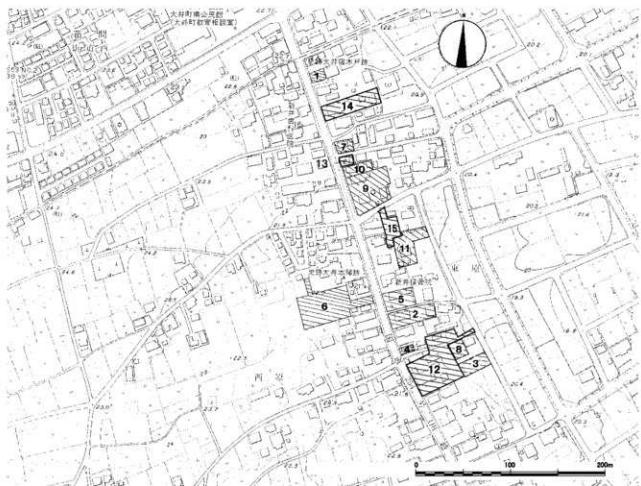
大井宿遺跡では2008年1月現在、15地点で調査が行なわれ、中世~近代の遺構・遺物が検出されている。

### II 大井宿遺跡第15地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2007年6月28日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に立地しているため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。調査に使用した重機は申請者より提供を受けた。

試掘調査は2007年8月1日から10日まで行なった。幅約1.7~2mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査したところ遺構らしき黒色土を確認した。出土遺物と覆土層から近世以降の井戸・土坑・溝・ピット等と思われる。確認面まで約1.3mあり建築による遺跡への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



第59図 大井宿遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## (2) 遺構と遺物

## ①土坑・ピット・溝

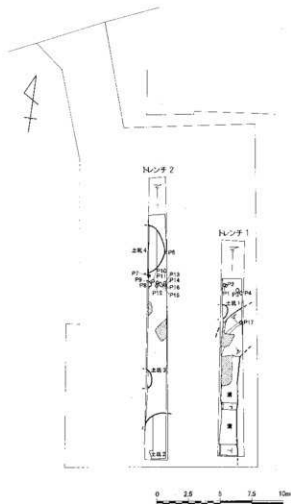
遺構はトレンチの確認であるため全貌が判明するものはない。土坑2・4が井戸とみられる。

ピットはトレンチ1・2で東西に続くピット群を確認した。P17を除くピットは欄列状に続く。

溝はトレンチ1で南北から東西に湾曲する。断面は逆台形状を呈し、規模は上幅(270)、下幅20cm、深さ59cmを測る。

第40表 大井宿遺跡第15地点土坑・ピット一覧表 (単位:cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	(113×27)	(90×25)	20.6	
土坑2	不明	(380×170)	(298×82)	57	
土坑3	不明	(131×48)	-	40	
土坑4	不明	(375×135)	(324×55)	74.8	
P1	不明	(46×23)	(20×17)	49.4	
P2	方形	30×29	12×6	63.7	
P3	方形	32×29	10×9	41.9	
P4	不明	30×(20)	15×12	43.6	
P5		欠番			
P6	不明	27×(17)	11×9	16.3	
P7	不明	21×(13)	12×(7)	24.8	
P8	不明	40×(20)	18×15	46.7	
P9	不明	28×18	10×9	31	
P10	方形	27×27	12×8	43.2	
P11	方形	24×22	9×9	46.8	
P12	方形	20×20	11×10	32.9	
P13	方形	24×20	9×8	38.8	
P14	方形	19×18	9×6	41.3	
P15	方形	29×21	7×6	30	
P16	不明	(20×6)	(14×4)	8.2	
P17	方形	30×26	19×16	18.5	



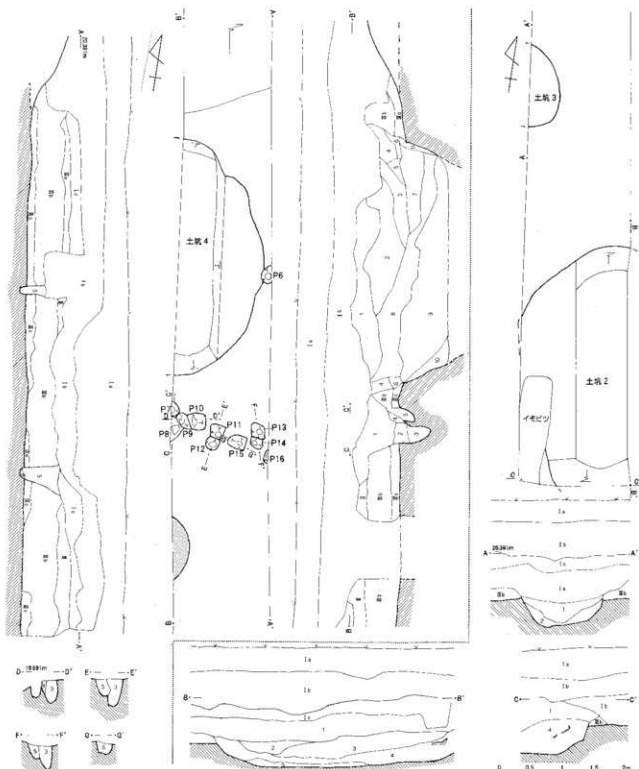
第60図 大井宿遺跡第15地点遺構配置図 (1/300)

## ②出土遺物

第41表 大井宿遺跡第15地点出土遺物観察表

(単位:cm・g)

掲載No	出土遺構名	種別・器種	口径・長さ	底径・幅・内径	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代	備考
1	土坑1	陶器/榿鉢	(34.8)	-	(8.3)	ロクロ・継作り/器目7本単位	丹波	1690~1700年代	
2	土坑2	磁器/碗/厚手碗	9.8	4.2	5.2	ロクロ/染付菊草花文・高台内扇し渦福/二次焼成肌	肥前	1750~1770年代	
3	土坑2	磁器/碗/煎茶碗	(7.1)	(4.0)	5.2	ロクロ/染付菊草花文・口縁内二重渦線	肥前	1770~1780年代	
4	土坑2	磁器/小杯	-	2.9	(2.7)	ロクロ/染付草文	肥前	1630~1650年代	
5	土坑2	陶器/碗/半球碗	9.1	3	5.7	ロクロ/灰釉・上絵付(赤・緑)松文	瀬戸・美濃	1760~1820年代	
6	土坑2	陶器/碗/せんにじ碗	-	4	(3.2)	ロクロ/灰釉	瀬戸・美濃	1730~1820年代	
7	土坑2	陶器/碗/小杉碗	-	-	(4.2)	ロクロ/灰釉・鉄絵若松文	伊楽	1750~1770年代	
8	土坑2	陶器/皿/摺鉢皿	(12.2)	5.1	3.7	ロクロ/灰釉・呉須摺絵花文/御深井輪	瀬戸・美濃	1720~1790年代	
9	土坑2	陶器/榿鉢	34.4	15.4	14	ロクロ・継作り/器目8本単位/見込駒形蓋	丹波	1690~1700年代	
10	土坑2	陶器/燈火皿	10.5	5.6	2.7	ロクロ・底部へら削り/鉄泥/見込ハマ路・口縁ケール付き	志戸呂	1680~1800年代	
11	土坑2	土器/焙烙/瓦質	(37.5)	33.9	5.1	内耳断面逆L字形/内耳磨耗痕顕著/口唇部内外面磨け付き	在地	1680~1780年代	
12	土坑2	石製品/白/上白	(30.2)	-	10.3	石材・砂質/産まわし白/目目は磨滅。下面は摩耗による彫割が著しい。	-	-	重量 2,050g
13	土坑3	磁器/碗/厚手碗	-	-	(1.8)	ロクロ/染付主文様不明・高台内扇し「大明年製」	肥前	1680~1740年代	
14	土坑3	磁器/高差掬口	-	-	(2.1)	ロクロ/染付草原文	肥前	1700~1780年代	
15	溝	磁器/碗/溜灰碗	(8.2)	2.9	4	ロクロ/染付花文・見込花文	瀬戸・美濃	1840~1850年代	
16	溝	陶器/榿鉢	-	(12.2)	(7.9)	ロクロ・底部右回転糸切/鉄輪/器目13本単位/重ね焼き跡	瀬戸・美濃	-	
17	トレンチ1	磁器/皿/染付輪巻皿	14	7.1	3.1	ロクロ/染付見込五弁花菊草原文	肥前	1720~1770年代	
18	トレンチ1	陶器/碗/小杉碗	(7.0)	(2.4)	4	ロクロ/灰釉	伊楽	1750~1770年代	
19	トレンチ1	陶器/碗/小杉碗	9.2	3.2	5.4	ロクロ/灰釉	伊楽	1750~1770年代	
20	表土	磁器/碗/厚手碗	(10.2)	-	(4.1)	ロクロ/染付印判手舟形菊葉文	肥前	1750~1770年代	
21	表土	磁器/碗/厚手碗	(10.8)	-	(4.1)	ロクロ/染付印判手松草花文	肥前	1680~1740年代	
22	表土	磁器/皿/厚手L字高台皿	(13.6)	-	(2.7)	ロクロ/染付	肥前	1700~1820年代	



土坑1

1. 黒褐色土 埴り強、粘性强、1 cm以下ブロック土主体で空層有、酸化土含む、5~10mm 炭化物、5 cm以下塵少し含む
2. 黒褐色土 埴り強、粘性强、1 層に程似、酸化土やや多く、1.5 cm以下赤褐色ロームブロック、5 cm以下塵少し、3mm以下ローム粒・炭化物僅かに含む

土坑2

1. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、7 cm以下内層やや多く含む、5mmブロック状黒褐色土やや多く、2mm以下ローム粒僅かに含む
2. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、5mm以下黒褐色土ブロック・粒主体、5 cm以下塵やや多く含む
3. 黒褐色土 埴り強、粘性强、15 cm大、7 cm以下内層主体の暗褐色砂礫層
4. 黒褐色土 埴り弱、粘性强、5~50mm 炭化物比較的多く含む、1 cm以下ロームブロック、陶磁器類大形・破片出土

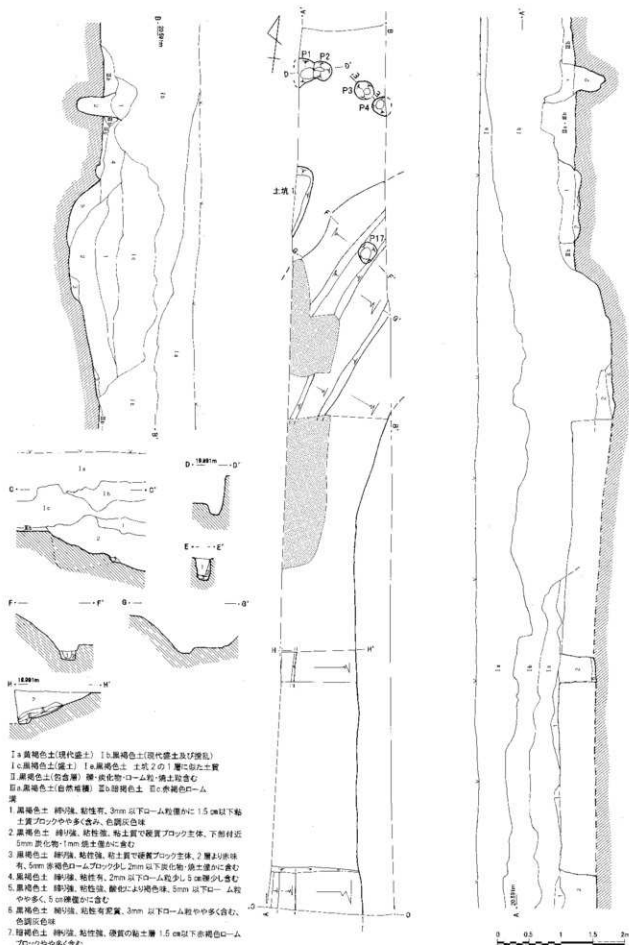
土坑3

1. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、21cm以下内層非常に多く含む、埴り外に混入物少ない
2. 黒褐色土 埴りやや弱、粘性强、黒褐色土ブロック・ロームブロック少し含む

土坑4

1. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、最大 15 cm、5 cm以下内層多く含む、2 cm以下黒褐色ロームブロック多く含む
2. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、7 cm以下内層やや多く含む、1 cm以下ブロック状黒褐色土僅かに含む
3. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、4 cm以下塵少し、2mm以下ローム粒、微土層かに含む
4. 黒褐色土 埴り弱、粘性强、地山より層がソレ化、2mm以下ローム粒僅かに含む
5. 黒褐色土 埴り強、粘性强、3mm以下ローム粒僅かに含む
6. 赤褐色土 埴り強、粘性强、4層と間層に黒山豆と層ソレ化、1mm以下ローム粒僅かに含む、4層と似た層基土の可能性あり
7. 黒褐色土 埴りやや弱、粘性强、5mm以下赤褐色ローム粒少し含む、埴りほとんど含まない
8. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、最大 13 cm平均 4 cm以下内層多く含む
9. 黒褐色土ベース 埴り弱、粘性强、最大 10 cm平均 4 cm以下内層多く含む、黒褐色土多く含む
10. 黒褐色土 埴り弱、粘性强、1.5 cm以下赤褐色ロームブロック、5 cm以下塵やや多く含む
11. 黒褐色土 埴り弱、粘性やや弱、5mm以下赤褐色ローム粒多く、5~10mm 黒褐色ロームブロック少し含む

第61図 大井遺跡第15地点トレンチ1土坑・ピット① (1/60)



第62図 大井宿遺跡第15地点トレンチ2ピット②・溝(1/60)

## ピット1~4

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下赤褐色ローム粒少し、3cm赤褐色ロームブロック、2mm以下焼土僅かに含む  
 2. 黒褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下赤褐色ロームブロックやや多く、2mm以下ローム粒少し含む  
 3. 黒褐色土 粘り強、粘性有、混入物少なめ、1cm赤褐色ロームブロック、5mm以下ローム粒少し含む

## ピット5~15

1. 黒褐色土 粘り有、粘性有、ブロック状黒褐色土多く、2mm以下ローム粒、3mm以下焼土少し、2cm燻土に含む、広範囲に広がる

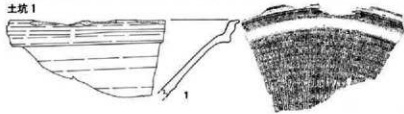
2. 黒褐色土 粘り有、粘性有、灰色味有、1cm以下赤褐色ロームブロック粒やや多く、1mm以下黄褐色粒・焼土少量含む  
 3. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下黄褐色ロームブロック、3mm以下ローム粒少し含む

4. 黒褐色土 粘り強、粘性有、(面付付近)1.5cm以下赤褐色ロームブロックやや多く含む  
 5. 黒褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ソフト黄赤褐色ロームブロック粒やや多く含む  
 6. 赤褐色土 粘りやや弱、粘性有、黒褐色土ベースに1cm以下赤褐色ロームブロック粒多く含む

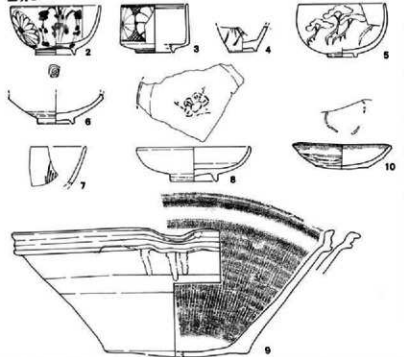
## ピット17

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm赤褐色ロームブロック多く含む  
 2. 黒褐色土ベース 粘り強、粘性有、色調は赤褐色、5~10mm赤褐色ロームブロック主体

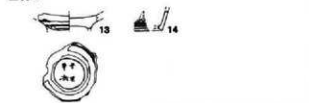
## 土坑1



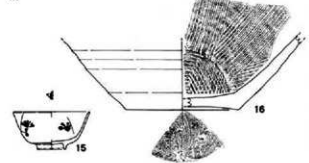
## 土坑2



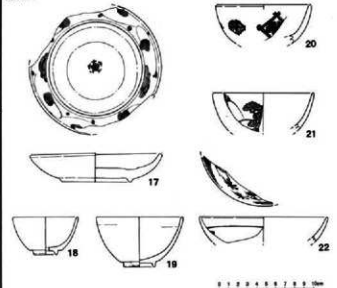
## 土坑3



## 溝



## 遺構外



第63図 大井宿遺跡第15地点出土遺物 (1/4・1/6)

## 第20章 大井氏館跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

本遺跡の名称は『埼玉の館城跡』（1972埼玉県教育委員会）によるもので、平安時代末から鎌倉時代に活躍した武蔵七党の一つ、村山党の大井氏一族の館跡という想定による。

遺跡は砂川堀左岸（北側）の舌状に張り出した微高地上の標高21～22mに立地する。砂川堀の対岸は段丘面を形成しており、比高差5mの崖になる。

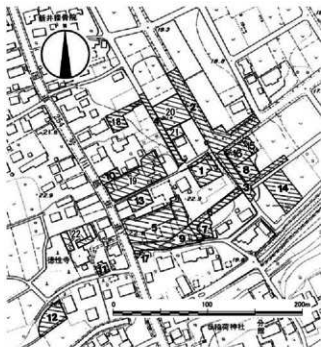
周辺の遺跡は北側に大井宿遺跡、西側に中世村落の本村遺跡が隣接する。砂川対岸には西から西台遺跡、大井戸上遺跡、東台遺跡が位置する。また旧大井町の町名の由来となった大井戸跡（復元大井戸）も本遺跡内に立地する。

2008年2月現在21地点で試掘調査および発掘調査を行ない、A T降灰前の立川ローム層第VI層段階の石器群や、縄文時代前期の住居跡を検出している。また、遺跡の中央部を川越街道が南北に貫通しており、街道周辺は中世から近代までの遺構や遺物も多数確認され多岐にわたる。近年の区画整理後は再開発による中小の開発が増えている。

### II 大井氏館跡遺跡第22地点

#### (1) 調査の概要

調査は徳性寺の客殿、庫裏の建替えに伴うもので、



第64図 大井氏館跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

原因者より2007年9月21日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、同寺の本殿や敷地内の発掘調査からも大井宿に関する遺構と遺物が多数確認されているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認する試掘調査を実施した。試掘調査は2007年11月27日から12月1日まで行なった。幅約1.5mと2mのトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ない礎石、土坑、ピット等を確認した。

申請者と再協議の結果、現地表面から約40cmの盛土をした上に基礎を築く事から遺跡への影響が無いため工事立会いとした。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①礎石

礎石1・2はトレンチ1、礎石3はトレンチ2で検出した。礎石1と礎石2は1.8m離れる。礎石1～3は底部中央部に大型の川原石を置き周辺に角礫を配置する。覆土層はローム主体の版築を行なう等しており同一建物に伴う基礎とみられる。

##### ②土坑・ピット

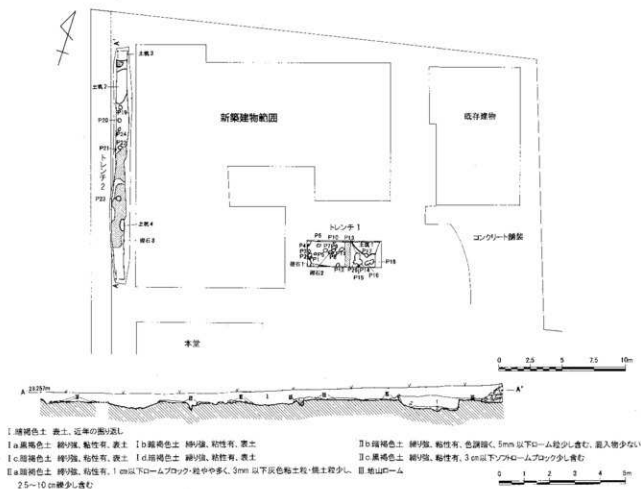
土坑1はトレンチ1、土坑2・3はトレンチ2で検出した。

ピット3は一部のみ検出したため平面形態、規模とも不明である。

土坑・ピットは全て近世以降の時期とみられる。

##### ③出土遺物

遺物は調査区西側に位置する土坑2からややまとまって出土している。1から5は土坑2出土で、19世紀前半から中頃の遺物が多くみられる。6は礎石2出土の砥石、7は表土層出土の陶器の瓶掛とみられる。詳細については第43表出土遺物観察表のとおりである。



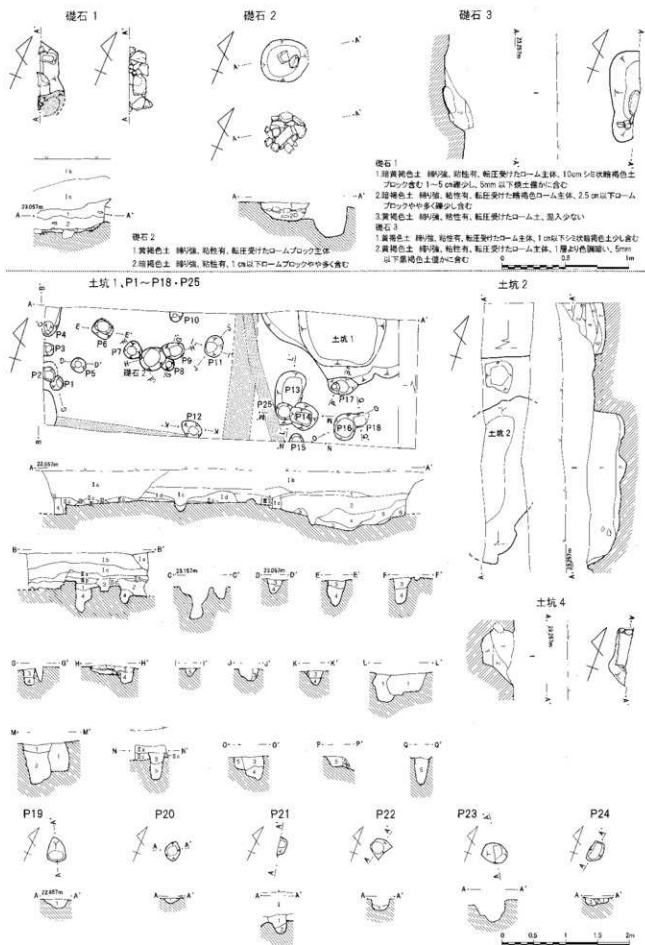
第65図 大井氏館跡遺跡第22地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

第42表 大井氏館跡遺跡第22地点礎石・土坑・ピット一覧表

(単位cm)

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
礎石1	不明	(116×40)	—	27.0
礎石2	円形	37×33	29×24	14.3
礎石3	不明	72×(24)	50×(11)	24.0
土坑1	不明	(195×108)	(107×72)	42.2
土坑2	不明	(258×67)	(156×45)	44.6
土坑3	不明	一部のみ検出で不明		
土坑4	不明	(90×25)	(52×16)	47.3
P1	円形	22×21	12×9	15.4
P2	不明	32×(24)	13×12	51.8
P3	方形	20×16	10×9	18.7
P4	不明	20×(13)	7×4	28.5
P5	円形	23×23	11×10	23.3
P6	方形	32×28	18×15	61.3
P7	円形	28×27	15×14	41.4
P8	不明	18×(16)	11×10	26.2
P9	方形	33×26	21×16	21.6
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
P10	不明	21×(15)	7×6	14.5
P11	円形	34×27	19×17	21.2
P12	楕円形	34×25	15×11	39.7
P13	不明	(53)×45	(42)×29	36.1
P14	円形	45×43	25×17	66.8
P15	不明	23×(12)	16×(9)	37
P16	円形	41×33	30×28	35.6
P17	楕円形	47×28	9×7	32
P18	不明	(26)×22	19×16	45.9
P19	三角形	41×29	23×14	15.8
P20	楕円形	30×23	15×14	9.7
P21	不明	28×(12)	12×(10)	21
P22	不明	30×(24)	18×18	20.7
P23	楕円形	39×31	20×12	32.4
P24	方形	34×23	28×13	16.4
P25	円形	28×26	19×18	49.5





第66図 大井氏館跡遺跡第22地点礎石 (1/30)、土坑・ピット (1/60)

大井氏館跡遺跡第22地点土坑・ピット土層説明

土坑 1

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下炭土・炭化物多く、黒ローム粒・炭色粘土少し含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、2 cm以下ロームブロック・粒や多く、1 cm以下炭化物少し、ブロック状炭色シルト少し、5mm 塵土塵が含む、土管・塵土管混入
- 3. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5~30mmロームブロック僅かに、2mm以下炭化物少し含む
- 4. 埋褐色土 砂り強、粘性有、粒状ローム、1 cm以下ロームブロック、1mm以下塵土塵が含む
- 5. 埋褐色土 砂り強、粘性有、ローム多く含み黒銅粉混、1~4 cm以下ロームブロック・シルト・炭褐色土少し含む
- 6. 埋黄褐色土 砂り強、粘性有、ソノローム主体、石灰状埋褐色土、2 cm以下ハードロームブロック少し含む

土坑 2

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック僅かに、3mm以下ローム粒少し、10cm・4 cm以下粒や多く、5mm以下炭化物・塵土・黒白色粘土塵が含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多く、5 cm以下炭化物少量含む

土坑 3

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、2 cm以下炭化物多く、焼けた瓦・塵土片多く含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒や多く、2 cm以下塵土、1 cm炭化物僅かに含む

土坑 4

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、平均3mm以下塵土多く、5~10mm 塵土少し含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、炭化物塵土に、2 cm以下塵土少し、黒銅粉含む

土坑 5

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3mm以下ローム粒、5mm以下炭化物、1mm以下塵土少し含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、炭化物塵土が含む

土坑 6

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、2.5 cm以下炭化物や多く、1 cm以下ロームブロック・粒塵土部互にやや多く混中、3mm以下塵土塵が含む、黒銅粉含む

土坑 7

- 1. 埋褐色土 砂り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し、1 cmロームブロック僅かに、6~17mm 塵土少し含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 埋褐色土 砂り有、粘性有、1 cm以下ロームブロック・粒や多く含む

ピット 1~12・15~18

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒や多く含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック・粒や多く、黒銅少し、5~10mm 白色粘土少し含む
- 3. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く、同炭褐色土ブロックや多く含む
- 4. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3層と含有物混し、砂り弱めでホ/ボ/する
- 5. 埋褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロック少し、5mm以下ローム粒や多く、1.5 cm以下炭褐色土少し含む
- 6. 埋褐色土 砂り強、粘性有、ロームブロック主体、黒銅色土少し含む

ピット 13

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5 cm以下ロームブロック多く、4 cm以下黒炭褐色土ブロックや多く、4 cm炭色シルトブロック少し含む(1~の4層に混る各ブロック大)

ピット 14

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、8 cm・5~10mmロームブロックや多く含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く、炭褐色土ブロックや多く含む、砂り弱めでホ/ボ/する

ピット 19

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、ローム粒主体、3 cm以下ロームブロックや多く含む(産地は黒銅色土層/産地)

ピット 20

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、1 cm以下ロームブロック・粒多く、5mm以下黒土粒少し含む

ピット 21

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒や多く、炭化物少し含む
- 2. 埋褐色土ベース 砂り強、粘性有、4 cm以下ロームブロック主体

ピット 22

- 1. 埋褐色土ベース 砂り強、粘性有、3 cm以下ロームブロック多く含む

ピット 24

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒や多く含む
- 2. 埋褐色土 砂り強、粘性有、2 cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒多く含む粒塵土受ける
- 3. 埋褐色土 砂り強、粘性有、3mm以下ローム粒や多く含む

ピット 25

- 1. 埋褐色土 砂り強、粘性有、炭色・色鉄燻く黒銅色に近い、5mm以下ローム粒や多く、1.5 cm以下黒土ブロック少し含む

第43表 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物観察表

(単位cm・g)

No.	出土遺物名	種類・器種	単位cm・g (括弧付きは残存値)				技法・文様・その他	推定産地	推定年代	備考
			口径・長さ	底径・幅・内径	高さ・厚さ	重量				
1	土坑2	磁器/碗/小広東碗	(11.1)	-	(4.4)	-	ロクロ/染付花唐文/口縁内二重圈線	肥前	1770~1810年代	
2	土坑2	磁器/碗/筒茶碗	(8.0)	-	(5.1)	-	ロクロ/青磁染付・口縁内四方辨文	肥前	1740~1780年代	
3	土坑2	陶器/灯明皿	(10.1)	(4.7)	2.2	-	ロクロ・底部へタ割り調整/鉄輪/口縁深付着	瀬戸・美濃	1800~1840年代	
4	土坑2	陶器/灯明受皿	9.6	4.0	2.1	-	ロクロ・底部へタ割り調整/鉄輪/重ね焼き跡	瀬戸・美濃	1800~1840年代	
5	土坑2	陶器/灯明受皿	10.1	4.6	2.1	-	ロクロ・底部へタ割り調整/鉄輪/重ね焼き跡	瀬戸・美濃	1800~1840年代	
6	礎石2(No.22)	石製品/砥石/合砥	(8.2)	7.6	2.2	150	石質:風化粘板岩・淡黄褐色/3側面に磨挽き痕	-	-	
7	トレンチ2	陶器/飯盃	-	-	6	-	ロクロ/緑釉・陽刻雲龍文	瀬戸・美濃	1800~1840年代	

土坑 2



礎石 2



遺構外



第67図 大井氏館跡遺跡第22地点出土遺物 (1/4)

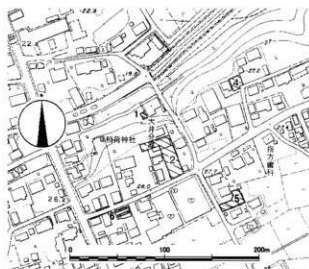
## 第21章 大井戸上遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

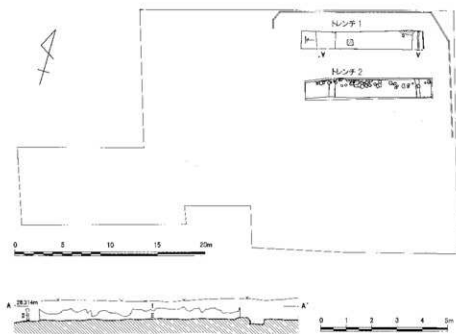
大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.4km、砂川堀の右岸で標高26~28mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約7~8mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜を成す。遺跡の範囲は東西200m、南北100m、遺跡面積約25,000㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は1989年に初調査以来、2008年2月現在までに6地点で試掘調査が行なわれた。第1、2、4地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連続と旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第2・3地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。



第68図 大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



- I 黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土  
 表土・耕作土・イモゴソ  
 II 暗褐色土 砂質有、粘粒有、ソフトロームブロック多く、暗褐色土ブロック、黒褐色土ブロックや多く含む、横列びん罫の基礎層

第69図 大井戸上遺跡第6地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)

## Ⅱ 大井戸上遺跡第6地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月5日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2008年3月25日から28日まで行なった。幅2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ない多数のピットを確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。出土遺物はない。

## (2) 遺構

【ピット】トレンチ2で東西方向に並ぶピット49基を検出した。近世以降のものとみられる。

第44表 大井戸上遺跡第6地点ピット一覧表

(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	31×24	6×3	33.2	26	方形	49×34	9×7	60.0
2	方形	36×(24)	16×12	58.4	27	方形	34×32	17×15	36.3
3	方形	24×19	13×11	18.3	28	方形	41×31	18×16	36.1
4	方形	22×18	12×10	16.2	29	方形	25×16	12×(11)	9.2
5	方形	31×21	18×11	28.0	30	方形	18×17	9×7	20.5
6	楕円形	24×12	4×4	26.0	31	方形	37×22	12×10	39.1
7	方形	48×30	10×8	60.1	32	方形	-×20	-	-
8	円形	21×20	12×8	34.0	33	方形	24×21	10×7	37.7
9	方形	26×24	8×7	22.9	34	不明	31×22	13×11	39.8
10	方形	40×25	10×7	47.4	35	方形	26×22	10×7	49.1
11	円形	36×30	12×8	31.6	36	楕円形	30×22	7×4	26.5
12	方形	36×26	7×5	40.7	37	方形	20×19	12×12	31.5
13	楕円形	44×(24)	9×6	32.8	38	円形	24×20	10×7	41.7
14	楕円形	43×27	24×9	53.9	39	不明	25×(16)	14×-	29.6
15	方形	32×22	18×17	33.5	40	方形	29×22	14×11	34.5
16	方形	25×25	13×8	53.6	41	方形	15×(14)	10×7	25.2
17	方形	32×(22)	17×11	32.8	42	方形	33×26	9×7	49.5
18	不明	38×(30)	15×6	39.4	43	楕円形	26×16	10×4	28.6
19	方形	(32)×32	18×12	49.1	44	方形	22×(16)	14×12	25.1
20	不明	35×(18)	12×(8)	39.7	45	不明	22×(14)	4×(2)	20.9
21	方形	38×35	14×11	52.5	46	方形	35×32	16×15	39.8
22	方形	24×(17)	(10)×9	27.1	47	方形	26×20	7×6	24.5
23	不明	(24)×23	10×9	27.6	48	方形	18×17	12×7	18.0
24	方形	40×26	10×9	64.0	49	方形	23×20	8×8	26.0
25	円形	24×20	15×10	34.2					



## 第22章 東台遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖を成し、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

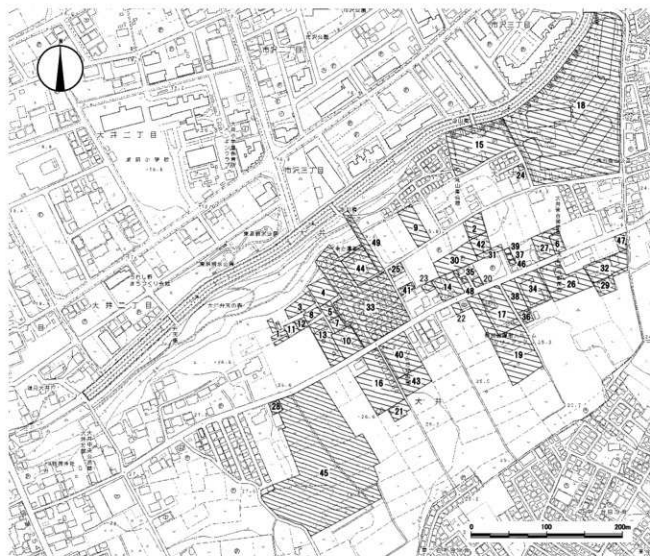
旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅷ層～Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う雑群等が分布する。

縄文時代の調査では、早期1軒、後期6軒、中期

144軒、不明20軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2008年2月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や木炭窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡と大井氏館跡遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡、大井氏館跡遺跡との関係が注目される。



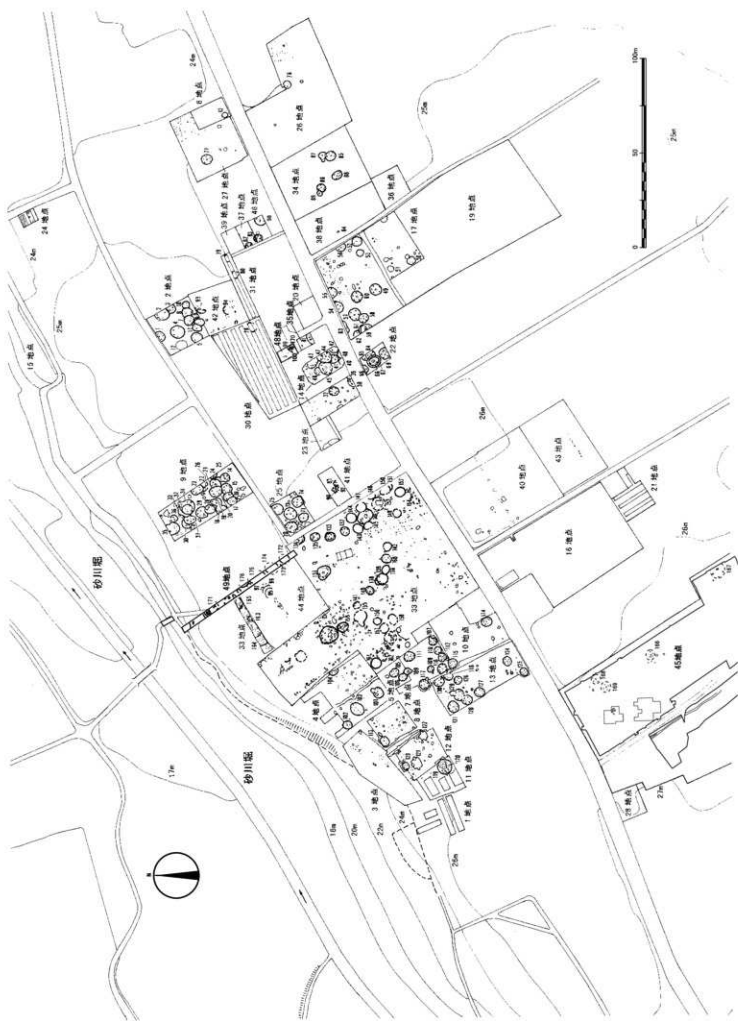
第71図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第45表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	大井東台640-7	1981.12.14~1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居12、旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅲ
3	大井東台672	1982.5.19~6.15	666	宅地造成	炉穴7、土坑2、柱穴6	東部遺跡群Ⅳ
4	大井東台671	1982.6.17~11.18	587	農地転用	縄文中期住居3、後期住居1、 旧石器ユニット、集石4、土坑14、溝	東部遺跡群Ⅴ
5	大井東台	1983.7.25~8.9	195	町史編纂事業	縄文中期住居2、土坑1	東台遺跡
6	大井東台	1984.1.9~1.12		宅地造成	縄文中期住居1	
7	大井東台670-2	1984.5.15~6.13		共同住宅	縄文中期住居4、後期住居1	
8	大井東台672	1984.8.18~9.21	345	町史編纂事業	縄文中期住居1、炉穴2、土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25~1985.2.15	1,000	駐車場造成	縄文中期住居22、後期住居1、炉穴、 ピット群、旧石器群	大井町史資料1
10	大井東台670-1	1985.10.1~11.25	896	住宅建設	縄文中期住居5、土坑5	東部遺跡群Ⅵ
11	大井東台673	1986.1.14~3.20	660	宅地造成	縄文中期住居2、集石土坑3、土坑1、ピット	東部遺跡群Ⅶ
12	大井東台673	1987.5.6~6.26	330	転地返し	縄文早期住居1、土坑18、平安時代住居2、溝1	東部遺跡群Ⅷ
13	大井東台670-6	1988.1.14~2.27	971	倉庫建設	縄文中期住居9、集石1、土坑9、ピット20	東部遺跡群Ⅷ
14	大井東台649-16 他	1988.1.27~2.24	735	住宅建設	縄文中期住居12、屋外埋薬1、 集石土坑1、土坑8、ピット28	東部遺跡群Ⅸ
15	大井市沢577-1 他	(1989.10.17~11.10) 1989.11.17~1990.8.1	700	住宅建設	落とし穴1、木炭窯9、探掘坑4、 奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅹ
16	大井713-4-5	(1990.8.1~8.4)	3,048	資材置き場設置	縄文中期住居1、土坑1	東部遺跡群Ⅹ1
17	大井621-1	(1990.9.5~9.12) 1990.10.9~12.27	1,470	診療所建設	縄文中期住居8、土坑30、ピット94、溝1	東部遺跡群Ⅹ1
18	大井529-1,588	(1991.3.11~5.20) 1992.2.24~1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器群、石器集中17、落とし穴1、 整形製鉄炉7、木炭窯9、探掘坑4、土坑9、 溝、溝列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井621	(1992.5.31~6.7)	4,489	特養新設	縄文中期住居8	町内遺跡群Ⅰ
20	大井649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅱ
21	大井713-11-12	1992.3.7~3.11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅲ
22	大井651-6	(1994.5.10~5.11) 1994.5.30~7.30	146	店舗建設	縄文中期住居6、土坑1	調査会報告13集
23	大井649-12-13	(1995.6.23~6.27)	285	個人住宅	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅳ
24	大井634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅴ
25	大井648-13-14	1995.10.22~12.16	296	個人住宅	縄文中期住居5、後期住居1、 土坑10、ピット6	町内遺跡群Ⅴ
26	大井東台601-1-4-5	(1996.11.6~11.18) 1997.1.14~3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居1、土坑3、落とし穴1、ピット24	調査会報告13集
27	大井600-1	(1997.2.19) 1997.2.19~3.14	965	個人住宅	縄文中期住居1、炉穴1、土坑1、 落とし穴1、ピット44	町内遺跡群Ⅵ
28	大井東台710-4	(1997.3.17~3.19)	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅶ
29	大井東台606-3	(1998.2.27~3.3) 1998.3.4~3.5	500	個人住宅	縄文早期炉穴9、ピット2	町内遺跡群Ⅷ
30	大井640-1	(1998.11.4~11.12)	1,330	駐車場	縄文中期住居1、屋外炉、ピット	町内遺跡群Ⅷ
31	大井630-3,640-8	(1999.5.7~5.20)	186	道路築造	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅸ
32	大井603-1	(2000.8.4~8.9)	92	製氷工場	ピット3	町内遺跡群Ⅹ
33	大井662-1	(2000.8.4~8.8) 2000.8.10~2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群4、群5、 縄文中期住居30、後期住居4、 掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他	町内遺跡群Ⅹ
34	大井東台624-2	(2002.3.12~3.25) 2002.3.26~5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居5、土坑11、ピット16	町内遺跡群Ⅹ1
35	大井東台649-31	(2001.9.6~9.8)	48	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅹ1
36	大井東台614	(2001.10.15~11.2)	272	倉庫建設	ピット5、土器片	町内遺跡群Ⅹ1
37	大井東台626-12	2001.10.12~11.5	100	個人住宅	縄文中期住居2、ピット1	町内遺跡群Ⅹ1
38	大井東台614-3	(2002.1.28~2.15)	787	駐車場	縄文中期住居1、整形状遺構1、 集石土坑2、土坑2、ピット2	町内遺跡群Ⅹ1
39	大井639-8	(2002.6.3~6.20)	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町内遺跡群ⅩⅡ
40	大井661	(2003.10.6~11.4)	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、溝1	町内遺跡群ⅩⅡ
41	大井東台648-4	(2004.5.11~5.14)	182	個人住宅	縄文中期住居3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町内遺跡群ⅩⅡ
42	大井640-4	(2004.9.7~9.17)	515	教会建築	縄文中期住居2、落とし穴1、土坑3、ピット20	町内遺跡群ⅩⅡ
43	大井東台661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット4	町内遺跡群ⅩⅡ
44	大井東台664-15	2005.12.8~12.28	200	個人住宅	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット9	町内遺跡群Ⅱ
45	大井東台710-1,711-1,717-1,2	(2006.5.31~9.1) 2006.9.8~2007.3.7	7,971	小学校建設	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット10	町内遺跡群Ⅲ
46	大井東台626-11	(2006.9.4~6) 2006.9.15~28	100	個人住宅	縄文中期住居2、集石2、土坑1、	町内遺跡群Ⅲ
47	大井東台602-4,602-5	(2006.9.19~20)	320	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅲ
48	大井東台649-21	(2007.1.16~26)	60	個人住宅	縄文中期住居3	町内遺跡群Ⅲ
49	大井東台646.647.1.665	(2008.1.28~30,2.4~19) 2008.1.31~2.1	174	池学路築造	縄文時代中期~後期住居跡1軒検出・5軒を 確認。屋外埋薬1、粘土探掘坑1、土坑1、ピット 1、溝6	町内遺跡群Ⅳ
50	大井東台716-1の一部	2008.7.14~22	646	東台小学校プール	遺構遺物なし	町内遺跡群Ⅴ
51	大井東台648-2	(2009.3.10~18) 3.18~5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡6軒・土坑4・ピット14、 縄文土器・石器	町内遺跡群Ⅴ







第72図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)

## II 東台遺跡第49地点

## (1) 調査の概要

調査はふじみ野市立東台小学校の通学路築造に伴うもので、ふじみ野市長より2007年5月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。通学路は遺跡中央部北側の平坦面から、砂川に降りる斜面部分に位置する。西側に隣接する33・44地点の調査では、縄文時代中期から後期初頭の住居跡等を検出している。築造工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年1月28日から2月19日まで、重機による通学路部分全面の表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、調査区南側平坦面で縄文時代中期から後期とみられる住居跡5軒、北側平坦面で縄文時代の住居跡1軒と集石土坑2基等を確認した。また斜面部分では縄文時代の土坑1基、時期不明の粘土採掘坑1基を確認した。

学校教育課と再協議の結果、斜面部分の土坑について通学道路(階段部分)の基礎が遺構に影響するため、発掘調査を行なった。その他の遺構については、歩行者専用通学路で築造工事において30cm以上の保護層が保てるため、工事立会いの措置をとった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

住居跡6軒、屋外埋壘、集石土坑2基、土坑・ピットの時期は縄文時代、粘土採掘工は古代以降の可能性が高い。屋外埋壘、土坑、ピット1、粘土採掘坑1基、溝1～6本の詳細については第47表一覧表のとおりである。

## ①171号住居跡

調査区の平坦部から斜面にかかる部分に位置する。斜面の地山ローム面で遺構を確認したが、覆土層と床面は確認出来なかった。平面形と規模は不明であるが、地床炉と掘り込みのしっかりしたピット2基を検出した。確認面の推定径は約4.5mである。

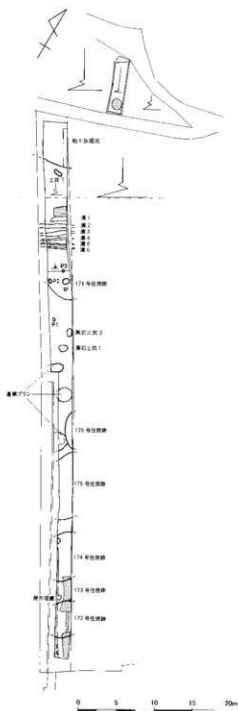
【炉】平面形は楕円形で規模は確認面径(100)×65cm、深さ11.9cmである。

【ピット】ピットは2基(P2・3)を検出した。P2の平面形は円形で確認面径32×30cm、底径18cm深さ32.9cmである。P3の西側半分は攪乱を受ける。確認面径30cm、底径15cm深さ35.7cmである。

## ②172～176号住居跡

172～176号住居跡は住居覆土の範囲のみを確認した。一部攪乱部分を掘り下げて深さの確認を行なったが、平面形態や規模、時期などは不明である。遺物は住居跡覆土上層出土のものである。

【173号住居跡】調査区の南側に位置する。173号住居跡と重複し本住居跡が新しいとみられる。住居確認面径5.1×1.9mの黒褐色土範囲に遺物が多数出土する。



第73図 東台遺跡第49地点遺構配置図 (1/500)

【173号住居跡】172号住居跡と174号住居跡の間に位置し、両住居跡の床面より本住居の床面は浅い。土層の観察からは本住居跡が古いとみられる。

【174号住居跡】173号住居跡の北側に位置し、173号住居跡と重複、本住居跡が新しいとみられる。確認面径6.3×1.8mの黒色土範囲に遺物が多数出土する。

【175号住居跡】174号住居跡と176号住居跡の間に位置する。確認面径6.9×1.7mの黒色土範囲に遺物がやや多めに出土する。

【176号住居跡】調査区の中央部、175号住居の北側に位置する。4.6×1mの弧状の黒色土範囲がみられるが出土遺物は少ない。

### ③屋外埋塞

調査区南側173号住居跡の覆土層中に位置し、土坑の西側は攪乱を受ける。埋塞は土坑北側寄りに口縁部を下にした逆位に埋設し僅かに南に傾く。

### ④集石土坑

集石土坑2基は調査区北側の平坦面に位置する。詳細は、第48表の集石土坑・観察表のとおりである。

### ⑤土坑・ピット

土坑は砂川に面する斜面部分に、ピット1は171号住居跡と集石土坑2の間に位置する。

### ⑥粘土採掘坑

砂川に下る斜面の中腹よりやや上位に位置する。幅50cmのトレンチを設定し深さと覆土の堆積状況を確認した。平面は弧状を呈し、底面は礫層上面でほぼ平坦である。堅穴を掘って粘土を採掘した後ローム層主体の覆土が堆積、覆土上層には縄文時代の石器等が多数出土する。

### ⑦溝

溝は台地平坦面から砂川に下る縁辺部に6本が並行して位置し、根切り溝とみられる。

### ⑧出土遺物（第77・78図）

1～4は172号住居跡出土土器。1は水煙状把手で渦巻文をつくる曾利Ⅰ式。2は口縁部無文で胴部は沈線間に半截竹管の押圧を施す勝坂Ⅲ式。3は隆帯と沈線の区画内に捻糸文を施す。4は地文捻糸文、頸部無文帯と隆帯の懸垂文と蛇行懸垂文で区画を配す。3、

4は同一個体とみられる加曾利EⅠ式。

5～44は174号住居跡覆土層出土土器。5は隆帯脇に2種類の狭い角押文を施す阿玉台式。6は地文捻糸文で沈線の懸垂文を施す。7、8は隆帯の区画内に縄文を施す。9は地文RL縄文に半截竹管の内側で半隆帯状沈線を描く。10は地文RL縄文に微隆帯を施す。11～13は深い沈線文と磨消し、14には地文縄文を施す。15、16は微隆帯と磨消し。17は口縁部無文、沈線間にRL縄文を施し2列の円形刺突を施す。18は口縁部無文で沈線を施す。19～23は沈線磨消しと刺突を施す。24、25は4～6本の条線を施す。26、27は沈線文を施す。34は隆帯に円形刺突、35は円形刺突と弧状沈線を施す。36は口唇部に円形刺突と円孔を施す。28～30は沈線間に縄文、又は磨消しを施す。32は円孔と縦に2つ刺突を施す。31、33、40、41は沈線と磨消しを施す。37・39は無文の口縁部が「く」の字状に内屈する。38は沈線文と隆帯に円形刺突文を施す。42、43は無文の底部、44は無文胴部片である。6、7は加曾利EⅡ～Ⅲ式、8～16は中期末から後期初頭、17～23、32は称名寺2式、28～30は称名寺1式、24～26は称名寺式、32、34～36は堀之内1式、その他は堀之内式とみられる。

45～49は175号住居跡覆土層出土土器。45は平口縁で、隆帯の区画沿いに連続刺突文を施す阿玉台式。46は2本組み隆帯の区画内に細かな捻糸文、47は地文捻糸文で頸部無文帯を有す。48は広い頸部無文帯と2本の横位隆帯、胴部は捻糸文を施す。49は浅鉢形土器で無文の口縁部が屈曲する。

第47表 東台遺跡第49地点遺構一覧表 (単位:cm)

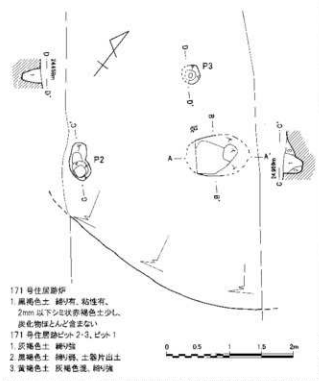
遺構名	平面(断面)形態	確認面径(上幅)	底径(下幅)	深さ
屋外埋塞	楕円形	96×(42)	64×(60)	21.0
土坑	楕円形	144×53	120×36	43.6
ピット1	楕円形	50×40	30×22	34.8
粘土採掘坑	弧状	500	500	80～230
溝1	「U」状	40～52	25	45.2
溝2	「U」状	77	25～34	68.7
溝3	「U」状	45～56	13～25	19.5
溝4	「U」状	40～52	20～23	39.8
溝5	「U」状	41～46	13～20	38.3
溝6	「U」状	50～55	25～30	123.1

第48表 東台遺跡第49地点集石土坑・出土礫観察表

(単位:cm・g・%)

坑・溝	平面形態	確認面径	底径	深さ	埋積厚	総土量	総重量	平均重量	破損別数	変形別数	焼色別数	本地成別数	テール・僅分別数	テール・僅本分別数
1	楕円形	112×89	41×34	29.1	90×74	286	10,943.0	38.3	265(92.7)	21(7.3)	37(13.0)	249(87.0)	3(1.0)	283(99.0)
2	楕円形	97×(68)	(78)×51	22.2	60×45	411	11,975.0	29.1	396(96.4)	15(3.6)	152(37.0)	259(63.0)	8(1.9)	403(98.1)

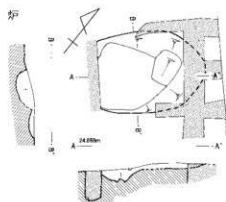
## 171号住居跡



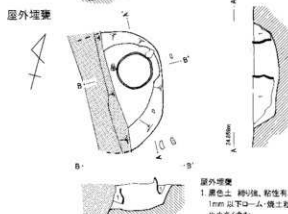
## 171号住居跡跡

- 1 黄褐色土 締り強、粘性有、2mm以下少少状赤褐色土少し、炭化物ほとんど含まない
- 171号住居跡跡ピット2-3、ピット1
- 1 灰褐色土 締り強
- 2 黒褐色土 締り強、土器片山土
- 3 黄褐色土 灰褐色土、締り強

## 炉



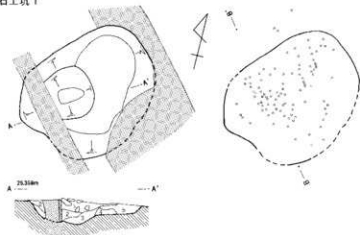
## 屋外埋壁



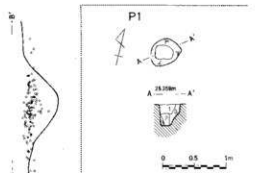
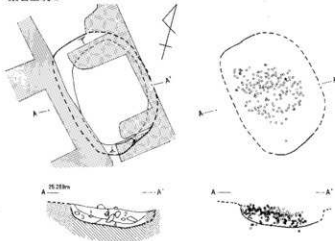
## 屋外埋壁

- 1 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒・ややく多く含む

## 集石土坑1



## 集石土坑2

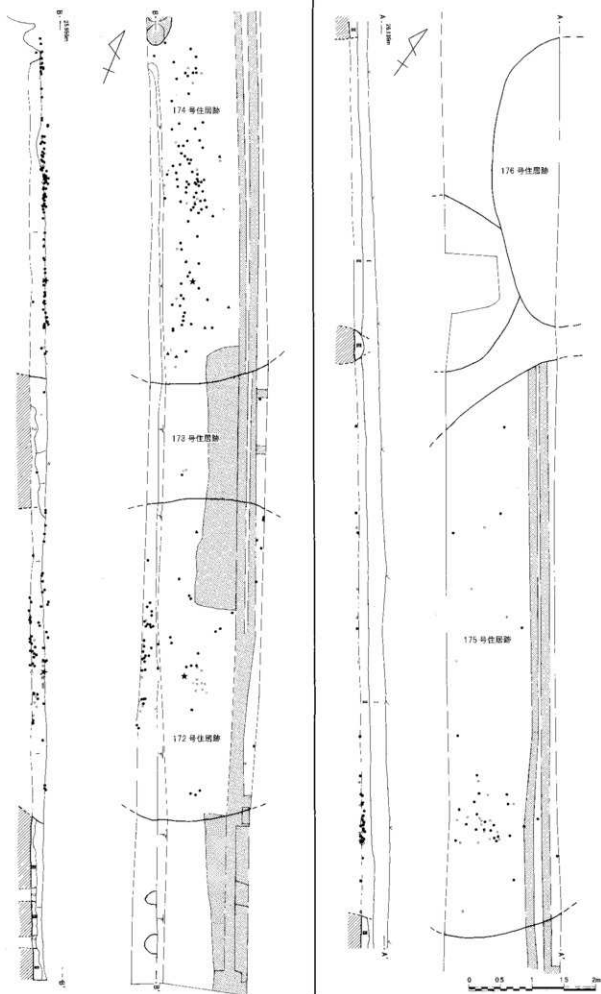


- I 黒色土 締り強、粘性有、黄土・灰作土
- II 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック多く含む
- 175-176号住居跡跡の壁土層が露出された層
- III 黄褐色土 締り強、粘性有、縄文色古層住居は本層を掘り込む
- 172号住居跡
- 1 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下少少ローム・焼土多く含む
- 173号住居跡
- 1 黄褐色土 締り強、粘性有、1mm以下少少ローム粒・焼土少し、遺物少し含む
- 2 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下少少ローム粒・焼土多く含む
- 174号住居跡
- 1 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒・焼土多く、遺物多く含む
- 175号住居跡
- 1 黒色土 締り強、粘性有、1mmローム粒・焼土多く、遺物多く含む
- 集石土坑1
- 1 灰褐色土 締り3-5層より強い、硬直、炭化物少量含む
- 2 暗灰色土 締り3-5層より強い、炭化物少量含む、
- 3 黄褐色土 締り強い、炭化物含む
- 4 黄褐色土 締り強い、炭化物少量含む
- 5 暗黄褐色土 締り強い、炭化物含む
- 集石土坑2
- 1 黄褐色土 締り強い、炭化物多く含む
- 2 暗褐色土 1層より強い
- 3 灰褐色土 炭化物多く含む
- 4 黄褐色土 締り強い、ローム含む

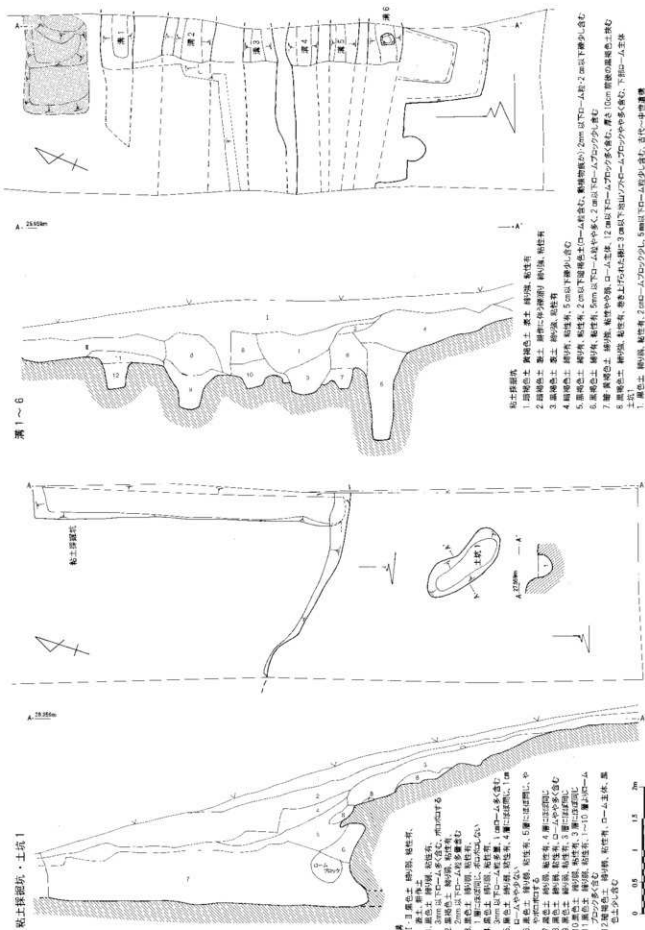
## B5(断面)

- 1 黄褐色土 締り強、粘性有、1mm以下少少ローム・焼土量少し含む
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、1層には硬直、やや色調明るい

第74図 東台遺跡171号住居跡・炉 (1/60・1/30)、第49地点屋外埋壁・集石土坑・ピット (1/30)

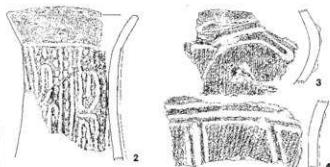
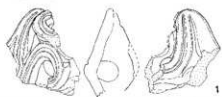


第75図 東台遺跡172～176号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

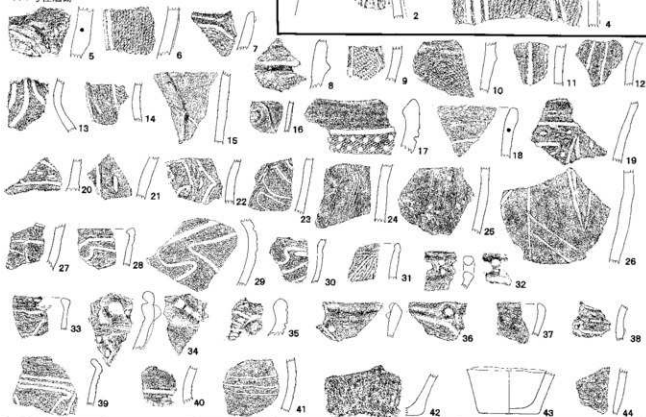


第76図 東台遺跡第49地点粘土採取坑・土坑・溝 (1/60)

## 172号住居跡



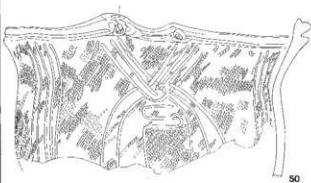
## 174号住居跡



## 175号住居跡



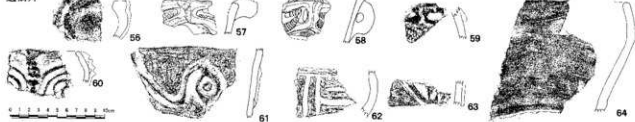
## 屋外埋篋



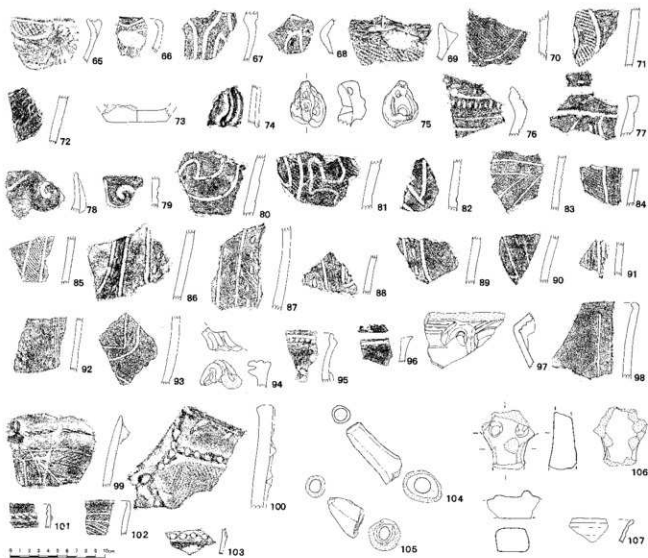
## 集石土坑 1



## 遺構外



第77図 東台遺跡第49地点出土遺物① (1/4)



第78図 東台遺跡第49地点出土遺物② (1/4)

50は屋外埋壺の堀之内1式土器で、胴部下半から底部を欠損する。大小2対1組の波状口縁3単位には円形刺突文があり口唇部には沈線が巡る。波頂部から胴部にV字状の沈線と楕円形懸垂文、蕨手状懸垂文がのび、波頂部間には5~7本の懸垂文がのびる。地文RL縄文。

51~55は集石土坑1覆土層出土。51は押圧のある隆帯脇に沈線、51は沈線、52は地文縄文に沈線間を磨消し、53・54・55は地文縄文で勝坂Ⅲから加曾利EⅡ式。

56~107は表面採集又は包含層出土遺物である。56は隆帯で楕円形区画を配し、57・58は隆帯脇に三角押文を施す。59は地文縄文に隆帯の楕円形を貼り付ける。60は隆帯の同心円文と粘土棒に粘土帯を巻きつける。61・63は隆帯の抽象文、62は太い沈線文と刺突文、64は無文口縁と頸部に横位隆帯、65は沈線の半円形区画内に縄文、66~68・70・71は沈線間を磨消し又は縄文

を施す。69は地文縄文に突起を有す。72は地文縄文に半截竹管文の内側で半隆帯文を施す。73は底部片。74~85は称名寺1式で口縁部突起や、胴部片で沈線と縄文、磨消し等を施す。86~93は沈線と列点文を施す称名寺2式。94~98は堀之内1式、99~103は堀之内2式、104、105は堀之内式注口土器の口部。94はハネ状の口縁部突起、95は隆帯に押圧、96・97は隆帯に刺突を施す。99~101、102・103は隆帯に刺突や8の字状貼り付けを施す。104は沈線と縄文を施す。

106は板状土偶の胸部から腹部で、頭部、腕部、脚部を欠損する。器面は撫でによる調整が丁寧にされている。東台遺跡で確認された初めての土偶で、中期から後期前半に属するものとみられる。

107は須恵器坯の口縁部片で胎土に白色針状物質を含む。



## 第II部 民間開発に伴う本調査の成果

## 第1章 西遺跡第1地点の本調査

## I 本調査の概要

発掘調査は共同住宅及び分譲住宅の建設に伴うものである。2007年3月12日から同年4月20日まで行なった試掘調査にもとづき申請者と協議の結果、開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査をふじみ野市教育委員会が実施することになった。発掘調査に至る経緯については第I部第3章のとおりである。

今回の本調査の範囲は、1992年に行なった「西遺跡第1次調査」の範囲を一部含み、前回調査した遺構の一部を再確認することが出来た。こうした点から本章では再調査した遺構と、過去の調査で出土した遺物についても参考資料として併せて報告する。

本調査は2007年6月4日から8月1日まで、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査を行なった。その後、10m方眼の区画を調査区内に設定し、東から西へ0、1、2、3へ、北から南へA、B、C、Dへの番号を付した。

## II 遺構と遺物

西遺跡で検出された縄文時代の住居跡は1992年の第1次調査で17軒、1996年の第2次調査で1軒、そして今回の調査で新たに3軒を検出し、合計21軒となった。全て縄文時代中期前葉から中期末の時期に含まれる。しかしそれ以外の時期の土器などが破片で出土しており、他の時期の住居跡が確認される可能性もある。

今回検出した遺構は、縄文時代中期の20・22・23号住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基、ピット68基、溝1本である。また過去に検出した2・10・12・16号住居跡の4軒を再調査した。

## (1) 住居跡

今回再調査した2・10・12・16号住居跡について、各住居跡の詳細は既報告のとおりであるため省略し、新たに確認された事実のみを報告する。

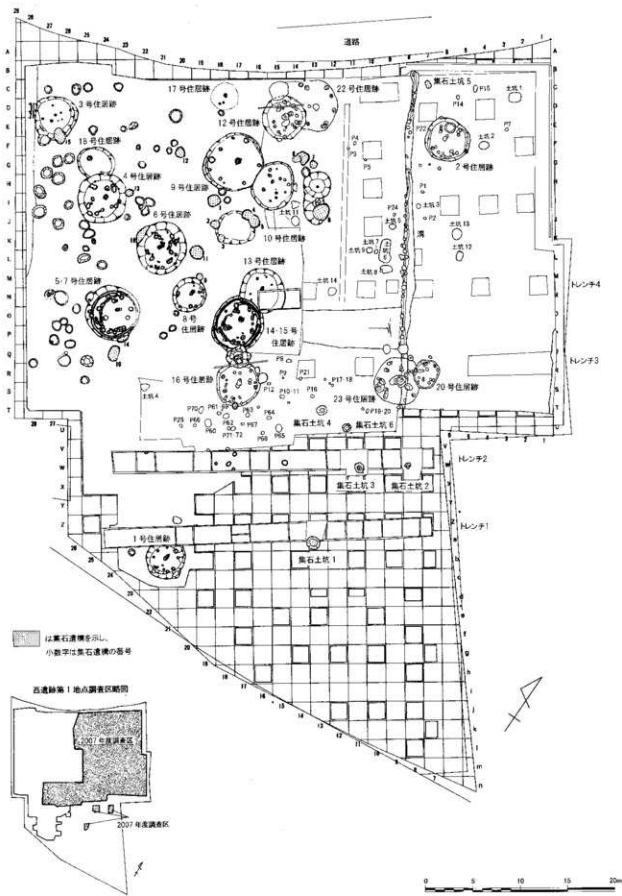
## ① 2・10・12・16号住居跡

【2号住居跡】調査区の北側に位置し土坑と重複する。

第49表 西遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

住居番号	調査年度	遺構名	調査率	平面形状 ( )は推定	規模	炉			煙突	周溝	時期	備考	文献
						地床	炉体	石西					
1	1992	第1次1号住	完掘	円-楕円形	440×440×45 290×290×45	○	○				勝坂期	2度以上建替え	
2	1992	第1次2号住	完掘	円形	440×460×35 380×380×35	○	○				勝坂Ⅲ古	3度建替え大型打製石器	
3	1992	第1次3号住	完掘	円形	450×450×35 370×370×35	○					～勝坂Ⅲ	2度以上建替え	
4	1992	第1次4号住	完掘	円形	560×540×64 415×380×64		○	○			勝坂Ⅲ	3度以上建替え	
5	1992	第1次5号住	完掘	楕円形	505×480×50	○	○		○		～加曾利E I古	7号住と重複、2度以上建替え	
6	1992	第1次6号住	完掘	楕円形	550×530×55 420×380×55	○	○				～勝坂Ⅲ	2～3度建替え	
7	1992	第1次7号住	完掘	円形	440×370×55					○	加曾利E I古	5号住と重複、2度以上建替え	
8	1992	第1次8号住	完掘	楕円形	370×340×20 280×280×20	○					～勝坂Ⅲ	覆土層から阿玉台Ⅱ式土器出土	西遺跡第1次調査発表、上福岡市史資料編第1巻自然史・考古
9	1992	第1次9号住	完掘	楕円形	640×620×25 580×570×25			○			勝坂～加曾利E	勝坂期中葉土器片	
10	1992	第1次10号住	完掘	楕円形	515×440×25 470×380×25	○					～勝坂Ⅱ	建替え有	
12	1992	第1次12号住	完掘	円形	450×450×30 350×350×30	○					～勝坂Ⅱ	2度以上建替え	
13	1992	第1次13号住	完掘	円形	(460)×460	○	○				阿玉台I b、築沢	14号住15号住と重複	
14	1992	第1次14号住	完掘	楕円形	560×440×40					○	～勝坂Ⅲ	15号住より古い、2度以上建替え	
15	1992	第1次15号住	完掘	楕円形	450×350×45		○	○			勝坂Ⅲ	2度以上建替え	
16	1992	第1次16号住	完掘	楕円形	(470×450)×20 390×400×20	○	○	○			勝坂Ⅲ	覆土層から多量の土器出土	
17	1992	第1次17号住	完掘	(楕円形)	(350)×(300)	○					勝坂～加曾利E		
18	1992	第1次18号住	完掘	楕円形	350×(400)×5			○			勝坂～加曾利E	4号住と重複	
19	1996	第2次19号住	完掘	円形	450×450	○			○		勝坂Ⅱ		埋蔵文化財の調査(19)
20	2007	20号住居跡	完掘	楕円形	310×248×24	なし					勝坂Ⅱ	築沢～勝坂Ⅱ式土器出土	
22	2007	22号住居跡	完掘	隅丸六角形	(580×520×-)	○					勝坂～加曾利E	覆土に勝坂Ⅰ～加曾利E式土器含む	市内遺跡群4
23	2007	23号住居跡	完掘	円-楕円形	508×465×9	○	○				加曾利EⅡ	炉体土器加曾利EⅡ、溝弧文系	



第79図 西遺跡第1地点遺構配置図 (1/400)

前回検出した炉跡の下からピット状の掘り込みを確認した。覆土層の観察から炉跡より古いピットである。

今回の調査では住居跡内から小ピット9基を新たに確認、住居南側で集中して検出した。主柱穴はP1～5・7～12のうち4本柱で、南側に張り出す2本(P13～15、P16～18)の対柱が立ち6角形状を呈す。また北側の小ピット2本(P19・20)も対を成す。

【10号住居跡】調査区の北側に位置し、炉の掘り込みを新たに確認した。4本主柱穴(P1～4)である。

【12号住居跡】調査区の北側に位置する。新たに検出した22号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

主柱穴はP1～8・11・12のうち4本柱又は6本柱である。またP2は22号住居跡の主柱穴の可能性もある。その場合は5本主柱穴となる。P15は攪乱である。

【16号住居跡】調査区中央部に位置する。平面形は隅丸六角形を呈する。前回調査で、炉跡は2ヶ所検出しているが、今回の調査では炉体土器を埋設したピットを新たに検出した。ピットは住居跡内から小ピット10基(P9・15～19・21・22・24・26)を新たに確認した。主柱穴は初めにP7～12(又は22)の4本主柱穴又は6本主柱穴が配置され、その後拡張によりP1～6の6本主柱穴となる。

#### ②20号住居跡(第51・52表)

調査区の東側に位置し、23号住居跡と重複する。本住居跡から炉跡は確認されず、住居覆土層およびピットの覆土層にも焼土をほとんど含まない。しかし住居の掘り込みはしっかりしている点や遺物出土状況、4本主柱穴P1・4・9・13等から住居跡とした。西道跡

第50表 西道跡第1地点2・10・12・16号住居跡ピット一覧表

(単位cm)

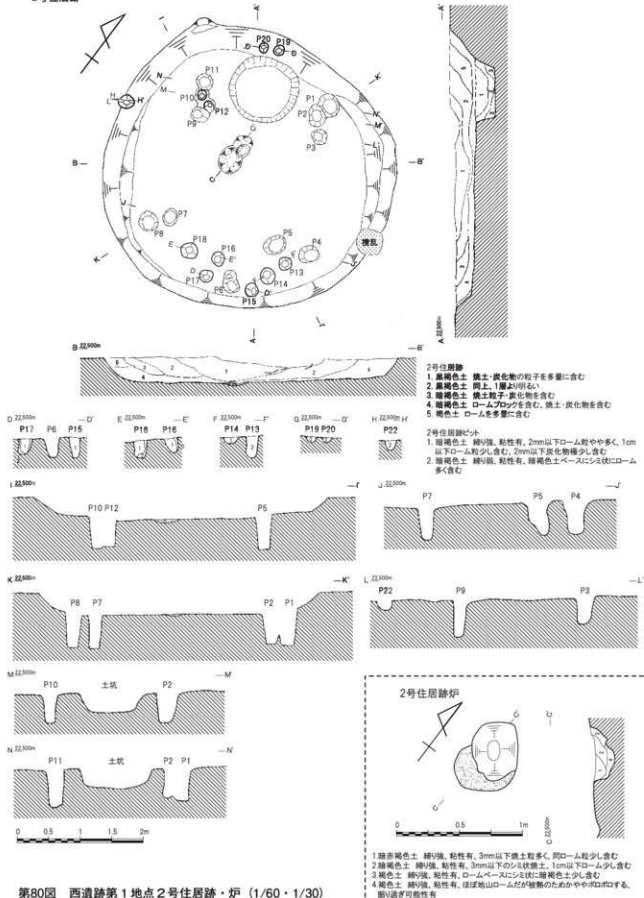
住居跡No	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
2住P1	楕円形	38×(28)	24×21	59	主柱穴
2住P2	楕円形	35×(27)	17×15	48	
2住P3	楕円形	25×23	14×13	38	
2住P4	楕円形	31×25	25×18	50	
2住P5	楕円形	37×28	26×20	50	主柱穴
2住P6	楕円形	37×26	17×12 12×6	44.1	
2住P7	楕円形	28×23	19×18	52	主柱穴
2住P8	円形	32×30	22×18	57	主柱穴
2住P9	楕円形	29×22	14×12	57	主柱穴
2住P10	円形	22×(21)	13×(17)	50	主柱穴
2住P11	円形	27×25	17×16	64	主柱穴
2住P12	円形	28×(19)	18×(13)	27	主柱穴
2住P13	円形	20×20	11×10	35.5	対柱
2住P14	円形	24×24	13×12	8.2	対柱
2住P15	円形	21×20	10×7	33.3	対柱
2住P16	円形	21×20	11×10	23.6	対柱
2住P17	円形	21×20	10×8	24	対柱
2住P18	円形	26×25	10×10	31.3	対柱
2住P19	円形	17×17	10×7	7.2	対柱
2住P20	円形	17×14	8×6	7.2	対柱
10住P1	円形	31×29	19×18	45	主柱穴
10住P2	円形	26×26	16×13	53	主柱穴
10住P3	円形	40×35	20×18	40	主柱穴
10住P4	楕円形	65×27	15×12、 21×20、 15×(7)	35、 45、 22	主柱穴
10住P5	円形	27×25	-	13	
10住P6	円形	32×28	-	14	
10住P7	不明	22×(11)	13×(4)	35	
10住P8	円形	13×12	8×7	11	
10住P9	楕円形	29×25	14×13	20	
10住P10	楕円形	35×31	11×11	25	
10住P11	円形	24×21	12×12	27	
10住P12	楕円形	34×30	24×19	19	
10住P13	円形	33×30	25×24	30	
12住P1	円形	45×38	18×16	62	主柱穴
12住P2	円形	41×40	23×22	59	主柱穴
12住P3	ひょうたん形	80×40	12×12	67	主柱穴

住居跡No	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
12住P4	円形	26×25	17×9	55	主柱穴
12住P5	円形	34×31	19×15	58.7	主柱穴
12住P6	楕円形	30×23	10×7	47	主柱穴
12住P7	円形	42×39	12×12	51.7	主柱穴
12住P8	円形	24×24	9×8	47	主柱穴
12住P9	円形	25×24	11×9	13.6	
12住P10	楕円形	19×13	14×10	-	
12住P11	円形	24×24	14×14	53.6	主柱穴
12住P12	楕円形	34×30	20×17	24.8	主柱穴
12住P13	楕円形	20×15	8×7	7.2	
12住P14	円形	21×18	12×12	35.6	
12住P15	楕円形	24×15	12×4	17.1	攪乱
16住P1	円形	24×21	13×9	54	拡張後主柱穴
16住P2	円形	33×30	24×20	62	拡張後主柱穴
16住P3	円形	45×36	22×21	61	拡張後主柱穴
16住P4	円形	30×28	19×18	44	拡張後主柱穴
16住P5	楕円形	43×33	30×25	58	拡張後主柱穴
16住P6	円形	40×33	25×21	72	拡張後主柱穴
16住P7	円形	28×25	17×15	50	拡張後主柱穴
16住P8	楕円形	37×25	25×17	47.7	拡張後主柱穴
16住P9	円形	31×31	20×18	50.6	拡張後主柱穴
16住P10	円形	25×(28)	18×16	47	拡張後主柱穴
16住P11	楕円形	41×35	19×17	47	拡張後主柱穴
16住P12	円形	25×(13)	10×(8)	49.5	拡張後主柱穴
16住P13	円形	27×24	17×15	31	
16住P14	円形	26×23	14×11	11	
16住P15	円形	23×20	8×6	8	
16住P16	円形	23×18	9×7	8	
16住P17	楕円形	23×18	7×6	12	
16住P18	円形	25×22	12×8	14	
16住P19	円形	19×19	12×10	10.8	
16住P20	円形	15×14	8×7	13	
16住P21	円形	17×17	5×5	8	
16住P22	円形	25×18	14×12	49	拡張後主柱穴
16住P23	円形	21×20	9×8	24	
16住P24	円形	24×20	10×8	37	
16住P25	円形	22×22	10×8	43	
16住P26	楕円形	30×(21)	15×(14)	24.6	

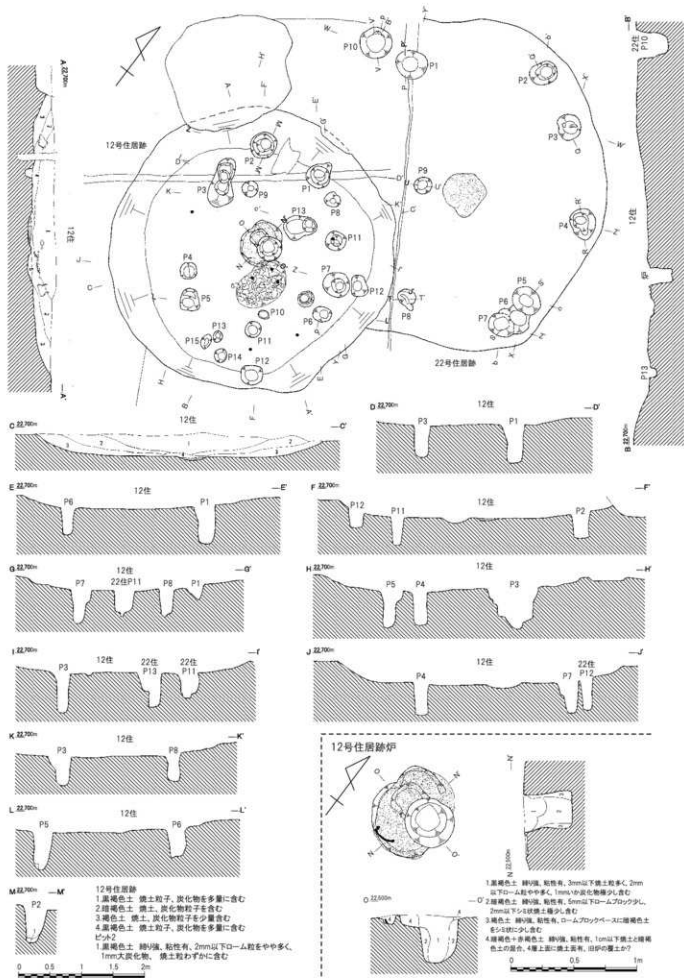
では、同時期の集石土坑を多数検出しており、住居内  
 炉跡と屋外炉(集石土坑)の関係が注目される。ピット  
 は住居内から14本検出するが、本住居に伴うものは11

本である。主柱穴は4本で、P2・3・4、P12・13等  
 から建替えの可能性がある。

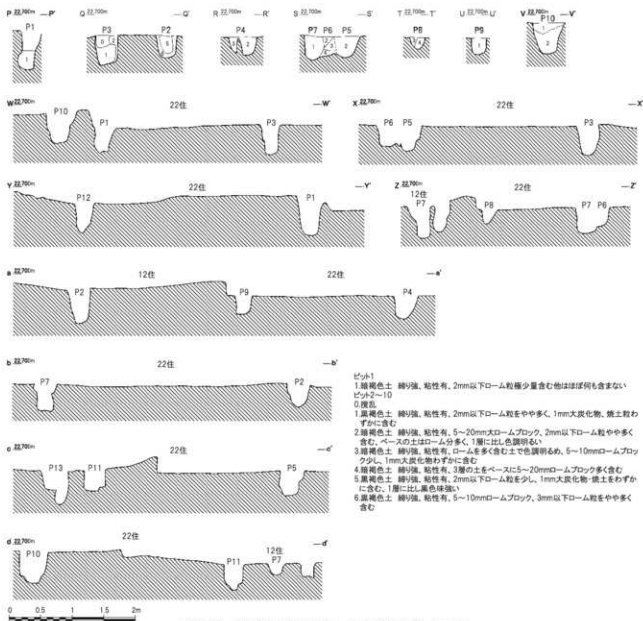
## 2号住居跡







第82図 西遺跡第1地点12・22号住居跡①・12号住居跡炉 (1/60・1/30)



第83図 西遺跡第1地点12・22号住居跡② (1/60)

## ③22号住居跡 (第51表)

調査区北側に位置し、12号住居跡と重複し本住居跡が古い。炉跡とピットのみで、住居床面と掘り込みは確認できなかった。炉は住居中央部で焼土範囲のみを確認した。主柱穴は、P1～7・10・11・12住P2・12炉跡下ピットの4本柱又は6本柱が考えられる。P5～7の新旧関係はP7が最も新しくP6が最も古い。初めに4本主柱穴P1・3・6(又は5)・11(又はP13)、次に6本主柱穴P2・4・7・10・12住炉跡下ピット・22住P2が考えられる。P8・12は入り口部の対ピットとみられる。

## ④23号住居跡 (第51・52表)

調査区の東側に位置し、20号住居跡と重複する。住居跡の掘り込みはほとんどなく、炉跡とピットのみを検出した。床面または覆土層出土遺物も無い。

【炉】炉内に東西に並ぶ2個体の土器を埋設する。東

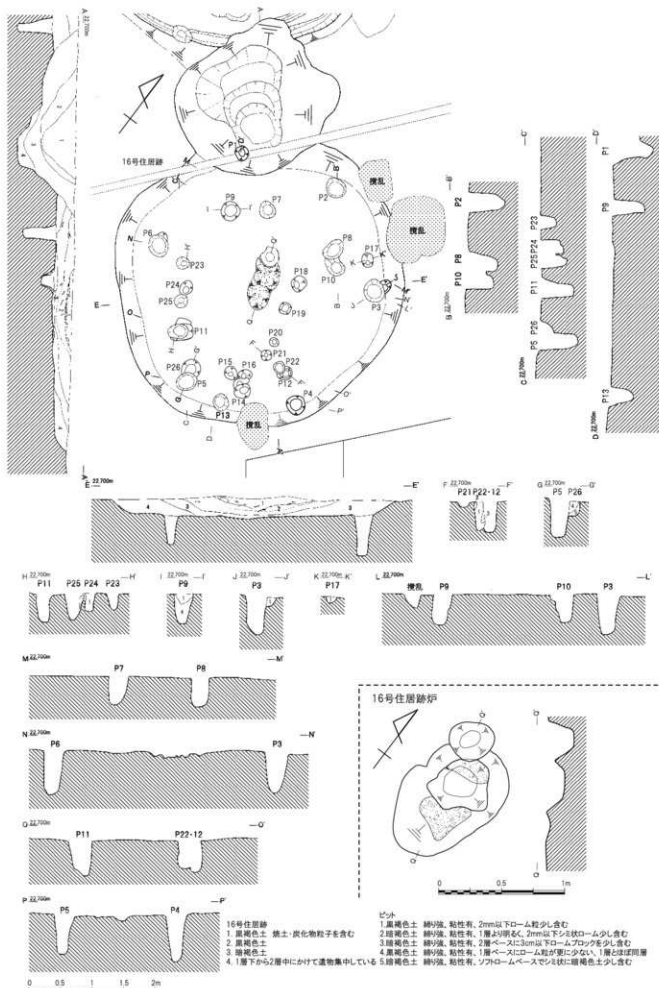
側の埋設土器を炉体1、西側を炉体2とした。炉体1より炉体2周辺が赤褐色に良く焼け硬化している。

炉体1は口縁部を下にし、やや西に傾くよう逆位に埋設されていた。胴部から底部を全て欠損する。炉体2は口縁部を上にして正位の状態、僅かに東に傾いて埋設される。土器は胴部から底部を全て欠損する。

ピットは住居内に20本検出するが、本住居に伴うものは15本である。主柱穴はP10・14・18・22～27・29・30で、P10(又は14)・18・23(又は26)・29を結ぶ4本柱、又はP22・24・25・30を加えた6本柱とみられる。隣接する主柱穴から建替や拡張が考えられる。

## ⑤集石土坑

調査区北側に1基(集石土坑5)、南側に5基(集石土坑1～4・6)検出した。時期については縄文時代中期に属するものとみられる。



第84図 西遺跡第1地点16号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第51表 西遺跡第1地点20・22・23号住居跡一覧表

(単位:cm)

住居名	調査率	住居の形状 規模 (長軸×短軸×深さ)	炉			埋堿 規模	周溝 規模	柱穴	時期	備考		
			炉の形状 規模 (長軸×短軸×深さ)		地床						炉体	石圍
			なし									
20号住居跡	完掘	楕円形 310×248×24	なし			なし	なし	11本 (主柱穴4本)	勝坂Ⅱ	覆土に猪沢、 勝坂Ⅰ～Ⅱ式 土器含む		
22号住居跡	完掘	(隅丸六角形) (580×520×-)	不明 (71×69×-)			○	-	不明	なし	15 (主柱穴11本)	不明 覆土に勝坂Ⅰ ～加曾利EⅡ 式土器含む	
23号住居跡	完掘	円形～楕円形 508×465×9	楕円形 335×250×18			-	○	2	なし	15本 (主柱穴11本)	加曾利 EⅡ 炉体土器は加 曾利EⅡ式と 連弧文系土器	

第52表 西遺跡第1地点20・23号住居跡ピット一覧表

(単位:cm)

No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	20住P1	楕円形	26×23	20×13	43.0	20住	18	23住P2	円形	38×36	19×17	32.3	23住
2	20住P2	楕円形	34×25	13×11	30.0	20住	19	23住P3	楕円形	86×66	55×43	28.1	23住
3	20住3	円形	30×30	23×12	30.0	20住	20	23住P4	楕円形	61×51	38×30	18.3	23住
4	20住4	円形	30×28	19×17	33.0	20住	21	23住P5	円形	33×27	16×14	13.2	23住
5	20住5	円形	17×16	7×6	33.0	20住	22	23住P6	円形	40×(40)	16×16	36.7	23住
6	20住6	円形	26×24	6×4	20.0	20住	23	23住P23	円形	34×(31)	13×13	53.4	23住
7	20住7	円形	17×14	3×3	14.0	20住			円形	(19×19)	(9×7)	33.0	23住
8	20住8	不整形	31×27	22×13	14.0		24	23住P7	円形	26×25	15×14	34.4	23住
9	20住9	円形	26×25	10×8	35.0	20住	25	23住P25	円形	33×32	22×15	34.4	23住
10	20住10	楕円形	39×24	17×12	28.0		26	23住P26	楕円形	22×18	10×7	21.0	23住
11	20住11	不整形	(36)×32	21×11	(15.0)		27	23住P8	楕円形	48×37	29×21	37.6	23住
12	20住12	楕円形	25×18	10×8	20.0	20住	28	23住P9	楕円形	36×11	10×5	16.4	23住
13	20住13	楕円形	40×30	13×11	41.0	20住	29	23住P10	楕円形	38×29	18×11	37.4	23住
14	20住14	円形	32×29	13×10	43.0	23住	30	23住P11	円形	34×29	18×16	22.0	23住
15	20住15	楕円形	30×25	7×5	13.0	20住	31	溝P32	楕円形	40×32	18×15	65.2	
16	20住16	だるま形	44×32	15×10	24.0		32	溝P31	円形	28×24	20×12	62.4	
17	23住P1	楕円形	63×53	26×10	38.0								

第53表 西遺跡第1地点集石土坑・出土燼観察表

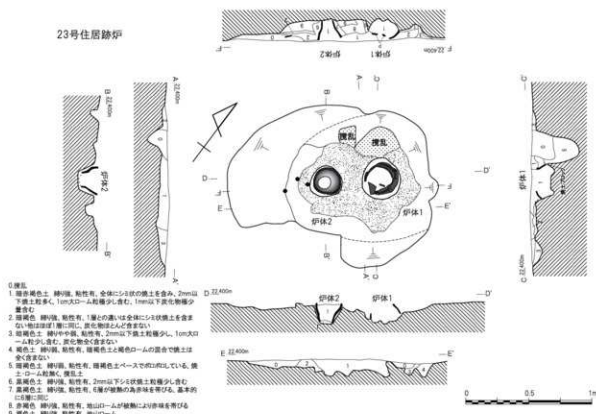
単位:cm・個数・g(%)

坑No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	検出個	総重量	平均重量	検出個数	完形個数	地成個数	未地成個数	ケール・煤付着数	ケール・煤未付着数	
1	不整形	63×54	42×39	24.0	39×34	76	6,557.7	86.3	60(78.9)	16(21.1)	4(5.3)	72(94.7)	23(30.7)	53(70.3)
2	楕円形	154×136	98×93	47.8	130×112	217	7,993.1	36.8	209(96.3)	8(3.7)	43(19.8)	174(80.2)	18(8.3)	199(91.7)
3	不整形	85×68	39×26	35.9	48×48	79	2,160.3	27.3	78(98.7)	1(1.3)	13(16.5)	66(83.5)	5(6.3)	74(93.7)
4	円形	104×96	60×43	16.8	100×90	412	17,484.3	42.4	394(95.6)	18(4.4)	117(28.4)	256(71.6)	41(10.0)	371(90.0)
5	円形	98×97	71×66	11.0	-	8	180.4	22.6	8(100)	0(0)	3(37.5)	5(62.5)	2(25.0)	6(75.0)



第85図 西遺跡第1地点20・23号住居跡 (1/60)

23号住居跡炉



○標高

1. 褐色褐色土、砂中炭、粘性有、全体にシロ状の焼土を含み、2mm以下炭土多量、10cm以下炭層少し含む、10cm以下炭化物多量を含む
2. 褐色土、砂中炭、粘性有、1層目の土は全体にシロ状の焼土を含む、他は灰白砂質土の間に、炭化物少しを含む
3. 褐色土、砂中中炭、粘性有、2mm以下炭土粒減少、10cm以下炭層少し含む、炭化物全く含まない
4. 褐色土、砂中炭、粘性有、褐色土ベースの炭層で焼土は全く含まない
5. 褐色土、砂中炭、粘性有、褐色土ベースで焼土の少ない、炭土10cm以下炭層少し含む
6. 褐色土、砂中炭、粘性有、2mm以下シロ状の炭層少し含む
7. 褐色土、砂中炭、粘性有、6層が特徴の灰白砂質土を含む、基本的には層に同じ
8. 赤褐色土、砂中炭、粘性有、地山ロームが特徴により赤味を帯びる
9. 黄色土、砂中炭、粘性有、地山ローム

第86図 西道跡第1地点23号住居跡炉 (1/30)

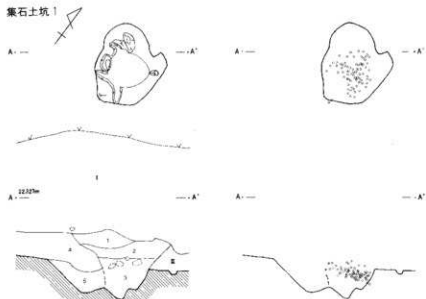
第54表 西道跡第1地点ピット一覧表

(単位cm)

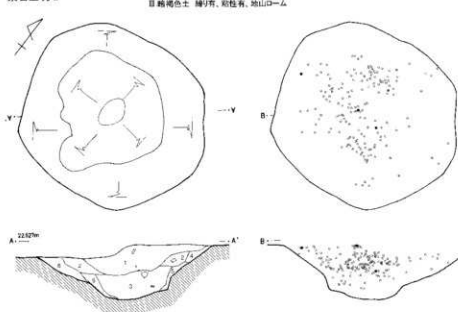
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
P3	楕円形	36×28	17×15	17.9
P4	円形	27×22	16×14	19.0
P5	方形	25×21	15×15	20.7
P6	円形	34×30	13×12	10.8
P7	方形	38×36	18×12	32.2
P9	円形	34×31	22×10	23.6
P10	楕円形	58×42	18×8	47.7
P11	円形	46×40	27×21	33.2
P12	円形	30×28	11×9	27.5
P13	方形	28×24	17×11	23.6
P14	円形	28×27	17×16	36.1
P15	方形	59×48	46×32	24.6
P16	円形	46×38	32×18	28.4
P17	円形	29×28	14×13	24.4
P18	円形	28×24	16×14	24.8
P19	円形	31×31	22×20	31.8
P20	楕円形	55×46	8×6	43.8
P21	方形	27×23	15×13	15.4
P22	円形	26×21	11×7	14.4
P24	楕円形	32×15	9×5	37.0
P25	円形	38×37	8×7	44.3
P26	方形	43×29	6×5	51.4
P27	方形	24×22	16×11	35.8
P28	方形	20×19	14×7	28.8
P29	方形	22×19	8×4	40.0
P30	方形	47×30	10×8	60.8
P31	楕円形	44×27	5×4	63.0
P32	方形	40×38	12×10	63.3
P33	方形	27×22	8×7	61.4
P34	円形	24×23	14×14	58.6
P35	方形	25×23	12×9	34.7
P36	方形	24×20	12×11	37.7
P37	方形	50×23	16×8	75.3
P38	方形	33×26	15×13	42.0

遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ
P39	三角形	28×20	11×7	47.1
P40	楕円形	35×22	10×7	48.3
P41	円形	26×25	16×9	59.3
P42	方形	65×47	17×13	32.6
P43	方形	38×28	12×7	67.3
P44	方形	(58)×47	18×9	127.5
P45	方形	(45)×31	16×12	54.2
P46	方形	44×38	12×6	59.2
P47	方形	35×23	12×10	57.7
P48	方形	(43)×35	20×16	46.3
P49	不整形	33×31	23×16	75.1
P50	方形	50×33	17×10	66.7
P51	方形	35×27	15×14	60.2
P52	方形	32×29	10×8	86.2
P53	方形	34×34	26×20	50.9
P54	方形	36×35	11×10	87.6
P55	方形	38×37	5×5	62.0
P56	円形	29×24	20×13	62.4
P57	円形	37×30	17×15	65.2
P58	楕円形	33×23	13×13	67.4
P59	楕円形	53×29	11×10	95.0
P60	円形	84×79	47×42	51.0
P61	楕円形	59×47	23×21	46.6
P62	楕円形	65×54	39×36	33.4
P63	円形	52×51	19×15	37.0
P64	円形	58×51	28×25	43.1
P65	楕円形	86×69	44×41	44.1
P66	円形	28×25	16×14	64.4
P67	不整形	50×46	21×17	57.3
P68	円形	48×43	20×19	39.4
P69	円形	21×21	7×5	10.8
P70	楕円形	72×61	7×6.50×47	31.9
P71	円形	56×51	22×22	56.4
P72	不明	75×(74)	50×49	27.2

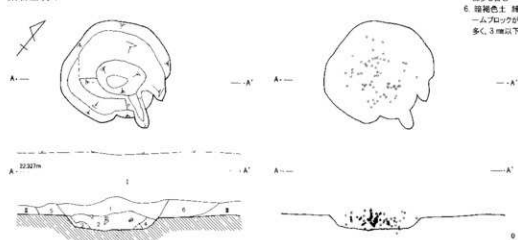
## 集石土坑 1



## 集石土坑 2



## 集石土坑 3



## 集石土坑 1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、シロ状黒褐色土多く、1mm以下ローム粒やや多く、同色色粒と微少し、3mm以下炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム粒と塵土やや多く、4mm以下炭化物やや多く、2-5mmロームブロック部分的に少し含む、層は本層に集中
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム-黒褐色ブロック状の塊状呈す、1mm以下ローム粒-炭化物やや多く、1mm以下塵土少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、腐葉土
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、腐葉土

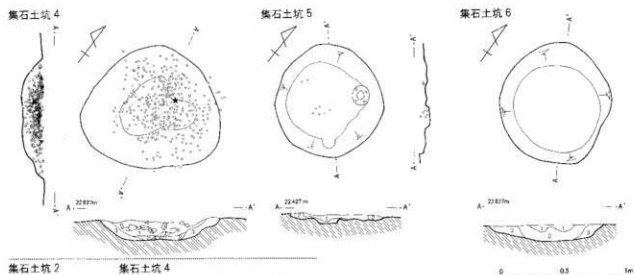
## 集石土坑 2

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調灰色味、黒色土-灰色土ブロック状にやや多く、2mm以下ローム粒僅かに含む、4cm層少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、若干灰色味、2mm以下炭化物やや多く、1mm炭化物少し、塵少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下塵土と1mm以下ローム粒やや多く、3mm以下炭化物比較的多く、塵含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム含む黒灰色味、2mm以下ローム粒-炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層ベースにシロ状黒褐色土多く、2mm以下ローム粒多く、同層土-炭化物比較的多く含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム主体、炭化物を伴う暗褐色土をシロ状状多く、2cm以下ハードロームブロック少し含む

## 集石土坑 3

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、1.5cm層少し含む、2層少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下塵土ローム粒やや多く、5mm以下炭化物やや多く、1mm以下塵土少し含む、9cm層含む
3. 黒色土 締り強、粘性有、灰色の暗褐色土ベースに3mm以下ローム粒多く、シロ状黒褐色土含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層ベースにロームやや多く、1mm以下塵土-炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、8mm以下炭化物少し、3mm粘土層が、5-10mm層少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、5層層が5-15cmロームブロックが下部に集中、3mm以下ローム粒やや多く、3mm以下炭化物少し、5mm層少し含む

第87図 西遺跡第1地点集石土坑① (1/30)



## 土坑 1~3

## 0 復原

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下シニ状炭化物少し、2mm以下シニ状ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒と暗褐色土混合
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、1mm以下炭化物少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック

## 土坑 4~5

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、炭化物物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、2cm以下シニ状ローム多く含む

## 土坑 6~8

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、1mm以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下の1層とソフトロームを混在させる
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベースに2cm以下ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層より更に明るいロームベースでソフトローム土少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、4層より更に明るい

## 土坑 10-12-13, ピット 23-25

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒や多く、炭化物物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下シニ状ローム・ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームベースに2cm以下ロームブロック少し含む

## 土坑 11

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に暗褐色土・ローム粒含む

## 土坑 12

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明るい1層に混在

## 土坑 14

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒と1cm以下シニ状ローム少し含む

## 土坑 15-22

## 0 復原

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに1cm以下シニ状ローム多く、2mm以下シニ状ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームベースにシニ状に2cm以下黒褐色土少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに2cm以下ロームブロック多く、2mm以下ローム土・炭化物少し含む

第88図 西遺跡第1地点集石土坑② (1/30)、出土遺物 (1/4)

## ⑥ 土坑・ピット

土坑12基、ピット68基を検出した。時期については、土坑は全て縄文時代、ピットは溝に伴うP41~59以外は縄文時代とみられる。土坑3・10、ピット1・2・8・23は欠番である。

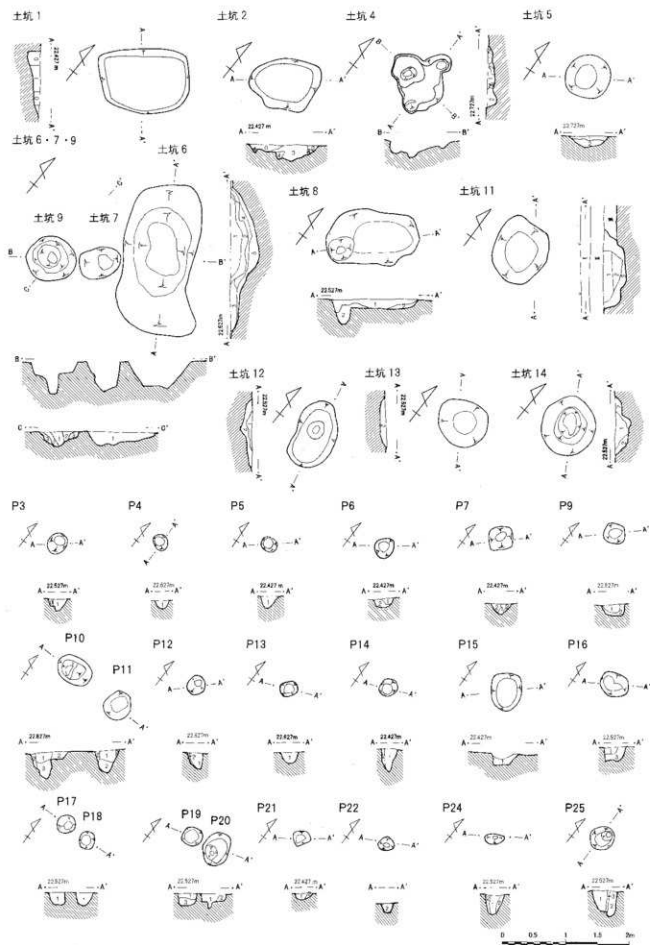
## ⑦ 溝

調査区の中央部を北から南に位置する。断面形態は浅い「U」状を呈し、上幅40~120cm、下幅10~33cm、深さ21.8cmである。溝内および周辺のピットは溝に伴うものか同時期のものとみられる。

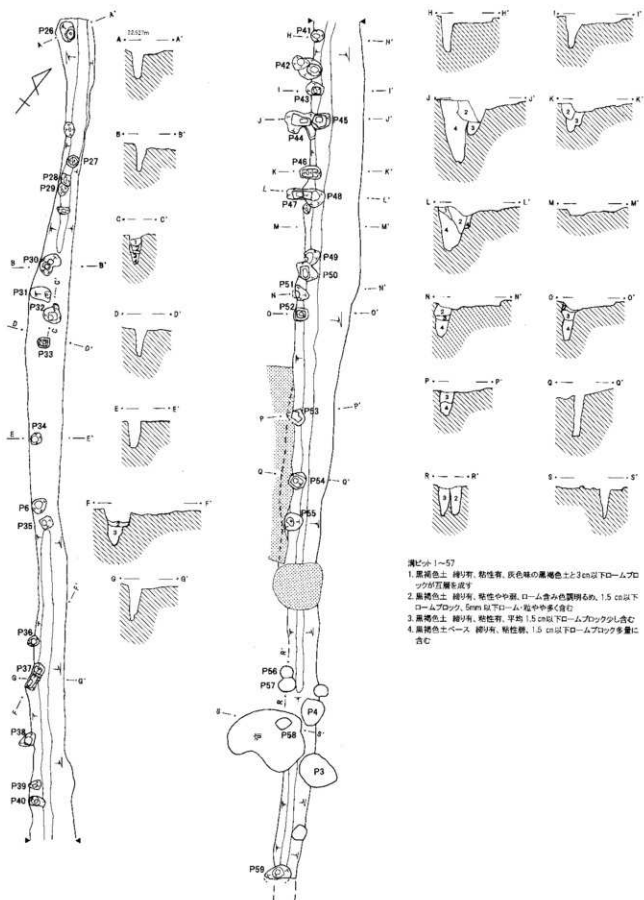
第55表 西遺跡第1地点土坑一覧表

(単位cm)

遺構名	平面形態	確認面積	底径	深さ
土坑1	方形	140×125	101×85	18.8
土坑2	方形	110×80	90×60	14.3
土坑4	不整形	109×98	14×9	32.3
土坑5	円形	72×68	38×35	18.0
土坑6	楕円形	239×119	82×52	45.7
土坑7	楕円形	65×50	24×22	46.2
土坑8	楕円形	148×87	15×10	43.8
土坑9	円形	78×72	16×16	51.2
土坑11	方形	98×88	55×50	30.2
土坑12	楕円形	110×64	14×8	18.4
土坑13	円形	79×75	38×36	13.9
土坑14	円形	96×87	35×23	36.6

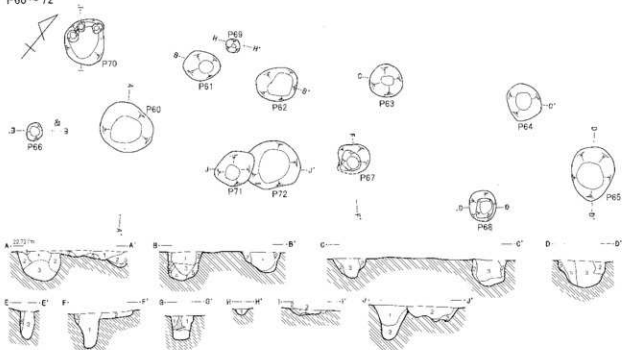


第89図 西遺跡第1地点土坑・ピット① (1/60)



第90図 西遺跡第1地点ピット②・溝 (1/80)

P60～72



ピット 60～69, 71・72

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、1mm以下シリカ状燻土・炭化物少し含む
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より明ぬいソフトローム粒、2mm以下シリカ状ローム少し、1mm以下シリカ状炭化物極少し含む
- 3 黒褐色土 締り強、粘性有、1mmローム粒少し、2mm以下ローム粒やや多く同炭化物少し含む、燻土含まない
- 4 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む

- 5 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む(4-5層はほぼ同様に、4層はローム粒多く3層に近い)

ピット 70

- 1 黒色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム・炭化物多く5mm以下燻土・ローム粒極少し含む
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下シリカ状炭化物・燻土、ローム粒極少し含む
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームベースに1cmシリカ状黒色土、1mm炭化物極少し含む



第91図 西遺跡第1地点ピット③ (1/60)

### ⑥西遺跡第1次調査と第1地点出土遺物(第88図、92～102図)

今回報告する遺物は第1地点出土遺物の他に、1992年の第1次調査で出土した遺物を参考資料として併せて報告する。

今回調査を行なった20・22・23号住居跡、土坑6・10、ピット1・8・13・14・24出土遺物については、炉体土器などの復元可能なもの以外に小片も図示した。

第1次調査出土遺物については、炉体土器、埋甕等の他覆土層出土の復元されたものや、塗彩土器など特殊なもののみを図示した。6号住居跡出土No41の土器は有孔鈎付土器の口縁部と台付きの脚部である。胎土、調整から同一個体の可能性が高いが接合はしない。8号住居跡出土No48の土器は胎土、文様構成から同一個体で間違いないが接合はしない。第1次調査出土土器については破片の大部分を割愛した。割愛したものの中には中期初頭から前半の遺物も多くみられたが、炉体土器や埋甕などは無く、また復元可能なものは見当たらなかった。出土遺物の数量については第56表西遺跡第1次調査出土遺物数一覧表を参照されたい。No123

からNo133の土器については、土器表面に塗彩を施されたものと口縁部の特殊な突起を有するものを図示した。No123は棒状の粘土の先に、三角押し引き文を施した三角形の粘土版を貼り付け、土偶状を呈する。No124から133は土器表面に赤色又は黒色の塗彩を施したものである。

第1地点出土土器について若干遺物観察表の補足説明をする。20号住居跡出土土器は全て覆土層出土のものである。No75と76は同一個体とみられる。

22号住居跡出土土器は全て覆土層出土土器で、他の住居跡に比べて加曾利EⅠ～Ⅱ式、曾利式が多くみられる。

23号住居跡出土土器は、No96・97が炉体土器で、その他は住居覆土層とピット覆土層出土である。No96、No97は共に胴部下半から底部を欠く以外ほぼ完形である。両土器共に被熱によるハジケ現象がみられる。

第88図の1～3は集石土坑2出土である。1は押し引き文、3は地文単節縄文を施文する。2は無文で胎土に金雲母を含む。4は集石土坑4出土の砂岩製の敲石で重さ4,166.94gである。



第56表 西遺跡第1次・第1地点出土土器観察表

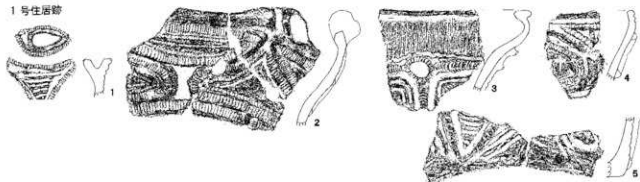
(単位:cm)

国取 番号	国取 番号	遺構名	出土状況	口・胴径	底径	高さ	遺存部位	形状	地文	文様要素	時期
9201	1	1号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部突起	深鉢	-	口縁部突起、隆帯に連続刺突・横位に太い沈溝	弥生B式
	2	1号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部内角突起、低隆帯の槽内区画+三角形区画内細長角文+ペン先状工具三角押文	弥生1式古
	3	1号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	組沈線	口縁部木口杖工細い条線文、口唇下横位沈線、胴部一帯半杖工管内横半隆帯に押文+隆帯間成状沈線+区画内条線文	弥生B式
	4	1号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	隆帯の三角形区画内角文+ペン先状工具三角押文+沈線三叉文、金帯符合	弥生1式古
	5	1号住居跡	覆土	-	(13.0)	-	底部	深鉢	-	半杖工管内横押引文隆帯区画内に半隆帯+沈線文	弥生B式
	6	2号住居跡	伊体	胴径 (21.0)	-	(8.6)	胴部	深鉢	不明	押圧・交互刺突の波状隆帯、隆帯端連続刺突+沈線三叉文、内面粗熟のハンズ有	弥生B式
	7	2号住居跡 土坑	土坑覆土	27.0	10.5	35.5	ほぼ定形	深鉢	条線	口縁部無文帯、胴部太い沈線文+ペン先状工具三角押文 胴部細目隆帯三角形区画内太い沈線文+ペン先状工具の折角状文、胴部条線文	弥生B式
	8	2号住居跡	覆土	胴径 (14.4)	-	(10.2)	胴部	深鉢	RL縄文	前目隆帯2段+隆帯間成状沈線文、胴部縦位地文縄文	弥生B式
	9	2号住居跡 土坑	土坑覆土	胴径 (13.5)	9.5	(11.7)	胴下-底部	深鉢	r1 熱赤	地紋 r1 熱赤	弥生B式
	10	2号住居跡	覆土	胴径 (13.5)	11.3	(10.2)	胴下-底部	深鉢	RL縄文	胴部地文縦位縄文、底部近く屈曲し無文	弥生B式
	11	2号住居跡 土坑	土坑覆土	-	9.2	(3.8)	底部	浅鉢	-	浅鉢底部無文	弥生B式
	12	3号住居跡	覆土	(9.0)	-	(9.3)	口縁部	深鉢	-	口縁部無文帯、胴部一帯前目隆帯、交互刺突+沈線文+連続刺突文	弥生B式
	13	3号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部突起	深鉢	RL縄文	口縁部環状把手+前目、地文縄文	弥生B-器式
14	3号住居跡	覆土	胴径 (23.6)	-	(17.5)	胴部1/2	深鉢	RL縄文	横位前目隆帯+隆帯端沈線、地文縦位縄文	弥生B式	
9301	15	4号住居跡	伊体	口径34.0 最大径43.5	-	(22.8)	口縁-胴部	深鉢	-	2対の大型反端状突起+2対縦状突起、連続隆帯帯垂+交互刺突隆帯、沈線三叉文、多量窪タイプ	弥生B式
	16	4号住居跡	覆土	胴径 (30) 最大径31.7	10.2	36.3	1/2	深鉢	横目状沈線	口縁部無文帯+4単位反端状把手、口縁部環状沈線+刺突隆帯の条線文、波状文の折角+区画内沈線条線文	弥生B式
	17	4号住居跡	覆土	(29.5)	-	(35.7)	口縁1/4- 胴部	深鉢	RL縄文	4単位反端状口縁、連続隆帯+交互刺突波状隆帯、区画内太い沈線三叉文+集合沈線、幅状縦位RL縄文、胴部下-底部無文	弥生B (最終木)
	18	4号住居跡	覆土	胴径 (16.1)	8.6	17.8	胴部-底部	小型深鉢	L r 熱赤	胴部下-底部縁に厚肉、胴部から僅かに隆帯の帯垂文有	弥生B式
	19	4号住居跡	覆土	23.0	10.6	30.1	定形	深鉢	RL縄文	口縁-胴部に前目隆帯で方形区画、区画内前目隆帯の条線文+「 $\infty$ 」字状文を交互文、区画内沈線条線文+波状文+三叉文、区画内前目隆帯+横文	弥生B式
9401	20	4号住居跡	覆土	19.7	7.8	36.8	ほぼ定形	大型深鉢	RL縄文	口縁2面所収突起、内外面に沈線条線文+三叉文+内文、突起から放射する条線状目玉+ペン先状工具三角押文隆帯、隆帯間沈線条線文+十字文+三叉文	弥生B式
	21	4号住居跡	覆土	19.3	7.8	35.4	口縁-胴部	大型深鉢	RL縄文	無文口縁、口唇部-胴部まで押圧隆帯帯垂+先端部近く、胴部内角は低隆帯と太い縦位沈線、三叉文、胴部下半地文	弥生B式
	22	4号住居跡	覆土	23.2	(12.0)	(39.5)	口縁-胴部 1/2	大型深鉢	RL縄文	口縁部無文+前目、交互刺突隆帯帯垂+溝条文、方形区画、区画内太い沈線で溝条文+三叉文	弥生B式
	23	4号住居跡	覆土	15	-	(15.8)	口縁部	小型深鉢	R L 縄文	口縁部無文、1ヶ所山形突起から交互押圧の隆帯帯垂、胴部下半地文	弥生B式
	24	4号住居跡	覆土	(16.0)	-	(25.4)	口縁-胴部 1/3	深鉢	RL縄文	口縁部無文帯、胴部前目隆帯区画内に沈線条線文、胴部下半地文	弥生B式
9501	25	4号住居跡	覆土	13.5	-	22.2	口縁-胴部	小型深鉢	R L 縄文	口縁部1ヶ所山形突起、口縁-胴部地文、胴部下-底部無文	弥生B式
	26	4号住居跡	覆土	14.5	6.3	23.7	ほぼ定形	小型深鉢	R L 縄文	口縁部無文帯、地文縄文、胴部下無文、途中で土器のり止めた感じに由来の口縁部-胴部なし	弥生B式
	27	4号住居跡	覆土	(16.0)	(8.0)	22.6	1/2	小型深鉢	沈線	口縁部無文帯-胴部屈曲し、胴部中心、口縁-胴部連続隆帯帯垂、胴部縁柄状突起隆帯、帯垂隆帯間に沈線文	弥生B式
	28	4号住居跡	覆土	(9.2)	5.0	8.2	口縁1/4	ニニチュア沈鉢	無文	口縁部幅広無文帯、口縁-胴部「く」の字状屈曲	弥生B式
	29	4号住居跡	覆土	口径22.5 最大径33.0	-	(39.0)	底部	深鉢	L r 熱赤	押圧のある大型環状把手1ヶ所、口唇部横位連続隆帯+環状押圧隆帯帯垂、同様の隆帯を胴中央部と下部に横位貼付、無文胴下部に隆帯文有、胴部区画内地文条線文	弥生B式
	30	4号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	外面赤色塗彩、本来全面か?	弥生B式
	31	4号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	外面赤色塗彩、本来全面か?	弥生B式
	32	4号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	内外面に赤色塗彩、外面隆帯円形文、本来全面か?	弥生B式
	33	4号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	外面赤色塗彩で「十」字状文様を描く	弥生B式
9601	34	7号住居跡	外側伊体	胴径 (4.0)	-	(9.5)	胴部	深鉢	L r 熱赤	胴部に竹管状工具2本組の内側を用いて半隆帯の横位波状文、胴部は同様の工具で半隆帯区画文	加賀村E1古
	35	7号住居跡	内側伊体	34.2	-	(19.0)	口縁-胴部 3/4	深鉢	L r 熱赤	口縁部2本組「横」字隆帯、胴部横位半隆帯内角地文、胴部一帯半隆帯長方形区画(一部「十」字状)+区画内角地文	加賀村E1古
	36	5号住居跡	覆土	24.5	-	(16.0)	口縁-胴部 3/4	深鉢	R L 縄文	口縁部7-8単位沈線の槽内区画+区画内縦文、胴部沈線「U」「O」区画内縄文、沈線間滑直	加賀村E器式
	37	5号住居跡	覆土	25.5	-	(11.5)	大型把手	-	-	口唇部大型のみ平く把手	弥生B式
	38	5号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	内外面塗彩、隆帯端沈線、本来全面か?	弥生B式

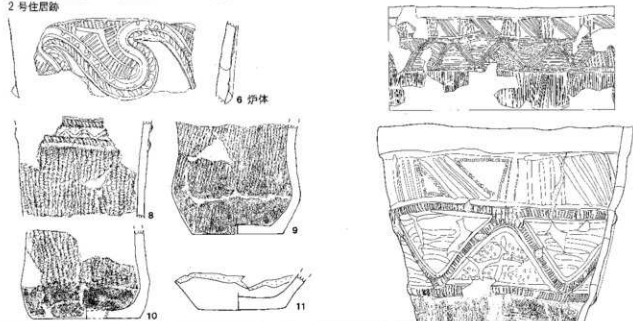
採取番号	発掘番号	遺構名	出土状況	口・胴径	底径	高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	時期
	39	5号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	Lr 焼赤	波状口縁部・山形小突起、地文斜位断糸文に2本組み陪帯区画	加賀科E1式古
	40	5号住居跡	覆土	-	-	-	胴部-胴部	深鉢	Lr 焼赤	口縁部無文、胴部竹管状工具突刺文、胴部地文断糸文	播磨末
	41	6号住居跡	覆土	7.5	(11.1)	(18.7)	口縁-胴部 台付有孔 肩付	無文		丁寧な線で調整・器厚薄い、口縁部筒の幅に1.8-2.6cm間隔に穿孔。内部直接結合しないが粘土面質、同一個体可能性有	播磨式
96区	42	6号住居跡	覆土	-	-	(13.7)	口縁部大型 把手	深鉢	-	波状口縁把手に連続した隆帯垂差・沈線文	播磨Ⅱ式
	43	6号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部無文、胴部斜目隆帯区画内に沈線三叉文文	播磨Ⅱ式
	44		覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部無文、胴部沈線区画内ベン先状工具刺突文	播磨Ⅱ式
	45		覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	口縁部無文、隆帯槽内区画内粗点角押文・沈線波状文金雲母合	阿玉台Ⅱ式
	46	6号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	浅鉢	-	大波状口縁、押圧隆帯区画内粗点角押文・細い工具押引文、胴部に隆帯の総行断糸文・隆帯粗角押文	阿玉台Ⅱ式
	47	8号住居跡	覆土	-	-	-	口縁-胴部	深鉢	R.L 縄文	胴部槽内区画、斜目隆帯槽内区画内に縦位集合沈線、斜目粗い	播磨Ⅱ-Ⅰ式
97区	50	10号住居跡	覆土	29.1	(12.0)	(39.8)	口縁-底部 1/5	深鉢	-	口縁部4単位波状口縁+溝巻状把手、口縁部・胴部・胴部には隆帯で三角形を交互に組合せた重三角、区画内爪形文・波状断面沈線文	播磨Ⅱ式
	51	10号住居跡	覆土	胴径(21.5)	(13.0)	(24.5)	口縁-底部 1/4	深鉢	無文	隆帯連続爪形文+ベン先状工具連続刺突・三角押文の描象文、粘土結核極面粗	播磨Ⅰ式新
	52	12号住居跡	伊体	-	-	-	胴部	浅鉢	無文	胴部下底部近く	不明
	53	12号住居跡	覆土	24.5	-	(16.5)	口縁-胴部	深鉢	-	無文口縁部1ヶ所に斜目隆帯溝巻文+環状把手、胴部斜目隆帯と連続爪形文で4単位の槽内区画、区画内縦位集合沈線	播磨Ⅱ式
	54	12号住居跡	覆土	胴径(19.0)	6.0	13.8	胴部-底部	深鉢	R.L 縄文	丸みのある胴部と小さな底部	播磨Ⅱ式
	55	12号住居跡	覆土	30.5	14.5	47.0	口縁-底部 4/5	深鉢	R.L 縄文	口縁部4単位波状口縁+円文把手、口縁部斜目隆帯で円形・槽内区画内縦位集合沈線、胴部狭く無文、胴部斜目隆帯円形・槽内区画内縦位集合沈線、胴部下底部地文	播磨Ⅱ-Ⅰ式
	56	13号住居跡	伊体	(29.4)	-	(30.5)	口縁1/4	深鉢	ヒズ状注 痕	平口縁部に4単位小突起・槽内形粘土結核付、小突起から懸垂する隆帯で8ヶ所槽内区画、胴部から胴部ヒズ状注痕2段	阿玉台Ⅰa- 1b式古
	57	13号住居跡	伊体	(25.0)	-	(16.7)	口縁1/4	深鉢	-	4単位波状口縁・波頂部粗点角押+押圧のあるS字状隆帯懸垂、隆帯槽内区画内に斜位の押引文、胴部2単位位の押引文で「U」字状文	阿玉台Ⅰb新
	58	13号住居跡	覆土	18.0	9.5	27.9	口縁部	深鉢	角押文	平口縁部に4単位の槽内区画・小突起1ヶ+肌隆帯区画内「L」太角押文+細い角押文+波状角押文+底位・Y状・W字状に角押文、胴部に隆帯で粗点角押文区画、槽内区画下に粗点押引文+波状角押文	播磨Ⅱ式
	59	13号住居跡	覆土	(34.0)	-	(35.1)	口縁-胴部 1/2	深鉢	-	口縁部斜目隆帯突起1ヶ所・円形文+沈線三叉文、口縁部隆帯で平円+三角区画、隆帯連続三角押文+細かい手載竹管状工具刺突・沈線玉包三叉文、胴部粗点角押文・連続爪形文(キタビラ・粗点角押文)、胴部隆帯三角区画内連続爪形文+沈線三叉文、方形区画内連続爪形文+三角押文+細かい手載竹管状刺突文	播磨Ⅰ式
60	14号住居跡	伊体	(47.2)	-	(16.8)	口縁部1/4	深鉢	-	口縁部粗点+口縁部断糸+溝巻状突起と把手1ヶ所有、胴部斜目・交互刺突隆帯の区画、隆帯区画内に沈線三叉文文	播磨Ⅱ式	
98区	61	16号住居跡	伊体	(32.5)	-	(18.2)	口縁1/3	深鉢	-	口縁部無文+口唇「く」状断面、胴部斜目隆帯槽内区画5単位、区画内縦位集合沈線+連続爪形隆帯三角区画内縦位集合沈線	播磨Ⅱ新Ⅲ- Ⅰ式
	62	16号住居跡	覆土	15.0	5.2	20.2	ほぼ定形	小型深鉢	-	口縁部無文+斜目隆帯環状把手1ヶ所、胴部斜目隆帯方形・槽内区画+区画内連続爪形文+竹管状工具刺突断糸文+沈線三叉文等	播磨Ⅱ式
	63	16号住居跡	覆土	10.5	-	(12.5)	底部欠	小型深鉢	R.L 縄文	無文口縁、胴部から胴部北縁長方形区画、区画内沈線波状文+溝巻文+三叉文、沈線間浅く複雑な交互刺突断糸文	播磨Ⅱ式
	64	16号住居跡	覆土	(14.0)	(11.0)	(37.7)	口縁1/4	深鉢	三角押文	口縁部無文、胴部2ヶ所に交互刺突隆帯で環状(筒輪)把手+交互刺突の太い隆帯区画+区画内粗い三角押文+沈線三叉文文	播磨Ⅱ式
99区	65	16号住居跡	覆土	(30.5)	-	(31.6)	口縁-胴部 1/4	深鉢	-	4単位波状口縁先端に斜目隆帯突起、突起下に斜目隆帯溝巻文+隆帯粗沈線、区画内連続爪形文+手載竹管状刺突、斜目隆帯槽内区画内縦位集合沈線、胴部斜目隆帯二等辺三角区画+隆帯粗沈線+区画内連続刺突+手載竹管状刺突断糸文	播磨Ⅱ式新
	66	16号住居跡	覆土	(13.0)	-	(10.7)	口縁4/5	小型深鉢	不明	口縁部無文+斜目隆帯突起2ヶ所、胴部斜目隆帯、胴部斜目隆帯で三角区画	播磨Ⅱ式
	67	16号住居跡	覆土	15.2	-	(12.2)	口縁部1/2	小型深鉢	-	口縁部斜目隆帯「横」字状溝巻文+沈線三叉文、胴部斜目隆帯区画内斜位集合沈線文	播磨Ⅱ式
	68	16号住居跡	覆土	15.0	-	(11.0)	胴部-底部	小型深鉢	-	口縁部M字状3単位波状口縁、押圧のある隆帯で溝巻文、隆帯粗沈線+沈線三叉文	播磨Ⅱ式
100区	69	16号住居跡	覆土	45.8	-	(26.0)	口縁部1/2	深鉢	「ラジエータ」状隆帯	口縁部と胴部から胴部には粗くすぼましい、口縁部中空状口1ヶ所+溝巻小突起2ヶ所、全面ヒズ状のラジエータ状文様	播磨Ⅱ式末
	70	16号住居跡	覆土	胴径(17.0)	-	(21.0)	胴部	深鉢	R.L 縄文	口縁部と胴部に交互刺突隆帯と重三角形区画、区画内沈線三叉文、胴部地文縄文	播磨Ⅱ式
	71	16号住居跡	覆土	-	7.7	(10.0)	胴部-底部	深鉢	R.L 縄文	胴部縄文、底部無文	播磨Ⅱ式

国庫 番号	調査 番号	遺構名	出土状況	口・胴径	底径	高さ	遺存部位	器形	地文	文様要素	時期
100 区	72	16号住居跡	覆土	16.0	-	(133)	口縁～胴部	台付鉢	無文	無文平口縁で口唇屈曲・輪状把手1ヶ所、胴部に穿孔有	修改B式
	73	16号住居跡	覆土	(35.0)	-	(118)	口縁～胴部 1/6	浅鉢	無文	「コ」字状に内湾する口縁から口唇部は板状の平口縁	修改B式
	74	19号住居跡	B体	胴径(28.2)	-	(20.7)	胴部	円筒形深鉢	無文	口縁部無文に陸帯有、胴部半陸帯幅広角押文+波状結筋沈線、陸帯凹文に扇有、抽象文	修改I～B式
	75	20号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部1/3	浅鉢	無文	口縁部「逆L」字状屈曲、陸帯方形区画	阿玉台式系
	76	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	無文	無文、金雲母多く含む	阿玉台式系
	78	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	無文	陸帯懸垂	阿玉台式系
	79	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	角押文	幅状角押文	器式I式
	80	20号住居跡	表土	-	-	-	口縁部	深鉢	RL縹文	口縁部地文、胴部波状沈線+角押文	修改B式
	81	20号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部地文、胴部波状沈線+角押文	修改B式
	82	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	陸帯幅広角押文+三角押文	修改I式新
	83	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	半陸帯幅広角押文	修改I式新
	84	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	陸帯幅広角押(キナピラ)文+沈線	修改B式
	85	20号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	地文RL縹文	修改B式
	86	20号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	無文口縁内湾	修改B～B式
	87	22号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	ヒメ状庄 板	横位陸帯幅広角状結筋沈線文+懸垂陸帯、ヒメ状庄板、金雲母含む	阿玉台Ib式
	88	22号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	RL縹文	波状口縁	加賀利E式I古
	89	22号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	陸帯幅広角押+キナピラ文+三角押文	修改B式
	90	22号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	横位扇目	修改I式併行
91	22号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	陸帯懸垂文+沈線結筋文	曹利B式	
92	22号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	陸帯純行懸垂文+沈線結筋文	曹利B式	
93	22号住居跡	P10覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	2本組沈線間磨消、沈線の純行懸垂文	加賀利E式 新	
94	22号住居跡	P7覆土	-	-	-	胴部	深鉢	Lr熱赤	Lr熱赤	中期	
95	22号住居跡	P2覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	RL縹文	中期	
96	23号住居跡	B体	21.5	-	(10.0)	口縁～胴部	深鉢	RL縹文	口縁部細線帯+沈線4単位格内区画内RL縹文、胴部-胴部RL縹文、2本組沈線懸垂文間磨消	加賀利E式 中期	
97	23号住居跡	B体	21.0	-	(13.6)	胴部以下欠	深鉢	RL縹文	口唇部横位沈線1本+直下2段凹形刺突文、胴部横位沈線2本、胴部「ハ」状沈線間磨消+地文	加賀利E式 中期、薄灰文 併行	
98	23号住居跡	P3覆土	-	-	-	口縁部	小型深鉢	-	角押文	器式I	
99	23号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	波状口縁、陸帯浪巻文	加賀利E式 古	
100	23号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	Lr、R縹 縹文	陸帯+沈線区画内地文縹文	加賀利E式 中期	
101	23号住居跡	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈縹文	弧状陸帯+扇位沈線	加賀利E式 中期	
102	23号住居跡	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	2本組沈線間磨消+地文縹文	加賀利E式 中期	
103	1次調査 土坑3	覆土	4.5	3.5	7.1	完形	3ニチュ ア台付土 器	沈縹	ミニチュア台付深鉢、胴部沈縹浪巻文+三叉文、胴部+所穿孔	器B式	
104	1次調査 土坑19	覆土	15.5	-	(138)	口縁～胴部	小型深鉢	RL縹文	無文口縁、口唇部原直、胴部陸帯格内区画13単位	修改B式	
105	1次調査 土坑6	覆土	11.0	6.1	15.9	(ほぼ)完形	小型深鉢	RL縹文	口縁部陸帯幅広屈曲、胴部RL縹位縹文	修改B末～B式	
106	1次調査 土坑6	覆土	13	9.5	20.5	完形(胴部 部欠)	深鉢	RL縹文	口縁部無文帯に縹文を配した円形陸帯幅広、口縁～胴部間横位沈線1本、胴部斜・扇位にRL縹文	修改B末～B式	
107	第1次調査 土坑6	覆土	(20.0)	(13.5)	(49.7)	1/5	深鉢	RL縹文	口縁部無文帯に陸帯円形文、胴部扇目・交互刺突陸帯の格内区画内に沈縹文、胴上部波状幅広陸帯で三角文・扇巻文の区画、胴下半縹位縹文	修改B式	
108	第1次調査 土坑6	表土	2.65	-	厚さ1.34	土製凹板	円形	縹文	無線を帯る	中期	
109	土坑6	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	-	口唇部2ヶ所山形突起、口縁部細陸帯幅広	中期～後期	
110	土坑6	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	角押文	修改B式	
111	土坑6	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	2本組沈縹懸垂文間磨消	加賀利E式 中期	
112	土坑6	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	結筋沈縹	修改B式	
113	土坑10	覆土	-	-	-	口唇部	深鉢	-	陸帯+沈縹	中期～後期	
114	土坑10	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	2本組沈縹懸垂文間磨消	加賀利E式 中期	
115	P1	覆土	-	-	-	口縁部	深鉢	RL縹文	口縁部地文縹文	修改B式	
116	P1	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	押圧陸帯	阿玉台式系	
117	P8	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	RL縹文	半陸帯沈縹幅広純行引文+波状沈縹、地文RL	修改B式	
118	P8	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	半陸帯に連続扇形文+区画内沈縹文	修改B式	
119	P8	覆土	-	-	-	胴部～底部	深鉢	Lr熱赤	半軟竹管内側沈縹+沈縹純行懸垂文	加賀利E式 中期	
120	P13	覆土	-	-	-	底部	深鉢	-	底部副代板有	中期	
121	P14	覆土	-	-	-	底部	深鉢	RL縹文	地文RL+沈縹、金雲母含む	中期	
122	P24	覆土	-	-	-	胴部	深鉢	-	縦かい角押文2～4列	器式I	

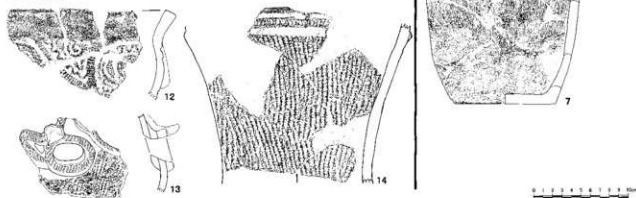
1号住居跡



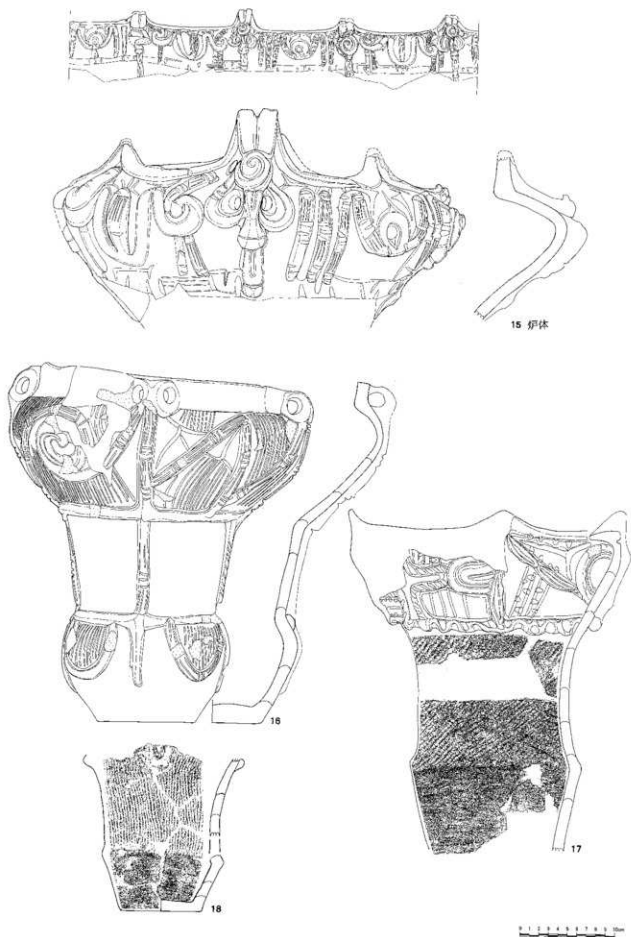
2号住居跡



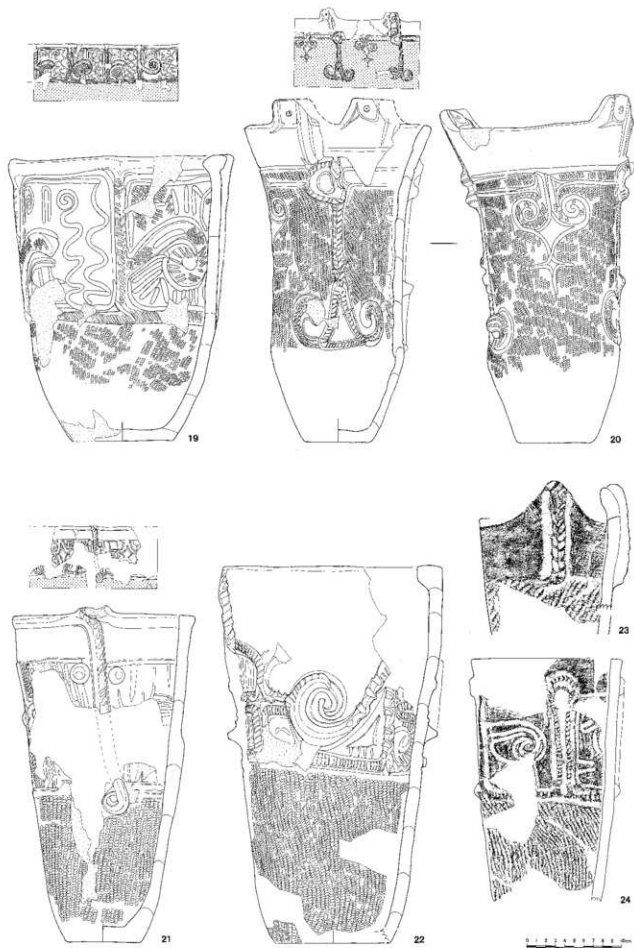
3号住居跡



第92図 西遺跡1・2・3号住居跡出土土器 (1/4)

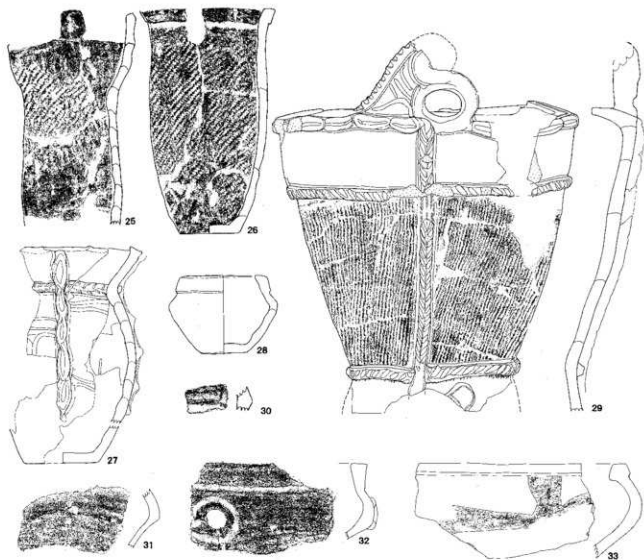


第93図 西遺跡4号住居跡出土土器① (1/4)

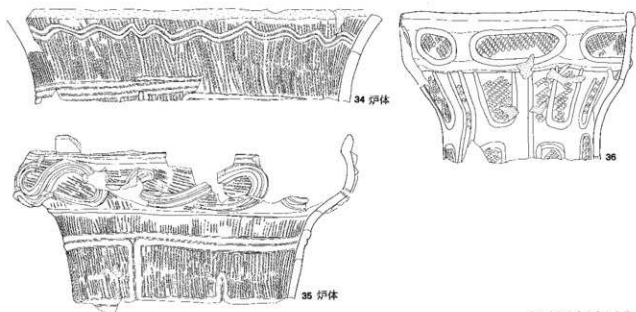


第94図 西遺跡4号住居跡出土土器② (1/4)

## 4号住居跡

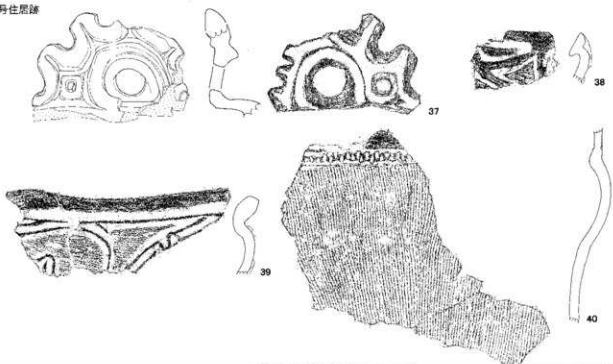


## 5・7号住居跡

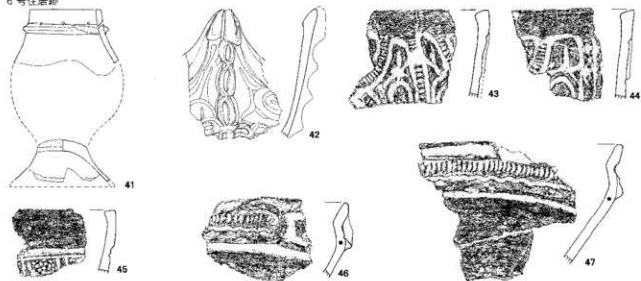


第95図 西遺跡4号住居跡③・5・7号住居跡出土土器 (1/4)

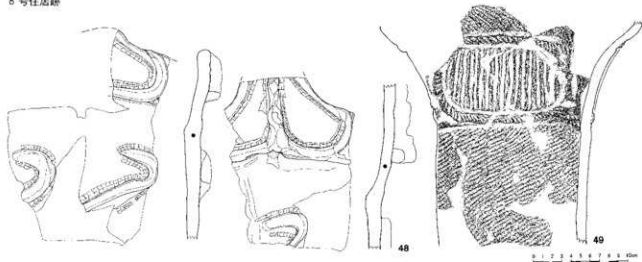
5号住居跡



6号住居跡



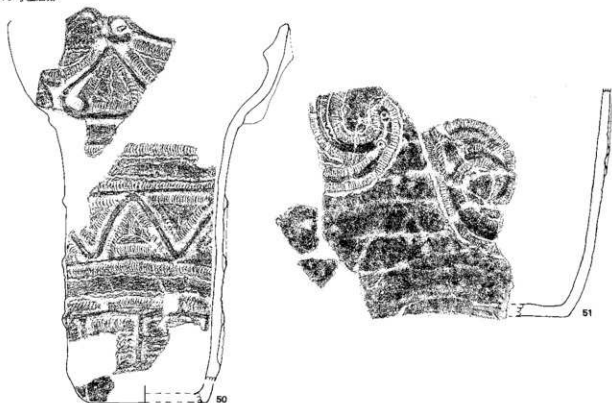
8号住居跡



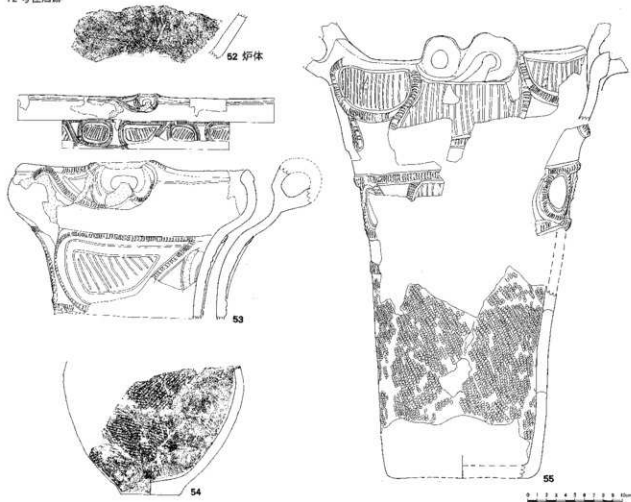
第96図 西遺跡5・6・8号住居跡出土土器 (1/4)



## 10号住居跡

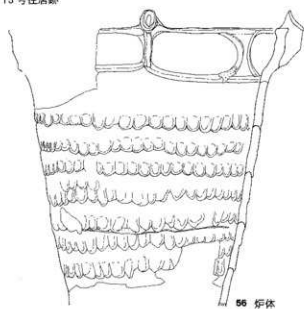


## 12号住居跡

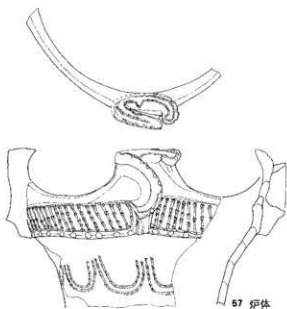


第97図 西遺跡10・12号住居跡出土土器 (1/4)

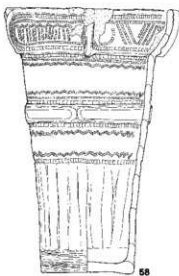
13号住居跡



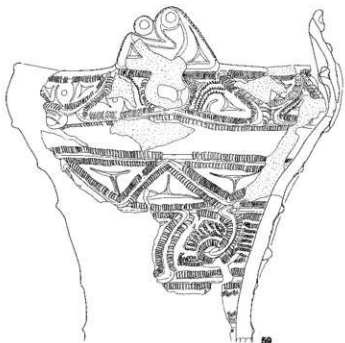
56 伊体



57 伊体

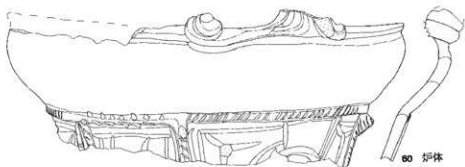


58



59

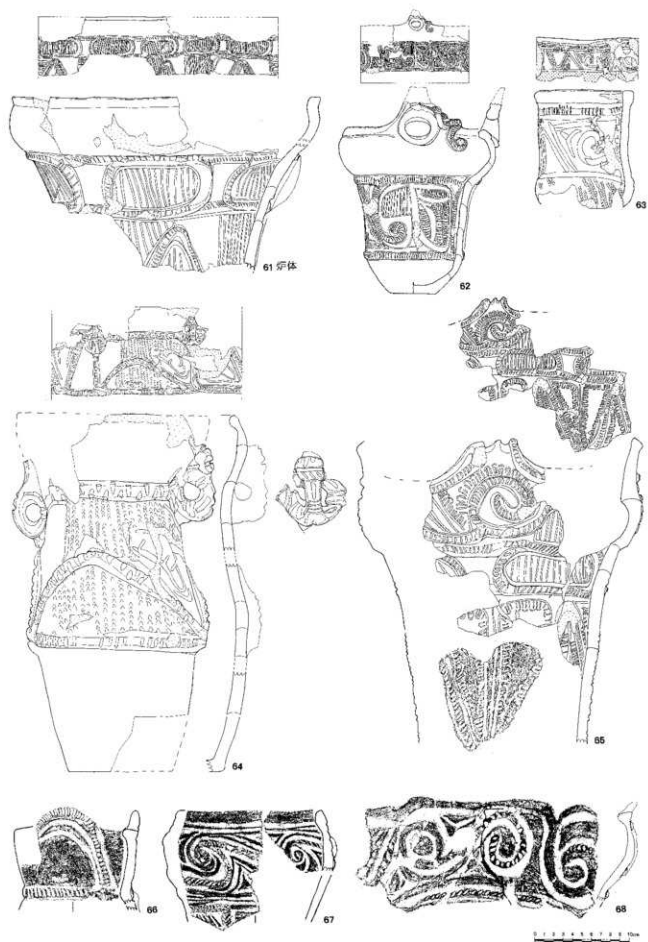
15号住居跡



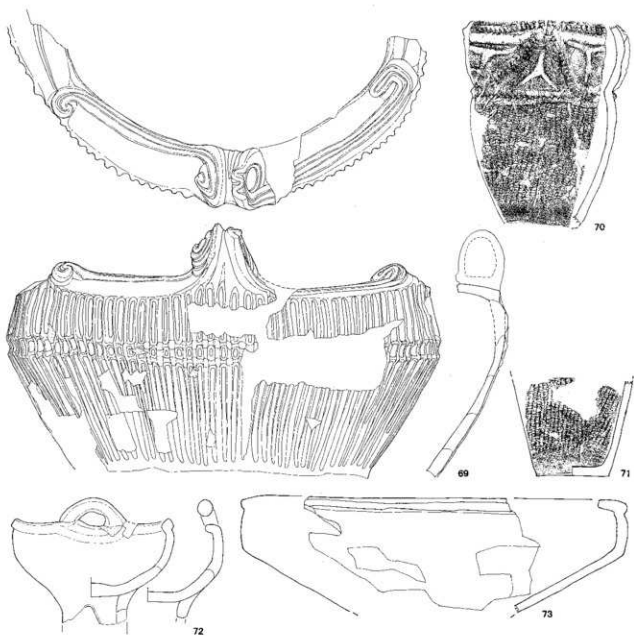
60 伊体



第98図 西遺跡13・15号住居跡出土土器 (1/4)

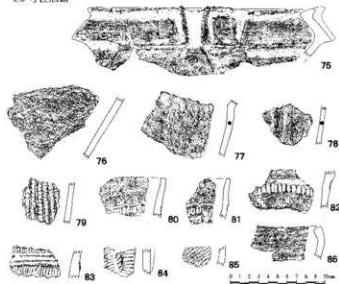
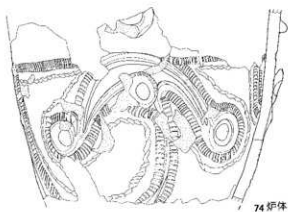


第99図 西遺跡16号住居跡出土土器① (1/4)



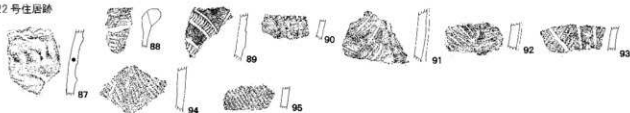
19号住居跡

20号住居跡

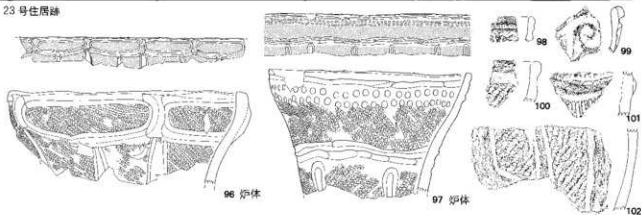


第100図 西遺跡16号住居跡②・19・20号住居跡出土土器 (1/4)

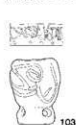
## 22号住居跡



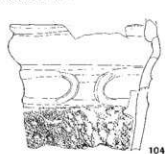
## 23号住居跡



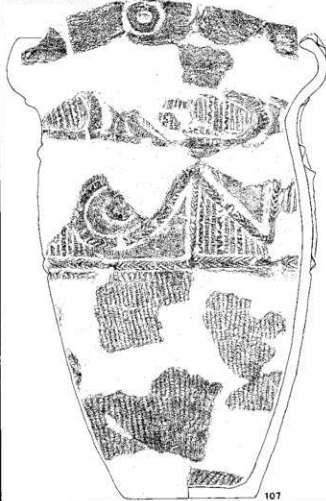
## 第1次調査土坑3



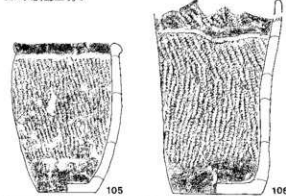
## 第1次調査土坑19



## 第1次調査土坑66



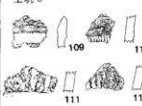
## 第1次調査土坑6



## 第1次調査遺構外



## 土坑6



## 土坑10



## P1



## P8



## P13



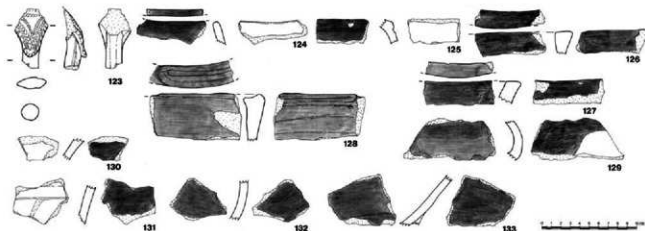
## P14



## P24



第101図 西遺跡22・23号住居跡、第1次調査土坑3・6・19・66・遺構外、第1地点土坑6・10、  
ピット1・8・13・14・24出土土器 (1/4)



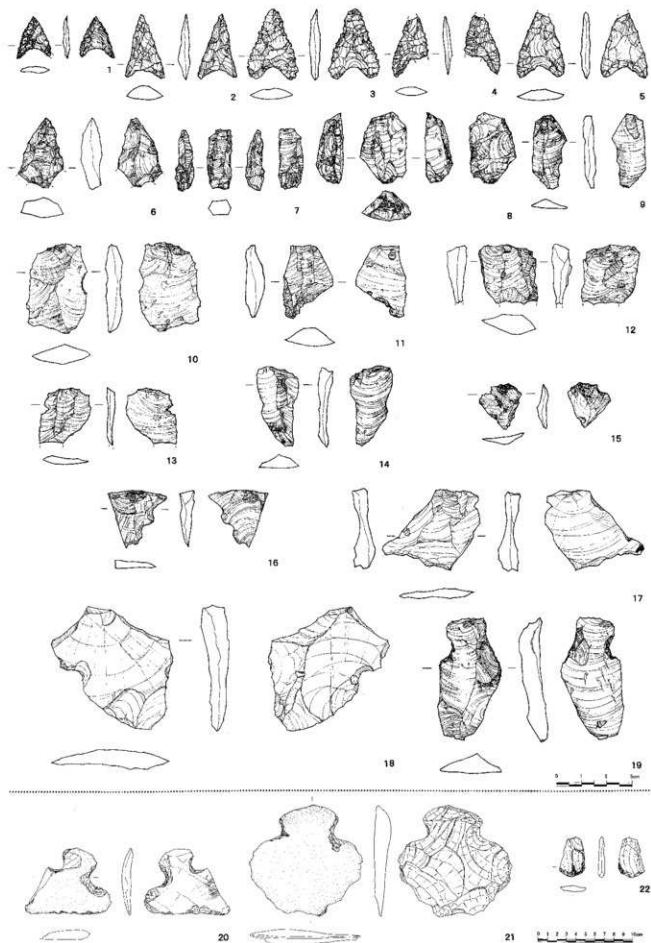
第102図 西遺跡出土塗彩土器、口縁部突起 (1/4)

第57表 西遺跡出土石器観察表

(単位cm・g)

No.	遺構名	注記番号	種別	石質	長さ	幅	厚さ	重量	残存
1	集石10	集石10	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.3	0.38	完形
2	4号住居跡	4住No.90	石鏃	チャート	2.5	1.6	0.5	1.28	完形
3	4号住居跡	4住2層	石鏃	チャート	2.8	2	0.45	1.93	完形
4	4号住居跡	4住2層	石鏃	チャート	2.3	1.3	0.3	0.96	一部欠損
5	土坑一括	土坑 No.12	石鏃	チャート	2.6	1.8	0.4	1.85	一部欠損
6	18号住居跡	18住覆土	石鏃	黒曜石	2.9	1.7	0.8	3.52	完形
7	4号住居跡	4住2層	楔形石器?	黒曜石	2.4	0.8	0.6	1.68	完形
8	5号住居跡	5住No.1	楔形石器?	黒曜石	2.8	1.9	1.2	4.88	完形
9	4号住居跡	4住2層	網片石器?	黒曜石	2.9	1.4	0.4	1.41	完形
10	16号住居跡	16住No.70	網片	黒曜石	3.5	2.3	0.8	3	網片
11	グリッド一括	J-24	スタレイバー	黒曜石	2.8	2	0.7	4.6	完形
12	1号住居跡	1住	網片	黒曜石	3.45	2.4	2.2	3.45	網片
13	4号住居跡	4住南表土	網片	黒曜石	2.3	1.9	0.35	1.23	網片
14	4号住居跡	4住2層	網片	黒曜石	3.3	1.7	0.6	2.07	網片
15	16号住居跡	16住No.8	網片	黒曜石	1.8	1.7	0.4	0.76	網片
16	1号住居跡	1住2層	ノッチ有	黒曜石	1.83	2.2	2.3	1.83	一部残存?
17	4号住居跡	4住2層	網片(スタレイ?)	チャート	3.2	3.2	0.8	5.57	完形
18	14号住居跡	14住2層	網片	チャート	3.9	5.2	1	15.53	完形?
19	4号住居跡	4住2層	石鏃	黒曜石	4.9	2.4	0.8	8.4	完形
20	4号住居跡	4住1層	石鏃	細粒砂岩	7.1	8.7	1	62.93	一部欠損
21	16号住居跡	16住No.14	石鏃	ホルンフェルス	11.6	11.7	1.7	198.3	完形
22	4号住居跡	4住2層	打製石斧?	緑色岩	4.3	2.7	0.7	9.63	完形
23	6号住居跡	6住1層	打製石斧	頁岩	6.4	4	1	31.46	完形
24	14号住居跡	14住覆土	打製石斧	黒色細粒砂岩	6.6	4	2.3	69.95	完形
25	14号住居跡	14住No.25	打製石斧	細粒砂岩	7.7	3.9	1.7	57.84	完形
26	6号住居跡	6住1層	打製石斧	細粒砂岩	8.1	4.6	2.2	69.28	完形
27	土坑10	土坑10周辺	打製石斧	砂岩	8.2	4.5	3	140.34	完形
28	6号住居跡	6住1層	打製石斧	砂岩	8.1	4.6	2.2	113.69	完形
29	6号住居跡	6住覆土	打製石斧	砂岩	8.7	3.6	1.1	48.33	完形
30	4号住居跡	4住北No.15	打製石斧	頁岩	10.4	3.8	1.3	59.23	完形
31	2号住居跡	2住2層	打製石斧	砂岩	10.9	4.7	1.7	112.01	完形
32	6号住居跡	6住2層	打製石斧	砂岩	10	4.6	1.7	99.98	完形
33	3号住居跡	3住No.6	打製石斧	砂岩	10.9	4.9	2	121.73	完形
34	9号住居跡	9住覆土	打製石斧	ホルンフェルス	11.1	4.3	2.4	183	完形
35	グリッド一括	H-22	打製石斧	細粒砂岩	10.7	4.2	1.9	129.07	完形
36	10号住居跡	10住No.15	打製石斧	頁岩	11	4.9	2.4	166.52	完形
37	14号住居跡	14住覆土	打製石斧	頁岩	7.5	3.8	2.4	84.04	完形
38	4号住居跡	4住2層	打製石斧	砂岩	9.6	5	2	142.28	完形
39	2号住居跡	2住確認面	打製石斧	砂岩	10.3	5.3	1.8	123.99	完形
40	4号住居跡	4住2層	打製石斧	細粒砂岩	8.8	5.8	1.5	92.54	完形
41	4号住居跡	4住東確認面	打製石斧	ホルンフェルス	9.1	5.8	1.2	81.92	完形
42	8号住居跡	8住覆土	打製石斧	頁岩	9.1	4.8	1.1	56.71	完形
43	9号住居跡	9住集石	打製石斧	砂岩	9.3	4.9	1.1	90.1	完形
44	4号住居跡	4住2層	打製石斧	砂岩	10.8	4.5	1.5	107.89	完形
45	8号住居跡	8住柱穴	打製石斧	細粒砂岩	11.8	5.3	2.3	183.23	完形
46	12号住居跡	12住No.8	打製石斧	ホルンフェルス	11.8	5.9	1.9	151.68	完形
47	22号住居跡	22住No.1	打製石斧	砂岩	12.3	6.9	2.4	213.37	完形
48	4号住居跡	4住1層	打製石斧	頁岩	7.1	3.7	1.1	24.07	完形
49	14号住居跡	14住No.37	打製石斧	砂岩	9.9	5.3	2.5	147.14	完形
50	9号住居跡	9住No.8	打製石斧	ホルンフェルス	12.2	5.7	2.5	140.01	完形
51	16号住居跡	16住No.24	打製石斧	細粒砂岩	10.6	6.8	2.6	203.83	完形

No.	遺構名	注記番号	種別	石質	長さ	幅	厚さ	重量	残存
52	グリップ一括	H-8	打製石斧	細粒砂岩	11.4	4.6	1.4	76.5	完形
53	18号住居跡	18住覆土	打製石斧	細粒砂岩	10.7	4	1.7	100.58	完形
54	6号住居跡	6住覆土	打製石斧	砂岩	11.5	4.7	1.4	100.04	完形
55	土坑1	土坑1S1	打製石斧	泥岩	13	5.4	1.7	137.09	完形
56	6号住居跡	6住No.3	打製石斧	頁岩	11.2	4.8	1.7	107.71	完形
57	9号住居跡	9住No.7	打製石斧	砂岩	12.1	6.4	1.8	205.08	完形
58	12号住居跡	12住覆土	打製石斧	細粒砂岩	11.2	5.4	2.5	132.77	完形
59	12号住居跡	12住1層	打製石斧	砂岩	7.3	3.9	1.5	63.23	完形
60	3号住居跡	3住土坑10 周辺-3	打製石斧	輝緑凝灰岩	9.7	4.1	1.2	72.88	完形
61	10号住居跡	10住No.9	打製石斧	細粒砂岩	10.1	5	1.9	96.91	完形
62	6号住居跡	6住2層	打製石斧	細粒砂岩	10	6.3	2	140.17	完形
63	6号住居跡	6住1層	打製石斧	ホルンフェルス	9.7	6.2	3	288.52	完形
64	2号住居跡	2住2層	打製石斧(細)	頁岩	11.2	3.2	1.3	63.26	完形
65	3号住居跡	3住No.7	打製石斧	ホルンフェルス?	12.8	3.9	1.9	100.91	完形
66	5号住居跡	5住覆土	打製石斧	砂岩	8.3	5.9	2.5	126.92	完形
67	4号住居跡	4住北	打製石斧	細粒砂岩	8.1	6.4	1.5	68.65	完形
68	6号住居跡	6住2層	打製石斧	ホルンフェルス	9.2	7.5	2.5	188.4	完形
69	12号住居跡	12住No.7	打製石斧	ホルンフェルス	16.9	8.4	2.7	394.44	一部欠損
70	5号住居跡	5住No.12	打製石斧	細粒砂岩	7.9	4.8	1.2	58.18	完形
71	2号住居跡	2住確認面	打製石斧(細)	凝灰岩	10.5	4.3	1.9	104.5	完形
72	5号住居跡	5住外No.3	打製石斧	細粒砂岩	14.1	4.4	1.8	176.23	完形
73	3号住居跡	3住No.20	打製石斧	ホルンフェルス	17.1	6	2.8	355.45	一部欠損
74	6号住居跡	6住1層	打製石斧	細粒砂岩	6.2	4.1	1.5	36.95	完形
75	1号住居跡	1住S2	打製石斧	黒色片岩	9.8	4	2.2	93.54	完形
76	1号住居跡	1住確認面	打製石斧	凝灰岩	10.4	4.3	1.5	66.14	一部欠損
77	土坑一括	土坑No.10	打製石斧	細粒砂岩	8.6	3.7	1.4	48.66	完形
78	4号住居跡	4住2層	打製石斧	砂岩	9.4	4.8	1.4	95.11	完形
79	4・5号住居跡	4・5住北	打製石斧	砂岩	9.1	4.6	1.8	78.45	完形
80	8号住居跡	8住東	打製石斧	砂岩	10	5.5	3.5	196.23	一部欠損
81	グリップ一括	J-24	打製石斧	凝灰岩	9.6	4.8	1.5	79.44	一部欠損
82	土坑9	土坑9No.3	打製石斧	細粒砂岩	9.7	5.4	2.2	136.45	一部欠損
83	グリップ一括	N-16No.1	打製石斧	凝灰岩	10.7	5.7	1.4	120.34	完形
84	グリップ一括	H-26	打製石斧	砂岩	7.7	5.5	1.7	101.68	一部欠損
85	8号住居跡	8住No.31	打製石斧	砂岩	9	5.5	1.6	81.43	完形
86	12号住居跡	12住1層	打製石斧	細粒砂岩	9	5	1.7	124.38	一部欠損
87	4号住居跡	4住南表土	打製石斧	砂岩	11.2	5.7	2.5	176.21	一部欠損
88	1号住居跡	1住確認面	打製石斧	砂岩	10.8	5	2.3	134.59	一部欠損
89	3号住居跡	3住覆土	打製石斧	細粒砂岩	9.8	4.8	1.3	91.55	一部欠損
90	14号住居跡	14住2層	打製石斧	輝緑凝灰岩	11.1	5.3	1.1	115.88	一部欠損
91	16号住居跡	16住覆土	打製石斧	ホルンフェルス	8.5	4.7	2	107.44	一部欠損
92	10号住居跡	10住覆土	打製石斧	細粒砂岩	11.1	4.6	1.9	107.35	一部欠損
93	4号住居跡	4住北	打製石斧	片岩	9.2	3	1.3	50.3	一部欠損
94	12号住居跡	12住覆土	石皿?	ホルンフェルス	4.3	5.8	1.2	35.32	一部欠損
95	1号住居跡	1住北側	打製石斧	頁岩	11.7	5.8	1.5	66.14	完形
96	4号住居跡	4住北No.49	磨製石斧	緑色凝灰岩	11.1	5.3	3.3	301.42	一部残存
97	6号住居跡	6住No.35	磨製石斧	緑色凝灰岩	12.3	4.3	3.7	361.59	一部欠損
98	2号住居跡	2住2層	軽石		6.5	1.7	3.4	34.05	完形
99	10号住居跡	10住覆土	軽石		5.5	5.2	4.6	37.1	一部残存
100	17号住居跡	17住No.3	石鏝	砂岩	9.7	6.5	2.9	231.78	完形
101	表土一括	表土	磨石	砂岩	8.2	6.4	5	358.37	完形
102	集石一括	集石No.8	磨石	砂岩	9	5.1	2.9	176.43	完形
103	4号住居跡	4住北	敲石? 磨製?	砂岩	10.9	3.8	2.4	182.13	完形
104	5号住居跡	5住西壁土	敲石	砂岩	12.8	4.4	2.5	78.28	完形
105	9号住居跡	9住No.53	敲石・磨石	緑色岩	10.5	3.3	3	182.43	完形
106	6号住居跡	6住1層	敲石・磨石	緑色岩	12.6	3.3	2.8	193.59	完形
107	表土一括	西側壁強遺構 確認面	敲石・磨石	砂岩	13.7	4	2.9	246.61	一部欠損
108	4号住居跡	4住1層	磨石	砂岩	9.9	4.7	3.4	236.31	一部欠損
109	3号住居跡	3住No.31	敲石	輝緑岩	18.1	8.1	3.9	897.25	完形
110	8号住居跡	8住No.30	敲石・磨石	輝緑岩	18.4	8.8	2.4	638.59	完形
111	10号住居跡	10住覆土	磨製石斧?	輝緑凝灰岩	16.5	4.4	2.2	229.23	完形
112	土坑19	土坑19覆土	打製石斧	緑色岩	16.5	4.7	2.1	321.77	完形
113	10号住居跡	10住No.13	打製石斧	砂岩	12	6.4	2.3	297.02	完形
114	3号住居跡	3住南	敲石・磨石・ 凹石	安山岩	7.4	4.3	3.6	189.31	一部残存
115	4号住居跡	4住1層	凹石	緑泥片岩	7	5.9	1.8	97.08	一部欠損
116	住居跡	西住覆土	凹石	緑泥片岩	8.9	9.1	1.9	150.08	完形
117	4号住居跡	4住1層	凹石	砂岩	13.3	7.3	3.9	510.66	一部欠損
118	10号住居跡	10住No.10	凹石・磨石	安山岩	12	8.2	5.2	875.33	一部残存?
119	16号住居跡	16住No.21	敲石・磨石・ 凹石	砂岩	12	9.9	5.2	744.97	一部欠損
120	4号住居跡	4住No.4(伊跡 から出土)	石皿	輝緑凝灰岩	16.7	14.6	4.2	1746.22	完形
121	土坑36	土坑36No.1	石皿		23.9	19.3	3	1960.26	完形
122	土坑54	土坑54	石皿・台石?	安山岩	8.5	15.7	8.6	1347.72	一部残存

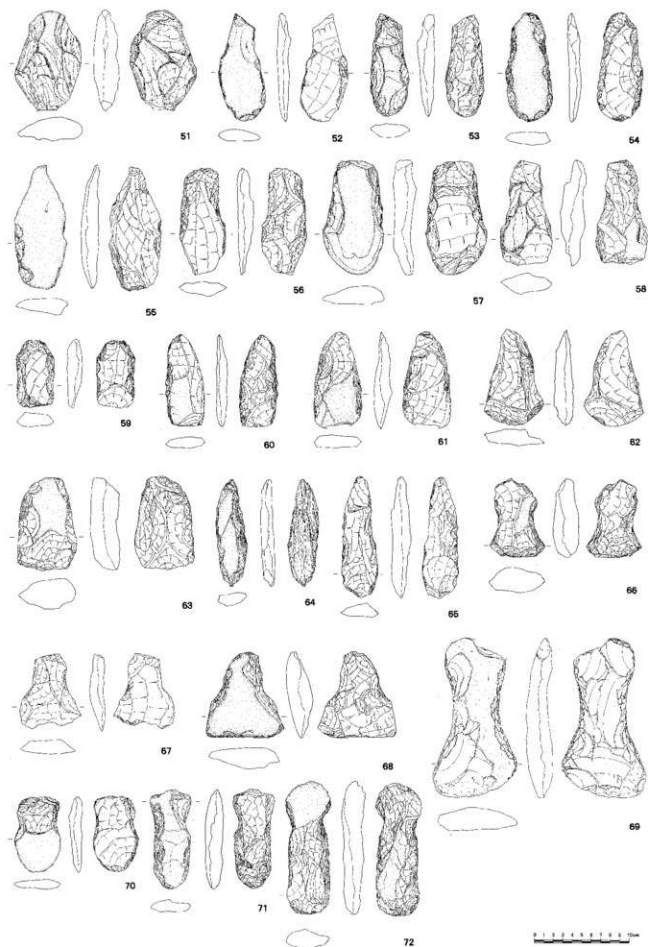


第103图 西遺跡出土石器① (1/4·2/3)





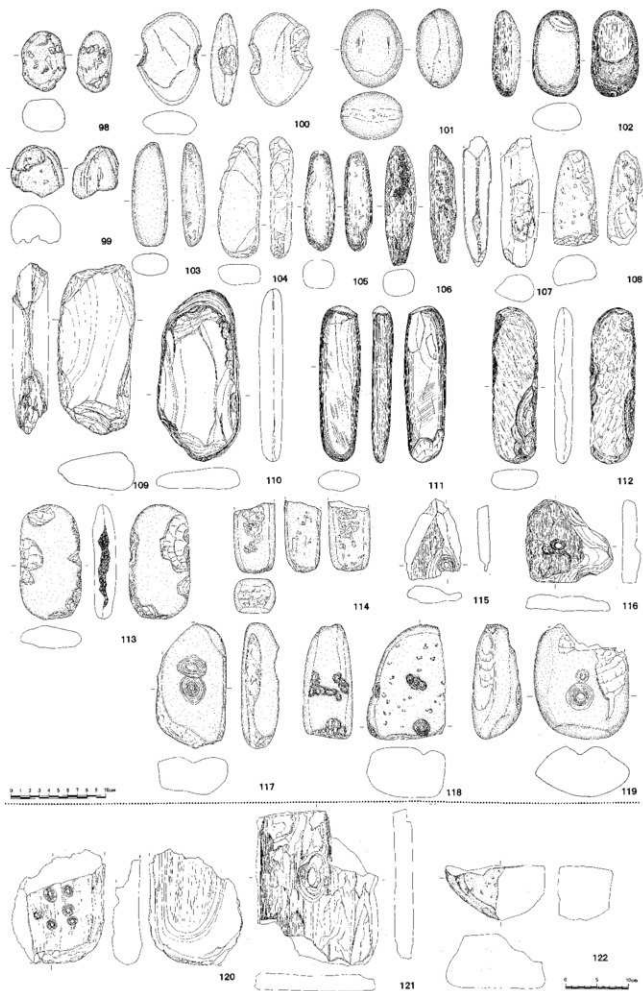
第104図 西遺跡出土石器② (1/4)



第105図 西遺跡出土石器③ (1/4)



第106図 西遺跡出土石器④ (1/4)



第107図 西遺跡出土石器⑤ (1/4・1/6)

## 第2章 上福岡貝塚第1地点の本調査

### I 遺跡の概要

#### (1) 遺跡の立地と環境

上福岡貝塚は、ふじみ野市域（旧上福岡市）の北部、武蔵野台地北東部端の標高16.0～18.0mに位置する。

遺跡眼下の武蔵野台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。現在、上福岡貝塚をのせる武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約9～10m、新河岸川の水面からでは約12mの急崖を成す。

本遺跡を地形の区分でみると武蔵野2面に相当する。隣接する権現山古墳群において、新河岸川に面した崖の地質観察では、約50cmの表土層下に385cmの関東ローム層が認められ、ローム層中には厚さ約45cmの黒色帯や、ローム下層でオレンジ色の軽石粒(T.P.)に対比と考えられる)が確認され、市内の武蔵野2面の層序とはほぼ同様の様相を呈することから、上福岡貝塚でも相位ないものとみられる。台地南側の滝遺跡や長宮遺跡の位置する一段低い段丘面では、武蔵野3面から立川面が広がる。

かつて、上福岡貝塚や権現山遺跡群の南側には新河岸川に流れ込む小河川（清水）が東流していた。現在でも地区の地名に残る「滝」は、この小河川が台地上から流れ落ちていたためとされる。縄文時代の上福岡貝塚周辺には、この滝地区を流れていた清水と新河岸

川の流れがあったものと考えられる。これまでの調査ではローム層中から旧石器時代の遺構や遺物は見つからないが、近隣市町などでは湧水や埋没谷周辺部から同時期の遺跡が相次いで発見されており、本遺跡でも今後発見される可能性がある。

また、遺跡の北側には南北約220m、東西約150m、深さ約1mの楕円形の巨大な窪地が昭和12年の調査時から確認されているが、自然地形なのか人為的なものか不明である。現在は造成され工場等が建ち古い地形をみることは出来ない。

周辺の遺跡は、北側約400mに縄文時代前期集落の川崎遺跡と同50mに中期から後期集落のハケ遺跡、東側には前期古墳の権現山古墳を含む権現山遺跡（古墳群）が隣接する。ハケ遺跡では前期諸磯c期の住居跡1軒が確認されるのみで、権現山遺跡からは前期の住居跡は確認されていない。川崎遺跡では縄文時代前期の住居跡が21軒（2001年現在）確認され、関山期から黒浜期の住居跡は11～12軒を数え、内3軒の住居跡（1975、1979、1990年調査）では貝層を伴っている。同時期の遺跡として、土器や動物遺体を含めた出土遺物の比較と、時期ごとに集落の立地と配置が異なる上福岡貝塚との集落構造や変遷等の関連が注目される。

第58表 上福岡貝塚調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-X、a-c	福岡3-1187、1500、他	1937.5.23-7.19	-	火工廠建設	関山式住居3、黒浜式住居5	福岡市内石器時代遺跡発掘調査報告*
①1983-6試掘	福岡3	(1983.6)	-	工場増築	なし	なし
②1983-12立会	福岡2	(1983.12)	-	工場建設	なし	なし
③1985-試掘	福岡2	(1985.2)	426	市道築造	5c古墳3基、遺物なし、調査区は一部権現山遺跡群を含む	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
④88-試掘	福岡3-1187-4	(1988.6.7-14)	3300	工場増築	古墳跡1、奈良平安住居4	埋蔵文化財の調査(11)
⑤91-試掘	福岡2-1-4	(1991.5.7-8)	568	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(14)
⑥92-試掘	福岡2-1500-8	(1992.5.2)	737	工場棟増設	なし	埋蔵文化財の調査(15)
⑦93-試掘	福岡2-1500-8の一部	(1993.7.20-27)	799.3	事務所建設	なし	埋蔵文化財の調査(16)
第1地点	福岡2-1500-23・63	2007.5.21-6.12 (2007.4.26-5.17)	124	変電所増築	縄文前期黒浜式住居2、集石土坑1、根掘1、水溜、消火栓	市内遺跡群4

\*所収報告書等

- ・山内清男 1937「福岡市内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野克「住居址略報告」ガリ版刷り（昭和40年埼玉県福岡町郷土史料に収録）
- ・1967「山内清男・先史考古学論文集」第2冊 先史考古学会（但し、関野克「住居址略報告」の分は除く）
- ・山内清男 1942「片口付縄紋土器に就て」『古美術』第12巻第6号（137号）
- ・1967「山内清男・先史考古学論文集」第2冊 先史考古学会
- ・関野 克 1938「埼玉県福岡村縄文前期住居址と整住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- ・黒坂植二、細田 勝、土肥 孝、宮崎朝雄 他 1992「上福岡貝塚資料-山内清男考古資料3-」奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所<sup>201</sup>
- ・用名広文・笹森健一 他 1995「考古文献資料(1)上福岡貝塚」市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会

## (2) 上福岡貝塚のこれまでの発掘調査

昭和12年、山内清男博士により実施された上福岡貝塚の調査は、学史上あまりにも著名である。この調査の資料について記した資料はつぎのとおりである。

- (a) 1937 山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」ガリ版刷り
- (b) 1938 関野 克「埼玉県福岡村縄文前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号
- (c) 1939 山内清男『日本先史土器図譜』第一部・関東地方・第2輯 先史考古学会
- (d) 1942 山内清男「片口付縄文土器に就いて」『古美術』第12巻第6号
- (e) 1965 山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」郷土史料第2集 埼玉県福岡町教育委員会(1937年のガリ版刷りを再刊したもの)、1946年再刊、1967年山内清男・先史考古学論文集に再録
- なお、郷土史料第2集には、上記1938年の関野 克の論文、および関野克「住居址略報告」(ガリ版刷り)を取録
- (f) 1922 土肥孝、宮崎朝雄、金子直行、細田勝、黒坂植二、西井幸雄、山口真由美「上福岡貝塚資料-山内清男考古資料3-」(註1) 奈良国立文化財研究所史料第33冊
- (g) 1994『考古文獻資料(1)』市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会

上記(d)の郷土史料第2集と(c)を複製し、上記(d)と下記(h)(i)を加えたもの。

- (h) 1994 川名広文「上福岡貝塚の調査とその前後」
- (i) 1994 笹森健一「教育委員会に保存されていた資料について」
- (j) 1999 川名広文「上福岡市史」資料編第1巻 自然史・考古 上福岡市
- (k) 1995 関野 克・川名広文・笹森健一「上福岡貝塚調査の頃」『上福岡市史研究 きんもくせい』創刊号 上福岡市教育委員会

上福岡貝塚の調査やその周辺の調査については、川名広文氏執筆による「上福岡市史」資料編第1巻 自然史・考古「第1章市内遺跡の概観 2調査の歩み」及び「第2章上福岡貝塚と権現山遺跡群 2調査の概略」に詳しい。ここでは、それをもとにして、若干の試掘調査関係について加えておきたい。

1917(大正6)年、阿部立郎が、「人類学雑誌」第32巻第2号にて、権現山という円形古墳の存在並びにその西および北に接する畑地に貝殻が散布し、土器片や石鏃が出土するとの記事が、上福岡貝塚の初見である。(この権現山は、1982年以降の調査によって、古墳時代早期の前方後方形の初期古墳と判明した)

その報告は同年刊行の東京帝国大学人類学教室編「日本石器時代人類遺物発見地名表」に記された。しかし、1933(昭和8)年刊行の大山柏が主宰した「東京湾に注ぐ主要溪谷の貝塚に於ける縄文式石器時代の編年学的研究」(『史前学雑誌』第3巻第6号)では、見落とされた。

上福岡貝塚が調査に至ったのは、昭和12年、陸軍造兵廠東京工廠福岡工場の建設において、整地作業中に貝塚が発見され、杉本所長から山内清男が調査を依頼され、同年4月から7月にかけて急速調査されたからである。発掘調査は山内清男が担当し、竪穴住居跡の測量は関野克が担当した。その成果は、昭和12年に、山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告 付・関野 克 住居址略報告」(ガリ版刷り)として配布・報告された。

また、1938(昭和13)年に、関野 克により、竪穴住居址に関して、「埼玉県福岡村縄文前期住居址と竪穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号で報告された。

山内清男・関野克の報文から調査の内容は次のとおりである。山内清男の昭和12年に発見された竪穴住居址は、縄文時代貝塚としてA~Xまでの24箇所、古墳時代住居址としてa~eまでの5箇所である。関野克の(b)によれば、15箇所とされる。上福岡貝塚の貝塚位置を当初の発見順に図面に記入したのが15箇所であって、周辺を踏査して確定したのが山内清男の報文の数字である。このうち調査されたのが、C、D、F、G、I、J、K、Mの8地点の住居で、関野克の(b)に報告されたのは、報告順にM、J、I、C、Dの5箇所である。

住居の所属時期は、A群のK、M、F地点が関山式に属し、B群のJ、I、C、G、D地点が黒浜式である。山内清男は、G、D地点は、黒浜式に近い別型式らしいとした。

発見当時は、黒浜式以前の住居址は知られていなかったから、関山式の住居址は最古のものであった。この最古のM地点の竪穴住居址は、主柱穴がなく、壁柱

穴のみで構成され、「新発見」であったこと。また、C、D地点の堅穴住居址は、壁の下の溝が二重に巡り、あるいは溝によって2回から7回までに及ぶ拡張がみられ、縄文時代の家族構成がうかがえる堅穴住居跡であったこと、等々から一躍脚光をあげた。

その後、1940（昭和15）年、後藤守一が、『上古時代の住居』『先史・人類学講座』第15・16・17巻で、関野克より図面を借用して、6地点の住居址を掲載した。そこでも、M地点の堅穴住居址が最古とされている。さらに、関野克の報文になかったG地点の住居址も掲載されている。

1942（昭和17）年、山内清男は、「片口付縄紋土器に就いて」『古美術』第12巻6号にて、上福岡貝塚のK地点住居土器の片口土器について記述され、さらに、山内清男は『日本先史土器図譜』にも掲載し解説を加えている。なお、縄文時代の貴重な資料として、国の重要文化財に指定された。

上福岡貝塚は、東京工廠福岡派出所（火工廠）の広大な敷地内に所在していたが、戦後、火工廠は解体と共に財務省の管理する土地となり、敷地の有効活用が図られ、昭和30年頃、団地建設地、及び工場敷地として（株）大日本印刷、（株）新日本無線、（株）日本無線等に払い下げられた。敷地内に所在していた多数の建造物は解体され、新たな整地が行われたが、山内清男の報文（a）に記されていた新河岸川沿いに所在している（敷地の北東部）「塚」は残された。

戦後に刊行された、1951（昭和26）年の『埼玉県史』第1巻の地名表、1957（昭和32）年の牛窪宗吉の『入間郡福岡村史』では、既知の成果について言及している。

1959（昭和34）年、埼玉県の古墳分布調査が実施され、1961（昭和36）年に刊行された。それを契機にして、1965（昭和40）年、牛窪宗吉や地元関係者の熱意をうけて、柳田敏司氏の指導のもとに通称「疫病塚」の発掘調査が行われた。この疫病塚は、山内清男の報文で、F号住居跡に隣接した「古墳」とされたものである。調査では、古墳の確証が得られなかったことから中世以降の「十三塚」と推察された（これは、その後の調査により、出土遺物から5世紀後半の古墳と判明している）。

同年には、『郷土史料』第2集として、昭和12年に刊行された山内清男によるガリ版刷りの、関野克の未発表、及び人類学雑誌の論文を複製刊行した。上福岡

貝塚の調査成果が、郷土の文化面の誇として、その事実の普及を目的に出版された。未だ、埋蔵文化財の調査が法的にも整備されていなかった当時としては、快挙というべき事業であった。

その後、1965（昭和40）年以降、上福岡市域は、東京より15km圏内にあたっているため、高度成長政策により都市化の波がおしよせ、住宅開発が増加の一途をたどった。この市域の開発から遺跡の記録保存を目的にした発掘調査が、1974（昭和49）年より実施された。1977（昭和52）年以降には、専門の学芸員を採用し、市内遺跡群の発掘調査として市域の埋蔵文化財全般を対象に実施された。上福岡貝塚敷地内においても、（株）大日本印刷や（株）新日本印刷、（株）日本硝子の工場の改築に際して実施していった。その地点と調査年は次のとおりである。

**第10図①**：1983（昭和58）年6月頃、（株）大日本印刷の工場増築にともなって試掘調査。表土を重機にて全面廃土し、手作業により遺構の確認に努めた結果、山内清男報文にある貝塚北部の窪地を確認したが、縄文時代の遺構・遺物は全く確認されなかった。

**第10図②**：1983（昭和58）年12月頃、（株）新日本無線の工場の建設のため、立ち会い調査。ローム上面にて、遺構・遺物の有無を確認したが認められなかった。

**第10図③**：1985（昭和60）年2月調査。市道197号線の舗装工事に伴う調査。道路幅6m、調査面積2,300㎡。表土を重機で除去。遺構の精査により、5世紀の古墳跡（周溝）3基を調査。上福岡貝塚のK・M・F地点の住居址に近いことから、調査の成果が期待されたが、縄文時代の遺構・遺物は全く確認されなかった。本報告は、『上福岡市史資料編第1巻 自然史・考古』第2章に記述。

**第10図④**：1988（昭和63）年6月（株）大日本印刷の工場増築にともなう調査。表土を全面廃土し、手作業により遺構を確認した。奈良時代の堅穴住居跡4棟を調査。この4棟は全く攪乱が認められなかったことから、昭和12年の調査時には調査されていない。概要は、『埋蔵文化財の調査（11）』（1989、3）。本報告は、『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』第2章（3飛鳥・奈良・平安時代の集落）に記述。

**第10図⑤**：1991（平成3）年5月、試掘調査。（株）日本無線の工場建設にともなう試掘。範囲10m×55

m. トレンチを設定し、重機にて表土を剥ぎ精査したが、遺構は検出されなかった。『埋蔵文化財の調査(14)』(1992、3)

**第10回⑥**：1992(平成4)年5月試掘調査。(株)日本硝子の工場建設に伴う試掘。範囲54m×28m。重機にて、表土を除去して遺構の有無を確認したが、認められなかった。『埋蔵文化財の調査(15)』(1993、3)

**第10回⑦**：1993(平成5)年7月試掘調査。(株)日本無線の工場建設に伴う試掘。試掘範囲9m×14m。グリッドを設定し、表土の除去。遺構なし。『埋蔵文化財の調査(16)』(1994、3)

なお、工場敷地外・南東方向に権現山古墳群が存在し、発掘調査・試掘調査を実施しているが、現在のところ、縄文時代前期の遺構は確認されていないことから、上福岡貝塚の範囲は工場敷地内におさまるものと思われる。

この間に1992(平成4)年、上福岡貝塚の調査で出土した土器群が、奈良国立文化財研究所より刊行された。発掘調査資料は、山内清男博士が発掘調査以後、一括保管されていたもの。資料は、博士の勤務先であった東京大学人類学教室の焼印の入った箱に保管され、奈良国立文化財研究所に山内清子氏により寄託されていた。

また、上福岡貝塚の調査後、現地は、陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設された。当時の所長、杉本氏から、1980(昭和55)年頃、調査の経緯やその後のことをお聞きしたことがある。氏によると、1. 出土土器のうち、一部を所長室に陳列ケースをつくって保管していた、2. 会計監査などの時には、監査員に上福岡貝塚の資料を見ながら、発見のいきさつや堅穴住居址のことなどを説明できた、3. 戦後、火工廠の資料については、廃業命令が下ったが、上福岡貝塚の土器は、米軍に没収される心配から川越市の川越高校に運んだ、等々であった。

そこで、川越高校に問い合わせたが、校舎は建て替えられており、そうした資料は見いだせなかった。杉本所長のいう川越高校は、川越高等女学校、あるいは川越商業高校・川越高等学校等の誤りかもしれないと思ったことから、学校関係の郷土資料室などをたずねたが見つからない。

1991(平成3)年から、上福岡市史の編纂事業がはじまり、1994(平成6)年に、『考古文献資料(1)上

福岡貝塚』市史調査報告書第5集が刊行された。これまでの山内清男、関野 克博博士の報告、論文等と新資料をまとめた上福岡市教育委員会資料編が刊行された。1965(昭和40)年に埼玉県福岡町教育委員会が刊行した『郷土史料第2集』(山内清男「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告」、関野 克「埼玉県福岡村縄文前期住居址と堅穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻8号を中心としたもの)の複製、市教育委員会に保管されていた、住居址の写真と住居址実測図、調査全測図を掲載した。住居址の図面は8地点分である(このうち未公開F・K地点の2箇所をはじめて公開した)。関野克博士が調査した数に合致している。

これまでの経緯をたどって見たが、今回の調査では、堅穴住居内の貝塚は小規模であったことや火工廠の道路部分にあっていたことなどから、昭和12年当時の調査で、必ずしも縄文時代の遺構が全て調査されていないことが判明した。

したがって、旧火工廠の敷地内には、上福岡貝塚の貴重な遺構・遺物が、未調査のまま残されている可能性がある。工場敷地内ということもあって、今後、工場の改築・新築などが予想され、土地所有者の理解・協力のもとで、未知の遺構・遺物の保存や記録保存の処置を講じていかねばならない。

上記以外に上福岡貝塚の資料に言及したものがある。主なものを以下に記した。これについては、別にまとめる必要がある。

- 後藤守一 1940『上古時代の住居』『先史・人類学講座』第15・16・17巻
- 江坂輝弥 1951『講座 縄文文化について-前期-』『歴史評論』第33号
- 小林行雄 1951『日本考古学概説』東京創元社
- 石野博信 1959『琵琶湖東地域ホシ小屋-原始的建築様式-』『考古学雑誌』第45巻第2号
- 小林達雄 1963『米島貝塚』埼玉県庄和町教育委員会
- 麻生 優 1965『住居と集落』『日本の考古学II 縄文時代』河出書房
- 石井 寛 1977『調査研究録』第2冊 港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
- 笹森健一 1981『縄文前期の住居と集落(Ⅰ)(Ⅱ)』『土曜考古』第3号、第4号
- 林 謙作 1984『縄紋時代史22 縄紋人の集落(2)』『季刊考古学』第48号 雄山閣

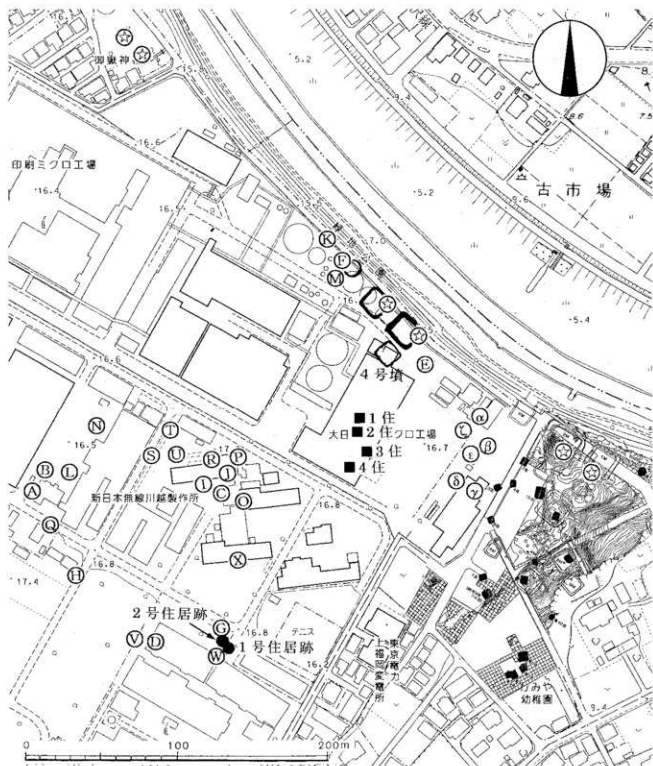


早坂廣人 1993 「水子式」の誕生—その出自を探る—  
『土曜考古』第17号

笹森健一 1996 「上福岡構内遺跡発見における拡張住  
居について」『土曜考古』第20号

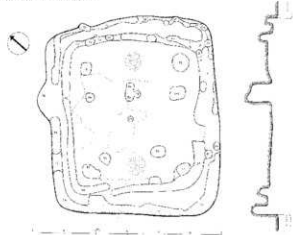
上福岡貝塚の記述は、一般普及書では読売新聞社『日  
本の歴史 1』1959(昭和34)年や考古学関係の事典・辞  
典などをはじめ多数にのぼる。

(笹森健一)



第108図 上福岡貝塚遺構配置図 (1/2,500)

C地点竪穴住居址



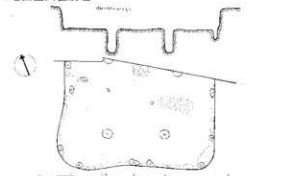
D地点竪穴住居址



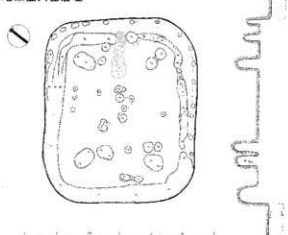
F地点竪穴住居址



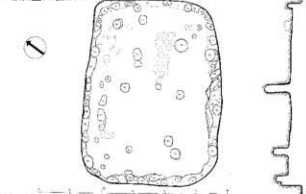
G地点竪穴住居址



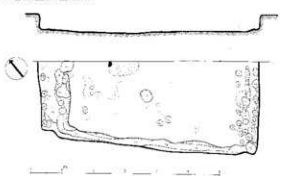
I地点竪穴住居址



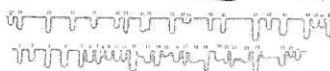
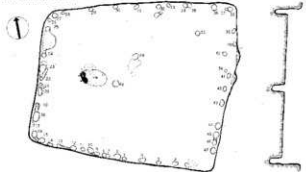
J地点竪穴住居址



K地点竪穴住居址



M地点竪穴住居址



第109図 上福岡貝塚C・D・F・G・I・J・K・M地点竪穴住居址 (1/120)

## II 本調査の概要

### (1) 発掘調査に至る経過

本調査は変電設備を格納する建物の増設に伴うもので、原因者より2007年4月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

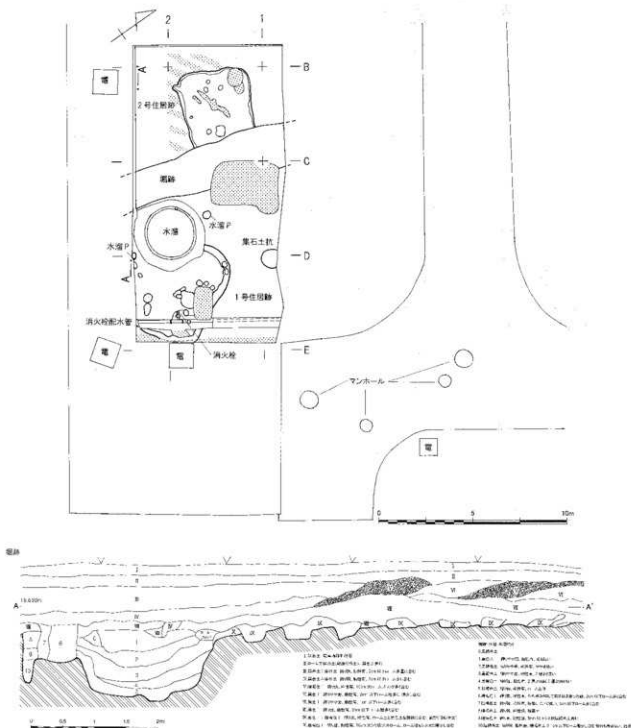
申請地は遺跡範囲の南東部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年4月26日から、開発区域北側部分

の5.5×11mの範囲を重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。表土除去の重機は、原因者の新日本無線様のご好意により提供を受けた。

試掘調査の結果、縄文時代前期中葉黒浜式土器と貝層を伴う住居跡2軒、縄文時代の集石土坑1基、時期不明の堀跡1本の他、旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場（以下火工廠）の遺構等を確認した。

住居跡等の遺構は西側と南側の調査区外に延びており、遺構確認面までの深さは70~100cmである。工事



第110図 上福岡貝塚第1地点遺構配置図 (1/200)、堀土層図 (1/60)

による掘削・地盤改良が地表下180cmに及び、遺跡に影響を与える為、申請者と再協議の結果、2007年5月21日から6月12日まで本調査を行なった。本調査に係る費用は新日本無線株式会社が全額負担した。

## (2) 発掘調査の経過と方法

### ① 発掘調査作業

本発掘調査は2007年5月21日から6月12日まで行なった。範囲は試掘調査区を西側と南側に2～2.5m拡張したが、西側と南側には高圧線が既に埋設されており、これ以上の拡張が困難であった。また高圧線埋設管の深さが住居跡より深く、住居跡が既に破壊されていることも判明した。

表土層の除去には再度、新日本無線株式会社から重機提供の協力を得た後、人力による調査を行なった。

また、5月29日には新日本無線株式会社関係者へ遺跡説明会を実施し、多数の参加をいただいた。

住居跡の実測は、5m×5m方眼の区画を調査区内に設定し、北から南へA、B、C～、東から西へ1、2、3～の番号を付しA1区・B1区～とした。全測図1/100の作成には平板測量を用いた。

1号住居跡と2号住居跡では土器や動物遺存体などの堆積状況が異なることから、各住居跡で貝層取り上げについては適時対応した。

1号住居跡は覆土層の縄文土器が多く広範囲に出土するが、貝層範囲は狭小で14ヶ所に独立して分布する。このため、1号住居跡は各貝層を半載し層序の確認を行なうとともに、層位ごとに取り上げを実施した。貝層が狭小で半載不可能なものや、層序が単層等のもは一括して取り上げた。

2号住居跡は覆土層出土の土器・石器は僅かであるが、貝層が広範囲に分布するため住居跡内に2ヶ所、30cm×30cmの方眼「Aあ、A1区・・・等」(第125図)を設定し、層位ごとに取り上げを行なった。基本的に貝層の貝殻と土は全て持ち帰った。

### ② 整理作業

住居跡内出土の動物遺体群、主に貝類については自然乾燥後、水洗選別法(5mm、2.5mm、1.2mm目の篩)と浮遊選別法を実施して資料の抽出後、分類・同定作業を行なった。水洗選別・浮遊選別法の機材については、富士見市教育委員会の協力を得た。動物遺体群の整理作業・分類方法についての詳細は次節に記載する。

【土器の分類基準】前期縄文土器の分類基準は「上福岡貝塚資料」(RE1)の分類基準を参考とし若干の変更を

行なった。

### 第1類 口縁部文様帯を有するもの、あるいは胴部に一定の施文帯を有するもの。

第1種 口縁部文様帯に4単位の鋸歯状文(菱形文)を有するもの。有尾式土器。

第2種 口縁部に多単位の鋸歯状文(菱形文)や渦巻文を有するもの。

第3種 口縁部に平行沈線文を重層するもの。

第4種 口唇部に幅狭い文様帯を有するもの。

第5種 格子目文を有するもの。a 格子目文だけのもの、b 格子目文と縄文を施文するものに大別する。

第6種 コンパス文と平行沈線文を有するもの。

第7種 縦方向の沈線文を有するもの。

第8種 胴部に施文帯を有するもの。施文される文様には幾つかの種類がある。

第9種 沈線による所謂「肋骨文」を有するもの。

### 第2類 縄文が施文された土器群を一括する。

第1種 無節斜縄文の土器。

第2種 単節縄文の土器。

第3種 異条斜縄文の土器。

第4種 付加条縄文の土器。a 順方向、b 逆方向、c 順・逆両方向付加に大別する。

第5種 反摺りの縄文が施文された土器。

### 第3類 絡条体が施文された土器群を一括する。

### 第4類 貝殻背圧痕文と貝殻腹線文の土器を一括する。

第1種 a 貝殻背圧痕だけの土器。b 貝殻背圧痕と縄文を施文する土器。c 貝殻背圧痕と沈線文を施文する土器。

第2種 貝殻腹線文の土器。

### 第5類 無文の土器群を一括する。

### 第6類 底部を一括する。

第7類 北白川下層式土器を一括する。本調査区からは出土していない。

第8類 甲信系(釈迦堂Z3式)土器を一括する。

## Ⅲ 発掘調査の成果

### (1) 縄文時代の遺構と遺物

本発掘調査では縄文時代前期中葉黒浜期の2軒の住居跡の調査を中心に行なった。

#### ① 1号住居跡

【位置】調査区の南側に位置する。主軸は推定でN-

75°-Eである。

1937年(昭和12年)作成の地形測量図(住居址配置)図(註2)に重ね合わせると、関野克博士の論文(註3)にあるB群住居址(酒詰伸氏による上福岡(南)貝塚)(註4)の南端に位置する。

【形状・規模】住居跡の西側と南側は調査区外に延び、また火工廠の遺構である水溜り消火栓、さらに重機の掘削による攪乱を受けるため全体の形状・規模は不明である。平面形態は推定で隅丸方形か長方形とみられる。検出部分は全体の約2/3である。

残存部の規模は、長軸(東西)5.85m以上、短軸(南北)5.46mを測る。深さは遺構確認面から床面まで55~60cmを測る。

【炉】中央部のやや東側に位置し、東側は重機による攪乱を受け破壊され、ビット9と重複しビット9が新しい。炉の平面形態は不整の円形を呈し、底部は赤褐色に良く焼けている。規模は南北85cm、東西の残存部は74cm、深さは床面から16.5cmを測る。

【周溝】住居跡の西側が調査区外に延びるため西側の周溝も未検出であるが、南北と東側の壁際に1本の周溝が巡る。上幅16~32cm、下幅8~20cm、深さ12~21.9cmを測る。

【ビット】住居跡に伴うものはP1~12である。ただしビット9は炉跡を掘り込んでおり住居跡より新しい可能性もある。主柱穴はP1・2・6~8・10とみられる。P6・7・8の主柱穴からP1・2・10の主柱穴への拡張が考えられる。

【遺物出土状況】第115図5の大型土器はほぼ床面直上から出土し、復元可能な個体は床面と覆土3~5層から多く出土する。覆土1・2層には破片が多く出土し、貝層の出土状況も同様で覆土3・4層から出土し、1・2層にはみられない。

第59表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡ビット一覽表  
(単位cm)

No.	平面形態	確認直径	底径	深さ	備考
1	円形	23×25	18×9	34.9	
2	だるま形	65×34	24×14	68.2	建替
3	楕円形	21×17	8×8	17.7	
4	(円形)	(18)×27	13×11	12.1	
5	楕円形	24×20	20×12	50	
6	円形	36×33	25×18	29.5	
7	円形	47×41	25×20	76.4	
8	円形	32×30	10×10	51	
9	不整形	45×32	17×15	70	
10	楕円形	41×33	16×8	30.6	壘柱
11	楕円形	27×16	11×7	37	壘柱

## ②1号住居跡貝層

1号住居跡からは14ヶ所のブロック状の貝層を検出した。この内、貝層7は2ヶ所、貝層12は3ヶ所、貝層14は3ヶ所の小ブロックに分かれる。ただし、発掘調査の段階では、これらの貝層は明確な区切りが出来なかったため、出土した貝類は一つの貝層として取り上げた。よって平面図上では2ヶ所または3ヶ所に別れているが、出土した貝類などのデータは合算した数値である。

【貝層1】住居北西隅近くに位置し、住居床面より5cm程浮いた状態で出土する。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸36cm×短軸2cm×厚さ15cmである。

調査は貝層を半載して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1層上部はシジミ主体層、1層下部はカワニナ・オオタニシ・ハマグリがみられる。2層はマガキ主体層、3層はヤマトシジミ・マガキ層である。

【貝層2】貝層1の西側に位置し、住居床面付近より覆土層に出土する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸55cm×短軸40cm×厚さ20cmである。

調査は貝層を半載して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1・2・2'・3・3'層はヤマトシジミ主体層である。5層は上層がオオタニシ・カワニナ層、中層にシジミ層を挟み下層にオオタニシ層である。6・7層はマガキ主体層である。

【貝層3】貝層2の南側に位置する。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸12cm×短軸8cm×厚さ3cmである。

貝層が狭小なため一括して取り上げた。貝層の主体はヤマトシジミとマガキである。

【貝層4】貝層3と貝層4の間に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸35cm×短軸25cm×厚さ27cmである。

調査は貝層を半載して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると貝層の1層はマガキ主体層、2層ヤマトシジミ・オオタニシ主体層、3層マガキ主体層、4層ヤマトシジミ主体層である。

【貝層5】炉の上層に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸18cm×短軸12cm×厚さ9.4cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層6】住居の南部に位置し、消火栓に破壊される。平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸22cm×短軸13cm×厚さ10cmである。

調査は貝層を半載して層位を確認した後、層位ごとに貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1・2層ともにマガキ主体層である。

【貝層7】住居中央部南側に位置し2ヶ所の小ブロックに分かれるが、配水管に破壊される。西側小ブロックは楕円形の範囲で、規模は長軸18cm×短軸7cm×厚さ14.8cmである。東側小ブロックは楕円形の範囲で、規模は長軸10cm×短軸5cm×厚さ3.5cmである。平面分布及び配水管に乱された土層断面の観察からも、貝層が小規模であるため一括して取り上げた。マガキ主体層である。

【貝層8】住居の中央部付近に位置し、床面付近から覆土層にかけて堆積する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸44cm×短軸35cm×厚さ21cmである。土層の観察から貝層9と同様の堆積を呈する。

調査は貝層を半載し層位を確認すると共に貝類の取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると、貝層の1層はマガキ主体層、2・2'層はマガキ・ヤマトシジミ主体層である。貝層の上層はマガキ主体で下層ではシジミが増えるようである。

【貝層9】貝層8の南側に位置する。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸46cm×短軸44cm×厚さ14cmである。貝層8と同様の堆積を呈すが、最下層の2'層が見られない。

【貝層10】貝層9の南側に位置する。平面分布は楕円形の範囲で、規模は長軸25cm×短軸18cm×厚さ6.5cmである。貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層11】住居の南西部で調査区西壁内に続く。平面分布は不整形の範囲で、規模は長軸42cm×短軸18cm×厚さ14cmである。調査は貝層が小規模で調査区外に延びるため、上層から層位を確認しながら層位ごと一括して取り上げを行なった。貝層の形成過程をみると貝層の1層はマガキ主体層、2層はヤマトシジミ・マガキ層、3層はマガキ主体層である。

【貝層12】貝層10の西側に位置し、南北方向に並んで3ヶ所の小ブロックに分かれる。床面出土土器の上層に堆積する。南側の貝層は、平面分布は三角形の範囲で、規模は長軸40cm×短軸36cm×厚さ11cmである。中央の貝層は平面分布が円形の範囲で規模は14cm×14cm、

厚さ3cmである。北側の貝層は不整形の範囲で規模は長軸16cm×短軸12cm、厚さ3cmである。

調査は貝層を半載し層位を確認した後、一括して取り上げを行なった。貝層の形成過程をみるとマガキ主体層である。

【貝層13】貝層12の北側に位置する。平面分布は楕円形の範囲で、規模は長軸27cm×短軸15cm×厚さ10.1cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

【貝層14】最も南部に位置し配水管に破壊され2ヶ所の小ブロックに分かれる。西側貝層の平面分布は不整形で、規模は長軸26cm×短軸18cm×厚さ8.9cmである。東側貝層は長軸4cm×短軸3cm×厚さ5.2cmである。

貝層はマガキ主体層で小規模であるため一括して取り上げた。

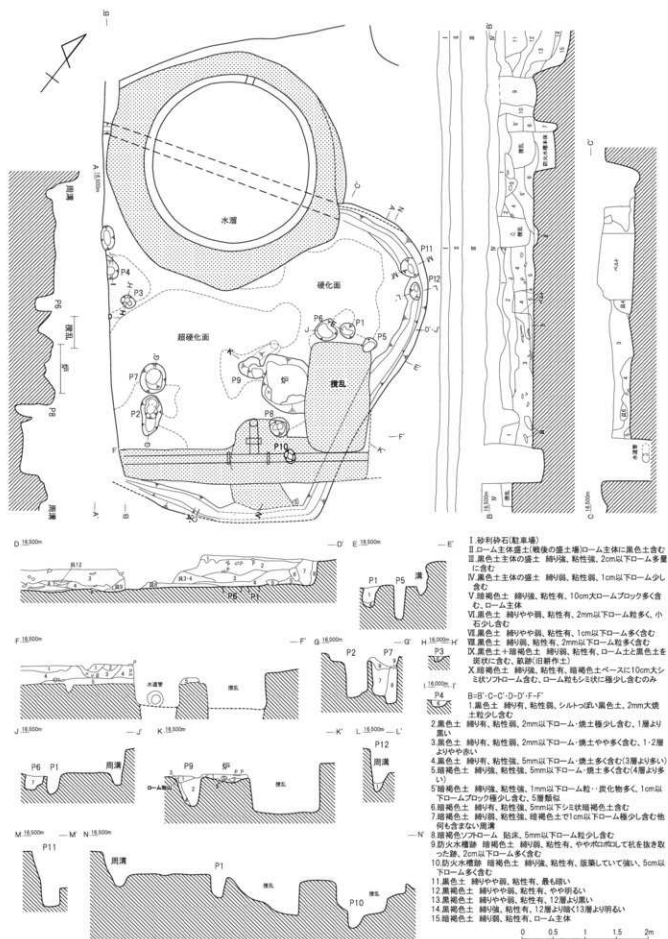
### ③ 1号住居跡出土土器 (第115～121図)

**第1類第1種土器** 4は4単位の波状口縁に鋸歯文(菱形文)を配する有尾式である。28～30、32～39、42～47、49～53は口縁部と頸部片で1と同類の施文を施す有尾式であるが、多単位の鋸歯文(同2類)の可能性もある。

**第1類第2種土器** 1は波状口縁に半截竹管状工具で鋸歯文(▽△)と渦巻文を配し、頸部以下の胴部は無節R1縄文を施文する。3は4単位の波状口縁から2本の鈎状隆帯を巡らす頸部をへて胴部が「く」の字状に張り出す。鈎状隆には縦位に橋状隆帯が約10cmおきに貼り付ける。口縁部は沈線による崩れた鋸歯文(楕円形状連鎖文)を施す。18は緩い波状口縁に押し引文と爪形文で渦巻文と鋸歯文(X状)を作り出す。54～59も沈線を主体に渦巻文や鋸歯文を配する。

**第1類第3種土器** 19～27は口縁部に沈線と爪形文を施文する。31は波状口縁に並行沈線を施文し1類1種又は2種や1類6種の可能性もある。40、41、48は口縁部か頸部に横位沈線を施文する。沈線と爪形文で明らかな鋸歯文(菱形文)を構成する個体は今回の調査では出土していない。60、61は太い波状並行沈線を施文する。62は頸部に2本の並行沈線をめぐらす。

**第1類第5種a土器** 65～76は格子目文のみを施す類である。67～69は櫛歯状の細い沈線を施文する。70～72と73・74はそれぞれ同一個体の可能性有り。



第111図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡(1/60)



E-E'・G-G'～J-J'

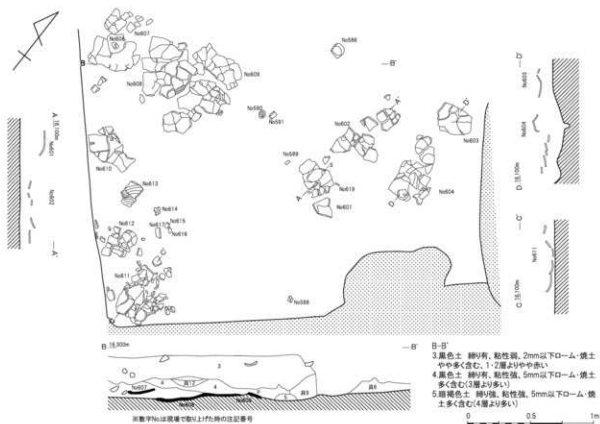
- 1 黒褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下シラシ状ローム・微土・炭化物少し含む
- 1' 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層に類似、1層より弱く2mm以下ローム粒多く含む
- 2 暗褐色土 締りやや強、粘性有、5mm以下シラシ状ローム少し含む
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、シラシ状のロームブロック
- 4 暗褐色土 締り弱、粘性有、ボコボコしたローム、2cm以下ロームブロック含む

- 6 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックとシラシ状暗褐色土の混合土(粘床)
  - 7 暗褐色土 締り弱、粘性有、ボコボコした暗褐色土ベースに1cm以下ローム粒多く含む
  - 8 暗褐色土 締り弱、粘性有、7層より5cm大ローム多く含む
  - 9 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームブロックベースに暗褐色土をシラシ状に含む(粘床)
- L-L'
- 1 暗褐色土 締りやや強、粘性有、暗褐色土はほぼ何も含まない、住居むの覆土最下層はロームと暗褐色土の混合土だが両層ビツト下層は暗褐色土のみで、ロームブロックみられない

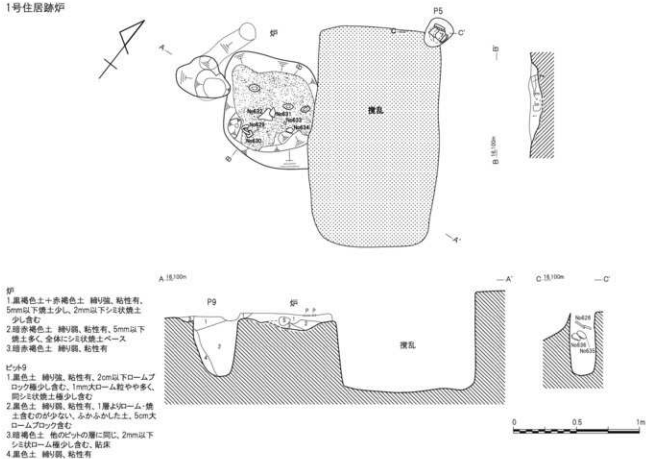
第112図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況図① (1/60)



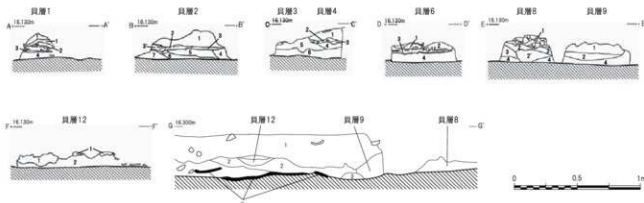
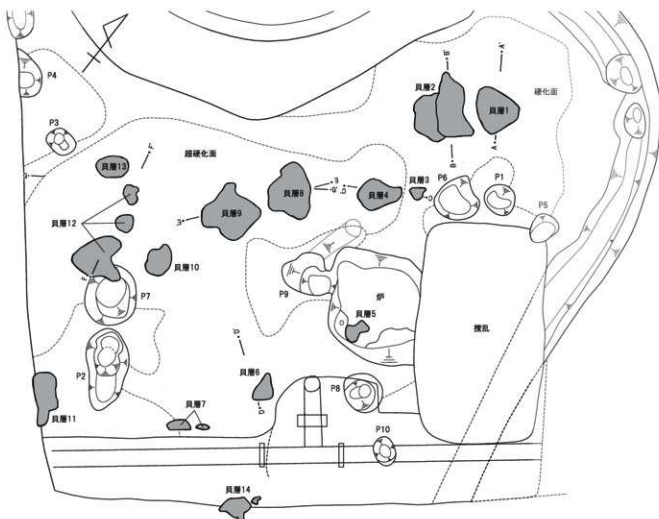
## 1号住居跡遺物出土状況②



## 1号住居跡炉



第113図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況②、1号住居跡炉(1/30)



- A-A'
- 1 シジミ層 上層シジミ主体、下層カワニナ・オオタニシ・ハマグリ出土
  - 2 マガキ層
  - 3 黒色土 粘り強、粘性弱
  - 4 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒・炭化物粒を含む
- B-B'
- 1 シジミ層①
  - 2 黒色土 粘り中や有、粘性やや有、シジミが混入
  - 3 シジミ層②
  - 3' シジミ層②' 上層
  - 4 オオタニシ主体層(インガイ含む)
  - 5 シジミ主体(上層オオタニシ・カワニナ、下層シジミを挟み下にオオタニシ)
  - 6 マガキ層
  - 7 マガキ層
- C-C'
- 1 マガキ主体層
  - 2 シジミ・タンシ主体層
  - 3 マガキ主体層
  - 4 シジミ主体層
  - 5 黒色土 粘り強、粘性弱
  - 6 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム粒含む(住居覆土4層に同じ)

- D-D'
- 1 マガキ層①
  - 2 マガキ層②
  - 3 黒色土(住居覆土3層に同じ)
  - 4 黒色土(住居覆土4層に同じ)
- E-E'
- 1 マガキ層のみでシジミ見られない
  - 2 マガキ層・シジミ層混合で黒色土含む
  - 2' シジミ主体層
  - 3 黒色土(住居覆土3層に同じ)
  - 4 黒色土(住居覆土4層に同じ)
- F-F'
- 1 マガキ層
  - 2 黒色土(住居覆土4層に同じ)
- G-G'
- 1 黒色土 粘り有、粘性強、2mm以下ローム・炭土 やや多く含む
  - 2 黒色土 粘り有、粘性強、5mm以下ローム・炭土 多く含む(1層より多い)
  - 3 暗褐色土 粘り強、粘性強、5mm以下ローム・炭土 多く含む(2層より多い)

第114図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層出土状況図(1/30)

**第1類第5種b土器** 13、63、64、77は縄文と格子目文を施文する類である。13は胴下部に細い沈線と無節R1縄文を施文する。63は口唇部に圧痕が有り、地文縄文施文後に沈線の格子目文を施す。64・77も縄文施文後に格子目文を施文する。施文の順番は地文縄文を施文した後に追加成形施文として沈線の格子目文を施す点で共通する。

**第1類第7種土器** 191、214、215は縦方向に沈線を施文する類である。191は沈線のみ、214・215は地文R1縄文施文後に沈線を施文する。3点ともに刺し切状沈線の可能性がある。

第1類第4・6・8種土器群が破片で判別がつきにくく、第4種は第1・3種に、第6種は第3種に分類したのがある。第9種の土器群は出土していない。

**第2類第1種土器** 2類土器群の各種縄文を施文するものうち、沈線や貝殻背圧痕など他の施文を伴うものは、各々の類種に分類した。また単節縄文や付加条縄文を併せて施文するものもそれぞれの各々種に分類した。時期については、岡山式土器などは1点も出土していないため黒浜式・有尾式土器に含まれるものとみられる。ただし胴部片については全て黒浜式としたが有尾式の胴部である可能性もある。

14、17、78、80~83、85~90、92~126、147、151、159、160、164~169、174、185、244は無節縄文の類である。243は251と同一個体とみられるが、施文が確認出来ないため第5類の無文土器とした。

**第2類第2種土器** 5、6、8、12、16、84、127~146、148~150、152~158、162、163、170~173、175~178、は単節縄文の類である。5は底部を欠くが、6はほぼ完形である。

**第2類第4種土器** 216は2類4種a土器である。9~11、91、179~183、186~190、192、200~202、204、205は2類4種b土器である。161、194、196~199、203、207、209、211は2類4種c土器である。15、79、184、193、206、208、210、212、213は順・逆方向不明である。9、10、15、79、212は付加条縄文以外にL・R、R1縄文を施文する。10、11は別個体であるが共に口縁部の製作を途中で止めたような器形であり原体は異なるが付加条縄文を施文する。79、161、194、196、199、213、216に追加成形施文がみられる。口唇部をみると181、182は平坦で207、210は溝(凹)状を呈する。付加縄の数では187の3本が最も多い。

2類土器で195は原体がはっきりしない。217、218

は縄文かどうか不明である。第2類第5種反摺りの縄文が施文されたものはみあたらない。

**第4類第1種土器** 220~239、241は貝殻背圧痕だけを施文する4類1種a土器である。2は貝殻背圧痕とR1縄文を施文する4類1種b土器である。240は貝殻背圧痕と沈線を施文する4類1種c土器である。2、221、223、230、239、241の口唇部には貝殻背圧痕が施文され、228では一部溝(凹)状を呈する。227、229、231は放射肋の幅が狭く顆粒痕がはっきりしないが、それ以外の貝殻背圧痕土器は圧痕が明瞭である。

**第4類第2種土器** 219は今回の調査で唯一出土した貝殻腹線文を施文する土器である。上げ底気味の底部底面には施文はない。

**第5類土器** 242、243は無文土器である。2点以外に多数の無文の土器片が出土しているが、紙面の都合上割愛した。243は244と胎土や器形が似ているが244と異なり縄文が全く確認できないため無文とした。

**第6類土器** 252~269は胴部から底部の土器で、単節無節の縄文を施文するものみられる。しかし、底部の底面への施文はみられない。

**第8類土器** 270~274は地文縄文で内面には指頭圧痕がみられ胎土に金雲母を含む甲信系(釈迦堂Z3式)土器である。

今回の調査で第1類4・6・9種土器、第2類3・5種、第3類土器、第7類土器は出土していない。

275は早期の貝殻条痕文土器で表裏に条痕文を施し胎土に繊維を含む。

276~280は中期の加曾利EⅡ~Ⅲ式土器で地文縄文に沈線と磨消しを施す。

281は器厚が薄く細い沈線を施す中期から後期の土器である。

282は土製品で土製円盤とみられ、側縁を揃って調整している。付加条縄文で胎土に繊維を含む。

283、284は火工廠に関係するとみられる釘である。285は不明金属製品である。

286~294は縄文時代の石器で観察表のとおりである。第60・62表中の出土状況は、床直は床面直上、床上は床面から覆土下層、覆土は住居覆土層及び貝層出土である。

第60表 上福岡塚第1地点1号住居跡・堀・水溜ビット出土遺物観察表

(単位:cm)

図記番号	図記番号	分類	出土状況	口縁・胴縁 長さ・高さ・厚さ	底径・高さ	遺存部位	形状	施文	文様要素(注記)	時期・備考	
115	1	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部1/2	深鉢	R.L. 沈澱	縦い4単位底径130、17直下まで半軌竹管状工具での本行する沈澱に彩色施文。同様の工具で底部に褐色色を配し側に黒文(文字?)を付す。胴部&1横文、縦線番号14の横文(原形)/注3688	
	2	4B12種	甕土	-	-	-	口縁部1/2	深鉢	R.L.、具段文	口縁部の一部に具段竹管施文。胴部&1横文(原形)に具段竹管施文。具段竹管の全く無い部分もあり。短い胴部の柄は115B3種製作途中で中止した可能性有り/注3686、A8、C3	黒式
	3	1B22種	甕土	(30)・(34)	-	(30.5)	口縁・胴部 上1/2	深鉢	L.R.・表1	4単位底径130。底径部に縦線番号14、胴部に横線の高い(隆)部を2本並ぶ(約)10cmおきに縦に横線番号14、17部直下まで半軌竹管状工具の横で沈澱部をならし下の1/2同じ高さで横の細文(横形)を直下し施文。胴部1個胴部1個竹管(原形)をならし(文字?)胴中部&1横文(下部)&1横文で沈澱文。胴中央部に粘土管等々有り。追加施文施文/注3697	有施文
	4	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部1/2	深鉢	R.L.	4単位底径130に併って4本の半軌竹管の高さ直下するように縦線部を縦に施す。17部直下と胴部の半軌竹管の間に4本の半軌竹管を縦に彩色施文(底部に彩色施文を構成。底径部では三角形を呈す。胴部は&1横文/注3611、C6、19)	有施文
	5	2B22種	甕土	(42)・35.4	-	(42.5)	5/6	深鉢	R.L.	4単位底径130に併って4つ所小さな山形突起を付す。口縁部に横線(約)1/2有り。胴部下半部底径部	黒式
	6	2B22種	甕土	25.5・-	7.0・30.8	-	ほぼ全形	深鉢	L.R.	底径部&1口縁部にかけて直線状に開く。全面黒色斜線文/注3642、245、491、492、610、5キ	黒式
116	7	6B	甕土	-	(6)・( )	底径部	3深鉢	R.L.	底径部に横線状の突起がみられる。有付の孔などは消滅し不明/注3629	黒式	
	8	2B22種	甕土	(15.0)・-	-	(7.7)	口縁部1/2	深鉢	R.L.	平口縁。胴部から口縁部にかけて直線状に開く小突起/注3605、626、14・8	黒式
	9	2B22種	甕土	15.1・31.0	-	(16.7)	口縁・胴部 上1/2	深鉢	L.R.	4単位底径130。口縁部1個胴部1個は横線1・R.L.2本並ぶ方向付。胴下半部L.R.斜線文。追加彩色施文/注3610、613、C4	黒式
	10	2B22種	甕土	-	-	-	口縁・胴部 上1/2	深鉢	R.L.	4単位底径130に併って胴部の柄は115B3種製作途中で中止したのか。施文無施文1横文(原形)・L.R.1・並ぶ方向付/注3636	黒式
	11	2B22種	甕土	-	-	-	口縁部 3/4	深鉢	付加施文	短い胴部の柄は115B3種製作途中で中止したのか。輪軸R.L.1・並ぶ方向付/注3630、602、617	黒式
	12	2B22種	甕土	-	6.8・(11.0)	胴下半部底径	深鉢	R.L.	上方で底径施文なし。R.L.横文を縦・上方に横文1本一筋彩色施文/注3647-1-474、C4	黒式	
	13	1B22種	甕土	-	7.4・(5.5)	胴下半部底径	深鉢	R.L.	底径部施文なし。胴部&1横文と細い沈澱文(格子)付文/施文/注3427、130、412	黒式	
	14	2B22種	甕土	-	-	(14)	胴下半部	深鉢	R.L.	縦線番号17の横文(原形)に類似。追加彩色施文/注3665、509、575、125、5キ	黒式
	15	2B22種	甕土	-	8.5・(5.5)	胴下半部底径	深鉢	R.L.	やや上げ底で底径施文なし。施文無施文1横文と細い沈澱文(格子)付文/注3667	黒式	
	16	2B22種	甕土	-	9.5・(15.3)	胴下半部底径	深鉢	R.L.	やや上げ底で底径施文なし。胴部の小突起(胴部表面黒線文)/注3137、139、140、604	黒式	
	17	2B22種	甕土	-	(8.2)・(8.4)	胴下半部底径	深鉢	沈澱	やや上げ底。底径施文なし。L.R.横文(原形)付文/施文/注413、418	黒式	
	18	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部1/4	深鉢	R.L.	縦い溝状を呈し。口縁部2本の半行する半軌竹管状工具で彩色施文。同様の工具で底部に褐色色を配し側に黒文(文字?)を付す/注3619、2・4	黒式
	19	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	底径130。底径部に斜線番号を縦に付す。口縁部に半軌竹管状工具の彩色施文/注364	黒式
	20	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	縦い底径130、2本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3640	黒式
	21	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に4本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3607	黒式
	22	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	底径130。縦い半軌竹管状工具で3本の彩色施文/注3642	黒式
	23	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に3本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3641	黒式
	24	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に3本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3642	黒式
25	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に3本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3627	黒式	
26	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に半軌竹管状工具の彩色施文。胴部&1横文1斜線文/注3618	黒式	
27	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に3本の半行する半軌竹管状工具の彩色施文/注3644	黒式	
28	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文/注3642	有施文	
29	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)。口縁部上部に縦線に半行する縦線施文/注36キ	有施文	
30	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	底径130。17部に目目。半軌竹管状工具の半行沈澱施文/注316	黒式	
32	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3649	有施文	
33	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3608、455	有施文	
34	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3649、91	有施文	
35	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3648	有施文	
36	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注364	有施文	
37	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注36A3	有施文	
38	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3648、338	有施文	
39	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3649-1	有施文	
40	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に半軌竹管状工具の半行沈澱施文。胴部&1横文(原形)上部の可能性有り/注3628、2キ	有施文	
41	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に半軌竹管状工具の半行沈澱施文。胴部&1横文(原形)上部の可能性有り/注3629	有施文	
42	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注364	有施文	
43	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注364	有施文	
44	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注3648	有施文	
45	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注364	有施文	
46	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3638	有施文	
47	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注36256	有施文	
48	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に半軌竹管状工具の半行沈澱施文。胴部&1横文(原形)上部の可能性有り/注36436	有施文	
49	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)上部の可能性有り/注3649-1	有施文	
50	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注3636	有施文	
51	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注36515	有施文	
52	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注36281	有施文	
53	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	L.R.、施文なし、L.R.横文に半軌竹管状工具の半行沈澱で施文(彩色施文)施文/注36243	有施文	
54	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	口縁部に半軌竹管状工具の半行沈澱施文。縦線番号51同一胴部付/注36328	有施文	
55	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	半軌竹管状工具で施文施文。縦線番号51同一胴部付/注36キ	黒式	
56	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	半軌竹管状工具で施文施文/注36キ	黒式	
57	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	半軌竹管状工具で施文施文/注3628	黒式	
58	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	半軌竹管状工具で施文の彩色施文。縦線番号51同一胴部付/注3646	黒式	
59	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	半軌竹管状工具で施文施文。縦線番号51同一胴部付/注36327	黒式	
60	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	横線に半行するやや上げ底で底径施文。彩色施文有り。注3640	黒式	
61	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に半行するやや上げ底で底径施文。彩色施文有り/注36407、567	黒式	
62	1B22種	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	沈澱	胴部に2本の半軌竹管状工具の半行沈澱施文。口縁部は&1横文。胴部は&1横文に1筋彩色施文施文(原形)不明/注3645、63	黒式	

探検 番号	発掘 番号	分類	出土 状況	口径・胴径・ 長さ×幅×高さ	底径・高さ	遺存部位	形状	地名	文書番号(注26)	時期・ 備考
	63	1855b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	形状不明	口縁部破片有り、口縁上縁部土塊文(須磨焼付のR)から施文残片沈没で格子目付文施文(注36)94、A8	黒点式
	64	1855b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r.、沈	口縁部破片有り、胴部に無施文r縄文施文後に口縁部沈没の格子目文、追加成形施文(注36)90	黒点式
	65	1855b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部ない縄のようなもの片存在有り、沈没の格子目文(注36)88	黒点式
	66	1855b	内内	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部ない沈没の格子目文(注36)83	黒点式
	67	1855b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	-	口縁部簡状工具の痕い沈没文(注36)97	黒点式
	68	1855b	片母	-	-	胴部	深鉢	-	簡状工具の沈没の格子目文(注36)91	黒点式
	69	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	簡状工具の沈没の格子目文(注36)91	黒点式
	70	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	やや太目の工具による沈没の格子目文、注3670-72は同一個体の可能性有り(注36)86、C2	黒点式
	71	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	やや太目の工具による沈没の格子目文、注3670-72は同一個体の可能性有り(注36)89	黒点式
	72	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	やや太目の工具による沈没の格子目文、注3670-72は同一個体の可能性有り(注36)2	黒点式
	73	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	沈没の格子目文、掲載番号74と同一個体か(注36)84	黒点式
	74	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	沈没の格子目文、掲載番号73と同一個体か(注36)88	黒点式
	75	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	沈没の格子目文(注36)86	黒点式
	76	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	-	沈没の格子目文(注36)82	黒点式
	77	1855b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r.、沈	沈没の格子目文、胴部に無施文r縄文施文後に沈没の格子目文、追加成形施文(注36)80、J36	黒点式
	78	2801b	床土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	高径口縁部、胴部張り出しから口縁部は施文無しr縄文、胴下半は磨き無し、追加成形施文(注36)60	黒点式
	79	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	付加成形文	半口縁部で無彫刻される、口縁部をr縄文、胴部無彫刻不明r付加、追加成形施文(注36)33、306、500	黒点式
	80	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	浅径口縁部で口縁部丸味をもつ、口縁部破片有り(注36)90、475	黒点式
	81	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	浅径口縁部で口縁部丸味をもつ、口縁部破片有り、掲載番号82と同一個体、追加成形施文(注36)51、552、188	黒点式
	82	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	胴部膨らみ無しr縄文で引状縄文を呈す、掲載番号83と同一個体、追加成形施文(注36)45、424	黒点式
	83	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	高径口縁部で膨らみ胴部に膨らみをもつ(注36)66、107、117、104、7、J82	黒点式
	84	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	口縁部に斜目のある隆帯を施付(注36)キ	黒点式
	85	2801b	床土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)82	黒点式
	86	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	口縁部に斜目有り(注36)251	黒点式
	87	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)81	黒点式
	88	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	浅径口縁部(注36)294	黒点式
	89	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)254、518	黒点式
	90	2801b	床土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)419	黒点式
	91	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	付加成形文	輪軸R.L + L.r本逆方向付加(注36)キ	黒点式
	92	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)615	黒点式
	93	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	口縁部斜目有り(注36)150、85	黒点式
	94	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)82	黒点式
	95	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)86	黒点式
	96	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)84	黒点式
	97	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r	粘土磨きせり(注36)86	黒点式
	98	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)84	黒点式
	99	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	口縁部凹状(円)呈(注36)86	黒点式
	100	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)80	黒点式
	101	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)100	黒点式
	102	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	高径口縁部、口縁部直下無文で下部にr縄文(注36)251	黒点式
	103	2801b	床土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注36)57	黒点式
	104	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	口縁部凹状(円)呈(注36)キ	黒点式
	105	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注36)88	黒点式
	106	2801b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注36)83	黒点式
	107	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形施文(注36)223、254、226、303	黒点式
	108	2801b	床土	-	-	胴部	深鉢	R.L	S字跡跡、追加成形施文(注36)75、76、493、499、544、601、606、611	黒点式
	109	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L、L.r	R.L + L.r引状縄文、追加成形施文(注36)549	黒点式
	110	2801b	内内	-	-	胴部	深鉢	L.r	引状縄文(注36)183、431、432	黒点式
	111	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r	粘土磨きせり、追加成形施文(注36)183、184、キ	黒点式
	112	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L、L.r	引状縄文、継束、追加成形施文(注36)250	黒点式
	113	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.R、R.L	引状縄文、追加成形施文(注36)199、5	黒点式
	114	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r	太いL.rで粘土が乾かないうち施文(注36)23	黒点式
	115	2801b	床土	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形施文(注36)235、607	黒点式
	116	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形施文(注36)38、47	黒点式
	117	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r	断面磨減著しい(注36)199、8	黒点式
	118	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形施文(注36)212、259	黒点式
	119	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)2、A5	黒点式
	120	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)キ	黒点式
	121	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)541	黒点式
	122	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)D1	黒点式
	123	2801b	床土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)82	黒点式
	124	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)258	黒点式
	125	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)61	黒点式
	126	2801b	甕土	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36)D1、J96	黒点式
	127	2801b	甕土	-	-	口縁-胴部	深鉢	R.L	浅径口縁から胴部にかけて狭小に膨れる、口縁の一部に縦文(縦文兼方角)に沈没状の跡を施す(注36)97、98、386-388、390、459、549、A8、9、C1、D2	黒点式
	128	2802b	甕土	-	-	口縁-胴部	深鉢	R.L	浅径口縁から胴部にかけて狭小に膨れる、口縁の一部に縦文(縦文兼方角)に沈没状の跡を施す(注36)97、98、386-388、390、459、549、A8、9、C1、D2	黒点式
	129	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)457	黒点式
	130	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)229、541	黒点式
	131	2802b	床土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)396	黒点式
	132	2802b	床土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)605	黒点式
	133	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)505	黒点式
	134	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)506	黒点式
	135	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)218	黒点式
	136	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)84	黒点式
	137	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	浅径口縁部(注36)143	黒点式
	138	2802b	甕土	-	-	口縁部	深鉢	R.L	/注36)16	黒点式

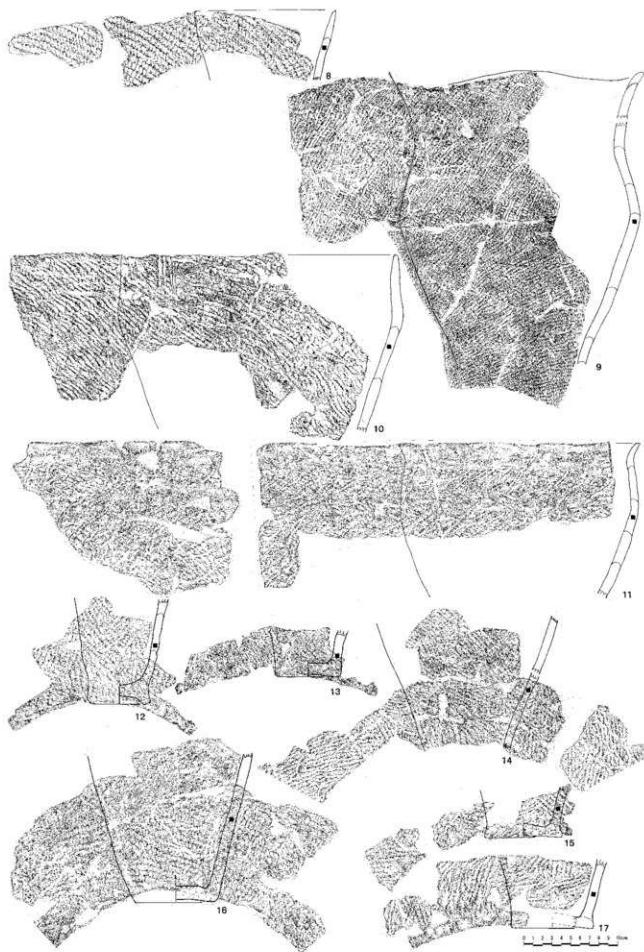
国史番号	国史分類	分類	出土状況	口径・胴径・長さ×幅×厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地名	文様要素・注25a)	時期・備考
139	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c/336280	黒土式
140	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c/336A8	黒土式
141	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c/336D1	黒土式
142	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c/336627	黒土式
143	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c/336301	黒土式
144	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c/336555、601	黒土式
145	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c、船山郷遺存有り/注360、245、247、308	黒土式
146	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c/336541	黒土式
147	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L、L.r	渡辺140c、渡部遺跡にL.r、R.L付属文様/注3679、421	黒土式
148	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c/336D4	黒土式
149	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.L	渡辺140c、/注36297	黒土式
150	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.r	渡辺140c/33661、118、119、D3	黒土式
151	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注3614	黒土式
152	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	/注36601	黒土式
153	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注36107-1	黒土式
154	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	/注36C4	黒土式
155	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	/注36C4	黒土式
156	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c、L199部遺状(P)を分子/注3626	黒土式
157	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	渡辺140c、L199部遺状(P)を分子/注3628	黒土式
158	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	7m大石取含む/注3626	黒土式
159	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.r	/注36C-1	黒土式
160	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L、L.r	引込縄文、追加成形文様/注3616、D4	黒土式
161	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	上部輪襷R.L + R.1付加、下部輪襷R.L + R.1進方向付加、追加成形文様/注3619、51	黒土式
162	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注3638	黒土式
163	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R、r	施文L.R、追加成形追加成形文様で沈函、引込沈函、施文少/注3635、396	黒土式
164	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.r	引込形施文、追加成形施文、掲載番号165、168時一個体少/注3610799-4 + 6、7	黒土式
165	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	引込縄文、追加成形施文、掲載番号164、168時一個体少/注3610799-3、7	黒土式	
166	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36C2、107	黒土式
167	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形文様/注36611	黒土式
168	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R、L.r	引込縄文、注3610799-1	黒土式
169	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R、L.r	引込縄文、注3621、26	黒土式
170	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注3694、564、572	黒土式
171	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	追加成形文様/注3642、83、102、315、390、405、409、549、D2-4	黒土式
172	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L、R.1	引込縄文、追加成形文様/注36541、543	黒土式
173	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注3636	黒土式
174	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L、L.r	引込縄文、注3624	黒土式
175	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注36368、569	黒土式
176	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36303	黒土式
177	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	L.R	/注36D4	黒土式
178	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	/注36622	黒土式
179	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷不明 + L.r、2本進方向付加加、L199部遺存有り、器原厚/注36522	黒土式
180	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、2本進方向付加加/注36395	黒土式
181	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本進方向付加加、輪襷孔有り、L199部平皿/注36002	黒土式
182	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷L199部遺存、L.r、2本進方向付加加、L199部平皿/注3613	黒土式
183	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本進方向付加加/注3624	黒土式
184	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷不明 + R.1、2本付加加/注36499	黒土式
185	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	R.1	R.1上縄文、L199部中平皿(P)供与す/注3628	黒土式
186	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷不明 + R.1、2本進方向付加加/注36133	黒土式
187	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	L.R、r + L.r、2本進方向付加加/注36A8	黒土式
188	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷不明 + L.r、2本進方向付加加/注36314	黒土式
189	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、進方向付加加/注3610792-1	黒土式
190	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	引込縄文(左下・右)・輪襷R.L + R.1進方向付加、(右下)輪襷R.L + R.1進方向付加加/注36496	黒土式
191	1世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	沈函	太ののび/沈函中や斜位に並行に施文(削し切り状沈函)少/注36369	黒土式
192	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + R.1進方向付加、輪襷不明 + R.1進方向付加加/注36124	黒土式
193	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + R.1、2本付加加/注3654	黒土式
194	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1進方向付加 + R.1進方向付加、追加成形文様/注3641	黒土式
195	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	L.R、r	表面磨面新しく不明、L.R縄文に付加文の可能性も有り/注36001	黒土式
196	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1進方向付加 + R.1進方向付加、追加成形文様/注36255	黒土式
197	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1進方向付加 + R.1進方向付加/注36322	黒土式
198	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷太ののび + L.r、進方向付加加 + R.進方向付加加(削し状付加)/注3601	黒土式
199	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + R.1進方向付加 + R.1進方向付加加/注3601	黒土式
200	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、2本進方向付加加/注36338	黒土式
201	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本進方向付加加/注36297	黒土式
202	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、2本進方向付加加/注36A9	黒土式
203	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1進方向付加加、R.1進方向付加加/注36D4	黒土式
204	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、2本進方向付加加/注3626	黒土式
205	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本進方向付加加/注36402、622	黒土式
206	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本付加加/注36131	黒土式
207	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + L.r、進方向付加加 + L.r進方向付加加(削し状付加)、L199部遺状(P)供与す/注36060	黒土式
208	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本付加加/注36C1	黒土式
209	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + L.r付加加 + L.r、2本進方向付加加/注36C2	黒土式
210	2世紀	甕土	-	-	-	口縁部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本付加加、L199部遺状(P)供与す/注3619	黒土式
211	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷L.r + L.r付加加 + L.r、2本進方向付加加/注3645	黒土式
212	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + R.1、2本付加加/注36434	黒土式
213	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L	引込形施文、追加成形文様/注36368、519	黒土式
214	1世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L、沈函	施文L.R縄文施文(削し状沈函)引込沈函、削し状沈函少/注36492	黒土式
215	1世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	R.L、沈函	施文L.R縄文施文(削し状沈函)引込沈函、削し状沈函少/注36308	黒土式
216	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	付加条線文	輪襷R.L + L.r、2本付加加、追加成形文様/注36407	黒土式
217	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	不明	縄文原形施文不明/注36280	黒土式
218	2世紀	甕土	-	-	-	胴部	深鉢	不明	縄文原形施文不明/注36492	黒土式

探検 番号	分類 番号	出土 状況	口径・胴径・ 長さ×幅×高さ	底径・高さ	遺存部位	形状	施文	文様要素・注記②	時期・ 備考
219	4組2種	甕土	--	(4.1) × (6.6)	胴下部・底部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文を縦筋から斜めに施文/注3645, D1・2・4	黒土式
220	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36554	黒土式
221	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	口縁部にも貝殻残文を施文/注36A9	黒土式
222	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36A9	黒土式
223	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	割破して判読が難しいが口縁部にも貝殻残文を施文/注36B4	黒土式
224	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36D2	黒土式
225	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36C1	黒土式
226	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36D5	黒土式
227	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	胴から口縁部にかけて縦筋に施文/注36147, 148	黒土式
228	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	底部から口縁部にかけて縦筋に施文。口縁部中央で一部やが割(口)状呈す。追加発見 施文/注36548, 552, 553, 555, 556, 559, 561, 562, 573, 607, A8・9	黒土式
229	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	胴から口縁部にかけて施文/注36202, C2	黒土式
230	4組1種A	甕土	--	--	口縁部	深鉢	貝殻残文	口縁部にも貝殻残文を施文/注3643, 418, 419	黒土式
231	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	胴から口縁部にかけて施文/注36611	黒土式
232	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36C1	黒土式
233	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36A8	黒土式
234	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36C1	黒土式
235	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36B2	黒土式
236	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36A9	黒土式
237	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36208	黒土式
238	4組1種A	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文	貝殻残文/注36229	黒土式
239	4組1種A	甕土	--	--	口縁部	深鉢	貝殻残文	口縁部にも貝殻残文を施文/注36B4	黒土式
240	4組1種C	甕土	--	--	口縁部	深鉢	貝殻残文	施文に貝殻残文を施文後焼付にたく(注36B4)	黒土式
241	4組1種C	甕土	--	--	口縁部	深鉢	貝殻残文	口縁部にも貝殻残文を施文/注36B2	黒土式
242	5組	甕土	--	--	口縁部	深鉢	施文	小片のため器体不明。器口同一個体/注36C2	黒土式
243	5組	甕土	--	--	口縁部	深鉢	施文	口縁部中央, 2部と同一個体/注3616	黒土式
244	2組1種	--	--	--	口縁部	深鉢	土着?	縁やかな成状口縁。口縁部隆(口)状を呈す/注3613, 130・2	黒土式
245	6組	甕土	--	(5.6) × (3.7)	底部	深鉢	R 1	底部施文なし/注3645	黒土式
246	6組	甕土	--	(2.5) × (7.1)	底部	深鉢	R 1, L r	口縁施文。底部施文なし/注36463	黒土式
247	6組	甕土	--	(4.2) × (4.0)	底部	深鉢	不明	器面割破で施文不明。底部施文なし/注36209, 406	黒土式
248	6組	甕土	--	(4.0) × (1.8)	底部	深鉢	R 1 r	底部施文なし/注3641	黒土式
249	6組	甕土	--	(2.9) × (3.5)	底部	深鉢	R L	底部施文なし/注36577	黒土式
250	6組	甕土	--	7.5 × (2.4)	底部	深鉢	L r r	底部施文なし/注3624	黒土式
251	6組	甕土	--	(2.0) × (4.6)	底部	深鉢	R L	底部施文なし/注3611	黒土式
252	6組	甕土	--	(7.5) × (3.6)	底部	深鉢	R 1	底部施文なし/注36586	黒土式
253	6組	甕土	--	(4.1) × (4.2)	底部	深鉢	R 1	底部施文なし/注3641	黒土式
254	6組	甕土	--	(3.0) × (2.5)	底部	深鉢	器体不明	胴部は割破のため器体不明。底部施文なし/注3612, D4	黒土式
255	6組	甕土	--	(5.2) × (3.3)	底部	深鉢	器体不明	胴部は割破のため器体不明。底部施文なし/注3613, B8	黒土式
256	6組	甕土	--	(3.0) × (2.5)	底部	深鉢	器体不明	底部施文なし/注362, 66	黒土式
257	6組	甕土	--	(2.4) × (2.3)	底部	深鉢	R 1	底部施文なし/注36158, C2	黒土式
258	6組	甕土	--	(2.7) × (3.0)	底部	深鉢	R 1	底部施文なし/注36279	黒土式
259	6組	甕土	--	9.2 × (3.2)	底部	深鉢	器体不明	底部施文なし/注36465	黒土式
260	6組	甕土	--	(2.0) × (2.2)	底部	深鉢	R 1 r	底部施文なし/注36197, 477	黒土式
261	6組	甕土	--	(1.5) × (3.3)	底部	深鉢	器体不明	底部施文なし/注36A9	黒土式
262	6組	甕土	--	(2.4) × (3.0)	底部	深鉢	不明	上げ成気味。底部施文なし/注36A5	黒土式
263	6組	甕土	--	(2.2) × (2.6)	底部	深鉢	R L	上げ成気味。底部施文なし/注36B0	黒土式
264	6組	甕土	--	(3.2) × (2.8)	底部	深鉢	不明	胴部は割破のため器体不明。底部施文なし/注36A8	黒土式
265	6組	甕土	--	(4.8) × (2.3)	底部	深鉢	L r	底部施文なし/注36D4	黒土式
266	6組	甕土	--	(2.0) × (2.8)	底部	深鉢	不明	胴部は割破のため器体不明。底部施文なし/注36C2	黒土式
267	6組	甕土	--	(1.8) × (2.1)	底部	深鉢	R 1	上げ成気味。底部施文なし/注36C2	黒土式
268	6組	甕土	--	(1.4) × (3.4)	底部	深鉢	L R r	上げ成気味。底部施文なし/注36C2	黒土式
269	6組	甕土	--	(5.5) × (1.8)	底部	深鉢	R L	上げ成気味。底部施文なし/注3619・2	黒土式
270	8組	甕土	--	--	胴部	深鉢	R L	卑部直上斜線文。内面指押痕。金雲母含む/注36440, 188	彩土式23式
271	8組	甕土	--	--	胴部	深鉢	R L	卑部直上斜線文。内面指押痕。金雲母含む/注36462	彩土式23式
272	8組	甕土	--	--	胴部	深鉢	R L	卑部直上斜線文。内面指押痕。金雲母含む/注36C4	彩土式23式
273	8組	甕土	--	--	胴部	深鉢	L r	卑部直上斜線文。内面指押痕。金雲母含む/注36A21	彩土式23式
274	8組	甕土	--	--	胴部	深鉢	R 1	卑部直上斜線文。内面指押痕。金雲母含む/注3670	彩土式23式
275	早期	甕土	--	--	胴部	深鉢	貝殻残文・ 指押痕跡	表裏貝殻残文/注36407	早期後半
276	中期	甕土	--	--	胴部	深鉢	沈痾	木口灰土具で4本扉状の垂施文/注36M4・甕舞土層出土	中期
277	中期	甕土	--	--	胴部	深鉢	沈痾	木口灰土具で垂施文/注36M4・甕舞土層出土	中期
278	中期	甕土	--	--	胴部	深鉢	R L	施文直上・沈痾垂文+幅記指押/注36M1	中期型I-2
279	中期	甕土	--	--	胴部	深鉢	沈痾	沈痾垂文+指押/注36M2	中期型I-2
280	中期	甕土	--	--	胴部	深鉢	沈痾	沈痾垂文+指押/注36M2・甕舞土層出土	中期型I-2
281	沈痾	甕土	--	--	胴部	深鉢	沈痾	器形等沈痾直線の注36M3・甕舞土層出土	後期
282	土製円板	甕土	4.0 × 3.8 × 1.1	--	完整	--	付加施文	胴部の調整はハキリない。施文不明/R・2本を付加/注36425	黒土式
283	釘	--	11.1 × 8.6	頭 1.1	口内完整	--	--	断面及び釘の周囲に木口灰土付着/注36121・大工職本部の指押痕跡のビツト出土	近代
284	釘	--	10.0 × 9.0	頭 0.9	口内完整	--	--	断面及び釘の周囲に木口灰土付着/注36121・大工職本部の指押痕跡のビツト出土	近代
285	金属製品	--	7.7 × 2.4 × 1.5	--	口内完整	--	--	断面・重量29.48g/注36121・大工職本部の指押痕跡のビツト出土	近代
286	石製	甕土	1.9 × 1.2 × 0.3	--	一部欠損	--	--	石質・厚径厚・重量0.46g/注36B8	前期
287	磨製石器	甕土	11.1 × 3.5 × 2.3	--	一部欠損	--	--	石質・輝石質・重量153.03g/注36134	前期
288	磨製石器	甕土	15.4 × 4.6 × 2.1	--	一部欠損	--	--	石質・緑色珉質・重量251.91g/注3622	前期
289	磨製石器	甕土	15.0 × 6.2 × 3.7	--	一部欠損	--	--	石質・緑色珉質・重量549.75g/注3635	前期
290	瓦	甕土	15.12 × 4.7 × 0.6	--	一部欠損	--	--	石質・砂質・重量521.37g/ビツト5層出土/注36455	前期
291	瓦	甕土	5.4 × 6.0 × 1.8	--	完整	--	--	石質・砂質・重量174.22g/熱湯のため割/注3656	前期
292	瓦	甕土	8.9 × 6.3 × 2.7	--	1/4	--	--	石質・四稜形・重量224.33g/注3699	前期
293	石皿	甕土	9.5 × 8.5 × 4.4	--	一部	--	--	石質・多孔質灰土質/重量308.07g/注3682	前期
294	石皿	甕土	18.1 × 19.0 × 6.5	--	1/2	--	--	石質・四稜形・重量316.670g/注36455	前期

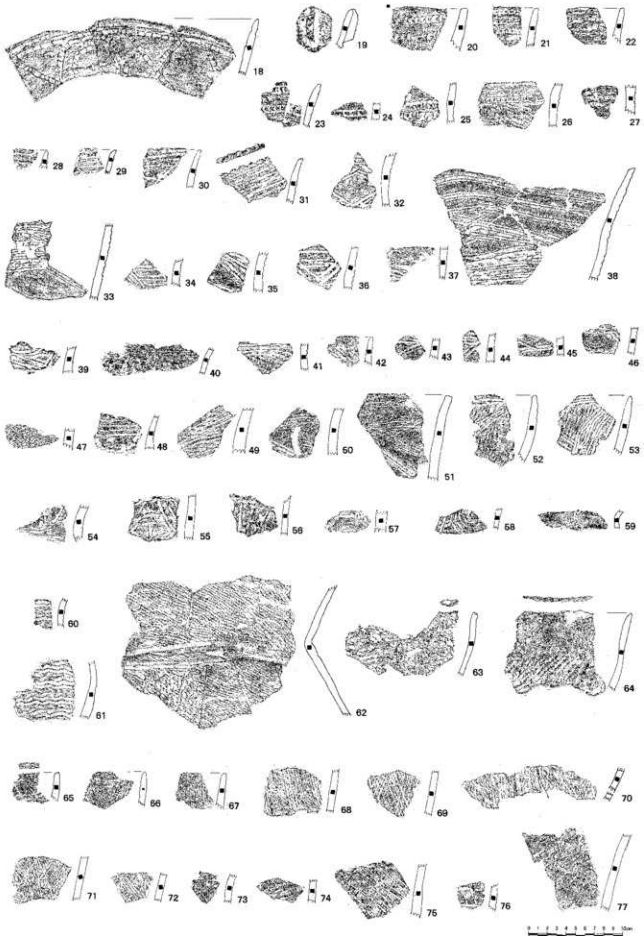


第115図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物① (1/4)





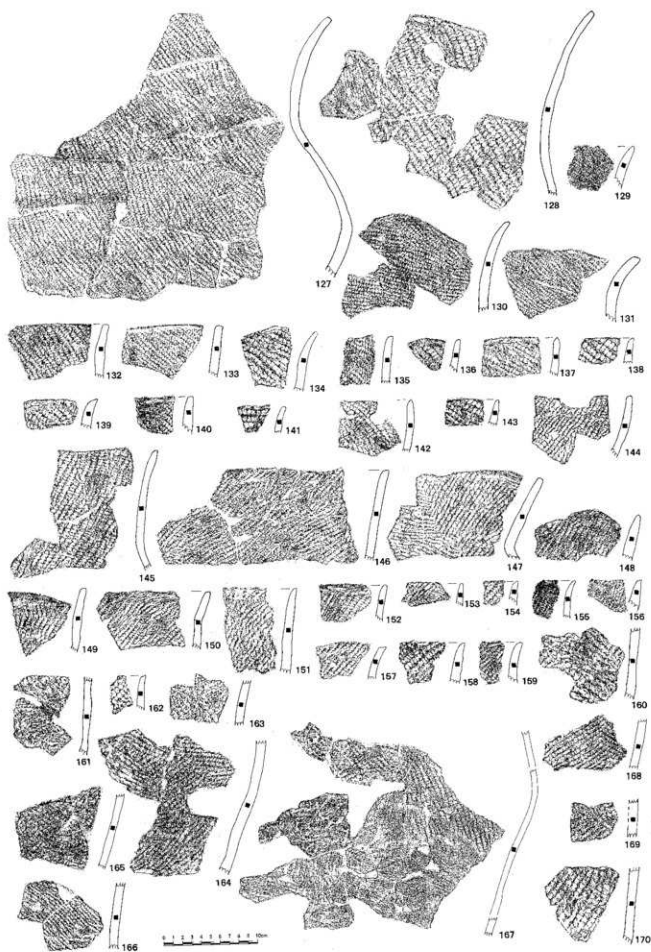
第116図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物② (1/4)



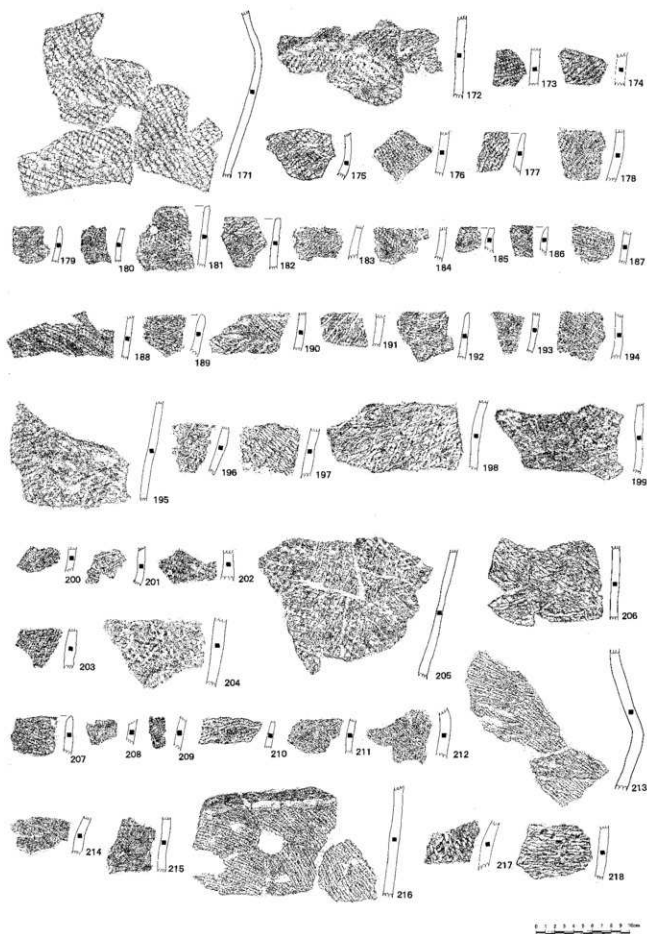
第117図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物③ (1/4)



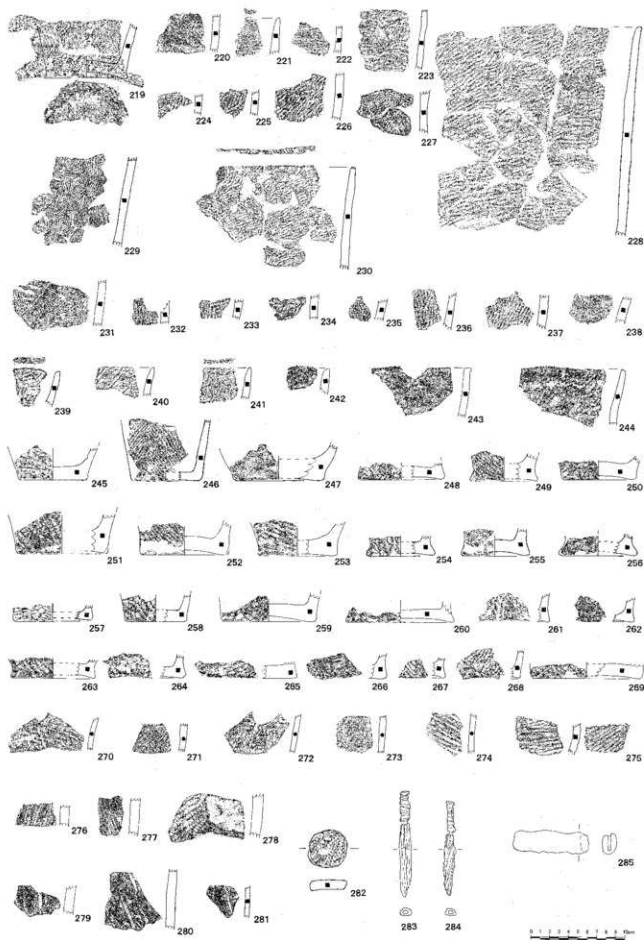
第118図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物④ (1/4)



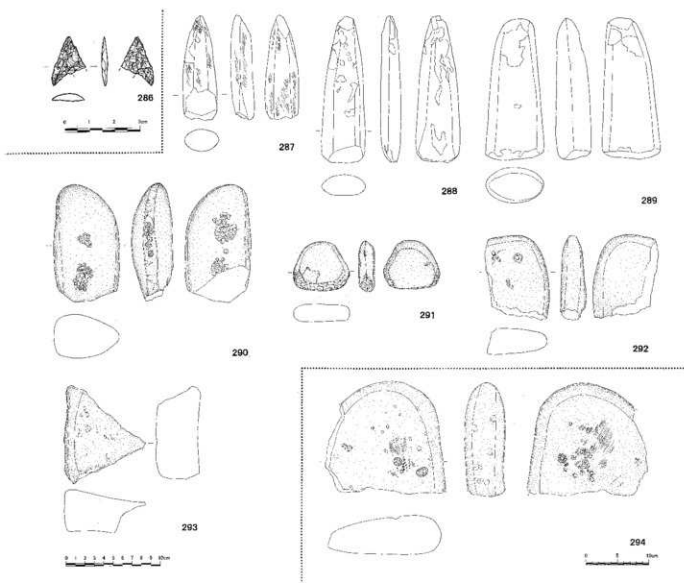
第119図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑤ (1/4)



第120図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑥ (1/4)



第121図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物⑦ (1/4)



第122図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土物⑧ (1/4)

## ④ 2号住居跡

【位置】調査区の北部で南方約4mには1号住居跡が位置する。主軸は推定でN-46°-Wである。

【形状・規模】住居跡の南東部分は時期不明の堀跡により破壊され、1937（昭和12）年以前の耕作痕が東西に縞状に入り、住居北側隅には円形の攪乱や植栽の影響を受ける。全体の形状・規模は不明であるが、残存部の形状は台形を呈し、周溝は無い。

残存部の規模は長軸3.8m、短軸3.4~3.8m、深さは遺構確認面から床面まで32cmを測る。検出部分は攪乱以外完掘である。床面はほぼ平坦で貝層の分布範囲は特に硬化している。

【炉】中央部南側に位置する。炉の平面形態は不整の長方形を呈し、底部は中央部から北側が赤褐色に良く焼けている。規模は長軸52cm、短軸43cm、深さは床面から6.4cmを測る。炉の壁際には直径4~10cm、深さ4.3~5.1cmの小ピットが4ヶ所みられる。

炉他に貝層Ⅰ中央部の床面に被熱による焼土範囲が1ヶ所みられる。小グリットのB1・B2に位置し平面形は円形で直径約30cmの範囲が焼土化している。

【ピット】住居跡に伴うピットは5基検出した。主柱穴はP1・2・5とみられる。

【遺物出土状況】土器と石器の出土状況（第125図）は、貝層Ⅱと炉周辺に集中する。垂直方向では床面出土は少なく、貝層中または覆土の上層から僅かに出土する。

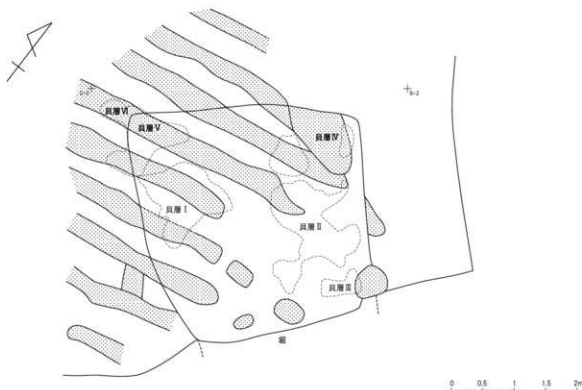
第61表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡ピット一覧表  
(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	27×20	8×8	39.6	
2	楕円形	28×18	5×3	38.5	
3	円形	11×10	4×3	13.8	
4	円形	16×15	6×4	19.4	
5	方形	22×22	15×12	49.4	

## ⑤ 2号住居跡貝層

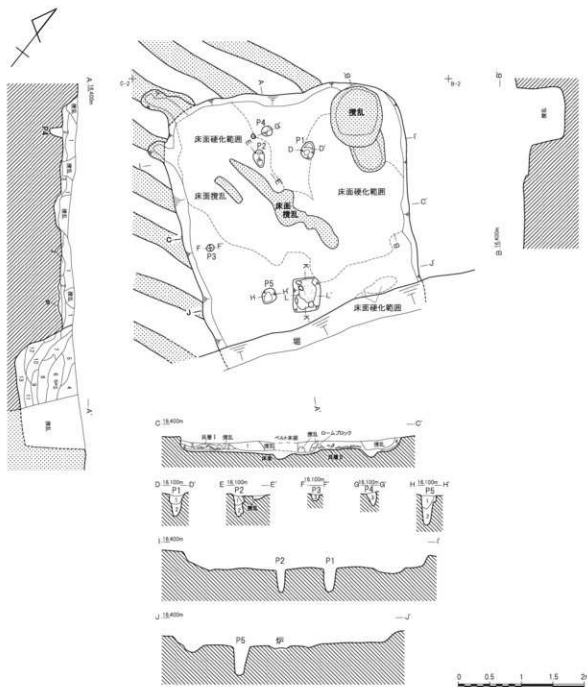
【貝層の形成】貝層の形成を平面分布でみると、住居跡の東部（貝層Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ）と西部（貝層Ⅱ~Ⅳ）に大きく分かれる。発掘調査の段階では貝層Ⅰ~Ⅵまで6ヶ所に分類したが、貝層Ⅱ・Ⅳ、Ⅴ・Ⅵは攪乱を受け分離するが、本来は同一貝層の可能性が高い。

貝層Ⅰ~Ⅵの形成は住居跡廃棄後すぐに始まる。貝

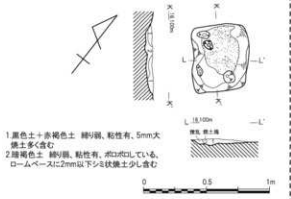


第123図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺構確認状況図 (1/60)





## 2号住居跡炉



1. 黒色土+赤褐色土 粘り強、粘性有、5mm大  
塊土多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、中ローム状、  
ロームペースに2mm以下シミ状土少し含む

## A-A'

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm大ローム粒・炭化物少し、1mm以下ローム粒・塊土粒シミ状に少し含む
2. 黒褐色土+暗赤褐色土 粘り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、2mm以下シミ状に含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土を混状に含む、ローム粒含まない
4. 黒色土 粘り強、粘性有、4層~13層は硬覆土
5. 黒色土
6. 黒色土
7. 黒褐色土
8. 暗褐色土
9. 黒褐色土
10. 黒褐色土+褐色土
11. 褐色土
12. 暗褐色土
13. 褐色土

## C-C'

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有、5mm大ローム粒・炭化物少し、1mm以下ローム粒・塊土粒シミ状に少し含む
2. 黒褐色土+暗褐色土 粘り強、粘性有、1層が中や復乱を受けて粘り弱く、シミ状ローム多く含む(復乱の  
可能性有)
3. 暗褐色土 粘性有、1mm以下シミ状ローム少し含む、1-2層より明るい
4. 褐色土 粘性有、ソコロームペースにシミ状に3層を含む、シミ状にローム粒1mm以下少し含む

## D-D'

1. 黒色土 粘り中や強、粘性有、やや中からして1mm以下ローム粒・炭化物をシミ状に稀少し含む

## E-E'

2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ソコロームペースで中土含まない

## G-G'

3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2層より粘りが強い、1cm大シミ状暗褐色土を少し含む

層Ⅰ・Ⅱの出土層位をみると、住居床面直上に近いところから始まる。住居壁際の覆土層や貝層Ⅱと重なる主柱穴P1の覆土層に貝層の堆積はなく、他の主柱穴や炉の覆土層にもみられない。貝層Ⅰ・Ⅱともに、ヤマトシジミ層とマガキ層が互層を成して堆積し、第133号住居跡貝層Ⅰ・Ⅱの層位のように対比する。最上層確認面のヤマトシジミ層①からヤマトシジミ層③まではほぼ対比する。

【貝層Ⅰ】住居跡北西の壁際近くに位置し、貝層Ⅴと隣接する。最上層のヤマトシジミ層①は、一部で耕作による攪乱の影響を受ける。

貝層は住居床面直上付近から堆積し、マガキ層③→ヤマトシジミ層③→マガキ層②→ヤマトシジミ層②→マガキ層①→ヤマトシジミ層①の順に形成される。マガキ③・②層は住居壁際に近い西側に長軸133×短軸90cmの不整形範囲に広がり、ヤマトシジミ層①に比して狭い。マガキ③層は南側に長軸90×短軸67cmの不整形に広がる。最上層のヤマトシジミ層①は、東西156×南北136cm×厚さ約15cmの不整形の範囲に広がる。

【貝層Ⅱ】住居跡東部の壁際近くに位置し北西部と南東部に大きく2分する。貝層Ⅲ・Ⅳと隣接し、貝層Ⅳとは攪乱により切断されるが、本来貝層Ⅱ・Ⅳは繋がっていた可能性もある。

貝層は床面直上から堆積し層序は1～5層まで、ヤマトシジミとマガキ層が互層を成す。床面直上からヤマトシジミ層③→マガキ層②→ヤマトシジミ層②→マガキ層①→ヤマトシジミ層①の順に形成される。

ヤマトシジミ層③は床面直上付近で20～30cmの数箇所の範囲に廃棄される。次にマガキ層②・①は最上層のヤマトシジミ層①の範囲にはほぼ近い範囲に廃棄されることから、貝層Ⅱの形成の基となった層といえる。マガキ層②・①層は間層にシジミ層②を挟むものの、厚さ5～8cm程に一面に敷き詰めたようにマガキを廃棄している。この廃棄の仕方は2号住居跡貝層Ⅰのマガキ①・②層と同じである。ヤマトシジミ層②はやや北側に寄り、範囲も長軸113×短軸95cmとやや狭い範囲に広がる。最上層のヤマトシジミ層①の分布は、南東部が東西160×南北203×厚さ約10cmの不整形範囲に、北西部は東西65×南北65×厚さ約13cmの範囲に広がる。

【貝層Ⅲ】住居跡の南部、貝層Ⅱの南側に位置し堀跡により南側を削平される。

貝層は床面直上から堆積し、層序は1～3層でヤマトシジミとマガキ層が互層を成す。床面直上からヤマトシジミ層→マガキ層→ヤマトシジミ層の順に形成される。耕作や堀跡の攪乱を受けるが、本来は貝層Ⅰ・Ⅱに準じる層序を呈するものと考えられる。ヤマトシジミ、マガキ層の分布範囲はほぼ重なっており、長軸60×短軸33×厚さ約9cmのL字状の範囲に広がる。

【貝層Ⅳ】住居跡北部隅の壁際近くに位置し、土坑状の攪乱と植栽による攪乱を受ける。住居跡壁際に土層が堆積した後に貝層の形成が始まる。ヤマトシジミを含むマガキ主体層が堆積し、その次にシジミ主体層が堆積する。ヤマトシジミ、マガキ層の分布範囲はほぼ重なっており、長軸55×短軸18cm×厚さ約5cmの楕円形の範囲に広がる。

【貝層Ⅴ】貝層Ⅴは住居跡西側に位置する。貝層上部は耕作による攪乱を受けるが、下層は攪乱の影響はみられない。検出部の層序は上層にヤマトシジミ主体層、下層床面付近にマガキ主体層である。範囲は長軸54×短軸40cm×厚さ約12cmの不整形に広がる。本来貝層Ⅴに含まれる動物遺体や遺物が攪乱により移動したものと考えられる。

【貝層Ⅵ】住居跡の範囲確認時、住居跡外に延びる部分を貝層Ⅵとした。しかし検出の途中で全てが耕作に伴い住居跡内の貝層Ⅴから掘り起こされ移動したものであることが判明したため、取り上げた貝類は攪乱の一括として取り扱った。

【貝層Ⅶ】住居跡の範囲確認時、住居跡外に延びる部分を貝層Ⅶとした。しかし検出の途中で全てが耕作に伴い住居跡内の貝層Ⅴから掘り起こされ移動したものであることが判明したため、取り上げた貝類は攪乱の一括として取り扱った。

#### ⑥2号住居跡出土土器 (第128・129図)

第1類第1種土器 8は磨滅しているが2列の爪形文を施す。9は沈線で菱形文をつくる有尾式とみられる。

第1類第2種、第3種土器 10は半截竹管状工具で沈線を施し1種の可能性もある。11は篋状工具で浅い沈線状文様を施文する。

第2類第1種土器 1、3、4～7、12～44、46～48、60、68は無節斜縄文を施文する。2～4は口縁部が直線的に外反する深鉢形土器である。3はR1無節斜縄文に部分的に縦位に縄文を施文し、胴部中央で追加成形施文がみられる。1は胴部の括れ部で追加成形施文を行ない、括れを境に上下で施文が異なる。上部はR1斜縄文と縦位縄文を交互に施文し、胴下部で縦位縄文を施文する。5から7は深鉢形土器の胴下部から底部である。6は上げ底ぎみの底部で、底部外側の接地部分に縄の圧痕がみられる。24は無節R1縄文と単節RL縄文を施文する。1、3、43は追加成形施文がみられ、27、28も同様かと思われる。67、69は縄文施文であるが、磨滅のため原形不明である。

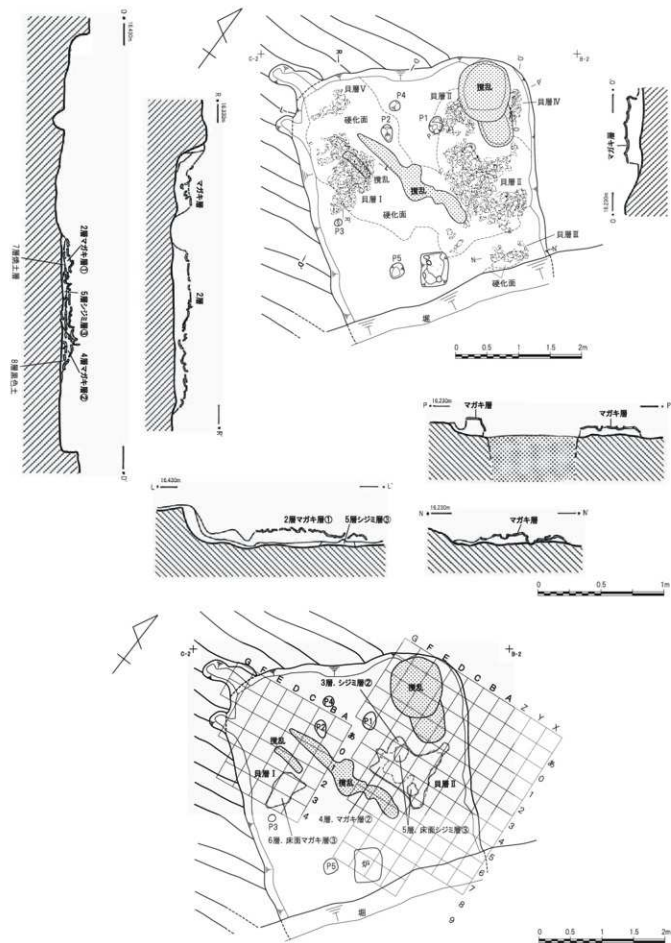
第62表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土土物観察表

(単位:cm)

図録番号	分類	出土状況	口径・胴径・高さ・厚さ	底径・高さ	遺存部位	器形	地文	文様表示法:注% <sub>1</sub>	時期・備考	
18	1	2割1種	片目	-	130.43	深鉢	R1	口縁部斜位縄文と縦絞縄文を交互施文。胴下部縦絞縄文。追加成形施文・注%29, 40, 107	黒式	
	2	2割2種	破片	122.3	-	2/3	深鉢	L.R. R.L	早期上・羽田縄文・注%20, 71, 88, 91, 95, 104, 106, カイ8	黒式
	3	2割1種	片目	20.7	-	3/4	深鉢	R1	斜位縄文に部分的に縦位に近い縄文施文。追加成形施文・注%47, 76, 102, 101, 118, A143	黒式
	4	2割1種	片目	120.3	-	3/4	深鉢	L.r	/注%49, H1・2	黒式
	5	2割1種	片目	-	8.0・(8.2)	底部	深鉢	L.r	胴下部から底部残存・注%47, 68, 101, B13, B15・1	黒式
	6	2割1種	片目	-	7.8・(6.4)	底部	深鉢	R1	胴下部から底部残存。底部に縄目痕有り・注%52	黒式
	7	2割1種	片目	-	9.5・(10.3)	胴下部	深鉢	R1	胴下部から底部残存。S字状縄目痕有り・注%46, 54, 55, 76, 78-80, カイ10-12	黒式
	8	1割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	-	2列の連続糸彫文施文。浅鉢口縁部から・注%141	有糸式
	9	1割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	-	浅鉢の縦糸彫文(垂形文)施文。浅鉢口縁部から・注%3, 4	有糸式
	10	1割2種	甕土	-	-	11割部	深鉢	-	手捻竹管状工具の内面で沈濁施文・注%33	黒式
	11	1割2種	甕土	-	-	11割部	深鉢	-	口縁部斜目。器状工具で撫で沈濁文施施す・注%111	黒式
	12	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	/注%25-27, 75	黒式
	13	2割1種	片目	-	-	11割部	深鉢	L.r	/注%102	黒式
	14	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	口縁部凸縁状の沈濁がめぐる・注%166	黒式
	15	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	/注%142	黒式
	16	2割1種	片目	-	-	11割部	深鉢	R1	/注%103	黒式
	17	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	/注%A12	黒式
	18	2割1種	片目	-	-	11割部	深鉢	無筋縄文	/注%37	黒式
	19	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	/注%A13	黒式
20	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	R1	/皮状1144・注%38	黒式	
21	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	L.r	/注%16	黒式	
22	2割1種	甕土	-	-	11割部	深鉢	L.r	/注%A12	黒式	
23	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%42	黒式	
24	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1, R.L	追加成形施文・注%89, 90, 98, 99, 103, カイ6・8	黒式	
25	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%92, 93	黒式	
26	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	R1	追加成形施文小・注%76	黒式	
27	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%30	黒式	
28	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	追加成形施文小・注%45	黒式	
29	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%29	黒式	
30	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%112	黒式	
31	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%45	黒式	
32	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%108	黒式	
33	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%61	黒式	
34	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%2	黒式	
35	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%20	黒式	
36	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%64	黒式	
37	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%28	黒式	
38	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%37	黒式	
39	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%5	黒式	
40	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%112	黒式	
41	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%111	黒式	
42	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1	/注%22	黒式	
43	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	R1	追加成形施文・注%166	黒式	
44	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%13	黒式	
45	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%112	黒式	
46	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.r	/注%65	黒式	
47	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	R1・L.R	無筋上・早期上・算施文・注%41	黒式	
48	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	無筋縄文	/注%36	黒式	
49	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞? + L.r・2本並列付加・注%59	黒式	
50	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞? + R1・2本付加・注%62	黒式	
51	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞L.r + R1・2本付加・注%64	黒式	
52	2割1種	破片	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞加筋 + L.r付加・注%112	黒式	
53	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞L.r + R1・2本付加・注%A143	黒式	
54	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞? + R1・2本付加・注%12	黒式	
55	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞R1? + L.r・2本?付加小・注%51, 100	黒式	
56	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加縄文	輪絞R1? + L.r・2本?付加小・注%51, 100	黒式	
57	2割2種	破片	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%112	黒式	
58	2割2種	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%97, 104, 105	黒式	
59	2割2種	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.rかL.R	無筋小・早期小・破成で付加らしい・注%8	黒式	
60	2割1種	片目	-	-	胴部	深鉢	L.r	/注%35	黒式	
61	2割2種	破片	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%112	黒式	
62	2割2種	片目	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%カイ8	黒式	
63	4割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	付加付加	付加付加 + 縄文(R1かR1不明)施文・注%31, 32, 73, 112, 154ト2	黒式	
64	2割1種	甕土	-	-	胴部	深鉢	L.R	/注%104	黒式	
65	5割	甕土	-	-	胴下部	深鉢	L.R	口縁部一部に施文の可能性有り・注%30	黒式	
66	2割1種	甕土	-	-	胴下部	深鉢	付加縄文	胴下部から底部。破成で輪絞不明。付加11本から・注%11	黒式	
67	2割	甕土	-	-	胴下部	深鉢	縄文	胴下部から底部。破成で縄文不明。底部施文なし・注%63	黒式	
68	2割1種	甕土	-	-	胴下部	深鉢	L.r	胴下部から底部。底部施文なし・注%10	黒式	
69	2割	甕土	-	-	底部	深鉢	縄文	底部施文なし・注%1	黒式	
70	11枚表裏文	片目	-	-	底部	深鉢	付加表裏文	早期付加表裏文系上流。外面付加表裏文。内面破成もしくは不明・注%カイ7	縄文早期	
71	破片	-	-	-	底部	深鉢	無文	中層・縁部縁部で加文。磨き施す・注%112	縄文中層	
72	泥・マンチ	甕土	2.5×2.3×0.8cm	-	一部欠損	-	-	土製品: 泥・マンチ・磨き3.97g・注%A141	泥	
73	石・磨	甕土	2.1×1.8×0.4cm	-	完整	-	-	石器: 石・磨/石質: 黒曜石・重量1.03g・注%77	縄文前期	
74	磨製石・磨	甕土	12.0×4.8×3.0cm	-	一部欠損	-	-	石器: 磨製石/石質: 緑色岩・重量307.2g・注%10	縄文前期	
75	磨石	甕土	13.3×11.4×6.1cm	-	一部欠損	-	-	石器: 磨石/石質: 砂岩・重量1,092.6g・注%53	縄文前期	
76	磨石	甕土	2.7×2.4×1.6cm	-	完整	-	-	石器: 磨石/重量2.48g・注%A141	縄文前期	



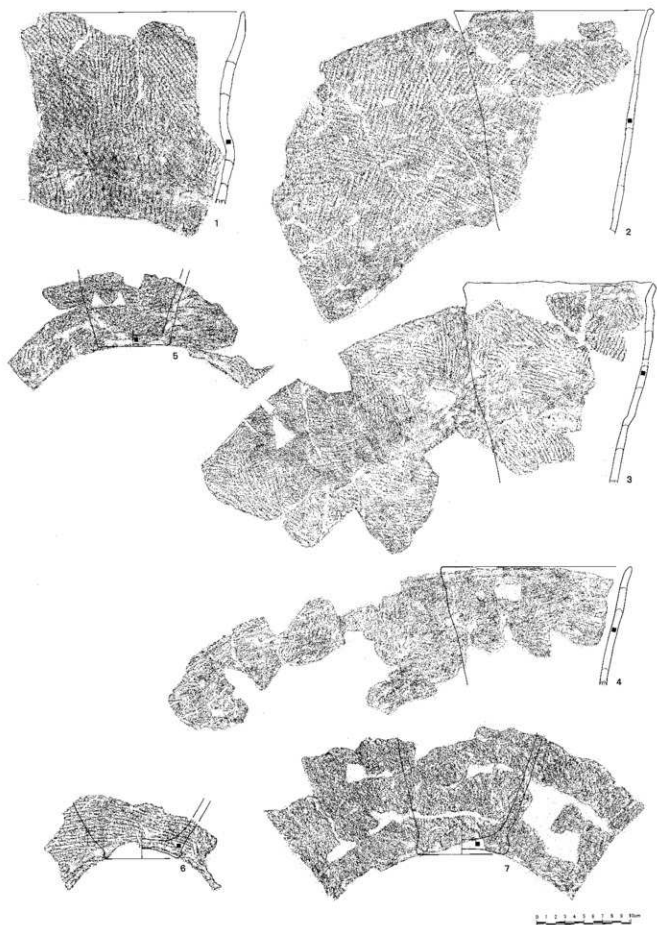
第125図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況図・貝層グリッド設定図 (1/60)、土層図 (1/30)



第126図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図・マガキ層①・②出土状況図 (1/60)、土層図 (1/30)



第127図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層形成図① (1/60)



第128図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物① (1/4)



第129図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物② (1/4・2/3)



**第2類第2種土器** 2、45、57~59、61、62、64は単節斜縄文の土器である。2は本住居で唯一の羽状菱形縄文を構成する。作りは粗雑であるが胴中央部に施文を変える。59は磨滅のためL rかL Rが不明である。

**第2類第4種土器** 49~56、66は付加縄文である。輪縄の圧痕が浅いと2本の縄を付加するものが多く見られる。本住居跡出土土器には付加縄文と他の縄文原体を施文したものはみられない。

**第4類第1種b土器** 63はハイガイを用いた貝殻背圧痕と地文にR1かR L斜縄文を施文した土器である。

**第5類土器** 65は無文土器であるが他の部位には施文がある可能性がある。

1~69の土器は、8・9は縄文時代前期有尾式土器で他は全て黒浜式に属する。1~69の土器胎土には全て繊維を含んでいる。1号住居跡から出土した第8類甲信系土器は2号住居跡からは1点も出土していない。

70は早期の貝殻条痕文系土器である。内面は磨滅のため施文不明。

71は中期の浅鉢形土器の体部で無文である。

72は近世以降の泥メンチである。

73~75は前期に属するとみられる石器である。76は軽石である。

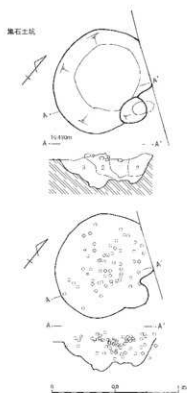
#### ⑦集石土坑

縄文時代に属するとみられる集石土坑を調査区南部で1基検出した。1号住居跡の東1.5mに位置し東側の一部は調査区外に延びる。

平面形態は楕円形を呈する。規模は確認面径85×70cm、底径52×50cm、深さ16.5cmである。

#### ⑧堀跡

調査区中央部に位置し、東西の調査区外へ延びる。2号住居跡より新しく、水溜と現代のゴミ穴に攪乱される。土層の観察から、市内の亀久保堀跡遺跡や駒林遺跡等で検出される堀跡に類似するため、古代から中世の時期に属するものとみられる。断面形は逆台形を呈し、検出部の規模は上幅2.2m、下幅1.6m、深さ1.45mである。



第130図 上福岡貝塚第1地点集石土坑 (1/30)

第63表 上福岡貝塚第1地点集石土坑・出土物観察表

単位: cm・個数・g (%)

集石No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	検出層	総点数	総重量	平均重量	破損個数	定形個数	変形個数	未変形個数	テール・保付者数	テール・保未付者数
1	楕円形	85×70	52×50	16.5	75×58	224	6,567.5	29.3	208(92.9)	16(7.1)	53(23.7)	171(76.3)	22(9.8)	202(90.2)

## (2) 産出した動物遺体群

## ① 貝層の調査

## ①-1 貝層の概要

2軒の住居跡内よりそれぞれ貝層が検出した。1号住居跡からは14ヶ所の貝層がブロック状に点在して検出した。2号住居跡からは6ヶ所の貝層が検出したものの貝層ⅠとⅡを中心に住居跡内全体に敷き詰めるような状態で検出した。それらの層序は次の通りである。1号住居跡より検出した貝層はほとんどのものが単層であり、貝層Ⅱなど複数の層によって形成されているものは層位がやや複雑であった。それに対して、2号住居跡のものは、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が整合と互層になって検出された。

## ①-2 資料の抽出方法

1号住居跡は貝層ごとに一括もしくは層位ごとに、2号住居跡は、まず貝層ⅠとⅡは30cm×30cmのグリッドを設定し、そのグリッドで層位ごとに、その他の貝層は一括で、それぞれ土ごとサンプルを採集した。それらのサンプルは、5.0mm、2.5mm、1.2mm目の篩を用いた水洗選別法と浮遊選別法によって資料の抽出をおこなった。その手順は以下の通りである。

1. 遺跡において土ごと採取した貝層サンプルを乾燥させ、重量を計測。
2. 水洗選別法および浮遊選別法で資料を抽出。
3. 再度、資料を乾燥させ、重量を計測。
4. 分類・同定作業。

分類作業の方法は篩ごとに異なる。5.0mm目篩上残留資料はすべて分類をおこなった。2.5mmおよび1.2mm目篩上残留資料のほとんどのものは、無作為に一部を取り分けて、重量を計測した後、その分だけ分類をおこなった。なお、水生微小貝類、陸生貝類、脊椎動物の各遺体に関しては、すべて抽出した。浮遊選別法によって抽出された資料に関しては、水生微小貝類、陸生貝類、種子のみを抽出した。

なお、2号住居跡の貝層ⅠのD1グリッドと貝層ⅡのD3グリッドに関しては、将来的に本報告と異なった方法で分析がおこなわれることも想定し、水洗せず現場にて採集されたままの状態での保存することにした。

以上の方法で抽出した動物遺体を第64表に示す。

本書では報告に最低限必要なデータのみを提示し、詳細なデータは、DVDに収めた。

## ①-3 混貝率 (第65・66表)

本報告において、重量データによる混貝率を提示した。

第64表 上福岡貝塚第1地点より産出した動物遺体群種名表

軟体動物門 MOLLUSCA	
腹足綱 GASTROPODA	
タニシ科 Vaginidae	<i>Cyanospira japonica</i> (Matsuo, 1909)
マユシ	
ウニシ科 Hamulidae	<i>Rastrea multiformis</i> (Lischke, 1849)
ツノナガ貝 Turritidae	
カワバイ	<i>Corchiko</i> ( <i>Corchikoides</i> ) ( <i>Endaromus</i> ) (Martin, 1999)
カワナガ貝 Puzosidae	<i>Semiliparis rinzumi</i> Broc, 1877
オホシノコウナガ	
カワナガ貝 Turritidae	<i>Arcaea elegans</i> (A. Adams, 1843)
カワナガ貝 Turritidae	
カワナガ貝 Turritidae	<i>Arcaea brachyura</i> (Habe, 1951)
カワナガ貝 Turritidae	<i>Arcaea peruviana</i> (Kanda, 1954)
アマガイ貝 Muricidae	
イビシ	<i>Fluxi</i> ( <i>Reliata</i> ) ( <i>Reliata</i> ) (Kunitz, 1909)
アマガイ	<i>Reliata</i> ( <i>Reliata</i> ) (Valdemar, 1854)
トウゴタケ貝 Pyramulidae	
ウチノシロノ貝	<i>Odostoma</i> sp.
ウチノシロノ貝	<i>Drepanostoma apyramidalis</i> (Stewart, 1926)
キハナガ貝 Velutidae	
キハナガ貝	<i>Viregia</i> ( <i>Viregia</i> ) (Fitzinger, 1801)
キセルガイ科 Comacidae	
キセルガイ	<i>Zappalopsis</i> ( <i>Amchi</i> ) (Pilsbry, 1894)
オカサシロノ貝 Subulinidae	
オカサシロノ貝	<i>Aliphan</i> ( <i>Aliphan</i> ) (Pilsbry & Hirao, 1904)
オカサシロノ貝	<i>Aliphan</i> ( <i>Aliphan</i> ) (Schumaker & Hoogstraal, 1991)
コバガイ科 Zonitidae	
ヒメコバガイ科	<i>Hyacinth</i> sp.
ベッコウガイ科 Hamulinidae	
ヒメベッコウガイ	<i>Drepanostoma simplex</i> (Reichardt, 1877)
ヒメベッコウガイ類群	<i>Drepanostoma</i> sp.
二枚貝綱 BIVALVIA	
ツノガイ科 Saxicidae	
ツノガイ	<i>Saxicava</i> ( <i>Saxicava</i> ) (Talmage, 1906)
ツノガイ	<i>Zygleria</i> ( <i>Zygleria</i> ) (Littorax, 1758)
イサガイ科 Chamaeleidae	
イサガイ	<i>Chamaelea</i> ( <i>Chamaelea</i> ) (Pilsbry, 1903)
イサガイ科 Urosalpinxidae	
イサガイ	<i>Urosalpinx</i> ( <i>Urosalpinx</i> ) (Martens, 1877)
ツノガイ科	<i>Urosalpinx</i> ( <i>Urosalpinx</i> ) (Littorax, 1758)
バカガイ科 Macculidae	
シオボネ	<i>Maccul</i> ( <i>Maccul</i> ) (Dehayes in Reece, 1854)
ツノガイ科 Turritidae	
ツノガイ	<i>Turritella</i> ( <i>Turritella</i> ) (Reeve, 1843)
ツノガイ科 Turritidae	
ツノガイ	<i>Corchiko</i> ( <i>Corchiko</i> ) (Pilsbry, 1894)
マルヌメタケ科 Veneridae	
アサリ	<i>Rastrea philippinensis</i> (Adams & Reece, 1850)
ハマグリ	<i>Meyera</i> ( <i>Meyera</i> ) (Röding, 1793)
オノガイ科 Myidae	
オノガイ	<i>Mya</i> ( <i>Mya</i> ) ( <i>Mya</i> ) ( <i>Mya</i> ) (Mikoyan, 1935)
クサベニガイ科 Corchikidae	
ヒラヌマコガイ	<i>Parasarcophaga</i> ( <i>Parasarcophaga</i> ) (Hinds, 1843)
節足動物門 ARTHROPODA	
腹脚綱 MAXILLIPODA	
フジノ蟹	<i>Boreas</i>
脊椎動物門 VERTEBRATA	
軟骨魚綱 CHONDRICTHYES	
エイ類群 BATOIDEA	
硬骨魚綱 OSTHEICTHYES	
ニシン科 Clupeidae	
コイ科 Cyprinidae	
鳥綱 AVES	

具体的には、水洗後の分類によって抽出された水生貝類遺体群の総重量を水洗前のサンプル総重量で割ることで求めている。但し、2.5mm及び1.2mm目篩上残留資料に関しては、一部しか分類をおこなっていない。そこで、分類をおこなった分の資料の割合からそれぞれの資料における水生貝類遺体群の割合を推定し、それを分析に用いた。その結果は、第65・66表に提示した。

## 【1号住居跡】(第65表)

本住居跡内において、50%を超えるのは貝層Ⅰ(50%)のみである。層位で概観しても、貝層Ⅰの2層・床直上、貝層Ⅱの6層、貝層Ⅳの3層のみである。さらに、40%を超えているのも貝層Ⅰの1層、貝層Ⅱの2層・3層・3'層、貝層Ⅳの1層(東側)に限られる。つまり、全体的に混貝率が低く、その傾向は西側の貝層に行くほど顕著である。

第65表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡の貝層における混貝率

貝層	層位	重量(g)		混貝率
		全体	貝類	
貝層1	1層	2060.0	886.7	43.0%
	2層	1466.7	876.1	59.7%
	床直上	50.6	26.1	51.5%
	全体(合計)	3577.3	1788.8	50.0%
貝層2	1層(東側)	3112.7	842.5	27.1%
	2層(東側)	89.8	39.0	43.4%
	3層(東側)	1650.8	685.4	41.5%
	3'層(東側)	1330.4	548.6	41.2%
	1~3・3'層(西側一括)	5187.6	1785.6	34.4%
	5層	3496.3	1304.5	37.3%
	6層	1928.0	1082.6	56.2%
	全体(合計)	16795.6	6288.3	37.4%
貝層3	一括	59.9	12.2	20.3%
貝層4	1層	4459.1	1191.5	26.7%
	2層	980.4	147.9	15.1%
	3層	21.3	14.8	69.5%
	4層	494.0	132.1	26.7%
	一括	1140.4	170.4	14.9%
	全体(合計)	7155.1	1668.9	23.3%
貝層5	一括	554.6	134.5	24.2%
貝層6	1層	1651.8	617.8	37.4%
	2層	698.1	175.2	25.1%
	一括	1274.1	331.0	26.0%
	全体(合計)	3624.0	1258.5	34.7%
貝層7	一括	1831.1	154.4	8.4%
貝層8	1層(東側)	3520.3	1545.0	43.9%
	1層(西側)	1777.2	617.0	34.7%
	2層(東側)	2386.3	178.7	7.5%
	2'層(東側)	3041.0	204.9	6.7%
	2・2'層(西側)	3473.3	15.9	0.5%
全体(合計)	14198.1	2561.5	18.0%	
貝層9	1層(東側)	5332.2	1502.4	28.2%
	1層(西側)	3062.0	728.1	23.8%
	2層(東側)	467.9	52.3	11.2%
	2層(西側)	1735.4	1.9	0.1%
全体(合計)	10597.5	2284.7	21.6%	
貝層10	一括	1398.7	278.6	19.9%
貝層11	1層	1198.4	342.1	28.5%
	2層	543.3	16.1	3.0%
	3層	929.8	121.7	13.1%
	一括	51.3	6.1	11.9%
	全体(合計)	2722.8	486.0	17.9%
貝層12	一括	4209.9	1027.7	24.4%
貝層13	一括	865.7	271.7	31.4%
貝層14	一括	1550.6	345.8	22.3%

第66表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡の貝層における混貝率(層位別)

貝層	層位	重量(g)		混貝率
		全体	貝類	
貝層I	1層	43906.9	24698.2	56.3%
	2層	16844.6	11377.0	67.5%
	3層	11600.1	6054.5	52.2%
	4層	3339.7	2378.3	71.2%
	5層	2124.1	948.6	44.7%
	6層	4134.8	1589.5	38.4%
	床直	1363.4	16.9	1.2%
貝層II	1層	47744.1	23525.6	49.3%
	2層	31973.0	18279.7	57.2%
	3層	5336.0	1779.7	33.4%
	4層	2479.5	1069.3	43.1%
	5層	430.5	38.3	8.9%

## 【2号住居跡】(第66表)

**貝層I** 4層より上層はすべて50%を超えている。下層においても5層が45%、6層が38%と比較的高い値を示している。マガキ主体層は極めて値が高く、2層が68%、4層が71%である。

**貝層II** 50%を超えるのは2層のみである。5層が9%である他は比較的高い値を示しているが、貝層Iほどではない。なお、マガキ主体層(2・4層)は、それぞれの直上のヤマトシジミ主体層(1・3層)よりも高い値を示している点では、貝層Iとやや近い傾向を示している。(層位に関する詳細は「②-1 水生貝類遺体群：組成」を参照のこと) (阿部)

## ②水生貝類遺体群

## ②-1 組成

産出した貝類遺体群の組成は水生と陸生に分けて検討する。水生貝類のうち5.0mm篩で取り上げたものを大型貝類として住居跡ごとに分析を行い、1.2mm篩と浮遊選別法によって取り上げたものを微小貝として分析を行った。今回2.5mm篩によって取り上げた貝類遺体はほとんどなく、分析の対象から外すこととした。

なお、貝類遺体群の組成は、主に最小個体数をもとに検討した。今回最小個体数の計上は、まず貝層のグリッドおよび層位ごとに最小個体数を算出し、全体の組成ではそれらを合算した。

上福岡貝塚第1地点全体で産出した水生貝類遺体群は、17科23種、最小個体数で30,225個体、重量は123,881gであった。内訳は、ヤマトシジミ26,912個体(89.0%)・64,215g(51.8%)、マガキ2,958個体(9.8%)・



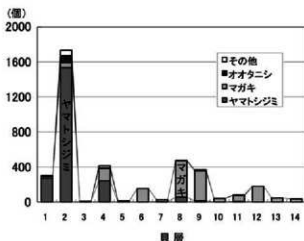
第68表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡から産出した水生貝類遺体群の組成

貝類	層位(タリノド)	オサナシ	カワシメン	サルボウ	マサキ	イシイ	シマキ	トメヤシ	ウツメシ	ヤマトシ	アサリ	ハマリ	オサナシ	合計	フシゴ	
貝類 I	1層	最小個体数	2	-	-	43	-	-	-	1	8165	28	2	1	8242	有
		割合(%)	0.02	-	-	0.52	-	-	-	0.01	99.02	0.34	0.02	0.01	2.9	28675.37
		重量	1.18	-	-	1738	-	-	-	0.9	20675.81	377	19.98	2.9	4363.64	
	2層	最小個体数	-	1	-	252	-	-	-	1	400	0	-	1	660	有
		割合(%)	-	0.12	-	38.18	0.15	0.15	0.15	0.15	60.61	0.45	-	0.15	1	9921.41
		重量	-	1.26	-	9079.14	0.18	0.18	0.21	0.21	833	6.23	-	0.21	1	1569
	3層	最小個体数	-	-	-	118	-	-	-	-	1578	6	2	3	1569	有
		割合(%)	-	-	-	7.82	-	-	-	-	91.32	0.40	0.13	0.23	3	5352.7
		重量	-	-	-	2411.66	-	-	-	-	2904.32	14.28	0.79	20.93	3	154
	4層	最小個体数	-	-	-	51	-	-	-	-	103	-	-	-	154	有
		割合(%)	-	-	-	33.12	-	-	-	-	210.81	-	-	-	1	1721.09
		重量	-	-	-	87.25	-	-	-	-	12.25	-	-	-	1	345
5層	最小個体数	-	1	-	24	-	-	-	1	218	1	-	-	245	有	
	割合(%)	-	0.41	-	9.80	-	-	-	0.41	88.98	0.41	-	-	1	81.59	
	重量	-	0.83	-	373.99	-	-	-	0.53	434.63	0.02	-	-	1	25	
3-5層 (E1)	最小個体数	-	-	-	2	-	-	-	1	21	-	-	-	23	有	
	割合(%)	-	-	-	8.70	-	-	-	1	91.28	-	-	-	1	368.58	
	重量	-	-	-	117.19	-	-	-	1	51.29	-	-	-	1	39	
6層 (E3)	最小個体数	-	-	-	8	-	-	-	-	30	-	-	1	39	有	
	割合(%)	-	-	-	29.52	-	-	-	-	76.92	-	-	2.56	1	250.27	
	重量	-	-	-	183.23	-	-	-	-	36.38	-	-	0.49	1	20	
層位不明および覆土	最小個体数	-	-	-	2	-	-	-	-	24	-	-	-	26	有	
	割合(%)	-	-	-	7.69	-	-	-	-	92.31	-	-	-	1	21.01	
	重量	-	-	-	43.28	-	-	-	-	89.75	-	-	-	1	10068	
貝類 II	合計	最小個体数	2	2	-	400	1	1	3	10339	38	4	8	10868	有	
		割合(%)	0.02	0.02	-	4.59	0.01	0.01	0.03	94.87	0.35	0.04	0.07	0.02	40967.02	
		重量	1.18	2.09	-	15432.77	0.18	0.18	1.06	25200.48	258.08	20.27	25	0.06	9239	
	1層	最小個体数	6	1	-	62	-	-	-	1	5050	8	3	1	9239	有
		割合(%)	0.06	0.01	-	0.73	-	-	-	0.01	99.04	0.09	0.05	0.01	22830.48	
		重量	21.91	1.34	-	1576.03	-	-	0.29	12122.84	74.92	32.26	0.39	0.02	1978	
	2層	最小個体数	2	2	-	416	-	-	-	2	547	5	3	1	978	有
		割合(%)	0.20	0.20	-	42.54	-	-	-	0.20	55.93	0.31	0.31	0.10	16367.35	
		重量	6.28	0.49	-	16603.91	-	-	0.004	10300.77	10.76	23	1.39	0.008	303	
	3層	最小個体数	0	2	1	31	-	-	-	1	333	1	-	-	303	有
		割合(%)	0.25	0.51	0.25	12.98	-	-	-	0.25	86.24	0.25	-	-	1	1526.69
		重量	0.13	0.22	0.21	927.56	-	-	0.02	353.94	0.34	-	-	-	1	64
4層	最小個体数	-	-	-	42	-	-	-	-	34	-	-	-	76	有	
	割合(%)	-	-	-	65.63	-	-	-	-	36.69	-	-	-	1	992.67	
	重量	-	-	-	955.98	-	-	-	-	3.70	-	-	-	1	27	
5層	最小個体数	-	-	-	21	-	-	-	-	92	-	-	-	113	有	
	割合(%)	-	-	-	7.41	-	-	-	-	92.59	-	-	-	1	28.83	
	重量	-	-	-	4.66	-	-	-	-	24.18	-	-	-	1	62	
4-5層 (E3)	最小個体数	-	-	-	23	-	-	-	-	39	-	-	-	62	有	
	割合(%)	-	-	-	37.10	-	-	-	-	62.99	-	-	-	1	535.59	
	重量	-	-	-	443.71	-	-	-	-	91.88	-	-	-	1	39	
一括	最小個体数	-	-	-	4	-	-	-	-	35	-	-	-	39	有	
	割合(%)	-	-	-	10.26	-	-	-	-	89.74	-	-	-	1	84.28	
	重量	-	-	-	21.96	-	-	-	-	62.32	-	-	-	1	70	
覆土 (E0)	最小個体数	-	-	-	13	-	-	-	-	27	-	-	-	40	有	
	割合(%)	-	-	-	28.10	-	-	-	-	74.00	-	-	-	1	497.75	
	重量	-	-	-	431.89	-	-	-	-	85.89	-	-	-	1	10852	
合計	最小個体数	0	5	0	618	-	-	0	0	10190	14	8	3	10852	有	
	割合(%)	0.08	0.05	0.01	5.69	-	-	0.01	0.03	96.90	0.13	0.07	0.03	4363.64		
	重量	28.32	2.05	0.21	19979.66	-	-	0.29	0.77	22887.61	86.02	59.26	1.9	1		
貝類 III	一括	0.07	0.005	0.0005	46.21	-	-	0.0007	0.002	33.58	0.39	0.13	0.003	1348	有	
	割合(%)	0.07	0.01	-	40	-	-	-	1	1287	18	1	-	1348		
	重量	1	1	-	2.97	-	-	-	0.02	95.47	1.34	0.07	-	1	4854.58	
貝類 III-IV	一括	0.022	-	-	145	-	-	0.24	3225.74	174.45	5.24	-	-	148	有	
	割合(%)	0.022	-	-	29.813	-	-	0.005	66.447	3.594	0.138	-	-	148		
	重量	1	-	-	147	-	-	-	99.32	1.89	-	-	-	1		
貝類 IV	一括	-	0.72	-	80	-	-	-	99.32	1.89	-	-	-	276	有	
	割合(%)	-	0.69	-	31.17	-	-	-	304.47	96.83	-	-	-	314.45		
	重量	-	3.49	-	3567.33	-	-	-	377.59	37.38	-	-	-	1		
貝類 V	一括	1	-	-	167	-	-	-	1	1851	2	-	-	2022	有	
	割合(%)	0.05	-	-	8.26	-	-	-	0.05	91.54	0.10	-	-	10725.63		
	重量	0.09	-	-	6488.7	-	-	0.65	4218.59	17.6	-	-	-	1		
一括	最小個体数	0.002	-	-	60	-	-	0.006	39	332	0.164	-	-	361	有	
	割合(%)	-	-	-	2.38	-	-	-	96.01	1.71	-	-	-	1089.07		
	重量	-	-	-	20.9	-	-	-	815.11	54.06	-	-	-	1		
覆土	最小個体数	-	-	-	25	-	-	-	-	74.81	-	-	-	457	有	
	割合(%)	-	-	-	5.47	-	-	-	-	94.53	-	-	-	1750.27		
	重量	-	-	-	885.60	-	-	-	-	854.71	-	-	-	1		

第69表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡から産出した水生貝類遺体群一覧表

貝層	淡水			汽水			海水										
	イシガイ	マツカサ	カリメナ	オオタニシ	ヤマトシジミ	マガキ	トウヤクガイ	ウネナシ	ハイガイ	ウミニナ	カワアオイ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	オホノガイ	イボニシ	アカニシ
貝層1	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層2	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層3	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層4	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層5	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層6	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層7	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層8	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層9	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層10	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層11	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層12	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層13	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝層14	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

最小個体数 50%以上：○ 50-10%：○ 10%未満：○



第131図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の規模 (最小個体数)

主体はヤマトシジミ (1,534個体・88.5%)、ついでオオタニシ (83個体・4.8%)、マガキ (56個体・3.2%)、チリメンカワニナ (24個体・1.4%) であった。

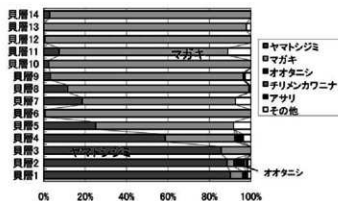
貝層3 2種、最小で7個体、12g産出した。主体はヤマトシジミ (6個体・85.7%)、ついでマガキ (1個体・14.3%) であった。

貝層4 10種、最小で414個体、1,510g産出した。主体はヤマトシジミ (243個体・58.7%)、ついでマガキ (139個体・33.6%)、アサリ (10個体・2.4%)、オオタニシ (7個体・1.7%) であった。

貝層5 3種、最小で12個体、123g産出した。主体はマガキ (8個体・66.7%)、ついでヤマトシジミ (3個体・25.0%) であった。

貝層6 2種、最小で154個体、1,033g産出した。主体はマガキ (153個体・99.4%) であった。

貝層7 4種、最小で27個体、155g産出した。主体はマガキ (20個体・74.1%) であった。



第132図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡における各貝層の貝類組成 (最小個体数)

貝層8 7種、最小で474個体、2,300g産出した。主体は、マガキ (414個体・87.3%)、ついでヤマトシジミ (55個体・11.6%) であった。

貝層9 7種、最小で368個体、2,041g産出した。主体は、マガキ (342個体・92.9%)、ついでヤマトシジミ (12個体・3.3%)、ハマグリ (8個体・2.2%) であった。

貝層10 2種、最小で41個体、245g産出した。主体は、マガキ (40個体・97.6%) であった。

貝層11 6種、最小で81個体、424g産出した。主体は、マガキ (66個体・81.5%) であった。

貝層12 2種、最小で179個体、919g産出した。主体は、マガキ (178個体・99.4%) であった。

貝層13 2種、最小で46個体、241g産出した。主体は、マガキ (45個体・97.8%) であった。

貝層14 2種、最小で35個体、311g産出した。主体は、マガキ (34個体・97.1%) であった。

## 【2号住居跡】

2号住居跡からは面的に広く貝層が検出された。大きく6つのまとまりが認められ、貝層Ⅰ～Ⅵに分けて取り上げた。2号住居跡は攪乱の影響も大きく、組成表(第68表)にまとめたものは貝層Ⅰ～Ⅴであり、そのうち状態の良い貝層ⅠとⅡを中心に検討を加えた。

貝層ⅠとⅡは、どちらもヤマトシジミ主体層とマガキ主体層の互層となっており、貝層Ⅰは1～6層および床面直上の7層、貝層Ⅱは1～5層の5層に分層できた(第133図)。貝層Ⅰ・Ⅱとも1層が厚く堆積し、下層ほど薄くブロック状の堆積をしていた(第134図)。今回詳細な分析を加えた層位は、1～5層までであり、貝層Ⅰの6層は組成表には掲載したが、床面直上のものは外すこととした。

2号住居跡全体(貝層Ⅰ～Ⅴおよび一括・攪乱)で産出した水生貝類遺体群は、10科11種、最小個体数で26,352個体、重量は106,712gであった。内訳は、ヤマトシジミ24,772個体(94.0%)・58,014g(54.4%)とマガキ1,444個体(5.5%)・47,956g(44.9%)の2種で最小個体数・重量ともに99%を占める。ついでアサリ78個体(0.3%)・590g(0.6%)が産出した。なお、主体となるヤマトシジミとマガキはサイズの差が大きいため、2号住居跡の組成に関しては最小個体数と重量の両側面から検討を行った。

以下、貝層ごとに組成をまとめる。

**貝層Ⅰ** 産出した水生貝類遺体群は、10種、最小個体数で10,898個体、重量は40,972gであった。内訳は、ヤマトシジミ10,339個体(94.9%)・25,230g(61.6%)とマガキ500個体(4.6%)・15,433g(37.7%)の2種で99%を占め、ついでアサリ38個体(0.4%)・258g(0.6%)、他にオオノガイ、ハマグリ、ウネナシトマガイなどが産出した。

層位ごとに組成の変化を検討する(第135・136図)。

5層・4層は、ともに層の厚さは薄く、散布範囲はブロック状の小範囲に限られた。

5層は最小個体数・重量ともにヤマトシジミ(218個体・89.0%)が主体であり、4層は最小個体数ではヤマトシジミ(103個体・66.9%)が多いものの、重量で圧倒するマガキ(1,510g・87.8%)が主体といえる。

3層は、4・5層のブロック状の堆積から面的に堆積が広がる層準であり、再びヤマトシジミ(1,378個体・91.3%)が主体となった。

2層は、最小個体数ではヤマトシジミ(400個体・

60.6%)が多いものの、マガキが一面に広がって堆積していた状況と重量からマガキ(9,079g・91.5%)が主体と言える。

1層は、ヤマトシジミが8,165個体(99.1%)・20,676g(91.2%)であり、最小個体数および重量ともにヤマトシジミが主体であった。最も厚く堆積し、堆積範囲も広い。

特に3層より上層では、ヤマトシジミ・マガキ以外のアサリやオオノガイ、ハマグリも産出した。

**貝層Ⅱ** 産出した水生貝類遺体群は、10種、最小個体数で10,852個体、重量は43,064gであった。内訳は、ヤマトシジミ10,190個体(93.9%)・22,988g(53.4%)とマガキ618個体(5.7%)・19,901g(46.2%)の2種で99%を占め、ついでアサリ14個体(0.1%)・86g(0.2%)、他にオオノシ、ハマグリ、チリメンカワウナなどが産出した。

層位ごとに組成の変化を検討する(第135・136図)。

5～3層は層厚が薄く、サンプル量も少ない。5層・4層は、貝層Ⅰと同様にブロック状の堆積であった。

最小個体数・重量ともに、5層はヤマトシジミ(25個体・92.6%)が主体であり、4層はマガキ(956g・96.3%)が主体であった。

3層は、層厚が薄いものの、面的に堆積が広がる層準であり、重量ではマガキ(973g・63.7%)が多いものの、最小個体数および産出状況からヤマトシジミ(335個体・85.2%)が主体と言える。

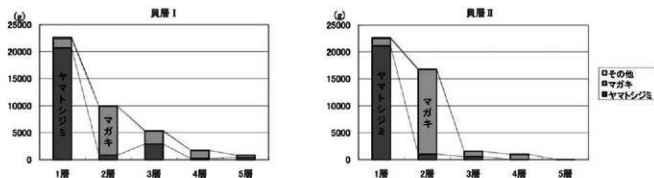
2層は、急激に堆積量が増え、最小個体数ではヤマトシジミが多いものの、重量および産出状況からマガキ(15,694g・93.6%)が主体と言える。

1層は、ヤマトシジミが9,150個体(99.0%)・21,123g(93.3%)であり、最小個体数および重量ともにヤマトシジミが主体であった。貝層Ⅰと同様に最も厚く堆積し、散布範囲も広い。他のアサリやオオノガイ、ハマグリなどの産出は3層より上層に集中した。

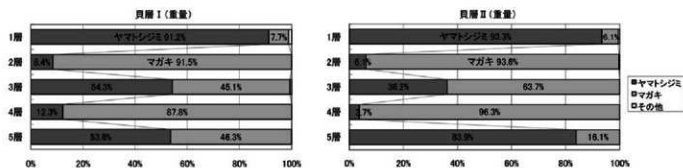
層位	貝層Ⅰ	貝層Ⅱ
1		シジミ層①
2		マガキ層①
3		シジミ層②
4	マガキ層②	マガキ層②(北側のみ)
5		シジミ層③
6	マガキ層③(B3のみ)	

床面直上 (シジミ層④)

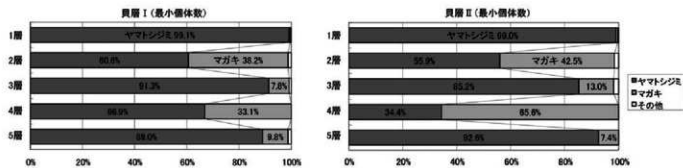
第133図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ・Ⅱの層位



第134図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類重量の層位変化



第135図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成 (重量)



第136図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における貝類組成 (最小個体数)

#### 【水生微小貝類遺体群】

産出した水生微小貝類遺体は、1.2mm前から最小27個体、浮遊選別法によって45個体、計72個体産出した。淡水生から海水生のもまであり、産出した大型貝類の生息域と同様である。特にチリメンカワニナの幼貝が多くみられた。

海水生のカキウラクチキレモドキは、マガキに付着する微小貝であり、マガキとともに遺構に持ち込まれたと考えられる。

スマコダギガイ類に関しては議論があるが(中島ほか, 2004)、膨らみが弱くやや平たいという殻形態から、

本報告ではヒラタスマコダギガイとして扱った。ヒラタスマコダギガイは少なくとも数千年前に日本では絶滅し、その後ごく最近移入してきたと考えられている(佐藤ほか, 2001)。生息域は汽水的环境であり、ヤマトシジミと同じくすることから、ヤマトシジミとともに持ち込まれたと考えられる。また、ムシヤドリカワザンショウやヒラドカワザンショウの産出からも、汽水の影響が大きかったと考えられる。

また淡水生のオオタニシやチリメンカワニナは、親貝の育児嚢で稚貝を育てる卵胎生であり、稚貝は親貝の殻の中で成長し、順次生み出される。産卵期は春～



第70表 上福岡貝塚第1地点から産出した水生微小貝類遺体群の組成(最小個体数)

遺構	貝層	層位	淡水			汽水				海水		合計
			オオタニシ	ニナリメンカワ	カワグチツボ	ワムシヤドリカ	ヒラドカワ	コダキガイ	ヒワタスマ	カキウラチ	マウネガイ	
1号住	貝層1	1層		1					1			2
		2層		6								6
	貝層2	1層(東側)	1	3								4
		3層(東側)		1								1
		3層(東側)		5								5
		1~3・3層(西側一括)		9				1				10
		5層		9	1				1			11
		6層		3								3
	貝層3	一括		1								1
	貝層4	1層						2	1		1	4
	貝層6	1層							1			1
	貝層8	1層					1?	1	2			4
2層									1		1	
貝層9	1層	1?					2				3	
貝層12	一括		4								4	
2号住	貝層I	1層						1				1
		4層						1				1
	貝層II	1層				3	1					4
		2層						2				2
	貝層III	一括	1?									1
	貝層V	一括							1			1
攪乱			2								2	
総計(個)											72	

夏頃であり、この時期ころに成員のオオタニシやチリメンカワニナとともに遺構に持ち込まれたと考えられる。このことは、成員のチリメンカワニナの産出が多い1号住居跡において幼貝の産出が多いことと符合する。

#### 【小結】

ここで、水生貝類遺体群の組成をまとめる。

2軒の住居跡とも産出した貝層は、汽水生のヤマトシジミと内湾奥部潮間帯に生息するマガキを主体とするが、産出状況や規模が大きく異なっていた。1号住居跡では、14ヶ所のブロック状の堆積であり、それぞれ小さな廃棄単位として考えられる。2号住居跡は、攪乱の様相から本来は床面全体に貝層が広がっていたと想定でき、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が互層となることが特徴的である。さらに2軒ともヤマトシジミ・マガキ以外の種類が量においても非常に少ない。

ただ、1号住居跡においては、淡水生の貝類の産出が認められ、種類も多少豊富であった。

水生の大型貝類および微小貝の組成から、当時の遺跡周辺には、大きな河川が存在し、汽水の影響が大きかったことが考えられる。ほど近い河口には干潟が存在し、そこではマガキが採取できる環境にあったと考えられる。(一木)

#### ②-2 サイズ

産出した大型水生貝類の内、ヤマトシジミとマガキについてサイズの計測をおこなった。その結果は、記述統計量及びヒストグラムで提示した。分析結果の詳細は、DVDに収めているのでそちらを参照されたい。まず、それぞれの貝種ごとに住居跡全体の概要を示す。さらに、2号住居層Iと貝層II産出のヤマトシジミの殻長に関してはより詳細に述べる。なお、ヤマトシジミにおいて殻長よりも殻高のほうが計測をおこなえたサンプルが多い。しかし、貝殻のサイズを示すには、殻長が殻高よりも長い形状であることから殻長の方が適している。そこで、本報告では、回帰・相関分析によって、殻高から殻長を推定するための式を導出する。その結果は、第72表と第73表にそれぞれ示す。その式によって導出された殻長は、「推定値」としている。以下、議論に用いる殻長は、推定値である。

#### 【マガキ(左殻)・殻高】(第71表)

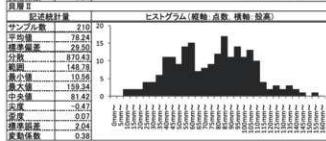
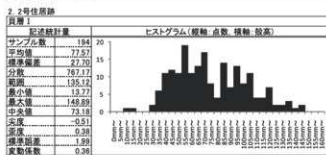
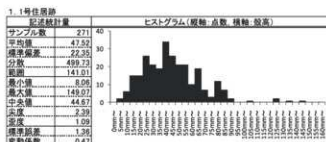
##### ・1号住居跡

平均値が47.5mmである。但し8.1mm(最小値)と極めて小さいものも多く含まれている。

##### ・2号住居跡

貝層I 平均値は77.6mmと大きい。但し、最小値が13.8mm、最大値が148.9mmとその幅は大きい。それは、変動係数が36%と高いことから示されている。

第71表 マガキ(左股)の股高に関する記述統計量及びヒストグラム



貝層Ⅱ 平均値は78.2mmと大きい。但し、最小値が10.6mm、最大値が159.3mmとその幅は大きい。それは、変動係数が38%と高いことから示されている。

【ヤマトシジミ・殻長】

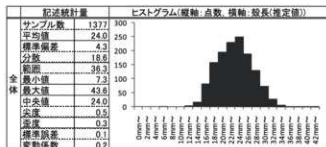
・1号住居跡(第72表)

全体では平均23.6mmである。ヒストグラムは24mm以上26mm未満をピークとするドーム状の単峰型を示す。平均値は貝層によって異なり、最小のもので貝層Ⅰの23.3mm、最大のもので貝層Ⅳの24.5mmである。ヒストグラムは、貝層Ⅳが双峰型を示す他は、単峰型である。変動係数については、すべての貝層において20%である。

・2号住居跡(第73・74表)

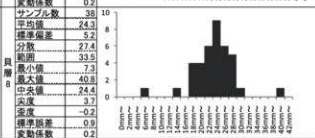
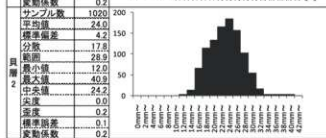
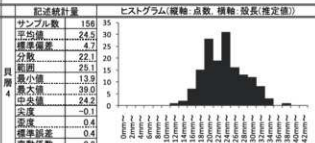
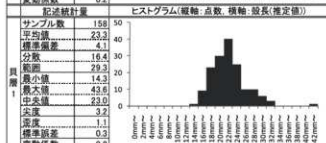
貝層Ⅰ 全体で平均22.4mmである。ヒストグラムを概観すると20mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。層別に見ると、もっとも平均値が高いのが1層で22.5mm、低いのが4層で20.9mmである。さらに、平均値は1層から4層へ徐々に低くなり、4層から6層へ逆に高くなる傾向にある。最小有意差法による平均値の差の検定の結果、直接上下の位置にある層位間では、1層と2層間と4層と5層間で差の有意性が認められなかった他は、認められてい

第72表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム



回帰相関分析の結果

決定係数	0.96	分散分析	5%有意
ダートン比	1.83	係数 a	1.07
関数式:直線 $y=ax+b$		定数項 b	-0.69
		y: 殻長, x: 殻高	



第73表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長(推定値)に関する記述統計量及びヒストグラム

	貝層Ⅰ		貝層Ⅱ	
	記述統計量	ヒストグラム(縦軸: 点数 横軸: 殻長(推定値))	記述統計量	ヒストグラム(縦軸: 点数 横軸: 殻長(推定値))
全体	サンプル数	4115	2908	2908
	平均値	22.35	22.35	22.35
	標準偏差	9.28	2.17	2.17
	分散	5.21	4.72	4.72
	範囲	24.79	19.29	19.29
	最小値	10.71	15.05	15.05
	最大値	35.50	34.34	34.34
	中央値	22.02	22.00	22.00
	尖度	4.20	4.85	4.85
	歪度	1.10	1.57	1.57
標準偏差	0.04	0.04	0.04	
変動係数	0.19	0.10	0.10	
1層	サンプル数	3293	2535	2535
	平均値	22.48	22.37	22.37
	標準偏差	2.33	2.21	2.21
	分散	5.43	4.86	4.86
	範囲	24.79	19.29	19.29
	最小値	10.71	15.05	15.05
	最大値	35.50	34.34	34.34
	中央値	22.12	22.00	22.00
	尖度	3.99	4.82	4.82
	歪度	1.60	1.60	1.60
標準偏差	0.04	0.04	0.04	
変動係数	1.02	0.10	0.10	
2層	サンプル数	124	180	180
	平均値	22.25	22.12	22.12
	標準偏差	2.54	1.81	1.81
	分散	6.46	3.27	3.27
	範囲	22.20	15.68	15.68
	最小値	11.47	16.21	16.21
	最大値	33.66	31.89	31.89
	中央値	21.95	22.08	22.08
	尖度	5.96	4.91	4.91
	歪度	0.90	0.88	0.88
標準偏差	0.23	0.14	0.14	
変動係数	0.11	0.08	0.08	
3層	サンプル数	459	170	170
	平均値	21.77	22.14	22.14
	標準偏差	1.83	2.12	2.12
	分散	3.34	4.48	4.48
	範囲	20.99	13.87	13.87
	最小値	13.47	17.90	17.90
	最大値	34.46	31.24	31.24
	中央値	21.56	21.90	21.90
	尖度	11.78	3.70	3.70
	歪度	1.87	1.28	1.28
標準偏差	0.09	0.16	0.16	
変動係数	0.08	0.10	0.10	
4層	サンプル数	39	6	6
	平均値	20.91	22.66	22.66
	標準偏差	1.73	0.89	0.89
	分散	2.98	0.79	0.79
	範囲	9.82	2.27	2.27
	最小値	15.22	21.59	21.59
	最大値	24.84	23.97	23.97
	中央値	21.38	22.58	22.58
	尖度	2.00	-1.59	-1.59
	歪度	-0.89	0.25	0.25
標準偏差	0.28	0.40	0.40	
変動係数	0.08	0.04	0.04	
5層	サンプル数	79		
	平均値	21.90		
	標準偏差	1.58		
	分散	2.50		
	範囲	11.29		
	最小値	18.48		
	最大値	29.76		
	中央値	21.49		
	尖度	8.51		
	歪度	1.89		
標準偏差	0.18			
変動係数	0.07			
6層	サンプル数	108		
	平均値	22.22		
	標準偏差	1.93		
	分散	3.71		
	範囲	11.47		
	最小値	19.15		
	最大値	30.62		
	中央値	21.81		
	尖度	3.87		
	歪度	1.53		
標準偏差	0.19			
変動係数	0.09			

回帰相関分析の結果

決定係数 0.88 分散分析 5%有意

D-テストの値 2.03

関数式: 直線  $y = ax + b$ 

係数 a 0.94

定数項 b 2.22

y: 殻長, x: 殻高

第74表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出のヤマトシジミの殻長に関する平均値の差の検定(最小有意差法)

	数	平均値 (mm)	貝層Ⅰ					貝層Ⅱ			
			1層	2層	3層	4層	5層	6層	1層	2層	3層
貝層Ⅰ	1層	3293	22.48								
	2層	124	22.25							*	
	3層	450	21.77	**	*				**		
	4層	39	20.91	**	**	*			**	**	
	5層	70	21.50	**	*				*	**	
	6層	108	22.22			**	*				
貝層Ⅱ	1層	2535	22.37			**	**				
	2層	180	22.13	*		**	*				
	3層	170	22.14			**	*				

\*\* : 1%有意 \* : 5%有意

る。ヒストグラムを概観すると、1層～3層は20mm以上24mm未満、4層～6層は20mm以上22mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。

**貝層Ⅱ** 全体で平均22.4mmである。ヒストグラムを概観すると20mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。つまり、貝層Ⅰと同じ傾向を示している。層別でみると、もっとも平均値が高いのが4層で23.0mm、低いのが5層で21.9mmであるが、この2つの層は共に計測をおこなったサンプルが10点以下と極めて少ない。なお、この1層～3層では、もっとも高いのが1層で22.4mm、そして、2層が22.1mm、3層が22.2mmと並ぶ。最小有意差法による平均値の差の検定の結果では、すべての層位間において差の有意性は認められなかった。ヒストグラムを概観すると、1層～3層は20mm以上24mm未満、4層は22mm以上24mm未満に極めて大きなピークをもつ単峰型を示している。

**小結** 貝層Ⅰ全体と貝層Ⅱ全体のサイズ分析の結果は、ほとんど同じ傾向を示している。

層位間での傾向は、最小有意差法による平均値の差の検定の結果をもとに概観する。但し、貝層Ⅱの4層以下は、サンプル数が20点未満と他の層に比べて極めて少ないことから、本議論から除く。貝層Ⅱの1層において、貝層Ⅰの層位との間で差の有意性が認められるのが3層～5層、貝層Ⅱの2層においては貝層Ⅰの1層と4層と5層、貝層Ⅱの3層においては貝層Ⅰの4層と5層である。つまり、貝層Ⅱの1層から3層は、共通して貝層Ⅰの4層と5層よりも統計的に有意に平均値が高い。また、貝層Ⅱの1層～3層の間のどの組み合わせにおいても差の有意性が認められなかったものの、1層が貝層Ⅰの3層より統計的に有意に高

く、2層が貝層Ⅰの1層より統計的に有意に低いことが示されている。つまり、貝層Ⅱの中では差の有意性がみとめられないもの、貝層Ⅰを挟んで1層・2層の順で小さいことを示している。

結論として、貝層ⅠとⅡは共に層位が上がるにつれて平均値が大きくなる傾向にあるが、その範囲が貝層Ⅰでは21.8mmから22.5mmの間、貝層Ⅱでは22.1mmから22.4mmの間と、その差は僅かである。このことは、貝層Ⅰで平均0.7mm程度であることから、一年以内の変化であることが推測される。また、ヒストグラムにおいて貝層Ⅰと貝層Ⅱ共に極めてサイズのそろっている傾向を示していることからその可能性が高い。

(阿部)

### ③陸生貝類遺体群

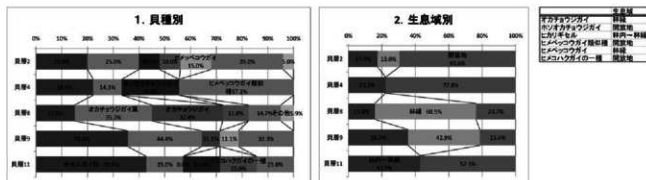
本調査地点からは7群348点の陸生貝類遺体群が産出した。同定定義と各貝種の生息域に関しては、黒住(2009)に基づいている。なお、以下の産出率を算出するに際して、同定不可や卵など、同定するに至らなかったものを除いている。

#### ③-1 1号住居跡(第137図)

1号住居跡からは7群127点の陸生貝類が産出した。貝層は地点的であるため、住居跡全体の組成は述べず、貝層ごとに組成及び傾向を述べることにする。まず、貝層3、5、7、10の4ヶ所からは陸生貝類は産出されなかった。さらに貝層1(3点)、貝層6(1点)、貝層12(3点)、貝層13(2点)の4ヶ所から産出した陸生貝類はそれぞれ5点に満たないことから、他所からの混ざり込みの可能性も推測される。以上から10点以上の陸生貝類が含まれる貝層は、貝層8(42点)、貝層2(34点)、貝層9(17点)、貝層4(14点)、貝層11(10点)の5ヶ所である。以下、5ヶ所の貝層について概観する。

**貝層2** 34点が産出し、26点が同定することができた。ヒメベッコウガイ類似種とオカチョウジガイ属(ホソオカチョウジガイ)が各7点で最も多く、共に29.2%を占める。ついで、キセルガイ科が4点(15.4%)、ヒメベッコウ3点(11.5%)などが産出している。なお、キセルガイ科の内1層(東側)から産出した1点は、ヒカリギセルであった。生息域の傾向は、同定することのできたものなかで開放地生息種が70%を占めている。

**貝層4** 14点が産出し、9点が同定することができ



第137図 上福岡貝塚第1地点1号住居跡産出陸生貝類遺体群組成



第138図 上福岡貝塚第1地点2号住居跡産出陸生貝類遺体群組成

た。ヒメベッコウガイ類似種が4点で最も多く、44.1%を占める。その他に、ホソオカチョウジガイ、キセルガイ科(各2点・22.2%)、オカチョウジガイ属(1点・11.1%)が産出している。生息域の傾向は、同定することのできたものなかで開放地生息種が78%を占めている。

**貝層8** 43点が産出し、40点が同定することができた。オカチョウジガイ属が23点で最も多く、57.5%を占める。その内、種まで同定できたものがオカチョウジガイで11点(27.5%)産出している。次いで、キセルガイ科(6点・15.1%)、ヒメベッコウガイ類似種(5点・12.5%)、ヒメコハクガイの一種(4点・10.0%)などが産出している。生息域の傾向は、同定することのできたものなかで林縁生息種が61%を占めている。なお、本貝層からは卵が1点産出している。

**貝層9** 17点が産出し、14点が同定することができた。オカチョウジガイ属とキセルガイ科が各5点で最も多く、各35.7%を占める。オカチョウジガイ属に関して種まで同定できたものは、オカチョウジガイで1点(7.1%)が産出している。その他にヒメベッコウガイ類似種(3点・21.4%)、ヒメベッコウガイ(1点・7.1%)が産出している。生息域の傾向は、同定することので

きたものなかで、林縁生息種が43%、林内から林縁生息種が36%をそれぞれ占める。

**貝層11** 10点が産出し、7点が同定することができた。キセルガイ科が3点で最も多く、42.9%を占める。その他に、オカチョウジガイ属(2点・28.6%)、ヒメベッコウガイ類似種、ヒメコハクガイの一種(各1点・14.3%)が産出している。

**小結** 各貝層で産出量の違いが大きいため、比較することは難しい。しかし、貝層2から貝層9へ住居跡を東から西へ横断するように、開放地生息種主体から林縁・林内生息種が主体になる傾向が見える。つまり、住居跡の西側に日光を遮るようなものがあったことが推測される。また、未成熟のものが多く、さらに貝層8においては卵が1点産出している。

### ③-2 2号住居跡(第138図・第75表)

2号住居跡において、貝層Iと貝層IIから6群221点の陸生貝類が産出した。その内、同定するに至らなかったもの(同定不可・不明・卵)が17点で8.1%を占める。以下、同定することのできたもののみで産出率を提示する。オカチョウジガイ属(オカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ)が112点で最も多く、54.9%を占めている。次いで、ヒメベッコウガイ類似種が44点

で21.6%、ヒメコハクガイの一種が42点で20.6%を占める。以上の3群以外に5%を超えるものはない。なお、オカチヨウジガイ属は、オカチヨウジガイとホソオカチヨウジガイの2種が含まれる。種まで同定することの出来たものは112点中38点で、内訳はオカチヨウジガイが6点、ホソオカチヨウジガイが32点で圧倒的にホソオカチヨウジガイが多い。以上、主要種であるホソオカチヨウジガイ、ヒメベッコウガイ類似種、ヒメコハクガイの一種の3群はすべて開放地生息種である。オカチヨウジガイ属をオカチヨウジガイとホソオカチヨウジガイの産出比率で分類した上で生息域ごとの産出率を算出すると、開放地生息種は全体の90.6%を占める。なお、組成において、層位・グリッドによって傾向は大きく異なる。

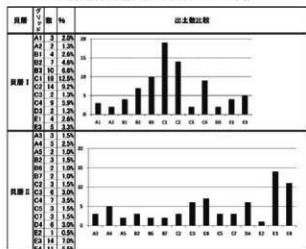
また、オカチヨウジガイ属をはじめ、キセルガイ科など殻が成長途上にあるものが多く、1点ではあるが卵も含まれている。陸生貝類は一般的に10月から翌5月までが冬眠の期間とされている(湊1980, 大垣内1997)。繁殖期が6月を中心としており、その後、孵化から殻の成長が完了するまで30日から90日とされている。本資料において成長途上のものが主体であることから、6月から9月の夏期に1層の上に土がかぶせられたことが推定される。

層位ごとに概観すると、全体の69.1%にあたる152点が1層より産出している。2層が32点で14.5%、3層が18点で8.2%、4層が6点で2.7%、5層が3点で1.4%、6層が9点で4.1%と上層から下層へ下がるに従って点数が少なくなる傾向にある。特に4層より下層は10点に満たない。貝層の厚さ自体が厚くないこともあわせて考えると、おそらく、1層上に生息していた陸生貝類が貝殻の間から下層に混入したものと考えられる。

次に平面的な広がりについて概観する(第75表)。層位ごとの分布から1層に7割近くがふくまれていることから、1層のみで検討をおこなう。

まず、貝層Iは、北側でグリッドの東西軸(A~F)の中央にあたるC1に19点、貝層I・II全体の12.5%が含まれている。ついで多いのがC1に隣接するC2(14点・9.2%)、やや離れるがB3(10点・6.6%)である。以下、10点未満しか産出していないが、産出しているグリッドは北側に固まっている。さらに、産出している量は、C1を中心に南東側へ同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。

第75表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡における陸生貝類産出群産出数比較(グリッド間)



貝層IIは、北西側で貝層I寄りのE3(14点・9.2%)とE4(11点・7.2%)にもっとも多く陸生貝類が含まれている。以上の2グリッド以外は10点以上含まれない。ついで多いのが、以上の2グリッドの東側に隣接するC4(7点・4.6%)、C3・D4(各6点・3.9%)の3グリッドである。以下のグリッドからは5点以下しか産出していない。産出している量は、北西側から南東側に向かって同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。

貝層Iと貝層IIの傾向から、共に貝層の北側に点数が多く、南東側へ同心円状に広がるように少なくなる傾向にある。陸生貝類が多い程、貝層の開放期間が長かったことが推測されることから、南東から北西側に向かって貝層が埋没していったことが推測される。

(阿部)

#### ④脊椎動物遺体群(第76表)

5群18点の脊椎動物遺体群が産出している。魚類が3群15点、鳥類が1網2点、不明が1点である。鳥類に関しては、長骨の骨幹部分の破片しか産出していないことから、網より下位まで同定ができなかった。不明にしたものに関しては、鳥類のものと同様に長骨の骨幹部分の破片である。なお、鳥類は小型のものである。

魚類は15点産出している。その内、網より下位まで同定できたものは6点のみである。内訳は、エイ類(エイ亜区)1点、イワシ類(ニシン科)2点、コイ科1点、タイ型2点である。

なお、タイ型としたものは、臼歯の形状がタイ科のものに近似しているものの、他の分類群において同様

第76表 上福岡貝塚第1地点産出脊椎動物遺体群一覧表

住居	貝層	グリッド	層位	節目	分類群		部位	数	備考		
					綱	綱より下位					
1号	貝層1		1層(東側)	1mm	鳥or哺乳	同定対象外	—	1	骨幹部分	被熱	
			1層	3mm	不明	不明	—	1	管状		
	貝層2		1~3層(西側一括)	3mm	硬骨魚	同定対象外	耳石	1			
			1層(東側)	1mm	不明	不明	—	1	破片資料		
	貝層8		2層(東側)	1mm	硬骨魚	同定対象外	—	5	破片資料	被熱	
				鳥	同定対象外	—	1	骨幹部分	被熱		
			3mm	鳥	同定対象外	—	1	骨幹部分	被熱		
	貝層9		1層(西側)	1mm	硬骨魚	同定対象外	—	1	棘部分		
							1	棘部分	被熱		
			1層(東側)	1mm	硬骨魚	同定対象外	エイ亜区	椎骨	1		被熱
							コイ科	尾椎	1	小型	被熱
							不明	不明	—	1	棘部分
貝層11		1層	1mm	硬骨魚	タイ型	臼歯	1				
貝層12		一括	1mm	不明	不明	—	1				
2号	貝層I	B2	1層	1mm	硬骨魚	ニシン科	尾椎	1			
		C4	1層	3mm	不明	不明	—	1			
	貝層IV	Dあ		1mm	硬骨魚	タイ型	臼歯	1			
	貝層V		攪乱	3mm	硬骨魚	ニシン科	尾椎	1	被熱		

の形状の臼歯を有するものもあるため、種類を断定しなかった。

イワシ類の尾椎は、共に2号住居跡から産出している。1点は貝層Vの攪乱部分から、もう1点は貝層I(B2)の1層から産出している。2号住居跡の覆土上面には後世の筋状の攪乱があり、攪乱部分から産出している貝層Vの資料はもちろんのこと、貝層Iに関しても1層から産出していること、また、骨が1層以外からの産出が見られないことから、後世の混ざり込みの可能性を想定する必要がある。

以上から2号住居跡から産出した脊椎動物遺体に関しては、後世の混ざり込みの可能性を考慮に入れるべきもののみであった。1号住居跡では、貝層8において、2層から同定の対象外とした魚類5点、鳥類2点が産出した他は1層から産出している。種類の分かっているものは淡水域に生息するコイ科と、海域に生息するエイ類である。東京湾岸で目にすることの多いアカエイは、浅海の砂泥底に生息する。

なお、1号住居跡から産出した骨の19点中12点が被熱している。(阿部)

#### ⑤まとめ

上福岡貝塚から産出した動物遺体群の詳細な検討は、今回が初めてとなる。これまでの調査から、多くの住

居跡の覆土中に貝層が形成されていたことがわかってはいるが、保管された資料は少量であり、貝類組成などの全容は明らかになっていなかった。市史によると、「貝類では、腹足綱のオオタニシ、カワニナ、アカニシ、斧足綱のサルボウ、ハイガイ、マガキ、ヤマトシジミ、アサリ、ハマグリ、オキシジミ、シオフキ、オオノガイが知られる」とあり(上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会1999)、今回の分析資料ともほぼ一致した。今回は特に2軒の住居跡に関して、貝層の産出状況と、貝類および脊椎動物遺体群の組成を明らかにできた。

2軒の住居跡に形成された貝層の形成時期は、出土土器から縄文時代前期黒浜期と考えられ、住居跡間の時期差は認められず、貝層の形成時期も同様に一時期であったと考えられる。

貝層の産出状況に関しては、住居跡間で異なる傾向を示した。

まず、貝層の分布が異なる。1号住居跡は、14ヶ所の貝層がブロック状に点在している。それに対して、2号住居跡は、床面上に貝層IとIIを中心に面的に広がっている。

水生貝類遺体群の組成においては、淡水生から汽水生、海水生のもので産出した。1号住居跡においては、2号住居跡と同様にヤマトシジミとマガキを主体

としているものの、特に貝層2においてオオタニシヤチリメンカワニナなどの淡水生の貝類の産出が認められ、その産出率も1%を超えている。また、貝層2は層序も比較的複雑である。それに対して、2号住居跡の貝層は、ヤマトシジミ主体層とマガキ主体層が互層の状態で見出され、最小個体数・重量共にヤマトシジミとマガキで99%を占め、他の貝類は1%を超えない。つまり、1号住居跡の貝層2などにおいては、淡水生貝類などヤマトシジミとマガキ以外の貝類に関しても主体的に採集してきたものである可能性が推測されるのに対して、2号住居跡の主体2種以外の貝類は、その主体種を採集した際に混獲されたものである可能性が推測される。

貝類の組成から推測される周辺環境は、水生微小貝の産出からも、遺跡周辺には大きな河川が存在し、汽水的環境が強く、その河口部には干潟が形成されていたと考えられる。縄文海進によって荒川の谷まで広がった海域にそそぐ河川沿いに遺跡が形成されたと考えられる。

脊椎動物遺体群に関しては、1号住居跡において19点産出したのに対して、2号住居跡においては4点と貝層の規模に比してもあきらかに少ない。さらに、2号住居跡に関しては、4点中2点が攪乱部分から産出し、他2点も1層から産出しており、その上層の覆土には筋状の攪乱が見られることから後世の混入物である可能性も棄却できない。つまり、2号住居跡に関しては、貝層形成時に廃棄されたと確実に推測されるものは含まれていない。

以上から、1号住居跡の貝層は、いくつかの種類動物の採集・狩猟・漁撈によって得たものによって形成された可能性が高いのに対して、2号住居跡の貝層は、専らヤマトシジミとマガキを採集・処理をしたもののみによって形成されていることが想定される。特に、2号住居跡におけるマガキ主体層である2層及び4層は、マガキ殻が敷き詰めるように形成されており、さらにそれはほぼ1層で形成されるなど一定の規則性をもって廃棄された様子が窺えた。

さらに2号住居跡の貝層形成期間については、ヤマトシジミの殻長組成や陸生貝類遺体組成の分析から、極めて短期(1年以内)である可能性を指摘した。特にヤマトシジミの殻長組成は、1号住居跡の各貝層のものと比べても極めてサイズがそろっていることが分かる。ヒストグラムは、共に単峰型を示すものの、1号

住居跡のものは緩やかなドーム型に近い形状を示すのに対して、2号住居跡のものは20mm以上24mm未満に集中する鋭角な形状を示している。変動係数を見ても1号住居跡の各貝層が20%であるのに対して2号住居跡のものは10%であり、サイズにバラエティがないことが示されている。

結論として、1号住居跡の貝層は、日々の生活のなかで消費された食料の廃棄によって形成されたのに対して、2号住居跡の貝層は、専らヤマトシジミとマガキの採集に重点を置いて、場合によっては組織的、且、計画的におこなわれた採集及び消費(加工)活動によって短期間に形成されたものであることが推測される。この傾向は、混貝率において、1号住居跡の貝層が50%にほとんど届かないのに対して、2号住居跡が50%を超える層位がほとんどである点からも指摘される。

(阿部常樹・一木絵理)

#### 謝辞

芳賀拓真氏(東京大学)には水生微小貝類遺体の同定・分類に際して御教示いただいた。心よりお礼を申し上げます。

#### 引用参考文献

- 大垣内安. 1997. カタツムリの生活. 築地書館  
 上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会. 1999. 上福岡市史資料編第1巻 自然史・考古  
 黒住耐二. 2009. 微小陸生貝類が示す古環境. 縄文時代の考古学3大地と森の中で. 同成社  
 佐藤慎一・東幹夫・近藤寛・西ノ百英之. 2001. 謙早湾干拓地の貝類相-調整池における貝類相の時間的変化-. 第四紀研究. 40.  
 中島礼・木村克己・宮地真典・石原与四郎・田辺晋. 2004. 東京都江川川小松川と埼玉恩草加市柿木において掘削した沖積層ボーリングコアから産出した貝化石群集. 地質調査研究報告. 第55巻第7/8号.  
 増田修・内山りゅう. 2004. 日本産淡水貝類図鑑2. 汽水域を含む全国の淡水貝類. ビーシーズ.  
 淡宏. 1980. 陸生貝類の観察と研究. ニューサイエンス社



### (3) 上福岡貝塚第1地点出土種実類について

今回は遺構内の堆積物を水洗し得られた炭化物資料を検討した。1号住居、2号住居の二つの遺構の層位ごと、水洗単位ごとに拾い上げられた炭化物を、双眼実体顕微鏡下で観察し種実類と思われる炭化物を同定した。資料中に未炭化のイネ科穎や節足動物の外骨格も含まれていたが、現生の混入と考え除外した。

最も多く出土したのはオニグルミの核片で、全層位から比較的まんべんなく産出している。特に1号住居から出土した種実類はほぼオニグルミ核片のみである。大きいても1cm程度で、多くは数mmの炭化した破片である。核の縫合部など特徴的な部分の破片もありオニグルミと同定したが、全ての資料に強い同定根拠があるわけではない。

オニグルミ核の内部の仁は、油分が豊富で縄文時代から広く人が食用としてきたことは周知のとおりであり、縄文時代の遺跡から出土することに疑問はない。一方で同様によく利用された堅果類の炭化物は本遺跡からはほとんど出土していない。オニグルミ核の小さな炭化破片が多数出土するのは、本遺跡での植物の利用廃棄の形態の一端を示すものであろう。

オオムギ、コムギとも資料の多くは2号住居の攪乱層または攪乱が疑われる層から出土しているため、縄文時代の資料ではなく混入物であると考え。より下層から出土した個体もあるが、比較的集中して出土するのがより表土にちかい攪乱層であるので、動物等のつくった穴などによる落ち込みであると考え。しかし、炭化米を含まずオオムギを主体としコムギを伴う構成には注意を払うべきである。この地域の農業史の一断面を示す資料であろう。混入物であると除外するのではなく資料を保存し、必要があれば年代測定なども行うべきだろう。

小型の涙滴型の種子が2号住居から層位的にまともって出土した。長さは2mm弱で、広側面はずんぐりとした涙滴型で、狭側面は先端がやや尖った楕円形、断面は楕円である。黒色で、細かなクレーター状の窪みが表面を無秩序に埋める。今回同定できなかったが、人に利用されていた可能性もある。しかし、小型で炭化の有無が確認しがたいため、蟻などが地下に集積した現在の種子である可能性もある。ヒユ属種子と同様の事例がある(住田2007)。

そのほかにタデ属やカナムグラの炭化果実、イネ科やキハダの炭化種子が出土した。単独での出土であり

評価しがたい。同定できなかったが種実類の炭化破片らしきものは他にも散見できたため、比較的頑丈で炭化状態のよい資料だけが残存したのだろう。木炭片などに比べ炭化した種実類はもろいため、今後回収方法を工夫することにより多くの資料を得て評価することも可能となるかもしれない。

種実類ではないが、ビーズ状の炭化物が各層から少数ずつ出土した。これも同定できなかったが、全体ではまとまった数が出土する。概形は直径2mm前後、厚み1mm前後の平たい円柱で、対称軸に穴があいたビーズ状の形状である。正確にはこの軸に沿って前後は非対称であり、穴が貫通しない場合もある。明瞭な表面構造がない。異なった対象物をこう認識している可能性もある。頻繁に利用される植物の部位である可能性もあるので記載した。

最後に堆積物資料からこれだけ多くの炭化物資料を採取された担当者に感謝します。

(住田雅和)

### 参考文献

2007 住田雅和「印内台遺跡群(44)調査地点出土炭化種実類について」『印内台遺跡群(44)』船橋市教育委員会

第77表 上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層別出土種実一覧表

貝層名	種実名
貝層1	オニグルミ核破片28
貝層2	オニグルミ核破片129 キハダ種子破片2 ピーズ状体3
貝層3	オニグルミ核破片2
貝層4	オニグルミ核破片87 ピーズ状体3
貝層5	オニグルミ核破片2
貝層6	オニグルミ核破片1
貝層7	
貝層8	オニグルミ核破片20
貝層9	オニグルミ核破片21 イネ科炭化穎
貝層10	ピーズ状体1
貝層11	オニグルミ核破片7
貝層12	オニグルミ核破片2
貝層13	
貝層14	オニグルミ核破片1

第79表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ出土層位別種実一覧表

層位	種実名
1層	オオムギ3 オニグルミ破片2 ピーズ状体1 涙滴型27
2層	ピーズ状体1 涙滴型7
3層	オオムギ小型1
3-4層	
4層	

第78表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ出土層位別種実一覧表

層位	種実名
1層	オオムギ5(小型2) オニグルミ破片7 イネ科1 コムギ1 破片1 ムギ類破片1 ピーズ状2 ドングリ類種皮片1
2層	
3層	
4層	オオムギ(小型)1
5層	イネ科炭化種子1 オニグルミ破片1
6層	ピーズ状体1

第80表 上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ・Ⅳ住居跡一括出土種実一覧表

貝層名・層位	種実名
貝層Ⅲ・Ⅳ	
貝層Ⅲ	オニグルミ破片2 不明果実1
試掘住居跡一括	涙滴型種子1
貝層Ⅴ	オオムギ2 オオムギ破片2 オニグルミ破片7 コムギ1 カナムグラ タデ属 イネ科1 ピーズ状体4
2号住居一括	コムギ1



第81表 滝遺跡古代住居跡一覧表

住居跡番号	調査年度	調査名	調査率	平面形状 (1/4は推定)	規模 (1/4は現在 又は推定値)	炉 数: K	設置 部・炉 位置	炉 長軸	炉 幅	回溝	主軸 方位	時期	備考	文献	
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央 西寄り	115	70	○	S-55-W	4世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵 穴110×95×40	滝遺跡の調査1	
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完壁	正方形	(460)×470×45	K	北	(100)	106	○	N-32-W	7世紀前半	焼失住居、方形貯蔵穴 62×55×45	滝遺跡の調査2	
3	1978	丸堀第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	210	102	○	N-38-W	7世紀前半	焼失住居。(4本主柱穴)	上福岡6遺跡を調査	
6	1979	第2次3号住居	完壁	方形	(480×460)×15	-	-	-	-	-	-	9世紀後半	-	滝遺跡の調査3	
4	1979	第2次4号住居	ほぼ完壁	長方形	(南北340×東西380 -415×30)	K	北	160	110	○	N-14-W	4世紀後半	-	滝遺跡の調査2	
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	-	-	-	-	-	-	不明	8世紀後半	滝遺跡区外未調査	滝遺跡の調査2
-	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(280×270)×30	-	-	-	-	-	-	不明	4世紀前半	滝遺跡区外1号住居跡 に変更	滝遺跡の調査2
7	1980	第6次7号住居	1/3強	正方形	620×(250)×12	K2基	A棟:北 B棟:西	115×90, 122×90	-	-	N-52-E N-37-W	7世紀末	建て替わり、不整形貯蔵 穴175×95×20、床 面焼土総覆	滝遺跡の調査2	
8	2001	2001年度東岡確認 調査第15号住居跡	完壁	方形	400×400	K	北	不明	不明	○	不明	8世紀前半	今後は15号住居跡から8 号住居跡に名称変更	滝遺跡の調査24	
9	1983	第8次9号住居	2/3強	隅丸方形	(500)×470×20	炉	中央北 西寄り	60×40, (35) ×32, 40×32	-	○	-	4世紀前半	焼失住居、床面焼土積 積2ヶ所	滝遺跡の調査3	
10	1983	第8次10号住居	完壁	正方形	690×660×15	K	北東	215	125	○	N-52-E	6世紀後半	4本主柱穴、方形貯蔵 穴(80)×75×35	滝遺跡の調査3	
-	1984	第10次11号住居	完壁	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	115	95	○	N-5-W	6世紀後半	滝見山遺跡に変更	滝遺跡の調査3	
12	1978	丸堀第1次12号住居	ほぼ完壁	隅丸長方形	980×770×20	土器貯	北	140	100	○	N-54-W N-36-E	4世紀前半	床面焼土点在	市史資料編第1巻	
13	2007	第14地13号住居跡	1/2	方形	270×270×45	K	東	90	65	○	N-36-E	不明	貼床	市内遺跡群4	
14	2007	第14地14号住居跡	4/5	(長方形)	385×(380)×30	K	北	171	82	-	真北	8世紀前半	北土型環多数出土、貼床	市内遺跡群4	
15	2007	第14地15号住居跡	1/3	不明	(370×-)×20	-	-	-	-	-	-	-	床面焼出、貼床	市内遺跡群4	
16	2007	第14地16号住居跡	1/4	不明	(250×170)×40	-	-	-	-	-	-	-	床面焼出、貼床	市内遺跡群4	
17	2007	第14地17号住居跡	1/3	不明	(344×360)×10	-	-	-	-	-	-	-	床面焼出、貼床	市内遺跡群4	
18	2008	第14地18号住居跡	1/5	不明	(297×270)×30	-	-	-	-	-	-	-	床面焼出、貼床	市内遺跡群4	
19	2008	第14地19号住居跡	1/5	不明	(430×-)×350	K	北	(85)	(82)	-	-	-	8世紀前半~14号住居跡より 敷しい	市内遺跡群4	

※滝遺跡の調査1～19、21、上福岡市遺跡調査報告書、市史資料編第1巻は上福岡市教育委員会発行、市内遺跡群4はふじみ野市教育委員会発行

【貼り床・周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅10～27cm、下幅5～18cm、深さ6.8～11cmである。貼床の厚さは最大12cmである。

【遺物出土状況】竈周辺と住居跡覆土層から須恵器や土師器片等194点が出土する。

【時期】8世紀。

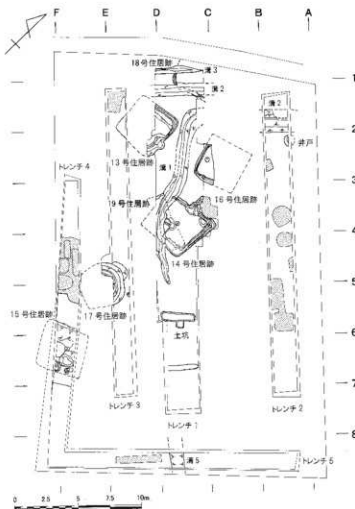
#### ②H14号住居跡

【位置】調査区の中央部に位置し19号住居跡と重複し本住居跡が古く、また溝1に切られる。住居跡西側の角が調査区外に延び、全体の約4/5を検出した。

【形状】主軸方位はほぼ真北である。規模は主軸が南北3.85m、東西は溝に壊されるため不明であるが推定3.8m以上で方形から長方形とみられる。

【竈】住居跡北壁のほぼ中央部に構築される。竈は暗灰褐色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。袖部から煙道内部は良く焼け焼土面が残る。

焚口から煙道端までの長軸171cm、袖部の最大幅82cmである。竈内部は幅46cm、焚口は幅75cm奥行き60cmで床面からの深さは約20cmである。住居跡貼床の厚さは14～15cmである。



第140図 滝遺跡第14地点遺構配置図 (1/300)

【周溝】周溝は検出部の住居跡全体に巡っている。上幅18～27cm、下幅9～18cm、深さ9.2～15.2cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層の遺物は竈周辺部から東側に集中する。竈内からは第147図No17の小型台付甕やNo7の坏が出土する。No2の須恵器坏は19号住居跡に属するものと考えられる。須恵器や土師器片等437点が出土する。

【時期】8世紀前半。

#### ③H15号住居跡

【位置】調査区南側のトレンチ4に位置し、住居跡の東西部分は調査区外に延び未検出である。全体の約1/3を検出したが、竈、周溝は検出していない。

【形状】トレンチ幅1.5mを検出したため全体の形状・規模は不明である。検出部の規模は一辺3.7m、深さ20cmである。住居跡の掘り方は確認面から最も深いところで44cm、貼床の厚さは5～14cmである。

【焼土範囲】住居南側に焼土範囲が(115)×86cm、深さ24cmが確認された。底部に焼土が僅かにみられ炉跡の可能性もある。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器甕と蓋の破片や土師器坏等30点が出土する。

【時期】8世紀。

#### ④H16号住居跡

【位置・形状】調査区中央部北寄りに位置する。住居跡南西角の約1/4を検出したが、大部分は調査区外へ延びるため、全体の形状・規模は不明である。

検出部の規模は南北(2.5)×東西(1.7)m、確認面からの深さ40cmである。住居跡貼床の厚さは12～22cmである。

【周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅15～34cm、下幅5～19cm、深さ6.2～12.6cmである。

【ピット】支柱欠とみられるピット1基を検出した。平面形態は楕円形で規模は40×31cm、深さ26.3cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器や土師器の破片等147点が出土する。

【時期】8世紀。

#### ⑤H17号住居跡

【位置】調査区中央部のトレンチ2・4に位置する。全体の約1/3を検出したが、大部分はトレンチ外に延びるため、全体の形状・規模は不明である。竈は検出していない。

【形状】検出部はほぼ円形を呈し、規模は直径3.44～

3.6m、深さは確認面から102cmである。

【周溝】周溝は検出部分の住居跡全体に巡っている。上幅34～38cm、下幅11～24cm、深さ7.5～16cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器や土師器片等21点が出土する。

【時期】8世紀。

#### ⑥H18号住居跡

【位置・形状】調査区北側に位置し、全体の約1/5を検出したが、大部分は調査区外に延びるため形状・規模は不明である。溝2・3に切られ、竈は検出していない。住居跡の床面は硬く締まり硬化している。

【周溝】周溝は検出した住居跡全体に巡っている。上幅12～25cm、下幅7～18cm、深さ5～8.6cmである。

【遺物出土状況】住居跡覆土層から須恵器と土師器片各4点が出土する。

【時期】不明。

#### ⑦H19号住居跡

【位置・形状】調査区中央部に位置し、14号住居跡と重複する。竈とみられる黄褐色粘土と焼土の広がり方から本住居跡が新しいとみられる。溝1に切られ住居跡の約1/5を検出しただけで全体の形状・規模は不明である。竈のある壁の規模は推定で約4.5mである。

【竈】住居跡北壁のほぼ中央部に構築される。溝1の擾乱を受け遺存状態は良くない。

焼土範囲は直径82～85cmの円形状に広がる。その内側に燃焼部の底とみられる、良く焼けて締まった焼土面が34×(20)cmの半円形に広がる。

竈の構築に用いられた黄褐色粘土は67×(31)cmで焼土範囲の内側に半円状に広がる。

【遺物出土状況】竈周辺に須恵器、土師器の破片と住居跡北西角から第147図No2の須恵器が出土する。

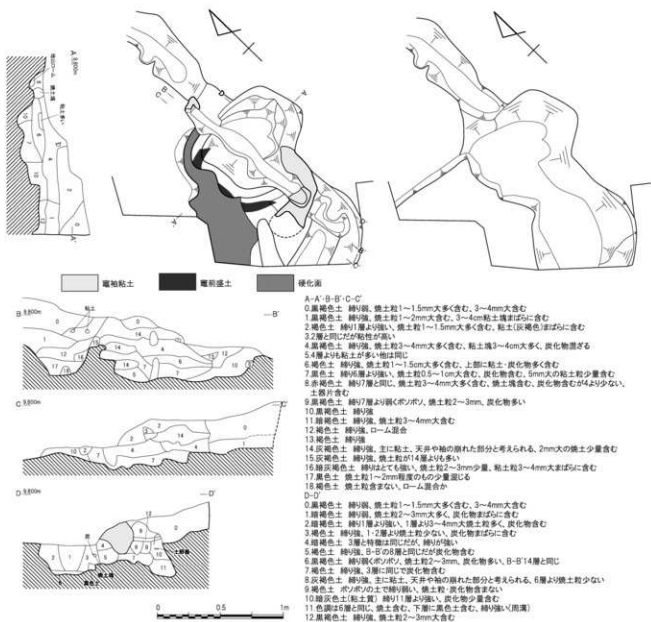
【時期】不明。

#### ⑧溝

【溝1】溝1は調査区北側を北東から南西に延びた後、調査区中央部を北から南にやや蛇行して次第に浅くなる。トレンチ2で検出した溝4と繋がる可能性がある。断面は非対称なV字状で、東側が急傾斜で西側はやや緩やかである。規模は最大上幅135cm、最大下幅21cmである。出土遺物に近世の陶磁器を含むため、近世以降の時期と考えられる。

【溝2】調査区の北側に位置し、溝3と調査区北側の道路に平行に延びる。18号住居跡と重複し溝が新しい。上幅70～88cm、下幅29～32cmである。





第142図 滝道跡第14地点13号住居跡(1/30)

【溝3】調査区の北側に位置し溝2と平行に延びる。調査区外に延びるため全容は不明である。下幅18cmである。溝2同様に18号住居跡より新しい。

【溝4】トレンチ2に位置し、断面菜研状で上幅1.73~1.8m、下幅9~12cmである。出土遺物から近世以降と考えられ溝1と繋がる可能性がある。

【溝5】調査区南側のトレンチ5に位置する。上幅1~1.2m、深さ45cmで、芋穴の可能性も考えられる。

#### ⑧井戸

調査区北側のトレンチ2に位置するが大部分は未調査である。検出部の直径は95cm、確認面から約85cmまで検出したが底部は確認できなかった。覆土層の観察から近世以降の時期と考えられる。

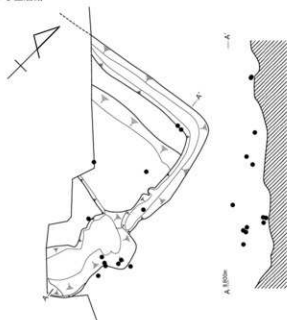
#### ⑨土坑

調査区中央部に位置し、建物基礎(粘土)に掘り込まれる。長方形を呈し、規模は265×19.2cm、深さ19.2cmである。時期は不明である。

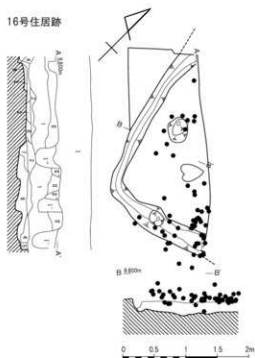
#### ⑩出土遺物

第82表のとおりである。表土層出土の陶磁器などは割愛した。

13号住居跡



16号住居跡

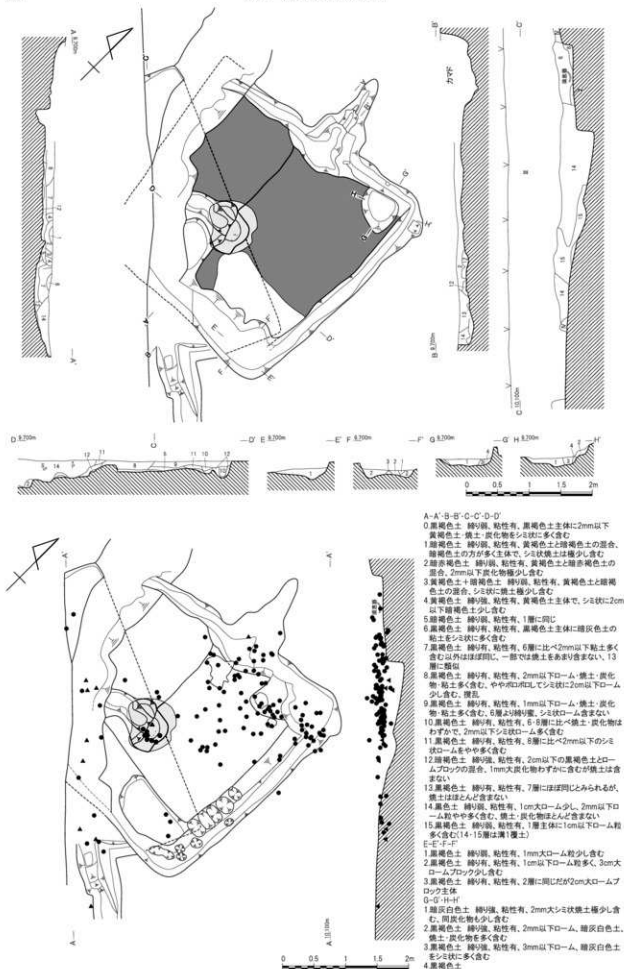


16号住居

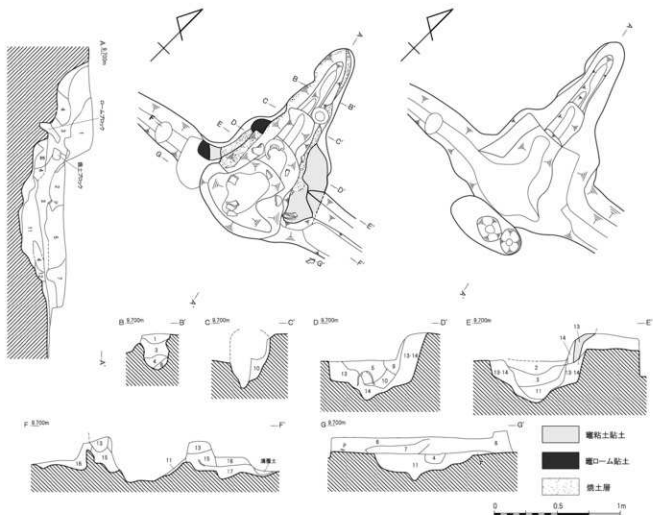
- 1.黒色土 締り有、粘性有、2mm以下微土粒・炭化物多く含む
- 2.黒褐色土 締り有、粘性有、1層より微土・炭化物少し、3mm以下シニ状ロームやや多く含む
- 3.黒褐色土 締り有、粘性有、1mm大微土・炭化物極少し、3mm大シニ状ローム少し含む
- 4.黒褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下ローム多く含む(局薄)
- 5.暗褐色土 締り有、粘性有、1cm以下黒褐色土、褐色ロームブロック多く含む(粘床)
- 6.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多く、微土・炭化物少し含む、  
全体的にロームっぽい色調
- 7.暗褐色土 締り有、粘性有、2層より黒褐色土、ローム粒やや少ないがほぼ2層に似る(粘床)
- 8.暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土とロームを混次に含む、微土・炭化物少ない(粘床)

第143図 滝道跡第14地点13・16号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



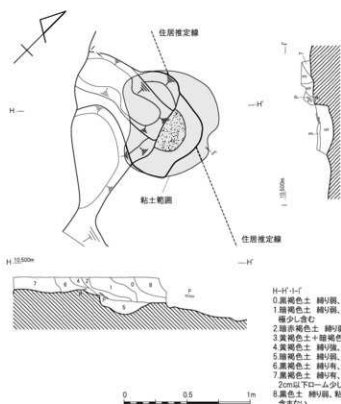


第144図 滝道跡第14地点14号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)



## A-A'~G-G'

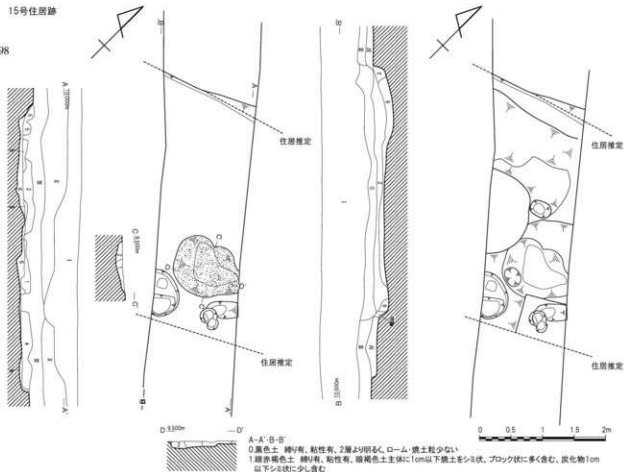
- 1 黄赤褐色土 締り弱、粘性有、黄灰褐色土と暗褐色土の混合5mm以下シロ状炭化物多く含む
- 2 暗褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下微土・炭化物少し含む
- 3 暗赤褐色土 締り弱、粘性有、1層と2層の間で黒褐色土主体に5mm以下の微土・炭化物多く含む
- 4 黒色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体にシロ状に1cm以下微土・炭化物少し含む、シロ状に炭化物多く含む黄色を呈する
- 5 黒褐色土 締り弱、粘性有、2層より黒く、黒褐色土主体に1cm以下微土多く、同粘土・炭化物少し含む
- 6 黒褐色土 締り弱、粘性有、2・5層より黒く住居層土に類似する、2mm以下微土・炭化物 ローム多く含む
- 7 黒褐色土 締り弱、粘性有、5層に類似、5層より微土やや少ない
- 8 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に1cm以下微灰色土・微土をシロ状にし含む
- 9 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームと粘土の混合土主体に1mm大シロ状ローム炭化物少し含む
- 10 黒褐色土 締り弱、粘性有、9層より黒褐色土多く軽い、微土は同程度含む
- 11 黒褐色土 締り弱、粘性有、3層主体に1cm以下灰白色粘土多く含む
- 12 暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームとシロ状黒褐色土混合土に2mm以下シロ状微土少し含む
- 13 暗褐色土 締り弱、粘性有、粘土に黒褐色土を多く含む、2mm以下微土・炭化物もシロ状に含む
- 14 赤褐色土 締り弱、粘性有、ソリ内面の微土面
- 15 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム、暗灰白色土、微土・炭化物を多く含む
- 16 黒褐色土 締り弱、粘性有、3mm以下ローム、暗灰白色土をシロ状に多く含む
- 17 黒褐色土



## H-H'-I-I'

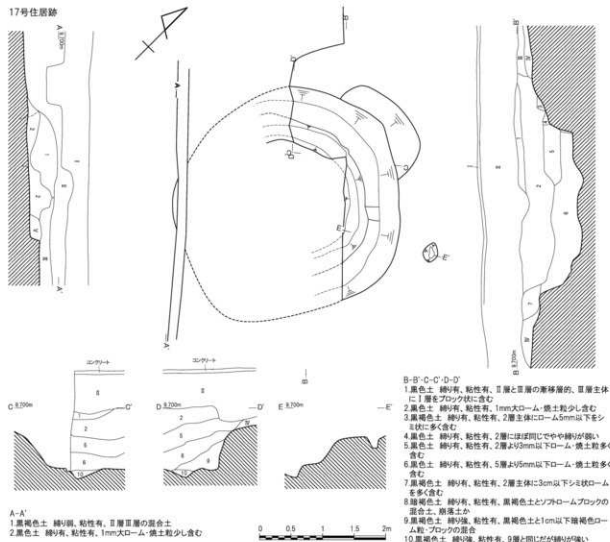
- 0 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に2mm以下黄褐色土・微土・炭化物をシロ状に多く含む
- 1 暗褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗褐色土の混合、暗褐色土の方が多く主体で、シロ状微土は稀少含む
- 2 暗赤褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗赤褐色土の混合、2mm以下炭化物稀少含む
- 3 黄褐色土+暗褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土と暗褐色土の混合、シロ状に微土稀少含む
- 4 黄褐色土 締り弱、粘性有、黄褐色土主体で、シロ状に2cm以下暗褐色土少し含む
- 5 暗褐色土 締り弱、粘性有、1層に同じ
- 6 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に暗灰色土の粘土をシロ状に多く含む
- 7 黒褐色土 締り弱、粘性有、2mm以下ローム・微土・炭化物・粘土多く含む、ややローム状にしてシロ状に2cm以下ローム少し含む、攪拌
- 8 黒色土 締り弱、粘性有、1cm以下ローム少し、2mm以下ローム粒中や多く含む、微土・炭化物ほとんど含まない

第145図 滝道跡第14地点14号住居跡竈 (1/30)



- A-A'-B-B'
- 0 黒色土 粘り有、粘性有、2層より明るく、ローム 焼土粒少ない  
 1 暗赤褐色土 粘り有、粘性有、暗褐色土主体に1cm以下焼土をシミ状、ブロック状に多く含む、炭化物10cm以下シミ状に少し含む  
 2 黒褐色土 粘り有、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合で2mm以下シミ状焼土少し含む  
 3 黒褐色土 粘り有、粘性有、2層に2mm以下シミ状暗褐色土を少し含む  
 4 暗褐色土 粘り有、粘性有、2層より暗褐色土多く、焼土はほとんど含まない  
 5 暗褐色土 粘り有、粘性有、2-4層よりロームブロックが主体で焼土はほとんど含まない  
 6 暗褐色土 粘り有、粘性有、ソフトローム主体に5cm以下黒褐色土をブロック、シミ状に同程度含む(粘土)

## 17号住居跡

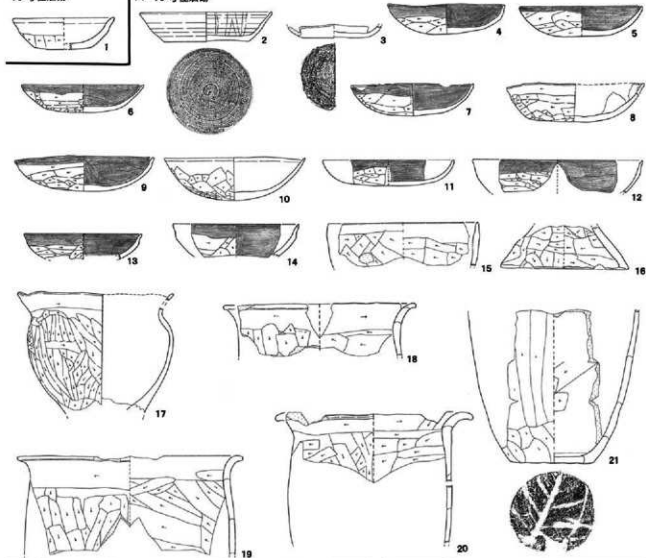


- A-A'
- 1 黒褐色土 粘り弱、粘性有、黒褐色土と暗褐色土の混合土  
 2 黒色土 粘り有、粘性有、1mm×ローム・焼土粒少し含む

- B-B'-C-C'-D-D'
- 1 黒色土 粘り有、粘性有、2層と3層の層積層の、黒褐色土主体に1層をブロック状に含む  
 2 黒色土 粘り有、粘性有、1mm×ローム・焼土粒少し含む  
 3 黒褐色土 粘り有、粘性有、2層主体にローム5mm以下をシミ状に多く含む  
 4 黒色土 粘り有、粘性有、2層にほぼ同じでやや粘りが強い  
 5 黒色土 粘り有、粘性有、2層より3mm以下ローム・焼土粒多く含む  
 6 黒色土 粘り有、粘性有、5層より5mm以下ローム・焼土粒多く含む  
 7 黒褐色土 粘り有、粘性有、2層主体に3cm以下シミ状ロームを多く含む  
 8 暗褐色土 粘り有、粘性有、黒褐色土とソフトロームブロックの混合土、炭化物土  
 9 黒褐色土 粘り弱、粘性有、黒褐色土と1cm以下暗褐色ローム粒・ブロックの混合  
 10 黒褐色土 粘り弱、粘性有、9層と同じだが粘りが強い

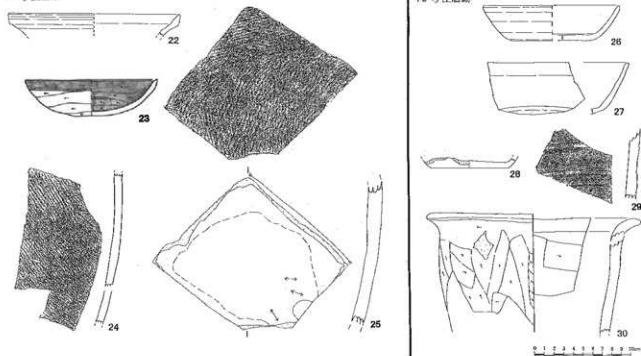
13号住居跡

14・19号住居跡



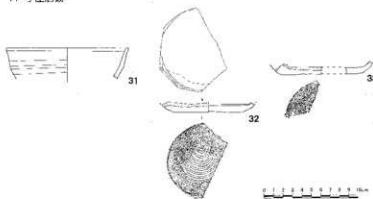
15号住居跡

16号住居跡



第147圖 滝遺跡第14地点出土遺物 (1/4)

## 17号住居跡



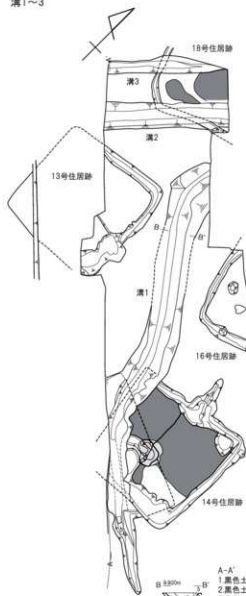
第148図 滝道跡第14地点17号住居跡出土遺物 (1/4)

第82表 滝道跡第14地点出土遺物観察表

(単位:cm)

No	出土遺物	種別・器種	口径・長	口径・幅	高さ・厚	技法/文様/色調(注記番号/その他(石質・重量))	推定生産地	推定年代	残存・備考
1	13号住居跡	土師器/杯	(10.8)	(6.0)	3.3	口縁部横線で、底部下半部削り。胎土粗子散り、器面被着黒い褐色/注No.1	-	8世紀中-後半	複製型杯
2	14-19号住居跡	須恵器/杯	13.9	8.8	3.1	轆轤成形。底部外面斜線部削り/内面ヒダズスベ。口縁外面保存者。海綿骨針含む/注No.6	真比企	8世紀前半	
3	14-19号住居跡	須恵器/杯	-	6.7	(1.2)	轆轤成形/底部斜線部削り+局部部削り。海綿骨針含む/真灰色/注No.5	真比企	8世紀前半	
4	14号住居跡	土師器/杯	12.6	12.1	3.2	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.50, 51, 52, 62, 63, 100, 108, 114	-	8世紀前半	鏡比企型杯
5	14号住居跡	土師器/杯	(13.0)	(12.9)	3.2	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.110, 111	-	8世紀前半	鏡比企型杯
6	14号住居跡	土師器/杯	(12.9)	(12.4)	2.9	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.38	-	8世紀前半	鏡比企型杯
7	14号住居跡	土師器/杯	13.1	12.4	3.5	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/注No.113, 115	-	8世紀前半	鏡比企型杯
8	14号住居跡	土師器/杯	14.5	14.2	4.0	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩。釜み著しい/注No.28, 29, 42, A1, H2, A1, H3	-	8世紀前半	鏡比企型杯
9	14号住居跡	土師器/杯	14.8	14.0	3.7	口縁部横線/口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.50, 100, 108, 110	-	8世紀前半	鏡比企型杯
10	14号住居跡	土師器/杯	15.0	14.5	4.5	口縁部横線/口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩。釜み著しい/注No.109, 112	-	8世紀前半	鏡比企型杯
11	14号住居跡	土師器/杯	(13.0)	(13.8)	2.7	口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/褐色/注No.96	-	8世紀前半	鏡比企型杯
12	14-19号住居跡	土師器/杯	14.0	-	(3.4)	口縁部横線/口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/褐色/注No.97	-	8世紀前半	鏡比企型杯
13	14号住居跡	土師器/杯	(12.6)	-	(2.7)	口縁部横線/口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/褐色/注No.31, 77	-	8世紀前半	鏡比企型杯
14	14-19号住居跡	土師器/杯	(13.3)	-	(3.5)	口縁部横線/口縁部横線で、内面削で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩/明赤褐色/注No.16	-	8世紀前半	鏡比企型杯
15	14号住居跡	土師器/小型鉢?	16.0	-	(4.6)	口縁部横線で、底部内面削り/注No.36, H1	-	-	-
16	14号住居跡	土師器/台付脚部	-	(13.6)	(4.6)	内外面削り/褐色/注No.58, 102	-	8世紀前半	
17	14号住居跡	土師器/台付脚部	(16.5)	-	(12.9)	口縁部横線で、底部内面削で・外面削り/褐色/注No.111, 122, 87H1	-	8世紀前半	
18	14号住居跡	土師器/甕	(20.5)	-	(5.6)	口縁部横線で、底部内面削で・外面削り/褐色/注No.103	-	8世紀前半	
19	14号住居跡	土師器/甕	(24.0)	-	(10.5)	口縁部横線で、底部内面削で・外面削り/褐色/注No.33, 34	-	8世紀前半	
20	14号住居跡	土師器/甕	(21.0)	-	(13.8)	口縁部横線で、底部内面削で・外面削り/褐色/注No.48, 53, 62, 64, 67	-	8世紀前半	
21	14号住居跡	土師器/甕	-	8.6	(16.2)	胴部内外面削り。底部外面水取。明褐色/注No.22, 43, 49, 53, 67, 111, 119, 124	-	8世紀前半	
22	15号住居跡	須恵器/長細瓶	-	(17.8)	(2.4)	轆轤成形/灰色/注No.9	-	-	-
23	15号住居跡	土師器/杯	(14.0)	(13.4)	3.8	口縁部横線で、底部・底部削り。口縁外面・内面赤彩。釜み著しい/明赤褐色/注No.7, H1	-	8世紀前半	鏡比企型杯
24	15号住居跡	須恵器/甕	-	-	0.9	外面削り/灰色/注No.2, 4, 5, 6	-	-	-
25	15号住居跡	須恵器/私用瓶	15.0	12.9	1.5	外面削り。胴口に磨き調整有り/内面磨り跡(同鏡面露出)と磨き有り(同鏡面内)/灰色/注No.12	-	-	-
26	16号住居跡	須恵器/杯	(14.2)	(8.2)	3.7	轆轤成形/底部斜線部削り+全削り。海綿骨針含む/真灰色-黒褐色/注No.11	真比企	8世紀前半-中葉	
27	16号住居跡	須恵器/杯	(14.7)	(10.9)	(5.4)	轆轤成形/底部斜線部削り+全削り。海綿骨針含む/真灰色/注No.CDIX	真比企	8世紀前半-中葉	
28	16号住居跡	須恵器/杯	-	(8.1)	(0.9)	轆轤成形/底部斜線部削り+全削り。海綿骨針含む/真灰色/注No.30	真比企	8世紀前半-中葉	
29	16号住居跡	須恵器/甕	-	-	1.2	外面(1段)の流状文/真灰色/注No.CDIX	-	-	-
30	16号住居跡	土師器/甕	22.4	-	(11.2)	口縁部内外面削り。胴部外面削り/褐色/注No.2, 7, 10, 36, 38	-	8世紀前半-中葉	
31	17号住居跡	須恵器/甕	(13.0)	-	(3.4)	轆轤成形/海綿骨針含む/真灰色/注No.102	真比企	8世紀前半-中葉	
32	17号住居跡	須恵器/私用瓶	-	(7.4)	(0.9)	轆轤成形/底部斜線部削り+全削り。縦軸用周沿部打穴5次磨製。内面磨り跡(同鏡面露出)と磨き有り(同鏡面内)/注No.11/注No.12	真金子	8世紀前半-中葉	
33	17号住居跡	須恵器/杯	-	(8.5)	(1.2)	轆轤成形。底部削り/真灰色/注No.102	-	-	-
34	トレンチ4	石器/石函	1.7	(1.2)	0.2	石質・黒曜石・重量0.25g/注No.4トレンチ	-	-	縄文時代
35	トレンチ2	石器/打製石片	10.3	7.9	3.1	石質砂岩・重量203.6g/注No.2トレンチ	-	-	縄文時代
36	溝1	石器/打製石片	12.0	6.1	2.8	石質・凝灰岩・重量281.2g/注No.1-M-3	-	-	縄文時代
37	溝土	石製品/砥石	8.6	3.6	3.0	石質・凝灰岩・重量171.3g/注No.102	-	-	中世前期

溝1~3

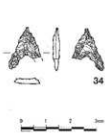


B-B'

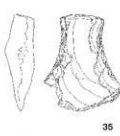
- 1 黒色土 締り強、ローム粒少量混じる
- 2 黒色土 締り強、1層と別じだがロームブロック含む
- 3 黒色土 締り強、ローム含む
- 4 黒褐色土 締り強、ローム粒・ブロック含む
- 5 褐色土 締り強、ローム混じり

溝4 B-B'

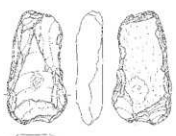
- 1 黒褐色土 締り強、粘性有
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有
- 3 黒褐色土 締り強、粘性有
- 4 黒褐色土 締り強、粘性有
- 5 褐色土 締り強、粘性有



34



35

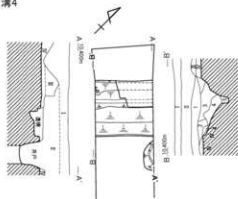


36

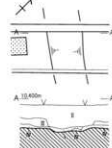


37

溝4



溝5



- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、豆層と厚層の混合でブロック状に含む、シミ状に赤褐色土2mm以下も少し含む

土坑



- 1 灰白色土 締り強、粘性有、建物基礎
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック少し含む

- A-A'
- 1 黒色土 締り強、粘性有、住居土層の1層に同じ
- 2 黒色土+褐灰色土 締り有、粘性有、1層主体に3cm以下黒灰褐色粘土少し含む
- 3 黒色土 締り強、粘性有、1層にほぼ同じ、シミ状に黒褐色土少し含む
- 4 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下黒褐色土やや多く、1mm以下微土・ローム・炭化物極少し含む
- 5 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体にシミ状・ブロック状に黒褐色ローム多く含む(粘土)
- 6 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シミ状黒褐色土多く含む、1mm大シミ状ローム・粘土極少し含む
- 7 黒褐色土 締り強、粘性有、4・6層より黒色で2cm以下シミ状黒褐色土少し、1mm大微土・ローム粒極少し含む、筋床か貯穴か不明、6層と7層の間が床面とみられる
- 8 褐色土 粘土ローム
- 9 褐色土 締り強、粘性有、3cm大シミ状ローム極少し、1mm以下ローム粒少し含む(溝2層土)
- 10 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下シミ状ローム少し含む(溝2層土)
- 11 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下シミ状微土、ローム少し含む
- 12 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm以下シミ状ローム・ロームブロック少し、2mm以下ロームをシミ状にやや多く含む(周溝)
- 13 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム・微土・炭化物・粘土多く含む、やや中粒ロームにシミ状に2cm以下ローム少し含む、軟瓦(周溝)
- 14 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム・微土・炭化物・粘土多く含む、6層(1層)締り強、シミ状ローム含まない
- 15 褐色土 締り強、粘性有、1cm大ローム少し、2mm以下ローム粒やや多く含む、微土・炭化物ほとんど含まない
- 16 黒褐色土 締り強、粘性有、1層主体に1cm以下ローム粒多く含む

第149図 滝遺跡第14地点土坑・溝 (1/120)、第14地点出土石器・石製品 (1/4・2/3)

## 第4章 亀居遺跡第62地点の本調査

## I 本調査の概要

発掘調査は共同住宅の建設に伴うもので、2007年11月12日から26日まで行なった試掘調査にもとづき申請者と協議の結果、開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査をふじみ野市教育委員会が実施することになった。発掘調査に至る経緯については第I部第8章のとおりである。

今回の開発区域は第2・10地点の調査区と一部重なり、第10地点で調査した遺構の一部を再確認することが出来た。こうした点から本章では再調査した遺構と、過去の調査で出土した遺構についても参考資料として併せて報告する。

本調査は、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査を行なった。その後、4m方眼の区画を調査区内に設定し、東から西へA、B、Cへ、北から南へ1、2、3への番号を付した。

## II 遺構と遺物

本調査区は遺跡範囲の中心部にあり、縄文時代中期前半の集落でも中央部に位置する。これまでの調査から北側に6号住居跡が隣接し、北西に5号住居跡、東側にも9号住居跡が近接する。また第10地点の調査でも土坑群が確認されており、今回検出した土坑群もこれらに属するものと考えられる。

今回検出した遺構は、縄文時代中期前半の土坑20基、ピット30基である。また、このうち過去に検出した土坑9基とピットについては、既報告の遺構番号をそのまま使用した。

## (1) 土坑

今回新たに検出した土坑は11基、第10地点で調査したものの再調査が9基である。出土遺物、堆積土層の状況から全て縄文時代中期に属する。詳細については、第83表土坑一覧表のとおりである。

第83表 亀居遺跡第62地点土坑一覧表

(単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
土坑1	楕円形	87×70	48×42	26.4
土坑2	不明	100×(32)	53×(25)	29.8
土坑3	円形	132×112	97×76	36.9
土坑4	楕円形	130×111	93×74	43.7
土坑5	不明	99×(77)	94×(65)	15.0
土坑6	楕円形	110×94	100×72	37.8
土坑7	ひょうたん	161×103	148×90	24.2
土坑8	不明	141×(112)	116×(96)	9.2
土坑9	楕円形	95×83	78×62	67.2
土坑10	楕円形	100×57	25×20	33.7

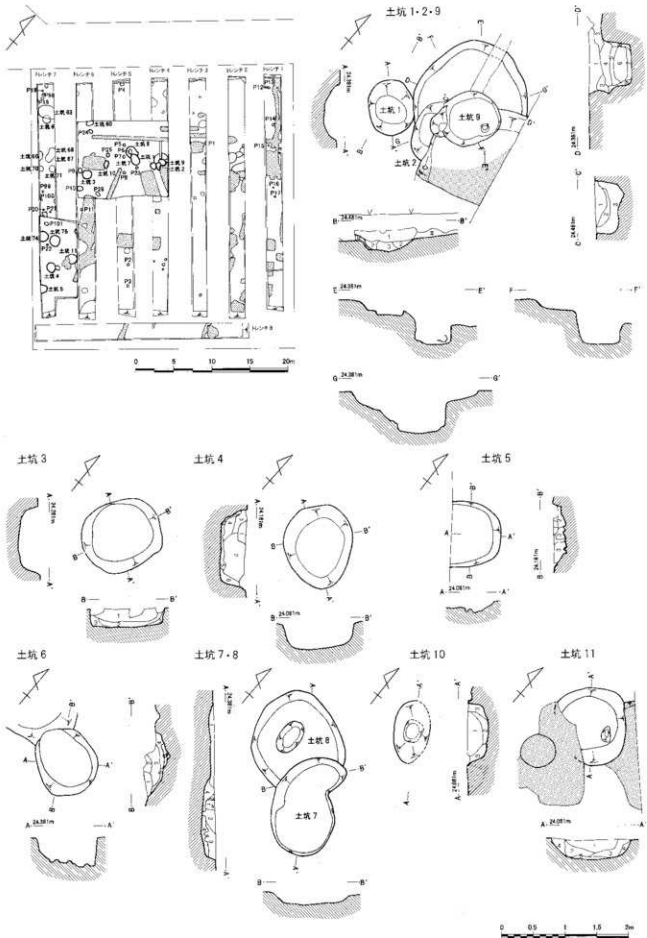
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	
土坑11	不明	124×(99)	83×(83)	14×6	49.2
土坑60	楕円形	97×53	66×57	24.0	
土坑63	円形	132×126	83×77	41.0	
土坑66	楕円形	151×83	137×?	24.0	
土坑67	不整形	(112)×128	(77)×67	26.0	
土坑68	不整形	(110)×108	58×45	49.0	
土坑70	円形	88×86	77×72	20.0	
土坑71	楕円形	112×98	31×22	38.0	
土坑74	円形	144×143	106×98	54.0	
土坑75	楕円形	169×121	128×104	34.0	

第84表 亀居遺跡第62地点ピット一覧表

(単位:cm)

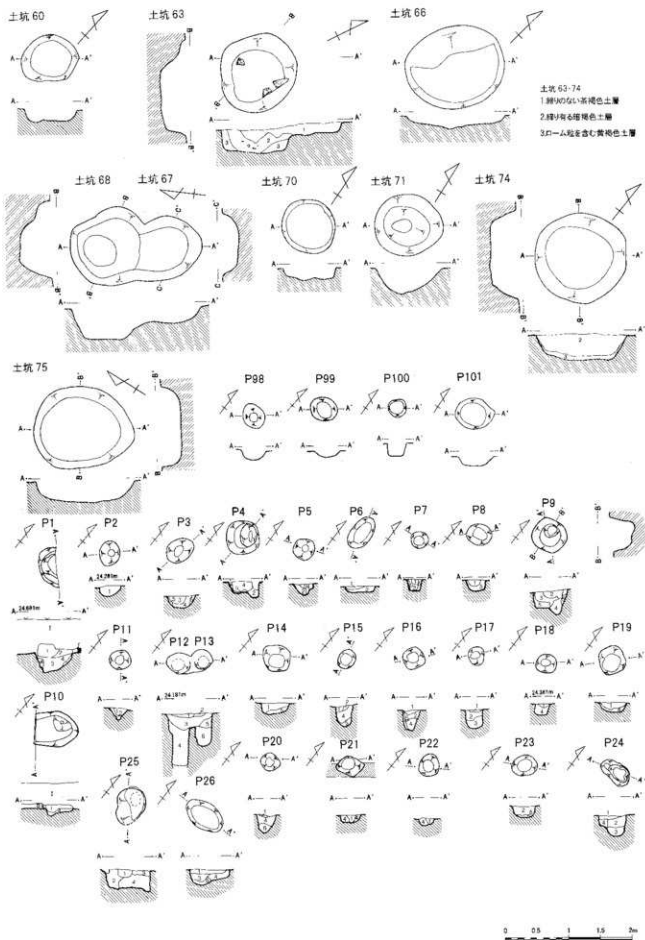
No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1		不明	(63×26)	(31×31)	31.6
2		円形	39×32	11×10	18.4
3		楕円形	47×36	19×12	19.9
4		円形	53×51	19×5	33.2
5		円形	34×33	11×11	19.5
6		楕円形	55×33	38×19	11.3
7		円形	28×26	17×14	19.6
8		楕円形	40×33	22×16	20.4
9		方形	54×49	17×14	49.9
10		不明	(69)×57	(60)×40 5×5	21.0
11		円形	33×30	15×13	21.5
12		不明	(43)×35	(20)×19	84.6
13		不明	(33)×34	22×(19)	51.2
14		方形	42×42	25×22	19.4
15		円形	32×26	18×17	38.4

No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
16		方形	33×31	15×12	38.5
17		方形	29×24	17×11	33.0
18		円形	33×30	16×11	27.2
19		方形	43×40	38×25	14.5
20		方形	27×26	12×12	36.2
21		方形	34×28	20×17	12.2
22		円形	36×31	20×17	10.0
23		楕円形	39×32	24×18	18.8
24		楕円形	51×30	20×17	36.7
25		楕円形	60×47	47×29	34.4
26		楕円形	67×42	53×30	25.6
98	10地点75	楕円形	44×35	13×12	15.0
99	10地点76	円形	43×37	30×22	11.0
100	10地点77	円形	37×34	23×21	23.0
101	10地点78	楕円形	63×51	42×38	16.0



第150図 亀居遺跡第62地点遺構配置図 (1/500)、土坑① (1/60)





第151図 亀居遺跡第62地点土坑②・ピット (1/60)

## 亀居遺跡第62地点遺構土層説明

- I 黒褐色土 炭土 腐土 敷土 灰土に灰化シルの遺物層  
 II 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、0.5mm以下ローム粒・炭土粒数が多い含む  
 III 暗褐色土 締り強、粘性有、着跡層・灰土下ローム層

## 土坑 1-2

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、シタ状暗褐色土や多く、1cm以下暗褐色ロームブロック少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下シタロームブロック多量含むが土質は異なる  
 土坑 3  
 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ローム粒少し、5mm以下ローム粒少し、2mm炭化物・1mm焼土わずかに含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シタロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒少し、1~5mm炭化物量が多い含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、5mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む

## 土坑 4

- 1 暗褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、5~50mmロームブロックやや多く含む、3mm以下ローム粒・炭化物少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物少し含む  
 4 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下シタロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む  
 6 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下シタ暗褐色土ブロック多く、1.5cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒少し含む  
 7 暗褐色土 締り強、粘性有、シタロームブロック多量含む、色調明るい

## 土坑 5

- 1 暗褐色土 締り有、粘性有、2cm以下黒褐色土ブロックやや多く、5mmロームブロック量が多い含む、焼土を伴った可能性あり  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、3cm以下シタ暗褐色土ブロックやや多く、3mm以下ローム粒やや多く、1mm以下炭化物少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、暗褐色ロームブロックシタ状少し、1mm以下炭化物少し含む

## 土坑 6

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明るい、5~30mm暗褐色土ブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む  
 3 黒褐色土 締り強、粘性有、シタ状暗褐色土ブロック少し、5mm以下ローム粒少し含む  
 4 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より色調明るい、5mmロームブロック量が多い、3mm以下ローム粒少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、4cm以下ロームブロック多く、3mm以下ローム粒やや多く含む  
 6 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、4層に貫まれ、3mm以下ローム粒少し含む、焼土の可能性がある  
 1~6層に3mm以下黒色土少し含む

## 土坑 7

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、炭状に暗褐色土多く2mm以下ローム粒やや多く1mm以下炭化物少し含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、炭状に1cm以下ソノロームブロック少し、1mm以下ローム粒・炭化物少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、7cm以下ロームブロック少し、2mm以下ローム粒少し、1mm以下焼土量が多い含む、包含層の深みの可能性あり  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、3mm以下ローム粒やや多く含む、3層と隣り包含層の深みの可能性あり

## 土坑 8

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソノロームブロックローム粒少し含む、包含層の深みあり

## 土坑 9

- 1 暗褐色土 包含層 締り強、粘性有、1cm以下炭状ソノロームブロック、2mm以下ローム粒少し、2mm以下炭化物量が多い含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソノロームブロック多量含む、色調明るい  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、シタローム多量含む色調明るい、1.5cm以下ロームブロック少し含む  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ソノロームブロックローム粒少し、5mm以下炭化物少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ソノロームブロック多量、1cm以下ハロームブロック少し、2mm以下炭化物少し含む  
 6 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ハロームブロック少し、5mm以下ローム粒・3mm以下炭化物やや多く含む  
 7 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック多量含む  
 8 暗褐色土 締り強、粘性有、ソノローム主体、炭状に2層程度の黒褐色土やや多く含む  
 9 暗褐色土 締り強、粘性有、ソノローム主体、色調よく明るい、5~10mm黒色土少し含む

## 土坑 10

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ソノロームブロック、2mm以下ローム粒少し含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ソノロームブロック炭状にやや多く、2mm以下ローム粒少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下シタ黒褐色土ロームやや多く、3mm以下ローム粒少し含む  
 4 黒褐色土 締り強、粘性有、土坑 10の1層に似る、断面シタ状の少し  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下炭状ローム・3mm以下炭化物少し含む、断面シタ状のシタ

## 土坑 11

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下暗褐色土ブロック炭状に少し、1mm以下ローム少し、1mm以下炭化物量が多い含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、炭状暗褐色土やや多く、1cm以下ロームブロック少し、2mm以下炭化物量が多い含む  
 3 黒褐色土 締り強、粘性有、炭状暗褐色土多く、2cm以下ロームブロック炭状にやや多く含む  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5mm以下暗褐色土ブロック炭状にやや多く含む、5mm以下ローム粒少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、シタ状に1cm以下ロームブロック多量含む

## ピット 1

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒やや多く、2mm以下焼土・炭化物量が多い含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ソノロームブロックシタにやや多く、1mm以下ローム粒やや多く含む1層が顕著  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む  
 1-2層よりややのり状の土

## ピット 2-11-14-18-23-26

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シタ暗褐色土ブロック少し含む、2mm以下ローム粒少し含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、層で5~10mmロームブロックやや多く含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、ブロック量多く、2mm以下ローム粒少し含む  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、シタ状ソノロームブロックやや多く、3mm以下ローム粒少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土多く1mm以下ローム粒少し含む色調明るい

## ピット 12-13

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒炭化物少し含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明るい、1mm以下ローム粒量が多い含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、明るく3cm以下シタ暗褐色土ソノロームブロックやや多く含む、5mm以下ローム粒と2mm以下炭化物量が多い含む  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、3cm以下ロームブロック5mm以下ローム粒少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下シタソノロームブロックやや多く、5mm以下ソノローム粒少し、5mm炭化物量が多い含む、色調よく明るい

## ピット 15-17

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、シタ暗褐色土やや多く、2mm以下ローム粒少し、2cm以下ソノロームブロック多量含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、シタ暗褐色土少し、2mm以下炭化物少し含む  
 3 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、1.5cm以下ハロームブロック少し含む  
 4 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し、3mm以下ローム粒・炭化物少し含む  
 5 暗褐色土 締り強、粘性有、色調よく明るい、2.5cm以下ロームブロック多量含む

## ピット 24

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、1mm以下炭化物量が多い含む  
 2 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、1mm以下炭化物少し含む  
 3 暗褐色土 締り有、粘性有、2層より色調明るい、1cm以下ソノロームブロックやや多く、2mm以下炭化物少し含む  
 4 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より色調明るい、1.5cm以下暗褐色土ブロック少し、3mm以下ローム粒と炭化物少し含む

## ピット 25

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロックローム粒やや多く、シタ暗褐色土多量含む  
 2 暗褐色土 締り強、粘性有、色調明るい、2mm以下炭化物少し含む(包含層 5-8層よりやや顕著)

今回の調査で、唯一復元可能な土器を出土した土坑9は調査区の中央部にあり、土坑群の中ではやや東寄りに位置する。土坑底部近くから猪沢式土器が倒れた状態で出土した。土坑と遺物の詳細は一覧表のとおりである。

### (2) ビット

今回新たに検出したビットは26基、第10地点で調査したものが5基である。出土遺物、堆積土層の状況から全て縄文時代中期に属する。詳細については第84表ビット一覧表のとおりである。

### (3) 出土遺物 (第152図)

出土遺物は僅かで、復元可能なものは土坑9出土土器1点である。

1は土坑1出土の深鉢形土器の口縁部片で、綾杉状刺突の隆帯脇に連続爪形文を施す。

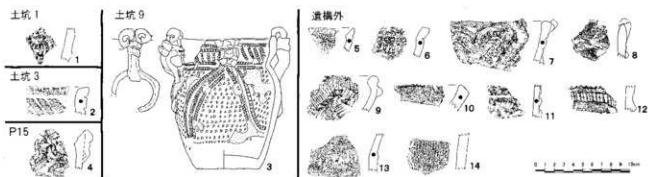
3は土坑9底部出土の猪沢式小型深鉢形土器で、口縁の一部を欠く以外はほぼ完形である。胎土は比熟のためか脆く、にぶい褐色を呈する。口径11cm、高さ14cmで、口縁部から頭部にかけて粘土棒に2本の粘土帯を巻き付けた環状の把手が付く。環状把手の間にも3本の粘土帯を貼り付け口縁部の区画を配する。口縁部

の区画内には角押文を巡らせ角押文を充填する。環状把手から胴部に懸垂する隆帯が「ハ」の字状に蛇行し渦巻く。隆帯脇にも角押文を配し、懸垂文の間は半截竹管の刺突を充填する。

2は土坑3出土の深鉢形土器の口縁部片で、隆帯の区画沿いと中に、ベン先状工具で連続刺突文を巡らす。

4はビット15出土の口縁部片で押圧のある隆帯の区画に沿って角押文を施す。

5~14は表土、包含層出土の土器片で10が浅鉢形土器でそれ以外は深鉢形土器である。5は細かいベン先状工具による複列の連続刺突文を施す。6はベン先状工具による連続刺突と刻目を施す。7は断面三角形の隆帯に沿って複列の角押文を施す。8は口縁部波状突起で隆帯沿いに細い沈線を施す勝坂Ⅱ式。9は隆帯脇に幅広角押文と三角押文を施す勝坂Ⅰ式。10は無文口縁部片で勝坂式。11は隆帯脇に沈線を巡らす阿玉台式。12は隆帯脇に幅広角押文と波状角押文を施す猪沢~新道式。13は連続刻目を施す。14は地文に細かなRL縄文を施す中期初頭か。5・6・13は阿玉台式Ⅰb~Ⅱ式、7は阿玉台式Ⅱ式である。



第152図 亀居遺跡第62地点出土遺物 (1/4)

## 第5章 浄禪寺跡遺跡第29地点の本調査

## I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成によるものである。2007年8月7日から9月21日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、上下水道管等の埋設等で遺跡への影響が及ぶ道路部分について開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査を実施することになった。建物建設部分は30cm以上の保護層が保たれるため保存措置とした。

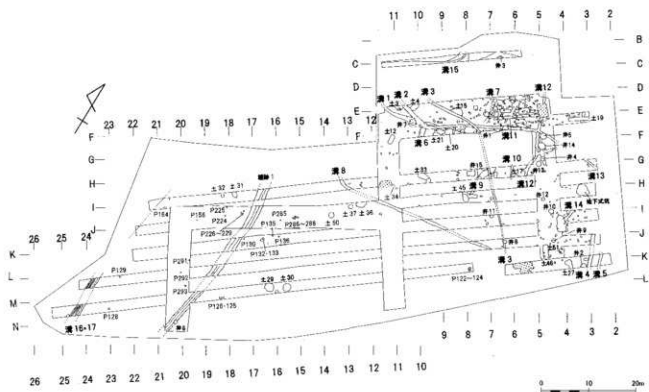
本調査は2007年9月25日から開始し、遺構を確認した範囲の表土を重機により除去し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の作成と写真撮影を行ない、同年11月6日調査を終了した。検出した遺構は中世から近世の地下式坑1基、井戸15基、土坑15基、掘立柱建物跡、ピット291基、堀跡1本、溝17本等である。

## II 遺構と遺物

調査区は遺跡範囲の中央部、浄禪寺川と砂川に挟まれた部分の南東緩斜面に位置する。近世に存在した浄禪寺の寺域外にあり、これまでの調査では浄禪寺川の北側で古代から中世の村落跡等が確認されている。今回調査区の北側に位置する第7地点で、堀跡と井戸等が確認されていたが時期などは不明であった。また、浄禪寺周辺の古道沿い等で中世の板碑が7基程出土しており、次いで報告する第30地点でも近世以前に遡る遺構が新たに確認された。

苗間村の旧村落が14世紀前後には現在の村落を中心に形成されて来たと考えられて来たが、今回の調査により、浄禪寺を中心に更に広がる可能性が出てきた。

今回の試掘調査トレンチと本調査で検出した遺構は、調査区の東部に集中する。遺構の時期は概ね中世から近世期のものである。溝や井戸の重複関係などから長期間に及ぶ土地利用も考えられる。



第153図 浄禪寺跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/800)

**(1) 地下式坑 1**

調査区東部のトレンチ7に位置する。

方形の入口を東部にもち、室部は隅丸長方形である。入口部と室部の底部はほぼ水平で平坦である。遺構長軸270cm、短軸(室部)235cm・短軸(入口部)110cm、深さ52.8cm、室部底部幅211cm・奥行き150cm、入口部底部幅98cm・奥行き86cmを測る。

**(2) 井戸**

井戸は15基検出したが、井戸6以外は調査区の東部に位置する。特に南北の3～8ラインに集中し北西から南東方向に並んで検出した。

井戸4・14は土坑42と重複し土坑42が新しい。井戸7と溝1・2では井戸7が新しい。

井戸1・3以外は底部まで検出し、井戸5・7・13・14は地山礫層まで掘り込んでいる。

井戸7・13には足掛けの横穴が確認できる。

また、井戸41覆土下層から板破片などの遺物がまぎらって出土した。各井戸の詳細は第85表のとおりである。

**(3) 土坑**

土坑は49基を検出し、調査区北側の溝2・3・12に囲まれた範囲(D5～7区、E5～9区)に集中するものは、中世以降のものとみられる。やや不整の方形又は長方形を呈するものが多い。土坑19・42は長方形の溝状を呈する。出土遺物は少なく、土坑52からはほぼ完形のカワラケ1点が出土している。土坑29・30は覆土層の観察から縄文時代のものともみられる。

**(4) 掘立柱建物跡**

掘立柱建物跡とみられる遺構はD4～6区、E4～6区の範囲に集中する。それ以外の区域では調査区の範囲がトレンチ等で狭いため不明である。掘立柱建物跡の柱穴の詳細については、第88表ビット一覧表のとおりである。

**①掘立柱建物跡1**

側柱P300・82・74・303・318・7・30・312を結ぶ、桁行約550cm、梁行約270cmの長方形を呈する。柱間は桁行が三間、梁行が一間で面積は約14.85㎡である。

南側から東側に下屋柱とみられるP309・(310)・77・(75)・(73)・70・66・305・284が並ぶ。柱間は310・75・(73)・70・66・305・284間が約140cmである。

**②掘立柱建物跡2**

側柱P252・298・90・79・73・69・268・6・2・261を結ぶ、桁行約620cm、梁行約400cmの長方形を呈する。

P268とP298を結ぶ桁行に屋内柱P266・264が並ぶ。

柱間は桁行が三間、梁行が二間で面積は約24.8㎡である。

**③掘立柱建物跡3**

側柱P103・88・80・土坑5内ビット・P33を結ぶ、桁行約550cm、梁行約390cmの長方形を呈するが、北東隅の1本は確認されていない。攪乱による可能性が考えられる。

柱間は桁行が二間、梁行が一間で推定面積は約21.45㎡である。

東側から南側に下屋柱とみられるP297・89・317・311が並ぶ。柱間はP297・89間が180cm、P317・311間が約240cmである。

**(5) ビット**

ビットは291基検出した。溝2から北側の区域に集中する傾向は、土坑の配置とも重なる。ただし、溝2の南側でもビットがやや多く検出されるが、トレンチでの調査のため、掘立柱建物跡などビット間の繋がりについては不明である。ビットの詳細については第88表のとおりである。

**(6) 堀跡・溝****①堀跡1**

調査区の西側をほぼ南北方向に延びる。本調査区北側に位置する第7地点(註)で検出した堀1の続きである。

断面はV字型に開く葉研状を呈する。土層の観察などから水が流れた痕跡が確認された。詳細は第86表のとおりである。

**②溝**

溝は全部で17本確認された。溝13は溝1・2につながる可能性がある。

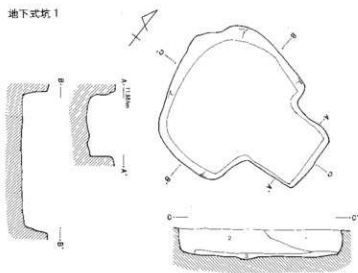
溝4・5は並行して確認されることから、道の側溝と考えられる。

溝1・2・3・7・12は掘立柱建物跡や土坑・ビット群の配置から屋敷地などを区画したものの可能性が考えられる。各溝の詳細は第86表のとおりである。

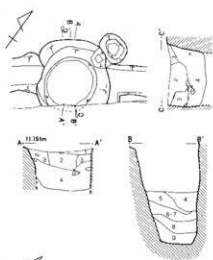
**(7) 出土遺物**

出土遺物は土坑52からカワラケが出土している。砥石が井戸2から1点、井戸13から2点出土している。また、井戸15から摺鉢片と板破片が合計5点出土しているが全て覆土層出土である。縄文土器については堀跡から出土したのも遺構外出土と合わせて第166図に掲載した。遺物の詳細は第89表のとおりである。

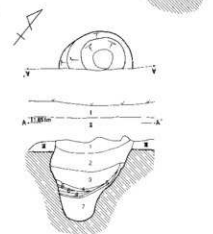
地下式坑 1



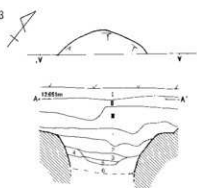
井戸 1



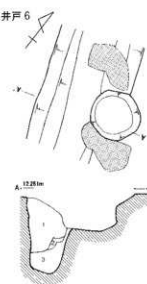
井戸 2



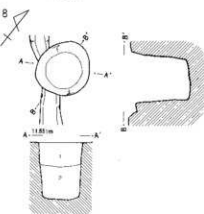
井戸 3



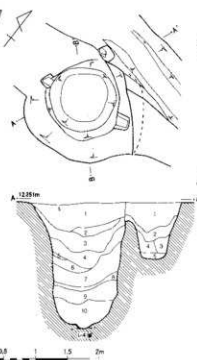
井戸 6



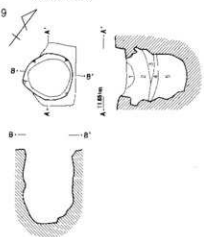
井戸 8



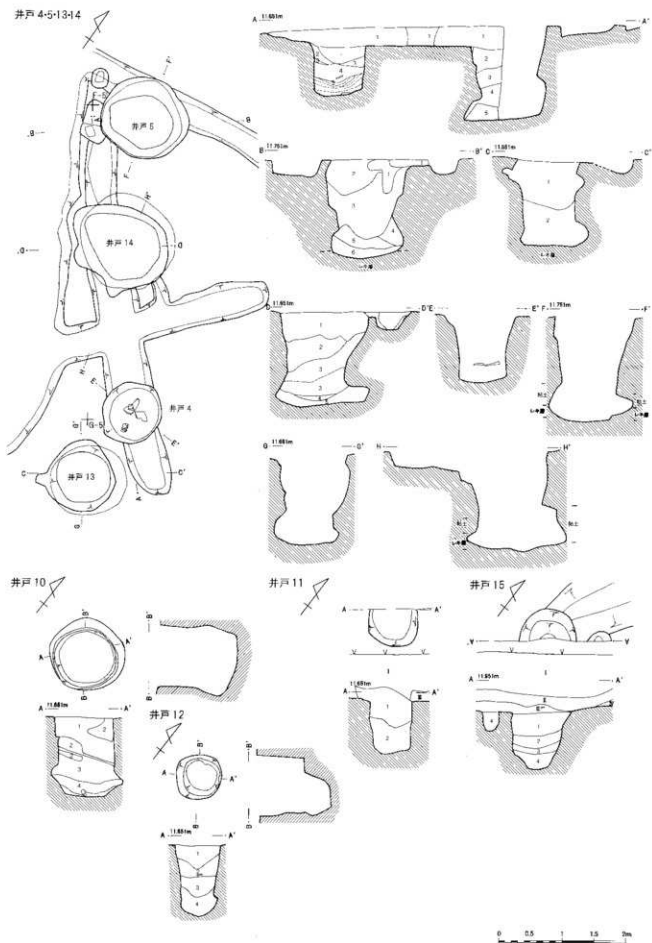
井戸 7



井戸 9



第154図 淨禪寺跡遺跡第29地点地下式坑 1・井戸① (1/60)



第155図 浄禅寺跡遺跡第29地点井戸② (1/60)

## 浄律寺跡遺跡第29地点トレンチ・地下式坑・井戸土層説明

## トレンチ 1

1. 黒色土 埴り肌、粘性有、硬質土、耕作土
1. 黒色土 埴り肌、粘性有、1層にほぼ同厚、2mm以下ローム粒含む、1層より埴り強い
1. 黒褐色土 埴り肌、粘性有、10cm以下ロームブロック層中に黒褐色土含む
1. 黒褐色土 埴り肌、粘性有、黒褐色土ペースに2cm以下ローム粒多含む、1層目黒褐色硬質土、粘土、IV層未満1の粒を1層に類似する程度土の可塑性は強い
1. 黒褐色土 埴り肌、粘性有、ロームの水性堆積で黒色土化している、ローム粒の数がほとんどない

## トレンチ 6

1. 黒色土 埴り肌、粘性有、硬質土、耕作土
1. 黒色土 埴り肌、粘性有、1層にほぼ同厚、2mm以下ローム粒含む、1層より埴り強い
1. 耕作土 黒褐色土 埴り肌、粘性有、黒色土と黒褐色土を交互に含む、2mm以下ローム粒の中多含む
1. 耕作土 1層にみられた黒色土の代わりに2cm以下ロームブロック多含む、1層目ローム粒の中多含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、黒褐色土主体に3cm以下ロームブロック多含む、この層目のみ存在、井戸はこの層の下から掘り込まれる
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有
1. 地山ローム

## トレンチ 8

1. 黒色土 埴り肌、粘性有、硬質土、耕作土
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層にほぼ同厚、2mm以下ローム粒含む、1層より埴り強い
1. 黒色土 土層が厚く層は中や黒褐色土を主とする、更に下層は地山ローム

## トレンチ 10

1. 黒色土 埴り肌、粘性有、硬質土、耕作土
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、10cm以下ロームブロック多量を含む耕作土
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、地山ロームが黒色化している、黒褐色は黒色化するが西側はローム褐色化である、黒褐色は強い粘性水性堆積している可能性有

## 地下式坑 1

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mmローム粒少し含む他は含まない
1. 黒色土 埴り強、粘性有、5cm以下ローム粒多含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層主体にシム状赤褐色酸化鉄多含む

## 井戸 1

1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒中多、5mm褐色土塊状を含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、5~20mmローム粒・ブロック少し、13cm円径少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、2mm以下黒褐色ローム粒や中多含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、1cm以下ローム粒・ブロック含む、ロームは赤褐色
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、粘土質に近い堆積物が多く入る、微細なローム粒少し含む
1. 黒褐色土 埴り有、粘性有、3層厚、1cm以下ロームブロック、3mm以下ローム粒中多含む
1. 黒褐色土 埴り有、粘性有、層厚2~4cm、ローム主体堆積を映し、2mm以下ローム粒少し含む

## 井戸 2

1. 黒色土 埴り強、粘性有、1mmローム粒少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層目ローム粒少ない、シム状黒褐色土少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層主体に2層に見られたシム状黒褐色土含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、ローム粒少し含む
1. 赤褐色土 埴り強、粘性有、酸化土のめが赤色を呈す
1. 黒色土 埴り強、粘性有、シム状ローム斜めに入る
1. 黒色土 埴り強、粘性有、4層目埴り強赤褐色土、ローム粒少し含む

## 井戸 3

1. 黒色土 埴り肌、粘性有、硬質土、耕作土
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層にほぼ同厚、2mm以下ローム粒含む1層より埴り強い
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、1層主体に2層に見られたシム状黒褐色土含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、1層厚、5mm以下ローム粒多含む
1. 褐色土 埴り強、粘性有、ローム主体にシム状黒褐色土少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、炭化物質の黒色中に2mm以下ローム粒数少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、ロームと黒褐色土に粒状を含む、5mm以下ローム粒多含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、ローム主体、4層目ローム粒多含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、層厚約10cm、シム状ローム多含む

## 井戸 4

1. 黒色土 埴り強、粘性有、1mmローム粒少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、黒褐色土主体に5mmローム粒多量含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、ローム主体に黒褐色土少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、1層より厚かに1mmローム粒多含む、ほぼ同厚
1. 黒褐色土+赤褐色土 埴り強、粘性有、4層主体にシム状赤褐色酸化鉄・ローム塊状を含む

## 井戸 5

1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、5mm以下ローム粒多含む
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、5mm以下ローム粒多、3cmロームブロック少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、1~10cmローム・ブロック層中に黒褐色土と同層厚含む
1. 赤褐色土 埴り強、粘性有、粘土質の酸化土と赤褐色土
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、シム状に酸化土とローム粒少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、粘強い黒色土主体に5mm以下ローム粒少し含む

## 井戸 6

1. 黒色土 硬質、2cm以下ロームブロック多、ビニール含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1mmローム粒層が中心のみ
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層目や中や粘性堆積のみが赤褐色を呈す、塊状に酸化鉄含む

## 井戸 7

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム・粘土、炭化物質少し含む
1. 褐色土 埴り強、粘性有、ロームブロック主体に黒色土少し含む
1. 黒色土 埴り中強、粘性有、1層にほぼ同厚、中やローム粒多含む
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、1cm以下ロームをブロック・シム状多含む
1. 黒色土 埴り中強、粘性有、炭化物質の黒色中に2mm以下ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、4層目ローム主体
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、5層目黒色土主体にシム状ロームを1層~3層厚堆積
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、酸化土とローム土4.6層含む
1. 黒褐色土 埴り中強、粘性有、4.6層目ローム主体に間層にシム状黒色土(7層目1~3層厚)
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下ローム粒少し、シム状酸化鉄少し含む

## 井戸 8

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2cm以下ローム粒少し含む、2層目や中や炭褐色を呈す
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2cm以下ローム粒少し含む、1層目黒色強く、赤褐色酸化鉄多含む

## 井戸 9

1. 黒色土 埴り強、粘性有、シム状ローム多量含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
1. 黒色土+褐色土 埴り強、粘性有、シム状赤褐色酸化鉄多含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、5cm以下ロームブロック多含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、黒色土調強い

## 井戸 10

1. 黒色土+褐色土 埴り強、粘性有、ロームブロックに黒色土含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
1. 黒色土+褐色土 埴り強、粘性有、1層にほぼ同厚の中や埴り強い
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層に同じ、中や赤褐色土調強い
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、2~4層主体に埴りローム少し含む

## 井戸 11

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒数少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層にほぼ同厚、ローム粒少ない

## 井戸 12

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒数少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、1層にほぼ同厚、ローム粒少ない
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層に同じ、中や赤褐色土調強い
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層に同じ、下層は埴り強いロームブロック中多含む

## 井戸 13

1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む1層より少ない、黒色が微細に2cmロームブロック散在

## 井戸 14

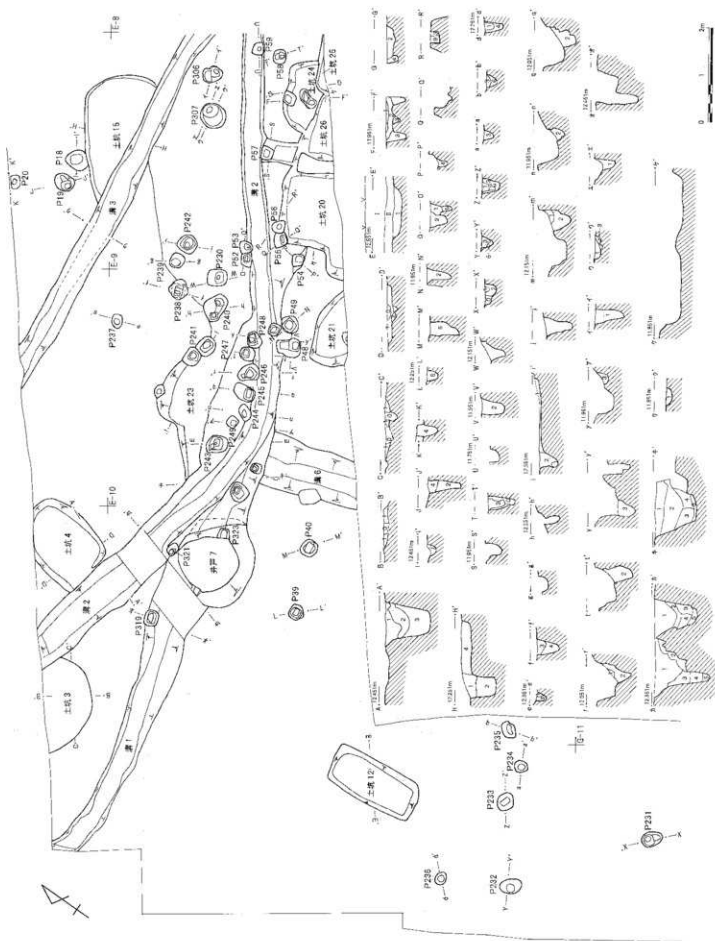
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、2cmロームブロック少し、2mm以下ローム粒多含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、2~5cmロームブロック多含む
1. 黒褐色土+褐色土 埴り強、粘性有、黒褐色土主体、2~10cmロームブロック多量含む、下層ローム主体に赤褐色土含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、砂多量含む黒褐色土にローム粒中に少し含む
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、粘土と砂の混合土に赤褐色酸化鉄多含む

## 井戸 15

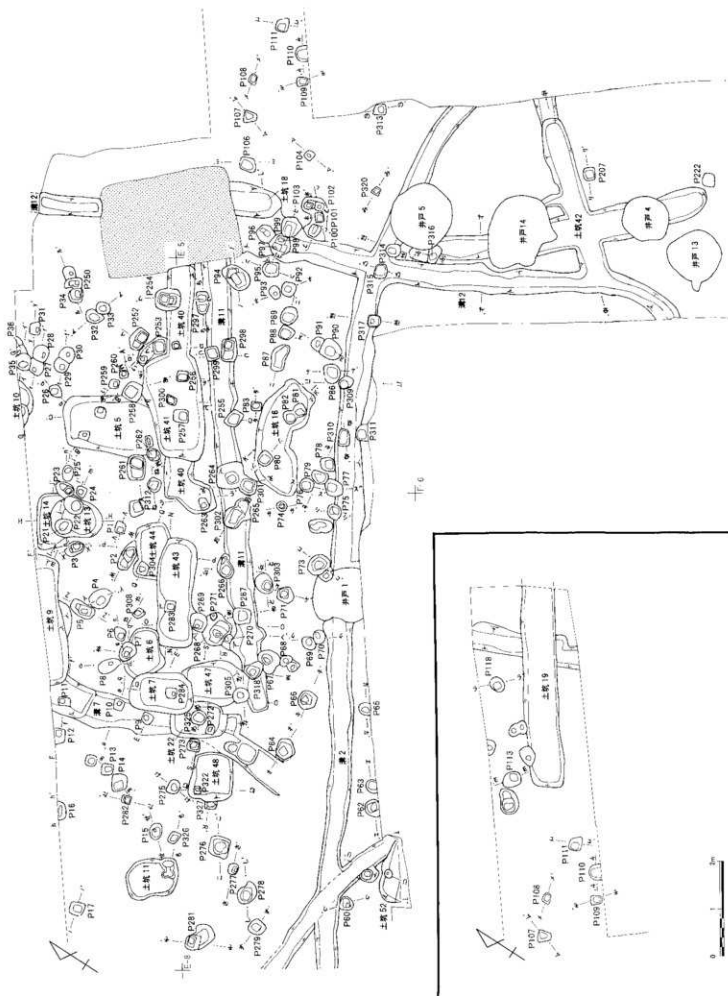
1. 3. 赤土 耕作土
1. 黒色土 埴り強、粘性有、黒褐色土ペースに3cm以下ロームブロック多含む、黒褐色のみ存在、井戸はこの層の下から掘り込まれている
1. 地山ローム

1. 黒色土 埴り強、粘性有、1cmローム少し、2mm以下シム状ローム多含む
1. 褐色土 埴り強、粘性有、1層主体にローム粒1層より少ない、黒色調強い
1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、黒色土とロームブロック混在でローム調強い
1. 黒色土 埴り強、粘性有、2層目に、黒下部ローム中多含む

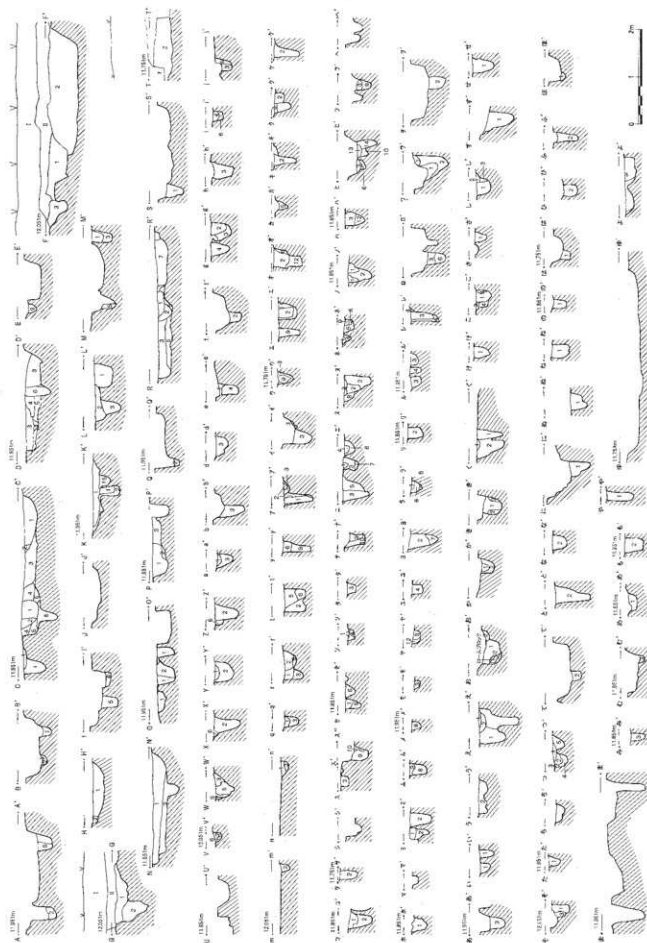




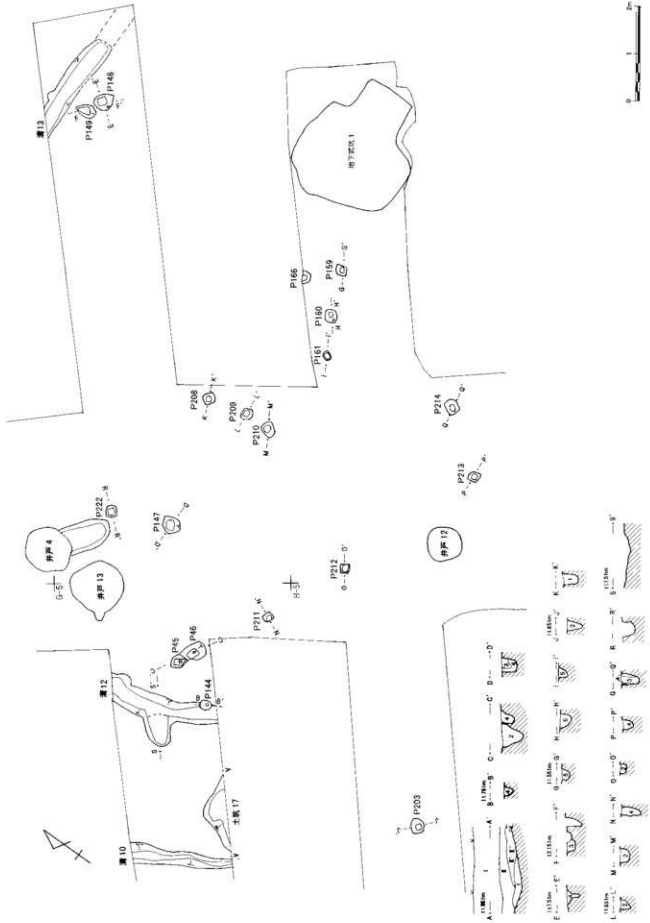
第156図 浄律寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝① (1/80)



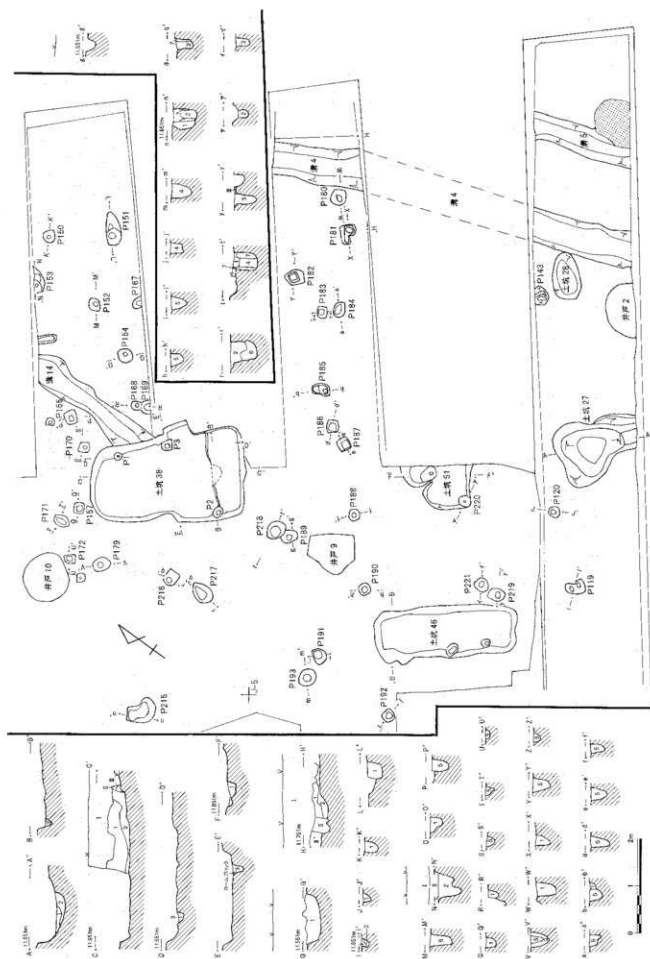
第157図 浄祥寺跡遺跡第29地点土坑・ヒット・溝② (1/80)



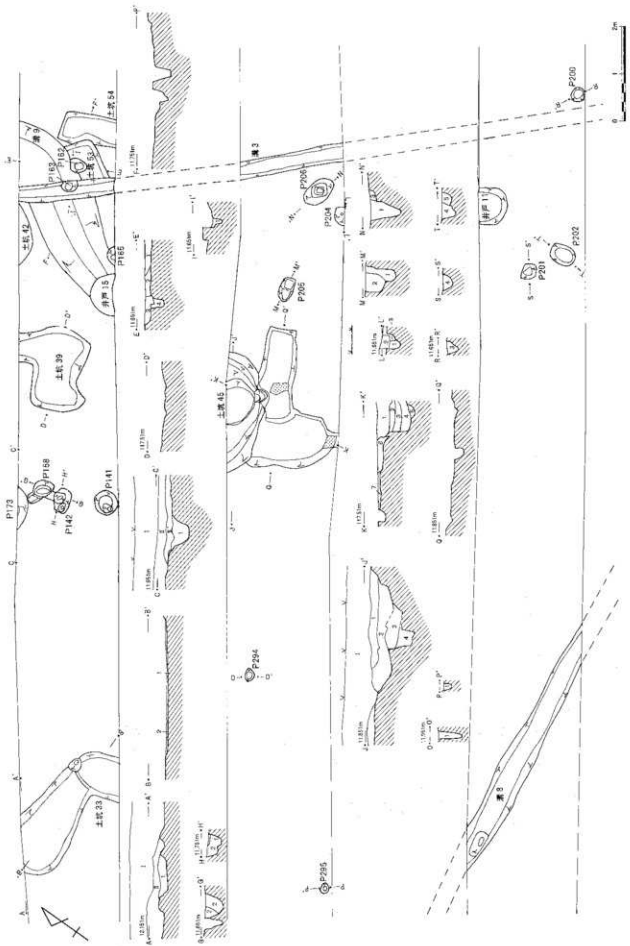
第158図 浄律寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③ (1/80)



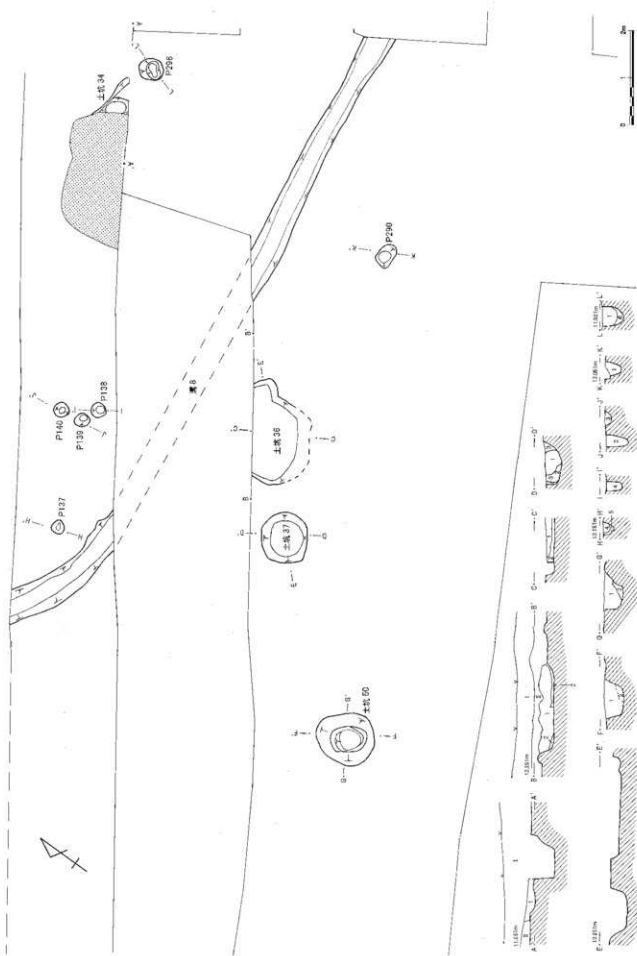
第159図 淨禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③ (1/80)



第160図 浄律寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑤ (1/80)

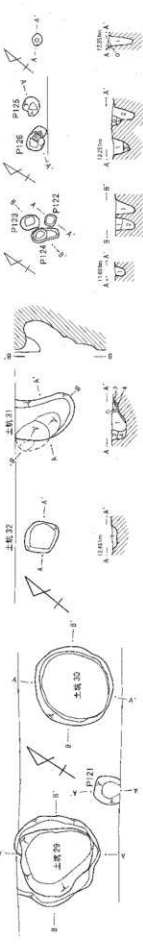


第161図 浄律寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑤ (1/80)



第162図 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝⑦ (1/80)

土坑 29・30、P121 土坑 31・32 土坑 32 土坑 30 土坑 29



P122~124



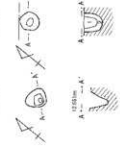
P125~126



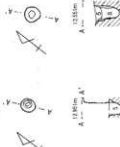
P156



P128 P129 P130 P131~133



P134 P135 P136



P164



P176



P194



P225



P226~229



P285



P286~288



P291



P292



P293



溝 15



第163図 浄律寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝③ (17/80)



## 浄拝寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝土層説明①

## 溝 2 (205 頁 AA')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、30cm以下ロームブロックやや多く、50cm以下黒色土ブロック少し、10cm以下ローム粒多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1~5cmロームブロック多量含む、黒色土ほとんど見られない
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色土主体に50cm以下ロームをシズ状・ブロック状で織状に少し含む  
ムダの量が僅かに異なる

## 土坑 3 (205 頁 BB' OD')

## 0 階法

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ローム粒多量含む土粒種少し含む

## 土坑 4 (205 頁 OO')

## 0 階法

1. 黒色土 粘り強、粘性有、30cm以下ロームブロック少し、50cm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒色土 粘り強、粘性有、ロームブロックと黒色土の混合土、10cmロームブロック含む

## 土坑 12 (205 頁 EE')

1. 黒色土 粘り強、粘性有、50cm以下シズ状暗褐色土やや多く含む、ローム粒主体ではない
- 土坑 24-25 (205 頁 FF' OG')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く、50cm黒褐色土ブロック少し含む、全体にローム土食み顕明い
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cmと1cm以下ロームブロック・ローム粒少し含む
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5~10cmロームブロックやや多く、ローム粒多量含む、色顕明い
- 土坑 15-16 (205 頁 HH')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、30cm以下ロームブロック多量含む(ボロボロ)
2. 黒色土 粘り強、粘性有、30cm以下ロームブロック多く含む
3. 黒色土 粘り強、粘性有、10cmローム粒少し含む
4. 黒色土 粘り強、粘性有、50cm以下ローム粒多く含む(黒褐色土ほとんど含まない)

## 溝 1 (205 頁カ')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1層より暗褐色で1cm以下シズ状ローム、2層以下ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2層にほぼ同様にロームブロック多く含む
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2~3層より顕明く、ロームブロック較は2層と同程度含む
3. 褐色土 粘り強、粘性有、地山よりローム主体にシズ状黒褐色土少し含む

## 溝 2 (205 頁カ'キ')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cm以下ロームブロックに黒褐色土少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、3cm以下ロームブロックやや多く含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ロームブロックに黒褐色土多く含む
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム粒多く含む
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cmローム粒種少し含む

## 溝 3 (205 頁ク')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cmローム粒やや多く含む(顕明)
- 土坑 5 (207 頁 BB')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cm以下ハードローム粒多量含む(ロームブロック少ないが、土坑5層土とほぼ同じ土質)
2. 黄褐色土 粘り強、粘性強、地山より色顕明いローム土主体、1.5cm暗褐色土ロームブロック少し含む

## 土坑 5-A0-41、ピット 215-217 (207 頁 CC')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム粒・ブロック多量に炭土・炭化物含まない
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム粒・ブロック多量含む、1層よりローム少ない以外は同じ
3. 褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土ローム主体に2cm以下ロームブロック多量含む(土坑41の1層より多い)
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1層より色顕明い、2cm以下黒褐色土ブロック少し含む以外は同じ
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体に1cmロームブロック少し含む

## 暗褐色土

## ピット土層に同じ

## 土坑 7-22・47-48、ピット 9-22、溝 7 (207 頁 DD' EE' RR')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、30cm以下ローム粒少し含む(炭化物・炭土含まない)
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ロームブロック多量含む(ピット 272 層土)
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ロームブロック多量含む、2~3層にほぼ同じ、2層よりややブロック小さい
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、最も色顕明く、ローム粒少ない
5. 暗褐色土 粘り強、粘性有、30cm以下ロームブロックと暗褐色土・ローム主体の混合
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、20cm以下ローム粒少し含む(炭化物・炭土含まない)
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、3層より顕明いローム主体、10cm以下ロームブロック多く含む
8. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒褐色土主体に3cm以下シズ状ローム多量含む
9. 暗褐色土 粘り強、粘性有、土坑7の2層に50cm黒褐色土ブロック含む

## 土坑 9-溝 7 (207 頁 FF')

1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5~20cmロームブロック50cm以下ローム粒多く、シズ状に黒褐色土含む(炭土と層より顕明)
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1~5cmロームブロック50cm以下ローム粒多く含む
- 土坑 10 (207 頁 GG')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック粒やや多く、シズ状黒褐色土少し含む、50cm以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ロームブロック・粒主体、シズ状黒褐色土少し含む
- 土坑 13-14 (207 頁 HH')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5~30cmロームブロックやや多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cmロームブロック少し、20cm以下ローム粒やや多く含む
- 土坑 16 (207 頁 KK')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cm以下ローム粒やや多く、1cmロームブロック僅かに含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cm以下ローム粒やや多く含む
- 土坑 18-ピット 96-溝 12 (207 頁 LL')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5~40cmロームブロック多く、20cm以下ローム粒多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5~10cmロームブロック少し、20cm以下ローム粒多く含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、粘性有
- 土坑 43-44 (207 頁 NN' PP')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土ローム主体に50cm以下ロームブロック多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1層より暗褐色土ローム主体、1層よりロームブロック小さい(20cm以下)層より少なく含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土ローム主体に30cm以下ロームブロック多く含む、土坑 43の1層より顕明い
- 土坑 52 (207 頁 TT')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、20cm以下ローム粒やや多く、20cm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、30cmロームブロック少し、50cm以下ローム粒多量含む
- 土坑 17 (208 頁 AA')
1. 黒色土 粘り強、粘性有、10cmロームと下層に3cmシズ状ローム粒少し含む(む、底部凹凸)
- 土坑 27 (208 頁 AA')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性強、20cmロームブロック少し、20cm以下ローム粒含む、ややボロボロする
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、5cmシズ状ローム少し含む
- 土坑 38 (208 頁 BB' OD' OD' EE')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒褐色土主体に50cm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒褐色土主体に50cm以下ローム粒多く含む
3. 黒色土 粘り強、粘性有、20cm以下シズ状ローム・ローム粒少し含む
- 土坑 51 (208 頁 FF')
1. 黒色土 粘り強、粘性有、20cm以下ローム多く、20cm以下ローム粒・塊土少し含む
- 土坑 48 (208 頁 GG')
1. 黒色土 粘り強、粘性有、70cmロームブロック少し、50cm以下ローム粒多量含む、ピット層土1層目に同じ
- 溝 4 (208 頁 HH')
1. 黒色土 粘り強、粘性有、10cm以下ローム粒種少し含む(ほぼ黒色土のみ)
2. 黒色土 粘り強、粘性有、1層より10cm以下ローム粒やや多量含む(ほぼ黒色土のみ)
- 土坑 33 (210 頁 AA' BB')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色土主体に5cm以下ロームブロック少し、2層より50cm以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色土主体に5cm以下ロームブロック少し含む
- 土坑 45 (210 頁 KK' QQ')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、2cm以下ローム少し含むのみ
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下シズ状ローム多く含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下シズ状ローム2層より多く、3cmロームシズ状に多く含む
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下シズ状ローム2~3層より多く、50cmロームシズ状に多く含む
5. 暗褐色土黒褐色土 粘り強、粘性有、4層に同じ(粘りはボロボロする)
6. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1cm以下シズ状ローム多く含む、2~3層のみ顕明い
7. 暗褐色土 粘り強、粘性有、6層主体に1cm以下シズ状ローム少し含む
- 土坑 53-ピット 162-溝 9 (210 頁 EE')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cm以下シズ状ローム多く、20cm以下ローム粒多く含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色土主体に50cmローム粒少し含むのみ
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、黒色土と30cm以下ローム混合
4. 暗褐色土 粘り強、粘性有、ローム主体に1cm以下黒色土少し含む
- 土坑 50 (211 頁 FF' GG')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cmローム粒少し含むのみ
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、1層と暗褐色土を混ざり含む
- 土坑 34 (211 頁 JJ')
1. 黒色土 粘り強、粘性有、50cmロームブロック種少し、20cm以下ローム粒少し含む
- トレンチ 7 土坑 38 (211 頁 JJ')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、50cm以下シズ状ローム少し含む(ほぼ黒色土のみ)
2. 黒色土 粘り強、粘性有、1層より50cm以下ローム粒やや多く、30cmローム粒少し含む
- 土坑 37 (211 頁 JJ')
1. 暗褐色土 粘り強、粘性有、20cm以下ローム粒多量含む
2. 暗褐色土 粘り強、粘性有、10cm以下ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 粘り強、粘性有、暗褐色土と黒褐色土を混ざり含む、ローム粒ほとんど含まない

## 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑・ビット・溝土層説明②

## 溝 19(212 黄AA)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒多量含む, 基本土層の間に
- 1.黒褐色土 練りやや弱, 粘性有, 1層主体 10cm以下ロームブロック少し5cm以下ローム粒多量含む
- 1.黒褐色土 練りやや弱, 粘性有, 1層主体2cm以下ロームブロックや多く2cm以下層状土多量含む
- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3層主体ロームブロック・塊状土多量含む
- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, ローム主体 10cm以下層状土多量(黒褐色土少し含む)

## 土坑 29-30, ビット 121(212 黄AA'BB')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒多量, 同度化物少し, 塊状土粒少し含む, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体, 1層よりローム粒・度化物・塊状土多量含む
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1-2層よりやや明るいが主体は同じ, 1cmローム粒シタに少し含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, ローム主体にシタ状黒褐色土, ローム粒 5mm以下少し含む
- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3層主体, 2cm以下ローム粒 1-2層より多量含む
- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, 4層にほぼ同じ, やや黄色強い
- 7.黒褐色土 練り強, 粘性有, 5層よりローム主体で明るい地はほぼ同じ
- 8.黒褐色土 練り強, 粘性有, 4層主体は同じだがややローム多い

## 土坑 31-32(212 黄AA'BB')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒少し含むのみ, P129土層に同じ, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土とローム混合
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層より土色暗いが視認いがほぼ同じ
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒やや多量含む

## ビット 1-8-10-11-13-14-16-32-35-36-39-40-46-49-52-54-56-58-60-62-66-68-71-73-74-

## 76-83-86-90-95-97-101-103-106-111-113-118(205-212 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3-10mmロームブロック, 5mm以下ローム粒多量, 5mm黒褐色土ブロックやや多量含む
- 2.黒褐色土 練りやや弱, 粘性やや弱, 4cm以下ロームブロックやや多量, 5mm以下ローム粒多量, 黒褐色土をシタ状(シタ)ブロック状に含む
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性やや弱 3-10mmロームブロック, 5mm以下ローム粒やや多量含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3-10mmロームブロック・5mm以下ローム粒やや多量含む
- 5.暗褐色土 練り強, 粘性やや弱, ローム粒主体, 3-10mmロームブロック少し含む
- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3cm以下ローム粒やや多量, ロームブロック・黒褐色土ブロック含むが練り良い
- 7.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3-10mmロームブロックやや多量, 1cm以下層状ローム粒少し, 塊状土僅かに含む, 自然増殖の黒褐色土に同じ
- 8.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒少し含む
- 9.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1cm以下ロームブロック・粒少し含む
- 10.暗褐色土ペース 練り強, 粘性有, 3cm以下ロームブロック多量, 5mm以下ローム粒やや多量含む
- 11.黒褐色土 練り強, 粘性有, ロームブロック主体, 黒褐色土少し含む
- 12.暗褐色土ペース 練り強, 粘性有, 3cm以下ロームブロック・塊状土多量含む
- 13.暗褐色土 練り強, 粘性有, 5mm以下ローム粒やや多量, 5mm以下白色土(泥)粒, 灰化物やや多量含む
- 14.暗褐色土 練り強, 粘性有, 1cmロームブロックやや多量含む
- 15.暗褐色土 練り強, 粘性有

## ビット 2-33(206 黄WW'AA')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1-1.5cmロームブロック・粒少し含む, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 4cm以下ロームブロック多量, 5mm以下ローム粒やや多量含む

## ビット 119-120(206 黄B'AJ')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下シタ状ローム少し含む, 0層攪乱

## 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下シタ状ロームを斜に含む

## ビット 122-126(212-215 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒・1cmロームブロック粒少し含む, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に暗褐色土多量(灰)ポロロする
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 10cmロームブロックに黒褐色土少し含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体に5mm以下ローム粒多量含む

## ビット 129-137-150-151-154-156-157-231-233-307(208-209-211-212 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 5cm以下シタ状暗褐色土少し含むのみ, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層よりシタ状ローム多量含む
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1-2層よりローム・1cmローム多量含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1cm以下ローム粒多量含む
- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 暗褐色土と黒褐色土(4層)間に含む

## ビット 45-46-130-136-138-140-142-144-147-149-152-153-155-158-163-166-169-179-

## 184(206-212 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 5cmロームブロック・1cmロームブロック・2mm以下ローム粒少し含む, 0層攪乱
- 2.黒褐色土 + 暗褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック多量含む
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 地山ローム主体にシタ状暗褐色土少し含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に5mm以下ローム粒多量含む
- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層に同じだが5cmロームブロック少ない
- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に1cm以下ロームブロック多量含む
- 7.黒褐色土 練り強, 粘性有, 6層主体にロームブロック含む割合を含む
- 8.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1-5層に主体同じ, ややシタ状ローム多量含むため暗褐色帯を帯びる

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 暗褐色土主体に5cm以下ロームブロック, 同じシタ状暗褐色土層状に含む

## ビット 164(212 黄AA')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に2cm以下ローム粒多量に含む

## ビット 170-172(206 黄TT'UU')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1cmロームブロック, 2cm以下ローム粒少し含む

## ビット 176(212 黄AA')

- 1.黒褐色土 5mmローム粒少し, 2cm以下ローム粒多量含む
- ビット 200-210-220-221-222-224-230-232-234-240-242-249-250-252-255-258-260-262-264-268-276-282-283-285-288-290-294-296-297-299-311-313-321-322-324-341(205-212 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1mmシタ状ローム粒少し含む
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体に5mm以下シタ状ローム・ロームブロックやや多量含む
- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体に5mm以下シタ状ローム少し含む
- 4.黒褐色土 練り強, 粘性やや弱, 黒褐色土主体に1cm以下ローム粒やや多量含む(シタ状ロームとロームブロック)ビットにより, 2cmロームブロック
- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に2cm黒褐色土ブロック多量含む, ローム粒ほとんど含まない

- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, ロームブロック主体にシタ状暗褐色土少し含む

## ビット 218(206 黄yy')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 地山の層間に帯び

## ビット 241-243-248-263-300-303-316-317(205-206 黄)

- 1.黒褐色土 練りやや弱, 粘性有, 黒褐色土主体に3cm以下ローム粒少し含む

- 2.黒褐色土 練りやや弱, 粘性有, 2cm以下ロームブロックと暗褐色土混合, ポロロする, 下層にロームブロック多量含む(P241-205)

- 3.黒褐色土 練りやや弱, 粘性有, 1層主体に2cm以下ロームブロックやや多量含む

## ビット 254-256-261-266-269-271-284-303-304-308-310-312-315-318-320(206 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, ローム・黒褐色土の中間で5cm以下ローム粒多量含む

- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, ロームと黒褐色土の中間で1cm以下ローム粒多量含む, 2層の方が色濃い

- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層と3cm以下ロームブロック混合

- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, ほぼロームだけポロロする

- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ロームブロック少し含む, ピアなBBペースか?

- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒少し含む, 塊状・灰化物含まない(ビット土層)

## ビット 9-15-84-265-267-273-275-277-279-281-301-302(206 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 暗褐色土主体に2-3cmロームブロック少し, 2cm以下ローム粒多量含む

- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に2cm以下ロームブロック少し含む, 2cm以下ローム粒多量含む, 1層より黒褐色強い

- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, ローム主体にシタ状暗褐色土少し含む

## ビット 295-280(206-210 黄いい'PPP')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, ポロポロしたローム主体, 黒褐色土ほとんど含まない

## ビット 298-290(206 黄つつ')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1cmローム粒少し含む

- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, シタ状ローム・3mm以下ローム粒多量含む

- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 4層に同じ, ややローム多い

- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, ポロポロしたローム

- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cmロームと黒褐色土の混合

## ビット 325-326(206 黄めめ'66')

- 1.ローム主体に5mm灰化物含む, シタ状暗褐色土粒少し含む

## ビット 328(206 黄)

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒少し含む

- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体に2cm以下ローム・塊状土多量含む(1層より多い)

- 3.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1層主体に3cm以下ローム・塊状土多量含む(1-2層より多い)

- 4.黒褐色土 練り強, 粘性有, 3層にほぼ同じ(3層より色濃い), ローム粒は2層に同じ

- 5.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1-4層より5mm以下ローム粒多量含む, シヤシヤする

- 6.黒褐色土 練り強, 粘性有, 5層に同じ, やや5層より色濃い

- 7.黒褐色土 練り強, 粘性有, 暗褐色土とローム層状に含む

- 8.黒褐色土 練り強, 粘性有, 黒褐色土主体に3cm以下シタ状ローム, 同層暗褐色土をシタ状にロームと同程度含む

- 9.黒褐色土 練り強, 粘性有, 暗褐色土主体に5mm以下ローム粒多量含む

## ビット 10 層群 (215 黄AA')

- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム粒少し含む

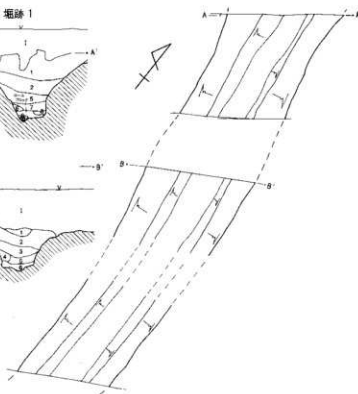
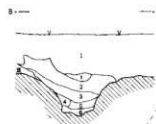
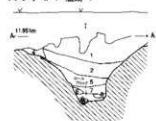
- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 5mm以下ローム粒・灰化物多量含む, 下層になるに従ってローム粒・灰化物が多くなる

## ビット 9 層 10-11(215 黄AA'BB')

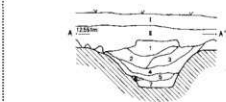
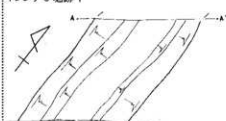
- 1.黒褐色土 練り強, 粘性有, 1cm以下ローム粒少し含む

- 2.黒褐色土 練り強, 粘性有, 2cm以下ローム多量含む

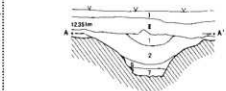
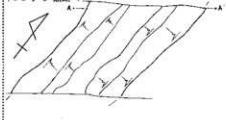
トレンチ6・7 堀跡1



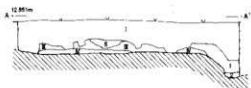
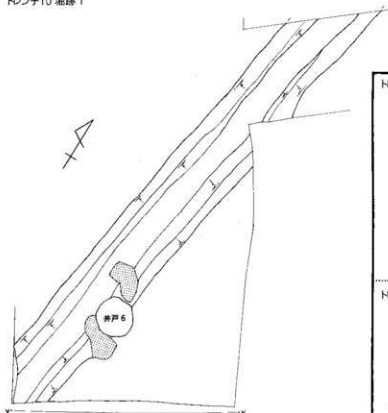
トレンチ8 堀跡1



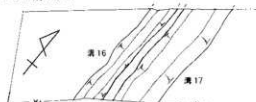
トレンチ9 堀跡1



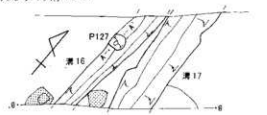
トレンチ10 堀跡1



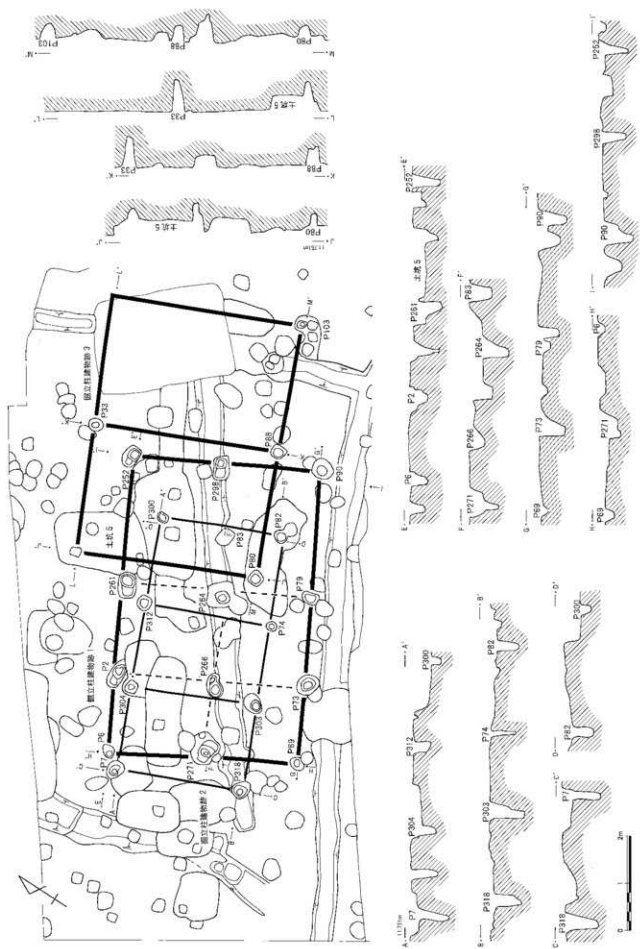
トレンチ9 溝16-17



トレンチ10 溝16-17



第164図 浄禅寺跡遺跡第29地点土坑・ピット・溝・堀跡 (1/80)



第165圖 淨禪寺跡遺跡第29地点獨立柱建物跡 1~3 (1/80)

第85表 浄禪寺跡遺跡第29地点井戸一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	132×128	75×68	151.1	
2	(円形)	117×(62)	32×31	115.8	
3	不明	145×(40)			
4	円形	98×93	84×76	107.7	
5	円形	140×129	100×84	165.2	
6	円形	82×80	60×58	129	
7	円形	133×123	76×73	202.1	
8	円形	89×82	59×57	96.3	
9	円形	78×75	65×58	117.2	
10	円形	104×104	86×81	129.2	
11	(円形)	78×(60)	56×(48)	81.9	
12	円形	71×70	50×45	116.2	
13	円形	124×115	84×80	149.5	
14	円形	153×146	129×103	153.3	
15	(円形)	90×(47)	24×(8)	94.7	

第86表 浄禪寺跡遺跡第29地点堀跡・溝一覧表 (単位cm)

前名称	旧名称	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
1	土坑2	北側浅い「U」字状、 南側「U」字状	72~130	72	92.0	
2	土坑1	やや開く「U」字状	32~94	15~37	96.0	
3	溝10	やや開く浅い「U」字状	33~62	17~43	12.0	
4	溝4	「U」字状	68~119	35~53	25.8	
5	溝5	「U」字状	50~58	22~35	25.5	
6	溝	やや開く浅い「U」字状	98~113	28~41	18.3	
7	土坑8	やや開く浅い「U」字状	58~78	34~51	40.0	
8	溝8	「U」字状	37~66	18~41	24.3	
9	土坑43	やや開く浅い「U」字状	106~138	21~40	9.2	
10	-	やや開く浅い「U」字状	19~45	8~21	12.6	
11	溝12	「U」字状	41~58	25~40	15.2	
12	溝4	「U」字状	38~60	15~37	8.0	
13	-	「U」字状	41~50	23~31	12.0	
14	溝	やや開く浅い「U」字状	38~72	20~50	37.7	
15	溝1	「U」字状	25~155	110	15.2	
16	堀2	やや開く浅い「U」字状	35~54	13~20	40.0	
17	堀2	やや開く浅い「U」字状	76~90	12~44	22.4	
堀跡	堀1	薬研状	168~210	30~66	107.1	

第87表 浄禪寺跡遺跡第29地点土坑一覧表

(単位cm)

No.	旧名称	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
3		不明	(181×103)	-	10.2	
4		不明	180×134	160×107	13.6	
5	土坑42	不明	(193)×120	(187)×95	30.0	
6		不整形	(98)×89	(91)×65	30.0	
7		方形	125×83	102×60	35.0	
9		不明	274×(70)	232×(60)	55.1	
10		不明	(99×25)	(18×7)	56.1	
11		方形	108×76	99×65	10.7	
12	土坑11	方形	197×91	175×70	17.2	
13		楕円形	109×87	70×60	28.0	
14		不明	117×(26)	99×(21)	20.1	
15	土坑49	不明	(252×137)	(250×136)	33.2	
16		不整形	223×75	197×53	16.2	
17	土坑44	不明	156×(49)	116×(38)	22.8	
18		不明	(102)×61	(81)×31	41.4	
19		不明	(421)×72	(409)×59	34.1	
20		不明	(222×130)	(190×112)	43.2	
21		不明	(157×78)	(115×67)	25.1	
22	土坑45・46・47	不明	(107)×77	95×59	30.7	
23		不明	(180×113)	(172×82)	18.9	
24		不明	(157×80)	(140×67)	16.1	
25		不明	(108×20)	(80×17)	28.2	
26	土坑25	不明	(146×75)	(126×50)	60.5	
27		不明	(179)×133	66×53	69.4	
28		楕円形	98×58	74×36	32.7	
29		不明	190×175	143×105	99.3	

No.	旧名称	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
30		円形	164×163	139×132	77.7	
31		不明	(126)×86	(115×78)	34.7	
32		方形	67×64	54×51	12.1	
33		不明	(299×278)	120×97	10.2	
34		不明	(76×73)	(67×61)	16.1	
36		不明	215×(94)	194×(94)	24.8	
37		円形	103×97	72×71	38.5	
38		方形	325×211	303×192	26.3	
39	土坑35	不明	175×(154)	149×(141)	11.1	
40	土坑53	不明	520×62	503×41	23.1	
41	土坑54	不明	(220)×126	(193)×104	37.0	
42	土坑5	不明	(135×31)	-	-	
43		方形	231×79	205×62	31.5	
44		不明	115×75	100×55	18.5	
45		不明	246×(91)	74×(56)	78.8	
46		方形	300×110	271×76	27.4	
47	土坑45・46・47	不明	(118×97)	86×63	28.0	
48	土坑15	方形	105×92	82×72	29.2	
50		円形	121×108	45×42	41.3	
51		不明	148×(90)	117×(83)	15.6	
52		不明	135×(46)	120×(39)	37.3	
53	土坑35・40	不明	(79×57)	(76×48)	15.3	
54	土坑41	不明	(112×66)	(113)×42	11.0	
	土坑1		溝21:変更			
	土坑2		溝11:変更			
	土坑8		溝71:変更			

第88表 浄輝寺跡遺跡第29地点ビット一覧表

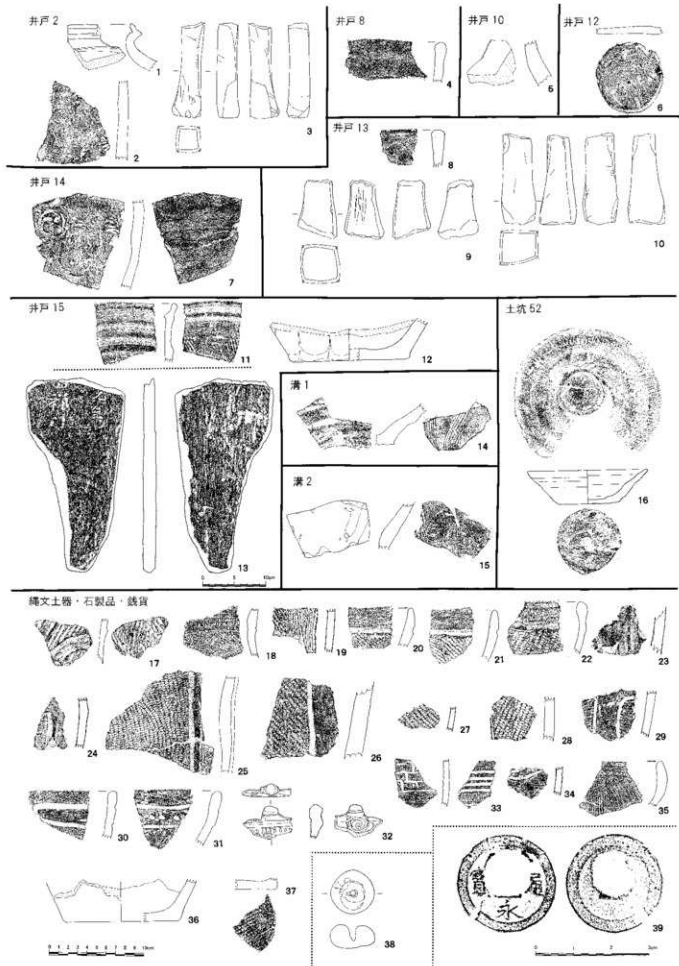
(単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	24×19	13×11	19.3	第157Ⅷ	87	方形	60×30	40×20	49.4	第157Ⅷ
2	不整形	(51)×44	13×13	43.2	第157Ⅷ	88	方形	30×29	20×20	36.4	第157Ⅷ
3	方形	35×25	15×12	57.8	第157Ⅷ	89	方形	39×35	24×18	21.2	第157Ⅷ
4	方形	48×34	25×18	46.6	第157Ⅷ	90	方形	(45)×41	20×20	58.8	第157Ⅷ
5	方形	48×34	15×12	53.5	第157Ⅷ	91	方形	30×20	14×8	28.0	第157Ⅷ
6	方形	36×35	10×8	38.4	第157Ⅷ	92	方形	29×29	14×13	23.9	第157Ⅷ
7	方形	40×(28)	11×9	85.2	第157Ⅷ	93	方形	27×23	7×6	21.3	第157Ⅷ
8	楕円形	48×28	10×7	40.2	第157Ⅷ	94	方形	64×42	26×13	56.4	第157Ⅷ
9	方形	23×21	12×9	24.1	第157Ⅷ	95	方形	35×29	29×20	52.2	第157Ⅷ
10	方形	26×22	14×13	46.3	第157Ⅷ	96	方形	38×36	11×11	39.5	第157Ⅷ
11	方形	27×23	11×9	41.3	第157Ⅷ	97	方形	19×15	10×4	68.0	第157Ⅷ
12	方形	37×30	20×13	30.5	第157Ⅷ	98	方形	21×(18)	14×8	35.1	第157Ⅷ
13	方形	25×23	16×10	39.1	第157Ⅷ	99	方形	45×41	25×12	47.4	第157Ⅷ
14	方形	33×31	18×15	39.0	第157Ⅷ	100	方形	28×22	19×7	30.5	第157Ⅷ
15	円形	35×26	20×17	47.0	第157Ⅷ	101	方形	20×18	12×11	22.4	第157Ⅷ
16	不明	40×(17)	15×5	50.9	第157Ⅷ	102	方形	19×18	7×6	25.9	第157Ⅷ
17	方形	30×27	18×15	24.8	第157Ⅷ	103	方形	22×20	9×7	30.8	第157Ⅷ
18	方形	43×39	25×16	21.4	第156Ⅷ	104	方形	21×18	8×6	20.3	第157Ⅷ
19	方形	43×36	11×11	71.8	第156Ⅷ	106	方形	35×30	20×14	48.1	第157Ⅷ
20	不明	29×18	11×9	28.3	第156Ⅷ	107	方形	27×25	15×15	45.8	第157Ⅷ
21	円形	33×31	13×13	46.5	第157Ⅷ	108	方形	20×16	14×9	21.6	第157Ⅷ
22	円形	39×38	26×23	20.5	第157Ⅷ	109	方形	23×19	19×11	22.8	第157Ⅷ
23	方形	43×35	14×5	39.1	第157Ⅷ	110	不明	33×(25)	20×(20)	26.6	第157Ⅷ
24	方形	24×23	14×13	25.0	第157Ⅷ	111	方形	28×26	16×15	35.1	第157Ⅷ
25	円形	33×24	13×10	19.4	第157Ⅷ	113	方形	40×31	16×16	68.6	第157Ⅷ
26	方形	24×23	13×13	18.7	第157Ⅷ	118	方形	34×25	15×15	30.8	第157Ⅷ
27	円形	29×29	8×8	47.8	第157ⅧHP29I	119	不整形	41×27	12×7	25.8	第160Ⅷ
28	円形	35×31	10×5	36.8	第157Ⅷ	120	方形	23×22	10×9	20.8	第160Ⅷ
29	円形	30×27	13×8	55.5	第157Ⅷ	121	不明	63×(55)	35×(40)	37.3	第163Ⅷ
30	円形	31×31	8×5	61.5	第157Ⅷ	122	方形	24×23	17×17	23.4	第163Ⅷ
31	方形	23×21	11×6	65.1	第157Ⅷ	123	方形	40×32	19×19	44.4	第163Ⅷ
32	円形	32×31	20×15	15.3	第157Ⅷ	124	楕円形	57×30	19×15	47.1	第163Ⅷ
33	方形	27×24	12×5	67.7	第157Ⅷ	125	不整形	37×32	18×17	39.6	第163Ⅷ
34	方形	30×29	23×23	27.0	第157ⅧHP25I	126	方形	53×35	18×14	50.8	第163Ⅷ
35	円形	35×30	20×15	64.8	第157Ⅷ	127	円形	32×30	14×6	56.1	第164Ⅷ
36	不明	(21×19)	(19×11)	24.1	第157Ⅷ	128	方形	43×35	22×18	40.6	第163Ⅷ
39	方形	33×29	16×10	28.9	第156Ⅷ	129	円形	39×38	20×11	42.2	第163Ⅷ
40	方形	39×33	24×14	67.8	第156Ⅷ	130	円形	32×26	6×5	17.6	第163Ⅷ
45	方形	29×(31)	21×14	33.3	第159Ⅷ	131	円形	(32×30)	18×12	55.9	第163Ⅷ
46	方形	37×(49)	23×17	48.9	第159Ⅷ	132	方形	(45×45)	17×16	54.1	第163Ⅷ
48	不整形	50×41	15×12	68.4	第156ⅧHP48	133	不整形	(45×38)	20×15	51.7	第163Ⅷ
49	方形	35×34	16×16	52.7	第156Ⅷ	134	円形	27×27	15×14	20.4	第163Ⅷ
52	方形	28×20	11×5	49.1	第156Ⅷ	135	円形	29×27	19×18	37.8	第163Ⅷ
53	円形	26×26	17×13	52.5	第156Ⅷ	136	円形	33×32	16×11	59.6	第163Ⅷ
54	方形	25×25	13×12	33.3	第156Ⅷ	137	円形	36×27	17×10	23.9	第162Ⅷ
55	方形	31×(29)	17×5	43.4	第156Ⅷ	138	円形	31×30	17×13	42.5	第162Ⅷ
56	円形	28×25	13×10	44.6	第156Ⅷ	139	円形	32×28	16×13	47.9	第162Ⅷ
57	方形	28×25	13×11	35.3	第156Ⅷ	140	円形	32×31	13×11	27.7	第162Ⅷ
58	方形	29×25	10×7	58.9	第156Ⅷ	141	方形	52×47	22×11	39.5	第161Ⅷ
59	方形	27×22	8×8	15.8	第156Ⅷ	142	方形	53×(35)	13×8	45.4	第161Ⅷ
60	方形	30×26	11×7	47.6	第157Ⅷ	143	不明	38×(28)	22×11	39.5	第160ⅧHP22
62	方形	38×(32)	20×13	46.3	第157Ⅷ	144	円形	24×21	9×5	26.7	第159Ⅷ
63	方形	27×(25)	19×15	52.5	第157Ⅷ	147	方形	38×35	22×17	32.0	第159Ⅷ
64	方形	43×39	18×17	70.0	第157Ⅷ	148	方形・方形	44×38	19×18	38.4	第159Ⅷ
65	方形	27×(25)	14×11	29.5	第157Ⅷ	149	三角形	42×29	26×18	19.6	第159Ⅷ
66	方形	39×37	14×13	49.1	第157Ⅷ	150	円形	27×26	8×7	24.1	第160Ⅷ
67	円形	50×45	15×8	22.0	第157Ⅷ	151	不整形	73×30	15×12	57.6	第160Ⅷ
68	円形	(25)×21	11×8	30.0	第157Ⅷ	152	方形	25×24	11×9	55.5	第160Ⅷ
69	円形	25×25	17×11	18.5	第157Ⅷ	153	不明	57×(22)	6×5	54.4	第160Ⅷ
70	円形	30×25	15×8	35.0	第157Ⅷ	154	円形	35×31	7×7	37.4	第160Ⅷ
71	方形	34×33	14×13	54.4	第157Ⅷ	155	方形	28×25	12×10	36.6	第160Ⅷ
73	方形	47×35	19×17	51.5	第157Ⅷ	156	円形	27×20	10×6	52.0	第163Ⅷ
74	方形	21×20	8×8	53.9	第157Ⅷ	157	方形	23×22	12×12	22.0	第160Ⅷ
75	円形	34×28	15×13	34.0	第157Ⅷ	158	方形	59×(36)	29×15	45.3	第161Ⅷ
76	方形	27×27	17×17	30.6	第157Ⅷ	159	方形	23×22	13×8	19.9	第159Ⅷ
77	方形	42×33	20×18	55.3	第157Ⅷ	160	方形	27×26	10×8	25.7	第159Ⅷ
78	方形	30×30	17×15	45.1	第157Ⅷ	161	方形	19×15	13×10	29.7	第159Ⅷ
79	不整形	34×24	25×17	23.6	第157Ⅷ	162	円形	38×33	19×17	35.4	第161Ⅷ
80	方形	30×28	19×17	26.4	第157Ⅷ	163	円形	35×27	17×14	24.6	第161Ⅷ
81	方形	27×(25)	16×14	38.1	第157Ⅷ	164	不明	81×(36)	10×(9)	37.9	第163Ⅷ
82	方形	25×(25)	18×15	49.3	第157Ⅷ	165	不明	36×(16)	12×(8)	33.0	第161Ⅷ
83	方形	22×20	14×13	30.6	第157Ⅷ	166	不明	27×(17)	13×(11)	20.3	第159Ⅷ
86	方形	45×34	23×22	49.6	第157Ⅷ	167	不明	22×(19)	11×(9)	23.4	第160Ⅷ

(単位:cm)

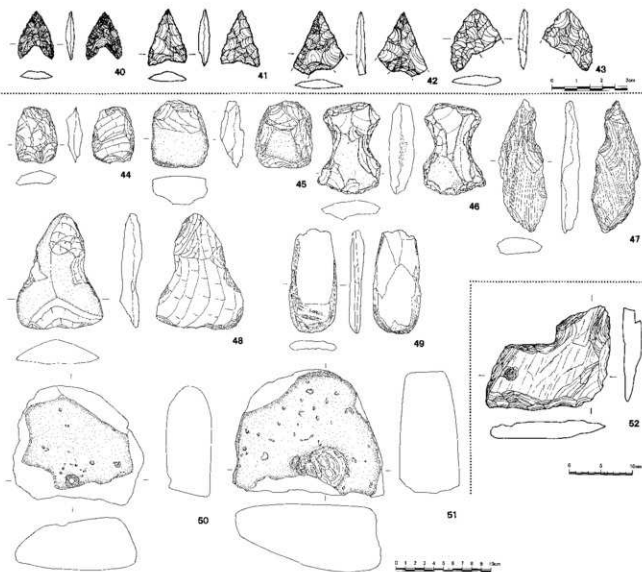
No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
168	円形	19×(20)	8×7	24.0	第160図
169	不明	27×(-)	13×(12)	50.8	第160図
170	方形	23×22	10×6	19.9	第160図
171	楕円形	36×25	24×10	15.5	第160図
172	方形	23×19	13×12	16.0	第160図
173	不明	(89×21)	(22×3)	41.8	第161図HP19
176	方形	19×17	7×6	25.8	第163図
179	円形	37×30	13×12	45.7	第160図
180	方形	34×31	15×11	48.3	第160図
181	不整形	43×33	14×12	36.4	第160図
182	方形	37×34	16×13	42.1	第160図
183	方形	25×18	18×13	19.4	第160図
184	不明	34×27	18×12	32.4	第160図
185	方形	35×27	8×8	29.8	第160図
186	方形	27×23	17×16	43.1	第160図
187	方形	28×27	17×16	39.2	第160図
188	円形	23×20	12×11	43.9	第160図
189	不明	29×27	18×16	37.4	第160図
190	方形	27×26	15×13	39.0	第160図
191	方形	28×27	16×16	35.5	第160図
192	方形	26×25	13×13	39.4	第160図
193	円形	26×23	18×16	46.0	第160図
194	方形	27×26	16×15	29.2	第163図
200	円形	31×28	22×15	20.9	第161図
201	方形	35×29	20×16	26.2	第161図
202	楕円形	55×42	39×25	28.8	第161図
203	方形	34×26	12×11	40.2	第159図
204	円形	36×(21)	5×3	32.1	第161図
205	方形	54×29	20×17	67.1	第161図
206	方形	69×41	13×13	82.9	第161図
207	方形	26×24	16×16	34.4	第157図
208	方形	25×22	16×11	35.8	第159図
209	方形	25×22	15×12	19.2	第159図
210	方形	31×27	15×14	29.4	第159図
211	方形	21×18	13×10	41.3	第159図
212	方形	20×18	15×12	15.4	第159図
213	方形	23×21	12×12	25.8	第159図
214	方形	31×28	14×11	46.9	第159図
215	不整形	63×35	45×28	64.6	第160図
216	方形	32×29	15×11	52.2	第160図
217	三角形	53×37	32×11	61.2	第160図
218	円形	42×35	25×21	52.5	第160図
219	方形	30×24	12×11	48.1	第160図
220	円形	25×22	6×4	36.1	第160図
221	不明	25×25	14×10	30.6	第160図
222	方形	27×22	13×12	29.0	第159図
224	方形	28×22	14×12	33.8	第163図
225	円形	27×26	12×7	26.1	第163図
226	円形	30×24	10×10	36.4	第163図
227	方形	40×33	21×16	36.8	第163図
228	円形	39×35	24×15	54.2	第163図
229	方形	31×30	16×15	48.4	第163図
230	方形	40×35	23×17	48.6	第156図
231	方形	46×30	14×10	28.0	第156図
232	楕円形	47×31	17×16	26.6	第156図
233	方形	40×33	21×11	45.3	第156図
234	円形	29×23	16×11	25.8	第156図
235	不整形	40×28	24×11	29.2	第156図
236	円形	29×22	13×13	44.9	第156図
237	方形	30×21	11×10	30.0	第156図
238	方形	37×37	17×17	50.7	第156図
239	円形	32×29	19×17	22.5	第156図
240	方形2個	52×41	15×14	53.8	第156図
241	方形2個	38×37	18×10	48.5	第156図
242	方形	39×38	12×10	69.4	第156図
243	方形	44×37	17×12	72.3	第156図
244	楕円形	37×22	15×10	50.4	第156図
245	方形	50×31	17×10	71.2	第156図
246	方形	47×35	15×14	71.7	第156図
247	方形	30×25	11×11	39.5	第156図
248	方形	34×30	11×10	40.3	第156図
249	方形	33×32	12×10	33.9	第156図
250	方形	38×(22)	20×12	32.8	第157図

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
252	方形	48×33	20×16	64.5	第157図
253	方形	73×42	21×18	76.3	第157図
254	方形2個	40×38	25×23	80.4	第157図
255	方形	38×30	24×19	44.5	第157図
256	方形	24×23	19×13	34.5	第157図
257	方形	30×27	17×17	44.5	第157図
258	方形	29×28	25×23	56.6	第157図
259	方形	20×19	11×9	22.2	第157図
260	方形	18×18	10×10	32.6	第157図
261	方形	53×39	23×20	63.1	第157図
262	方形	27×25	16×11	12.0	第157図
263	方形	27×17	11×11	20.5	第157図
264	方形	55×55	16×15	80.0	第157図
265	方形	31×(22)	21×(19)	26.0	第157図
266	円形	51×35	20×18	34.5	第157図
267	方形	39×33	21×18	51.5	第157図
268	方形	65×(54)	23×14	44.3	第157図
269	方形	38×37	19×17	37.5	第157図
270	円形	29×(16)	12×8	31.6	第157図
271	円形	(35)×(15)	(30)×(11)	29.8	第157図
272	方形	17×17	10×8	86.6	第157図
273	方形	28×26	13×12	94.7	第157図
275	円形	30×24	17×13	39.0	第157図
276	方形	42×40	23×22	33.5	第157図
277	方形	23×20	14×8	26.0	第157図
278	方形	44×28	20×15	29.7	第157図
279	方形	34×30	16×15	57.8	第157図
281	方形	67×38	13×13	44.2	第157図
282	方形	20×19	13×10	26.3	第157図
283	方形	23×21	12×12	23.0	第157図
284	方形	22×22	9×8	53.5	第157図
285	方形	23×19	16×13	22.8	第163図
286	円形	28×28	15×14	24.3	第163図
287	不整形	76×64	19×12	58.8	第163図
288	方形	28×27	18×11	23.4	第163図
289	楕円形	49×34	22×20	39.4	第162図
291	円形	26×25	17×15	41.0	第163図
292	円形	29×27	14×12	34.3	第163図
293	方形	18×14	10×4	31.2	第163図
294	円形	30×20	15×10	57.7	第161図
295	円形	24×16	11×6	20.0	第161図
296	不整形	49×44	30×16	48.2	第162図
297	方形	44×26	15×14	23.5	第157図
298	方形	50×32	14×13	29.5	第157図
299	方形	30×28	21×19	24.5	第157図
300	方形	22×17	14×12	19.5	第157図
301	方形	35×34	20×15	55.5	第157図
302	方形	49×41	31×18	50.0	第157図
303	方形	45×36	15×15	74.6	第157図
304	方形	33×33	14×12	54.0	第157図
305	円形	36×33	14×14	30.5	第157図
306	方形	41×30	12×7	69.6	第156図
307	円形	54×50	12×11	49.0	第156図
308	方形	21×17	14×13	56.5	第157図
309	方形	33×25	17×17	43.9	第157図
310	方形	35×23	30×16	37.2	第157図
311	方形	35×(25)	19×18	66.1	第157図
312	方形	29×26	20×17	40.0	第157図
313	方形	26×22	13×10	35.3	第157図
314	方形	30×26	17×13	35.4	第157図
315	方形	31×25	22×19	32.7	第157図
316	方形	41×(39)	15×13	58.7	第157図
317	方形	27×26	12×7	15.3	第157図
318	方形	40×34	14×12	70.0	第157図
319	方形	33×28	22×21	67.1	第156図
320	方形	17×16	10×7	34.3	第157図
321	不整形	25×19	11×8	41.8	第156図
322	方形	16×14	9×5	17.5	第157図
323	方形	25×(21)	18×(13)	33.6	第156図
325	方形	31×31	21×21	21.4	第157図
326	方形	25×20	5×4	60.7	第157図
327	不明	26×(16)	15×10	16.9	第157図HP22



第166図 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物① (1/4・1/6・1/1)





第167図 浄禪寺跡遺跡第29地点出土遺物② (2/3・1/4・1/6)

第89表 浄淨寺跡遺跡第29地点出土遺物観察表

No	出土遺構名	種別・器種	単位cm・g			技法・文様・その他	推定産地	推定年代	残存・備考
			口径・長さ	底径・幅・内径	高さ・厚さ				
1	井戸2	陶器・大甕	-	-	-	口縁部N字状口縁、自然釉	常滑	13世紀中～14世紀	口縁部
2	井戸2	陶器・甕	-	-	-	黄灰色、外面菊印文	-	中世	胴部
3	井戸2	石製品・砥石	(9.9)	3.1	2.2	石質：凝灰岩/重量95.4g	-	中近世	2/3
4	井戸8	瓦質土器・鉢	-	-	-	紐作り成形/内面横方向條で	在地	-	口縁部
5	井戸10	陶器・甕	-	-	-	輪轆成形/内面茶褐色に外面黄緑色灰釉	常滑	中世	胴部
6	井戸12	須臾器・坏	-	(7.0)	-	輪轆成形/回転糸切り灰、白色海綿骨針含む	南比企	-	底部
7	井戸14	陶器・甕	-	-	-	灰色、三ツ巴文、割れ口磨痕有り転用砥石	-	-	胴部
8	井戸13	土器・浅鉢	-	-	-	無文口縁部	-	縄文中期	口縁部
9	井戸13	石製品・砥石	(6.0)	4.0	4.0	石質：凝灰岩/重量117.6g	-	中近世	1/2
10	井戸13	石製品・砥石	(9.4)	3.6	3.2	石質：凝灰岩/重量197.1g	-	中近世	2/3
11	井戸15	陶器・鉢	-	-	-	輪轆成形/口縁部内側に突起が縦、器口6本単位	瀬戸美濃	16世紀後半	口縁部
12	井戸15	陶器・甕	-	-	-	胴下半左から右方向に條でヒダ状調整痕有り	常滑	-	底部
13	井戸15	板碑	(18.3)	(14.8)	2.8	石質：緑泥片岩/重量1,167.1g/ 元年 丁巳 口碑門/1257(正嘉元)年、1317(文保元)年とみられる	-	13世紀中～14世紀前半	一部
14	溝1	陶器・拵鉢	-	-	-	輪轆成形/器口6本単位	-	中世	底部
15	溝2	陶器・拵鉢	-	-	-	輪轆成形/器口8本単位	瀬戸美濃	中世	胴部
16	土坑52	土器・かわらけ	12.5	6.7	3.8	いぶい褐色/輪轆成形/底部回転糸切り・板状圧痕、内面上部にトビガン状の幅1～1.5mm長さ2cmの刷毛を全周させその上に粘土で化粧を施す/内外面は表面割離有り、内外面係付着	在地	14世紀	3/4
17	表土	縄文土器	-	-	-	細線起線文の間に沈線施文、胎土に縦線・金雲母含む	-	縄文早期後葉	胴部
18	土坑30	縄文土器	-	-	-	地文R L横文+6条結節浮線文、金雲母大量に含む	-	縄文前期末葉	胴部
19	廻跡	縄文土器	-	-	-	5本単位木口状工具の条線文	-	縄文中期?	胴部
20	廻跡	縄文土器	-	-	-	口縁部無文+横沈線+R 1横文、20と21は同一個体とみられる	-	加曾利E III	口縁部
21	廻跡	縄文土器	-	-	-	-	-	加曾利E III	口縁部
22	表土	縄文土器	-	-	-	口縁部無文+横沈線+L R横文	-	加曾利E IV	口縁部
23	P131	縄文土器	-	-	-	-	-	加曾利E IV	胴部
24	P131	縄文土器	-	-	-	-	-	加曾利E IV	胴部
25	廻跡	縄文土器	-	-	-	地文R L+横沈線+沈線+磨消	-	加曾利E IV	胴部
26	廻跡	縄文土器	-	-	-	地文L r+沈線+磨消	-	加曾利E IV	胴部
27	P132	縄文土器	-	-	-	地文L R	-	加曾利E	胴部
28	P132	縄文土器	-	-	-	地文R L+沈線	-	加曾利E	胴部
29	廻跡	縄文土器	-	-	-	地文L r+沈線+磨消	-	加曾利E IV	胴部
30	表土	縄文土器	-	-	-	地文L r+沈線区画内磨消縄文	-	称名寺1	口縁部
31	表土	縄文土器	-	-	-	沈線区画内列点文	-	称名寺2	口縁部
32	表土	縄文土器	-	-	-	口唇部突起+口唇沈線と刺突、口唇内面は沈線渦巻文、外面は刺突隆帯+8字状隆帯	-	堀之内2	口縁部
33	表土	縄文土器	-	-	-	外面段差沈線文、内面並行沈線	-	加曾利B 1	胴部
34	P46	縄文土器	-	-	-	沈線文+磨消	-	縄文中期～後期	胴部
35	表土	縄文土器	-	-	-	木口状工具の細い条線文	-	縄文中期	口縁部
36	土坑1	縄文土器	-	-	-	胴下部～底部、外面・底面無文	-	縄文中期	底部
37	井戸1	縄文土器	-	-	-	網代痕有り	-	縄文後期	底部
38	表土	石製品・不明	4.5	-	2.4	円形でやや厚みのある扁平環の中央部を穿孔するが貫通はしていない/重量09.3g	-	中近世	-
39	トンチ7	鉄貨	2.5	-	0.11	寛水通貨/重量2.6g/(新寛永)裏面より穿孔	-	1697年(初铸)	一部欠
40	廻跡	石器・石鏃	1.9	1.4	0.3	石質：黒曜石/重量0.55g	-	縄文時代	完形
41	トンチ8	石器・石鏃	2.2	1.5	0.4	石質：チャート/重量1.04g	-	縄文時代	完形
42	廻跡	石器・石鏃	2.4	2.1	0.4	石質：石英/重量1.41g	-	縄文時代	脚部一部欠
43	表土	石器・石鏃	2.5	1.9	0.4	石質：チャート/重量1.41g	-	縄文時代	脚部一部欠
44	P6	石器・打製石斧	5.7	4.3	1.3	石質：泥岩/重量45.96g	-	縄文時代	完形
45	井戸16	石器・打製石斧	7.0	6.0	2.8	石質：泥岩/重量131.7g	-	縄文時代	完形
46	井戸8	石器・打製石斧	9.5	6.5	3.0	石質：細粒砂岩/重量159.7g	-	縄文時代	完形
47	井戸14	石器・打製石斧	13.9	4.7	1.8	石質：緑泥片岩/重量156.2g	-	縄文時代	完形
48	廻跡	石器・打製石斧	12.0	9.0	2.1	石質：黒色細粒砂岩/重量251.5g	-	縄文時代	完形
49	表土	石器・磨製石斧	(10.8)	5.0	1.4	石質：輝緑石/重量108.1g	-	縄文時代	一部欠
50	井戸11	石器・石圓石	(11.9)	(13.8)	5.4	石質：砂岩/重量1,303.5g	-	縄文時代	一部
51	井戸8	石器・石圓石	(12.8)	(15.9)	7	石質：砂岩/重量2,077.8g	-	縄文時代	1/2
52	井戸15	石器・凹石	(14.8)	(18.3)	2.8	石質：雲母片岩/重量1,167.1g	-	縄文時代	一部

## 第6章 浄禪寺跡遺跡第30地点の本調査

### I 本調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成によるものである。2007年9月14日から10月9日まで行なった試掘調査に基づき申請者と協議した結果、調査区北側部分について隣地境の壁や上下水道管等の埋設等で遺跡へ影響が及び開発の変更が出来ないため、原因者負担による本調査を実施することになった。その他、建物建設部分は30cm以上の保護層が保たれるため保存措置とした。

調査区は遺跡範囲の西部で浄禪寺の境内内に有り、かつて浄禪寺川の湧水場所とされていた場所の南方約30mに位置する。旧道により三角形の区域は東南西の三方から北に向かって楕円状に傾斜する。

本調査は2007年10月9日から開始し、人力による表面精査で遺構範囲を確認した。遺構調査は人力で覆土を除去しつつ出土遺物を残し、土層図・遺構平面図・調査区域図の作成と写真撮影を行ない、同年11月2日に調査を終了した。検出した遺構は中世から近世の茶毘跡5基、木炭窯1基、土坑15基、ピット61基、縄文時代の落とし穴6基である。落とし穴、土坑、ピットの詳細については第1部第18章IV浄禪寺跡遺跡第30地点参照。

### II 遺構と遺物

#### (1) 茶毘跡

茶毘跡は全部で5基検出した。茶毘跡1・3が隣接しピット59と重複し、ピット59は茶毘跡より古い。

【茶毘跡1】本調査区の西部で東側には茶毘跡3が位置する。平面形態はT字状を呈する。主体部の結合部壁周辺と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。底部から覆土層に太さ約5～8cmの炭化物が残りその上に細かな炭化物と焼土、骨片と釘などが出土した。炭化物は主体部全体に48～88cmの楕円形範囲、骨片は29～42cmの楕円形範囲に広がる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約10°の傾斜で溝状に掘り込まれている。

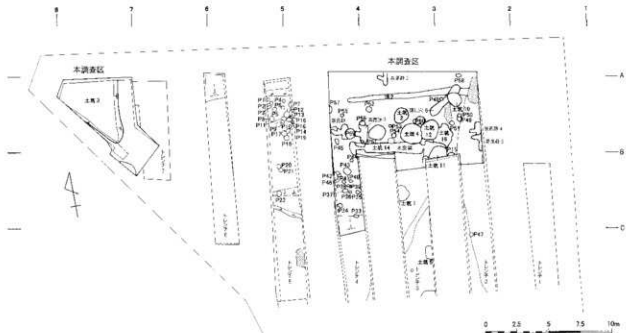
規模は焚口の長さ54cm・幅22～25cm・深さ14.3cm、焚口から主体部までの長さ102cmである。主体部は長軸109cm・幅50cm・深さ36.5cmである。

【茶毘跡2】本調査区の北部に位置する。平面形態はT字状を呈する。焚口の壁から主体部の結合部壁周辺と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。炭化物は主体部全体に広がる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約24°の傾斜で溝状に掘り込まれている。

規模は焚口の長さ(44)cm・幅20cm・深さ20.9cm、焚口から主体部までの長さ75cmである。主体部は長軸106cm・幅30cm・深さ30.1cmである。

【茶毘跡3】本調査区の西部で西側に茶毘跡1が位置する。平面形態はT字状を呈する。主体部の結合部壁と、主体部反対側の壁が最も良く焼けている。焚口(煙道)から主体部にかけては約28°の傾斜で溝状に掘り込まれている。炭化物の広がりは焚口から主体部全



第168図 浄禪寺跡遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)

体に、骨片は焚口と主体部の結合部周辺の35～69cmの楕円形範囲に広がる。

規模は焚口の長さ67cm・幅25～33cm・深さ46.6cm、焚口から主体部までの長さ113cmである。主体部は長軸133cm・幅45cm・深さ47.2cmである。

【茶見跡4】本調査区の東部に位置し調査区外へ延び、茶見跡5と重複し本遺構が新しい。焚口と主体部の一部を検出したのみで全体形は不明であるが、T字状を呈するとみられる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約20°の傾斜で掘り込まれている。

規模は焚口の長さ74cm・深さ19.5cmである。主体部の深さは31cmである。

【茶見跡5】本調査区の東部に位置し調査区外へ延び、茶見跡4と重複し本遺構が古い。焚口と主体部の一部を検出したのみで全体形は不明であるが、T字状を呈するとみられる。

焚口(煙道)から主体部にかけては約14°の傾斜で掘り込まれている。

規模は焚口の長さ65cm・深さ45.4cmである。主体部の深さは52cmである。

## (2) 木炭窯

本調査区の南部に位置する。削平等により全容は不明である。炭化室は西側、作業場(前庭部)と見られる広がり東側に位置する。

平面形態は炭化室が長方形、作業場は方形から台形を呈するとみられる。炭化室の底面は焼けて焼土が広

がり覆土には炭化物もみられた。

炭化室の主軸方位はN-80°-W、窯床傾斜は約2°である。規模は炭化室が全長582cm・上幅90～100cm・下幅65～90cm・深さ19cmである。作業場は長軸(170)cm・短軸100cm・深さ(37)cmである。炭化室中央には主軸線に沿って長さ588cm、上幅20～30cm、下幅5～20cmの溝がはしる。

## (3) 土坑3

土坑3は調査区の北西隅、旧道が二股に分かれる部分に位置する。本遺構の南側にみられる溝状部分について、当初は別遺構のイモビツ等とも考えられたが、明確な切り合い関係が確認できないため、本遺構と同時に埋没したものと考えられる。

検出部分は三角形を呈するが全容は不明である。検出部の規模は確認面径(660)×(410)cm・底径618×(370)cm・深さ123.2cmである。遺構の形状が二股に分かれる道と並行することから、道が築造されてから本遺構が存在したものと考えられる。覆土層2層で焼土と炭化物、近代のコバルト染付の器片が出土、7層からは瀬戸美濃系磁器片が出土している。また覆土層には硬化面が断続的にみられ、人の立ち入りが考えられる。その他の土坑については第37表参照。

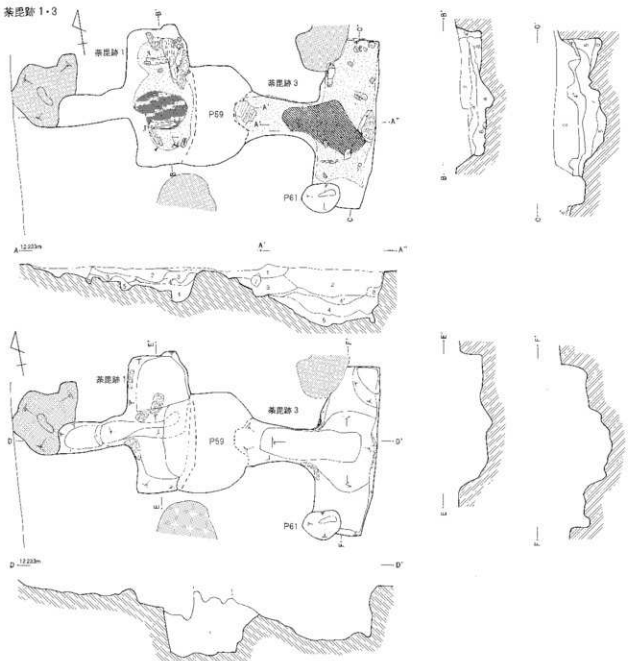
## (4) 出土遺物

土坑3覆土層からややまとまった遺物が出土しているが陶磁器は小破片が多い。ただし砥石が3点出土する。茶見跡1・4からは角釘が複数出土する。遺物の詳細については第90表のとおりである。

第90表 浄輝寺跡遺跡第30地点出土遺物観察表

No.	出土遺物名	種類・図種	単位cm・g			技法・文様・その他	鑑定産地	鑑定年代	残存・備考	
			口径・長さ	口径・幅・高さ	重量					
1	土坑3	磁器/碗	-	3.8 (3.2)	-	轆轤成形/染付。外面毛彫り菊花文、見込み二葉團扇・花文	瀬戸美濃	1840～1860年代	一部	
2		磁器/小坏	(7.0)	2.6	2.7	轆轤成形。断面陶片高台、コバルト染付御陶文。高台内土粒で中に「吉」銘	瀬戸美濃	1870年代	一部	
3		磁器/紅皿	5.2	1.6	1.6	型押成形/白磁。外面無軸・型押煎茶草文	瀬戸美濃	-	一部	
4		磁器/小坏	-	3.6 (2.7)	-	轆轤成形/コバルト染付	瀬戸美濃	1870年代以降	一部	
5		土製品/泥メナ	2.5	2.0	0.5	3.10	芥子面、フ	在地	近世以降	完形
6		土製品/泥メナ	2.7	2.0	0.7	3.86	芥子面、おかめ	在地	近世以降	完形
7		石製品/砥石	(5.0)	2.2	1.2	23.34	右質：凝灰岩/断面砥使用	-	中・近世	一部欠
8		石製品/砥石	(9.5)	2.6	1.9	68.35	右質：凝灰岩/断面砥使用	-	中・近世	一部欠
9		石製品/砥石	(12.0)	2.5	2	95.91	右質：凝灰岩/断面砥使用	-	中・近世	一部欠
10		鏡貨	2.5	-	0.12	2.51	煎水通貨(新煎水文銭)	寛政	1668年(紹徳)	完形
11	石器/石鏝	2.7	1.7	0.4	1.37	石質：長石	-	縄文時代	一部欠	
12	鉄製品/和釘	(2.2)	0.4	0.2	1.26	鉄製/断面方形	-	13～14世紀	先端欠	
13	鉄製品/和釘	5.1	0.5	0.3	5.72	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	完形	
14	鉄製品/和釘	(4.5)	0.5	0.3	4.53	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	先端欠	
15	鉄製品/和釘	(4.5)	0.5	0.48	5.86	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	完形	
16	鉄製品/和釘	(3.8)	0.4	0.2	1.50	鉄製/断面方形	-	13～14世紀	頭部欠	
17	鉄製品/和釘	(3.8)	0.4	0.2	3.63	鉄製/断面方形	-	13～14世紀	頭部欠	
18	鉄製品/和釘	(5.3)	0.4	0.3	7.56	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	ほぼ完形	
19	鉄製品/和釘	(5.3)	0.4	0.3	4.34	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	ほぼ完形	
20	鉄製品/和釘	(2.9)	0.5	0.4	1.85	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	先端欠	
21	鉄製品/和釘	(4.5)	0.5	0.4	4.53	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	先端欠	
22	鉄製品/和釘	3.8	0.6	0.3	2.28	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	完形	
23	鉄製品/和釘	(5.3)	0.4	0.3	3.51	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	ほぼ完形	
24	鉄製品/和釘	(4.4)	0.4	0.35	3.70	鉄製/断面方形。頭部片方に叩き曲げた鋭形	-	13～14世紀	ほぼ完形	
25	鉄製品/和釘	4.2	0.4	0.32	3.32	鉄製/断面方形	-	13～14世紀	頭部欠	
26	P21	石製品/砥石	8.4	4.8	3.4	120.65	右質：凝灰岩/断面砥使用	-	中・近世	完形
27	遺構外	陶器/磁鉢	-	-	11.7	轆轤成形/口縁部横溝で、胴部縦方向溝で、胴下部に斜上する横溝。ヒタ鉄を旨す	常滑	15世紀	一部	
28		石器/砥石・磨石	8.7	8.5	4.9	555.67	右質：砂岩	-	縄文時代	完形

茶毘跡 1・3



## 茶毘跡 1

1. 暗褐色土 擾乱
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、1~1.5 cm以下ロームブロック少し、5cm以下ローム粒やや多く、腐炭化物 焼土層中に含む
3. 暗褐色土主体 締り有、粘性有、炭灰物多く含む全体の色濃緑い、5cm以下ローム粒・焼土粒やや多く同骨片少し含む
- 4・4' 暗褐色土 締り有、粘性有、比較的遺存状態の良い炭灰材と土壌化した炭灰物多く含む、遺構中央付近は 2 層土層がある、3 cm以下骨片比較的多く集る、2 cm以下ロームブロック・焼土ブロック存在、全体は 2 cm以下ロームブロック・粒多く含む
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、3cm以下ローム粒やや多く含む
6. 灰色土 炭灰物

## 茶毘跡 3

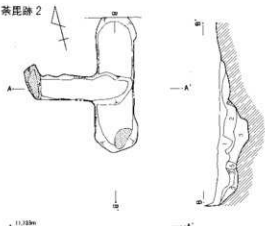
1. 暗褐色土 擾乱
2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、7 cm以下ロームブロック多く、5cm以下ローム粒やや多く、1 cm以下炭灰物少し含む

3. 暗褐色土 締り有、粘性有、2 cm以下ロームブロック、2cm以下ローム粒少し、1 cm以下炭灰物やや多く含む、全体の色濃緑い、5cm以下の還元焼土層中に含む
4. 暗褐色土 締り有、粘性有、灰色味がかり、土壌化した炭灰物多く、5cm以下ローム粒多く、遺存状態の良い炭灰材多く、1 cm以下骨片比較的多く含む、焼土ブロック存在する
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、土壌化した炭灰物と 2mm以下ローム粒混ざり、3 cm以下ロームブロックやや多く、骨片僅かに含む
6. 暗褐色土 締り有、粘性有、1 cm以下ロームブロック多く含む
- ピット 59  
1. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、7 cm以下ロームブロック多く、5 cm以下ローム粒やや多く、1 cm以下炭灰物少し含む

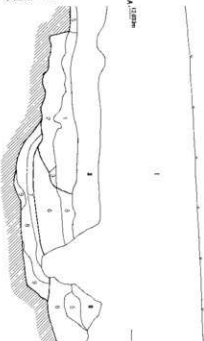
0 0.5 1m

第169図 淨禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1・3 (1/30)

茶昆跡 2



茶昆跡 4・5

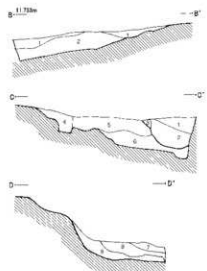
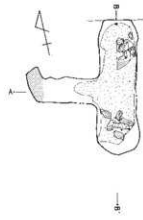


茶昆跡 2

- 1 緑褐色土 粘り有、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、1 cm 以下ロームブロック・黄土ブロック・5mm 炭化物少し含む
- 2 緑褐色土 粘り有、粘性有、黒色味、2 cm 以下炭化物やや多く、5mm 以下ローム粒・焼土粒やや多く、2 cm 黄土ブロック少し含む、3 mm 以下骨片少量だが目立つ
- 3 3' 緑褐色土(上面層) 粘り有、粘性有、遺存状態の良い炭化材多く、土壌化したシミ状炭化材多く、2 cm 以下ロームブロック・粒多く、1 cm 以下骨片比較的多く均一に含む、黄土ブロック存在
- 4 黒褐色土 粘りやや弱、粘性有、3mm 以下ローム粒多く含む
- 5 ロームブロック

茶昆跡 4(1~3 層)、茶昆跡 5(7~9 層)

- 1 緑褐色土 粘り強、粘性有、3mm 以下ローム粒と 5mm 以下焼土少し、5mm 以下炭化物やや多く含む
- 2 緑褐色土 粘り強、粘性弱、1.5 cm 以下炭化物多量、1 cm 以下焼土ブロックやや多く、2mm 以下ローム粒少し、骨片・灰含む
- 3 緑褐色土 粘り強、粘性有、2mm 以下ローム粒、5mm 以下炭化物少し含む



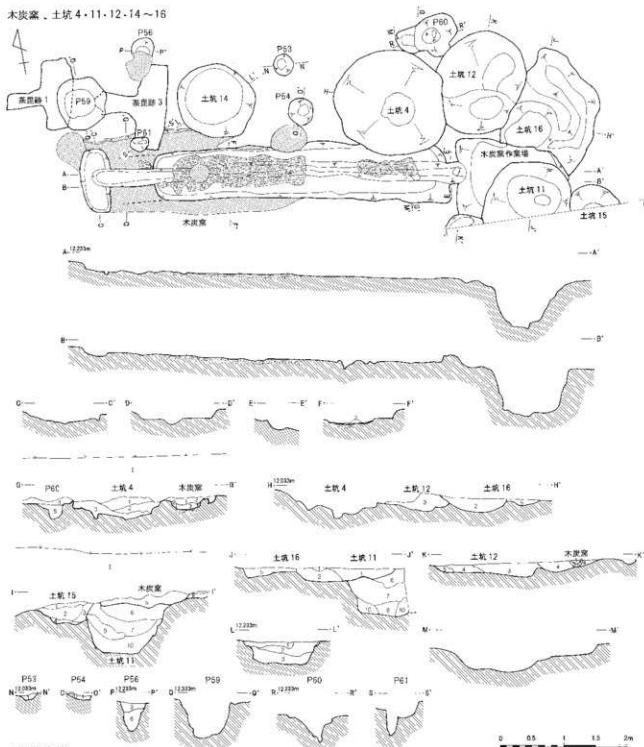
- 4 緑褐色土 粘り強、粘性有、シミ状ローム、2mm 以下ローム粒やや多く含む、色調明い。
- 4~6 層は茶昆跡 4 と茶昆跡 5 の間にある階層
- 5 緑褐色土 粘り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、同炭化物少し、1 cm 以下シミ状黒褐色土ブロック少し含む
- 6 緑褐色土 粘り強、粘性有、2mm 以下黄白色土粒多量、3mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下焼土・5mm 以下炭化物少し、5 cm 以下シミ状黒褐色土少し含む色調は 5 層より暗い、茶昆跡 5 を覆う均合層か
- 7 緑褐色土 粘り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、シミ状黒褐色土やや多く、1 cm 以下炭化物少し含む、6 層より黄白色粒少ない
- 8 緑褐色土 粘り強、粘性有、1.5 cm 以下炭化物多量、2mm 以下焼土少し、骨片少し含む、2mm 以下ローム粒少し含む
- 9 緑褐色土 粘り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、1 cm 以下炭化物少し、2mm 以下黄褐色土少し、シミ状黄灰色土少し含む

凡例  
● 釘

0 0.5 1m

第170図 浄禅寺跡遺跡第30地点茶昆跡2・4・5 (1/30)

## 木炭窯、土坑4・11・12・14～16



## 木炭窯(5F・6G)

1 暗褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、3cm以下ローム粒、1cm炭化物・炭土ブロック少し含む

2 暗褐色土 粘り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む、3層と壁面の間に落ち込むような瓦片

3 黒褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下炭化物多量、5~20mm ローム・炭土ブロック少し含む、ローム粒少し含む

4 暗褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く、シミ状褐色土やや多く含む

5 暗褐色土 粘り有、粘性有、1.5mm以下炭化物、3mm以下ローム粒・炭土粒やや多く含む

6 黒褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下炭土粒多く、5mm以下炭化物やや多く含む

7 暗褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、土坑12よりローム粒の少くで密

8 暗褐色土 粘り有、粘性有、3cm以下ロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む

9 暗褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く、シミ状褐色土やや多く含む

土坑4 ビット60(G)

1 暗褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、5~10mmロームブロック少し、炭褐色土層

2 暗褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く、5~10mmロームブロックやや多く、大型ソフトロームブロック含む

3 暗褐色土 粘り有、粘性有、2層にわたって1~5cmロームブロック多く含む

4 暗褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む

5 黒褐色土 粘り有、粘性やや弱、5~15mmロームブロックやや多く含む

土坑11・12・16(6H・7I・8J) 1~5層は土坑12・16覆土、6~10層は土坑11覆土

1 暗褐色土 粘り有、粘性有、3cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む

2 暗褐色土 粘り有、粘性有、2cm以下ロームブロック多く、シミ状褐色土少し含む、ローム粒やや多く含む 1層より粘性強い

3 暗褐色土 粘り有、粘性有、1cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む

4 暗褐色土 粘り有、粘性有、3cm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒少し、色調3層より明る

5 暗褐色土 粘り有、粘性有、ソフトローム主体、5~10mmロームブロック多く含む

6 黒褐色土 粘り有、粘性有、暗褐色土主体にシミ状褐色土多く、5~30mm ロームブロックやや多く、ローム粒少し含む

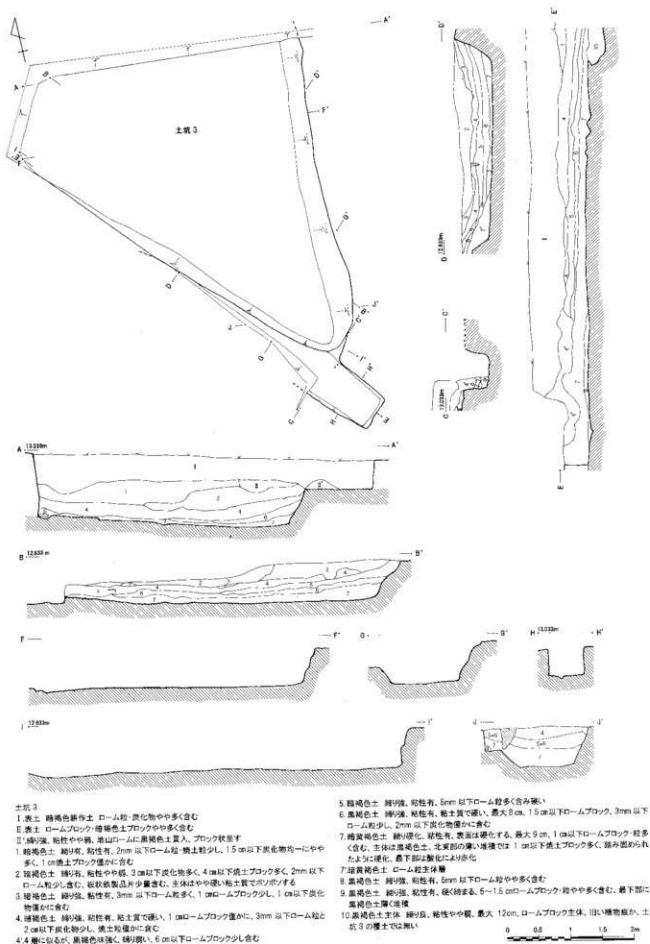
7 暗褐色土 粘り有、粘性有、6cm以下ロームブロックやや多く、ローム粒と3cm以下褐色土ブロック少し含む

8 暗褐色土 粘り有、粘性有、シミ状褐色土やや多く、5~20mmロームブロックやや多く、ローム粒少し含む

9 暗褐色土 粘り有、粘性有、2層より粘性強い

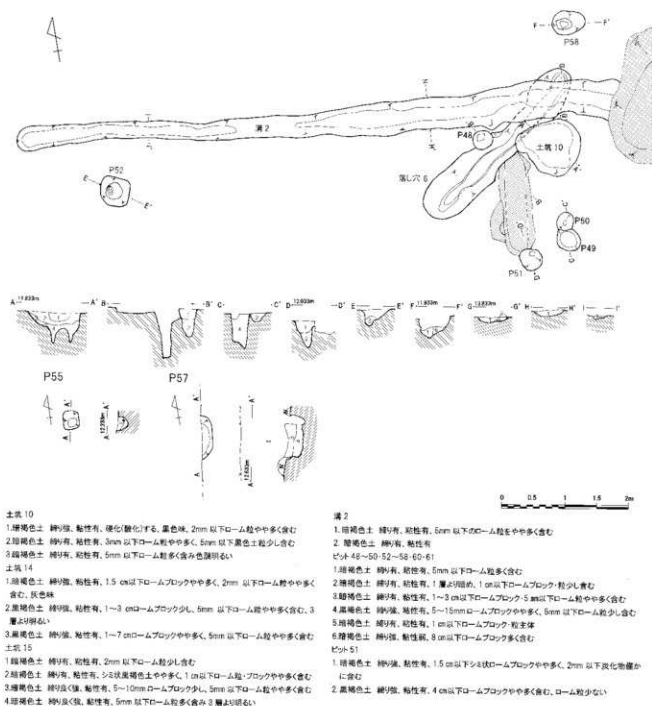
10 暗褐色土 粘り有、粘性有、1~3層より粘性強い、3cm以下暗褐色ロームブロック多く、ローム粒少し、1~2cm褐色土ブロック少し含む

第171図 浄禪寺跡遺跡第30地点木炭窯・土坑①・ビット① (1/60)



第172図 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑② (1/60)





## 土坑 10

- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、硬化(酸化)する。黒色味。2mm以下ローム粒やや多く含む
- 2 暗褐色土 粘り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下黒色土粒少し含む
- 3 暗褐色土 粘り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む(色調別る)

## 土坑 14

- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、1.5 cm以下ロームブロックやや多く、2mm以下ローム粒やや多く含む、灰色味
- 2 黒褐色土 粘り強、粘性有、1~3 cmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む、3層より別る
- 3 黒褐色土 粘り強、粘性有、1~7 cmロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒やや多く含む

## 土坑 15

- 1 暗褐色土 粘り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 2 暗褐色土 粘り有、粘性有、シス状黒褐色土やや多く、1 cm以下ローム粒・ブロックやや多く含む
- 3 暗褐色土 粘り及強く、粘性有、5~10mmロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 4 暗褐色土 粘り及強く、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む(層より別る)

## 溝 2

- 1 暗褐色土 粘り有、粘性有、5mm以下のローム粒やや多く含む
- 2 暗褐色土 粘り有、粘性有  
ピット 48~50 52~58 60~61

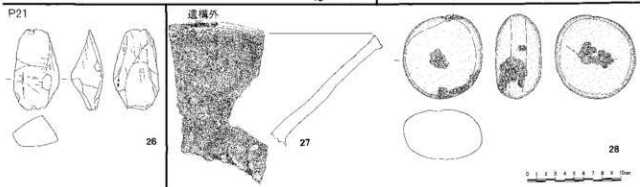
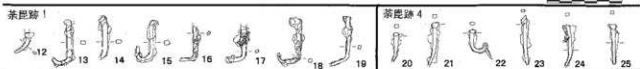
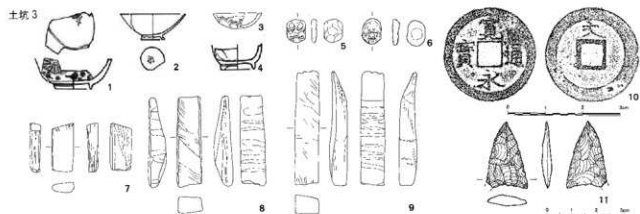
## 1 暗褐色土 粘り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

- 2 暗褐色土 粘り有、粘性有、1層より別る、1 cm以下ロームブロック・粒少し含む
- 3 暗褐色土 粘り有、粘性有、1~3 cm以下ロームブロック・5 mm以下ローム粒やや多く含む
- 4 黒褐色土 粘り強、粘性有、5~15mmロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒少し含む
- 5 暗褐色土 粘り有、粘性有、1 cm以下ロームブロック 粒主体
- 6 暗褐色土 粘り強、粘性有、8 cm以下ロームブロック多く含む

## ピット 51

- 1 暗褐色土 粘り強、粘性有、1.5 cm以下シス状ロームブロックやや多く、2mm以下炭化物層かに含む
- 2 暗褐色土 粘り強、粘性有、4 cm以下ロームブロックやや多く含む、ローム粒少ない

第173図 淨禪寺跡遺跡第30地点土坑③・ピット②・溝 (1/60)



第174圖 淨禪寺跡遺跡第30地点出土遺物 (1/4・2/3・1/1)

## 第Ⅲ部 ま と め

### 第1章 2007年度の調査について

2007(平成19)年度の埋蔵文化財調査は、32件の試掘調査のうち3件が個人住宅建設に伴う本調査、2件が公共工事(消防分団車庫・道路築造)に伴う本調査、8件が民間開発に伴う本調査に移行した。その他、19件の工事立会を行なった。工事立会を除いた開発面積69.902㎡のうち3.497㎡を本調査したことになる。

開発の内容は、共同住宅や分譲住宅など相続に伴う開発が近年は増えている。また、再開発も個人住宅の建替をはじめ、様々な開発に及んでいる。

以下、本年度に行なった調査のうち、時代別に主な遺構と遺物について概観する。

【旧石器時代】今年度は鶴ヶ岡外遺跡第5地点で旧石器時代の遺構を検出した。鶴ヶ岡外遺跡は川越江川右岸の台地縁辺に位置し、江川からは約15mの距離にあり現谷底とは3～4mの比高差がある。これまでに第1・2・5地点で旧石器時代の石器集中や礫群を確認しており、川越江川の右岸沿いに点在する旧石器時代遺跡の在り方が良くわかる。今年度本調査を行なった第5地点は第2地点の南側に隣接し、石器集中間の距離は30～40mしか離れていない。出土層位も立川ロームⅣ～Ⅴ層でほぼ同じとみられる。今後、両地点を含めた整理作業を行ない、遺物の接合関係なども併せて確認、検討して行く必要がある。

松山遺跡第43地点の調査で、旧上福岡地域の遺跡で初めて発掘調査によって旧石器時代の石器が出土した。出土地点は福岡江川と新河岸川から離れた場所でありナイフ形石器1点のみの出土である。また出土状況も風倒木とみられるローム土から出土しており、旧石器時代の遺構は確認されていない。しかし隣接する三芳町などでは、雨季や大雨などの時に現れる野水などの湧水周辺に旧石器時代の遺跡が確認されており、松山遺跡でも同様の遺構が発見される可能性は高い。

【縄文時代】早期とみられる遺構に川崎遺跡第22地点の炉穴がある。4基のままとまった炉穴を検出したが出土遺物が無いため時期の特定は出来ない。しかし、隣接する地下式坑の覆土層から胎土に繊維を含む貝殻燻痕土器が出土しており早期末の炉穴の可能性が考えられる。早期から前期と思われる遺構には浄禪寺跡遺跡第30地点の落とし穴がある。トレンチと本調査区

一部で6基検出した。出土遺物が無いため時期の特定は難しいが、南側の道路を隔てた第14・15地点では縄文時代早期の炉穴7基と落とし穴1基などを検出しており、本地点遺構群に関連するものと思われる。

前期では上福岡貝塚第1地点で黒浜期の貝層に伴う住居跡2軒を検出した。1937年の調査以来70年ぶりに確認された遺構と遺物は貝塚が今なお健在であり、一級の資料を有する遺跡であることが確認された。次章で上福岡貝塚の調査について取り上げる。

中期では3遺跡で住居跡を検出した。西遺跡で勝坂Ⅱ式期1軒、勝坂から加曾利Ⅱ式期1軒、加曾利Ⅱ式期1軒の住居跡と集石土坑6基、土坑12基などを検出した。加曾利Ⅱ式期の住居跡は本遺跡で初の検出である。西遺跡は中期中葉の勝坂式期から後半の加曾利Ⅱ式期を中心とする集落と考えられてきた。今回の調査と第1次調査以降の成果をみると、勝坂Ⅱ式期から加曾利Ⅱ式期古相段階に最も集落としてのピークを迎える。出土土器や石器は、同時期の遺物としては大型のものや作りが精巧なものが多く、他地域からの直接的な搬入とともに拠点的な集落であったことが考えられる。また、住居跡覆土層や遺構外出土土器には中期初頭の五領ヶ台式や前葉の阿玉台式土器も含まれ、僅かに後期初頭の称名寺式土器もみられることから、集落の存続期間は小規模ながらも長期間続いていたものと考えられる。(第49表参照)

浄禪寺跡遺跡第32地点でも2基の埋甕を有する住居跡1軒を検出した。隣接する第27地点では加曾利Ⅲ式期の屋外埋甕や土坑墓などの遺構を検出しており、狭小地の土地利用の活発さが窺える。

東台遺跡第49地点では、中期から後期の住居跡6軒の存在を確認し、うち1軒を検出した。5軒の住居跡については保存措置とした。173号住居跡の覆土層中からは堀之内1式の屋外埋甕1基が出土、また遺構外からではあるが本遺跡で初めて土偶が出土した。東台遺跡は180軒を越す住居跡と多数の遺構と遺物の他に石椀等も出土している。今回の土偶の出土により集落内で土偶祭祀などが行なわれていたことが考えられるが、大規模集落であるとともに拠点集落であったことの裏付けといえる。

亀居遺跡第62地点では、貉沢式期の土器を伴う土坑墓とみられる遺構を含む11基の土坑を新たに検出した。集落構造における、居住地域範囲と墓域の空間利用を検討する貴重な発見である。福岡新田遺跡第1地点では遺構外からはあるが、縄文時代中期前半の土器片がまとまって出土した。今後は本遺跡でも住居跡の遺構などが発見される可能性が出てきた。

【古代】滝遺跡第14地点で、奈良・平安時代の住居跡を7軒調査した。第14号住居跡からは8世紀前半の鏡比企型坏が10数点出土した。口縁部外面と内面に赤彩を施す。口径は12.5～13cm、約14cm、約15cmの3タイプがある。口唇部沈線の有無は大きさには関係なくほぼ半々にみられる。また、第13号住居跡からは8世紀前半から中葉の相模型坏(註1)も出土している。本地点から約90m北東に位置する第2次4・5号住居跡からは、8世紀後半の相模型坏や甕がまとまって出土している。他の住居跡もほぼ8世紀前半から中頃のものと思われる。第15号住居跡と第17号住居跡出土の須恵器甕と坏は転用として再利用されている。(註6)

川崎遺跡第22地点では中世の地下式坑の覆土層から9世紀の須恵器・瓦・瓦塔などの破片が出土した。瓦塔は1975年3月30日から5月10日に行なった川崎遺跡新井氏宅の調査で、9世紀中葉とみられる屋蓋部の一部が出土している。本調査地点とは直線30～40mの距離にあるが同一個体の可能性がある。今回の調査でも布目瓦(丸瓦と平瓦)の破片が出土しており、瓦塔を安置した瓦葺きの建物の存在が考えられよう。第91表と第175図に川崎遺跡から出土した瓦を参考資料として報告する。(註7)

【中世】上福岡貝塚第1地点、松山遺跡第43地点で断面が逆台形状の堀跡を検出した。亀久保堀跡遺跡や神明後遺跡、松山遺跡などで確認される堀跡に類似する。古代から中・近世期の遺構とすれば上福岡貝塚では初めての確認である。長宮遺跡第28地点の井戸3で13～14世紀の在地系播鉢や、第29地点堀跡の底から石臼が出土した。両遺構とも近世の遺物を含めないことから、中世に遡るものと考えられる。胸林遺跡第4地点の土坑も覆土層の状態から近世以前に遡るものと考えられる。

浄禪寺跡遺跡第29地点では掘立柱建物跡3棟をはじめ地下式坑や井戸・堀跡など多数の遺構を確認した。土坑52出土のかわらけや井戸2・15から出土する陶器や板破片など、13～14世紀に遡るものがみられる。掘

立柱建物跡は3棟が重複し、また土坑群も重なることから4期以上の長期に渡って土地利用がされていたことが分かる。さらに井戸群も本村遺跡同様に水脈に沿った配置をする。旧苗間村の村落は富士見さいかい川沿いの右岸に連なっており、現在でもその屋敷地の面影をみる事が出来る。しかし今回の調査でこれまでとは異なる砂川左岸沿いで中世期に遡る集落跡(屋敷地跡)が確認された。近世以降は人家もほとんどみられず畑地として利用され、1960年代以降は宅地開発が進んだ地域である。旧苗間地区には「神明前」「神明後」「お寺山」「根田」などの地名があるが、今回の調査区周辺は「天王」と呼ばれていたと伝えられる。こうした点からも、周辺の遺構の広がりに注意するとともに、旧苗間村集落の範囲についての再検討が課題である。

浄禪寺跡遺跡第30地点の調査で木炭窯1基と茶毘跡5基、土坑15基などを検出した。木炭窯出土と茶毘跡1・2出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、木炭窯出土資料で530±25年BP(1σの暦年代でAD1410～1440年)、茶毘跡1出土資料で680±70年BP(同AD1270～1320年、AD1350～1390年)、茶毘跡2出土資料で790±60年BP(同AD1210～1280年)の年代が示された。(附編 浄禪寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定結果参照)。浄禪寺の寺域内で火葬による葬送行為が行なわれていたことは、浄禪寺の前身が中世に遡る可能性が高いものと考えられる。14世紀中葉の板碑が浄禪寺の寺域縁辺から数点出土している事も今回の調査成果と符号する。浄禪寺跡遺跡第29・30地点の調査は浄禪寺と苗間村の地域史を解明する上で特に注目される。

【近世・近代】福岡新田遺跡第1地点で近世以降の安楽寺に伴う遺構と遺物が確認されたが、安楽寺の縁起(伝承では創建は1463(寛正4)年創建)に係わる時期のものは確認されなかった。北側トレンチ1で1cm以下のしみ状焼土が多く出土し、溝1の覆土層と礎石の版築層に3cm以下の焼土と炭化物が互層でみられたが、1831(天保2)年火災の痕跡と考えられる。

大井宿遺跡第15地点の調査では、トレンチによる試掘調査であったため全容は不明であるが、土坑1～3で17世紀から18世紀の陶磁器が、また溝からは19世紀の遺物が出土した。今回検出した溝は南側に隣接する第11地点調査区(第11地点では「大溝1」)から延びるもので、本調査区からさらに東側に延び、本村遺跡に入る。大井・苗間地区の区画整理事業以前に存在した

用水路と繋がっていた可能性も考えられる。第11地点でも溝覆土の上層から19世紀前葉から中葉の陶磁器が出土しているが、溝が掘られた時期などは不明である。

近現代では、上福岡貝塚第1地点の調査で旧陸軍造兵廠福岡工場（川越製造所）「通称火工廠」に伴う遺構と遺物が確認された。火工廠については上福岡市教育委員会発行の市史調査報告書第15集(1998)や、上福岡市立歴史民俗資料館資料館調査報告1（平和関係事業）、旧陸軍の施設(1992)・第22回特別展東京第一陸軍造兵廠の奇跡(2007)などの図録に詳しく報告されている。今回発見された遺構ではコンクリート製の水溜と配水管につながった消火栓がほぼ完全な姿で見つかった。水溜はこれまでにも他の場所で確認されているが、周辺にコンクリート製の柵を埋設した跡などを初めて検出した。水溜は第1期工事で作られたもので、第2・3期工事で作られたものと比較して鉄筋の量が多い。施工も木枠を組んでコンクリートを流し込み構築しているが、後期のものは土を掘り直接コンクリートを流し込むなど物資欠乏と作りの粗雑さが目立つ。

消火栓は一部を欠くが本体は完形品である。製造元は柳建設工業と判明したが納入時期については確認出来なかった。消火栓本体と配水管を結ぶ乙型継手管部分の刻印は、1937（昭和12）年12月31日に竣工した水槽塔の送水管と配水管に刻印されていたものと同じである。水槽塔は2004（平成16）年6月に解体撤去された。大正期から昭和初期の建造物や施設、消防関係の博物館などを幾つか管見したが、同時期の消火栓が以外に残されていないことが判明した。制作年代、製作企業が分かる資料として貴重な資料である。消火栓本体にある「特許自働不凍消火栓」の特許については柳建設工業社に保管されていた2点（a、b）の実用新案出願公告の史料がある。

a、昭和八年実用新案出願公告第二一九六号（願書番号昭和七年第一六八五号、出願昭和七年一月二十六日、

公告昭和八年二月十五日、出願人考案者 小宮山倭亮、代理人弁理士 津村 敬）。

b、昭和八年実用新案出願公告第一〇二四号（願書番号昭和七年第二七六八三号、出願昭和七年十月二十八日、公告昭和八年七月十四日、出願人考案者 小宮山倭亮、代理人弁理士 津村 敬）。本消火栓の構造を外観から観察した限りでは、史料bに添付されている図面と類似するため、刻印の「特許」は放水口の開閉の弁と排水口の弁に関するものと考えられる。製造年代は1933（昭和8）年から1937（昭和12）年の間と推測される。また、同社の大正～昭和初期における屋外自働不凍消火栓の納入先リストに火工廠の名は記載されていないが、軍の機密に加工される部分が多いためではないかと推測される。（註8）

註(1) 土肥孝、宮崎朝雄、金子直行、細田勝、黒坂植二、西井幸雄、山口直由美「上福岡貝塚資料-山内清男考古資料3-」奈良国立文化財研究所史料第33冊 奈良国立文化財研究所 1992年

註(2) 森森健「教育委員会に保存されていた資料について」で報告された「地形測量（住居配置）図」。『考古文獻資料(1) 上福岡貝塚市史調査報告書第5集 上福岡市教育委員会 1994年

註(3) 関野 克博士「埼玉県福岡村縄紋前期住居と堅穴住居の系統に就いて」『人類学雑誌』第53巻第8号他 1938年

註(4) 酒詰伸男「日本貝塚地名表」日本科学社 1959年

註(5) (6) 加藤恭朗氏、根本靖氏、坂野千登勢氏をはじめ「古代の人間を考える会」の皆様にご教示を賜りました。

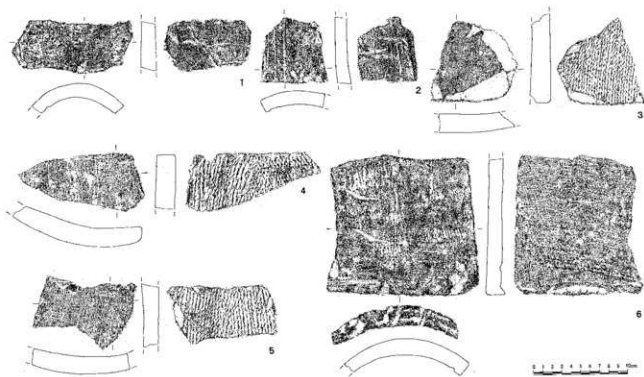
註(7) 川崎遺跡出土の瓦について宮宮之氏、石川安司氏より御教示を賜りました。

註(8) 柳取締役会長 小宮山亮次氏、取締役総務部長 富家克彦氏から消火栓に関する情報の提供と、昭和6年発行『建設工業社小宮山倭亮 工場火災の防衛に就て』などの貴重な史料提供と共に多数の御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。

第91表 川崎遺跡1・2次調査出土瓦観察表

(単位:cm)

No	出土遺構名	種別・器種	（括弧付々残存値）			技法/文様/その他/注記No	推定産地	推定年代	残存・備考
			長さ	幅	厚さ				
1	1次調査	瓦/丸瓦	(5.8)	(9.8)	1.5	暗灰・灰色/粘土紐輪巻作り/須恵質/凸面撫で・自然輪付着。側面撫で、凹面布目・縄圧痕有り/K1-T1-6	-	9世紀	破片
2	2次調査	瓦/丸瓦	(7.2)	(6.7)	1.5	灰白～灰色/輪巻き作り/須恵質/凸面撫で、凹面布目/K2-87023	-	9世紀	広端部片
3	1次調査	瓦/平瓦	(9.3)	(9.4)	2.1	灰白～灰色/一枚作り/須恵質/凸面・広端面撫で、凹面布目、凸面縄目/KL 2804	南比企?	9世紀	広端部片
4	1次調査	瓦/平瓦	(6.2)	(13.8)	1.98	灰白～灰色/一枚作り/須恵質/側面・凸面・狭端面撫で、凹面布目、凸面縄目/KL TSA	南比企?	9世紀	狭端部片
5	2次調査	瓦/平瓦	(8.1)	(10.4)	1.8	灰白～灰色/一枚作り/須恵質/凹面布目、凸面縄目/K2-9101	南比企?	9世紀	破片
6	1次調査 土坑5?	瓦/丸瓦	(14.6)	(15.0)	1.3～ 2.2	灰白/輪巻作り/須恵質/側面・凸面・広端面撫で、凹面布目で縄圧痕有り、凸面撫でに縄目が残る。胎土砂多め/K?土塊?	-	9世紀	狭端部欠



第175図 川崎遺跡第1・2次調査出土瓦(1/4)

## 引用・参考文献

- 新井和之 1982 『黒川式土器』 『縄文文化の研究3』 雄山閣  
 小林達雄・小川忠博 1989 『縄文土器大観』 1-4小学館  
 戸沢久則 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版  
 埼玉県歴史資料館 1994 『資料館ガイドブック11 埼玉の瓦葺』  
 大川清・鈴木公雄・工業善通 1996 『日本土器事典』 雄山閣  
 富士見市立水子貝塚資料館 2002 『縄文海遺と貝塚—富士見市と福島の貝塚』  
 山形県長井市古代の伝資料館 2003 『石巻市・左折町—縄文の土器文化の継り—』 山形県長井市教育委員会  
 土曜考古学研究会 1979-2007 『土曜考古』 創刊号1979, 第4号1981, 第5号1982, 第7号1983, 第10号1985, 第13号1989, 第20号1996, 第23号1999, 第27号2003, 第31号2007  
 埼玉考古学会 2006 『埼玉の考古学Ⅱ』 六一書房  
 埼玉考古学会 1990-1992 『埼玉考古』 第27号1990, 第28号1991, 第29号1992  
 鈴木敏朗 1990 『埼玉考古別冊3シンポジウム 大木、有尾、そして黒川—縄文前期中葉土器群にみる系統と文化の交差—』 埼玉考古学会  
 埼玉県縄文文化財調査委員会 1998-2008 『研究紀要』 第4号1988, 第6号1989, 第7号1990, 第9号1992, 第10号1993, 第14号1998, 第18号2003, 第23号2008  
 埼玉地区縄文文化財担当委員会 1999 『埼玉地区縄文文化財調査報告書—1』
- (報告書)  
 新井和之 1974 『埼玉県富士見市所在ハナク遺跡・打越遺跡・北浦遺跡 付 ハナク遺跡跡地地点発掘調査報告書』 文化財報告第7号 富士見市教育委員会  
 会田明・荒井幹夫 他 1980 『宮前遺跡』 富士見市遺跡調査報告第10号 富士見市遺跡調査会  
 高橋敦・会田明 1982 『打越遺跡X』 富士見市文化財報告第25巻 富士見市教育委員会  
 会田明・荒井幹夫 1985 『富士見市遺跡群Ⅱ』 富士見市文化財報告第34巻 富士見市教育委員会  
 富士見市教育委員会史編58人呈 1986 『富士見市史 資料編2 考古』  
 小野文文 他 1986 『野洲遺跡』 山形県中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 山形県縄文文化財センター調査報告第17巻 山形県教育委員会・日本道路公団  
 細神和夫・金子直行 1986 『中矢下・夕日ノ沢・上原塚沢・芝門サネ・後山北谷・尾尾塚』 埼玉県縄文文化財調査委員会報告第57巻 埼玉県縄文文化財調査委員会  
 田中和之・小宮常晴 他 1991 『黒川貝塚群 天神前遺跡』 埼玉県蓮田市文化財調査報告第17巻 蓮田市教育委員会  
 今泉幸之・伊藤利敏・石原誠哉 1993 『埼玉県見沼三丁目三郎町山遺跡出土 瓦葺・瓦葺解体修復報告書』 埼玉県教育委員会  
 富士見市教育委員会 1994 『地味水子貝塚—縄文遺跡事業報告—』  
 早稲田人・荒井幹夫 1995 『水子貝塚 見跡整備に伴う発掘調査報告書』 富士見市教育委員会  
 長谷川清一 2001 『宮前遺跡—第1次・第2次調査の記録—』 庄和町文化財調査報告第6巻 埼玉県庄和町教育委員会  
 長谷川清一・高山高 2005 『宮前遺跡第3次 香取遺跡群第2・5次 愛宕遺跡第2次 原遺跡第2次 馬場遺跡—総論解説調査—』 庄和町文化財調査報告第16巻 埼玉県庄和町教育委員会  
 榎田・舟上純子 2005 『宮前遺跡—第1次・第3次調査—』 杉戸町文化財調査報告第13巻 埼玉県杉戸町教育委員会  
 田中和之・小宮常晴 2005 『黒川貝塚群—百瀬遺跡・百上遺跡・前下遺跡・天神前遺跡』 蓮田市文化財調査報告第40巻 蓮田市教育委員会  
 戸沢久則・千葉敏明・石田正行・小川忠博・秋本繁彦 2006 『下宅部遺跡1』(1)(2) 東京都都市整備局西部住宅建設事務所・東村山市遺跡調査会・下宅部遺跡調査団  
 戸沢久則・千葉敏明・黒須文浩 2006 『下宅部遺跡Ⅱ』 東京都都市整備局西部住宅建設事務所・東村山市遺跡調査会・下宅部遺跡調査団  
 小宮常晴・田中和之 2008 『岡山山見—第4調査地点— 観音山遺跡—第2調査地点— 荒川跡遺跡—第21調査地点—』 埼玉県蓮田市文化財調査報告第45巻 埼玉県蓮田市教育委員会  
 ※ ふじみ野市教育委員会、上福岡市教育委員会、大井町教育委員会、上福岡市遺跡調査会(上福岡市遺跡調査会等を含む)、大井町遺跡調査会、上福岡(市)歴史文化資料館、大井町立土質土質資料館、上福岡市史・大井町史関係の報告書等4種等を含む(刊行物は新聞の都合上割愛した)。上福岡貝塚の調査に関する文庫は、本書第38巻上福岡貝塚調査一覧表および第38巻第2章1(2)を参照。

## 第2章 上福岡貝塚第1地点の調査成果について

### I 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡の配置について

#### (1) はじめに

上福岡貝塚では1937(昭和12)年に山内清男、関野克岡博士が中心に縄文時代の住居跡24軒(A~X地点堅穴住居)を確認し、このうち前期の住居跡8軒(C・D・F・G・I・J・K・M)の発掘調査を行った。8軒の概要等については第109図と第93表のとおりである。残る16軒については、住居跡の存在を確認しただけで検出は行っていない。その後、今回の第1地点の調査まで縄文時代の住居跡は確認されていない。

今回、第1地点の調査で検出した2軒の住居跡は、過去に検出した痕跡が見られないことから、先の8軒の住居跡と明らかに異なる。残る未検出16軒の住居跡との関係について、上福岡貝塚の集落や貝塚の配置などを考える上で検証してみたい。

#### (2) 1937(昭和12)年青焼図「地形測量(住居址配置)図」と第1地点1・2号住居跡

山内・関野博士が確認または検出した住居跡の配置について、これまでに以下の4種類の配置図面が確認されている。

- 山内清男博士の1965(昭和40)年『郷土史料』第2集と1967(昭和42)年『山内清男・先史考古学論文集』第2冊に掲載された「福岡内石器時代遺跡発掘調査報告」にある、「埼玉県入間郡福岡村大字上福岡 昭和十二年一〜七月」と記載された図(以下「山内図」と呼ぶ)。
  - 関野 克岡博士の1938(昭和13)年『人類学雑誌』第53巻第8号、1965(昭和40)年『郷土史料』第2集に掲載された「埼玉県福岡村縄文前期住居址と堅穴住居の系統に就いて」に記載された図「第1図上福岡遺跡図」(以下「関野図」と呼ぶ)。
  - 福岡村郷土史刊行会の1957(昭和32)年『福岡村市』に掲載された「旧火工内堅穴住居跡及貝塚発掘地点(○印)図」(以下「福岡村史図」と呼ぶ)。
  - 笹森健一の「教育委員会に保存されていた資料について」1994(平成6)年市史調査報告書第5集『考古文献資料(1)上福岡貝塚』上福岡市教育委員会刊行で報告された青焼図「地形測量(住居址配置)図」(以下「白石青焼図」と呼ぶ)。
- a~d各図の出自や概要については笹森健一「教育

委員会に保存されていた資料について」註(2)が詳細に述べているのでそちらを参照されたいが、それぞれの図の特性を再認識した上で、あらためて住居跡の配置をみてみたい。

笹森の検証でも、山内図および関野図は白石青焼図からの派生図であり、福岡村史図は関野図からの派生図であることが分かる。従って全ての基となったのが白石青焼図であり、1937年調査の遺構配置を考える際に、白石青焼図に山内図を重ねたものが、現段階では最も正確に遺構配置を記録したものであると考える。また、1992(平成4)年に奈良文化財研究所が刊行した「上福岡貝塚資料」山内清男考古資料3に掲載されている図「上福岡貝塚周辺の発掘調査成果」は、山内図に刊行時の現況図を重ねたもので、山内図の派生図と考え今回の参考資料からは除外した。

白石青焼図は地形図に火工廠の区画配置などを重ねて作成しているため、図中に記されたA~Q地点住居跡の配置が最も正確であると考えられる。白石青焼図と山内図を同一縮尺にして重ね合わせてみると、僅かなずれがみられ、山内図は白石青焼図を完全にコピーしたものではないと考えられる。山内図がどの時点で白石青焼図を写したのか不明であり、R~X地点住居址、a~ε地点住居址の他に東側2基の古墳がどのような基準で追加記載されたのか現時点では確認出来ない。しかし昭和12年という時代と調査の背景などを考え併せるならば、両図の記録資料としての信頼性と価値は高く、同時期の他の発掘調査における記録図など比べても、両図の精度は群を抜いていることは周知のとおりである。

白石青焼図・山内図と第1地点の住居配置を現在の都市計画図に重ね合わせたものが、第108図上福岡貝塚遺構配置図である。1・2号住居跡はGとW地点住居跡の間に位置する。G地点住居址は発掘調査が行なわれ遺構写真や図面記録も有り遺物も出土しているため今回検出したものと明確に異なる。W地点住居址は未検出住居跡16軒のうちの1軒で、図面上では1・2号住居跡と5mほどの範囲内にある。白石青焼図に山内図からS・T・U・V・W・X地点住居址を加えた図が第176図である。註(9)。

【W地点住居址=1号住居跡の可能性】1号住居跡は覆土上層の遺構確認面付近に土器片が多数出土するが

貝層は全くみられない。貝層が確認されるのは覆土中層から床面付近にかけてである。ただし、火工廠の水溜や消火栓・排水管に掘削され、当時も住居跡と認識されていた可能性があり、工事が着工されている状況で発掘調査の対象から外されたものとも考えられる。上福岡市史編集専門員であった川名広文氏が、調査に参加された慶応義塾大学名誉教授(聞き取り調査時)の江坂輝彌氏への聞き取り調査でも「関山式でない黒浜式の貝層のない堅穴も何軒あった」と述べられている。註(10)

【W地点住居址=2号住居跡の可能性】2号住居跡は遺構確認面から貝層が確認され、さらに火工廠工事以前の耕作でも貝層が多数掘り起こされている事が今回の調査で明らかとなり、当時から住居跡として認識されていた可能性が高い。

以上のように1937年の調査で確認されたW地点住居址と今回調査した住居跡の関係については、周辺部のより広範囲な調査を見なければその特定は難しい。

### (3) 1937(昭和12)年発掘調査の状況

1937年の発掘調査について、調査に至る経過や調査の経過・成果は両博士の報告や論考と、上福岡市史編集事業にともなう各調査でも詳細が明らかになりつつあるが、白石護郎氏が作成した住居址配置図から新たな様子が読み取れる。

1937年の調査で、なぜ8軒(C・D・F・G・I・J・K・M)の住居跡が検出されたのか、山内博士が1937(昭和12)年4月3日に当遺跡を訪れた時点で、A～GないしH地点までの住居跡が確認されていたことが白石青焼図から読み取れる。A～Q地点住居址名の下に記された記号(1, 20・1, 24～6, 17など)と「福岡構内貝塚出土品 昭和二年一月二十五日」の遺物写真に縄文土器・石器・貝殻が撮影されその下にC～E・Gの記号がある。1937年1～2月の時点でG地点住居址まで確認されていたことが分かる。

検出された8軒の住居跡を白石青焼図でみると、全ての住居跡は火工廠の防壁土塁の外側に位置し、S～U地点住居址の3軒も建物の構造をみると基礎部分から外れていた可能性が考えられる。即ち火工廠は同年12月25日の開場式に向け工事を急いでおり、建物建設に並行して発掘調査が行なえるのは、建物間の狭間や道路部分に限られていたものと推察される。今回第1地点調査区の土層断面に防壁土塁の築造痕跡が確認され、それをみると防壁土塁の築造部分は土を削らずに

土盛されている。つまりその下部に存在する遺跡については当時も確認されず、未発見の遺構が存在する可能性が考えられる。川名広文氏が指摘<sup>(10)</sup>したとおり今回新たな遺構と遺物が発掘された。第1地点発掘調査時に周辺の状況を観察した限りでも、建物の隙間や道路の他に火工廠時代の木造建物も残っており、これらは基礎もそれほど深くないものとみられ、遺構と遺物が存在する可能性がある。以上の点から、上福岡貝塚は遺跡として健在であり、今後も開発行為などに十分な対応をとると共に、新たな調査成果に期待したい。

## II 上福岡貝塚第1地点出土土器について

上福岡貝塚第1地点出土の縄文時代前期の土器について概観してみたい。

今回の土器分類は、隣接するG・W地点出土土器との比較・検討も考慮し、奈良文化財研究所史料第33、「上福岡貝塚資料 山内清男考古資料3」の分類基準を用いた。山内資料の黒浜式土器などの分類基準は、複数地点住居跡の土器に対し設けられたものであるため、若干の変更を以下のとおり行なった。

第1類第1種を有尾式とし、第2種に渦巻文を有するものを加え、第5種の格子目文をa～cに細分。

第4類貝殻土器群を第1種貝殻背瓦痕文と第2種貝殻腹線文に分け、さらに第1種をa・b・cに細分。

第8類には甲信系土器を新たに追加。

### (1) 1号住居跡出土土器について

出土土器は総数2271点で、復元可能な個体数は10点(第115～116図)である。数量的には第2類土器が最も多く次に第1類、第4類、第8類土器と続く。第2類土器群の破片には第1類土器群の胴部片なども含まれるため単純な比較は出来ないが、復元個体数でみると第2類第4種の付加条縄文がやや目立つ。

分類種別でみると、第1類土器群では第1種と第2種の口縁部に歯状文(菱形文)もつ類で、工具による爪形文はやや少なく半載竹管状工具を用いた沈線文が多い。山内博士の調査した住居跡と比べると黒浜式土器の多く出土したJ地点住居址出土土器に類似する。D地点住居址出土土器は、第1類第4種の口縁部文様帯に半載竹管状工具による幅狭の枠状区画文を配する土器や、第1類第6種のコンパス文を含む土器を含む点で1号住居跡と様相を異にする。また、同じ黒浜式期の住居跡である川崎遺跡第4次調査第1号住居跡は、



有尾式土器の復元個体は無く破片での比較であるが、沈線文より爪形文が多い傾向がみられる。

第2類土器群では、口縁部に工具による菱形文を配する有尾式土器の胴部を除き、縄文施文のみによる羽状縄文からの菱形構成は少なく斜縄文が主体である。この点はD・J地点住居址出土土器の傾向と一致する。先述の川崎遺跡1号住居跡出土土器は、上福岡貝塚1号住居跡出土土器(第115図5・6)の器形と酷似するが、明確な羽状縄文による菱形構成を配する。第1類土器群の有尾式土器など、工具施文土器の爪形文の有無などと合わせ、川崎遺跡第4次調査出土土器群との関係は非常に興味深い。

第4類土器群で貝殻腹線文の土器は底部1点のみで、他は全て貝殻背圧痕文である。第115図2は貝殻背圧痕とR1縄文を施文する点で特殊といえる。第4類土器群と他の土器群との出土状況による時期差などは確認できなかった。

施文方法や文様以外では、土器製作を途中で終了したような器形の土器が目立つ。ただし縄文などの文様は施文され完成品として使用されている。第115図2、第116図10・11・79は胴部から短い頸部を経て口縁部に至る。本来はさらにもう1～2段の粘土紐の積み上げ後、追加成形技法などにより第116図9のような器形になるものと考えられる。施文は貝殻背圧痕や付加条縄文などが多くみられる。

## (2) 2号住居跡出土土器について

2号住居跡出土土器は総数348点、復元可能な個体数は4点(第128図)と1号住居跡に比べ少ない。

2号住居跡で主体を占めるのは、1号住居跡同様に第2類第1種と第2種の地文に無節や単節縄文を施文する土器群、第4種の付加条縄文を施文する類である。2号住居跡の特徴は、第1類土器群と第4類土器群がほとんどみられず、僅かに出土する破片も攪乱出土や表土層出土のもの他に覆土層出土で、総量に占める割合を考慮しても少ない。時間的なものか、その他の要因に起因するのかが貝層の形成要素と合わせて考える必要があらう。

第128図2は1・2号住居跡の復元可能土器のなかで、羽状縄文による菱形構成を確認出来る唯一の個体である。本地点の出土土器は羽状縄文を施文するものは若干みられるが、全体で菱形を構成するものは極端に少ない。

第128図1と3は、土器上半の施文手法に共通性が

みられる。同じ縄文原体を異方向に回転施文し、縦位区画の「仕切り」を作り出す。3は無節R1斜縄文を地文に、4ヶ所(単位)で同じ縄文原体を条が縦位になるように施文する。1も器形は若干異なるが同様の手法で、条を縦位方向に施文する部分が2単位確認できる。両土器とも胴部下半では同方向の縄文のみで、異方向の縄文や区画は認められない。1、3の土器は偶発的または辻合わせに施文したのではなく、明らかに意図して計画的な単位として施文している。本文では第2類第1種としたが第2類第3種異条斜縄文の土器としても良い類である。

口縁上部の縦位区画の構成は、関山式から黒浜式や有尾式土器にみられるが、縄文原体の回転方向や原体自体を替えて文様構成に変化を与える手法は、羽状縄文の菱形構成の作出と共通しており黒浜式期の一様相なのか、または突起を4単位貼り付けるものや肋骨文など縦位区画の意識と繋がるものなのか、今後の検討課題とした。

## Ⅱ 今後の課題

1・2号住居跡が集落の最も南側に位置する事から、今回の調査では関山式土器は1点も出土していない。関山式期と黒浜式期では集落の配置が異なることが改めて確認されたと言えるが、集落全般について現段階では十分な検討を加えることは難しく、今後の調査に期待したい。

1・2号住居跡の貝層から出土した動物遺体は、出土状況や貝類の組成などが全く異なる様相を呈していた。山内博士の調査による動物遺体のサンプルとの比較では、種類のには大きな違いは見られなかったが、当時の写真などを見ると、かなりの規模の貝層がみられその様相は多種多様であったと考えられる。1・2号住居跡の各貝層間の問題や動物遺体を含めた周辺の自然環境などについては、川崎遺跡など周辺の遺跡も含めて改めて検討を行いたい。

今回の出土土器については、ほぼ黒浜式と有尾式に限定されることから、古入間湾沿岸における一括資料として貴重である。今後は1937年の出土土器や、川崎遺跡や水子貝塚など周辺遺跡出土土器群との関係をより深くみていきたい。上福岡貝塚を語る上で必ず問題となる、山内清男博士が実績報告でとりあげた「～別型式二属スルラシ」土器群の問題については、新発見も無いことから今回は取立て触れなかった。石器に

についても全く触れることが出来なかった点も含め、今後の研究・検討課題としたい。

最後に上福岡貝塚第1地点出土の縄文土器について、新井和之氏、黒坂禎二氏、下村克彦氏、鈴木徳雄氏、高野博光氏、田中和之氏、早坂廣人氏、山口逸弘氏をはじめ多くの方々から貴重なご助言とご指導をいただきました。また国立奈良文化財研究所埋蔵文化財セン

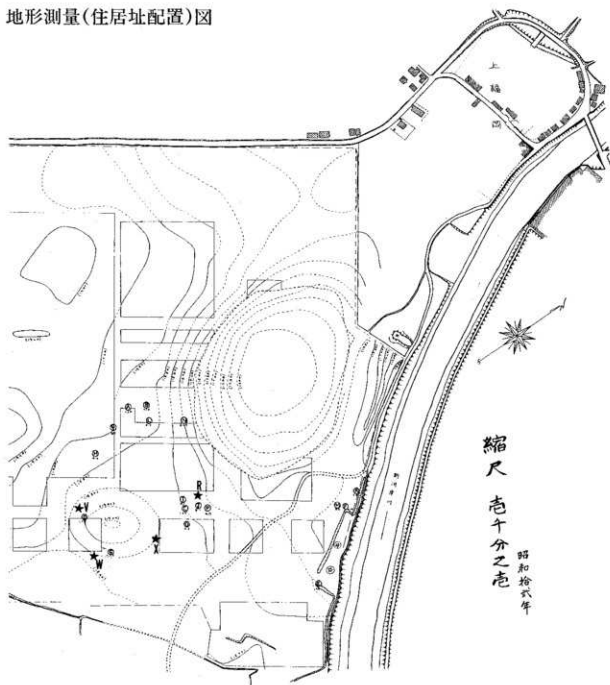
ターの小澤毅氏には山内清男考古資料の見学についてご配慮を賜りました。記して感謝申し上げます。

(鍋島直久)

註(9) 上福岡市教育委員会1994『考古文献資料(1)上福岡貝塚』市史調査報告第5集 P.L.29図に加筆

註(10) 川名広文1997『この人と語る・上福岡貝塚の発掘』『きんもくせい』市史研究第三号 上福岡市教育委員会

## 地形測量(住居址配置)図



※本図は1/1,000の原図を1/4に縮小し、1/4,000として再トレースしたものに、山内図よりR、V、W、X地点住居跡を加筆。

第176図 上福岡貝塚地形測量(住居址配置)図

第92表 川崎遺跡縄文時代前期住居跡一覧表

(単位:cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模 ( )は残存値	如	貝層	周溝	総柱数 (主柱)	壁柱	主軸方位	時期	備考	文献
1]	1974	第1次LN.03	2/3掘	ほぼ方形	420×380×14	○			11(11)		N-16°-E	溝溝a式		川崎遺跡第1次調査概報
2]	1974	第1次LN.19	2/3掘	[長方形]	不明×550×12	○		○	35 (28)		N-42°-E	黒浜式	拡張住居	
3]	1974	第1次LN.20	2/3掘	[長方形]	560×420×60	○	2		29(8)		N-59°-E	黒浜式		
	1975	宅地第1次-A地区	完掘	不整形多角形	330-390×430×25	○			45(8)		N-22°-W	黒浜式		郷土史料第27巻
9]	1975	第2次LN.08	1/2掘	(隅丸長方形)	?×570×?	○				○	N-88°-E	関山式・溝溝式	2軒重複?	
12]	1975	第2次LN.25		長方形	?×450×?	○			42	○	N-68°-W	関山式	L21と複合しL29によって切られる	
10]	1975	第2次LN.34	完掘	方形に近い	520×480×20	○			7		N-15°-W	黒浜式・溝溝式	L N16と複合	
11]	1975	第2次LN.35	完掘	(隅丸長方形)	255×150×10	○			1		不明		L N06と複合	
13]	1975	第2次LN.50	2/3掘	長方形	620×460×12	○			42	40	N-35°-W	関山式?		川崎遺跡第2次調査概報
4]	1975	第2次LN.70	1/2掘	(隅丸長方形)	?×330×?	○			10		不明	黒浜・溝溝式		
5]	1975	第2次LN.73	完掘	隅丸長方形	350×260×?	○					N-6°-W	花積下層式?	複合住居	
6]	1975	第2次LN.74	完掘	隅丸長方形	820×810×?	○					N-80°-W			
7]	1975	第2次LN.76	完掘	隅丸長方形	300×290×?	○					N-10°-E			
8]	1975	第2次LN.77	完掘	隅丸長方形?	?×?×?	○					不明			
14]	1977	第3次7号住居跡	完掘	不明	?×?×?	○			14		不明	花積下層式?		郷土史料第21巻
15]	1977	第3次8号住居跡	完掘	(隅丸長方形)	(540×470×10)	○			14(4)		不明	花積下層式		
16]	1979	第4次1号住居	完掘	隅丸長方形	645×505×40	○	○		37(8)		N-36°-E	黒浜式		郷土史料第24巻
17]	1979	第6次2号住居A	一部	不明	不明	○		○	12		不明	黒浜式?	1B・1C住居重複	郷土史料第24巻
18]	1990	第14次1号住居	完掘	(隅丸方形~長方形)	(470)×425×(10)	○	3		52(10)	○	N-52°-E	関山式		郷土史料第41巻
19]	1995	第16次大型住居跡	完掘	隅丸長方形	1287×862×?	○	2		6		N-45°-E	黒浜式	大型住居	「川崎遺跡第16次の調査説明会資料」[私たちが埋蔵文化財]
	1999											関山式		

第93表 上福岡貝塚縄文時代前期住居跡一覧表

(単位:cm)

新住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模 ( )は残存値	如	貝層	周溝	総柱数 (主柱)	壁柱	主軸方位	時期	備考	文献		
A	1937	A	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
B	1937	B	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
C	1937	C	C-1	完掘	隅丸矩形	500×440×70	○	○	29	68	○	N-56°-E	黒浜式	拡張有		
			C-2	完掘	隅丸矩形	630×530×70	○	○	○	29	○	○	N-56°-E		黒浜式	
			D-1	完掘	隅丸不整形形	350×500×100	○	○	○	85	12	○	N-43°-E		黒浜式に近きもの	
			D-2	完掘	隅丸不整形形	420×560×100	○	○	○	85	14	○	N-43°-E		黒浜式に近きもの	
D	1937	D	D-3	完掘	隅丸不整形形	400×580×100	○	○	○	85	14	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの	拡張有	
			D-4	完掘	隅丸不整形形	560×600×100	○	○	○	85	14	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの		
			D-5	完掘	隅丸不整形形	570×600×100	○	○	○	85	14	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの		
			D-6	完掘	隅丸不整形形	650×600×100	○	○	○	85	16	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの		
			D-7	完掘	隅丸不整形形	760×600×100	○	○	○	85	16	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの		
			D-8	完掘	隅丸不整形形	750×600×100	○	○	○	85	16	○	N-43°-E	黒浜式に近きもの		
E	1937	E	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
F	1937	F	1/3掘 [長方形] (400×320)×70	○	○	○	○	19	68	○	(N-40°-W)	黒浜式				
G	1937	G	1/2掘 (隅丸台形) (500×340)×70	○	○	○	○	16	4	○	(N-26°-E)	黒浜式				
H	1937	H	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
I	1937	I	I-1	完掘	隅丸矩形	510×420×80	○	○	○	45	14	○	N-54°-E	黒浜式	拡張有	本書第2章I(2)及び第58頁上福岡貝塚調査一覧表参照
			I-2	完掘	隅丸矩形	570×470×80	○	○	○	45	16	○	N-54°-E	黒浜式		
J	1937	J	完掘	隅丸長方形	570×430×40	○	○	○	52	32	○	N-56°-E	黒浜式			
K	1937	K	1/2掘 [長方形] (600×280)×60	○	○	○	○	37	8	○	N-49°-W	関山式		拡張有		
L	1937	L	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
M	1937	M	完掘	梯子形	600×500×90	○	○	○	47	47	○	N-80°-W	関山式			
N	1937	N	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
O	1937	O	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
P	1937	P	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
Q	1937	Q	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
R	1937	R	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
S	1937	S	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
T	1937	T	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
U	1937	U	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
V	1937	V	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
W	1937	W	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
X	1937	X	遺構確認のみで未調査、貝層を伴う可能性高い、縄文時代前期とみられる													
1	2007	1号住居跡	2/3掘 (隅丸長方形) (585)×546×60	○	○	○	○	12	36	○	N-75°-E	黒浜式	拡張の可能性有り、X住の可能性有り	市内遺跡群4		
2	2007	2号住居跡	完掘 (台形) 380×380×32	○	○	○	○	5	3	○	N-46°-W	黒浜式	X住の可能性有り			

## 附編 浄禅寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定

株式会社古環境研究所

### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により  $^{14}\text{C}$  年代から暦年代に較正する必要がある。

ここでは、浄禅寺跡遺跡第30地点調査で検出された炭焼窯および茶毘跡の年代を明らかにするために、加速器質量分析法および液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法を用いて放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

測定試料は、第30地点で検出された炭焼窯より出土した炭化物No.8、同茶毘跡1より出土した炭化材No.2、同茶毘跡2より出土した炭化材No.8の3点である。放射性炭素年代測定の手順は以下のとおりである。

表1 測定試料及び処理

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No.1	第30地点炭焼窯 No.8	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄	AMS
No.2	第30地点茶毘跡1 No.2	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄	Radiometric
No.3	第30地点茶毘跡2 No.8	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄	Radiometric

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

※Radiometricは液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法

### 3. 結果

年代測定の結果を表2に示す。

表2 測定結果

試料名	測定No. (PED-)	$^{14}\text{C}$ 年代 <sup>1)</sup> (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ <sup>2)</sup> (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 <sup>3)</sup> (年BP)	暦年代(西暦) <sup>4)</sup>
No.1	10473	520 ± 24	-10.1	530 ± 25	1 $\sigma$ : cal AD 1410 ~ 1440 2 $\sigma$ : cal AD 1320 ~ 1350, cal AD 1390 ~ 1440
No.2	242107	630 ± 70	-21.6	680 ± 70	1 $\sigma$ : cal AD 1270 ~ 1320, cal AD 1350 ~ 1390 2 $\sigma$ : cal AD 1220 ~ 1410
No.3	242108	820 ± 70	-26.7	790 ± 60	1 $\sigma$ : cal AD 1210 ~ 1280 2 $\sigma$ : cal AD 1160 ~ 1290

### (1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は国際的慣例により Libbyの5568年を使用した (実際の半減期は5730年)。

### (2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

### (3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を $-25$ (‰)に標準化することによって得られる年代である。

### (4) 暦年代 Calendar Age

$^{14}\text{C}$ 年代測定値を実際の年代値 (暦年代) に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動および $^{14}\text{C}$ の半減期の違いを校正する必要がある。暦年校正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値およびサンゴのU/Th (ウラン/トリウム) 年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新の校正曲線であるIntCal04ではBC24050年までの換算が可能である (樹木年輪データはBC10450年まで)。

暦年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と校正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$  (68%確率) と $2\sigma$  (95%確率) は、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 4. 所見

放射性炭素年代測定の結果、第30地点で検出された炭焼窯出土の炭化物では $530 \pm 25$ 年BP ( $1\sigma$ の暦年代でAD1410 ~ 1440年)、同茶毘跡1出土の炭化材では $680 \pm 70$ 年BP (同AD1270 ~ 1320年、AD1350 ~ 1390年)、同茶毘跡2出土の炭化材では $790 \pm 60$ 年BP (同AD1210 ~ 1280年) の年代値が得られた。

## 文献

Paula J Reimer et al. (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾崎大真 (2005) INTCAL98からIntCal04へ。学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジアNo.3 - 炭素年代測定による高精度編年体系の構築 -, p.14-15.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院, p.1-36.

## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 4		シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第5集		
編集者	鍋島直久		著者	鍋島直久、世森健一、阿部常規、一本総理、住田雅和、越村篤、大久保明子		
編集機関	ふじみ野市教育委員会		所在地	〒356-8555 ふじみ野市大井中央一丁目1番1号		
発行日	2009年(平成21年)3月30日		市町村コード	北緯	調査開始	調査面積
所収遺跡地点名	所在地		道路コード	東経	調査終了	調査原因
	種別/主な時代・主な遺構・主な遺物					
西遺跡第1地点	特記事項		112453	35°52'23"	20070604	1200
	西2-2068-1・3・4、2069-1		25-001	139°30'15"	20070801	
集落跡/縄文時代中期住居跡3軒、集石土坑6基、土坑12基、溝1本、ピット68基、縄文土器、石器						
縄文時代中期(竊穴式期から加曾利EⅡ式期)の集落範囲が広がって確認された。						
川崎遺跡第22地点	川崎171-1、174-10		112453	35°53'17"	20070424	104
			25-003	139°31'05"	20070522	
集落跡/縄文時代約4基、土坑2基、地下式坑2基、穴蔵1基、溝1本、縄文土器、瓦塔、古代瓦、陶磁器他						
中世地下式坑は中世村落的の配置を研究する上で、瓦塔や古代瓦は村落内の寺院等を研究する上で重要である。						
上福岡貝塚第1地点	福岡2-1500-23・63		112453	35°52'47"	20070521	124
			25-006	139°31'30"	20070612	
集落跡・貝塚/縄文時代前期住居跡2軒、集石土坑1基、堀跡1本、近代水溜・消火栓、縄文土器、石器						
学史的に著名な貝塚で、新たに縄文時代前期中葉(黒浜式期)の貝層を伴う住居跡2軒が確認された。他にも遺構、遺物が保存されている可能性が高く今後の調査に期待したい。						
滝2-6			112453	35°52'40"	20071024	113
			25-008	139°31'38"	20071101	
集落跡/縄文時代晩土器期2ヶ所、縄文時代以降ピット11基、中・近世溝1本検出						
土器範囲やピット等の遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。						
滝2-5-11・17			112453	35°52'43"	20071120	92
			25-008	139°31'37"	20071206	
集落跡/奈良・平安時代住居跡7軒、井戸1基、土坑1基、溝5本、須臾器、土師器						
14号住居跡から8世紀の比企型土器がまとまって出土した。						
長宮2-1-8			112453	35°52'35"	20070606	135
			25-009	139°31'43"	20070622	
集落跡/中・近世井戸5基、土坑9基、ピット13基、縄文土器、石器、中・近世陶磁器、板碑、砥石						
中・近世期の遺構と遺物は遺跡の時期を判別し集落の配置等を研究する上で貴重である。						
長宮2-4-6の一部			112453	35°52'39"	20071204	145
			25-009	139°31'44"	20071205	
集落跡/中・近世期井戸2基、土坑1、堀跡1本、溝5本、ピット10基、縄文土器、陶磁器、砥石、石臼						
中・近世の遺構と遺物は遺跡の範囲を確定し集落の研究をする上で貴重である。						
築地2-5-2			112453	35°52'22"	20070411	281
			25-010	139°31'52"	20070424	
集落跡/古代～近世期堀跡1本、溝2本、土坑2基、旧石器ナイフ形石器、泥面子						
南隣調査区から続く堀跡を確認、本遺跡で初めて旧石器時代の遺物が出土した。						
胸林B地区7街区-3・4			112453	35°51'57"	20070611	72
			25-013	139°31'19"	20070613	
集落跡・中世墳墓/土坑1基						
遺跡の西側で遺構が確認されたことは遺跡範囲を知る上で貴重である。						
福岡新田遺跡第1地点	胸林字寺岡861-1、866-1、865、862、864の一部		112453	35°52'12"	20071009	185
			25-015	139°32'02"	20071024	
集落跡/縄文時代遺物包含層、井戸2基、土坑6基、溝5本、ピット21基、縄文土器、陶磁器他						
本遺跡で初めて確認された縄文時代の包含層は遺跡の時期と範囲を知る上で貴重である。						
亀久保2-12-3			112453	35°51'49"	20080107	170
			30-030	139°30'28"	20080118	
集落跡/縄文時代中期土坑11基、ピット30基						
土坑から出土した縄文時代中期竊穴式期の小型土器は、遺構の属性を検討する上で貴重である。						

西ノ原遺跡第135地点	うれし野1-5-2	112453 30-001	35°51'21" 139°31'12"	20071105 20071112	25	集合住宅駐車場造成 越村篤
	集落跡/縄文時代土坑1基、ビット3基 遺跡の中央部で確認された遺構は集落の構成を考える上で貴重である。					
西ノ原遺跡第141地点	市沢1-8-8	112453 30-001	35°51'23" 139°31'30"	20070508 20070509	81	店舗兼事務所 鍋島直久
	集落跡/時期不明土坑1基、ビット1基 遺跡の東端部で確認された遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。					
神明後遺跡第31地点	苗間284	112453 30-041	35°51'36" 139°31'41"	20070803 20070807	72	個人住宅 鍋島直久
	集落跡/土坑2基 旧村落内で確認された遺構は中世以降の屋敷地の配置を知る上で貴重である。					
苗間東久保遺跡第25地点	苗間字 東久保631-3	112453 30-020	35°51'46" 139°31'52"	20070711 20070723	176	個人住宅 越村篤
	集落跡/ビット4基、縄文土器 遺跡の西部で確認された遺構は遺跡の範囲を知る上で貴重である。					
浄禪寺跡遺跡第9地点	苗間字神明後353-4	112453 30-022	35°51'37" 139°31'49"	20070522 20070524	70	個人住宅 鍋島直久
	集落跡・寺院跡/溝1本、縄文土器、近世陶磁器、瓦質土器 旧浄禪寺境内で確認された遺構は寺院の配置を知る上で貴重である。					
浄禪寺跡遺跡第29地点	苗間570-1・2、571-1・2、575	112453 30-022	35°51'39" 139°31'55"	20070925 20071106	818	分譲住宅 鍋島直久
	集落跡・寺院跡/掘立柱建物跡3棟、地下式土坑1基、井戸15基、土坑15基、堀跡1本、溝17本、ビット291基 旧苗間村の一部とみられる遺構と遺物を確認した。中・近世村落を研究する上で貴重である。					
浄禪寺跡遺跡第30地点	苗間359-1	112453 30-022	35°51'36" 139°31'48"	20071009 20071102	100	分譲住宅 越村篤
	集落跡・寺院跡/縄文時代炉穴1基、落とし穴6基、土坑15基、茶毘跡5基、木炭窯1基、ビット61基、近世陶磁器 旧浄禪寺境内で確認した中世茶毘跡と木炭窯は、寺の縁起と村落配置を研究する上で重要である。					
浄禪寺跡遺跡第31地点	苗間字神明後342-14の一部	112453 30-022	35°51'38" 139°31'52"	20080219 20080305	109	個人住宅 鍋島直久
	集落跡・寺院跡/縄文時代中期後半住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ビット26基、縄文土器、石器 縄文時代中期後半の住居跡は同時期の集落や遺跡範囲を研究する上で重要である。					
浄禪寺跡遺跡第32地点	苗間字神明後342-15-10、340-17	112453 30-022	35°51'38" 139°31'58"	20080225 20080304	40	個人住宅 鍋島直久
	集落跡・寺院跡/堀跡1本、ビット1基、縄文土器 旧浄禪寺境内から確認された溝は寺院の配置を知る上で貴重である。					
大井宿遺跡第15地点	大井1-5-3	112453 30-010	35°51'06" 139°31'01"	20070801 20070810	65	個人住宅 越村篤
	集落跡/近世以降の土坑4基、溝、ビット17基、近世陶磁器、土器、石製品 隣の調査区から南北に延びる溝は、宿場の範囲や土地利用を知る上で貴重である。					
大井氏前跡遺跡第22地点	大井字西原954-1	112453 30-037	35°50'57" 139°31'03"	20071127 20071201	37	寺院庫裏 越村篤
	集落跡/近世以降の礎石3基、土坑4基、ビット25基、近世陶磁器、石製品 徳性寺境内で確認された遺構は同寺院の建物配置を知る上で貴重である。					
大井戸上遺跡第6地点	大井字 東台798-1	112453 30-014	35°50'51" 139°31'10"	20080325 20080328	30	個人住宅 越村篤
	集落跡/ビット49基 屋敷地内で確認されたビット(横列)は屋敷地の土地利用を知る上で貴重である。					
東台遺跡第49地点	大井字 東台646、647-1、665	112453 30-024	35°51'02" 139°31'26"	20080131 20080201	30	道路築造 鍋島直久
	集落跡/住居跡6軒、屋外埋裏、集石土坑2基、土坑1基、粘土採掘坑1基、溝6本他、土偶、土器、石器 本遺跡で初めて出土した土偶は集落内における祭祀活動を研究する上で貴重である。					



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区A試掘調査



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区B試掘調査



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区B試掘調査



鶴ヶ岡外遺跡第5地点調査区D試掘調査

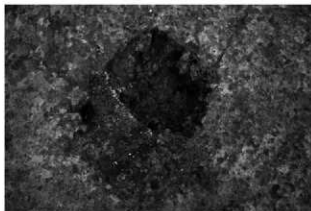


西遺跡第1次調査2号住居跡

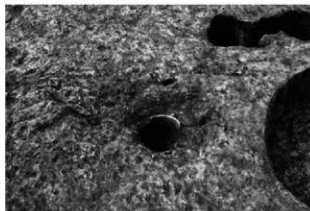




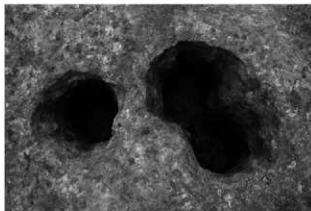
西遺跡第1地点2号住居跡



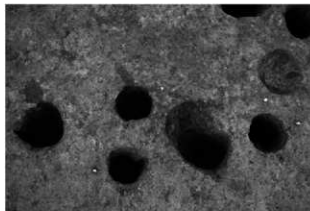
西遺跡第1地点2号住居跡炉



西遺跡第1地点2号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点2号住居跡ビット1~3



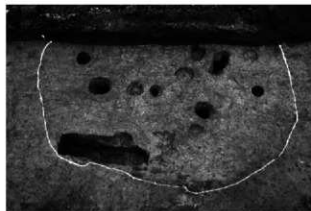
西遺跡第1地点2号住居跡ビット6・13~18



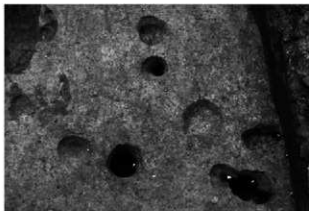
西遺跡第1次調査10号住居跡



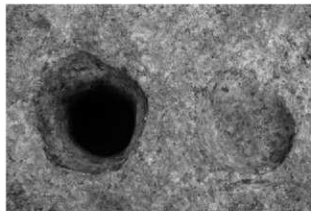
西遺跡第1次調査10号住居跡



西遺跡第1地点10号住居跡



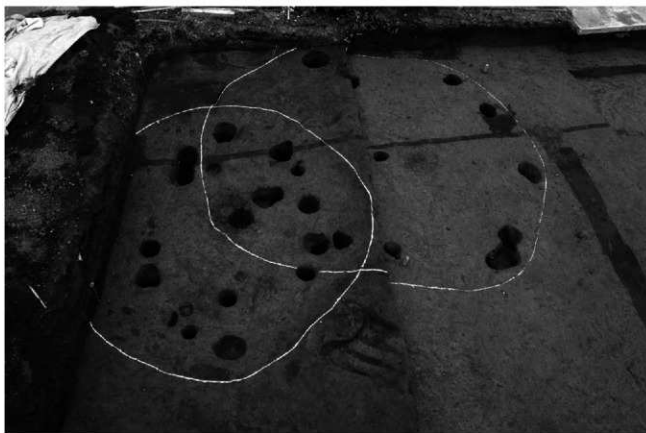
西遺跡第1地点10号住居跡炉・ピット1・4～9・12



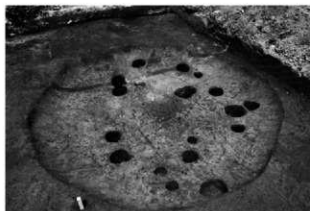
西遺跡第1地点10号住居跡ピット1・5



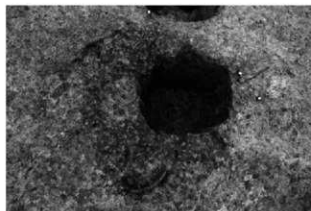
西遺跡第1次調査12号住居跡



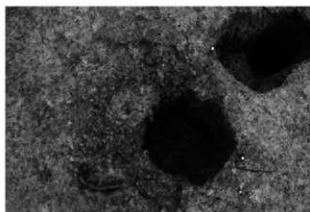
西遺跡第1地点12・22号住居跡



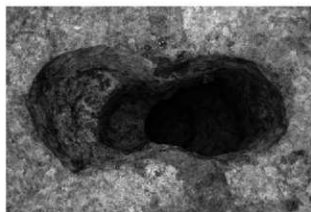
西遺跡第1次調査12号住居跡



西遺跡第1地点12号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点12号住居跡炉体土器出土状況



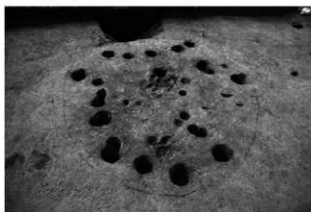
西遺跡第1地点12号住居跡ピット3



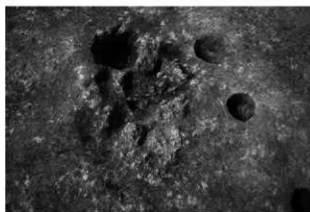
西遺跡第1地点22号住居跡



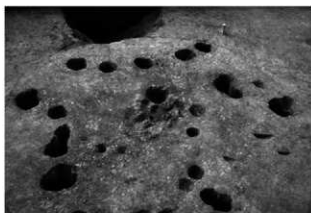
西遺跡第1次調査16号住居跡



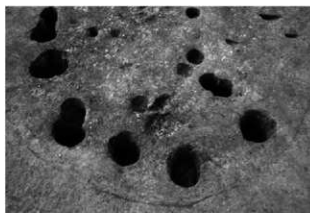
西遺跡第1地点16号住居跡



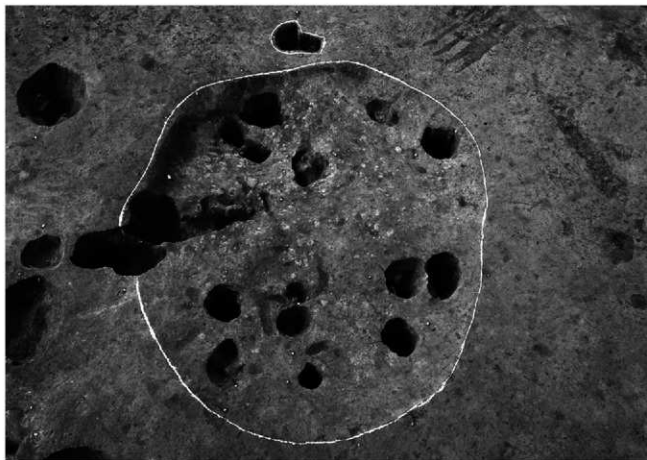
西遺跡第1地点16号住居跡卵



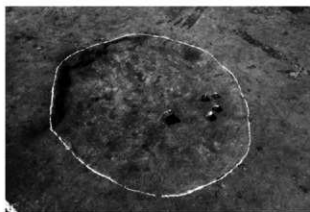
西遺跡第1地点16号住居跡ビット



西遺跡第1地点16号住居跡ビット4・5・13~16・23~26



西遺跡第1地点20号住居跡



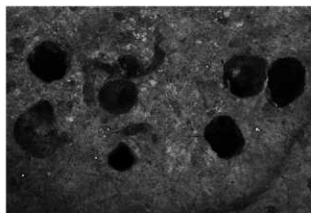
西遺跡第1地点20号住居跡遺物出土状況



西遺跡第1地点20号住居跡遺物出土状況



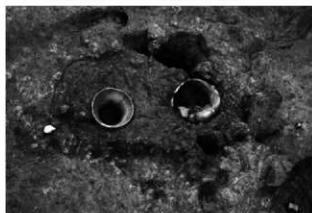
西遺跡第1地点20号住居跡ビット10・11・14



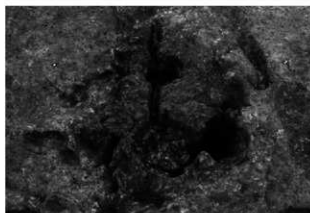
西遺跡第1地点20号住居跡ビット2～9



西遺跡第1地点23号住居跡



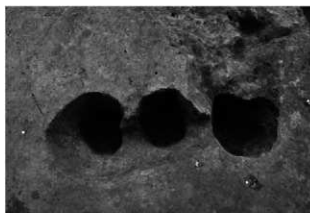
西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点23号住居跡炉



西遺跡第1地点23号住居跡炉体土器出土状況



西遺跡第1地点23号住居跡ビット22・24・25



西遺跡第1次調査全景



西遺跡第1次調査全景



西遺跡第1次調査全景



西遺跡第1次調査1号住居跡



西遺跡第1次調査3号住居跡



西遺跡第1次調査4号住居跡遺物出土状況



西遺跡第1次調査4号住居跡



西遺跡第1次調査4号住居跡炉





西遺跡第1次調査5・7号住居跡



西遺跡第1次調査7号住居跡炉



西遺跡第1次調査7号住居跡炉



西遺跡第1次調査9・10・12・17号住居跡



西遺跡第1次調査9号住居跡



西遺跡第1次調査9号住居跡炉



西遺跡第1次調査6号住居跡



西遺跡第1次調査8号住居跡



西遺跡第1次調査12号住居跡



西遺跡第1次調査13~15号住居跡



西遺跡第1次調査13号住居跡炉



西遺跡第1次調査13~16号住居跡



西遺跡第1次調査15号住居跡炉



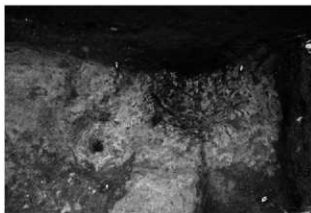
西遺跡第1次調査16号住居跡



西遺跡第1次調査9・10・12・17号住居跡



西遺跡第1次調査17号住居跡



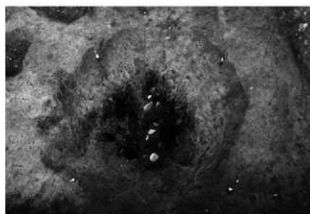
西遺跡第1地点集石土坑1



西遺跡第1地点集石土坑1



西遺跡第1地点集石土坑2



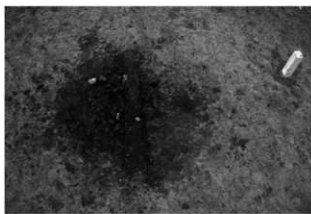
西遺跡第1地点集石土坑2



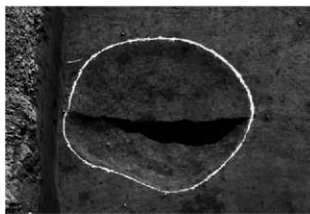
西遺跡第1地点集石土坑3



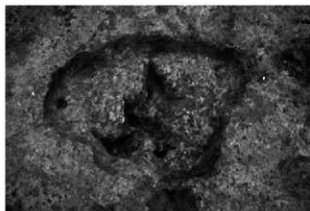
西遺跡第1地点集石土坑4



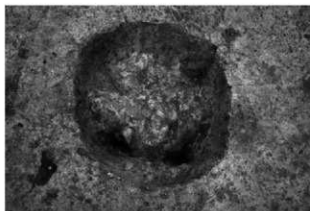
西遺跡第1地点集石土坑5



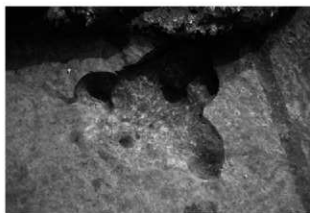
西遺跡第1地点集石土坑6



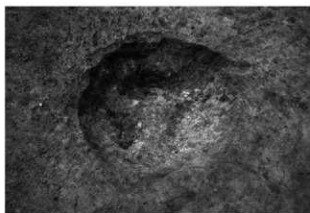
西遺跡第1地点土坑2



西遺跡第1地点土坑3



西遺跡第1地点土坑4



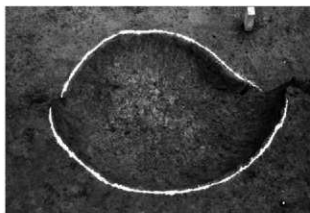
西遺跡第1地点土坑5



西遺跡第1地点土坑6



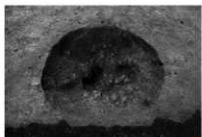
西遺跡第1地点土坑6~9



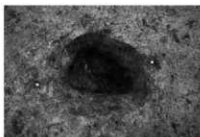
西遺跡第1地点土坑11



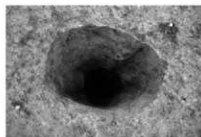
西遺跡第1地点土坑12・13



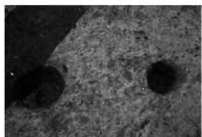
西遺跡第1地点土坑14



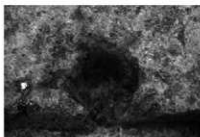
西遺跡第1地点ピット1



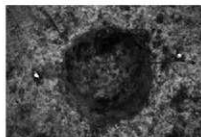
西遺跡第1地点ピット2



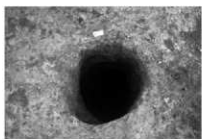
西遺跡第1地点ピット3・4



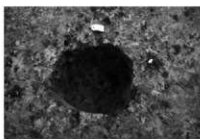
西遺跡第1地点ピット5



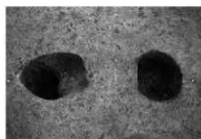
西遺跡第1地点ピット6



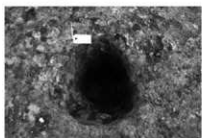
西遺跡第1地点ピット8



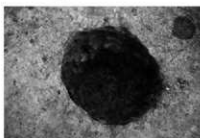
西遺跡第1地点ピット9



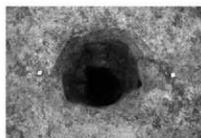
西遺跡第1地点ピット10・11



西遺跡第1地点ピット12



西遺跡第1地点ピット13



西遺跡第1地点ピット14



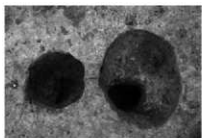
西遺跡第1地点ピット15



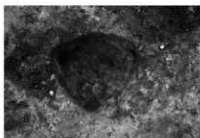
西遺跡第1地点ピット16



西遺跡第1地点ピット17・18



西遺跡第1地点ピット19・20



西遺跡第1地点ピット21



西遺跡第1地点ピット24



西遺跡第1地点本調査全景

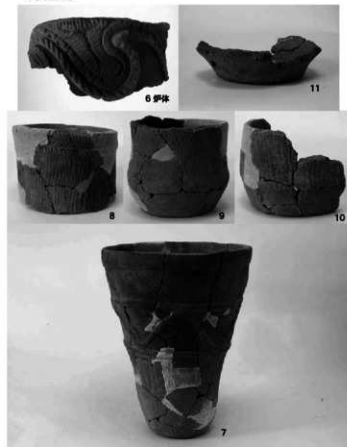


西遺跡第1地点本調査全景

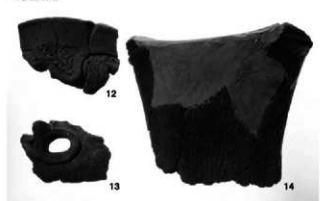
1号住居跡



2号住居跡



3号住居跡



4号住居跡



## 4号住居跡



## 5・7号住居跡





5・7号住居跡



5号住居跡



6号住居跡



8号住居跡



12号住居跡



10号住居跡



15号住居跡



13号住居跡



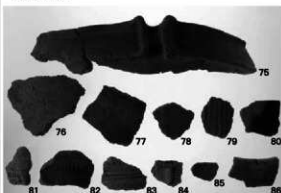
16号住居跡



19号住居跡



20号住居跡



22号住居跡



23号住居跡



第1次調査土坑6



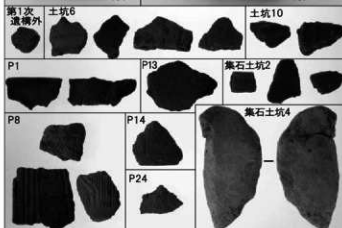
第1次調査土坑3



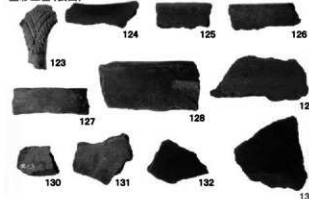
第1次調査土坑66



第1次調査土坑19



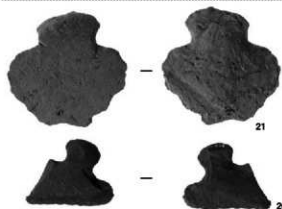
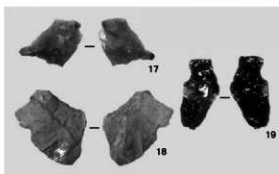
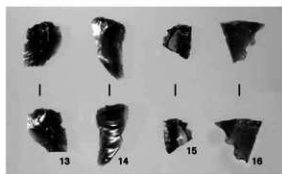
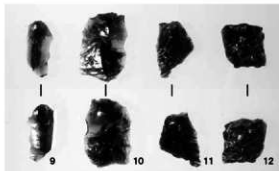
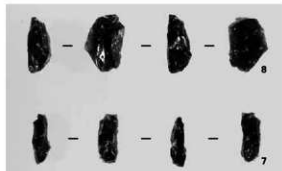
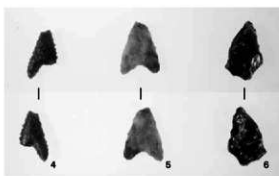
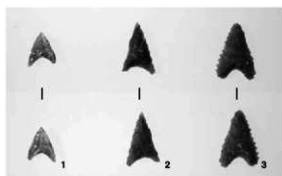
塗彩土器(表面)



(裏面)



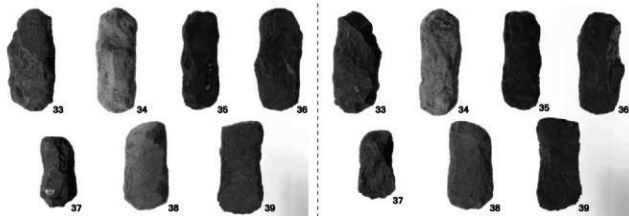
西遺跡22・23号住居跡、第1次調査土坑3・6・19・66、遺構外、土坑6・10、P1・8・13・14、  
集石土坑2・4出土遺物、塗彩土器No.87~133



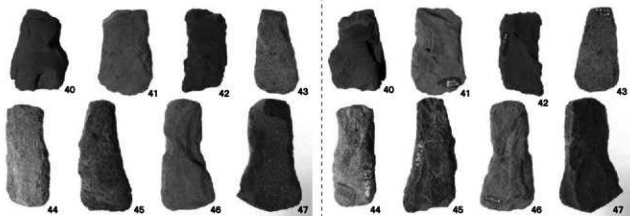
西遺跡出土石器No.1~22



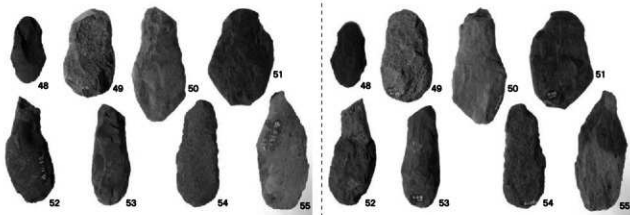
西遺跡出土石器No.23~32 (左:表面、右:裏面)



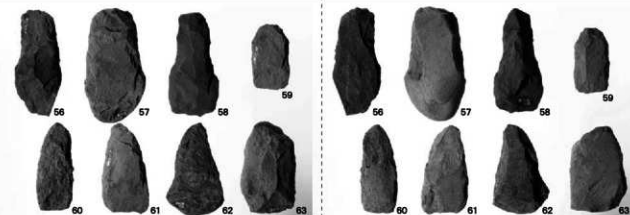
西遺跡出土石器No.33~39 (左:表面、右:裏面)



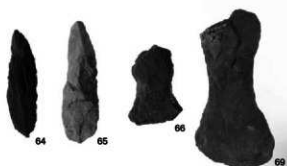
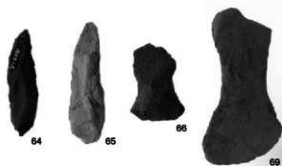
西遺跡出土石器No.40~47 (左:表面、右:裏面)



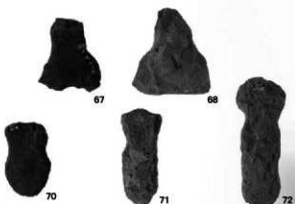
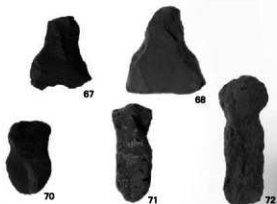
西遺跡出土石器No.48~55 (左:表面、右:裏面)



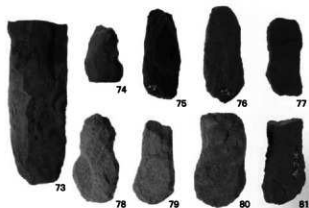
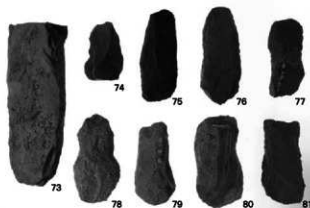
西遺跡出土石器No.56~63 (左:表面、右:裏面)



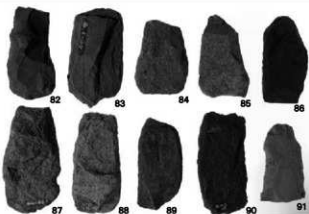
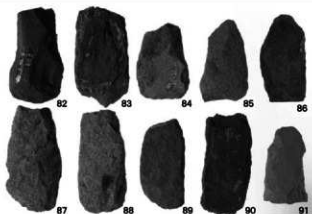
西遺跡出土石器No.64・65・66・69 (左:表面、右:裏面)



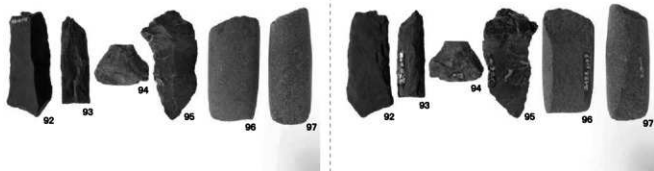
西遺跡出土石器No.67・68・70・71・72 (左:表面、右:裏面)



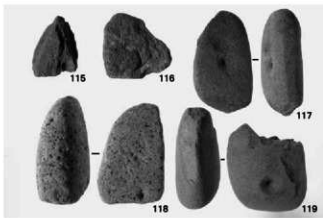
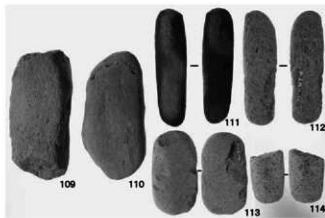
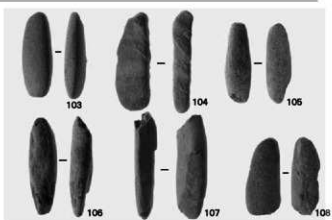
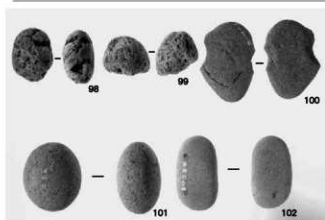
西遺跡出土石器No.73~81 (左:表面、右:裏面)



西遺跡出土石器No.82~91 (左:表面、右:裏面)



西遺跡出土石器No.92~97 (左:表面、右:裏面)



西遺跡出土石器No.98~121



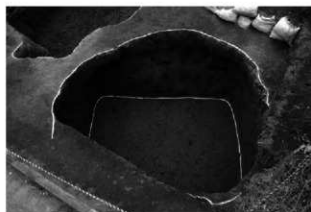
川崎遺跡第22地点地下式坑 1



川崎遺跡第22地点地下式坑 1



川崎遺跡第22地点地下式坑 2



川崎遺跡第22地点地下式坑 2



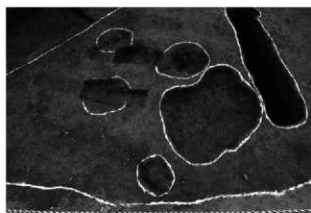
川崎遺跡第22地点穴蔵



川崎遺跡第22地点土坑 1・竈穴



川崎遺跡第22地点土坑 2

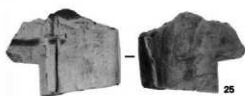
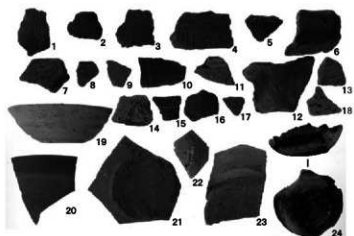


川崎遺跡第22地点竈穴





川崎遺跡第22地点溝



川崎遺跡第22地点出土遺物No.1~34



川崎遺跡第1・2次調査出土瓦(左:凸面、右:凹面)



川崎遺跡第24地点試掘調査



川崎遺跡第24地点試掘調査方形プラン



上福岡貝塚第1地点近景



上福岡貝塚第1地点近景



上福岡貝塚第1地点試掘調査遺構確認状況



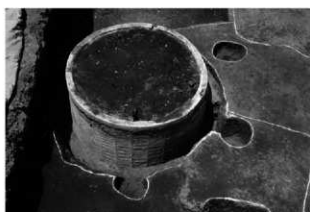
上福岡貝塚第1地点遺構確認状況



上福岡貝塚第1地点消火栓出土状況



上福岡貝塚第1地点消火栓配水管出土状況



上福岡貝塚第1地点水溜



上福岡貝塚第1地点水溜



1

←地上式双口型不凍消火栓



2

配水管刻印



2

配水管刻印



1

消火栓



1

消火栓刻印



1

消火栓刻印



1

消火栓排水口



2

配水管と乙型継手管



1

乙型継手管



1

乙型継手管刻印



上福岡貝塚第1地点集石土坑



上福岡貝塚第1地点集石土坑



上福岡貝塚第1地点全景



上福岡貝塚第1地点掘土層



上福岡貝塚第1地点調査前遺構確認状況(南東から)



上福岡貝塚第1地点全景(南東から)



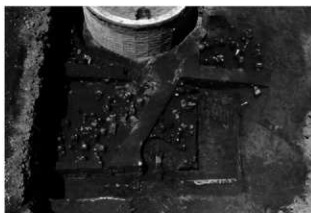
上福岡貝塚第1地点1号住居跡



上福岡貝塚第1地点1号住居跡炉



上福岡貝塚第1地点1号住居跡土層



上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



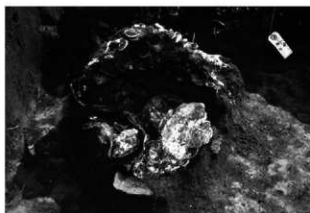
上福岡貝塚第1地点1号住居跡遺物出土状況



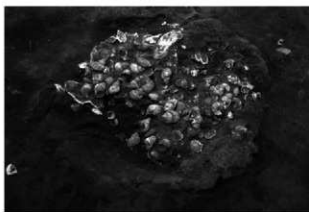
上福岡貝塚第1地点1号住居跡床面遺物出土状況



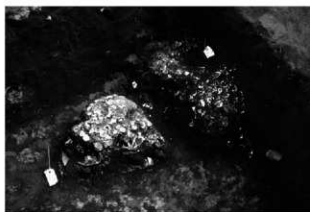
上福岡貝塚第1地点1号住居跡ピット5遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層1土層



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層2オオタニシ出土状況



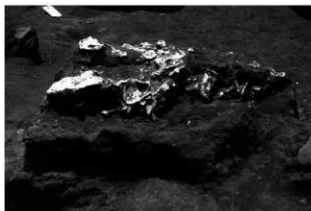
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層1・2



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層3・4土層



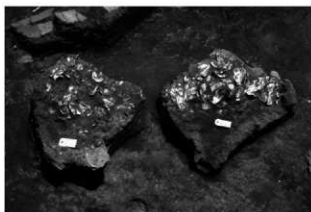
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層5



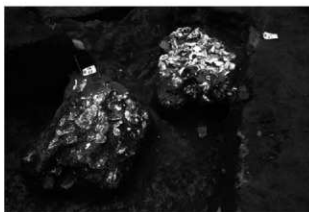
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層6



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層7



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層8・9



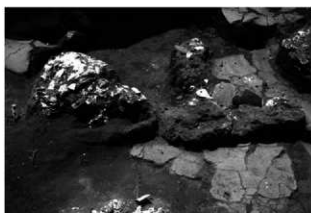
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層8・9



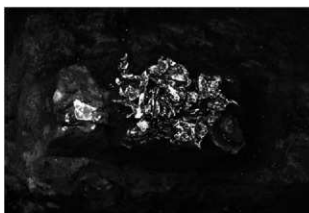
上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層10~12



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層11



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層12



上福岡貝塚第1地点1号住居跡貝層14



上福岡貝塚第1地点2号住居跡



上福岡貝塚第1地点2号住居跡炉



上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況

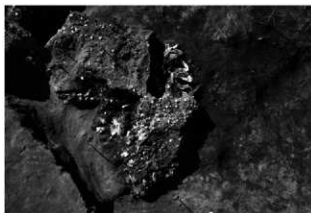


上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況



上福岡貝塚第1地点2号住居跡遺物出土状況

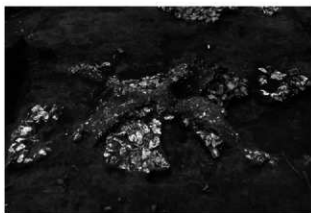




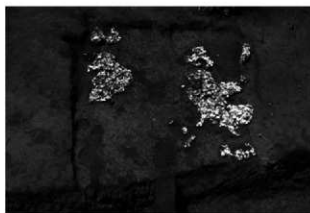
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ



上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ



上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ



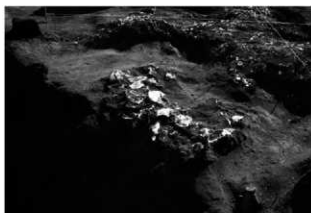
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅰ～Ⅳマガキ①・②出土状況



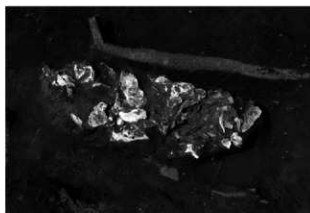
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ土層



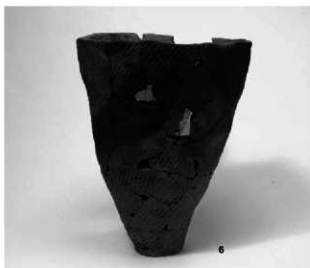
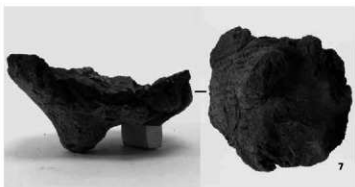
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅱ土層



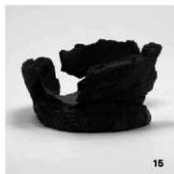
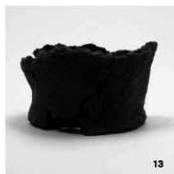
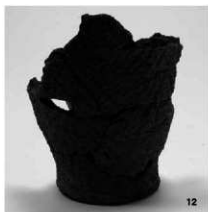
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅲ

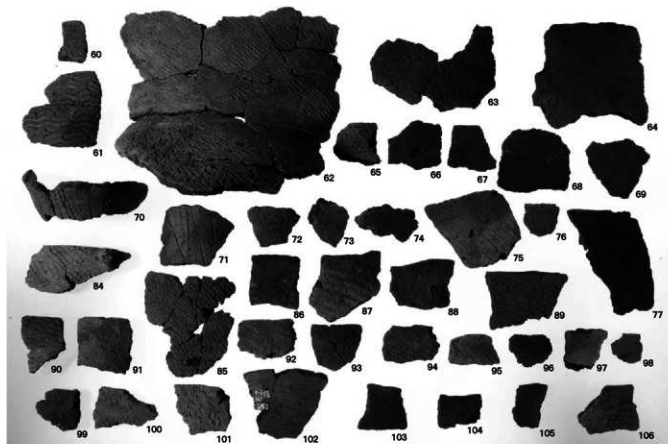
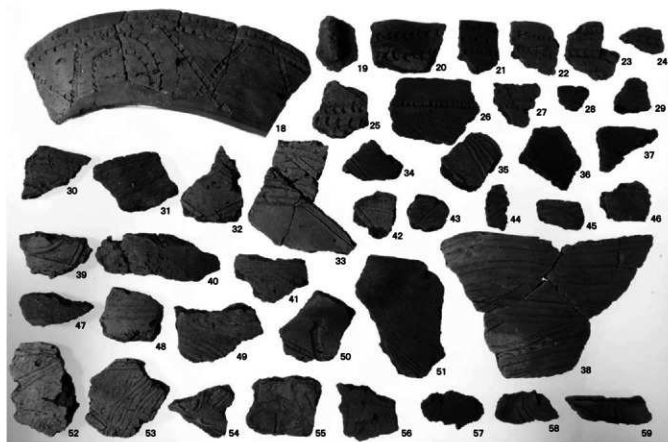


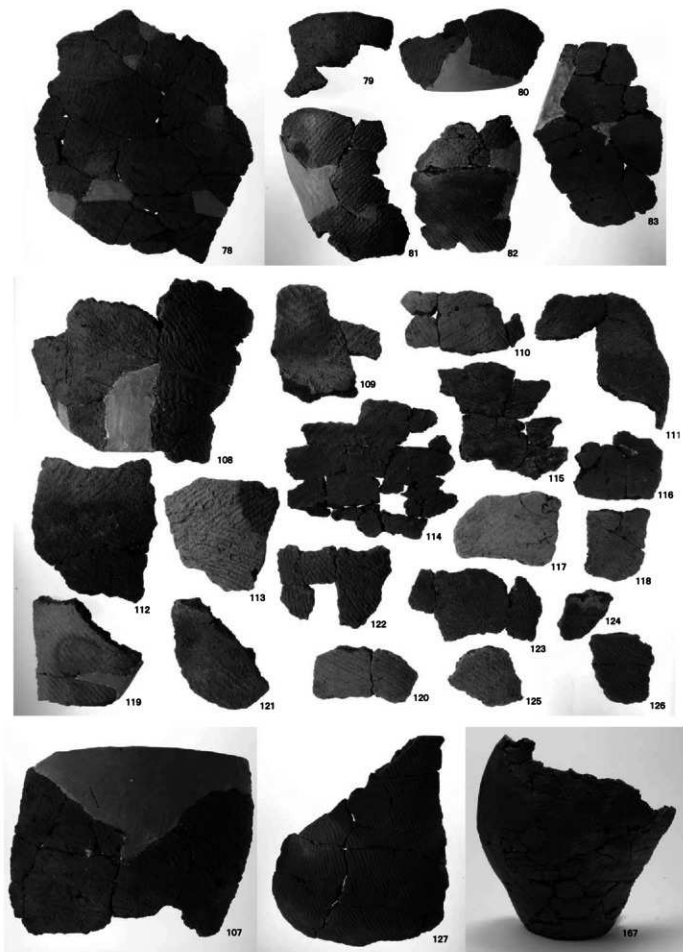
上福岡貝塚第1地点2号住居跡貝層Ⅳ



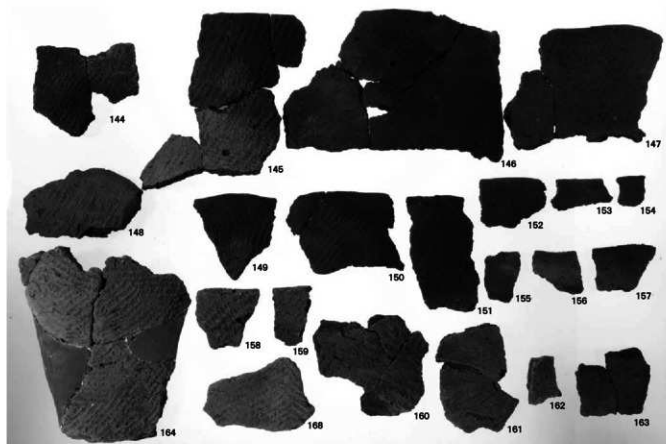
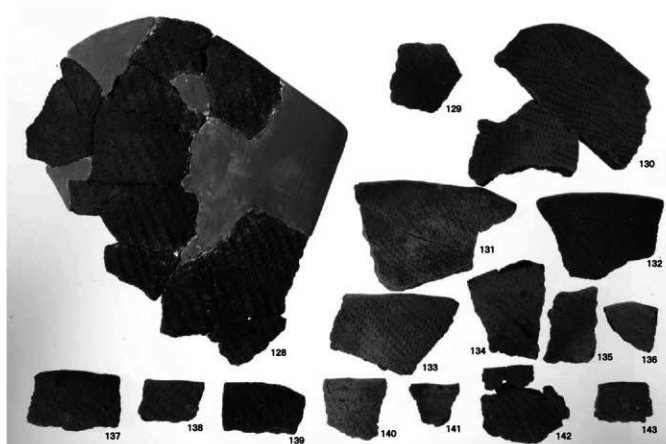
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.1~8

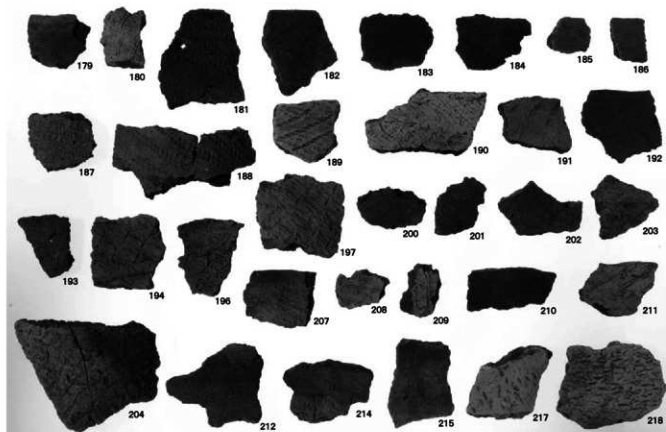
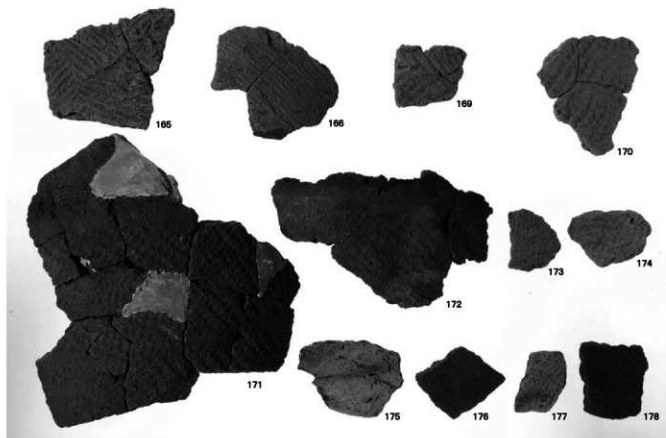


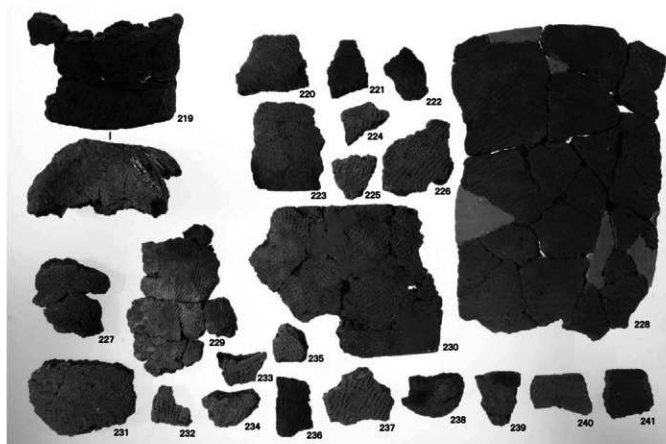
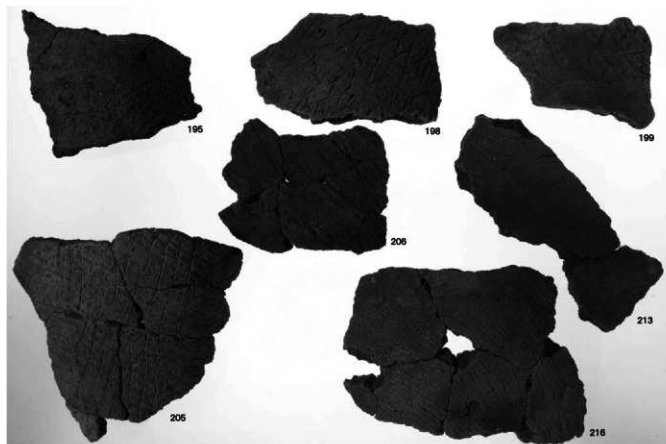




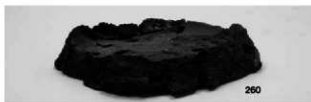
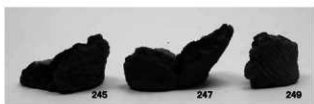
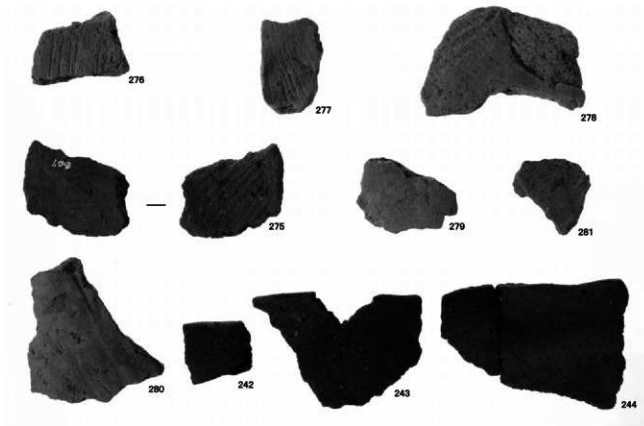
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.78~83・107~127・167

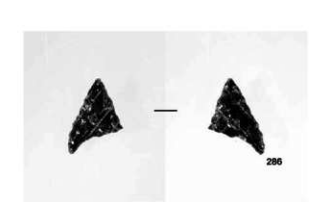
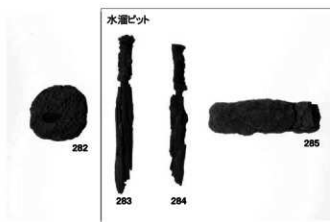
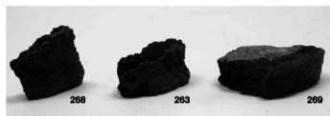
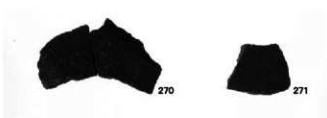




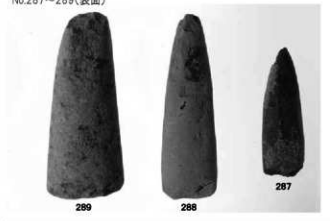




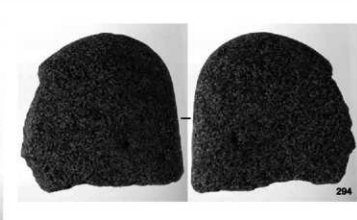
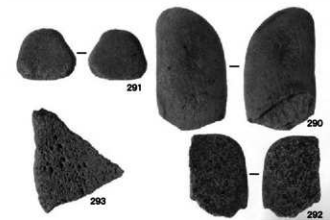




No.287~289(表面)



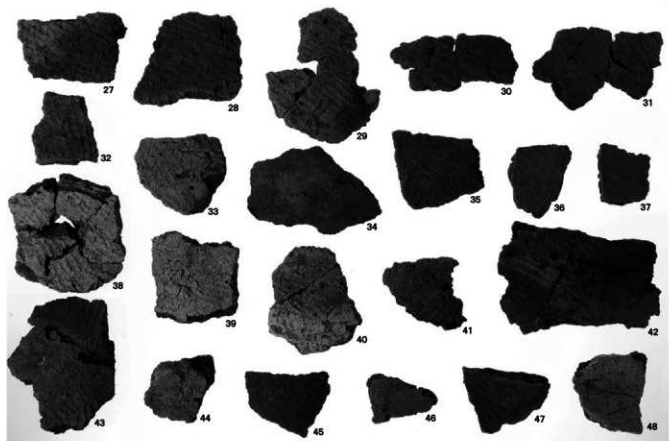
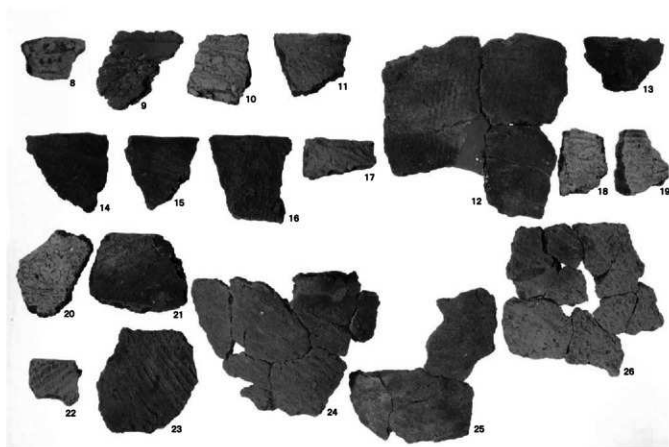
(裏面)

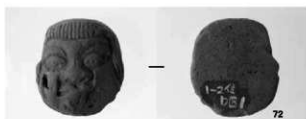
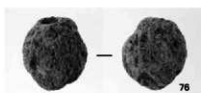
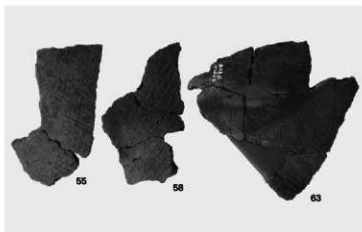
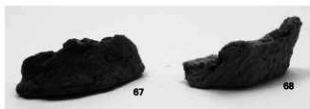


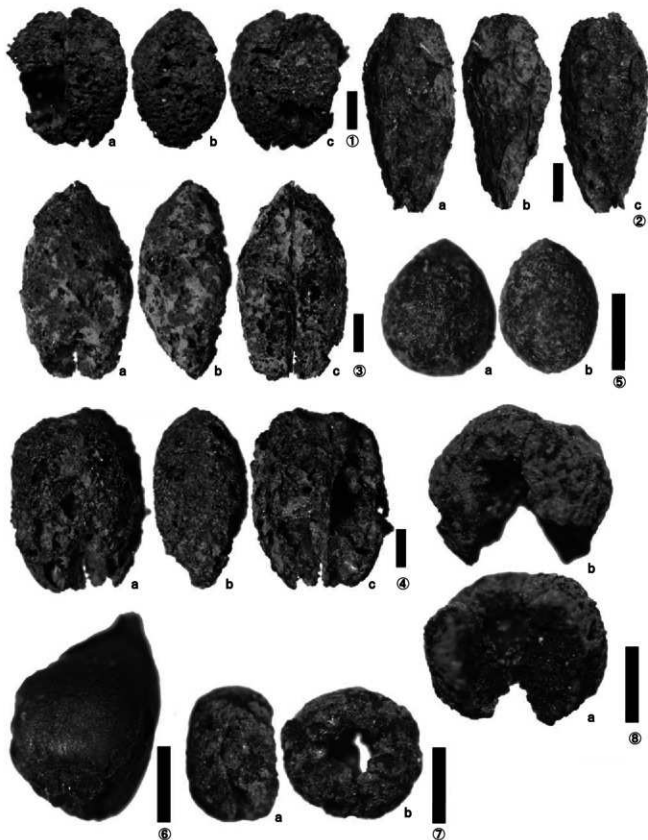
上福岡貝塚第1地点1号住居跡出土遺物No.263・265~274・282~294、水溜ビット出土遺物



上福岡貝塚第1地点2号住居跡出土遺物No.1~7







①オオムギ 2号住居跡 貝層Ⅰ(1層)

②オオムギ 2号住居跡 貝層Ⅰ(4層)

③オオムギ 2号住居跡 貝層Ⅰ

④コムギ 2号住居跡 貝層Ⅰ(1層)

⑤涙滴型種子 2号住居跡 貝層Ⅱ

⑥タデ属 2号住居跡 貝層Ⅴ

⑦ビーズ状体 2号住居跡 貝層Ⅱ

⑧ビーズ状体 2号住居跡 貝層Ⅴ

黒棒は1mm、a、b、cは同一資料の異なった方向からの写真。



滝遺跡第13地点試掘調査近景



滝遺跡第13地点試掘調査トレンチ1・2



滝遺跡第13地点焼土2・ピット11



滝遺跡第13地点土坑1、ピット9・10、溝1



滝遺跡第13地点ピット3～6



滝遺跡第14地点近景



滝遺跡第14地点試掘調査トレンチ1



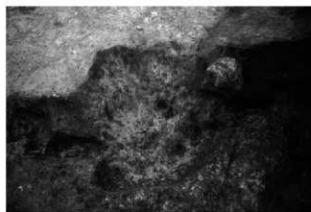
滝遺跡第14地点溝4



滝遺跡第14地点13号住居跡



滝遺跡第14地点13号住居跡貼り床



滝遺跡第14地点13号住居跡竈



滝遺跡第14地点13号住居跡



滝遺跡第14地点13号住居跡





滝遺跡第14地点14号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点14号住居跡竈周辺遺物出土状況



滝遺跡第14地点14号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点14号住居跡完掘



滝遺跡第14地点14号住居跡竈



滝遺跡第14地点14号住居跡



滝遺跡第14地点15号住居跡



滝遺跡第14地点15号住居跡



滝遺跡第14地点16号住居跡



滝遺跡第14地点16号住居跡遺物出土状況



滝遺跡第14地点16号住居跡土層



滝遺跡第14地点17号住居跡



滝遺跡第14地点17号住居跡



滝遺跡第14地点18号住居跡、溝2・3



滝遺跡第14地点18号住居跡、溝2・3



滝遺跡第14地点溝1



滝遺跡第14地点溝5



滝遺跡第14地点土坑1

13号住居跡



14号住居跡



17号住居跡



15号住居跡



16号住居跡



29



石器No.34~37





長宮遺跡第27地点試掘調査近景



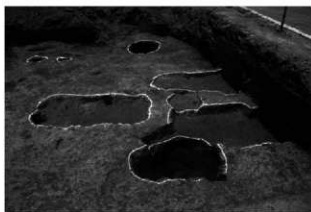
長宮遺跡第27地点試掘調査全景



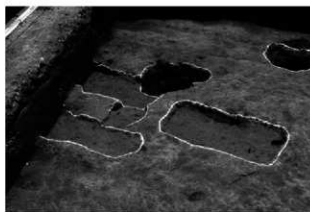
長宮遺跡第28地点本調査南側全景



長宮遺跡第28地点土坑1



長宮遺跡第28地点土坑2・7～10、井戸5、ピット8・9・13



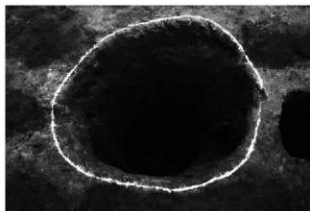
長宮遺跡第28地点土坑7～10、井戸4・5、ピット13



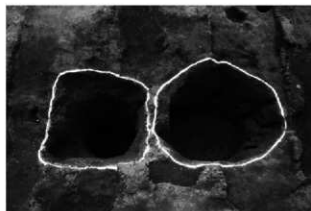
長宮遺跡第28地点土坑8～10、ピット13



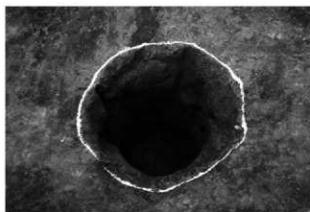
長宮遺跡第28地点本調査北側全景



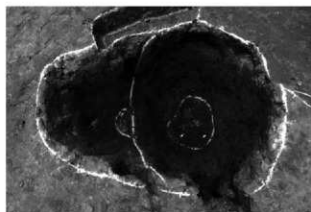
長宮遺跡第28地点井戸1



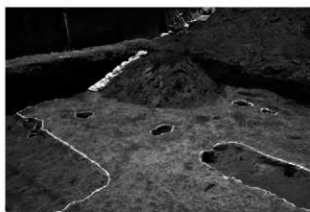
長宮遺跡第28地点井戸2・3



長宮遺跡第28地点井戸4



長宮遺跡第28地点井戸5

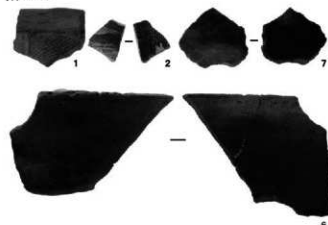


長宮遺跡第28地点本調査南側ピット群



長宮遺跡第28地点本調査北側全景

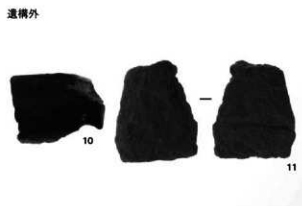
井戸1・3



長宮遺跡第28地点出土遺物No.1~8



長宮遺跡第28地点出土遺物No. 9



長宮遺跡第28地点出土遺物No. 10・11



長宮遺跡第29地点試掘調査全景



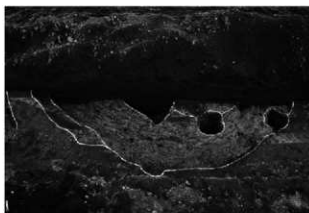
長宮遺跡第29地点トレンチ1、溝4・5



長宮遺跡第29地点トレンチ1、溝3、ピット10



長宮遺跡第29地点トレンチ2、溝



長宮遺跡第29地点トレンチ3、溝、ピット4・5



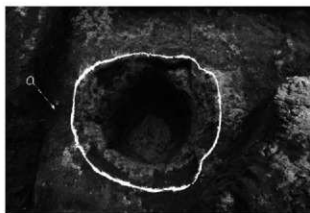
長宮遺跡第29地点トレンチ3、堀



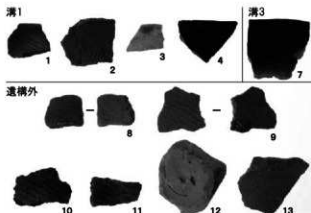
長宮遺跡第29地点堀遺物出土状況



長宮遺跡第29地点井戸1



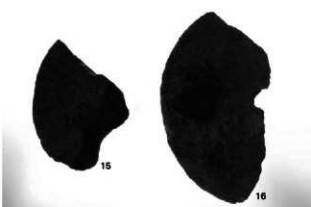
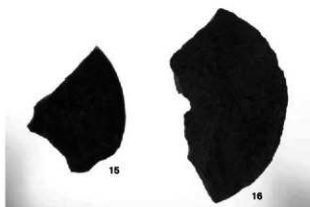
長宮遺跡第29地点井戸2



長宮遺跡第29地点溝1・3・遺構外出土遺物  
No.1~4・7~13



長宮遺跡第29地点溝2・遺構外出土遺物No.5・6・14 (左：表面、右：裏面)



長宮遺跡第29地点遺構外出土遺物No.15・16 (左：表面、右：裏面)

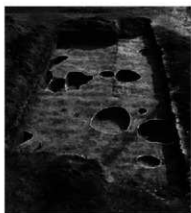




亀居遺跡第62地点試掘調査近景



亀居遺跡第62地点本調査全景



亀居遺跡第62地点本調査全景



亀居遺跡第62地点本調査表土除去風景



亀居遺跡第62地点本調査全景



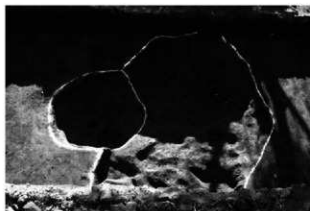
亀居遺跡第62地点土坑3



亀居遺跡第62地点土坑4



亀居遺跡第62地点土坑5



亀居遺跡第62地点土坑6



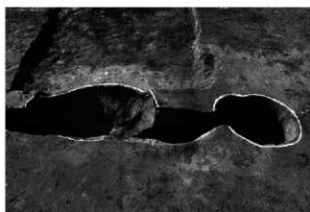
亀居遺跡第62地点土坑7・8



亀居遺跡第62地点土坑1・9



亀居遺跡第62地点土坑9 遺物出土状況



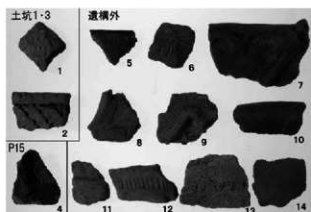
亀居遺跡第62地点土坑10、ピット25



亀居遺跡第62地点土坑11



亀居遺跡第62地点土坑9出土土器



亀居遺跡第62地点土坑1・3、ピット15、遺構外出土遺物  
No.1・2・4~14



松山遺跡第43地点試掘調査近景



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ1



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ2



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ3



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ4



松山遺跡第43地点試掘調査トレンチ4



松山遺跡第43地点土坑1



松山遺跡第43地点出土遺物No.1・2



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ1



江川東遺跡第14地点試掘調査トレンチ2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ1・2



江川東遺跡第15地点試掘調査トレンチ3・4



江川東遺跡第15地点出土遺物



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ1



東久保遺跡第65地点試掘調査トレンチ2



東中学校西遺跡第31地点近景



駒林遺跡第4地点試掘調査近景



駒林遺跡第4地点試掘調査トレンチ1



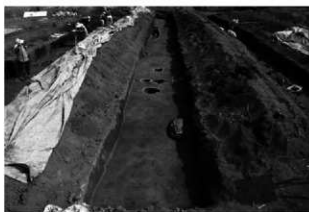
駒林遺跡第4地点土坑1



駒林遺跡第4地点試掘調査風景



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ1



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ2



福岡新田遺跡第1地点試掘調査トレンチ3



福岡新田遺跡第1地点土坑4、溝1



福岡新田遺跡第1地点土坑4、溝1



福岡新田遺跡第1地点土坑5、溝5



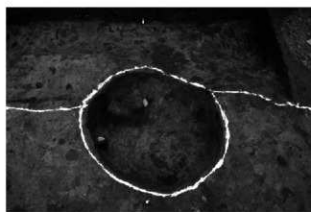
福岡新田遺跡第1地点土坑6、溝2



福岡新田遺跡第1地点井戸2



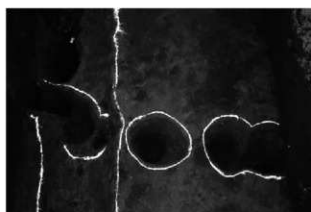
福岡新田遺跡第1地点ピット1~4



福岡新田遺跡第1地点ピット7



福岡新田遺跡第1地点ピット9・10



福岡新田遺跡第1地点ピット16~20



福岡新田遺跡第1地点礎石



福岡新田遺跡第1地点縄文土器出土状況



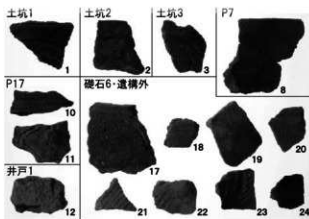
福岡新田遺跡第1地点礎石3



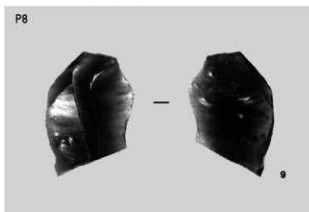
福岡新田遺跡第1地点試掘調査風景



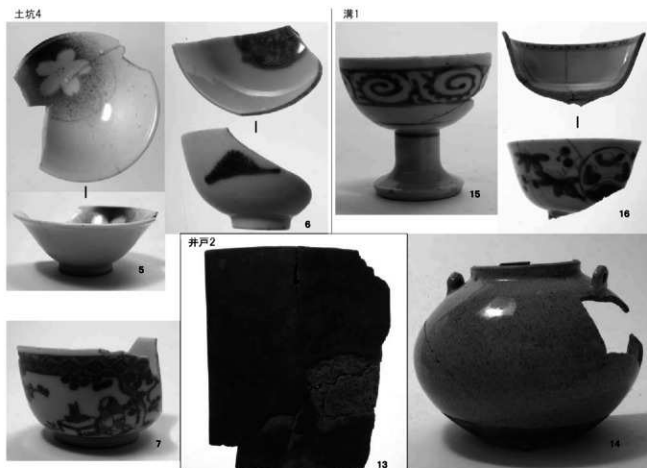
福岡新田遺跡第1地点試掘調査風景

福岡新田遺跡第1地点出土遺物  
No.1~3・8・10~12・17~24

福岡新田遺跡第1地点出土遺物No.4



福岡新田遺跡第1地点出土遺物No.9



福岡新田遺跡第1地点出土遺物No.5~7・13~16



西ノ原遺跡第135地点試掘調査トレンチ1



西ノ原遺跡第135地点試掘調査トレンチ2



西ノ原遺跡第135地点土坑

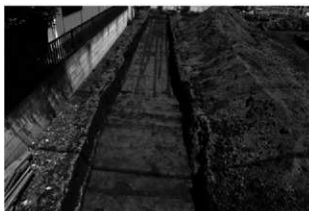


西ノ原遺跡第135地点ビット1~3





西ノ原遺跡第140地点試掘調査近景



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ1



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ2



西ノ原遺跡第140地点試掘調査トレンチ4・5



西ノ原遺跡第141地点試掘調査トレンチ1



西ノ原遺跡第141地点試掘調査トレンチ2



西ノ原遺跡第141地点土坑



西ノ原遺跡第141地点ピット



神明後遺跡第31地点試掘調査トレンチ1



神明後遺跡第31地点試掘調査トレンチ4



神明後遺跡第31地点土坑1・2



神明後遺跡第32地点試掘調査トレンチ1



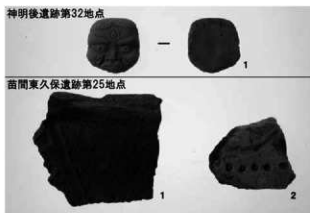
神明後遺跡第32地点試掘調査トレンチ2



苗間東久保遺跡第25地点試掘調査全景



苗間東久保遺跡第25地点試掘調査トレンチ1、ビット1～3



神明後遺跡第32地点

苗間東久保遺跡第25地点

神明後遺跡第32地点・苗間東久保遺跡第25地点  
出土遺物



浄禪寺跡遺跡第9地点本調査近景



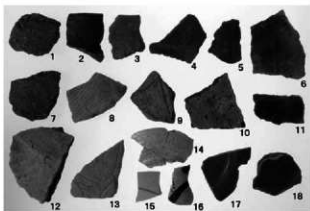
浄禪寺跡遺跡第9地点本調査表土除去風景



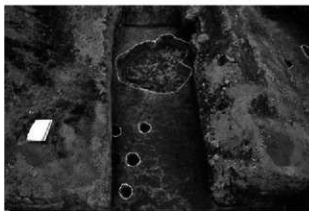
浄禪寺跡遺跡第9地点本調査溝



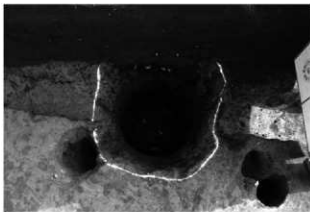
浄禪寺跡遺跡第9地点本調査溝土層



浄禪寺跡遺跡第9地点出土遺物No.1~18



浄禪寺跡遺跡第29地点地下式坑、ビット



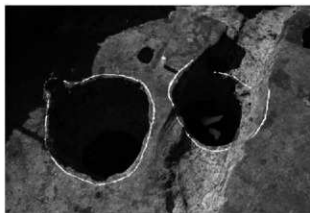
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸1



浄禪寺跡遺跡第29地点井戸2



浄禪寺跡遺跡第29地点井戸3



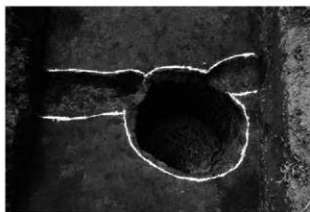
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸4・13



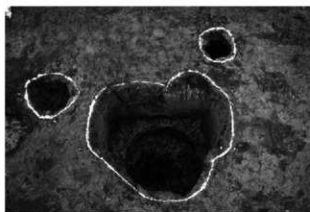
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸4 遺物出土状況



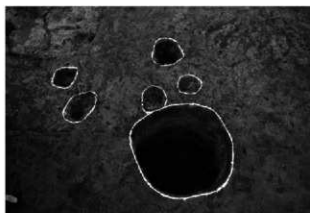
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸6、堀跡1



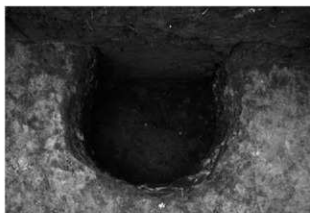
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸8、溝3



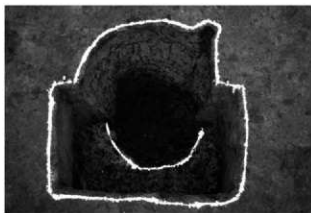
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸9



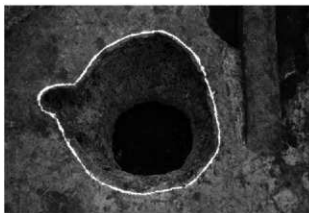
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸10



浄禪寺跡遺跡第29地点井戸11



浄禪寺跡遺跡第29地点井戸12



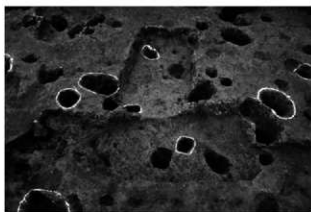
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸13



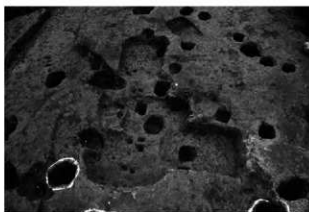
浄禪寺跡遺跡第29地点井戸14



浄禪寺跡遺跡第29地点井戸15周辺



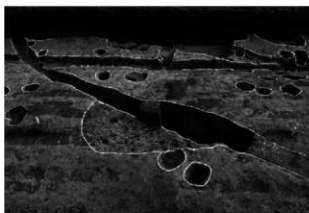
浄禪寺跡遺跡第29地点土坑 5・40・41



浄禪寺跡遺跡第29地点土坑 6・7・22・47・48



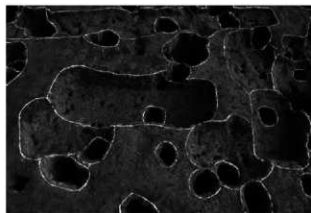
浄禪寺跡遺跡第29地点土坑12



浄禪寺跡遺跡第29地点土坑15、溝 2・3



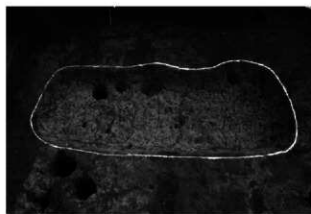
淨禪寺跡遺跡第29地点土坑38周辺



淨禪寺跡遺跡第29地点土坑43・44・47周辺



淨禪寺跡遺跡第29地点土坑45



淨禪寺跡遺跡第29地点土坑46



淨禪寺跡遺跡第29地点土坑47・48周辺



淨禪寺跡遺跡第29地点土坑50



淨禪寺跡遺跡第29地点堀跡



淨禪寺跡遺跡第29地点溝1・2



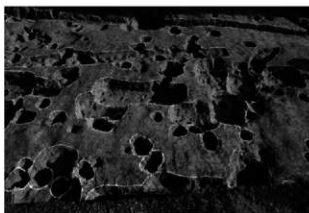
浄禪寺跡遺跡第29地点溝 8



浄禪寺跡遺跡第29地点溝 8



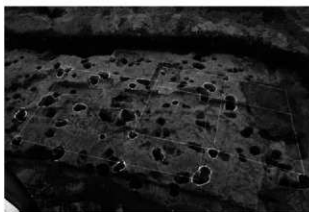
浄禪寺跡遺跡第29地点溝12、井戸4・5・13・14、土坑42



浄禪寺跡遺跡第29地点D-6、E-6区周辺



浄禪寺跡遺跡第29地点D-5、E-6区周辺



浄禪寺跡遺跡第29地点D-5-6、E-5-6区掘立柱建物跡



浄禪寺跡遺跡第29地点1~K-2~4区周辺



浄禪寺跡遺跡第29地点本調査全景（東から）



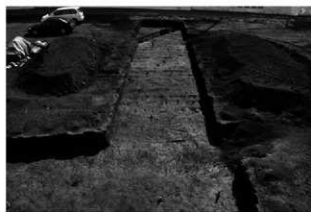
浄禪寺跡遺跡第29地点本調査D・E区全景（東から）



浄禪寺跡遺跡第29地点本調査4・5区全景（北から）



浄禪寺跡遺跡第29地点本調査10・11区全景（北から）



浄禪寺跡遺跡第29地点本調査1～M-19・20区全景（北から）

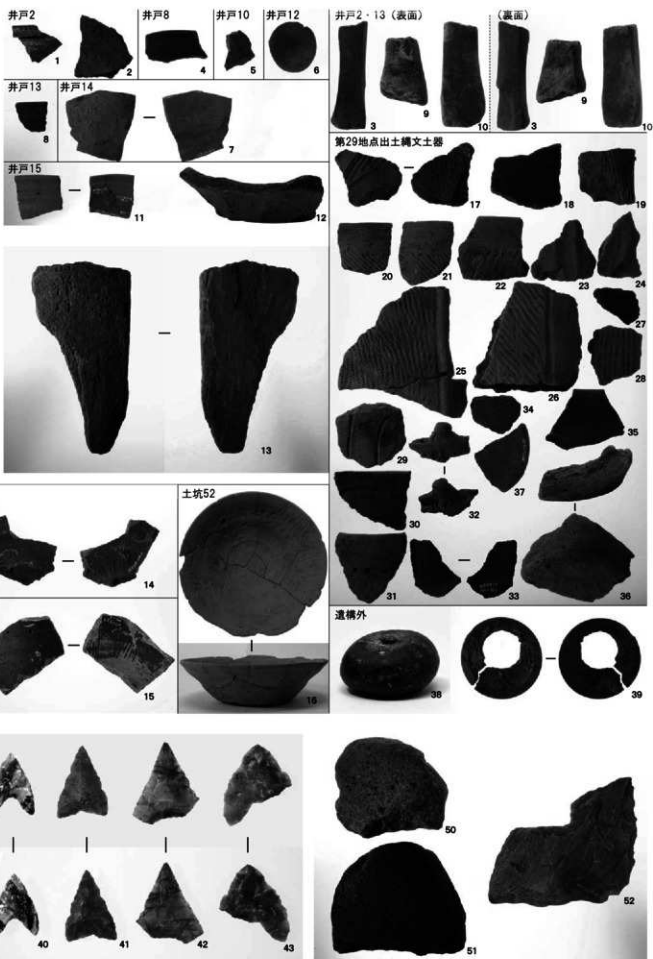


浄禪寺跡遺跡第29地点本調査1区全景（西から）

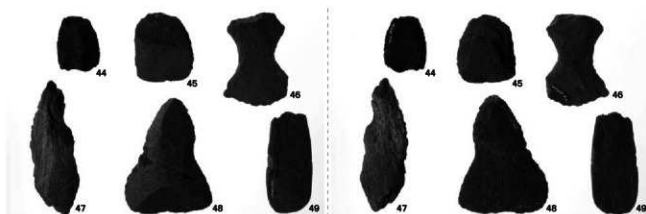


浄禪寺跡遺跡第29地点本調査全景（北から）





浄禅寺跡遺跡第29地点出土遺物No.1~43・50~52



浄禪寺跡遺跡第29地点出土石器No.44～49 (左：表面、右：裏面)



浄禪寺跡遺跡第30地点  
試掘調査トレンチ2



浄禪寺跡遺跡第30地点  
試掘調査トレンチ3



浄禪寺跡遺跡第30地点試掘調査トレンチ4



浄禪寺跡遺跡第30地点炉穴1



浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴1



浄禪寺跡遺跡第30地点落とし穴2



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴3



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴4



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴5



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑1



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑2・4、溝1



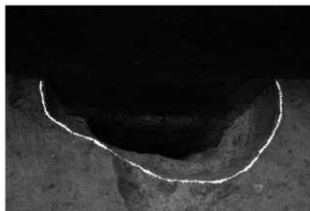
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑5



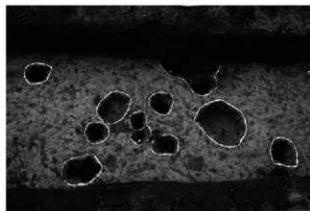
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑7



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑8



浄禪寺跡遺跡第30地点土坑9



浄禪寺跡遺跡第30地点トレンチ4、ピット



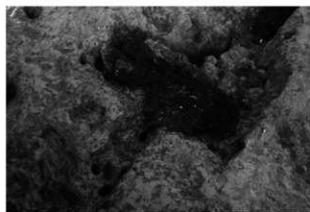
浄禪寺跡遺跡第30地点トレンチ5、ピット



浄禪寺跡遺跡第30地点本調査全景



浄禪寺跡遺跡第30地点本調査全景



浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



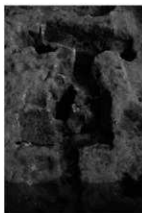
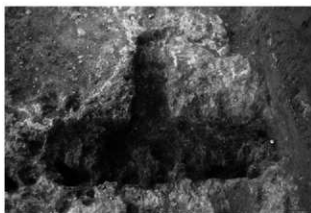
浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禪寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1

浄禅寺跡遺跡第30地点  
茶毘跡1・3浄禅寺跡遺跡第30地点  
茶毘跡1・3

浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡2 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡2



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡3 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡3



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡4



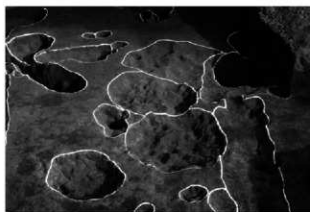
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡4・5



浄禅寺跡遺跡第30地点茶昆跡1・3、木炭窯



浄禅寺跡遺跡第30地点木炭窯



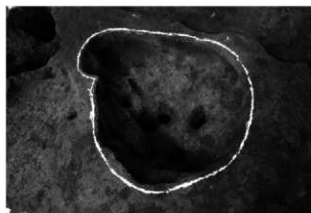
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑4・11・12・15・16



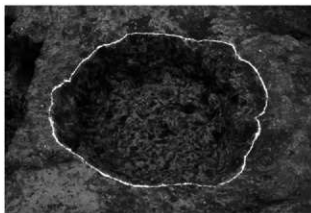
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑3土層



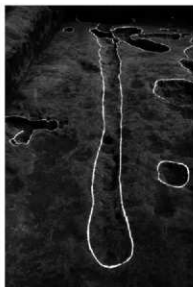
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑3



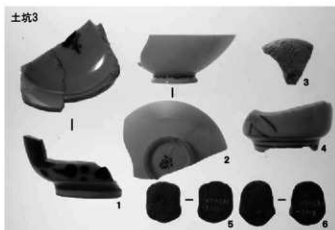
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑10



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑14



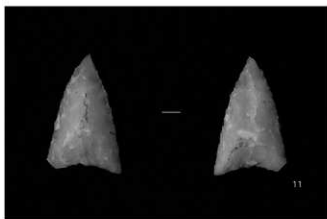
浄禅寺跡遺跡第30地点溝



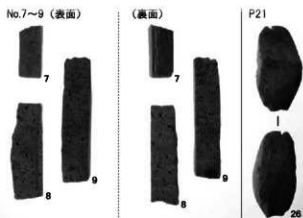
土坑3



10



11



No.7~9 (表面)

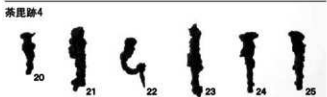
(裏面)

P21

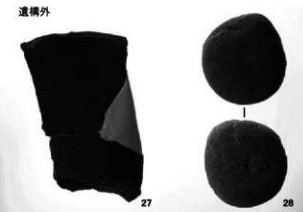
26



茶匙跡1



茶匙跡4



遺構外

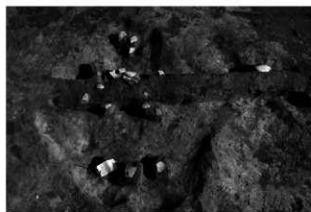
28



浄禪寺跡遺跡第31地点3号住居跡



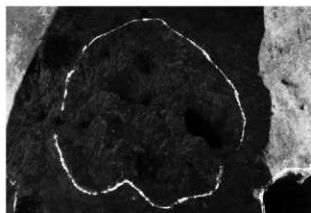
浄禪寺跡遺跡第31地点3号住居跡



浄禪寺跡遺跡第31地点炉遺物出土状況



浄禪寺跡遺跡第31地点3号住居跡埋裏

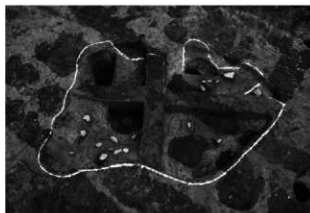


浄禪寺跡遺跡第31地点炉穴

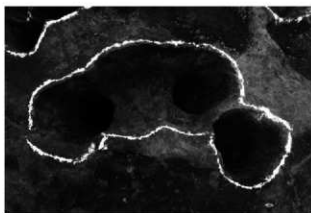




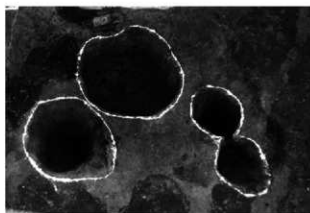
浄禅寺跡遺跡第31地点土坑1



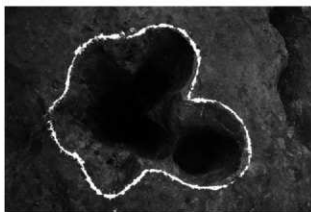
浄禅寺跡遺跡第31地点ビット6～8・14



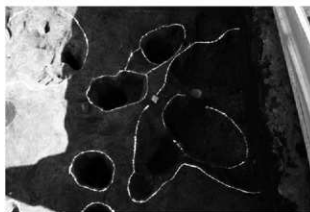
浄禅寺跡遺跡第31地点ビット6・22・23



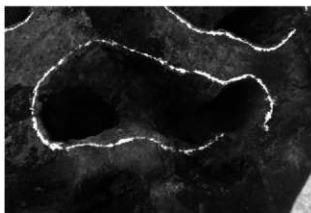
浄禅寺跡遺跡第31地点ビット7・8・24・25



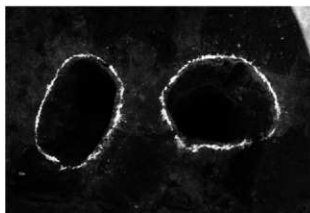
浄禅寺跡遺跡第31地点ビット11



浄禅寺跡遺跡第31地点ビット12・13・18



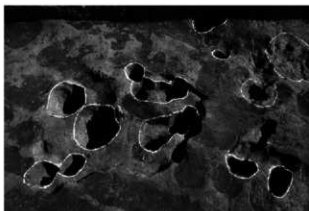
浄禅寺跡遺跡第31地点ビット14・21



浄禅寺跡遺跡第31地点ビット15・17

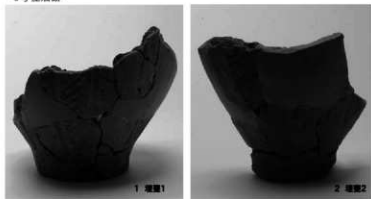


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

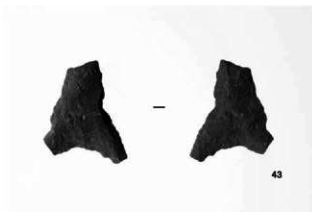
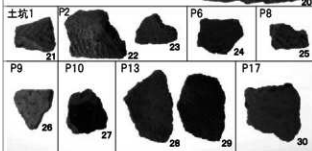
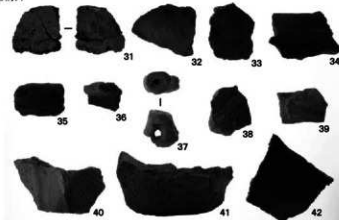


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

3号住居跡



遺構外

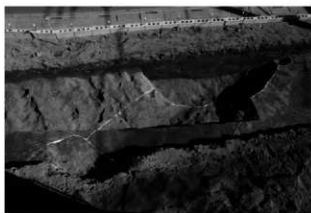




浄禪寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ1



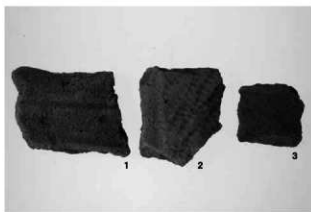
浄禪寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ1、堀跡



浄禪寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ1、堀跡



浄禪寺跡遺跡第32地点試掘調査トレンチ1、堀跡



浄禪寺跡遺跡第32地点出土遺物



大井宿遺跡第15地点試掘調査近景



大井宿遺跡第15地点試掘調査トレンチ1



大井宿遺跡第15地点試掘調査トレンチ2



大井宿遺跡第15地点土坑1



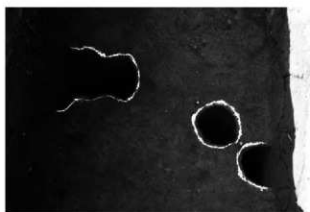
大井宿遺跡第15地点土坑2



大井宿遺跡第15地点土坑3



大井宿遺跡第15地点土坑4



大井宿遺跡第15地点ピット1~4



大井宿遺跡第15地点ピット7~16



大井宿遺跡第15地点溝



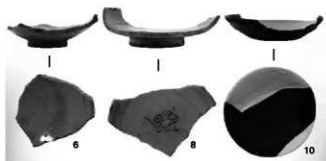
大井宿遺跡第15地点溝



土坑2・溝



土坑2



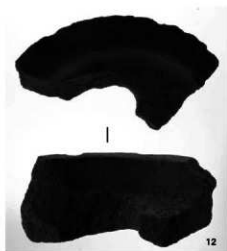
土坑2



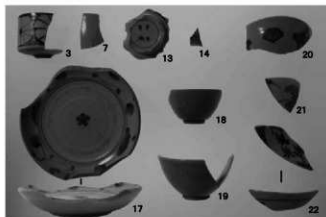
土坑2



土坑2



土坑2・3、遺構外





大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査近景



大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ1



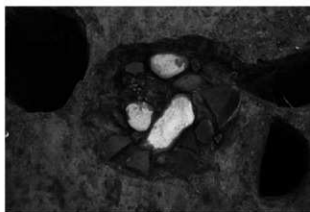
大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ1



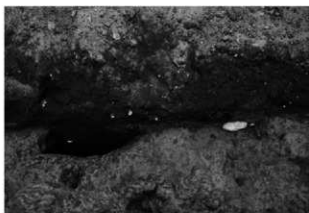
大井氏館跡遺跡第22地点試掘調査トレンチ2



大井氏館跡遺跡第22地点礎石



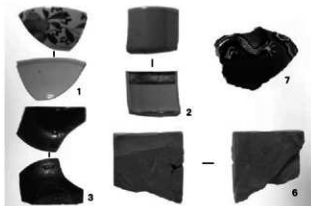
大井氏館跡遺跡第22地点礎石



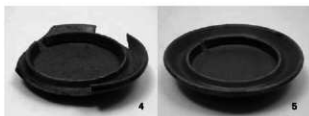
大井氏館跡遺跡第22地点礎石、土坑4



大井氏館跡遺跡第22地点土坑1



大井氏館跡遺跡第22地点土坑2・礎石2・遺構外出土遺物No.1～3・6・7



大井氏館跡遺跡第22地点土坑2出土遺物No.4・5



大井戸上遺跡第6地点試掘調査トレンチ



大井戸上遺跡第6地点ピット2～11・20～22



大井戸上遺跡第6地点ピット12～19・23～35



大井戸上遺跡第6地点ピット31～49



東台遺跡第49地点近景



東台遺跡第49地点近景(北側斜面調査区)



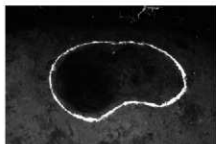
東台遺跡第49地点171号住居跡



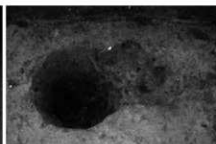
東台遺跡第49地点171号住居跡



東台遺跡第49地点171号住居跡炉



東台遺跡第49地点171号住居跡ビット1



東台遺跡第49地点171号住居跡ビット2



東台遺跡第49地点171号住居跡ビット3

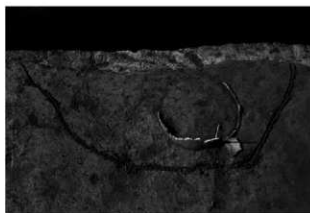




東台遺跡第49地点住居跡遺構確認状況



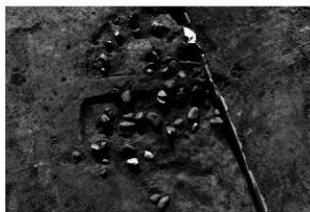
東台遺跡第49地点住居跡



東台遺跡第49地点埋裏出土状況



東台遺跡第49地点埋裏出土状況



東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 2



東台遺跡第49地点集石土坑2



東台遺跡第49地点全景



東台遺跡第49地点粘土探掘坑・土坑1 (南から)



東台遺跡第49地点粘土探掘坑・土坑1 (北から)



東台遺跡第49地点粘土探掘坑土層



東台遺跡第49地点溝



172号住居跡

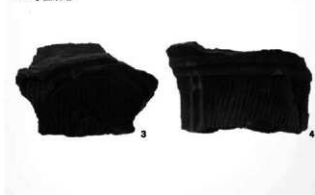
東台遺跡第49地点出土遺物No.1



172号住居跡

東台遺跡第49地点出土遺物No.2

172号住居跡



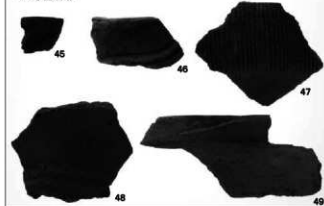
屋外埋壺



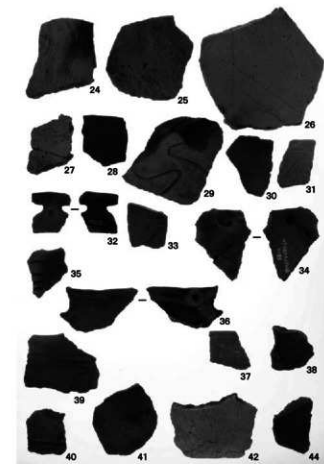
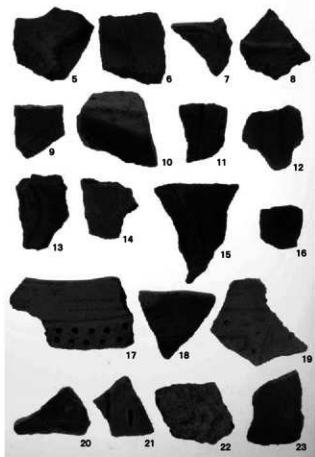
集石土坑1



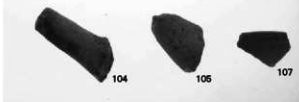
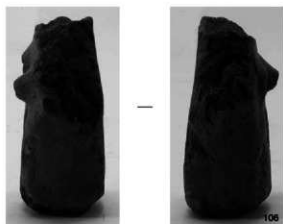
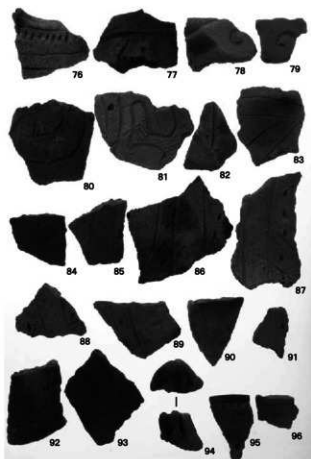
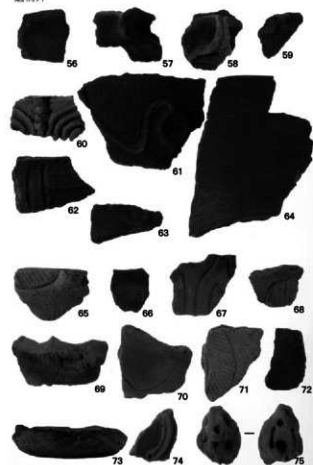
175号住居跡



174号住居跡



遺構外





苗間東久保遺跡第25地点



長宮遺跡第28地点



浄禪寺跡遺跡第29地点3



西遺跡第1地点1



東久保遺跡第65地点



浄禪寺跡遺跡第29地点4



西遺跡第1地点2



神明後遺跡第31地点



浄禪寺跡遺跡第31地点



西遺跡第1地点3



浄禪寺跡遺跡第29地点1



大井戸上遺跡第6地点



滝遺跡第14地点



浄禪寺跡遺跡第29地点2



東台遺跡第49地点



上福岡貝塚第1地点  
1号住居跡発掘調査風景1



上福岡貝塚第1地点  
2号住居跡発掘調査風景4



上福岡貝塚第1地点遺跡見学2



上福岡貝塚第1地点  
1号住居跡発掘調査風景2



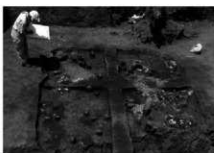
上福岡貝塚第1地点  
2号住居跡発掘調査風景5



上福岡貝塚第1地点遺跡見学会



上福岡貝塚第1地点  
2号住居跡発掘調査風景1



上福岡貝塚第1地点実測風景



上福岡貝塚第1地点調査参加者1



上福岡貝塚第1地点  
2号住居跡発掘調査風景2



上福岡貝塚第1地点  
水溜調査風景



上福岡貝塚第1地点調査参加者2



上福岡貝塚第1地点  
2号住居跡発掘調査風景3



上福岡貝塚第1地点  
遺跡見学1



上福岡貝塚第1地点  
調査参加者3



上福岡貝塚第1地点  
貝の洗浄1



上福岡貝塚第1地点  
貝の分類1



上福岡貝塚第1地点  
重量計測



上福岡貝塚第1地点  
貝の洗浄2



上福岡貝塚第1地点  
貝の分類2



上福岡貝塚第1地点  
データ入力



上福岡貝塚第1地点  
貝の洗浄3



上福岡貝塚第1地点  
貝の分類3



上福岡貝塚第1地点  
データ入力



上福岡貝塚第1地点  
貝の洗浄4



上福岡貝塚第1地点  
貝の分類4



上福岡貝塚第1地点  
貝の同定



上福岡貝塚第1地点  
乾燥



上福岡貝塚第1地点  
貝の分類5



上福岡貝塚第1地点  
報告書打ち合わせ



遺物水洗 1



遺物実測 1



遺物写真撮影 2



遺物水洗 2



遺物実測 2



図面整理 1



遺物復元 1



遺物実測 3



図面整理 2



遺物復元 2



遺物  
実測 4



図面清書



遺物拓本



遺物写真撮影 1



図版作成



---

ふじみ野市歴史文化財調査報告 第5集

## 埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 4

2009年3月23日印刷

2009年3月30日発行

発行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8555 埼玉県ふじみ野市大井中央1丁目1番1号

TEL 049-261-2811

FAX 049-266-6271

印刷 株式会社文化新聞社

---